

茨城県教育財団文化財調査報告101集

牛久北部特定土地区画整理事業
地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)

東山遺跡

平成7年9月

住宅・都市整備公団つくば開発局
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告101集

牛久北部特定土地区画整理事業
地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)

ひがしやま
東山遺跡

平成7年9月

住宅・都市整備公団つくば開発局
財団法人 茨城県教育財団



上 遺跡遠景 下 遺物包含層全景

序

茨城県南部の牛久市周辺地域には、国の首都圏整備計画による「土浦・筑波業務核都市構想」、茨城県による「グレーターつくば構想」等が計画されております。

住宅・都市整備公団では、県南地域における牛久市のもつ地理的条件を勘案し、JR常磐線新駅の設置や首都圏中央連絡道建設等の広域交通拠点性を生かした整備を行い、新駅を中心とする広域的重要拠点としての業務機能並びに都市機能を備えた新都心の形成と、良好な居住環境を有する住宅、宅地の供給を行うための土地区画整理事業を進めております。その予定地内には東山遺跡をはじめ多くの遺跡が所在しております。

財団法人茨城県教育財団は、住宅・都市整備公団から埋蔵文化財発掘調査事業についての委託を受け、平成2年10月から発掘調査を実施してまいりました。その成果は、既に「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅰ)(ヤツノ上遺跡)」、「同(Ⅱ)(中久喜遺跡)」として刊行いたしました。

本書は、平成4年度から平成6年度に調査を実施した東山遺跡の調査成果を収録したものであり、本書が学術的な研究資料としてはもとより、教育、文化の向上の一助として活用されることを希望いたします。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である住宅・都市整備公団には、多大な御協力をいただきましたことに対し厚くお礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、牛久市教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導、御協力を賜りましたことに対し、衷心より感謝の意を表します。

平成7年9月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 橋本 昌

例 言

- 1 本書は、住宅・都市整備公団の委託により、財団法人茨城県教育財団が、平成4年4月1日から平成6年12月31日まで実施した牛久市東猫穴町字東山1,220番地ほか所在の東山遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 東山遺跡の調査及び整理に関する教育財団の組織は、次のとおりである。

理 事 長	磯 田 勇 橋 本 昌	昭和63年6月～平成7年3月 平成7年4月～	
副 理 事 長	角 田 芳 夫 小 林 秀 文 中 島 弘 光	平成3年7月～平成6年3月 平成6年4月～ 平成7年4月～	
専 務 理 事	中 島 弘 光	平成5年4月～平成7年3月	
常 務 理 事	本 田 三 郎 一 木 邦 彦	平成3年4月～平成5年3月 平成7年4月～	
事 務 局 長	一 木 邦 彦 藤 枝 宣 一 齋 藤 紀 彦	平成元年4月～平成4年3月 平成4年4月～平成7年3月 平成7年4月～	
埋 蔵 文 化 財 部 長	石 井 毅 安 藏 幸 重	平成2年4月～平成5年3月 平成5年4月～	
埋蔵文化財部長代理	河 野 佑 司	平成6年4月～	
企 画 管 理 課	課 長	水 飼 敏 夫	平成4年4月～
	課 長 代 理	根 本 達 夫	平成7年4月～ (平成6年4月～平成7年3月係長)
	主 任 調 査 員	根 本 康 弘	平成3年4月～平成5年3月
	主 任 調 査 員	川 井 正 一	平成5年4月～平成6年3月
	主 任 調 査 員	海老澤 稔	平成6年4月～
	主 事	杉 山 秀 一	平成4年4月～平成6年3月
経 理 課	課 長	藤 田 和 行	平成4年4月～平成5年3月
	課 長	小 幡 弘 明	平成5年4月～
	主 査	鈴 木 三 郎	平成7年4月～ (平成5年4月～平成7年3月課長代理)
	課 長 代 理	大 高 春 夫	平成7年4月～ (平成6年4月～平成7年3月係長)
	主 任	飯 島 康 司	平成4年4月～平成6年3月
	主 任	小 池 孝	平成7年4月～
	主 事	大 貫 吉 成	平成4年4月～平成5年3月
	主 事	軍 司 浩 作	平成5年4月～
調 査 課	課長 (部長兼務)	石 井 毅 安 藏 幸 重	平成2年4月～平成5年3月 平成5年4月～
	調 査 第 二 班 長	和 田 雄 次	平成4年4月～平成5年3月
	調 査 第 二 班 長	根 本 康 弘	平成5年4月～平成6年3月
	調 査 第 一 班 長	川 井 正 一	平成6年4月～平成7年3月
	主 任 調 査 員	齋 藤 弘 道	平成4年4月～平成5年3月調査
	主 任 調 査 員	後 藤 哲 也	平成5年4月～平成6年9月調査

	主任調査員	中村敬治	平成5年4月～平成5年9月調査
	主任調査員	荒井保雄	平成4年4月～平成5年3月, 平成5年9月～平成6年3月調査
	主任調査員	松浦敏	平成4年4月～平成6年3月調査
	調査員	土生朗治	平成6年10月～平成6年12月調査
	調査員	黒沢秀雄	平成5年1月～平成5年3月調査
	調査員	白田正子	平成6年4月～平成6年12月調査
整理課	課長	阿久津久	平成5年4月～平成7年3月
	課長	山本静男	平成7年4月～
	主任調査員	松浦敏	平成6年10月～平成7年9月整理・執筆・編集

3 本書に使用した記号等については、凡例を参照されたい。

4 本書の作成にあたり、古墳時代の住居の形態については、埼玉県上福岡市史編纂室係長の笹森健一氏、古墳時代の集落のあり方については、埼玉県埋蔵文化財調査事業団主任調査員の井上尚明氏に御指導をいただいた。炭化材の同定については、パリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。

5 発掘調査及び整理に際して、御指導、御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

6 遺跡の概略

ふりがな	うしくほくぶとくていとちくかくせいりじぎょうちないまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ(Ⅲ)						
書名	牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)						
副書題	東山遺跡						
巻次	(Ⅲ)						
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告						
シリーズ番号	第101集						
編著者名	松浦敏						
編集機関	財団法人 茨城県教育財団						
所在地	〒310 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029(225)6587						
発行年月日	1995(平成7)年9月30日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ひがしやまいせき 東山遺跡	いばらきけんうしくし 茨城県牛久市 ひがしまみあなちよひがしやま 東猫穴町東山 1,220番地ほか	08219 -0146	36度 18分 10秒	140度 9分 10秒	19920401～ 19941231	17,911m ²	牛久北部特定土地区画整理事業に伴う調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
東山遺跡	散布地	旧石器時代			ナイフ形石器, 彫器, 尖頭器		
	散布地	縄文時代 (早期～中期)	炉穴 2基	陥し穴 7基	縄文式土器片, 石器		遺物包含層 (早期～中期)
	集落跡	古墳時代 (中期)	竪穴住居跡 68軒	土坑 228基	土師器, 須恵器, 土製品, 石器, 石製品, 鉄製品		竈状遺構が確認されて いる。
	集落跡	平安時代	竪穴住居跡 3軒	土坑 2基	土師器, 須恵器		

目 次

序	
例 言	
凡 例	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 遺 跡	8
第1節 遺跡の概要	8
第2節 基本層序	8
第3節 遺構と遺物	9
1 縄文時代の遺構と遺物	9
(1) 炉 穴	9
(2) 陥 し 穴	10
(3) 遺物包含層及び遺構外出土遺物	13
2 古墳時代の遺構と遺物	49
(1) 竪穴住居跡	49
(2) 土 坑	238
(3) 遺構外出土遺物	273
3 平安時代の遺構と遺物	278
(1) 竪穴住居跡	278
第4節 ま と め	285
付章 東山遺跡出土の炭化材同定報告について	288

写真図版

挿 図 目 次

第 1 図	調査区呼称方法概念図		第 35 図	第 3 号住居跡実測図	54
第 2 図	東山遺跡調査区割図		第 36 図	第 3 号住居跡出土遺物実測図	55
第 3 図	周辺遺跡分布図	6	第 37 図	第 4 号住居跡実測図	57
第 4 図	基本土層図	8	第 38 図	第 4 号住居跡出土遺物実測図	58
第 5 図	炉穴実測図	9	第 39 図	第 5 号住居跡実測図	59
第 6 図	陥し穴実測図	12	第 40 図	第 5 号住居跡出土遺物実測図	59
第 7 図	遺物包含層平面図	14	第 41 図	第 6 号住居跡実測図	60
第 8 図	遺物包含層土層断面図及びトレンチ内 出土遺物	15・16	第 42 図	第 6 号住居跡出土遺物実測図	61
第 9 図	遺物包含層出土遺物実測図(1)	23	第 43 図	第 7 号住居跡実測図	63
第 10 図	遺物包含層出土遺物実測図(2)	24	第 44 図	第 7 号住居跡出土遺物実測図(1)	64
第 11 図	遺物包含層出土遺物実測図(3)	25	第 45 図	第 7 号住居跡出土遺物実測図(2)	65
第 12 図	遺物包含層出土遺物実測図(4)	26	第 46 図	第 8 号住居跡実測図	66
第 13 図	遺物包含層出土遺物実測図(5)	27	第 47 図	第 8 号住居跡出土遺物位置図	67
第 14 図	遺物包含層出土遺物実測図(6)	28	第 48 図	第 8 号住居跡出土遺物実測図(1)	68
第 15 図	遺物包含層出土遺物実測図(7)	29	第 49 図	第 8 号住居跡出土遺物実測図(2)	69
第 16 図	遺物包含層出土遺物実測図(8)	30	第 50 図	第 9 号住居跡実測図	70
第 17 図	遺物包含層出土遺物実測図(9)	31	第 51 図	第 9 号住居跡出土遺物実測図	72
第 18 図	遺物包含層出土遺物実測図(10)	32	第 52 図	第 10 号住居跡実測図	74
第 19 図	遺物包含層出土遺物実測図(11)	33	第 53 図	第 10 号住居跡出土遺物実測図	75
第 20 図	遺物包含層出土遺物実測図(12)	34	第 54 図	第 11 号住居跡実測図	77
第 21 図	遺物包含層出土遺物実測図(13)	35	第 55 図	第 11 号住居跡出土遺物実測図	78
第 22 図	遺物包含層出土遺物実測図(14)	36	第 56 図	第 12 号住居跡実測図	79
第 23 図	遺物包含層出土遺物実測図(15)	37	第 57 図	第 12 号住居跡出土遺物位置図	80
第 24 図	遺構外出土遺物実測図(1)	41	第 58 図	第 12 号住居跡出土遺物実測図	81
第 25 図	遺構外出土遺物実測図(2)	42	第 59 図	第 13 号住居跡実測図	83
第 26 図	遺構外出土遺物実測図(3)	43	第 60 図	第 13 号住居跡出土遺物実測図	84
第 27 図	遺構外出土遺物実測図(4)	44	第 61 図	第 14 号住居跡実測図	87
第 28 図	遺構外出土遺物実測図(5)	45	第 62 図	第 14 号住居跡出土遺物実測図	88
第 29 図	遺構外出土遺物実測図(6)	46	第 63 図	第 15 号住居跡実測図	89
第 30 図	遺構外出土遺物実測図(7)	47	第 64 図	第 15 号住居跡出土遺物実測図	89
第 31 図	第 1 号住居跡実測図	50	第 65 図	第 16 号住居跡実測図	90
第 32 図	第 1 号住居跡出土遺物実測図(1)	51	第 66 図	第 16 号住居跡出土遺物実測図	91
第 33 図	第 1 号住居跡出土遺物実測図(2)	52	第 67 図	第 17 号住居跡実測図	92
第 34 図	第 2 号住居跡実測図	53	第 68 図	第 17 号住居跡出土遺物実測図	93
			第 69 図	第 18 号住居跡実測図	94

第 70 图	第18号住居跡出土遺物実測図	95	第 108 图	第34号住居跡出土遺物実測図	143
第 71 图	第19号住居跡実測図	96	第 109 图	第35号住居跡実測図	145
第 72 图	第19号住居跡出土遺物実測図	97	第 110 图	第35号住居跡出土遺物実測図(1)	146
第 73 图	第20号住居跡実測図	98	第 111 图	第35号住居跡出土遺物実測図(2)	147
第 74 图	第20号住居跡出土遺物実測図(1)	99	第 112 图	第36号住居跡実測図	151
第 75 图	第20号住居跡出土遺物実測図(2)	100	第 113 图	第36号住居跡出土遺物実測図	151
第 76 图	第20号住居跡出土遺物実測図(3)	101	第 114 图	第37号住居跡実測図	153
第 77 图	第21号住居跡実測図	105	第 115 图	第37号住居跡出土遺物実測図	153
第 78 图	第21号住居跡出土遺物実測図(1)	106	第 116 图	第38号住居跡実測図	154
第 79 图	第21号住居跡出土遺物実測図(2)	107	第 117 图	第38号住居跡出土遺物実測図	154
第 80 图	第22号住居跡実測図	109	第 118 图	第39号住居跡実測図	156
第 81 图	第22号住居跡出土遺物位置図	110	第 119 图	第39号住居跡出土遺物実測図(1)	157
第 82 图	第22号住居跡出土遺物実測図	111	第 120 图	第39号住居跡出土遺物実測図(2)	158
第 83 图	第23号住居跡実測図	113	第 121 图	第39号住居跡出土遺物実測図(3)	159
第 84 图	第24号住居跡実測図	114	第 122 图	第40号住居跡実測図	161
第 85 图	第24号住居跡出土遺物実測図	115	第 123 图	第40号住居跡出土遺物実測図(1)	162
第 86 图	第25号住居跡実測図	117	第 124 图	第40号住居跡出土遺物実測図(2)	163
第 87 图	第25号住居跡出土遺物実測図	118	第 125 图	第40号住居跡出土遺物実測図(3)	164
第 88 图	第26号住居跡実測図	119	第 126 图	第41号住居跡実測図	167
第 89 图	第26号住居跡出土遺物実測図	120	第 127 图	第41号住居跡出土遺物実測図	168
第 90 图	第27号住居跡実測図	121	第 128 图	第42号住居跡実測図	169
第 91 图	第27号住居跡出土遺物実測図(1)	122	第 129 图	第42号住居跡出土遺物実測図(1)	170
第 92 图	第27号住居跡出土遺物実測図(2)	123	第 130 图	第42号住居跡出土遺物実測図(2)	171
第 93 图	第28号住居跡実測図	125	第 131 图	第43号住居跡実測図	173
第 94 图	第28号住居跡出土遺物実測図	125	第 132 图	第43号住居跡出土遺物実測図(1)	174
第 95 图	第30号住居跡実測図	126	第 133 图	第43号住居跡出土遺物実測図(2)	175
第 96 图	第31号住居跡実測図	127	第 134 图	第44号住居跡実測図	176
第 97 图	第31号住居跡出土遺物実測図	128	第 135 图	第45号住居跡実測図	177
第 98 图	第32号住居跡実測図	129	第 136 图	第45号住居跡出土遺物実測図	177
第 99 图	第32号住居跡出土遺物実測図(1)	130	第 137 图	第46号住居跡実測図	179
第 100 图	第32号住居跡出土遺物実測図(2)	131	第 138 图	第46号住居跡出土遺物実測図	180
第 101 图	第32号住居跡出土遺物実測図(3)	132	第 139 图	第47号住居跡実測図	183
第 102 图	第32号住居跡出土遺物実測図(4)	133	第 140 图	第47号住居跡出土遺物実測図(1)	184
第 103 图	第32号住居跡出土遺物実測図(5)	134	第 141 图	第47号住居跡出土遺物実測図(2)	185
第 104 图	第32号住居跡出土遺物実測図(6)	135	第 142 图	第48号住居跡実測図	186
第 105 图	第33号住居跡実測図	138	第 143 图	第48号住居跡出土遺物実測図	187
第 106 图	第33号住居跡出土遺物実測図	139	第 144 图	第50号住居跡実測図	188
第 107 图	第34号住居跡実測図	142	第 145 图	第50号住居跡出土遺物実測図	189

第 146 图	第51号住居跡実測図	191	第 181 图	第68号住居跡実測図	230
第 147 图	第51号住居跡出土遺物実測図	192	第 182 图	第68号住居跡出土遺物実測図	230
第 148 图	第52号住居跡実測図	192	第 183 图	第70号住居跡実測図	232
第 149 图	第52号住居跡出土遺物実測図	193	第 184 图	第70号住居跡出土遺物実測図	233
第 150 图	第53号住居跡実測図	194	第 185 图	第71号住居跡実測図	236
第 151 图	第54号住居跡実測図	195	第 186 图	第71号住居跡出土遺物実測図	236
第 152 图	第54号住居跡出土遺物実測図	196	第 187 图	第72号住居跡実測図	237
第 153 图	第55号住居跡実測図	197	第 188 图	第72号住居跡出土遺物実測図	238
第 154 图	第55号住居跡出土遺物実測図(1)	198	第 189 图	土坑実測図(1)	239
第 155 图	第55号住居跡出土遺物実測図(2)	199	第 190 图	土坑実測図(2)	240
第 156 图	第56号住居跡実測図	200	第 191 图	土坑実測図(3)	241
第 157 图	第56号住居跡出土遺物実測図	201	第 192 图	土坑実測図(4)	242
第 158 图	第57号住居跡実測図	202	第 193 图	土坑実測図(5)	243
第 159 图	第57号住居跡出土遺物実測図	203	第 194 图	土坑実測図(6)	244
第 160 图	第58号住居跡実測図	204	第 195 图	土坑実測図(7)	245
第 161 图	第59号住居跡実測図	204	第 196 图	土坑実測図(8)	246
第 162 图	第59号住居跡出土遺物実測図	205	第 197 图	土坑実測図(9)	247
第 163 图	第60号住居跡実測図	206	第 198 图	土坑実測図(10)	248
第 164 图	第60号住居跡出土遺物実測図	207	第 199 图	土坑実測図(11)	249
第 165 图	第61号住居跡実測図	208	第 200 图	土坑実測図(12)	250
第 166 图	第61号住居跡出土遺物実測図	209	第 201 图	土坑実測図(13)	251
第 167 图	第62号住居跡実測図	212	第 202 图	土坑実測図(14)	252
第 168 图	第62号住居跡出土遺物実測図	213	第 203 图	土坑実測図(15)	253
第 169 图	第63号住居跡実測図	214	第 204 图	土坑実測図(16)	254
第 170 图	第64号住居跡実測図	215	第 205 图	土坑実測図(17)	255
第 171 图	第64号住居跡出土遺物実測図	216	第 206 图	土坑出土遺物実測図(1)	265
第 172 图	第65号住居跡実測図	218	第 207 图	土坑出土遺物実測図(2)	266
第 173 图	第65号住居跡出土遺物実測図	219	第 208 图	遺構外出土遺物実測図(1)	275
第 174 图	第66号住居跡実測図	221	第 209 图	遺構外出土遺物実測図(2)	276
第 175 图	第66号住居跡出土遺物実測図(1)	222	第 210 图	遺構外出土遺物実測図(3)	277
第 176 图	第66号住居跡出土遺物実測図(2)	223	第 211 图	第29号住居跡実測図	278
第 177 图	第66号住居跡出土遺物実測図(3)	224	第 212 图	第49号住居跡実測図	280
第 178 图	第67号住居跡実測図	226	第 213 图	第49号住居跡出土遺物実測図	281
第 179 图	第67号住居跡出土遺物実測図(1)	227	第 214 图	第69号住居跡実測図	282
第 180 图	第67号住居跡出土遺物実測図(2)	228	第 215 图	第69号住居跡出土遺物実測図	283

付 図

遺跡全体図

表 目 次

表 1 周辺遺跡一覧表	7	表 3 住居跡一覧表	283
表 2 土坑一覧表	268		

写真図版目次

P L 1 1・2区完掘全景, 3区完掘全景	跡遺物出土状況
P L 2 遺構確認状況(1区), (2区), (3区)	P L 16 第27号住居跡遺物出土状況, 第28号住居跡, 第29号住居跡
P L 3 第1・2・3号住居跡	P L 17 第30・31・32号住居跡
P L 4 第4号住居跡, 第4号住居跡遺物出土状況, 第5号住居跡	P L 18 第32号住居跡遺物出土状況(1), 第32号住居 跡遺物出土状況(2), 第33号住居跡
P L 5 第6号住居跡, 第6号住居跡遺物出土状況, 第7号住居跡	P L 19 第33号住居跡遺物出土状況, 第34号住居跡 遺物出土状況, 第34号住居跡貯蔵穴遺物出 土状況
P L 6 第7号住居跡遺物出土状況, 第7号住居跡 炭化材出土状況, 第8号住居跡	P L 20 第35号住居跡, 第35号住居跡遺物出土状況, 第35号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
P L 7 第8号住居跡遺物出土状況, 第9号住居跡, 第10号住居跡	P L 21 第36・37・39号住居跡
P L 8 第10号住居跡遺物出土状況, 第11号住居跡, 第11号住居跡炭化材出土状況	P L 22 第40号住居跡, 第41号住居跡竈状遺構内遺 物出土状況, 第41号住居跡竈状遺構断面
P L 9 第12号住居跡, 第12号住居跡焼土・炭化材 出土状況, 第12号住居跡遺物出土状況	P L 23 第41号住居跡遺物出土状況, 第42号住居跡, 第42号住居跡遺物出土状況
P L 10 第13・14・15号住居跡	P L 24 第43・44・45号住居跡
P L 11 第16・17・18号住居跡	P L 25 第46号住居跡, 第47号住居跡, 第47号住居 跡遺物出土状況
P L 12 第19号住居跡, 第20号住居跡, 第20号住居 跡遺物出土状況	P L 26 第47号住居跡炭化材出土状況, 第48号住居 跡, 第49号住居跡
P L 13 第21号住居跡, 第21号住居跡遺物出土状況, 第22号住居跡	P L 27 第49号住居跡竈遺物出土状況, 第50号住居 跡, 第51号住居跡
P L 14 第23号住居跡炭化材出土状況, 第23号住居 跡, 第24号住居跡遺物出土状況	P L 28 第53・54・55号住居跡
P L 15 第25号住居跡, 第26号住居跡, 第26号住居	

- P L 29 第55号住居跡遺物出土状況, 第56号住居跡, 第57号住居跡
- P L 30 第58・59・60号住居跡
- P L 31 第60号住居跡遺物出土状況, 第62号住居跡, 第62号住居跡出入口ピット
- P L 32 第62号住居跡遺物出土状況, 第63号住居跡, 第64号住居跡
- P L 33 第64号住居跡貯蔵穴遺物出土状況, 第65号住居跡, 第65号住居跡遺物出土状況
- P L 34 第66号住居跡, 第66号住居跡遺物出土状況, 第67号住居跡
- P L 35 第68・69号住居跡, 第69号住居跡竈遺物出土状況, 第70号住居跡
- P L 36 第71号住居跡, 第72号住居跡, 第17号土坑遺物出土状況
- P L 37 第1号炉穴, 第2号炉穴, 第1号陥し穴
- P L 38 第2・3・4号陥し穴
- P L 39 第80号土坑(陥し穴), 第102号土坑(陥し穴) 第155号土坑(陥し穴)
- P L 40 第1・3号住居跡出土遺物
- P L 41 第3～8号住居跡出土遺物
- P L 42 第6～9号住居跡出土遺物
- P L 43 第9・10・12号住居跡出土遺物
- P L 44 第12～14号住居跡出土遺物
- P L 45 第12・14・16～20号住居跡出土遺物
- P L 46 第20号住居跡出土遺物
- P L 47 第20・21号住居跡出土遺物
- P L 48 第21・22号住居跡出土遺物
- P L 49 第22・24・25・27号住居跡出土遺物
- P L 50 第26・27・31号住居跡出土遺物
- P L 51 第31・32号住居跡出土遺物
- P L 52 第32号住居跡出土遺物
- P L 53 第32・33号住居跡出土遺物
- P L 54 第33～35号住居跡出土遺物
- P L 55 第35・36・39・43号住居跡出土遺物
- P L 56 第39・40号住居跡出土遺物
- P L 57 第39～42号住居跡出土遺物
- P L 58 第41～43号住居跡出土遺物
- P L 59 第43・46・54号住居跡出土遺物
- P L 60 第42・46・47・49～51号住居跡出土遺物
- P L 61 第46・47・52・54～56号住居跡出土遺物
- P L 62 第55・56・57・59・61・62号住居跡出土遺物
- P L 63 第55～57・59・61・62・66号住居跡出土遺物
- P L 64 第60～62・64～67号住居跡出土遺物
- P L 65 第64・66・67～70号住居跡出土遺物
- P L 66 第66～68・70・71号住居跡出土遺物
- P L 67 第67～69・71・72号住居跡, 第7・17・31号土坑, 遺構外出土遺物(古墳時代)
- P L 68 第9・12・14・22・35・67号住居跡, 遺構外出土遺物(古墳時代)
- P L 69 住居跡出土土製品・石製品, 遺構外出土遺物(古墳時代)
- P L 70 住居跡出土石器・石製品
- P L 71 住居跡出土石製品・鉄製品・炭化種子, 遺構外出土遺物(縄文時代)
- P L 72 遺構外出土遺物(縄文時代) 1
- P L 73 遺構外出土遺物(縄文時代) 2
- P L 74 遺構外(縄文時代)・遺物包含層出土遺物
- P L 75 遺物包含層出土遺物(1)
- P L 76 遺物包含層出土遺物(2)
- P L 77 遺物包含層出土遺物(3)
- P L 78 遺物包含層出土遺物(4)
- P L 79 遺構外・遺物包含層出土遺物(1)
- P L 80 遺構外・遺物包含層出土遺物(2)

凡 例

- 1 遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系を原点とし、 $X = +920m$ 、 $Y = 28,960m$ の交点を基準点 (E9a₁) とした。

大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西及び南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

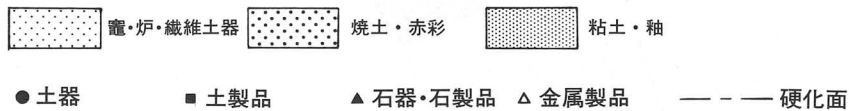
大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C……、西から東へ1, 2, 3……とし、「A1区」、「B2区」……のように呼称した。小調査区も同様に、北から南へa, b, c……J, 西から東へ1, 2, 3……0とし、名称は、大調査区の名称を冠し、「A1a₁区」、「B2b₂区」のように呼称した。(第1図)

- 2 遺構、遺物、土層に使用した記号は、次のとおりである。

遺構 住居跡-SI 土 坑-SK
ピット-P₁～

遺物 土 器-P 土製品-DP 石器-Q 金属製品-M 拓本土器-TP
土層 攪乱-K

- 3 遺構、遺物の実測図中の表示は、次のとおりである。



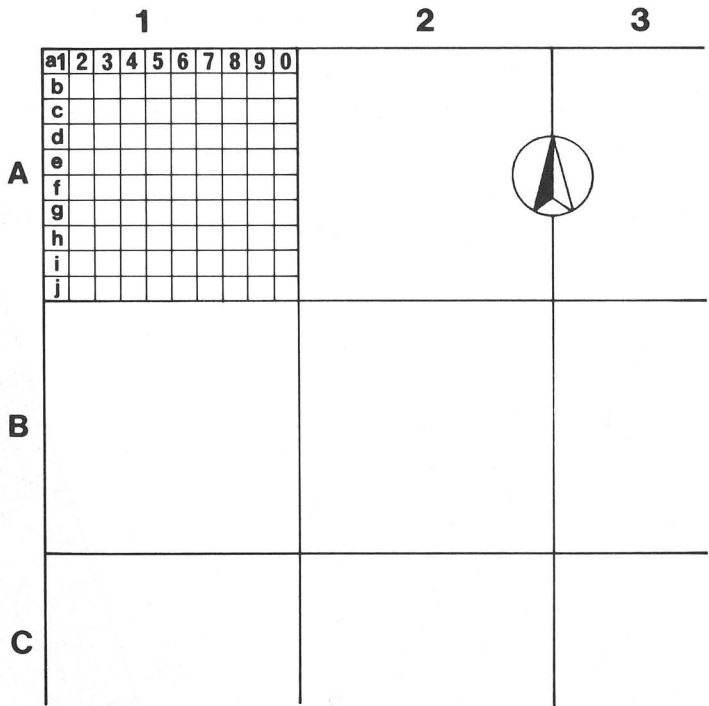
- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄 日本色研事業株式会社)を使用した。

- 5 遺構、遺物実測図の作成方法と掲載方法については、次のとおりである。

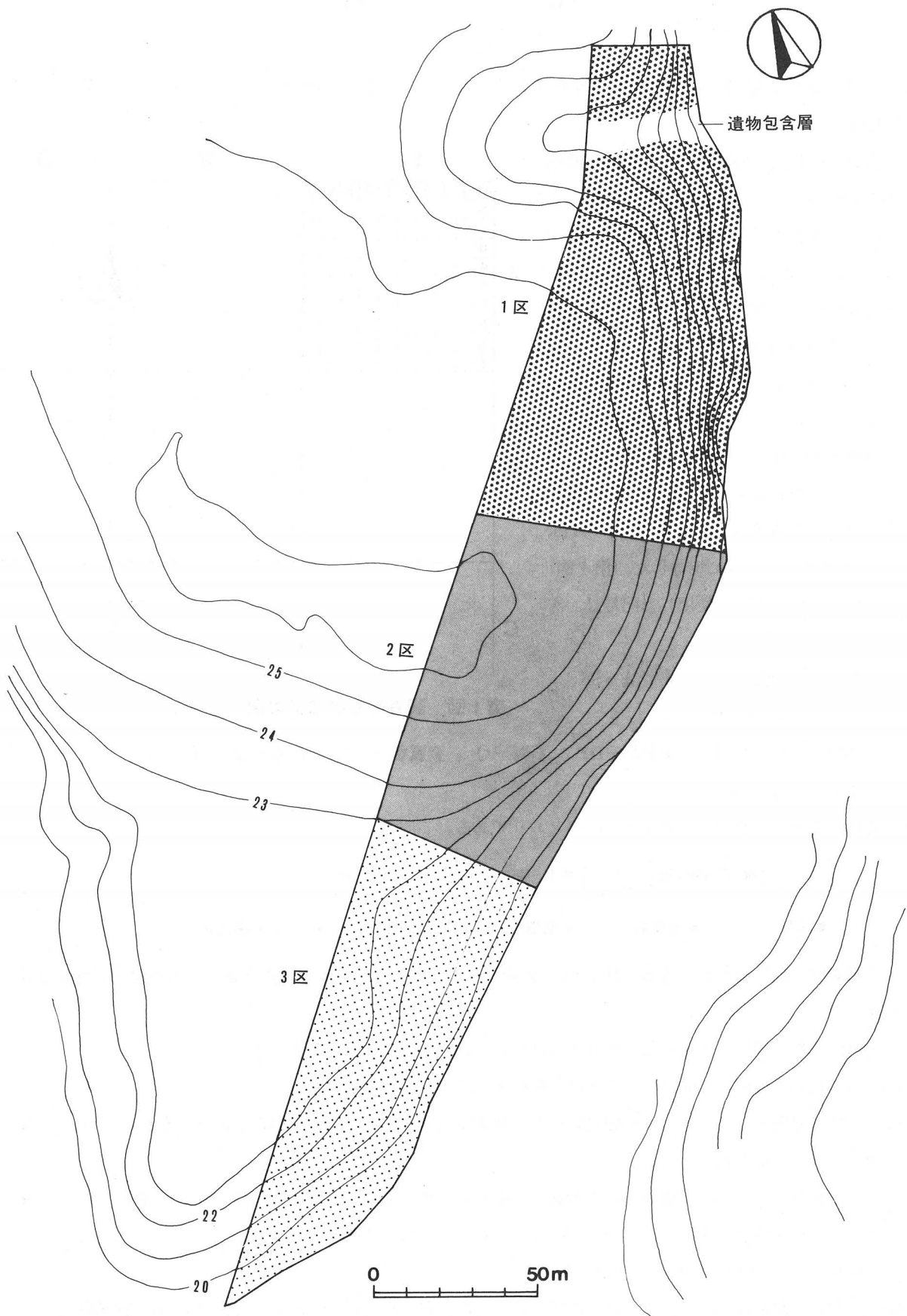
- (1) 各遺構の実測図は、60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。
- (2) 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては、個々にスケールで表示した。
- (3) 「主軸方向」は、炉、竈をとる軸線を主軸とし、その主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。(例 $N-10^\circ-E$ 、 $N-10^\circ-W$)

なお、[] を付したものは推定である。

- (4) 土器の計測値は、A-口径、B-器高、C-底径、D-高台径(脚部径)、E-高台高(脚部高)とし、単位はcmである。現存値は()で、推定値は[]を付して示した。



第1図 調査呼称方法概念図



第2図 東山遺跡調査区割図

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経過

茨城県が進めている「グレーターつくば構想」は、牛久市、土浦市、つくば市の三都市を業務核都市として100万田園都市圏の一翼を担うことが期待されており、牛久市の北部地区に「竜ヶ崎・牛久都市計画事業牛久北部特定土地地区画整理事業」が計画された。この事業は、業務機能と都市的機能を備えた良好な居住環境を有した市街地の形成を目指すものである。

これにより、昭和63年10月13日、住宅・都市整備公団つくば開発局は、茨城県教育委員会に対し、この事業計画地である牛久市北部地域における埋蔵文化財の有無の照会をした。これを受け、茨城県教育委員会は、同月26日から、牛久市教育委員会と埋蔵文化財の有無の確認とその取り扱いについての協議を行い、平成元年2月7日、表面観察及び試掘調査を実施した結果、東山遺跡ほかヤツノ上遺跡など数遺跡が所在することを確認し、住宅・都市整備公団あてに回答した。平成4年1月29日から、住宅・都市整備公団と茨城県教育委員会は、埋蔵文化財の取り扱いについて、文化財保護の立場から慎重な協議を重ねた結果、発掘調査による記録保存の措置を講ずることとした。そこで、茨城県教育委員会は、住宅・都市整備公団に、埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

茨城県教育財団は、住宅・都市整備公団から遺跡発掘調査の依頼を受け、平成4年4月1日、住宅・都市整備公団と東山遺跡の埋蔵文化財発掘調査の委託契約を結び、同年4月から東山遺跡2区の発掘調査を、翌年4月1日から東山遺跡1区、さらに翌年4月1日から東山遺跡3区の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

東山遺跡の発掘調査は、中久喜遺跡、馬場遺跡、行人田遺跡の調査と併せて、平成4年4月1日から平成6年12月31日までの2年9か月にわたって、2区〔6,984㎡〕、1区〔7,359㎡〕、3区〔3,568㎡〕（第2図）の順に実施した。以下、調査経過の概要について記述する。

平成4年度－2区の調査

- 10 月 業者委託による立木の伐開、焼却、清掃を実施した。終了後、中久喜遺跡の遺構調査と併行して、遺構確認のための試掘調査を開始した。
- 11 月 前月に引き続き、遺構確認のための試掘調査を実施し、竪穴住居跡9軒、土坑13基を確認した。17日には、中久喜遺跡の調査の終了を待って、現場倉庫及び休憩所を移設した。
- 12 月 1日から、重機による表土除去及び遺構確認作業を開始した。表土除去は、調査区の東部大半が急斜面であるため難行し、22日に終了した。その後、遺構確認作業を引き続き実施し、竪穴住居跡30軒、土坑120基を確認した。
- 1 月 5日から調査区南西部の遺構調査及び方眼杭打ち測量（茨城県技術公社に委託）を開始した。竪穴住居跡11軒、土坑16基の調査を終了した。
- 2 月 引き続き、遺構調査を進め、竪穴住居跡16軒、土坑53基の調査を終了した。
- 3 月 13日に、中久喜遺跡の成果と併せて現地説明会を開催した。16日に、航空写真撮影を実施し、25日に、

すべての調査を終了した。

平成5年度－1区の調査

- 4 月 7日に現地踏査を行い、発掘調査をするための諸準備を行った。9日から作業を開始し、休憩所の設置及び遺跡内の清掃を実施した。馬場遺跡の試掘調査と併行して、27日から業者委託による立木の伐開、焼却作業を開始した。
- 5 月 7日に業者委託伐開を終了し、13日から遺構確認のためのグリッド及びトレンチ試掘調査を開始した。グリッド試掘調査によって、竪穴住居跡13軒、土坑9基、溝2条を確認した。
- 6 月 引き続き6日まで、トレンチ試掘調査を実施し、調査区の北東部に縄文時代の遺物を包含する地点のあることを確認した。8日から25日まで、重機による表土除去を実施し、28日から遺構確認作業及び方眼杭打ち測量（茨城県技術公社に委託）を開始した。
- 7 月 遺構確認作業の結果、竪穴住居跡28軒、土坑49基、溝3条を確認した。このうち、溝については近・現代の根切り溝と判断した。16日から、調査区の北東部の遺構調査を開始した。
- 8 月 馬場遺跡の遺構確認作業と併行して、引き続き、竪穴住居跡、土坑の調査を実施し、住居跡8軒、土坑16基の調査を終了した。
- 9 月 竪穴住居跡及び土坑の遺構調査を進め、竪穴住居跡11軒、土坑10基の調査を終了した。
- 10 月 馬場遺跡内の一部グリッド試掘と併行して、遺構調査を進め、竪穴住居跡7軒、土坑18基の調査を終了した。
- 11 月 15日までに、住居跡、土坑の遺構調査を終了し、16日には、遺跡内清掃をして航空写真撮影及び遺跡全景写真撮影を行った。17日、18日と補足調査を行い、包含層の調査を除いて遺構調査を終了した。
- 12 月 7日から、馬場遺跡の遺構調査と併行して、包含層の調査を開始した。
- 1 月 引き続き、馬場遺跡の遺構調査と併行して、包含層の第2層の調査を進めた。18日から25日まで、3区の業者委託による立木の伐開、焼却作業を実施し、28日から遺構確認のためのグリッド試掘調査を開始した。
- 2 月 1日、3区の試掘調査を終了し、竪穴住居跡4軒、土坑6基を確認した。包含層の調査は第3層まで進んだ。
- 3 月 1日から4日まで、3区の表土除去を実施し、6日には、東山遺跡1区と馬場遺跡について現地説明会を開催した。15日から、包含層の調査と併行して、3区の遺構確認作業を実施し、竪穴住居跡13軒、土坑58基を確認した。25日にすべての調査を終了した。

平成6年度－3区の調査

- 4 月 7日に現地踏査を行い、発掘調査をするための諸準備を行った。11日から、馬場遺跡と併せて、遺跡内の清掃を行い、18・19日には、方眼杭打ち測量（茨城県技術公社に委託）を実施した。
- 5 月 昨年度、確認した竪穴住居跡13軒、土坑58基について、2日から遺構調査を開始した。
- 6 月 馬場遺跡2区及び行人田遺跡の試掘、遺構確認作業と併行して、引き続き遺構調査を実施し、竪穴住居跡12軒、土坑56基の調査を終了した。
- 7 月 5日に航空写真撮影を実施し、6日から、補足調査を開始した。14日にはすべての調査を終了した。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

東山遺跡は、牛久市東猫穴町字東山1,220番地ほかに所在し、牛久市役所の北北西約4kmに位置している。

遺跡のある牛久市は、茨城県南部の中ほどに位置し、東は江戸崎町、西は茎崎町、南は竜ヶ崎市、北は阿見町、土浦市、つくば市と境を接している。市域は、東西約15km、南北約10km、面積約59.00km²を擁している。市の西側には、国道6号線と、JR常磐線が平行してほぼ南北に通じ、中央部には国道408号線が東西に走っている。

牛久市の地形は、標高25～28mの洪積台地である稲敷台地と、小野川や乙戸川、桂川水系の沖積低地とからなっている。稲敷台地には、小野川や乙戸川、桂川とその支流が樹枝状に入り込み、台地は複雑な地形となっている。小野川は、つくば市を水源とし、市のほぼ中央部を北西から南東に流れている。市の南東端で小野川に合流する乙戸川は、土浦市を水源とし阿見町を流れて本市東部に入り、桂川を併せている。桂川、乙戸川を併せた小野川は、大きく北東に湾曲し、霞ヶ浦に流入している。市の西端には牛久沼が形成されている。

稲敷台地は、土浦市、竜ヶ崎市、江戸崎町を結ぶ三角地帯の中にその大部分が入り、台地の東端は東村阿波崎付近にある。台地の地層は、第四紀洪積世古東京湾時代に堆積した成田層が基盤層となり、下部から上部にかけて、成田層下部、成田層上部、竜ヶ崎砂礫層、常総粘土層、関東ローム層の順で堆積し、堆積状況は、水平で単調であり、褶曲や断層はみられない。

東山遺跡は、牛久市の北西部にあり、小野川左岸から北東側に入り込む小支谷に挟まれた舌状台地の東部に立地している。遺跡の標高は19～24m前後で、調査区の大半が東側に入り込む小支谷に向けた斜面部となっている。遺跡のある台地と小支谷の比高は1～6mほどで、調査前の現況は、山林である。

注・参考文献

- (1) 茨城県農地部農地計画課 『土地分類基本調査 竜ヶ崎』 1986年 12月
- (2) 茨城県農地部農地計画課 『土地分類基本調査 佐原』 1988年 12月
- (3) 蜂須紀夫 『茨城県 地学のガイド』 1986年 11月

第2節 歴史的環境

東山遺跡〈1〉が所在する地域は、大小の河川、低地、台地と変化に富んだ自然景観をもち、数多くの遺跡が残されている。特に、牛久沼周辺や小野川・乙戸川水系によって形成された台地上には、旧石器時代から中世までの遺跡が分布している。ここでは、当地域の主な遺跡について、時代をおって述べることにする。

旧石器時代の遺跡は、中久喜遺跡〈2〉、西ノ原遺跡〈3〉等があり、ナイフ形石器や尖頭器等が出土している。

縄文時代の遺跡は、牛久市の守子橋遺跡〈4〉、ヤツノ上遺跡〈5〉、茎崎町の下大井遺跡〈6〉、大井遺跡〈7〉、土浦市の沖新田道祖神前遺跡〈8〉、塚下遺跡〈9〉等がある。守子橋遺跡、下大井遺跡、大井遺跡は、小野川沿いの右岸台地縁辺部に、ヤツノ上遺跡は、小野川左岸から入り込む小支谷の東側の台地上に位置している。ヤツノ上遺跡からは、縄文時代晩期の土器片とともに、同時期の土偶が出土している。沖新田道祖神前

遺跡、塚下遺跡は、それぞれ乙戸川右岸台地縁辺部、左岸台地縁辺部に対峙している。牛久市奥原町の小野川と乙戸川とが合流する左岸台地縁辺部には、中期から後期にかけての集落跡である奥原遺跡（出戸地区）があり、牛久市桂町の乙戸川左岸台地縁辺部には赤塚遺跡がある。牛久沼から入り込む小支谷を臨む台地上には、早期から後期のなかだい遺跡が、また、同台地上には、後期中葉から後葉にかけての主淡貝塚を形成する城中貝塚がある。

弥生時代の遺跡は、縄文土器片とともに弥生式土器片の散布がみられる小野川右岸台地縁辺部に位置する坂本遺跡〈10〉があり、奥原町の天王峯遺跡では、弥生時代後期の集落跡が確認されて注目されている。

古墳時代の遺跡は、今回報告する東山遺跡のほか、牛久市の中久喜遺跡、ヤツノ上遺跡、馬場遺跡〈11〉、中下根遺跡〈12〉、奥原遺跡、すかき台遺跡、源臺遺跡、天王峯遺跡、土浦市の向原遺跡、烏山遺跡、竜ヶ崎市の平台遺跡、長峰遺跡、稲敷郡阿見町の中根遺跡〈13〉、宮脇遺跡、阿見東遺跡等がある。

これらの遺跡を時期別にみると、古墳時代前期の遺跡は、すかき台遺跡、奥原遺跡、向原遺跡、烏山遺跡等がある。小野川と乙戸川の合流する左岸台地縁辺部に位置する奥原町のすかき台遺跡では、竪穴住居跡9軒、同じく奥原遺跡（姥神地区）では、竪穴住居跡3軒、方形周溝墓3基が確認されている。乙戸川左岸台地上に位置する久野町の源臺遺跡からは、6基の方形周溝墓が確認されている。花室川の南にある北東から南西に延びる台地上に位置する向原遺跡からは、竪穴住居跡61軒が確認されている。また、烏山遺跡からは同時期の竪穴住居跡が16軒確認されており、そのうち11軒の竪穴住居跡内から勾玉、管玉の未製品が大量に出土していることから、玉造工房跡と考えられている。

古墳時代中期の遺跡は、東山遺跡のほか、ヤツノ上遺跡、中久喜遺跡、馬場遺跡、西ノ原遺跡、隼人山遺跡〈14〉、宮脇遺跡、阿見東遺跡、長峰遺跡、平台遺跡等がある。牛久市中根町付近の小野川・乙戸川水系の小支谷によって開析された台地上には、ヤツノ上遺跡、中久喜遺跡、中下根遺跡、西ノ原遺跡、隼人山遺跡があり、広範囲にわたって古墳時代中期後半の集落跡が確認されている。阿見町北西部の清明川によって開析された台地上に位置する宮脇遺跡（第Ⅱ期）からは、同時期の竪穴住居跡23軒確認されている。宮脇遺跡の東側に位置する阿見東遺跡からは、石製模造品が多数出土しており、石製品工房跡と考えられている。竜ヶ崎市の長峰遺跡、平台遺跡からは、古墳時代中期前半の集落跡が確認されている。

古墳時代後期の遺跡は、西ノ原遺跡、天王峯遺跡、奥原遺跡等がある。西ノ原遺跡では、竪穴住居跡5軒、天王峯遺跡では竪穴住居跡2軒、奥原遺跡では竪穴住居跡が20軒ちかく確認されている。

古墳は、集落に付随するように、荃崎町の下大井古墳群〈15〉、阿見町の内記古墳群〈16〉、美穀古墳群〈17〉、牛久市猪子町の道山古墳群〈18〉がある。なかでも小野川に流れる一支流に面した標高20mの台地上には、9基からなる道山古墳群があり、第3、4、5号墳からは直刀が出土している。これらの古墳は、いずれも6世紀後半から7世紀前半のものである。

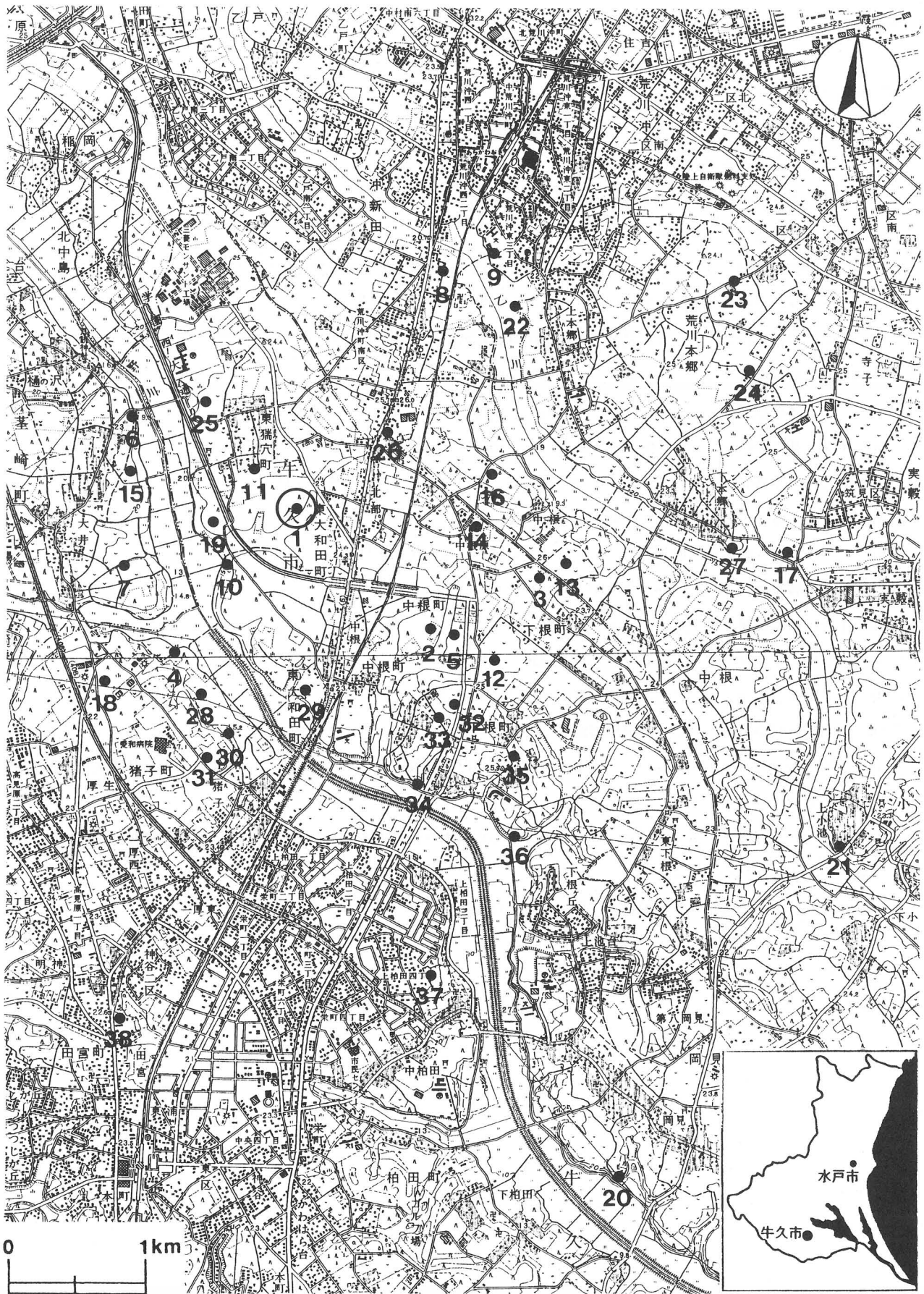
奈良・平安時代の遺跡は、ヤツノ上遺跡、中久喜遺跡、奥原遺跡、行人田遺跡〈19〉等がある。このうち、ヤツノ上遺跡、奥原遺跡（姥神地区）からは、竪穴住居跡と同時期の掘立柱建物跡が確認され、墨書土器が出土している。

中世の遺跡は、岡見城跡〈20〉、小坂城跡、上小池城跡〈21〉等がある。岡見城跡は、牛久市岡見町に所在し、室町時代初期ごろから漸次勢力を拡大していった岡見氏発祥の城跡であり、同市小坂町の小坂城跡は戦国期に入って岡見氏によって築造されたものと考えられている。阿見町小池に所在する上小池城跡は、戦国時代末期に土岐氏によって構築、支配されたものと考えられる。

※文中の〈 〉内の番号は、表1、第1図中の該当番号と同じである。

注・参考文献

- (1) 茨城県教育財団 「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅱ) 中久喜遺跡」 『茨城県教育財団文化財調査報告第86集』 1994年 9月
- (2) 茨城県教育財団 『西ノ原遺跡・隼人山遺跡 現地説明会資料』 1995年 1月
- (3) 茎崎教育委員会 『茎崎村史』 1973年 3月
- (4) 茨城県教育財団 「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財文化調査報告書(Ⅰ) ヤツノ上遺跡」 『茨城県教育財団文化財調査報告第81集』 1993年 3月
- (5) 土浦市教育委員会 『土浦の遺跡 埋蔵文化財包蔵地』 1984年 3月
- (6) 奥原遺跡発掘調査会 『奥原遺跡』 1989年 12月
- (7) 赤塚遺跡発掘調査会 『赤塚遺跡』 1984年 4月
- (8) 牛久市教育委員会 『牛久町史 史料編(-)』 1979年 1月
- (9) 牛久市天王峯発掘調査会 『天王峯遺跡報告書 第二次調査』 1988年 4月
- (10) 阿見町史編さん委員会 『阿見町史』 1983年 3月
- (11) 牛久市すかき台遺跡発掘調査会 『すかき台遺跡』 1991年 8月
- (12) 牛久市教育委員会 『常陸源臺遺跡』 1989年 10月
- (13) 土浦市向原遺跡発掘調査会 『向原遺跡』 1987年 3月
- (14) 国土館大学文学部考古学研究室 『烏山遺跡』 1988年 3月
- (15) 阿見町教育委員会 『宮脇遺跡(第Ⅱ期)』 1990年 3月
- (16) 阿見町阿見東遺跡調査会 『阿見東遺跡』 1992年 5月
- (17) 茨城県教育財団 「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書19 長峰遺跡」 『茨城県教育財団文化財調査報告第58集』 1990年 3月
- (18) 茨城県教育財団 「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書8 平台遺跡」 『茨城県教育財団文化財調査報告第19集』 1983年 3月
- (19) 小坂城跡発掘調査会 『小坂城跡』 1979年 12月



第3図 周辺遺跡分布図

表1 周辺遺跡一覧表

番号	県遺跡番号	名称	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降	番号	県遺跡番号	名称	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世以降		
1		東山遺跡		○		○	○			20	1708	岡見城遺跡								○	
2		中久喜遺跡	○	○			○			21	3982	上小池城跡									○
3		西ノ原遺跡	○			○				22	5701	於山古墳				○					
4	2794	守子橋遺跡		○						23	5699	大塚古墳				○					
5		ヤツノ上遺跡		○		○	○			24	5700	北古辺古墳				○					
6	2811	下大井遺跡		○						25	3363	大久保遺跡				○					
7	2808	大井遺跡		○						26	3991	東猫穴一里塚									○
8	5241	沖新田道祖神遺跡		○		○				27	5698	だめき古墳				○					
9	5240	塚下遺跡		○		○				28	3368	宮坂古墳				○					
10	3366	坂本遺跡		○	○					29	3371	根柄古墳				○					
11	3364	馬場遺跡				○	○			30	3369	中宿遺跡				○					
12		中下根遺跡				○				31	3375	古屋敷遺跡				○					
13	5703	中根遺跡				○				32	3372	愛宕脇古墳				○					
14		隼人山遺跡				○				33	3373	梨の木古墳				○					
15	5730	下大井古墳群				○				34	3376	宮の台遺跡				○					
16	5702	内記古墳群				○				35	3377	琴塚古墳				○					
17	5697	実穀古墳群				○				36	3378	水落下遺跡				○					
18	1706	道山古墳群				○				37	3380	権現山上池遺跡		○		○					
19	3365	行人田遺跡				○	○			38	1703	田宮一里塚									○

第3章 遺跡

第1節 遺跡の概要

東山遺跡は、牛久市の北西部、小野川左岸から北東方向に入り込む小支谷によって挟まれた標高19～25m程の舌状台地上にあり、古墳時代中期を中心に、縄文時代、平安時代の複合遺跡である。現況は山林で、面積は17,911㎡である。

今回の調査によって確認された遺構は、縄文時代の炉穴2基、陥し穴7基、古墳時代中期の竪穴住居跡69軒、平安時代の竪穴住居跡3軒、及び土坑230基である。その他、調査区の北東部に縄文時代早期から前期の遺物包含層を確認した。

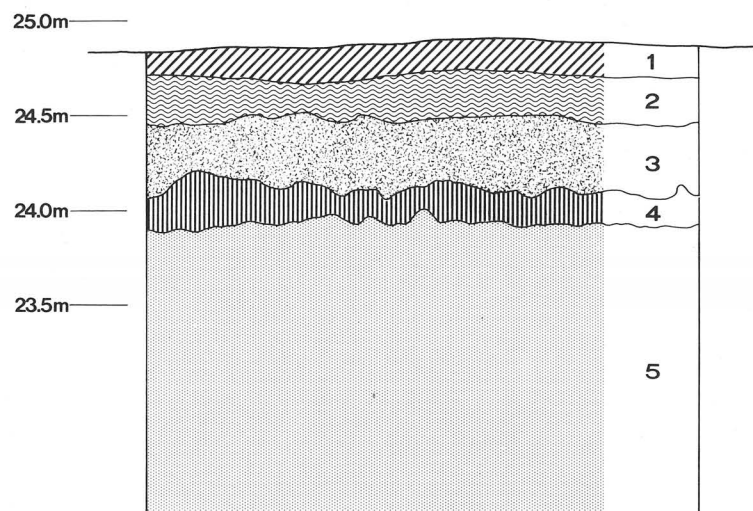
遺物は、遺物収納箱（60×40×20cm）に156箱出土している。旧石器時代の遺物は、ナイフ形石器、彫器、尖頭器が出土している。縄文時代の遺物は、早期から前期の土器片、石鏃、凹石、磨石、スタンプ形石器が出土している。古墳時代の遺物は、土師器の甕、壺、甌、坏、高坏、埴、須恵器の坏、埴、蓋、甗、土製品の勾玉、小玉、球状土錘、石製品の勾玉、白玉、双孔円板、石器の砥石、尖頭器、鉄製品の刀子等が出土している。

第2節 基本層序

東山遺跡においては、調査1区南西部D9a₉区にテストピットを設定し、第4図に示すような土層の堆積状況を確認した。

第1層は、暗褐色の表土であり、ローム粒子と炭化粒子を少量含み、厚さは10～20cmである。第2層は、明褐色のソフトローム層で、厚さは15～30cmである。第3層は、黄褐色のソフトローム層であり、赤色のパミスを微量含み、厚さは25～45cmである。第4層は、褐色のハードローム層で、赤色のパミスを微量含み、厚さは10～30cmである。第5層は、黄褐色のハードローム層で、厚さは120～140cmである。第3層から第5層は、極めて締まりがある。

東山遺跡の遺構は、第1層下面及び第2層上面から確認されており、竪穴住居跡は第2層から第3層を掘り込み、陥し穴遺構は第5層まで掘り込まれている。



第4図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

(1) 炉 穴

炉穴は、調査区北東部に位置する遺物包含層付近から2基確認されている。

第1号炉穴 (第5図)

位置 1区北西部, B11a₂区。

規模と平面形 長軸1.44m, 短軸1.02mの不定形で, 深さは42cmである。

底面と壁 底面は浅い皿状で, 壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 9層からなる人為堆積で, 底面には焼土層が堆積している。第6層は赤褐色土, それ以外は褐色土である。

第1層は焼土粒子を少量, 第2層は焼土粒子を微量, 第3層は焼土粒子を少量と焼土中ブロックを微量, 第4層は焼土粒子及び炭化粒子を少量, 第5層は焼土粒子を中量と焼土小ブロックを少量, 炭化粒子及び炭化物を微量, 第6層は焼土粒子及び焼土中ブロックを多量, 第7層は焼土粒子を中量と炭化粒子を微量, 第8層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量, 第9層は焼土粒子を少量と焼土小ブロックを微量, それぞれ含んでいる。

遺物 貝殻条痕文系の縄文式土器片が1点出土している。

所見 覆土の状態, 遺構の形態及び縄文式土器片が出土していることから, 縄文時代早期の炉穴と考えられる。

第2号炉穴 (第5図)

位置 1区北西部, B11a₃区。

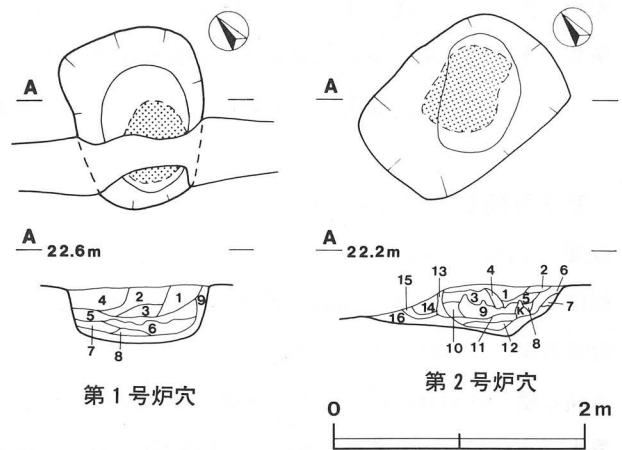
規模と平面形 長軸(1.60)m, 短軸(1.12)mの隅丸長方形をしていたものと考えられ, 深さは40cmである。

底面と壁 底面は皿状で, 壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土 16層からなり, ローム粒子及び焼土粒子を含む橙色土, 明褐色土を主体に堆積している。

第1層はローム粒子を少量と焼土粒子を中量含むにぶい赤褐色土, 第2層はローム粒子を多量と焼土粒子を少量含む明褐色土, 第3層はロー

ーム粒子及び焼土小ブロックを少量と焼土粒子を多量含む明赤褐色土, 第4層はローム粒子を中量と焼土粒子を多量含む橙色土, 第5層はローム粒子を多量と焼土粒子を中量含む明褐色土, 第6層はローム粒子を多量含むにぶい褐色土, 第7層はローム粒子を多量含むにぶい褐色土, 第8層はローム粒子を多量と焼土粒子を中量含む明褐色土, 第9層はローム粒子及び焼土小ブロックを少量と焼土粒子を多量含む橙色土, 第10層はローム粒子及びローム中ブロックを少量と焼土粒子を多量含む明褐色土, 第11層はローム粒子を多量と焼土粒子を少量含む明褐色土, 第12層はローム粒子を多量含む明褐色土, 第13層は焼土粒子を少量含む明褐色土, 第14層はローム粒子を多量, 焼土粒子を少量と炭化粒子及び炭化物を微量含むにぶい褐色土, 第15層は焼土粒子及び炭化物を微量含む明褐色土, 第16層はローム粒子及び焼土粒子を多量含む黄褐色土である。



第5図 炉穴実測図

遺物 出土していない。

所見 覆土の状態及び遺構の形態等から、縄文時代早期の炉穴と考えられる。

(2) 陥し穴

当遺跡で確認した陥し穴は7基で、調査区の中央部及び北東部に位置している。このうち、北東部に位置する4基は、遺物包含層の調査の際に上面を削平してしまったものがほとんどで、上部形状の詳細は不明である。なお、遺構番号は調査時に付した番号である。

第1号陥し穴（第6図）

位置 1区北西部，A11h₂区。遺構の北西部は調査区域外に延びている。

規模と平面形 長径（1.26）m，短径0.34mの長楕円形で、深さは152cmである。

長径方向 N-65°-W。

底面と壁 底面はU字状で、南西壁はオーバーハングしたあと、外傾して立ち上がっている。

覆土 11層からなり、自然堆積である。第1層はローム粒子を中量と焼土粒子を少量含む褐色土、第2層は焼土粒子を中量含む黒褐色土、第3層はローム粒子を中量と焼土粒子を多量及び炭化粒子を少量含む褐色土、第4層はローム粒子を少量と焼土粒子を中量含む褐色土、第5層は焼土粒子を微量含む暗褐色土、第6層は焼土粒子を微量含む黒褐色土、第7層はローム粒子及び焼土粒子を微量含む暗褐色土、第8層はローム中ブロックを中量含む黒色土、第9層はローム小ブロックを少量含む極暗褐色土、第10層はローム大ブロックを多量含む灰褐色土、第11層はローム粒子及び焼土粒子を中量含む褐色土である。

遺物 覆土中から縄文式土器片が極少量出土している。

所見 本跡は、覆土中から縄文時代前期の遺物が出土していること、遺物包含層第2層の上面から掘り込まれていることから、縄文時代前期もしくはそれ以降に構築されたものと考えられる。

第2号陥し穴（第6図）

位置 1区北西部，A11j₁区。

規模と平面形 長径1.24m，短径0.50mの長楕円形で、深さは30cmである。

長径方向 N-68°-W。

底面と壁 底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がるものと考えられる。

覆土 残存している覆土は6層で、人為堆積である。第1層はローム粒子を少量含む極暗褐色土、第2層はローム粒子及び褐色土粒子を少量含む極暗褐色土、第3層はローム粒子を少量含む黒褐色土、第4層はローム粒子を中量含む褐色土、第5層はローム粒子を少量とローム中ブロックを微量含む暗褐色土、第6層はローム粒子を多量含む褐色土である。

遺物 出土していない。

所見 本跡の上面は削平されているため上部形状の詳細はとらえられないが、周囲の陥し穴の形態等から縄文時代の陥し穴と考えられる。

第3号陥し穴 (第6図)

位置 1区北西部, A11h₃区。

規模と平面形 長径1.48m, 0.62mの長楕円形で, 深さは14cmである。

長径方向 N-36°-E。

底面と壁 底面は平坦で, 壁は急角度に外傾して立ち上がるものと考えられる。

覆土 残存している覆土は3層で, 自然堆積と思われる。第1層はローム粒子を微量と焼土粒子を少量含む暗褐色土, 第2層はローム粒子及び焼土粒子を少量含む極暗褐色土, 第3層は焼土粒子を少量含む暗褐色土である。

遺物 縄文式土器片が少量出土している。

所見 本跡の上面は削平されているが, 周囲の陥し穴の形態等から縄文時代の陥し穴と考えられる。

第4号陥し穴 (第6図)

位置 1区北西部, A11h₂区。

規模と平面形 長径2.68m, 短径0.54mの長楕円形で, 深さは32cmである。

長径方向 N-62°-W。

底面と壁 底面はU字状で, 粘土層まで掘り込まれている。壁は外傾して立ち上がるものと考えられる。

覆土 残存している覆土は2層で, 自然堆積と思われる。第1層はローム粒子を微量含む黒色土, 第2層はローム粒子を微量含む黒褐色土である。

遺物 出土していない。

所見 第2・3号陥し穴同様上面が削平されているが, 周囲の陥し穴の形態等から縄文時代の陥し穴と考えられる。

第80号土坑 (第6図)

位置 2区北東部, D9d₈区。

規模と平面形 長径3.44m, 短径0.64mの不定形で, 深さは106cmである。

長径方向 N-66°-E。

底面と壁 底面は平坦で, 壁は外反して立ち上がっている。

覆土 12層からなり, 人為堆積である。第1層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第2層はローム粒子を少量含む褐色土, 第3層はローム粒子を少量含む黄褐色土, 第4層はローム粒子を少量含む暗褐色土, 第5層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量含む褐色土, 第6層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第7層はローム粒子を中量とローム中ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第8層はローム粒子を少量含む暗褐色土, 第9層はローム粒子を中量含む褐色土, 第10層はローム粒子を微量含む褐色土, 第11層はローム粒子を少量とローム小ブロックを中量含む黄褐色土, 第12層はローム粒子及びローム小ブロックを中量含む明黄褐色土である。

遺物 覆土中から土師器片が極少量出土している。

所見 本跡は, 遺構の形態等から縄文時代の陥し穴と考えられるが, 詳しい時期については不明である。

第102号土坑 (第6図)

位置 2区北東部, D9g₉区。

規模と平面形 長径2.32m, 短径0.30mの長楕円形で、深さは54cmである。

長径方向 N-70°-W。

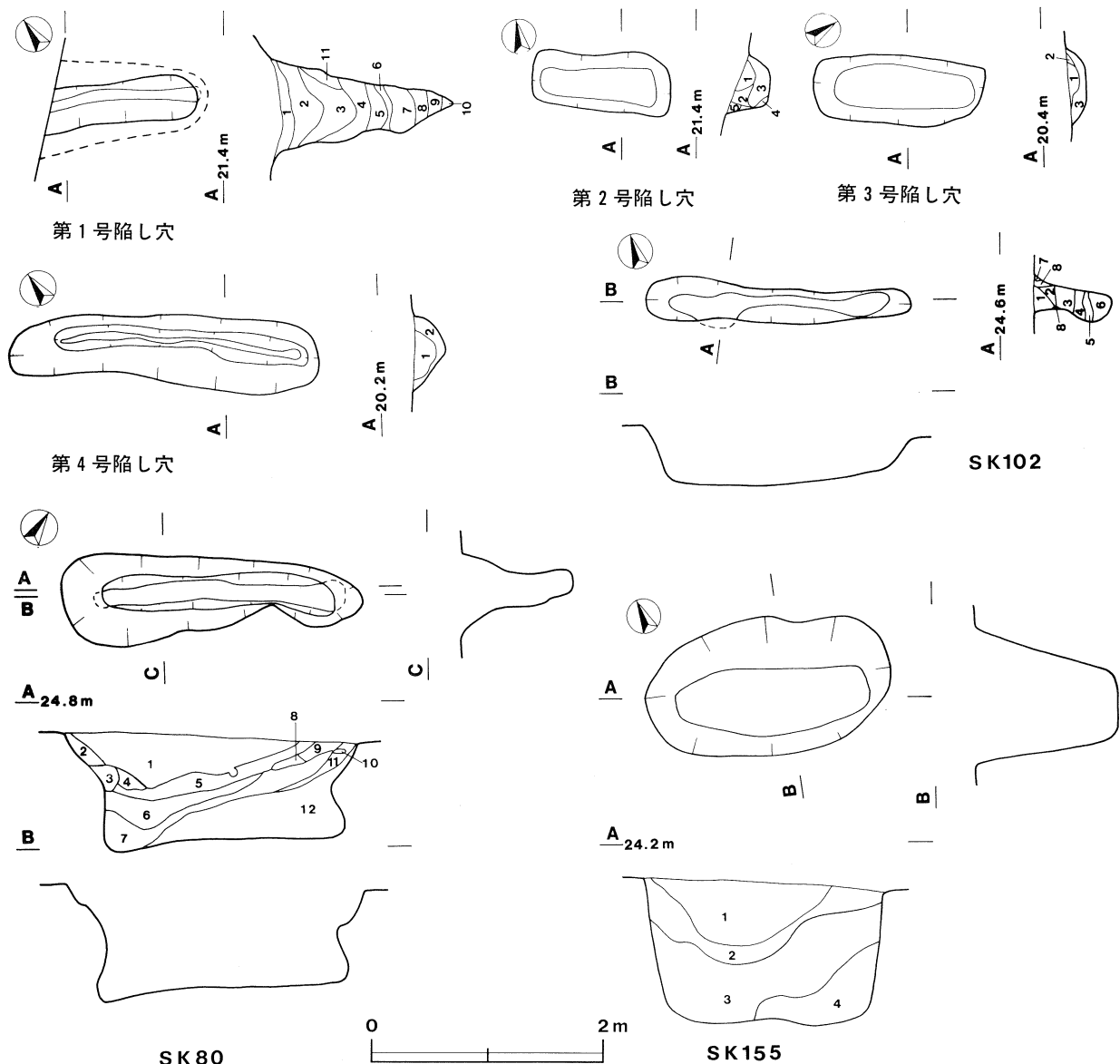
底面と壁 底面は凸凹で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 8層からなり、人為堆積である。第3層の暗褐色土、第8層の黄褐色土のほかはすべて褐色土である。

第1層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量、第2層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量、第3層はローム粒子及びローム小ブロックを少量、第4層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量、第5層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量及び炭化粒子を微量、第6層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量、第7層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量及び炭化粒子を微量、第8層はローム粒子を多量、それぞれ含んでいる。

遺物 覆土中から縄文式土器片及び土師器片が極少量出土している。

所見 本跡は、遺構の形態や縄文時代前期後半の土器片が出土していることから、縄文時代の陥し穴と考えられる。



第6図 陥し穴実測図

第155号土坑（第6図）

位置 2区南西部，C10j₆区。

規模と平面形 長径2.16m，短径1.42mの楕円形で，深さは126cmである。

長径方向 N-65°-W。

底面と壁 底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層からなり，人為堆積である。すべて褐色土で，第1層はローム粒子を少量，第2層はローム粒子を中量，ローム小ブロックを少量，第3層はローム粒子を中量，第4層はローム粒子を多量，それぞれ含んでいる。

遺物 覆土中から，縄文式土器片が極少量出土している。

所見 本跡は，遺構の形態や縄文時代前期後半の土器片が出土していることから，縄文時代の陥し穴と考えられる。

(3) 遺物包含層及び遺構外出土遺物

遺物包含層は，1区北東部A11区とB11区との間に入り込む小支谷の斜面部に，幅2m，長さ約34mのトレンチを南東方向に設定し，掘り込んだ結果確認された。

堆積する層は11層からなり，縄文時代の遺物を包含する層は概ね第1～6層（第8図）で，北東から南東に向けて傾斜して堆積している。第1層は厚さ8～20cmで，ローム粒子を少量とスコリアを微量含む黒褐色土，第2層は厚さ6～40cmで，ローム粒子を多量含む褐色土，第3層は厚さ26～50cmで，ローム粒子及びスコリアを少量含む黒褐色土，第4層は厚さ18～38cmで，ローム粒子を少量，黒色粒子を微量とスコリアを中量含む極暗褐色土，第5層は厚さ6～52cmで，ローム粒子を中量とスコリアを多量含む黒色土，第6層は厚さ8～30cmで，スコリアを中量含む黒色土，第7層は厚さ10～22cmで，ローム粒子を多量含む明褐色土，第8層は厚さ8～18cmで，ローム粒子を多量含む褐色土，第9層は厚さ12～30cmで，ローム中ブロックを少量含む褐色土，第10層は厚さ8～14cmで，ローム粒子を多量含む明褐色土，第11層は厚さ6～28cmで，ローム粒子を多量とローム中ブロックを少量含む暗褐色土である。第4層から第6層は粘性，締まりともに非常に強く，第6層については途中から水が湧き出てきたため全掘していない。

調査の結果，遺物包含層は，A11i₅区を中心に最大長34m，最大幅18mの範囲に広がっており，さらに調査区の西側の谷津頭に向けて延びているものと考えられる。

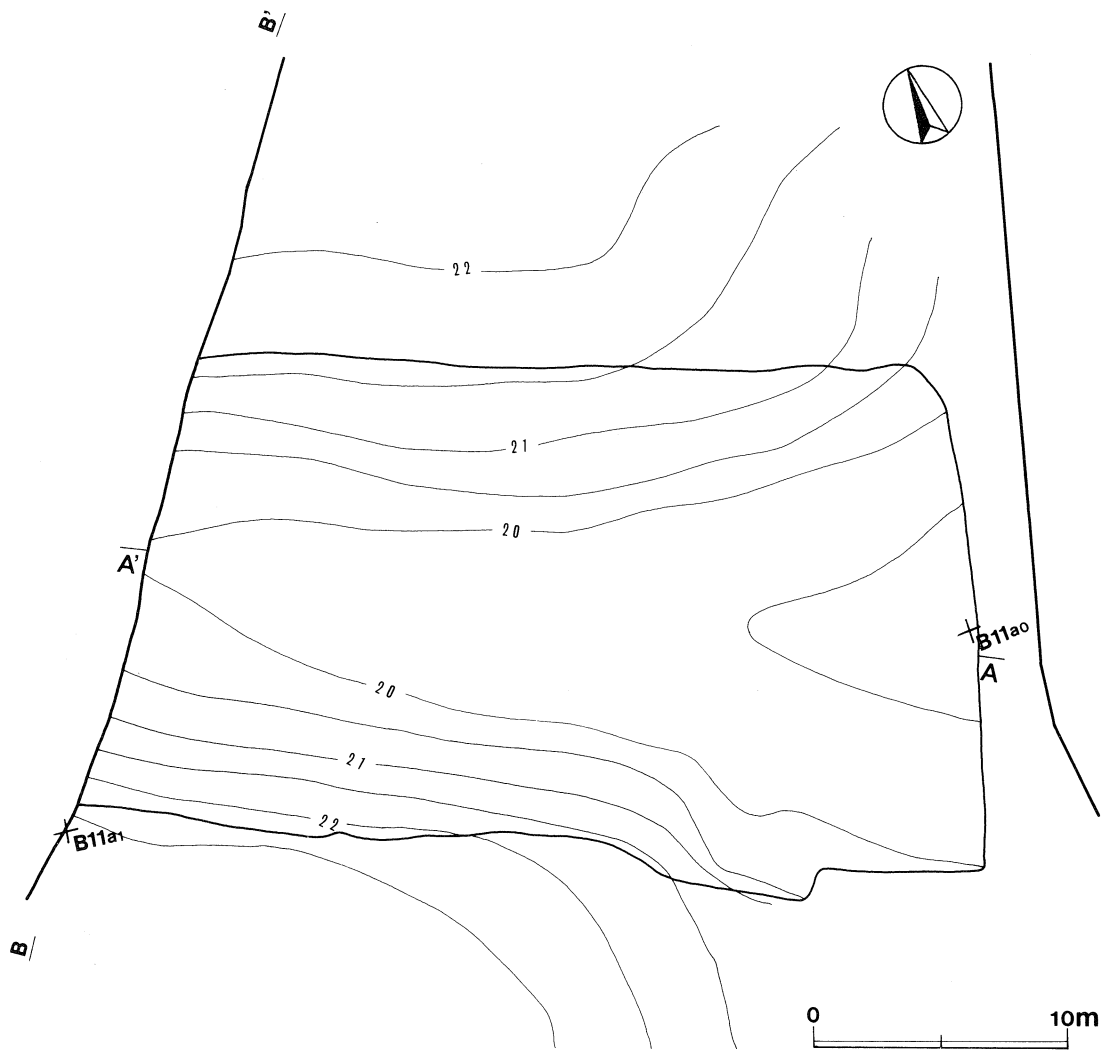
出土遺物は縄文時代早期・前期の縄文式土器片が主体であるが，中期初頭の縄文式土器片も極少量出土している。石器は磨石，凹石，スタンプ形石器等が出土している。これらの出土遺物を各層ごとにみても，第1層には各時期の遺物が混在してはいるものの，前期後半の貝殻沈線文系の土器群が多く出土している。第2層は第1層で主体をなした土器群が圧倒的な割合を占め，早期後葉の貝殻条痕文系の土器群の割合も増えてくる。第3層は早期後葉の貝殻条痕文系の土器群が主体を占め，早期前葉の撚糸文系の土器群の割合が増えてくる。第4層及び第5層は早期前葉の撚糸文系の土器群及び無文土器が主体で，その他の土器片は数点を数えるのみである。第6層からは早期の撚糸文系の土器のみ出土している。

以上のようなことから，第1・2層は縄文時代前期に，第3層は縄文時代早期中葉から後葉の時期に，第4層から第6層は早期前葉の時期に堆積したものと考えられる。

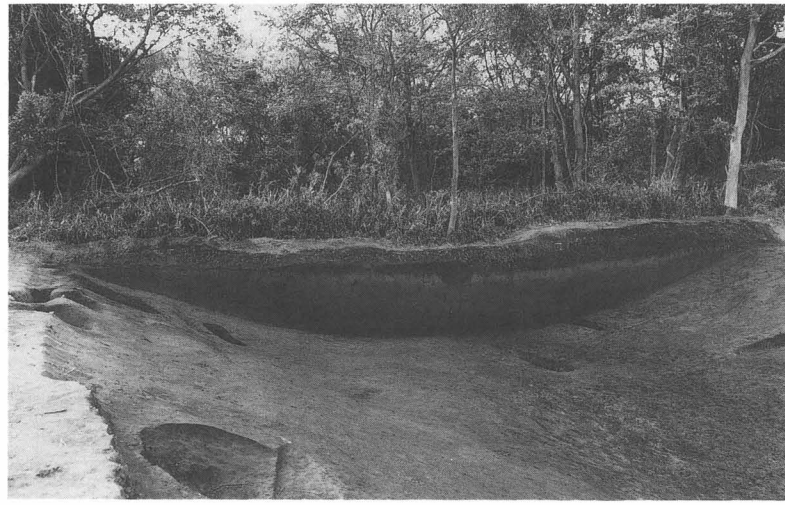
ここでは，遺物包含層出土遺物及び遺構外出土遺物について，実測図，拓影図及び観察表で報告するが，土器については以下の分類基準を用いて解説する。

第1群 縄文時代早期の土器

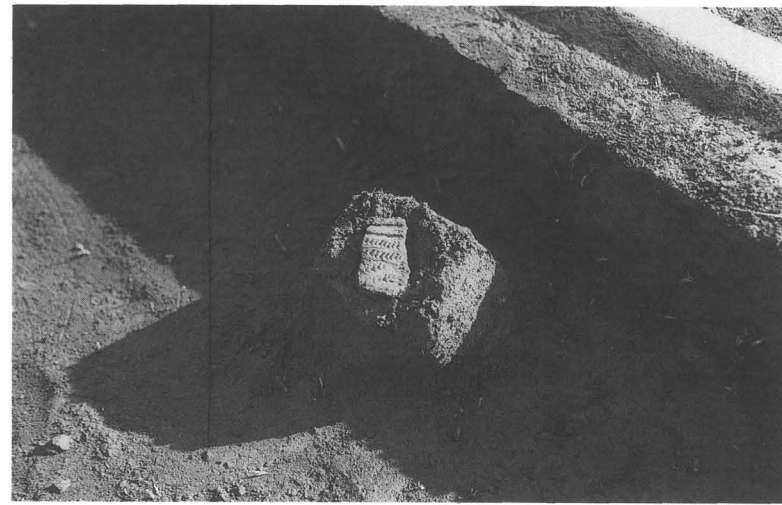
- 第1類 撚糸文系土器
- 第2類 無文土器
- 第3類 貝殻沈線文系土器
- 第4類 貝殻条痕文系土器
- 第2群 縄文時代前期の土器
 - 第1類 羽状縄文系土器
 - 第2類 竹管文系土器
 - 第3類 貝殻沈線文系土器
 - 第4類 縄文原体圧痕文及び結節文が施されている土器
- 第3群 縄文時代中期初頭の土器



第7図 遺物包含層平面図



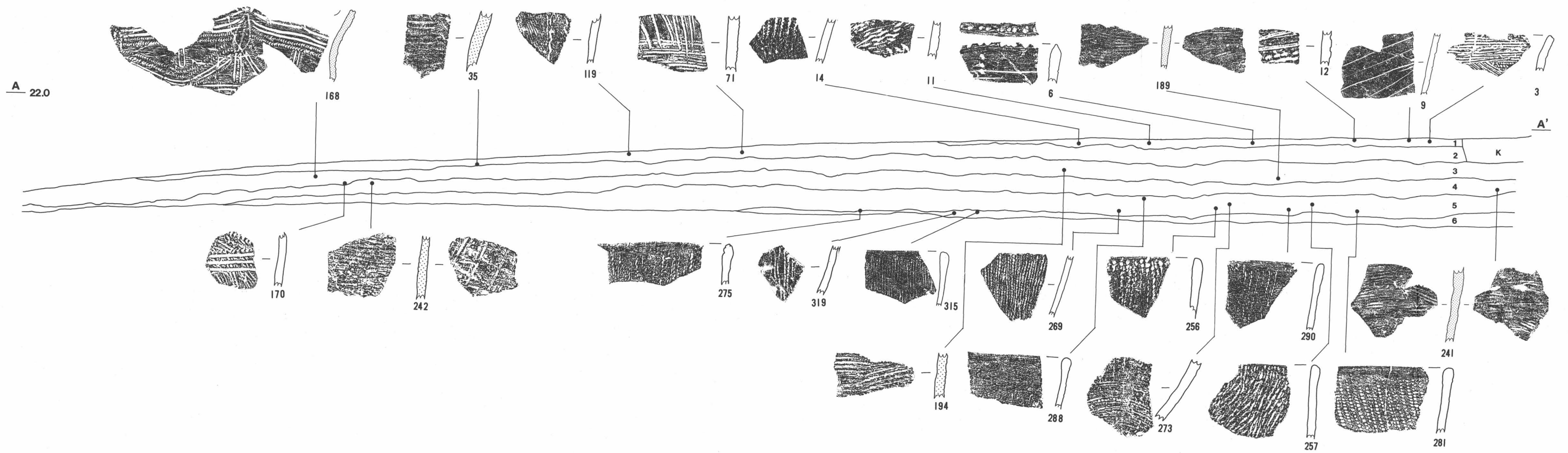
B-B' 土層断面図



第3層遺物出土状況



完掘状況



第8図 遺物包含層土層断面図及びトレンチ内出土遺物

遺物包含層出土遺物

第1層出土遺物（第9図）

本層からは、204点の土器片（第1群—第1類6点、第2類4点、第3類5点、第4類15点及び第2群—第1類2点、第2類3点、第3類167点並びに第3群—2点）と凹石が1点出土している。

第1群 縄文時代早期の土器（第9図）

第4類 貝殻条痕文系土器（第9図1・2）

1は口縁部片、2は底部に近い胴部片である。1の口唇部は内削ぎ状で、外面端部に軽いキザミ目をもつ。胴部外面には斜位の貝殻条痕文が施されている。胎土は少量の繊維と長石粒、石英粒及び雲母片を含んでいる。2は外面に縦位の貝殻条痕文が施されている。胎土は多量の繊維と長石粒及び雲母片を含んでいる。1・2とも焼成は普通である。

第2群 縄文時代前期の土器（第9図3～14）

第2類 竹管文系土器（第9図3・4）

3は口縁部片、4は胴部片である。3の口縁部は僅かに外反している。縄文施文後、口縁直下から半截竹管による平行沈線文を横走させ、その下には斜行する沈線によって三角文が構成されている。4は平行沈線文が間隔をおいて横走している。3・4とも、胎土に長石粒・雲母片を多量に含み、焼成は普通である。

第3類 貝殻沈線文系土器（第9図5～14）

5～7は口縁部片、8～14は胴部片である。5は外傾、6はほぼ垂直に、7は僅かに外反して立ち上がる。5は、胴部上位から幅1～2cmの薄い粘土紐を5段以上重ねた後、縦方向の沈線を施すことにより、輪積文を構成している。6の口唇部には棒状工具の押圧がなされている。口縁部直下には沈線施文後、円形刺突文が3段施されている。7は小波状口縁で、口縁直下から縦走する沈線文が施されている。5・7の胎土は長石・石英粒を僅かに含み、焼成は普通である。6の胎土はスコリアを微量含み、焼成は良好で硬く焼き締まっている。8～10は斜位及び横位の沈線文が施されている。11は半截竹管による波状の沈線下に貝殻波状文が、12は半截竹管による沈線文下に連続刺突文が施されている。8～10の内面には縦位のナデが施されている。13には貝殻波状文が施されている。14は底部に近い胴部片で、貝殻腹縁文が施されている。8～14とも胎土に微量のスコリアを含み、焼成は良好である。

第3群 縄文時代中期初頭の土器（第9図15）

15は口縁部片である。口唇部は内削ぎ状で、外面端部から口縁部にかけて縦位のキザミ目をもつ。頸部の沈線間には鋸歯状文が横走している。口唇部及び胴部内面はよく磨かれている。胎土は緻密で、焼成は良好である。

第2層出土遺物（第9～12図）

本層からは、1,655点の土器片（第1群—第1類53点、第2類4点、第3類6点、第4類181点及び第2群—第1類13点、第2類26点、第3類1,330点、第4類39点並びに第3群—3点）と凹石が2点、块状耳飾りが1点出土している。

第1群 縄文時代早期の土器（第9図16～40）

第1類 撚糸文系土器（第9図16・17）

16は口縁部片で、口唇部は肥厚するもののほとんど外反がみられない。口縁部直下に5mm程度の無文帯もち、その下から撚糸文が間隔を疎に施文され、補修孔が穿たれている。17は底部に近い胴部片で、16と同様、

撚糸文の施文間隔は疎である。16・17とも胎土に石英・長石粒を多く含み、焼成は普通である。

第2類 無文土器 (第9図18・19)

18・19は口縁部片である。18の口縁部は僅かに外傾し、頸部外面に丁寧なナデが施されている。胎土は石英・長石粒及び雲母片を多く含み、焼成は普通である。19の口縁部はほぼ直立し、内外面ともヘラによるナデが施されている。胎土は砂粒を多く含み、焼成は普通である。

第3類 貝殻沈線文系土器 (第9図20～24)

20～22は沈線によって文様が構成されている胴部片で、20は細沈線による斜格子目文が、21は方向の異なる斜行する太沈線が、22は沈線間に2本の山形文が施されている。23は口縁部片、24は胴部片で、いずれも沈線文、刺突文、貝殻文が組み合わされた文様が施されている。23は内彎気味に立ち上がり、口唇部内面端部に棒状工具によるキザミ目をもつ。20～24の胎土は長石・石英粒を含み、焼成は普通である。

第4類 貝殻条痕文系土器 (第9図25～40)

25～31は沈線により、縦位・斜位の区画がなされ、無文部と有文部を構成している。有文部は刺突文を斜位に充填し、沈線と沈線の交点に円形竹管文が施されている。25～28は口縁部片、29～31は頸部片である。25は口唇部にキザミ目が施され、隆帯が屈曲部を形成している。有文部には竹管による押し引き文が充填されている。26は内外面に貝殻条痕文を施し、25と同じ施文がなされる小波状口縁部片である。27・28は口唇部にキザミ目をもち、細沈線間に刺突文が充填されている。27・28は内外面に貝殻条痕文が施されている。29～31は頸部の屈曲部にあたり、屈曲部上にはキザミ目と円形竹管文が施されている。25～31の胎土は繊維及び小石、雲母片を含み、焼成はあまりよくない。32～40は胎土に多量の繊維を含み、貝殻条痕文が施されている。32～34は口縁部片で、35～40は胴部片である。32・33の口唇部はほぼ平坦で、32はキザミ目をもつ。34は小波状の口縁部である。口唇部は内削ぎ状で、軽いキザミ目をもつ。33の外面には擦痕が残されている。胴部片は内外面に貝殻条痕文を施す35～37、外面に縦位、内面に横位の貝殻条痕文を施す38、外面に斜位及び縦位、内面に縦位の貝殻条痕文を施す39、外面に貝殻背圧痕文、内面に貝殻条痕文を施す40がある。

第2群 縄文時代前期の土器 (第10～12図41～119)

第2類 竹管文系土器 (第10図41～46)

41は口縁部片、42・43は頸部片、44・45は胴部片、46は底部片である。41・42は同一個体で、口縁部下に横走する爪形文を2条巡らし、隆帯上に斜位のキザミ目が施されている。隆帯下には沈線に区画された木葉文が施されるものと考えられる。43・44は縄文を地文とし、横走する竹管による沈線文が施されている。43のくびれ部は沈線を縦走及び斜行させて文様を構成している。45・46は横走する集合沈線文が間隔をあけて施されている。45は胎土及び文様等から第1層出土4の土器片と同一個体と考えられる。本類の胎土は長石・石英粒及び雲母片を含み、焼成は普通である。

第3類 貝殻沈線文系土器 (第10～12図47～117)

47～50は地文に撚糸文が施され、その上に平行沈線文、爪形文、貝殻文が施されるものである。47は口縁部近くの頸部片で、括れが強口縁部直下に横走する平行沈線文を3段巡らせている。48～50は頸部あるいは胴部上半部片で、48には爪形文が、50には貝殻腹縁文が施されている。51～73は沈線文、条線文を主文様とするものである。51～53は沈線文を地文にし、口縁部直下に円形刺突文が施されている。51～52は縦位3個1単位が2列、53は同じく4個1単位が2列施されていたものと考えられる。54～58は口唇部にキザミ目が施されている。59は外反して立ち上がり、58と同様、多方向の沈線文が施されている。60～62は口縁部直下に半截竹管によるキザミ目をもち、60には補修孔が穿たれている。63・64は波状口縁で、条線文が63は粗く、64は細かく

施されている。65～73は胴部片である。65～67は多方向の沈線文が、68は斜行する沈線文が、69は曲線的な条線文が施されている。70～72は同一個体で、横走する沈線間に斜行する沈線を施す文様構成をとっている。73は半截竹管による沈線文が多用され、菱形の無文部がみられる。74～78は輪積文をもつ口縁部片である。74の輪積文は2段構成で棒状工具による凹凸文が、胴部には斜行する沈線文が施されている。75・76は口縁部直下に斜行するキザミ目をもつ。輪積文は2段以上の構成で凹凸文が施されている。77・78も輪積文は2段以上の構成で、輪積文上に斜行する沈線文が施されている。79～83は隆帯をもつ口縁部片である。79・80には隆帯上に弱い沈線文が施されている。81は口唇部に棒状工具の押圧によるキザミ目が施され、隆帯直下に弱い指頭痕が残る。82・83は無文で、僅かに擦痕がみられる。82は内彎気味に立ち上がっている。84～109は貝殻文を主文様とするものである。84～95は貝殻波状文が施されている口縁部片である。84・85は口縁部下に幅広の無文帯をもち、その下に貝殻波状文が施されている。86・87は口縁部直下から貝殻波状文が施されている。88～95は口唇部に棒状工具による押圧や半截竹管によるキザミ目をもち、口縁部に沿ってキザミ目や刺突文が施され、その下に貝殻波状文が施されている。95にみられる口縁部下のキザミ目は貝殻腹縁によって施されている。96～103は貝殻波状文が施されている胴部片である。104は他の土器に比べ貝殻を大きく傾けて波状文を施文している。104～108は貝殻腹縁文が施されているものである。104～106は口縁部片で、104・106は口縁部直下から、105は口縁部のキザミ目の下から貝殻腹縁文が施されている。104の口唇部には棒状工具の押圧によるキザミ目が施される部分と施されない部分がある。107・108は胴部片である。107は沈線によって貝殻腹縁文が区画されているものと考えられる。108は沈線内の貝殻腹縁文を磨り消している。109は口縁部片で、密に施されたキザミ目の下から、有節平行線文が施されている。110～115は同一個体の胴部片である。単節縄文を地文とし、沈線により曲線や鋸歯状文が施されている。116は口径約41cmで、口縁部は外反して立ち上がる。口縁部下位に棒状工具による凹文が、頸部には半截竹管による沈線文が施されている。117は口径15.7cmで、僅かに外傾して立ち上がる。口唇部には棒状工具による押圧がなされ、外面は単沈線と貝殻波状文が施されている。本類の胎土はスコリアを含み、焼成は良好で硬く焼き締まったものが大半を占めている。

第4類 縄文原体圧痕文及び結節文が施されている土器 (第12図118～120)

118は口径約23.6cmで、外傾して立ち上がる。輪積文は5段で、輪積文上及び胴部下半には単節縄文が施されている。119・120は同一個体と考えられる。いずれも胴部片で、結節文が間隔をおいて縦走している。胎土には雲母片を僅かに含み、焼成は良好である。

第3群 縄文時代中期初頭の土器 (第12図121・122)

121は口縁部近くの破片である。連続刺突文の下には、沈線間に交互刺突による鋸歯状文が施されている。121は胴部片で、122の文様構成を縦方向にとるが、連続刺突文に変えて有節平行沈線文が施されている。胎土は長石粒、雲母片を含み、焼成は普通である。

第3層出土遺物 (第12～14図)

本層からは、896点の土器片 (第1群-第1類178点, 第2類26点, 第3類14点, 第4類565点及び第2群-第2類1点, 第3類103点, 第4類7点並びに第3群-2点) と磨石が1点出土している。

第1群 縄文時代早期の土器 (第12～14図123～196)

第1類 撚糸文系土器 (第12図122～163)

123・124は口縁部片, 125は底部に近い胴部片である。123・124とも口唇部は僅かに肥厚し、口縁部は外反して立ち上がる。口唇部及び外面に縄文が密に施されている。126～132は縄文が口縁部直下から比較的密に施

されているものである。126～131が口縁部片で、口唇部は肥厚するが外反は著しくない。132は胴部片である。126は口縁部直下に斜位の縄文が施されている。133～156は細い撚糸文が比較的疎に施されるものである。133～147は口縁部片で、口唇部が肥厚するものがほとんどである。133～140は口縁部直下に無文帯をもち、141～147は口縁部直下から撚糸文が施されている。148・149は底部に近い胴部片、150～156は胴部片である。157～163は太い撚糸文が疎に施されるもので、157～162が口縁部片、163は胴部片である。本類の胎土は長石・石英粒を含み、焼成は普通である。

第2類 無文土器 (第12図164・165)

164・165は口縁部片である。164はほぼ直立し、内外面とも平滑に整形されている。165は口唇部が肥厚し、口縁部直下に軽いナデが施されている。165は胎土に砂粒を多く含み、焼成は不良である。

第3類 貝殻沈線文系土器 (第13図166～172)

166・167は胴部片で、太めの沈線が施されている。胎土は砂粒を多く含み、焼成は普通である。168～171は胎土及び文様から同一個体と考えられる。山形の波状口縁で、頸部は細くくびれる。口唇部中央には沈線が巡らされている。文様は条痕文を地文とし、沈線文と押し引き刺突文で構成されている。胎土は繊維を少量含み、焼成は普通である。172は口縁部片である。口唇部に軽いキザミ目をもち、口縁部直下から貝殻腹縁文を施した後、指頭痕を巡らせている。胎土は繊維を多量に含み、焼成は普通である。173は6単位の波状口縁をもち、口径は約34.4cmである。口唇部中央に沈線が巡り、内・外端部に細かいキザミ目が施されている。文様は単沈線によって蛇行、弧状、山形状、円形状に描かれている。

第4類 貝殻条痕文系土器 (第13～14図174～195)

174～176は口縁部片で、口唇部及び口縁部下の隆帯上にはキザミ目が施されている。文様は沈線または押し引き文によって、縦位・斜位の区画がなされ、その交点には竹管による円形刺突文が施されている。174には区画内に刺突文が充填されている。胎土は長石・石英粒及び雲母片を多く含み、焼成はあまり良くない。177～196は胎土に多量の繊維を含み、貝殻条痕文・擦痕文が施されているものである。177～187は口縁部片で、177～184には貝殻条痕文が、185～187には擦痕文が施されている。177・179・181・183・184には内外面に、178・180・182には外面だけに貝殻条痕文が施されている。178～180・182の口唇部には軽いキザミ目が施されている。188～196は胴部片で、188～194は内外面に、195は外面に貝殻条痕文が施されている。196は外面に擦痕文が、内面に貝殻条痕文が施されている。

第2群 縄文時代前期の土器 (第14図197～199)

第3類 貝殻沈線文系土器 (第14図197～199)

197・198は口縁部片、199は胴部片である。197の口唇部は外削ぎ状で、外面端部にキザミ目をもち、頸部以下に浅い沈線文が施されている。198は隆帯上から頸部に三角文が施されている。199は太さの異なる沈線文が多方向から施されている。胎土はいずれも砂粒を多く含み、焼成は普通である。

第4層出土遺物 (第14・15図)

本層からは、466点の土器片(第1群—第1類375点、第2類52点、第4類39点)とナイフ形石器が1点、磨石が1点、スタンプ形石器が3点、土製円板が1点出土している。

第1群 縄文時代早期の土器 (第14～15図200～243)

第1類 撚糸文系土器 (第14～15図200～237)

200～203は口縁部片、204は胴部片である。200～203の口唇部は肥厚し、外反して立ち上がる。200～202に

は口唇部にも縄文が施されている。205～214は縄文が比較的密に施されているもので、205～209が口縁部片、210～214が胴部片である。口唇部は肥厚するものが多いが、著しい外反はみられず、口縁部直下から縄文が施されている。215～228は細い撚糸文が比較的疎に施されるものである。215～218は口縁部片で、口唇部は著しく肥厚するが外反はみられない。219～227は胴部片、228は底部に近い胴部片である。229～237は太めの撚糸文が疎に施されているものである。229～233は口縁部片で、口唇部は229・230を除いて肥厚せず、ほぼ垂直に立ち上がる。胎土は長石・石英粒を含み、焼成は普通である。

第2類 無文土器 (第15図238・239)

238・239は口縁部片である。238は頸部から僅かに外傾して立ち上がる。内外面に擦痕文が施されている。239はほぼ垂直に立ち上がり、内面は平滑に整形されている。胎土は砂粒・雲母片を含み、焼成は普通である。

第4類 貝殻条痕文系土器 (第15図240～243)

240は口縁部片、241～243は胴部片である。240の口唇部は内削ぎ状で、軽いキザミ目が施されている。口縁部下にある孔は焼成前のものである。外面にはかすかに貝殻条痕文が施されている。241～243には内外面に貝殻条痕文が施されている。胎土は繊維を多く含み、焼成は普通である。

第5層出土遺物 (第15・16図)

本層からは、449点の土器片 (第1群-第1類433点, 第2類10点, 第3類1点, 第4類土器5点) と石錘が1点, スタンプ形石器が6点出土している。

第1群 縄文時代早期の土器 (第15～16図244～307)

第1類 撚糸文系土器 (第15～16図244～302)

244～251は口縁部片、252は胴部片である。口唇部は肥厚し、外反して立ち上がる。244～249は口唇部及び外面に縄文が密に施されている。253～274の口唇部は肥厚するものの外反は著しくないものであり、比較的密に縄文が施されている。253～268は口縁部片で、269～272は胴部片、273・274は底部片である。253・254の口唇部外面端部には斜行する縄文が施されている。267は口縁部下に焼成後に穿たれた補修孔がある。275～296は細い撚糸文が比較的疎に施されているもので、275～290は口縁部片、291～296は胴部片である。口唇部は肥厚するものが大半を占め、外反するものは少ない。口縁部に無文帯をもつ。280は口唇部から口縁部内面にかけて焼成後に穿たれた孔をもつ。297～302は太めの撚糸文が疎に施されているものである。297～299は口縁部片、300～302は胴部片である。胎土は長石・石英粒を含み、焼成は普通である。

第2類 無文土器 (第16図303～307)

303～306は口縁部片、307はミニチュア土器の口縁部から胴部にかけての破片である。303の口唇部は肥厚し、外反して立ち上がる。内面は丁寧なナデが施されている。304・305の口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。306の口唇部は外削ぎ状で、胴部内外面とも平滑に整形されている。胎土は長石・石英粒及び雲母片を含み、焼成は303が良好、その他は普通である。

第6層出土遺物 (第16図)

本層からは、63点の土器片 (第1群-第1類62点, 第2類1点) と磨石が2点, スタンプ形石器が2点出土している。

第1群 縄文時代早期の土器 (第16図308～324)

第1類 撚糸文系土器 (第16図308～323)

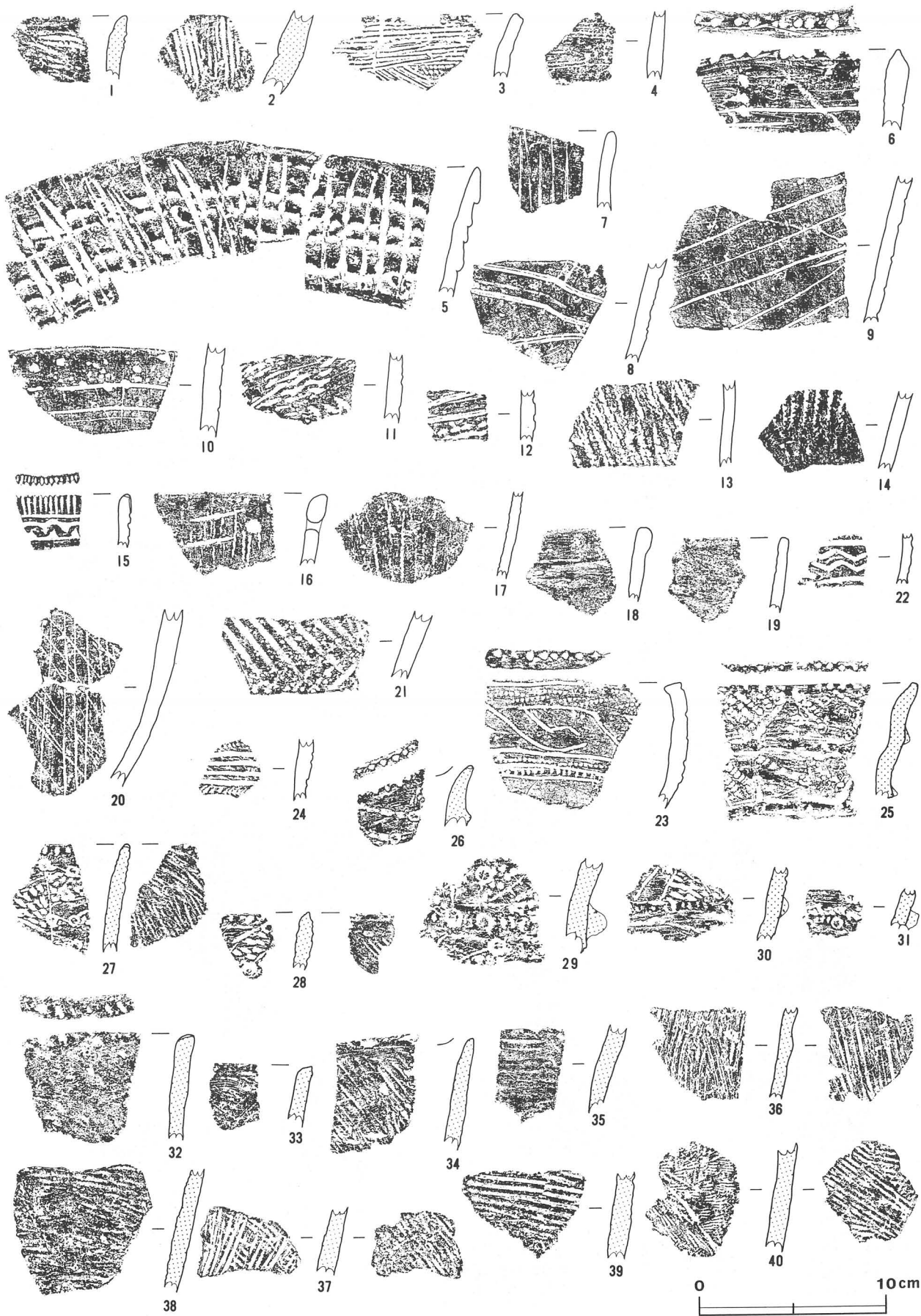
308・309は口唇部の肥厚・外反が著しい。308は口唇部全面に縄文が施され、頸部には斜行、胴部には縦走る縄文が施されている。309は口唇部外面に縄文が施され、頸部に幅1.5cm前後の無文帯をもつ。胴部上位には斜行する縄文が施されている。310・311の口唇部は僅かに肥厚し、ほとんど外反しない。口縁部直下から、比較的密に縄文が施されている。312・313はその胴部片である。314～322は細い撚糸文が比較的疎に施されるもので、314～316は口縁部片、317～322は胴部片である。口縁部直下に無文帯をもつのを特徴としている。314は頸部に施した撚糸文を磨り消している。323は太めの撚糸文が施されている口縁部片で、口縁部直下に僅かな無文帯をもつ。胎土は長石・石英粒を含み、焼成は314～316、323は良好、その他は普通である。

第2類 無文土器 (第16図324)

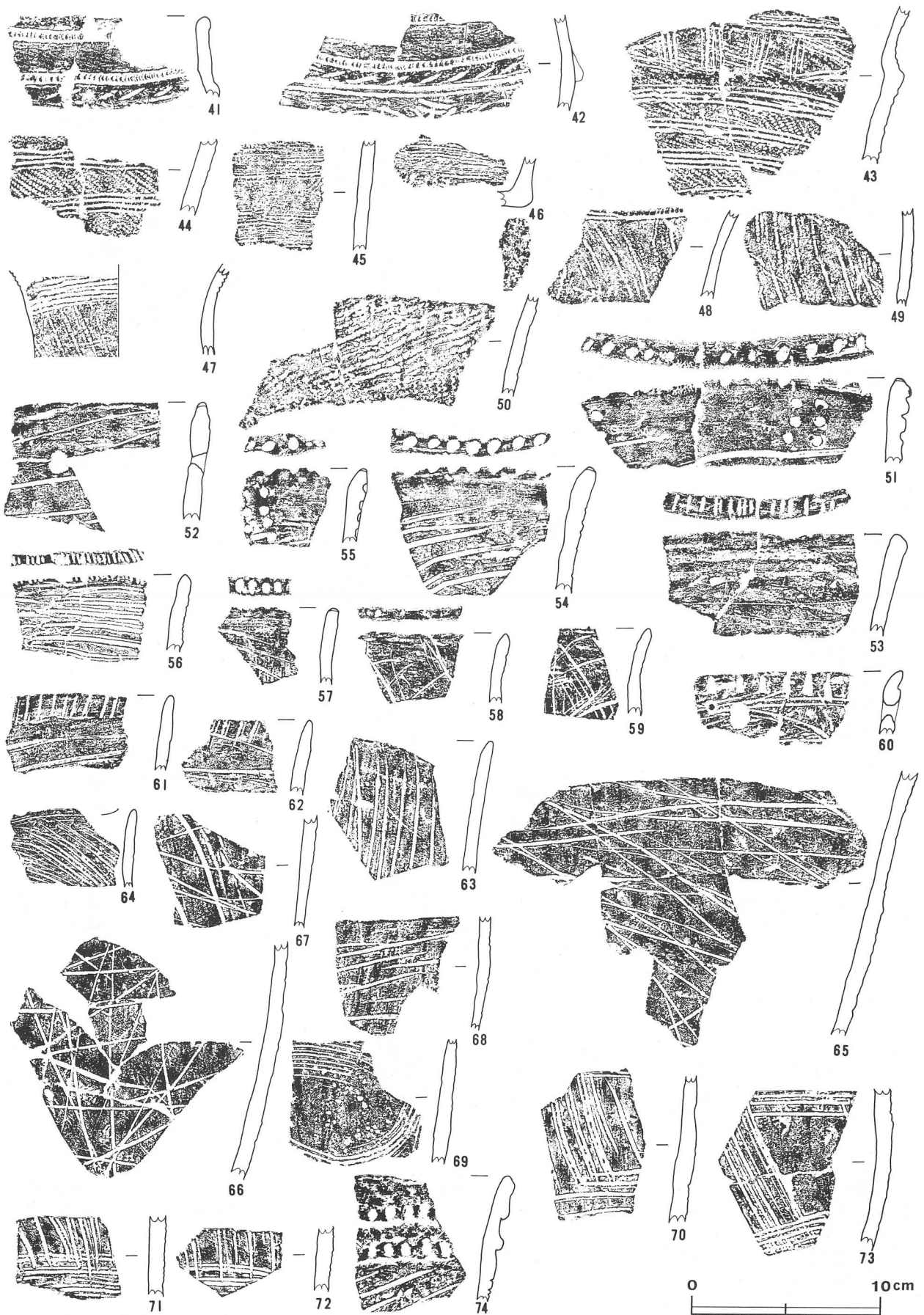
324は口縁部から胴部の破片である。小形の土器で第1群第1類土器に伴うものと考えられる。

遺物包含層出土遺物観察表

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
1	彫 器	(7.6)	(3.0)	0.9	21.9	第4層	Q219 頁岩 P L80
2	石 錘	6.7	4.4	0.7	31.9	第5層	Q220 泥質片岩 P L80
3	磨 石	12.7	6.7	5.2	648.7	第6層	Q227 安山岩
4	磨 石	9.4	6.4	4.3	379.0	第6層	Q229 安山岩
5	磨 石	7.2	6.4	2.9	178.3	第3層	Q230 安山岩
6	磨 石	(7.9)	6.5	3.9	319.5	第4層	Q231 安山岩
7	凹 石	19.0	15.0	7.7	2358.6	第1層	Q224 董青石 P L80
8	凹 石	13.9	(11.6)	3.5	854.7	第2層	Q225 董青石
9	凹 石	10.8	(10.0)	4.7	683.5	第2層	Q226 董青石
10	スタンプ形石器	11.4	7.7	6.6	669.0	第6層	Q235 安山岩 P L80
11	スタンプ形石器	11.9	7.4	6.6	642.7	第5層	Q236 安山岩 P L80
12	スタンプ形石器	11.6	7.1	6.6	537.4	第5層	Q237 安山岩 P L80
13	スタンプ形石器	11.0	5.9	6.9	471.4	第5層	Q239 安山岩 P L80
14	スタンプ形石器	9.7	7.6	5.6	446.8	第4層	Q240 安山岩 P L80
15	スタンプ形石器	13.1	5.4	5.7	494.7	第4層	Q241 安山岩 P L80
16	スタンプ形石器	9.4	7.4	5.0	516.1	第5層	Q242 安山岩 P L80
17	スタンプ形石器	9.4	5.5	4.9	272.1	第5層	Q243 安山岩 P L80
18	スタンプ形石器	9.1	5.8	5.2	276.4	第4層	Q244 安山岩 P L80
19	スタンプ形石器	9.7	5.4	5.0	256.0	第6層	Q245 安山岩 P L80
20	スタンプ形石器	6.9	5.5	4.7	218.4	第5層	Q246 安山岩 P L80
21	土 製 円 板	3.7	3.5	0.7	8.7	第4層	孔径 0.7mm D P42 100% P L71
22	珠 状 耳 飾り	5.7	(4.0)	1.2	10.3	第2層	D P38 50% P L71



第9图 遺物包含層出土遺物実測図(1)



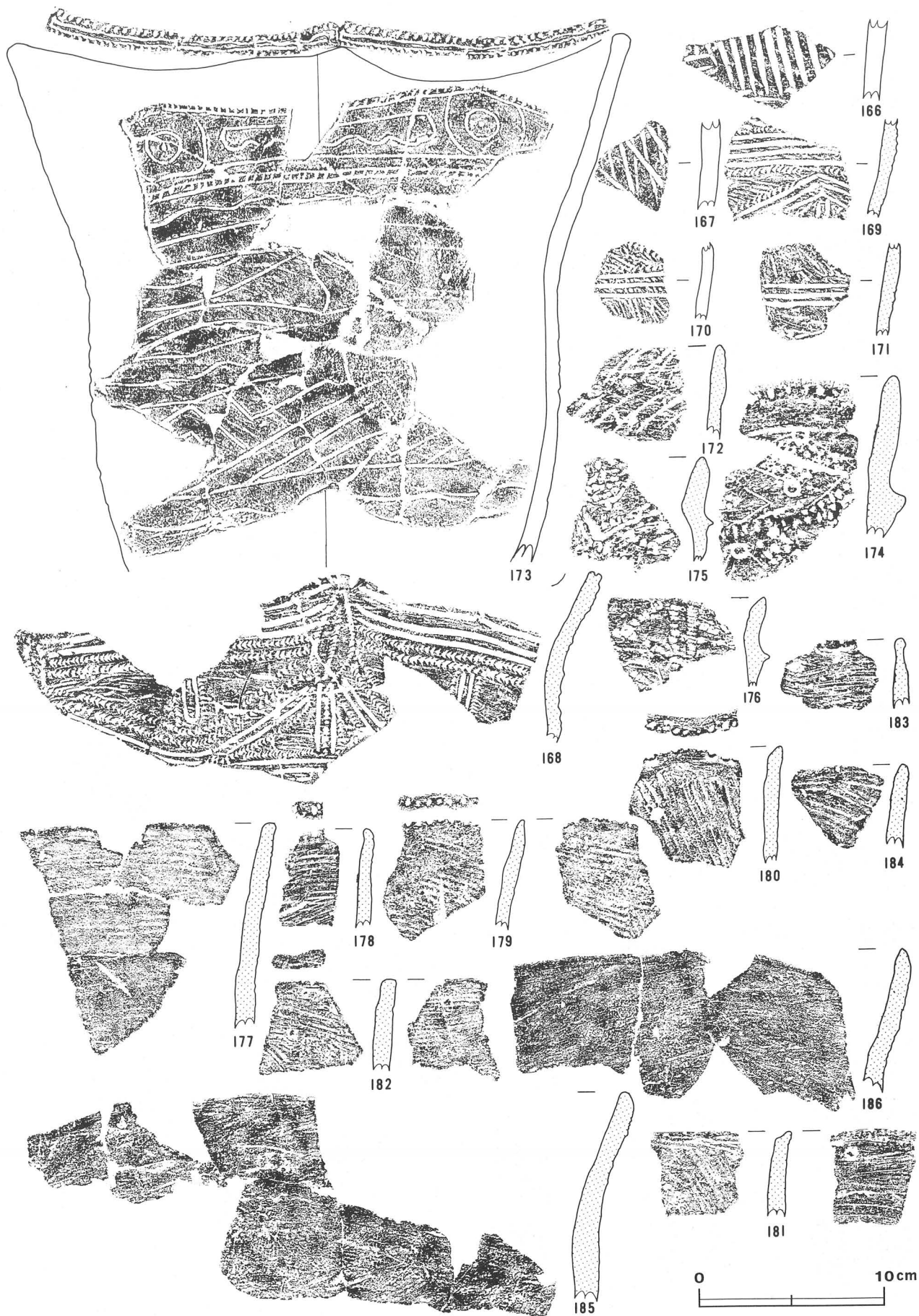
第10図 遺物包含層出土遺物実測図(2)



第11圖 遺物包含層出土遺物実測図(3)



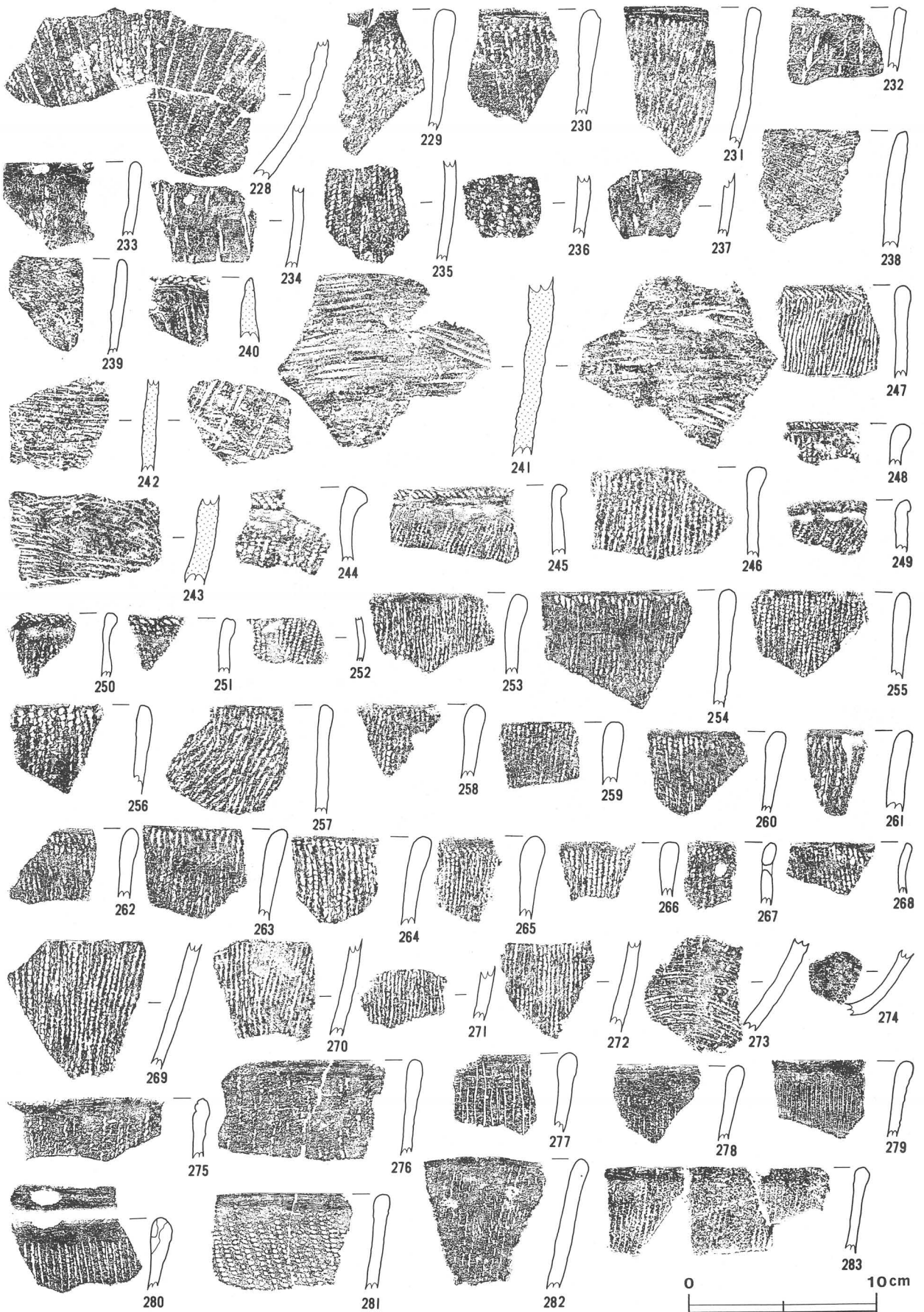
第12図 遺物包含層出土遺物実測図(4)



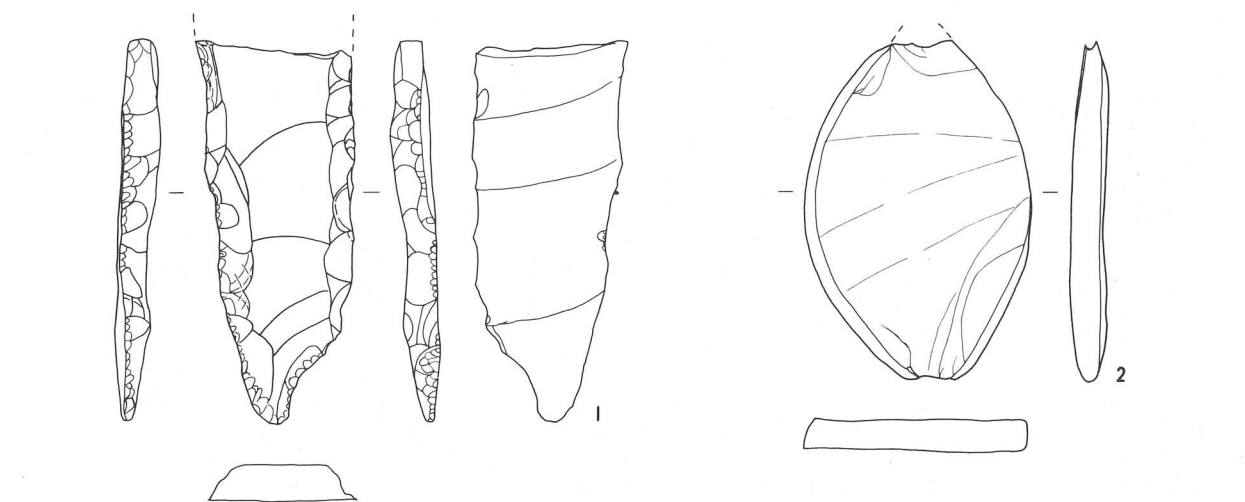
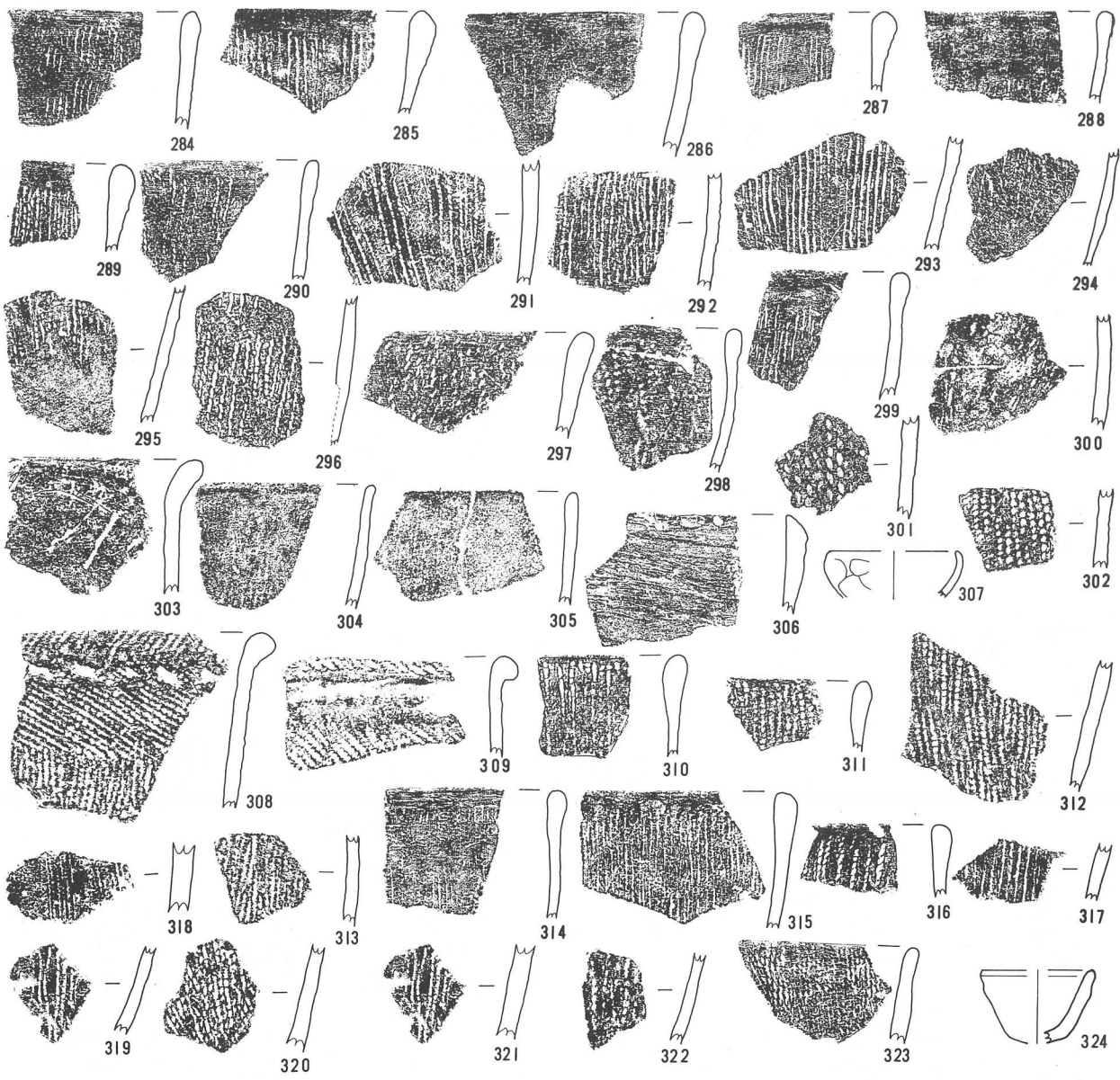
第13图 遺物包含層出土遺物実測图(5)



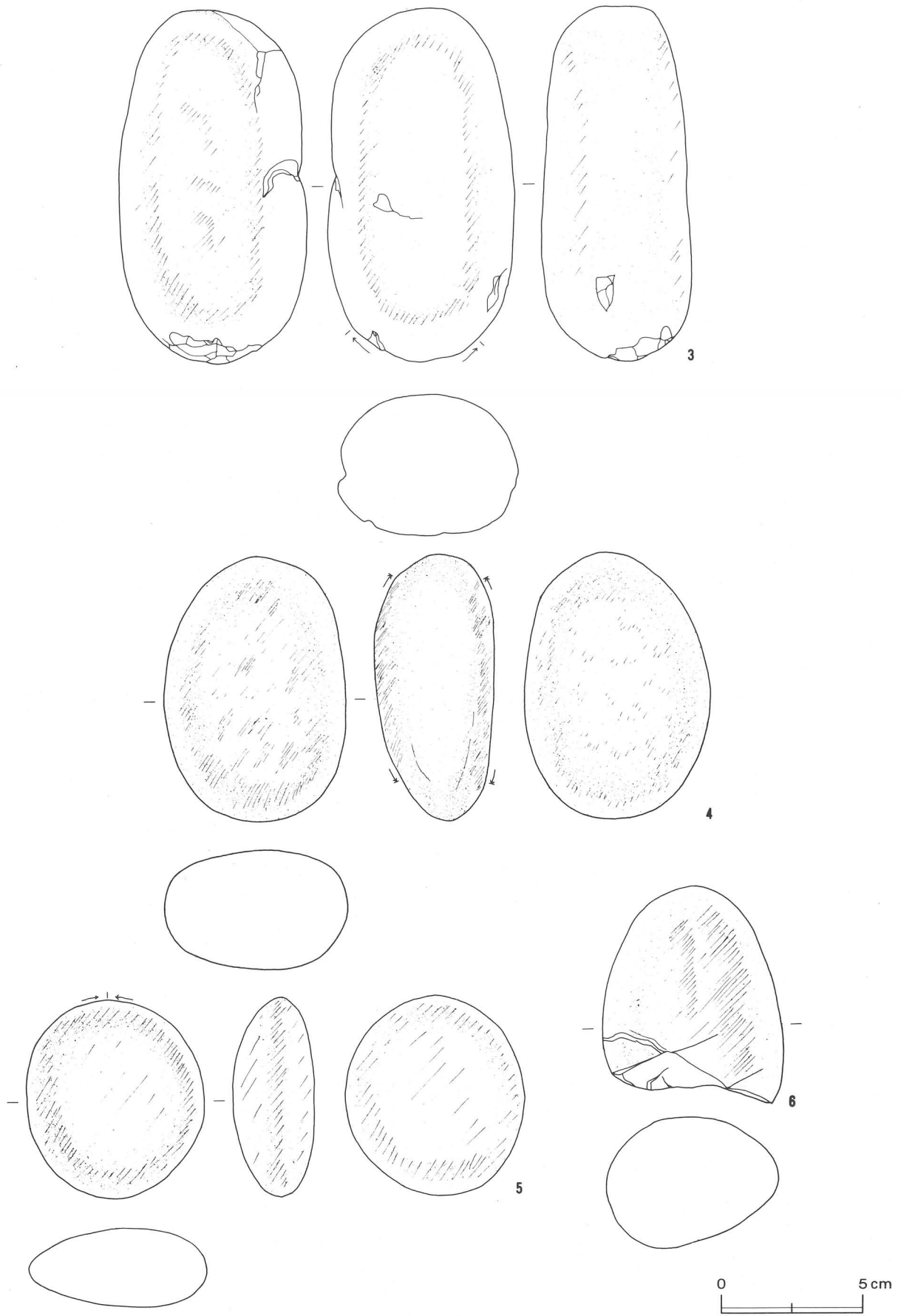
第14図 遺物包含層出土遺物実測図(6)



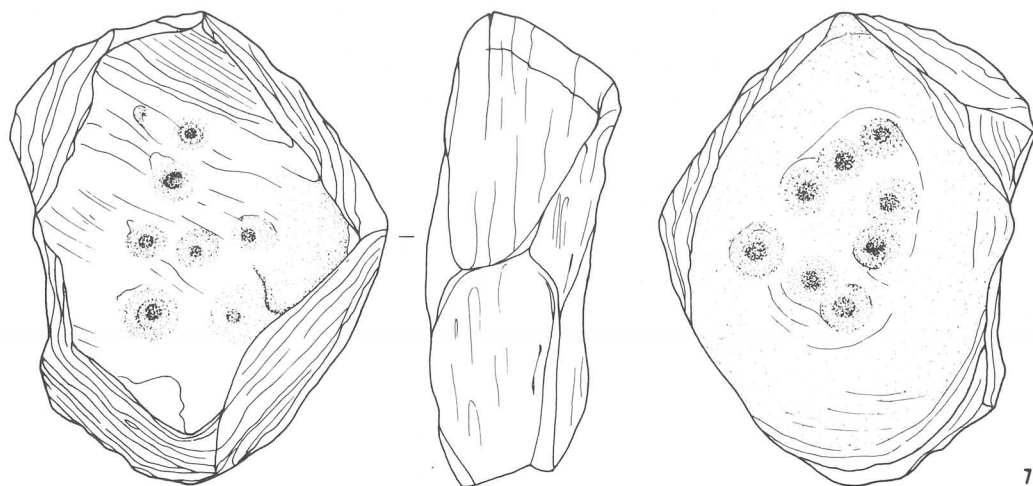
第15図 遺物包含層出土遺物実測図(7)



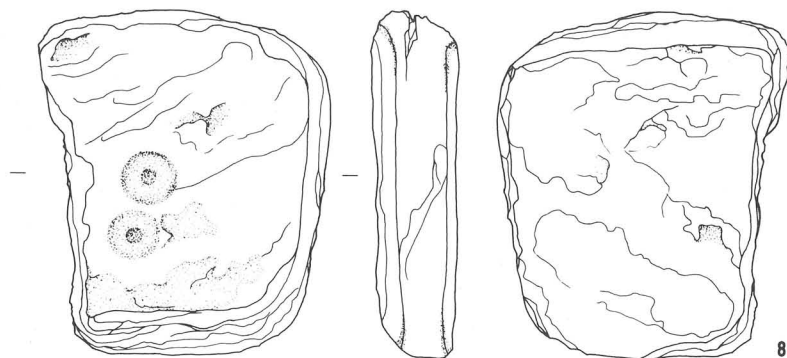
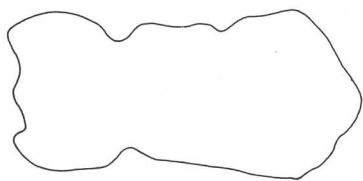
第16图 遺物包含層出土遺物実測図(8)



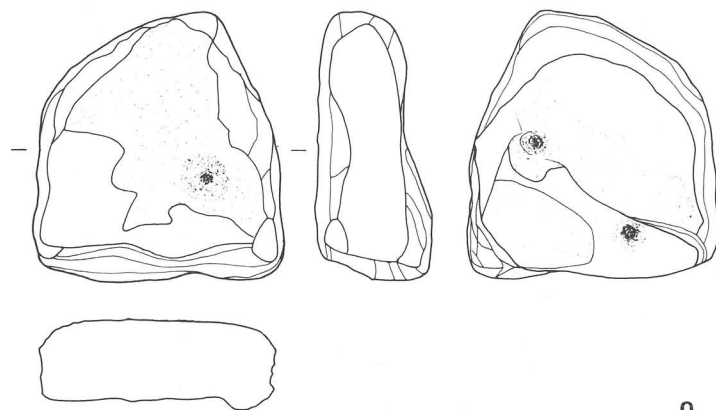
第17図 遺物包含層出土遺物実測図(9)



7



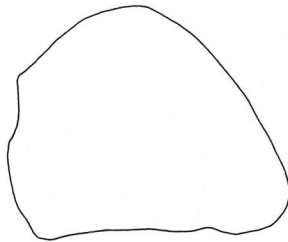
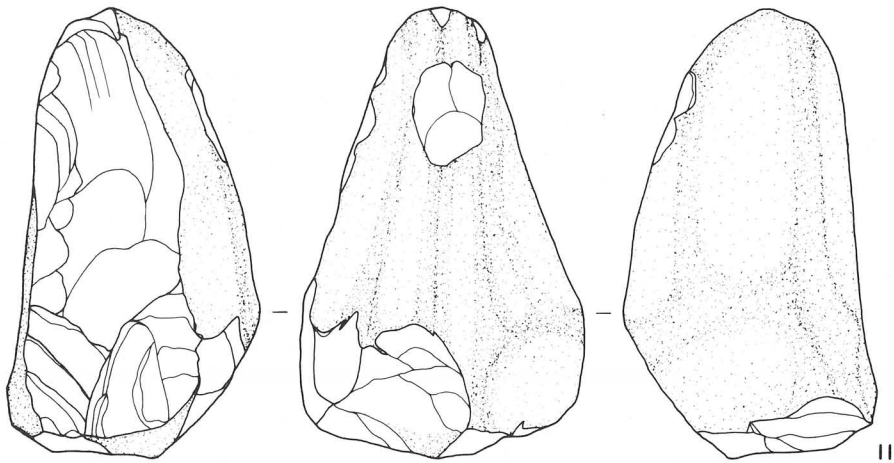
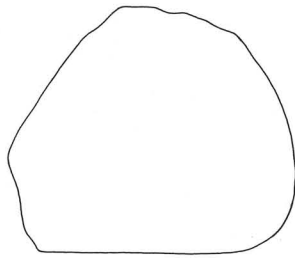
8



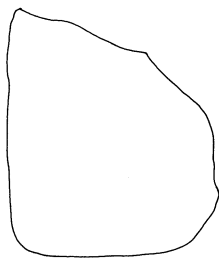
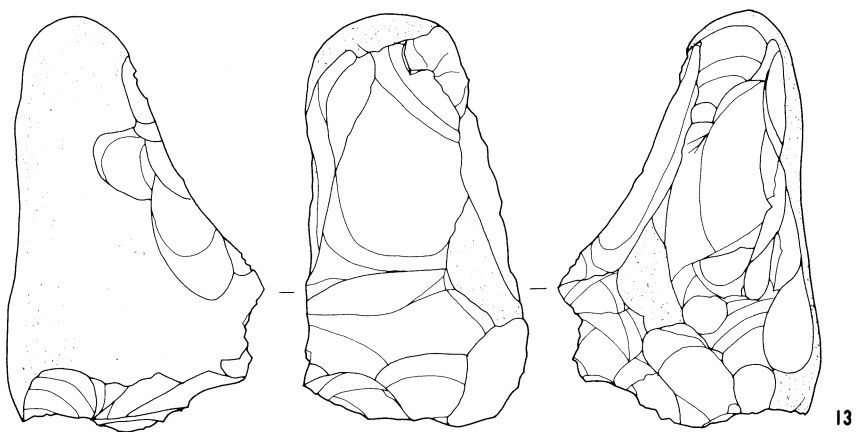
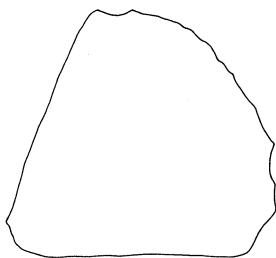
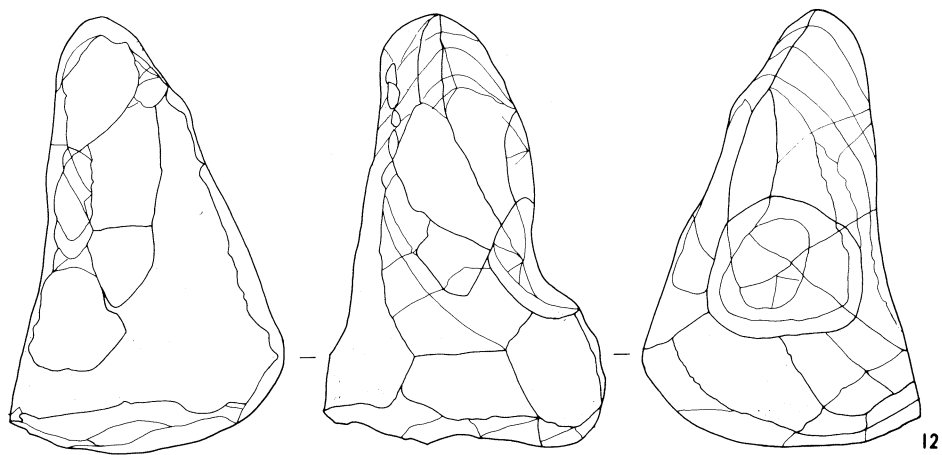
9



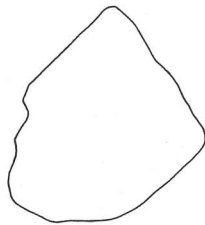
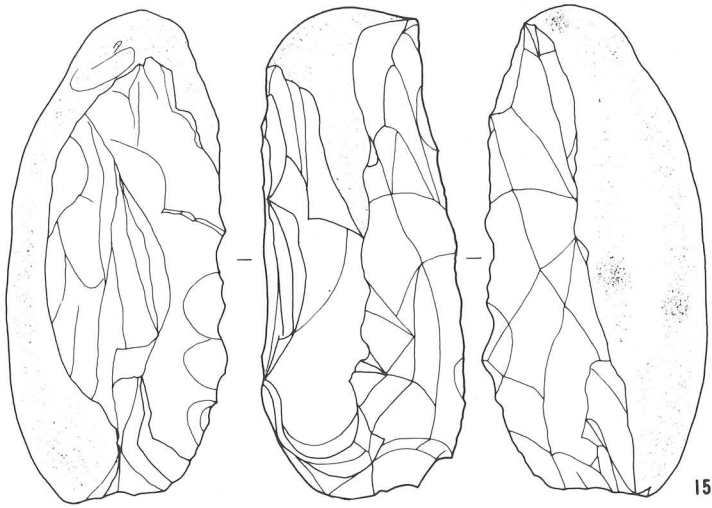
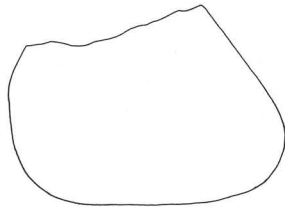
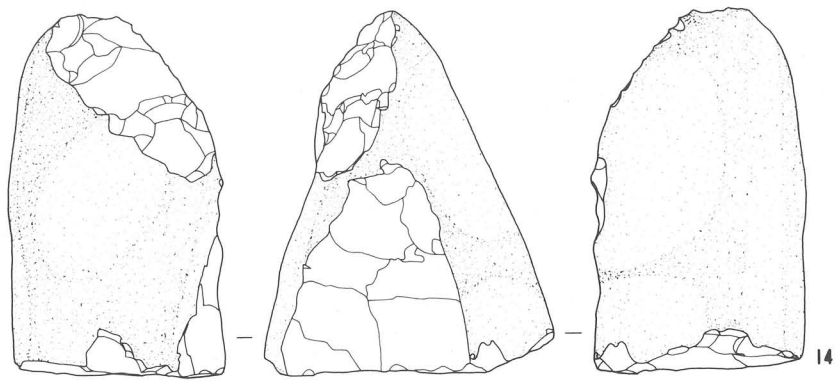
第18図 遺物包含層出土遺物実測図(10)



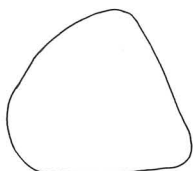
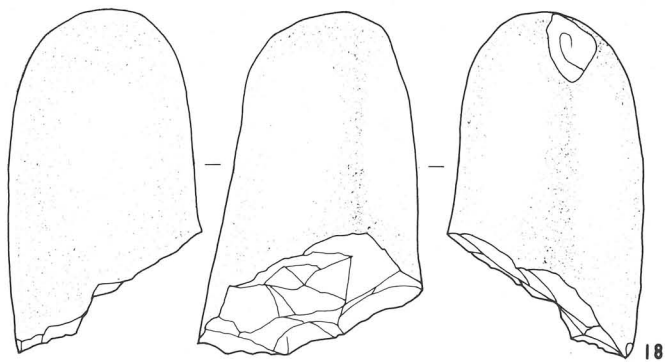
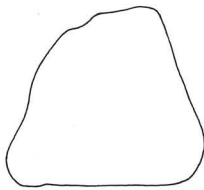
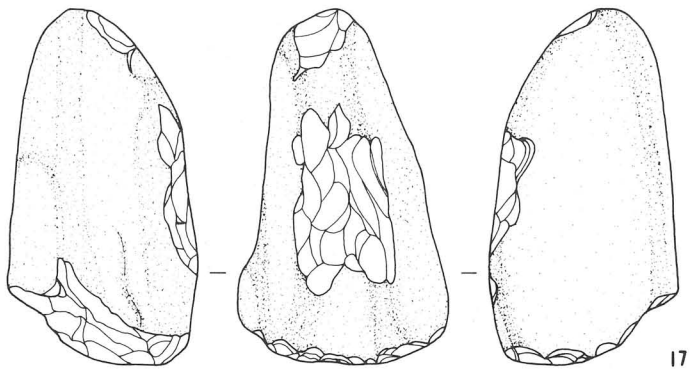
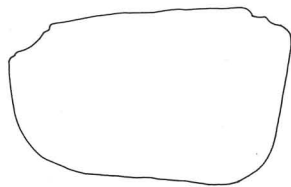
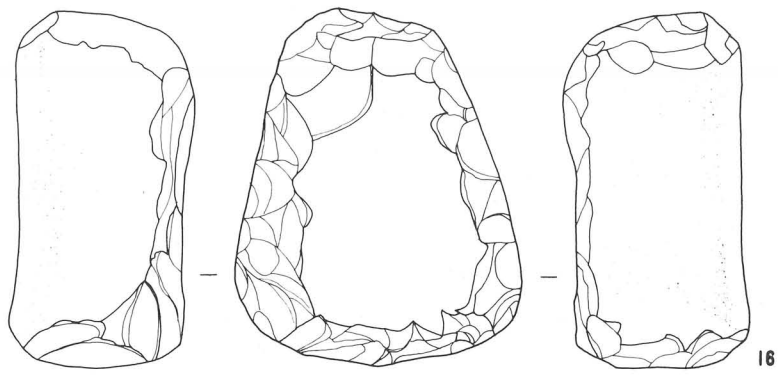
第19図 遺物包含層出土遺物実測図(11)



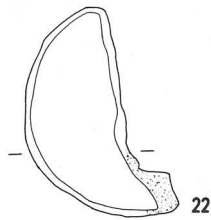
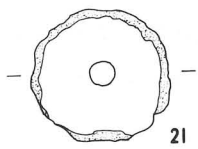
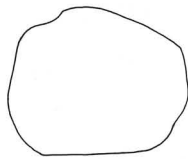
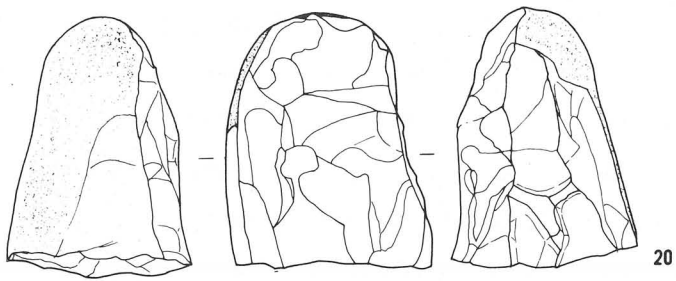
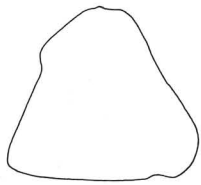
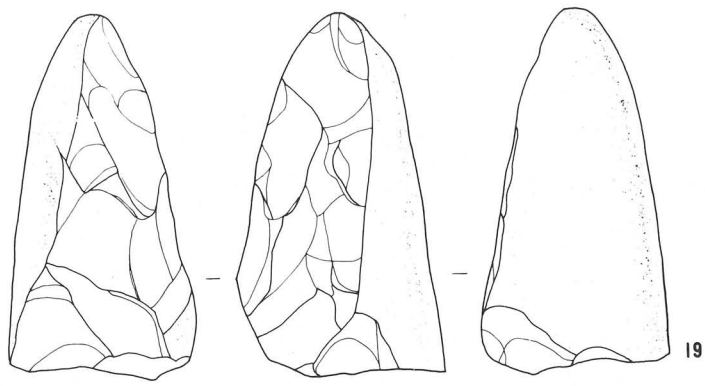
第20図 遺物包含層出土遺物実測図(12)



第21図 遺物包含層出土遺物実測図(13)



第22図 遺物包含層出土遺物実測図(14)



第23図 遺物包含層出土遺物実測図(15)

遺構外出土遺物

第1群 縄文時代早期の土器 (第24図1～35)

第1類 撚糸文系土器 (第24図1～14)

1～4は縄文が密に施されているものである。いずれも口縁部片で、口唇部は肥厚し外反して立ち上がる。口唇部外面から頸部に縄文が施されるが、3の口縁部は無文である。胎土は長石・石英粒を僅かに含み、焼成は普通である。5～7は口縁部直下から比較的密に縄文が施される口縁部片である。口唇部は肥厚するが、著しい外反はみられない。7の胎土には特に長石粒が多く含まれている。焼成は普通である。8～12には細い撚糸文が比較的疎に施されている。8・9は口縁部片で、口縁部に無文帯をもち、頸部以下に撚糸文を縦走させている。8・9の焼成は良好である。13・14はための撚糸文が疎に施されている。胎土は砂粒を多く含み、焼成は普通である。

第2類 無文土器 (第24図15)

15は口縁部片で、口唇部は僅かに肥厚し、ほぼ垂直に立ち上がる。頸部には指によると思われるナデが施されている。胎土は長石・石英粒を含み、焼成は普通である。第1群第1類土器に伴うものと考えられる。

第3類 貝殻沈線文系土器 (第24図16～37)

16は口縁部片で口唇部には斜行するキザミ目をもち、沈線下に斜格子目文が施されている。17～19は胴部片である。17・18は沈線間に連続刺突文が17には1段、18には2段施されている。17の刺突には貝殻が用いられている。19には斜格子目文が施され、内面は平滑に整形されている。16～19の胎土は長石・石英粒を含み、焼成は17が良好、その他は普通である。20～24は口縁部片である。20は外反気味に立ち上がり、口唇部及び外面には斜行する沈線文が施されている。20も21と同様の文様構成をとるが、沈線間に斜めの刺突文が施されている。20・21とも胎土に長石粒・スコリアを僅かに含み、焼成は良好である。22はほぼ垂直に立ち上がり、外面には横走及び斜行する沈線文が施されている。胎土は長石・石英粒及び雲母片を含み、焼成は普通である。23・24は内削ぎ状の口唇部で、23の外面には擦痕が残る。24は口縁部直下から横位に太沈線が施されている。23・24とも、胎土は砂粒を多く含み、焼成は普通である。25～33は胴部片である。25・26は沈線文による区画内に連続刺突文が施されている。いずれも胎土に長石粒・スコリアを僅かに含み、焼成は良好である。27・28は胎土及び文様構成から同一個体と思われる。横走する沈線間にヘラ状工具による刺突文が施されている。胎土は長石・砂粒を多く含み、焼成は不良である。29・30は27・28とは別個体ではあるが、同一の文様構成をとる。焼成は普通である。31は長さ3～4cm単位の太沈線が横位に、32は比較的細めの沈線が横位に、33は横位に細めの沈線、縦位に太沈線が施されている。31～33の胎土は長石粒・スコリアを含み、焼成は良好である。34は尖底部に近い破片で、太沈線が斜位に施されている。胎土及び焼成は31～33と同様である。35は斜行、横走する沈線間にキザミ目が施されている。36・37は尖底部片で、37は小形の土器と思われる。胎土は長石・石英粒を多く含み、焼成は普通である。

第2群 縄文時代前期の土器 (第24～27図38～148)

第1類 羽状縄文系土器 (第24～25図38～63)

本類は胎土に繊維を多く含んでいる。38～42は口縁部片である。38・39は、口縁部直下から単節縄文が羽状に施されている。40は波状口縁で、口縁部に沿って横走する爪形文が3段施され、その下に細い単節縄文が斜行している。41・42は無文で、41の口唇部には小突起がみられる。43・44は胴部片で、43には太い縄文が、44にはループ文下に単節縄文がそれぞれ羽状に施されている。45～51の口縁部片には、隆帯やボタン状の突起が貼り付けられている。45・46は同一個体で口縁部直下に幅5～7mmの隆帯が丸く貼り付けられている。口唇部

及び隆帯上には同一工具によるキザミ目が施されている。47～50は内削ぎ状の口唇部で、口縁部にキザミ目をもつ。沈線で区画された頸部には方向の異なる斜行沈線とキザミ目により文様が構成されている。口縁部及び頸部にはボタン状の突起が貼り付けられている。49・50は同一個体で、内面は平滑に整形されている。51は波状口縁で、47～50とほぼ同様の文様構成がとられ、ボタン状の突起は口唇部にも貼り付けられている。52は45・46と同一個体である。53～62は単節縄文、あるいは組紐文を地文とする口縁部片である。53～57は組紐文による地文上に、他の文様を施されているものである。53は櫛歯状の工具による沈線で弧状文、鋸歯状文が施されている。54は口縁部直下にコンパス文が施され、その下に半截竹管による沈線文が斜行している。55は54と別個体であるが、同じ文様が施されている。57は口縁部に櫛歯状の工具による沈線文が斜位に施され、頸部以下に組紐文が施されている。59は波状口縁で、ヘラ状工具による幅広の沈線文が施されている。56は単節縄文が羽状に施されている。58・60～62は口縁部直下から組紐文が施されている。60・62の口唇部は内削ぎ状をしている。63は底部片で、底部外面及び胴部下位に貝殻背圧痕文が充填されている。

第2類 竹管文系土器 (第25図64)

64は口縁部片で、口唇部は内削ぎ状をしている。キザミ目が施された横走及び斜行沈線の上に単節縄文が充填されている。胎土は砂粒を多く含み、焼成は普通である。

第3類 貝殻沈線文系土器 (第25～27図65～135)

65～67は波状口縁で、65は撚糸文を地文に弱い沈線文が、66は沈線文のみが施されている。67は口縁部に沿って斜位のキザミ目が施され、その下に半截竹管による沈線文が施されている。68は単口縁で沈線文が斜位に施されている。69～78は輪積文をもつものである。69～72は輪積文上に棒状工具による凹凸文が、73は指頭による凹凸文が施されている。69は口唇部に棒状工具の押圧によるキザミ目が、70は口縁部にヘラによるための沈線が縦位に施されている。74～77は輪積文上に沈線文を施すものである。74・75は格子目状に、76・77は斜位に施されている。78は口縁部直下に隆帯が貼り付けられ、その下から斜行する沈線文が施されている。79～81は口唇部に棒状工具による押圧がなされている。79は口縁部直下から細く鋭い沈線が横位、斜位に施されている。80・81は波状口縁で、胴部は無文である。82・83は口縁部直下に、82は半截竹管による沈線文が、83は交差する単沈線が施されている。84～87は櫛歯状の工具による沈線文が施されている。84・85は口縁部に縦位のキザミ目が施されている。88～93は半截竹管による沈線文が施されている。92・93以外は口唇部にキザミ目をもつ。93は折り返し口縁上に半截竹管によるキザミ目が施されている。94～98は刺突文が施されるもので、94・95は波状口縁である。94は口縁部に沿って細かい刺突がなされ、以下半截竹管による連続刺突文が羽状に施されている。95は口唇部にキザミ目をもつ。96は口唇部に半截竹管の刺突によるキザミ目をもつ。外面は横走する単沈線に沿って刺突文が施されている。97の口縁部は断面三角形で、斜位のキザミ目をもつ。口縁部直下から連続刺突文が横位に施されている。98は口縁部に半截竹管によるキザミをもち、外面に同一の工具によって連続刺突文を施している。蛇行する口唇部は貼り付けられたものである。99～116は貝殻文が施されている。99～101は外削ぎ状の口唇部に斜位のキザミ目をもち、口縁部直下から貝殻波状文が施されている。102は外反する口唇部にキザミ目をもち、外面は貝殻波状文を地文とし、横走する沈線文が施されている。103は口縁部に短いキザミ目をもち、口縁部直下から貝殻波状文が密に施されている。104～107は口縁部に半截竹管によるキザミ目をもち、貝殻波状文が粗く施されているものである。108は口唇部に棒状工具の刺突によるキザミ目をもち、口縁部直下から貝殻波状文が施されている。109は外反する幅広の口縁部に貝殻波状文が施されている。110は口縁部に隆帯をもち、その下から貝殻波状文が施されている。111・112は口唇部に棒状工具の押圧が加えられている。口縁部には半截竹管によるキザミ目をもち、その下に凹凸文と貝殻腹縁文が施されている。

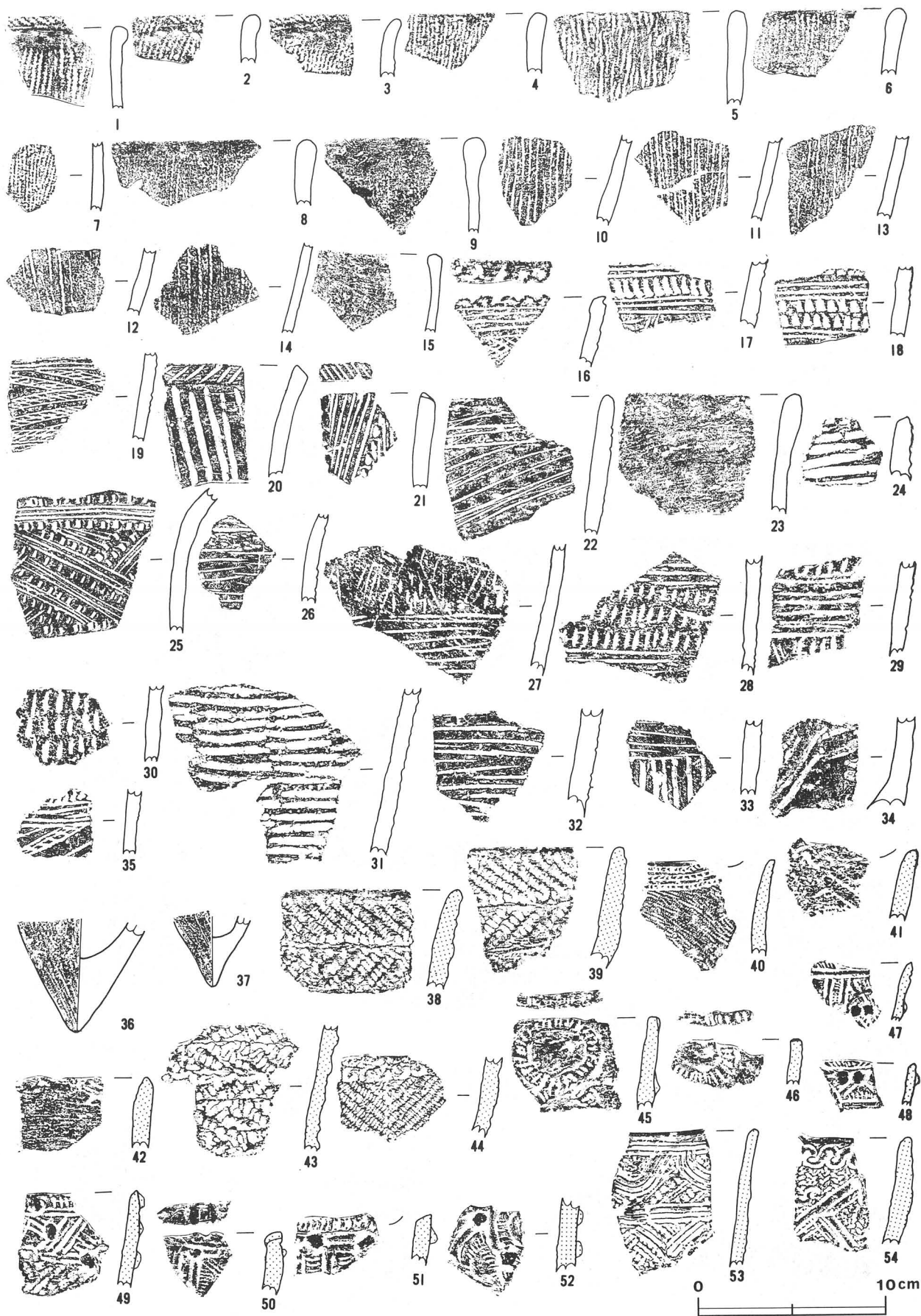
113は口縁部に軽いキザミ目をもち、外面は充填された貝殻波状文上に平行沈線文が施されている。114は口縁部に細かいキザミ目をもち、平行沈線で区画された文様帯に貝殻腹縁文が充填されている。115は口縁部直下から貝殻波状文が施されている。116の口縁部には半截竹管によるキザミ目が密に施され、その下には平行沈線文を挟んで2段の凹凸文が施されている。117～123は貝殻波状文が、124・125は貝殻波状文と沈線文が施されている。126は沈線文と変形爪形文が、127には三角文が、128には連続刺突文が施されている。129は貝殻腹縁文が密に施されている。130は貝殻腹縁文を地文とし、曲線的な沈線で区画されている。沈線外は磨り消しが施されている。131は底部片で、胴部最下位まで変形爪形文が施されている。132は縁孔土器である。口径は約8.3cmで口縁部下には径4mm程の孔が約2cm間隔に穿たれている。133～135は底部片である。133は130同様、貝殻腹縁文を地文とし、細く鋭い沈線文が曲線的に施されている。134は無文で、縦位の磨きが施されている。135には条線文が密に施されている。本類の胎土はスコリア・長石を含み、焼成は全体的に良好である。

第4類 縄文原体圧痕文及び結節文が施されている土器（第27図136～156・158）

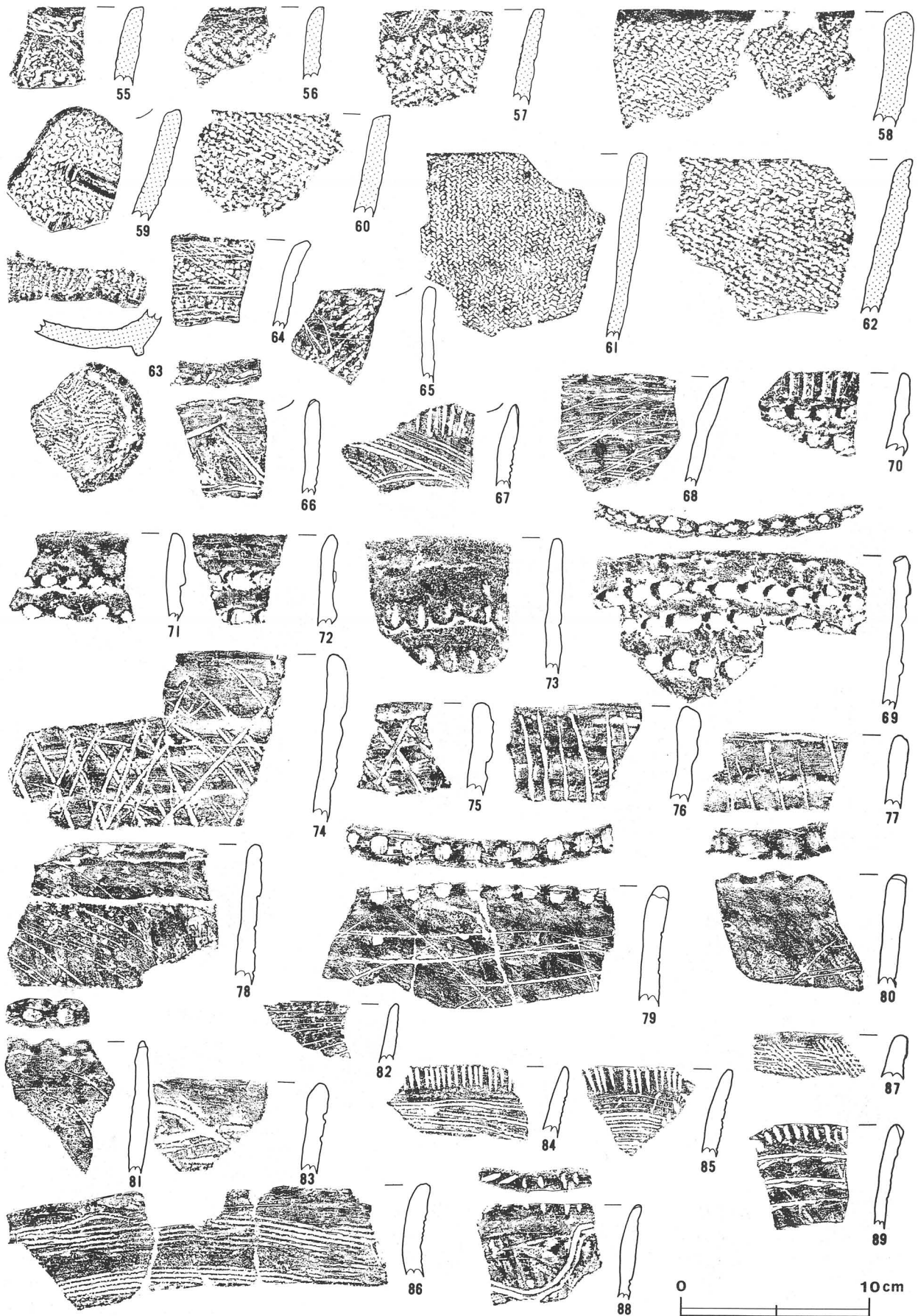
131～143は口唇部及び胴部外面に単節縄文が施されている口縁部片である。144～148は輪積文をもち、単節縄文が施されている口縁部片である。144・145には口唇部にも縄文が施されている。144には補修孔が穿たれている。149～152は口縁部に沿って縄文原体圧痕文が施されている。149は波状口縁である。150・151は同一個体で、口唇部には棒状工具によるキザミ目をもつ。152には口唇部にも単節縄文圧痕文が施されている。153～156は結節文が施されているものである。153は折り返し口縁下に2条の横走る結節文が施され、その下に細い単沈線による鋸歯状文が施されている。154も折り返し口縁で、口縁部に1条の結節文を横走させている。口唇部には縄文原体の押圧によるキザミ目が施されている。155は口縁部直下に1条の結節文が施されている。156は胴部片である。158は薄い隆帯を貼り付け、隆帯上に刺突文が施されている。158を除き、胎土は長石粒・砂粒を含み、焼成は良好である。158の胎土はパミス粒を含み、焼成は普通である。158は本来、本類に含まれるべきものではないが、在地の土器とは異なる縄文時代前期後葉のものと考え、ここに掲載した。

第3群土器 縄文時代中期初頭の土器（第27図157）

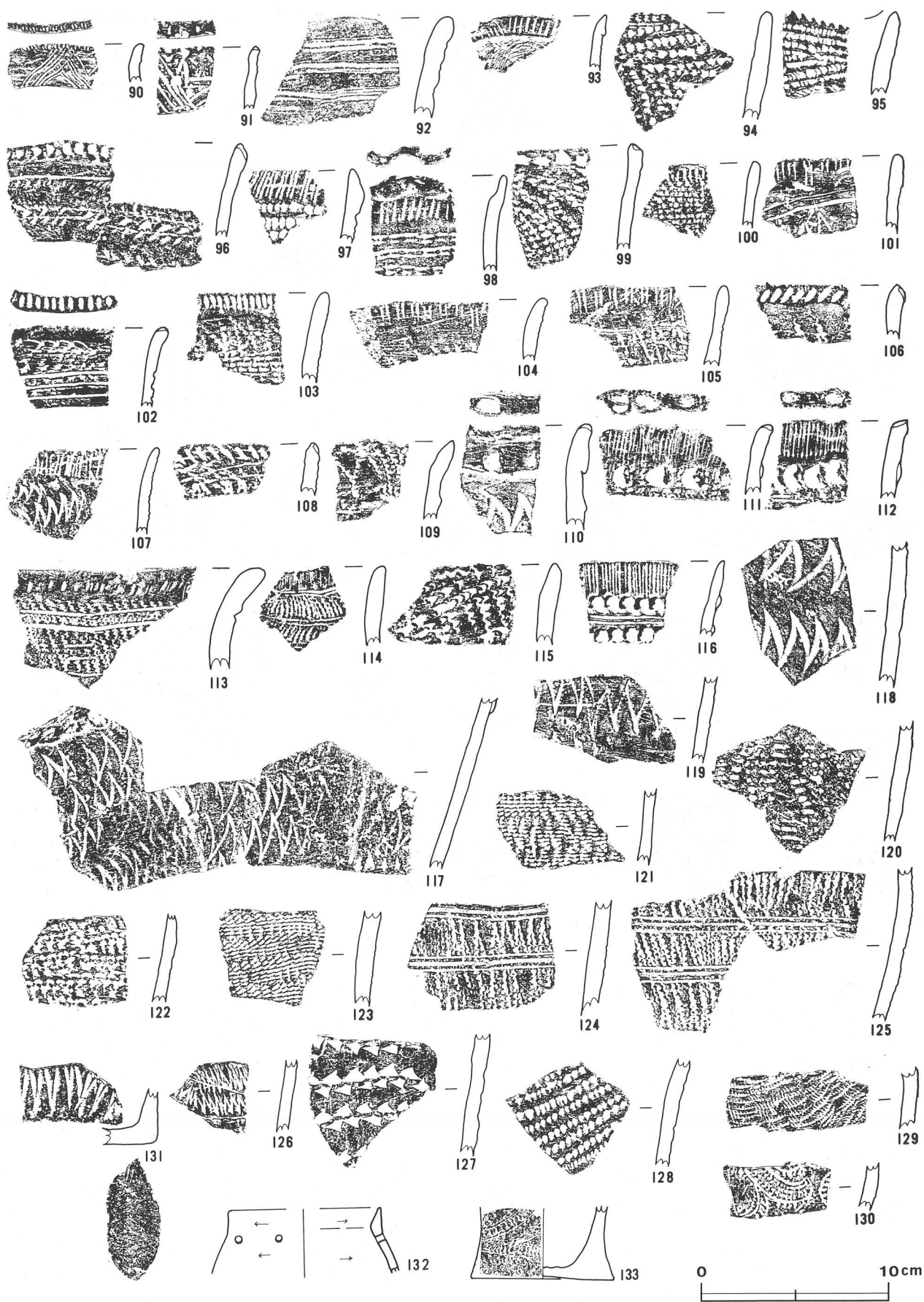
157は波状口縁部片である。口縁部には縦位のキザミ目をもつ。文様は交互刺突による鋸歯状文と連続刺突文によって構成され、頸部には細い隆帯が貼り付けられている。内面は平滑に整形されている。胎土は長石・石英粒及び雲母片を含み、焼成は普通である。



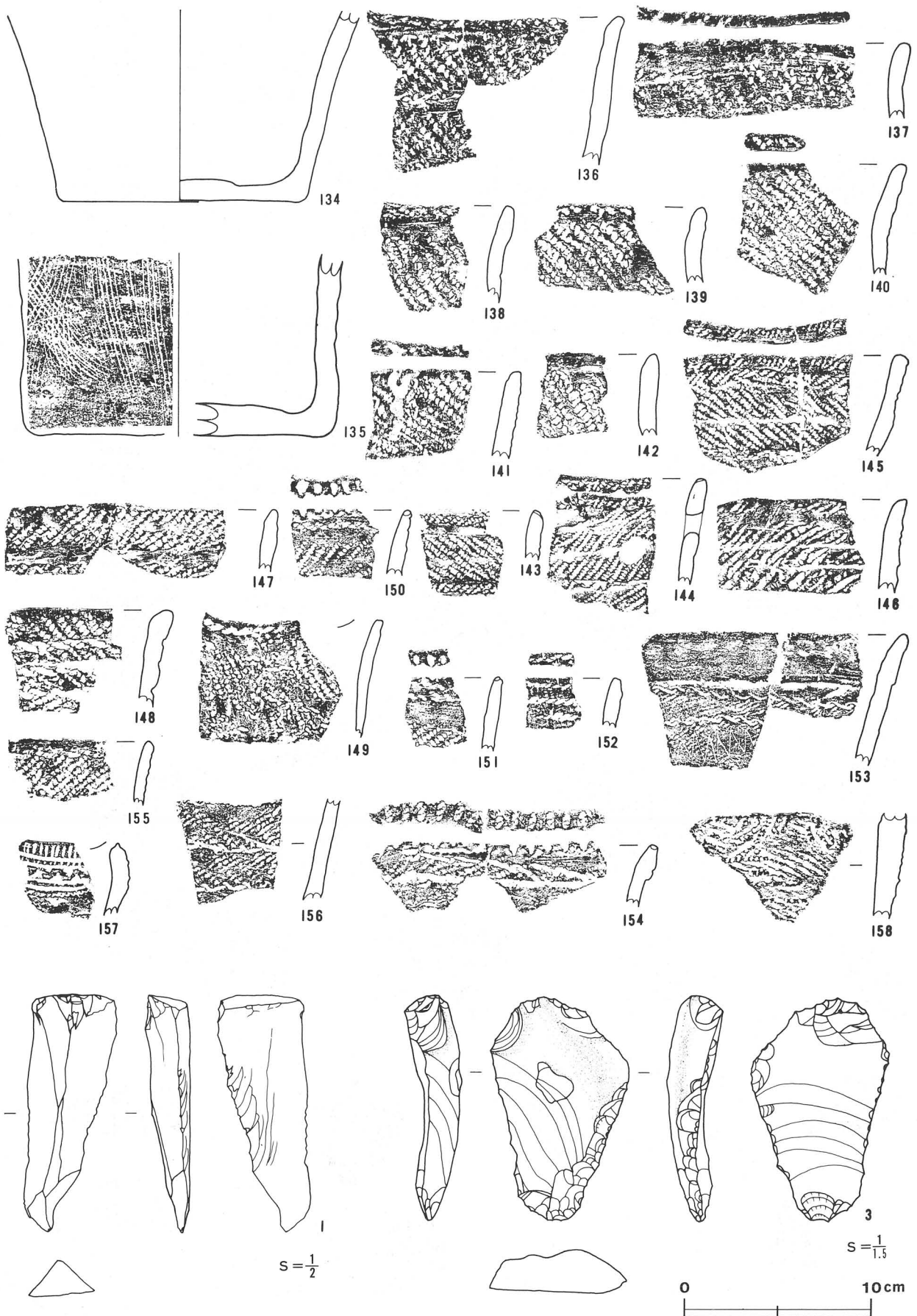
第24図 遺構外出土遺物実測図(1)



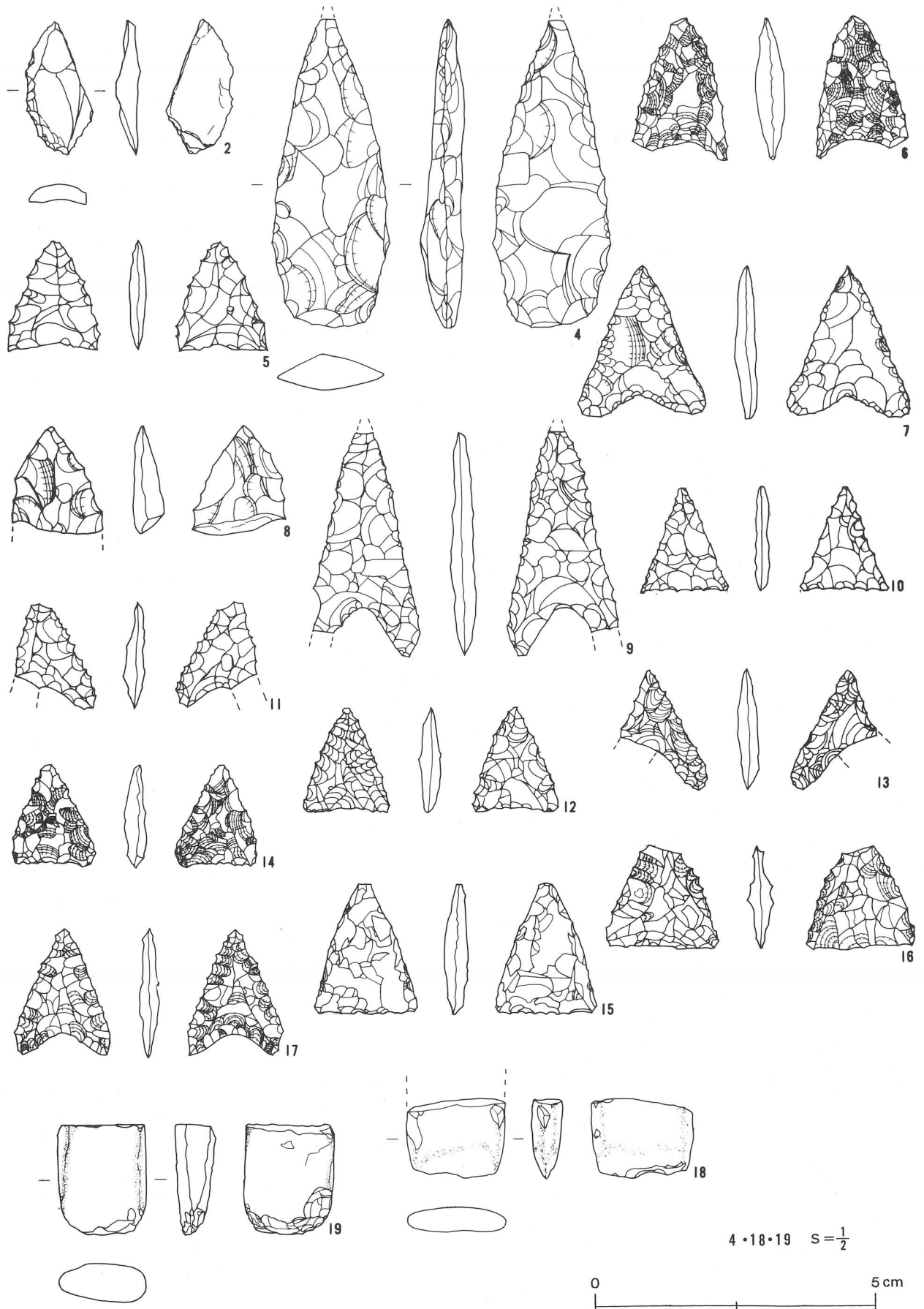
第25図 遺構外出土遺物実測図(2)



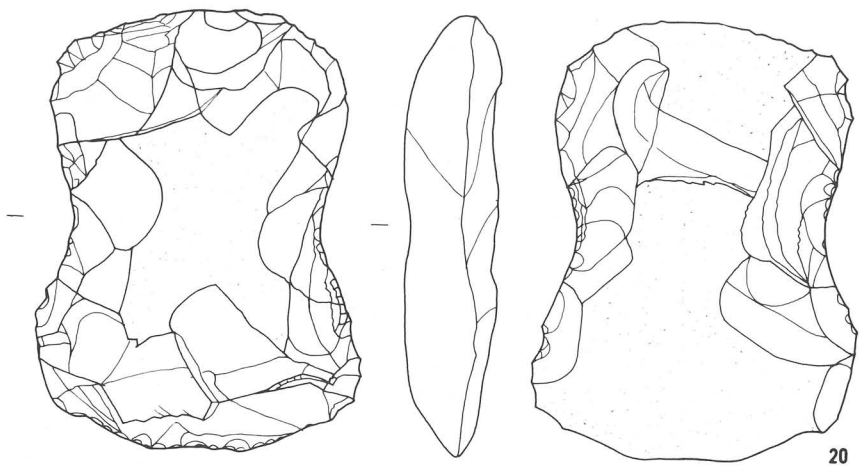
第26图 遺構外出土遺物実測図(3)



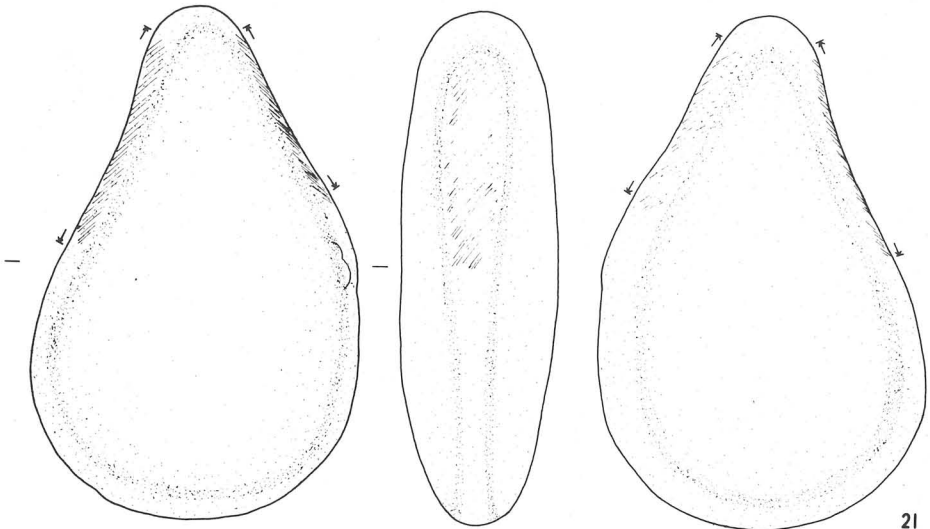
第27図 遺構外出土遺物実測図(4)



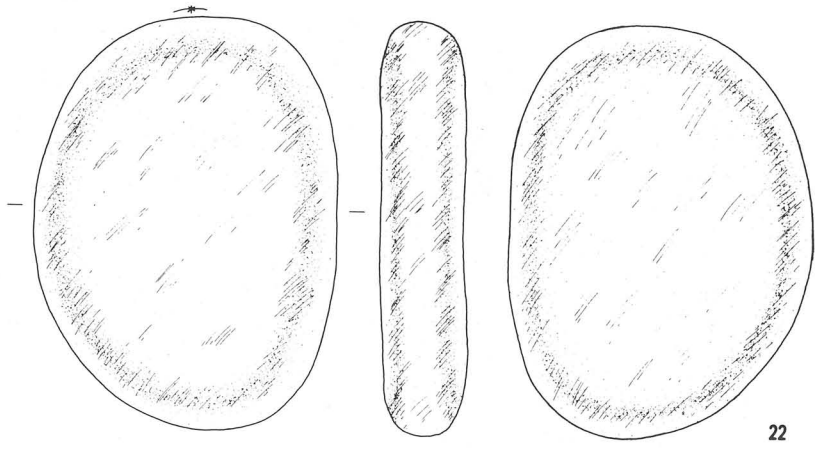
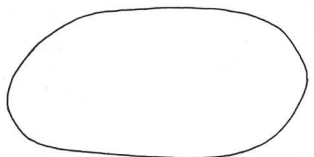
第28図 遺構外出土遺物実測図(5)



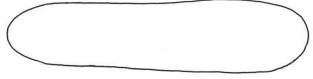
20



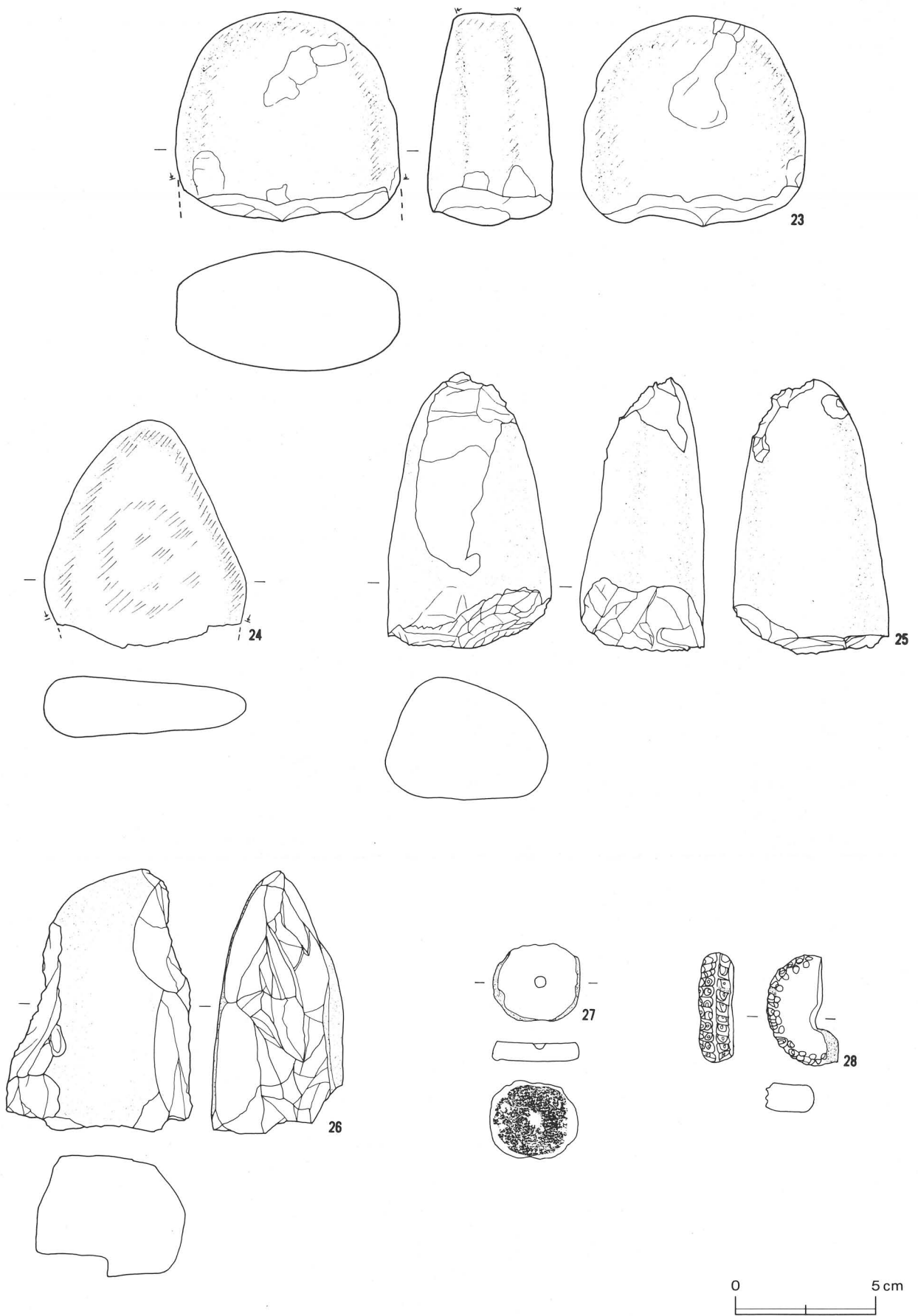
21



22



第29図 遺構外出土遺物実測図(6)



第30図 遺構外出土遺物実測図(7)

遺構外出土遺物観察表

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第27~30図 1	剥 片	8.5	3.3	1.6	32.5	E 9 区	Q202 安山岩 P L79
2	ナイフ形石器	3.6	1.8	0.5	3.0	表 採	Q204 100% 頁岩 P L79
3	ナイフ形石器	6.1	3.7	1.4	24.1	E 9 区	Q201 100% 頁岩 P L79
4	尖 頭 器	(11.2)	4.2	1.7	55.8	SI-17覆土	Q212 95% 流紋岩 P L79
5	石 鏃	2.0	1.6	0.3	0.8	確 認 面	Q183 100% チャート P L79
6	石 鏃	2.6	1.7	0.5	1.5	表 採	Q184 95% 黒曜石 P L79
7	石 鏃	2.8	2.3	0.5	1.3	表 採	Q185 100% チャート P L79
8	石 鏃	(1.9)	1.7	0.5	1.5	D 10 区	Q189 50% チャート P L79
9	石 鏃	4.1	2.0	0.5	2.3	表 採	Q186 95% チャート P L79
10	石 鏃	1.9	1.6	0.3	0.7	表 採	Q187 100% チャート P L79
11	石 鏃	1.9	1.5	0.4	0.6	E 10 区	Q188 90% 安山岩
12	石 鏃	1.9	1.6	0.4	0.7	SI- 1 覆土	Q210 100% チャート P L80
13	石 鏃	2.2	(1.6)	0.4	0.6	SI- 4 覆土	Q211 60% 黒曜石 P L80
14	石 鏃	1.9	1.5	0.4	0.8	B 10 区	Q213 100% 黒曜石 P L80
15	石 鏃	2.4	1.8	0.5	1.6	B 0 区	Q214 100% チャート
16	石 鏃	(1.9)	2.0	0.4	1.3	C 10 区	Q215 90% チャート
17	石 鏃	2.3	1.8	0.4	0.8	D 10 区	Q216 100% メノウ P L80
18	磨 製 石 斧	(2.9)	(3.6)	(1.1)	15.1	D 9 区	Q200 安山岩 P L80
19	打 製 石 斧	(4.0)	3.2	1.4	27.8	表 採	Q208 ホルンフェルス P L80
20	打 製 石 斧	11.7	8.4	2.2	316.2	表 採	Q198 100% 安山岩 P L80
21	磨 石	13.6	8.5	4.0	629.9	E 9 区	Q190 安山岩
22	磨 石	10.9	7.9	2.4	291.1	D 10 区	Q191 安山岩
23	磨 石	(7.7)	8.0	4.5	362.5	D 10 区	Q194 安山岩
24	磨 石	(8.2)	7.2	2.1	181.2	B 10 区	Q195 安山岩
25	スタンプ形石器	9.9	5.9	4.4	320.0	D 10 区	Q196 100% 安山岩 P L80
26	スタンプ形石器	9.4	6.6	4.6	346.7	表 採	Q218 100% 安山岩 P L80
27	土 製 円 板	3.2	2.8	0.7	8.1	C 10 区	孔径 4.0mm DP41 100% P L71
28	塊状耳飾り	4.0	(2.7)	1.1	21.3	表 採	外面赤彩 DP37 50% 土製 P L71

2 古墳時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

当遺跡から確認された古墳時代の竪穴住居跡は69軒で、調査区中央部の平坦部に集中して確認されている。これら住居跡の中には、規模も大型なものから小型なもの、さらには内部施設の有無等、様々な差異がみられ、必ずしもすべてが住居跡とはとらえにくく、居住以外の別の目的・用途をもった建物跡と考えられるものも含まれている。ここではそれらの建物跡も一括して竪穴住居跡として取り上げ、その特徴や主な出土遺物について記載していくことにする。

第1号住居跡（第31図）

位置 2区南西部，E8i₃区。

規模と平面形 長軸7.70m，短軸7.46mの方形である。

主軸方向 N-44°-W。

壁 壁高は14～32cmで、外傾して立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅11～24cm，下幅5～14cm，深さ5～10cmで、断面形は皿状をしている。

間仕切り溝 8条（a～h）。北東壁側に3条（a～c），南東壁側に1条（d），南西壁側に2条（e・f），北西壁側に2条（g・h）確認され、長さ1.04～1.70m，上幅15～28cm，下幅5～18cm，深さ6～14cmで、断面形は皿状をしている。

床 ほぼ平坦で、支柱穴の内側から北西壁際にかけて、特に硬く踏み固められている。北側から南側にかけては緩やかに傾斜している。南東壁から中央寄りには、貯蔵穴を囲むように、幅26～72cm，高さ6cm程の鈎の手状の高まりがみられ、出入口施設と考えられる。

ピット 6か所（P₁～P₆）。P₁～P₄・P₆は、径50～56cm，深さ58～84cmである。P₁～P₄は支柱穴，P₆は位置的に支柱穴に関連するピットと考えられる。P₅は、径34cm，深さ20cmで性格は不明である。

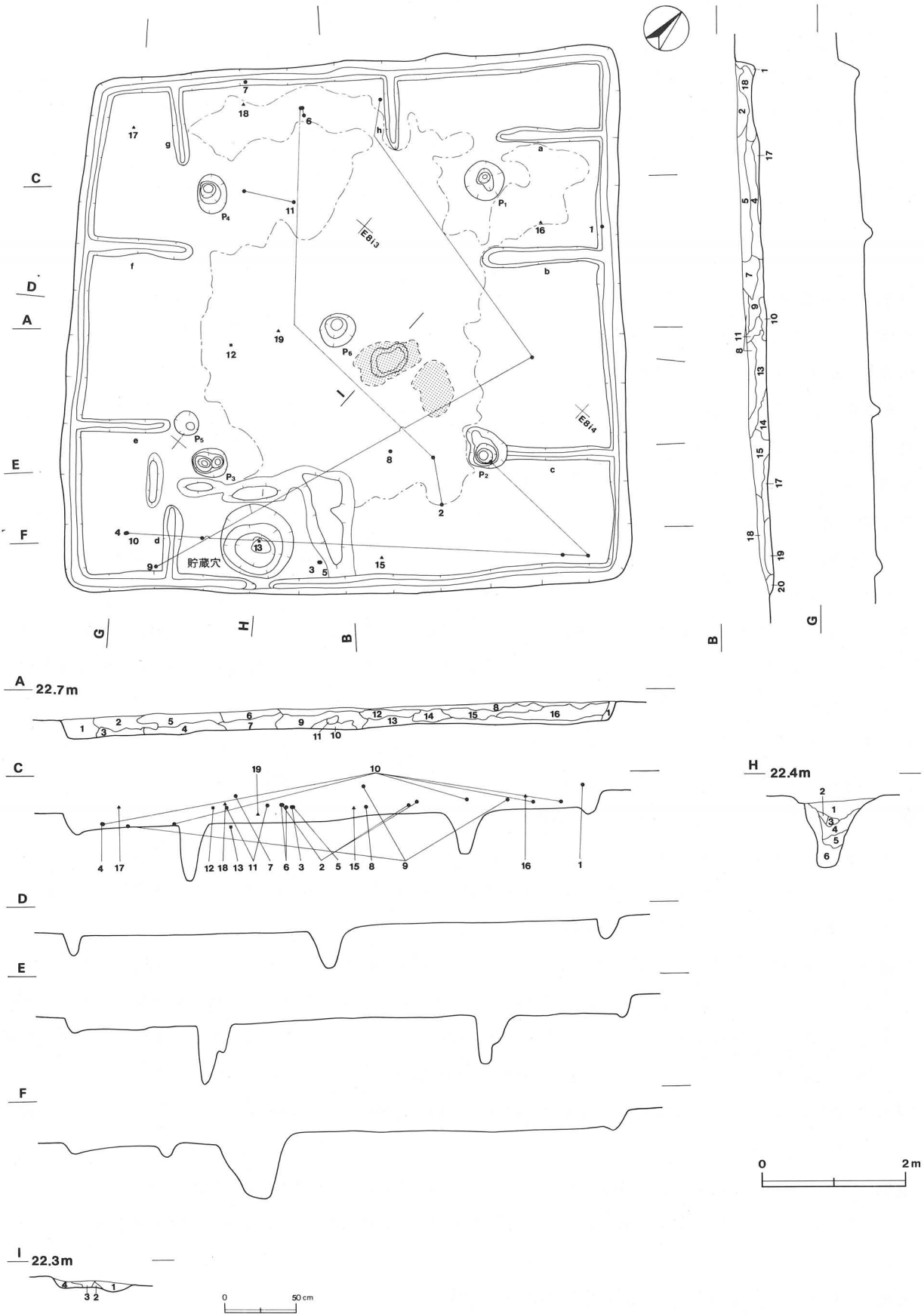
炉 ほぼ中央部にあり、長径58cm，短径42cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。覆土は4層からなり、第1層は焼土粒子を多量と焼土小ブロックを少量含む赤褐色土，第2層は焼土粒子を少量含む褐色土，第3層は焼土大ブロックを多量含む赤褐色土，第4層は焼土粒子を微量と焼土小ブロックを少量含む明褐色土である。炉床は凸凹で、火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南東壁から中央寄りに付設されている。径1.02mの円形で、深さ86cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は6層ですべて褐色土である。第1層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量，第2層はローム粒子及び粘土粒子を少量，第3層はローム粒子を少量，第4層は焼土粒子及び炭化粒子を微量，第5層はローム粒子及び焼土粒子を微量，第6層はローム粒子を微量含んでいる。

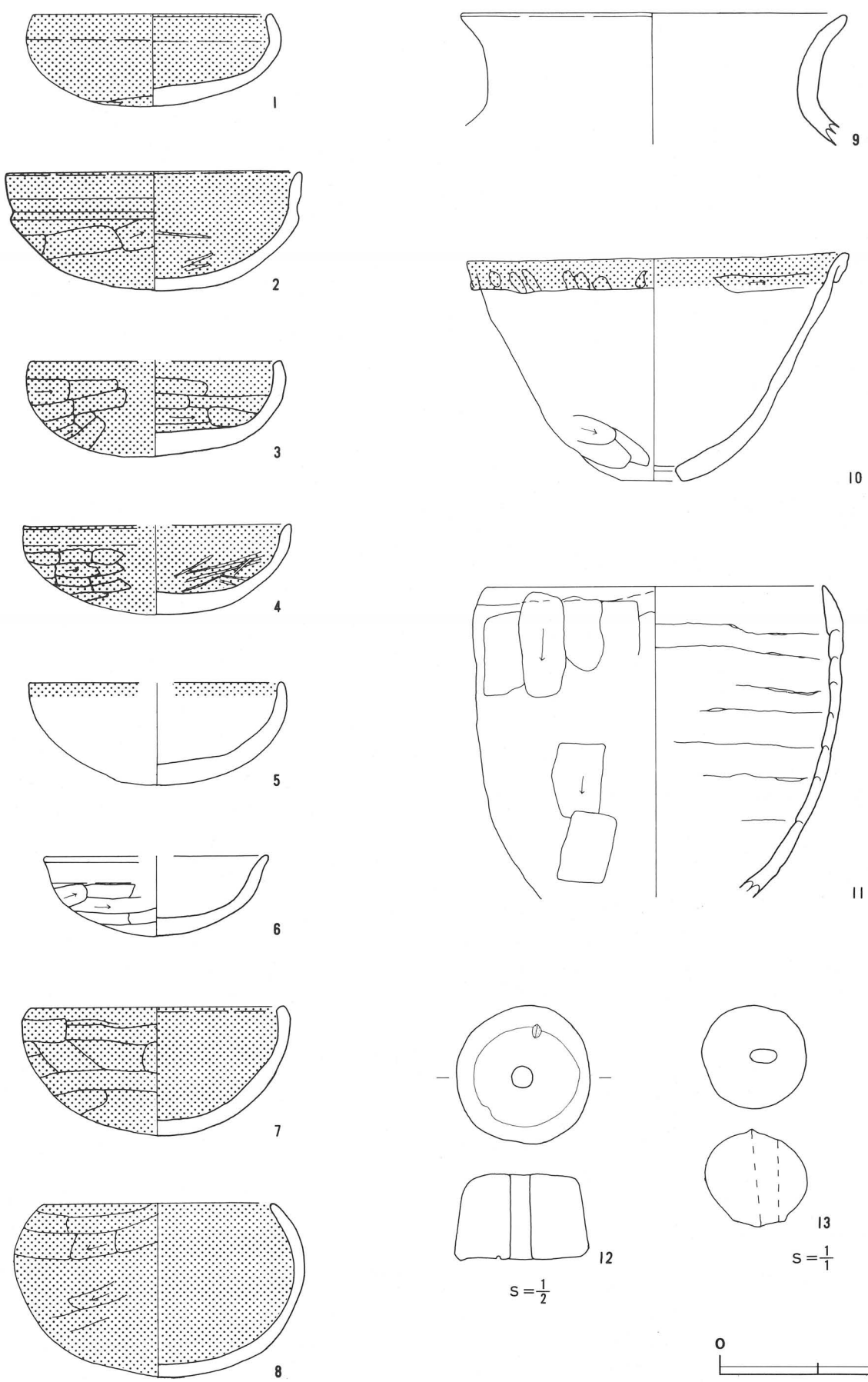
覆土 20層からなり、人為堆積である。中央部付近（第10～15層）は、暗褐色土ブロックをまばらに含む褐色土で細かく埋め戻されている。

遺物 覆土上層から下層にかけて多量に出土している。第32図10の土師器甑は南東壁側の覆土下層から、15の砥石は、南東中央壁際の覆土下層から正位の状態で出土している。13の小玉は貯蔵穴覆土第1層から出土している。

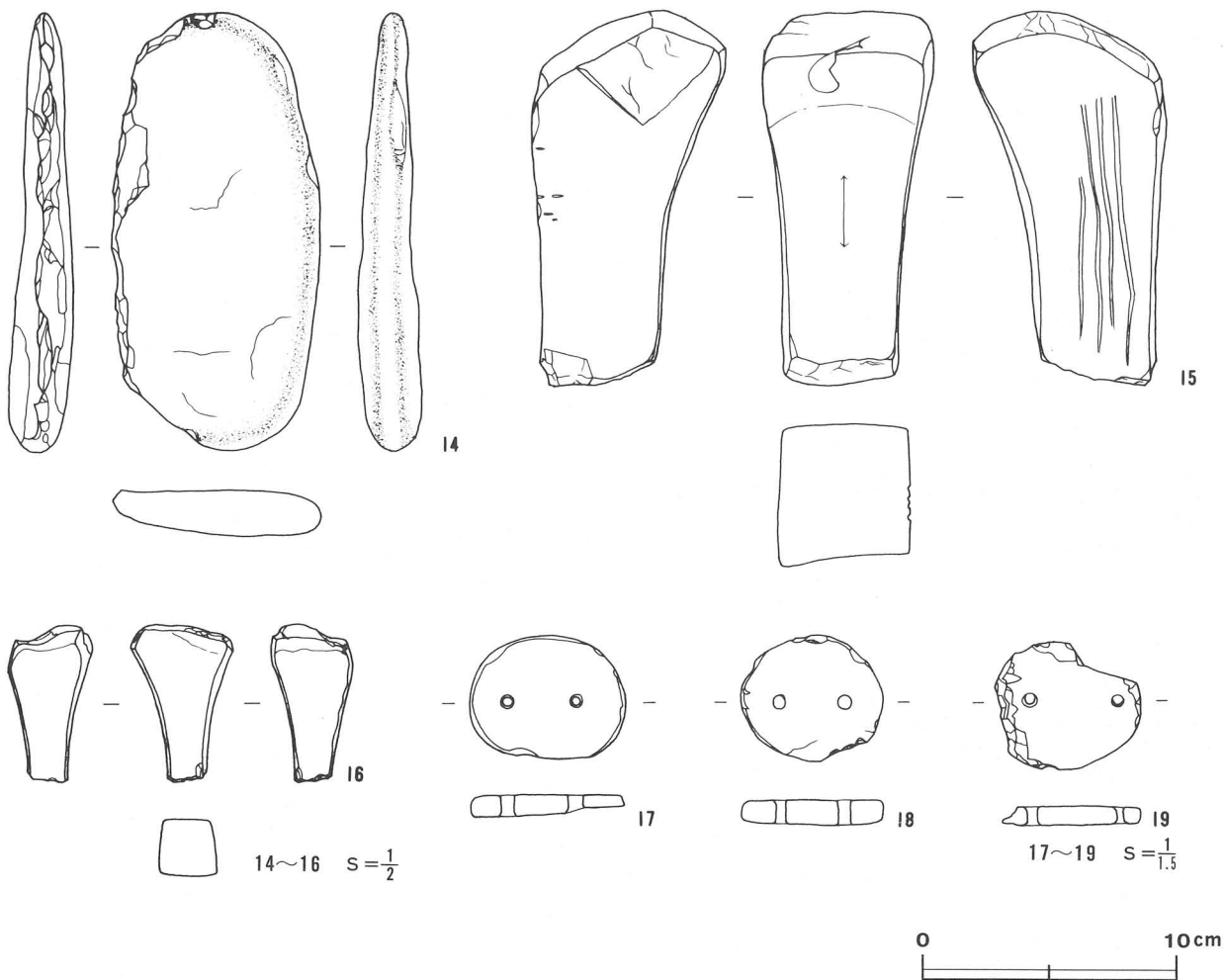
所見 本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。



第31图 第1号住居跡実測图



第32图 第1号住居跡出土遺物実測図(1)



第33図 第1号住居跡出土遺物実測図(2)

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第32・33図 1	坏 土師器	A 12.3 B 4.9	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P1 PL40 95% 覆土上層
2	坏 土師器	A 15.4 B 6.2	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は僅かに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面へら磨き。内・外面赤彩。	長石・スコリア・ 砂粒 赤褐色 普通	P2 PL40 70% 覆土上層
3	坏 土師器	A [13.0] B 5.0	底部から口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へら削り後、ナデ。内・外面赤彩。	長石・スコリア・ 砂粒 明赤褐色 普通	P3 60% 覆土上層
4	坏 土師器	A [13.6] B 4.5	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P4 60% 覆土下層
5	坏 土師器	A [13.2] B 5.4	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面赤彩。体部内・外面摩擦。	長石・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P5 PL40 70% 覆土上層
6	坏 土師器	A [11.6] B 4.3	底部から口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P6 55% 覆土上層
7	埴 土師器	A 13.1 B 6.7	丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P7 PL40 95% 覆土上層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
8	埴土師器	A 11.6 B 8.8	丸底で、体部から口縁部は大きく内彎して立ち上がる。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P8 PL40 95% 覆土中層
9	甕土師器	A 19.8 B (20.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・砂粒 灰褐色 普通	P9 PL40 30% 覆土中層
10	甕土師器	A 19.5 B 12.0 C 3.0	体部の一部欠損。無底式。体部から口縁部は外傾する。口縁部は外方向に折り返される。	口縁部外面に指頭痕。内面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ。口縁部内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P10 PL40 70% 覆土下層
11	鉢土師器	A 17.2 B (16.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ。	石英・砂粒 明赤褐色 普通	P11 PL40 70% 覆土上層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考			
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)					
12	紡錘車	3.0	4.8	3.0	73.2	覆土上層	孔径 8.0mm	DP1 100%	土製	PL69
13	小玉	1.8	1.8	1.8	4.4	貯蔵穴	孔径 4.5mm	DP2 100%	土製	PL68
14	不明石製品	11.8	5.5	1.6	152.8	床面	Q1 100%	角閃片石		PL70
15	砥石	(10.1)	4.5	5.0	(274.2)	覆土中層	Q2 70%	砂岩		PL70
16	砥石	(4.2)	2.7	2.1	(23.5)	覆土上層	Q3 50%	頁岩		PL70
17	双孔円板	3.1	2.5	0.5	(5.5)	覆土上層	孔径 2.5mm	Q4 95%	滑石	PL70
18	双孔円板	2.9	2.6	0.5	(5.4)	覆土上層	孔径 2.5mm	Q5 95%	滑石	PL70
19	双孔円板	(2.9)	2.6	0.4	(4.7)	覆土	孔径 2.5mm	Q6 70%	滑石	PL70

第2号住居跡(第34図)

位置 2区南西部, E8h₂区。

規模と平面形 長軸2.28m, 短軸2.06mで台形状をしている。

長軸方向 N-40°-E。

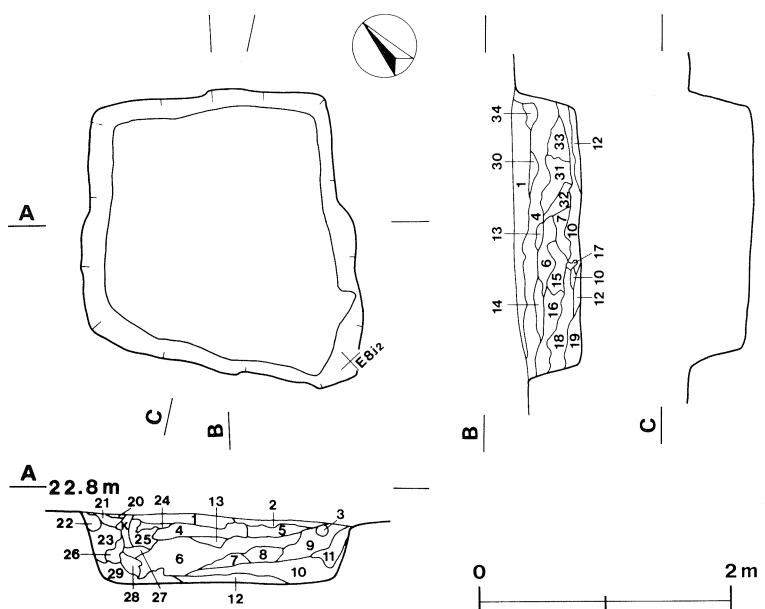
壁 壁高は46~50cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、特に踏み固められた部分はみられない。北西部分は僅かに窪んでいる。

覆土 34層からなり、第1・2層を除き人為堆積である。北西壁際は、ローム粒子やロームブロック混じりの褐色土、明褐色土を主体に、特に細かく埋め戻されている。

遺物 覆土中から、土師器の坏・甕片を中心に少量出土しているが、ほとんどが細片で接合されるものはない。

所見 出土した遺物は、本跡廃絶後、間もなく埋め戻された土とともに投げ込まれたものである。小形の建物跡で、内部施設を何もたないことから住居跡とは考えにくい。本跡は、出土遺物から古墳時代中期の建物跡と考えられる。



第34図 第2号住居跡実測図

第3号住居跡 (第35図)

位置 2区南西部, E7f₉区。

重複関係 本跡の中央部は, 第7号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.70m, 短軸3.46mの長方形である。

主軸方向 (N-22°-W)。

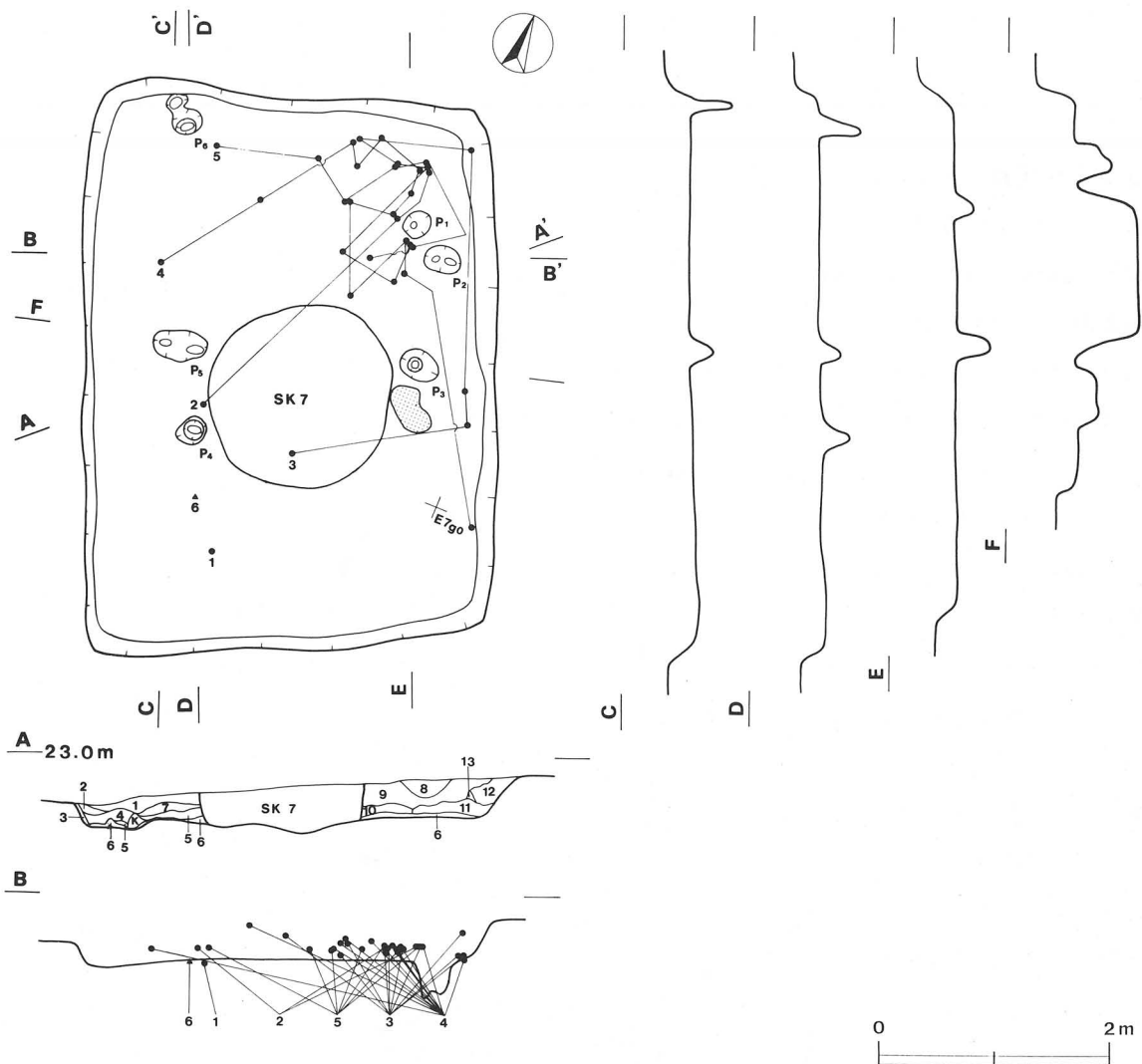
壁 壁高は16~34cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 全体的に踏み固められている。

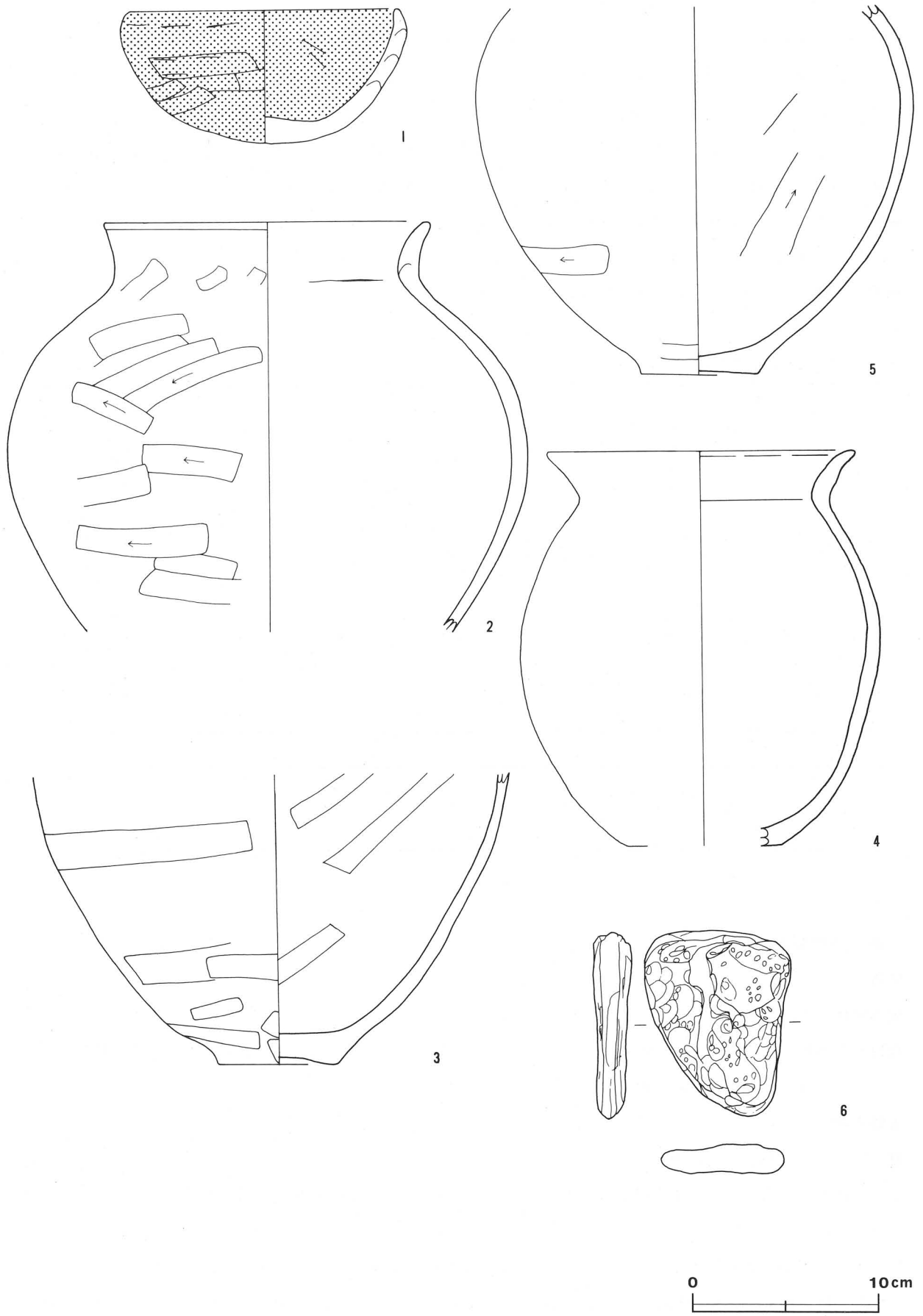
ピット 6か所 (P₁~P₆)。P₃・P₅は, 径34cm~48cm, 深さ20~30cmで支柱穴と考えられる。その他のピットは, 径25~30cm, 深さ18~44cmで性格は不明である。

炉 中央から北東寄りにあり, 長径43cm, 短径20cmの楕円形で, 炉床は掘り窪められておらず, 床面が赤変硬化している程度である。

覆土 13層からなり, 人為堆積である。覆土中央部は上層から第7号土坑に掘り込まれている。第1層はローム粒子及び焼土粒子を微量含む暗褐色土, 第2層はローム粒子を少量含む褐色土, 第3層はローム粒子を多



第35図 第3号住居跡実測図



第36图 第3号住居跡出土遺物実測図

量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第4層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む黒褐色土、第5層はローム粒子を少量含む暗褐色土、第6層はローム粒子を多量含む黄褐色土、第7層はローム粒子を少量、ローム小ブロック及び焼土粒子、炭化粒子を微量含む暗褐色土、第8層はローム粒子を微量含む暗褐色土、第9層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土、第10層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土、第11層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む黒褐色土、第12層はローム粒子を少量含む暗褐色土、第13層はローム粒子を微量含む黒褐色土である。

遺物 北東コーナーの床面及び覆土下層を中心に多量の土師器片が出土している。第36図1の土師器坏は、南コーナー床面から正位の状態で、4の土師器甕は北東コーナーの覆土中層から潰れた状態で出土している。

所見 本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第36図 1	坏 土師器	A 14.6 B 7.2	丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。体部内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P12 P L40 100% 床面
2	甕 土師器	A 17.6 B (22.4)	体部から口縁部の破片。体部は球形状で、最大径を上位にもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。	長石・石英・砂粒 暗褐色 普通	P13 P L41 30% 二次焼成 覆土中層
3	甕 土師器	A (15.8) B 5.0	底部から体部の破片。底部は突出し、体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面へら削り。	長石・砂粒 明褐色 普通	P14 P L40 30% 覆土下層
4	甕 土師器	A 16.6 B (21.5) C [8.4]	底部の一部欠損。平底で、体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面剥離。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P15 P L40 70% 覆土中層
5	甕 土師器	B (20.0) C 6.3	底部から体部の破片。底部は突出する。体部は球形状で、最大径を上位にもつ。	体部内・外面へら削り。	長石・砂粒 灰褐色 普通	P16 P L41 30% 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備	考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
6	不明石製品	10.2	8.0	2.0	(203.1)	床面	Q8 堇青石	P L70

第4号住居跡(第37図)

位置 2区南西部, E7e₉区。

重複関係 本跡の北部は、第5号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.84m, 短軸3.58mの方形で、南東部の東コーナー付近には、長軸1.40m, 短軸1.02mの台形状の張り出し部が付設されている。

主軸方向 N-42°-W。

壁 壁高は14~34cmで、外傾して立ち上がっている。

床 全体的に凸凹である。南東壁から中央寄りには、長径1.16m, 短径0.48mの楕円形状で、4~8cmの高まりがみられる。

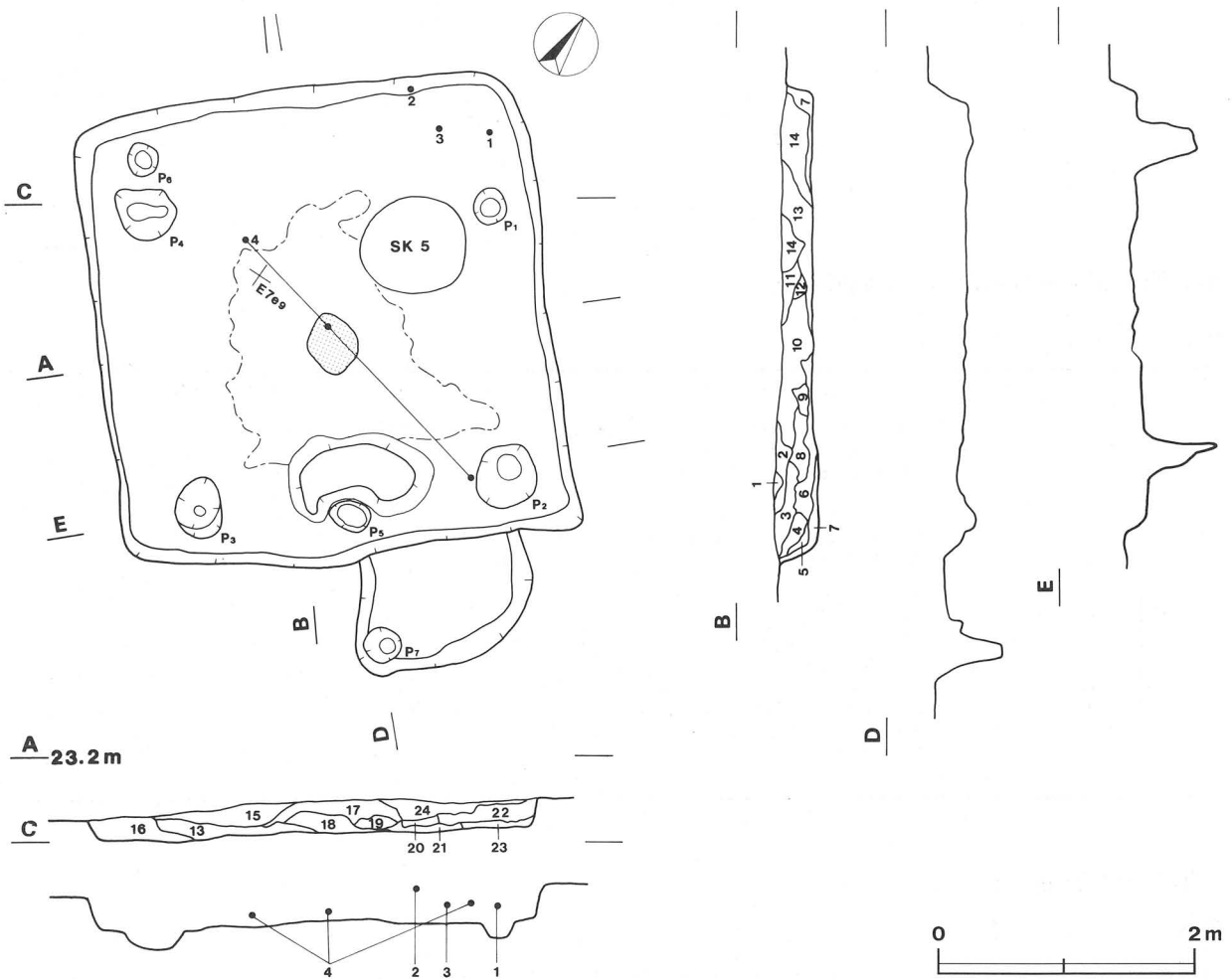
ピット 7か所(P₁~P₇)。P₁~P₄は、径17~54cm, 深さ14~54cmで支柱穴と考えられる。P₅は径22cm, 深さ11cm, P₇は径30cm, 深さ44cmで、それぞれ出入口施設, 張り出し部施設に伴うものと考えられる。P₆は径28cm, 深さ12cmで、性格は不明である。

炉 ほぼ中央部にあり、径50cmの円形である。炉床は掘り窪められてはいないが、火熱を受けブロック状に赤変硬化している。

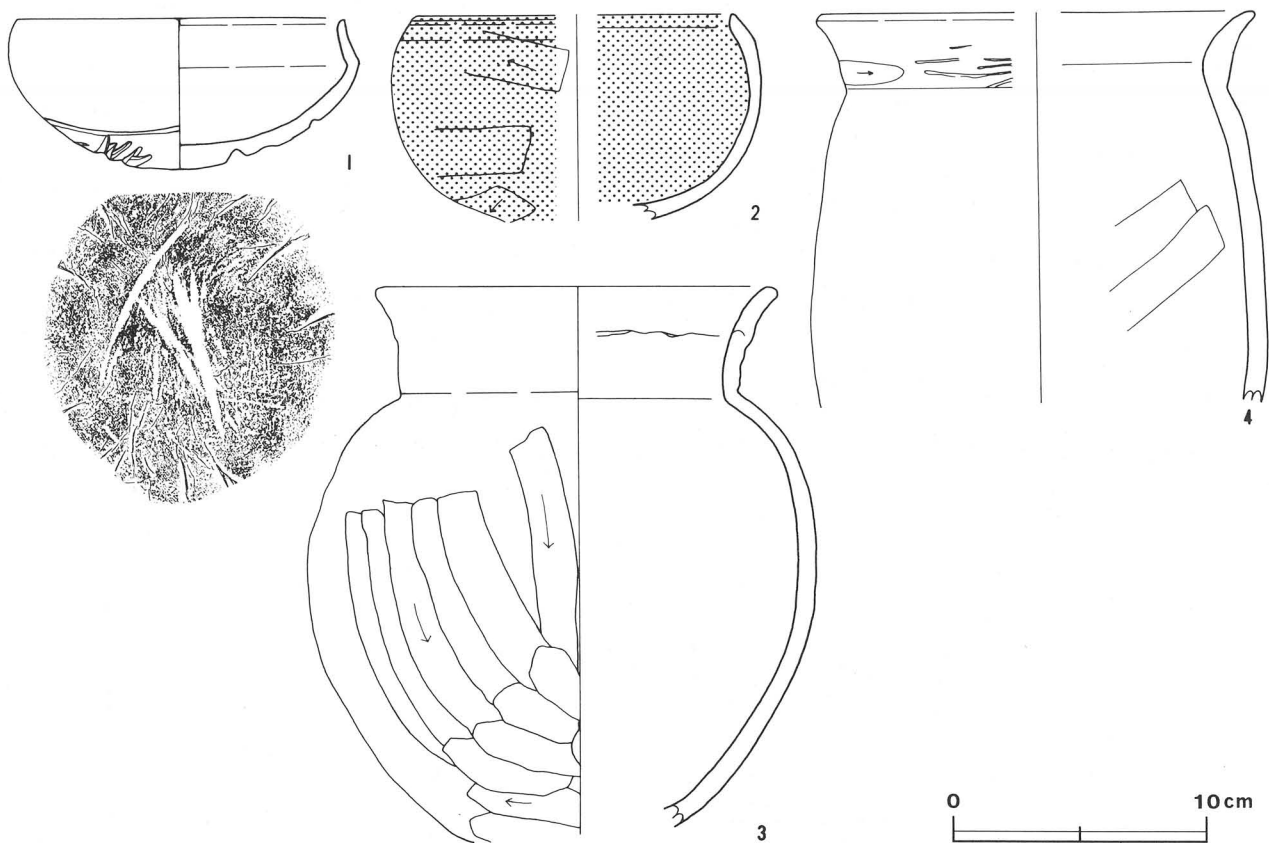
覆土 24層からなり、人為堆積である。ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を含む褐色土と暗褐色土が交互に堆積している。

遺物 床面及び覆土中から、土師器の坏・埴・甕等の破片が多量に出土しているが、実測可能なものは第38図1～4の4点のみである。1～3は、いずれも東コーナー付近から出土している。1の土師器坏は覆土中層から正位の状態、2の土師器埴は覆土上層から正位の状態、3の土師器甕は覆土中層から斜位の状態で出土している。

所見 張り出し部底面までの深さは4cm程で、底面はほぼ平坦で踏み固められている。床面との比高は16cmで位置的に出入り口に利用されていたものと考えられる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。



第37図 第4号住居跡実測図



第38図 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第38図 1	坏 土師器	A 13.0 B 6.1	丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は内傾し、口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・砂粒 明褐色 普通	P17 PL41 100% 砥石に転用 覆土中層
2	埴 土師器	A [12.4] B (8.3)	体部から口縁部の破片。体部は球形で、口縁部は内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P18 PL41 50% 覆土上層
3	甕 土師器	A 15.2 B (21.8)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。頸部に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・雲母・砂粒 にぶい橙色 普通	P19 PL41 90% 覆土中層
4	甕 土師器	A [17.1] B (15.8)	体部から口縁部の破片。体部は直線的に立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部外面へら削り。内面横ナデ。体部内面へらナデ。	長石・スコリア・砂粒 にぶい橙色 普通	P20 PL41 20% 覆土中層

第5号住居跡 (第39図)

位置 2区南西部, E7e₀区。

重複関係 本跡の南コーナーから南東壁の大半は、第1号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸2.00m, 短軸1.74mの長方形である。

長軸方向 (N-40°-W)。

壁 壁高は50~60cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。南西壁中央部は木根によって攪乱されている。

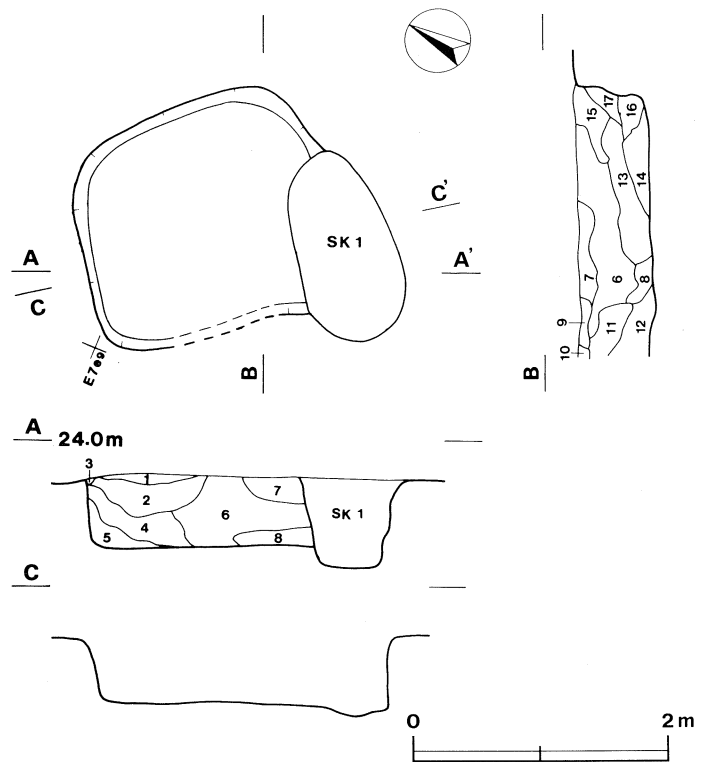
床 ほぼ平坦で、あまり踏み固められていない。

覆土 17層からなり、人為堆積である。中央部は暗褐色土、壁際は褐色土が堆積している。第1層はローム粒

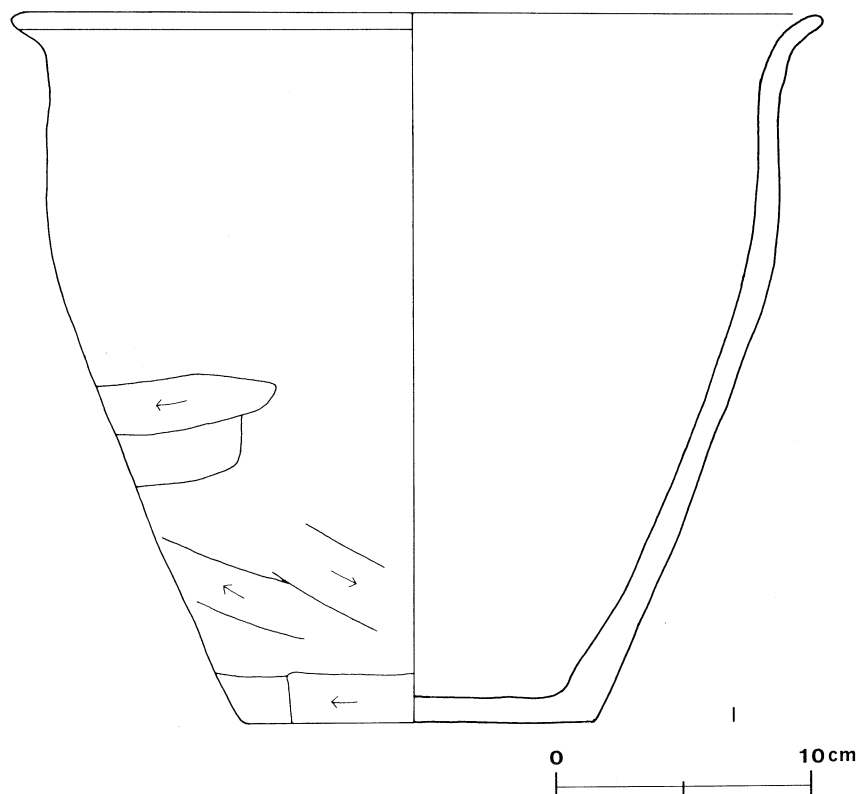
子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土，第2層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む暗褐色土，第3層はローム粒子を多量に含む黄褐色土，第4層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む褐色土，第5層はローム粒子を中量と焼土粒子を微量含む褐色土，第6層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む暗褐色土，第7層はローム粒子を微量含む暗褐色土，第8層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む暗褐色土，第9層はローム粒子を少量含む褐色土，第10層はローム粒子を中量含むにぶい黄褐色土，第11層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む黄褐色土，第12層はローム粒子を多量とローム小ブロックを中量含む明褐色土，第13層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土，第14層はローム粒子を中量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土，第15層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量，焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土，第16層はローム粒子を少量含む褐色土，第17層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量含む褐色土である。

遺物 北東壁側の覆土を中心に土師器片が少量出土している。第40図1の土師器甕は東コーナー覆土上層からまとまって出土した破片が接合したものである。

所見 本跡の規模及び内部施設をもたないことから，居住以外の目的をもった建物跡と考えられる。出土遺物から古墳時代中期後半のものである。



第39図 第5号住居跡実測図



第40図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第40図 1	甕 土師器	A 27.2 B 30.0 C 13.6	体部の一部欠損。平底で、体部は外傾して立ち上がり、最大径を上位にもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ。	長石・砂粒 極暗赤褐色 普通	P21 PL41 50% 覆土上層

第6号住居跡 (第41図)

位置 2区南西部, E8e₂区。

規模と平面形 長軸2.94m, 短軸2.40mの不定形である。

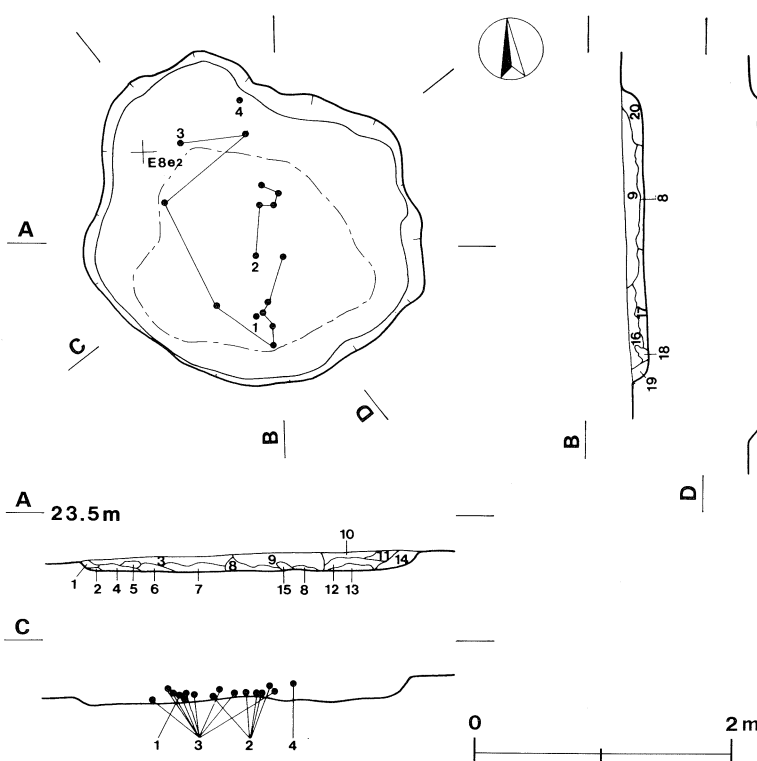
長軸方向 N-43°-W。

壁 壁高は6~16cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部は硬く踏み固められている。東部から南東部にかけては, 僅かに窪んでいる。

覆土 20層からなり, 人為堆積である。各層に破碎された土師器片が混入している。第1層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む明褐色土, 第2層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量含む褐色土, 第3層はローム粒子及びローム小ブロックを微量含む暗褐色土, 第4層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第5層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を微量含む黒褐色土, 第6層はローム粒子を中量とローム小・中ブロックを少量含む暗褐色土, 第7層はローム粒子及び炭化粒子を微量含む黒褐色土, 第8層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第9層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む褐色土, 第10層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第11層はローム粒子を中量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第12層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び焼土粒子, 炭化粒子を微量含む褐色土, 第13層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第14層はローム粒子を多量に含む明褐色土, 第15層はローム粒子を中量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む明褐色土, 第16層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を微量含む明褐色土, 第17層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第18層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む明褐色土, 第19層はローム粒子を多量と炭化粒子を微量含む褐色土, 第20層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量及び炭化粒子を微量含む褐色土である。

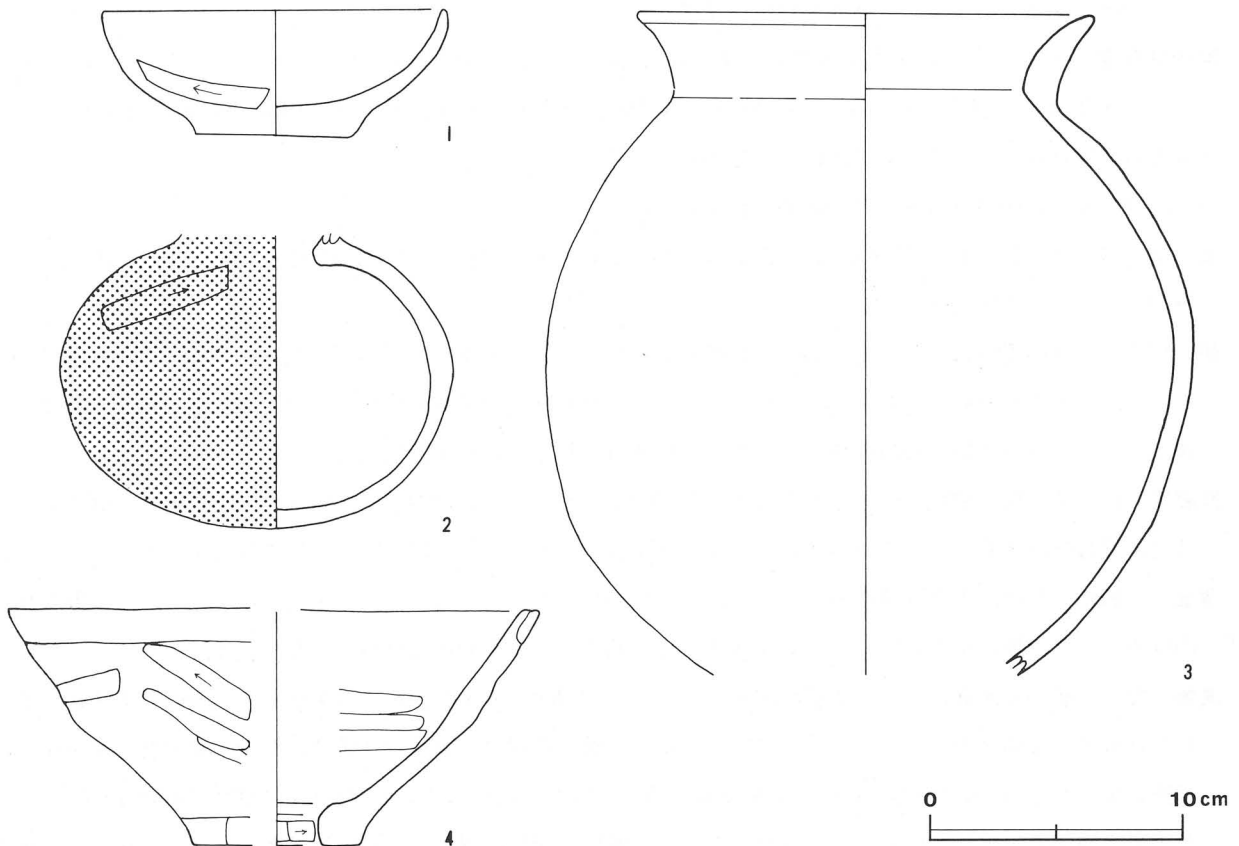
遺物 中央部覆土下層から床面にかけて, 土師器の細片が多量に出土している。第42図1の土師器坯は,



第41図 第6号住居跡実測図

中央から南寄りの覆土最下層から正位の状態で、2の土師器壺は中央部覆土最下層から出土した細片が接合されたものである。3の土師器甕は中央から北西寄りの覆土下層から潰れた状態で出土している。

所見 出土した遺物は、意図的に破碎されたと思われる細片が多く、本跡廃絶時に投棄されたものと考えられる。また、規模やプラン、内部施設をもたないことから、居住以外の目的をもった建物跡と考えられる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半のものである。



第42図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第42図 1	坏 土師器	A 13.6 B 5.1 C 6.2	底部は平底で、突出する。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・砂粒にぶい褐色普通	P22 P L41 100% 覆土下層
2	壺 土師器	B (11.8)	口縁部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。体部外面赤彩。	長石・砂粒にぶい赤褐色普通	P23 P L41 60% 覆土下層
3	甕 土師器	A 18.2 B (26.4)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面摩耗。内面ナデ。	長石・砂粒にぶい赤褐色普通	P24 P L41 60% 覆土下層
4	甕 土師器	A (21.0) B (9.4) C [6.6]	底部から口縁部の破片。単孔式。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。口縁部は折り返される。	体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石・砂粒橙色普通	P25 P L42 45% 覆土上層

第7号住居跡（第43図）

位置 2区南西部，E8f₃区。

規模と平面形 長軸5.30m，短軸4.56mの長方形である。

主軸方向 N-43°-W。

壁 壁高は18～50cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 北及び西コーナー付近と南東壁の南コーナー寄り以外の壁下から確認されている。上幅6～20cm，下幅4～10cm，深さ6～9cmで，断面形はU字状をしている。

間仕切り溝 5条（a～e）。北東壁側に1条（a），南東壁側に1条（b），南西壁側に2条（c・d），北西壁側に1条（e）確認されている。長さ0.60～1.26m，上幅12～24cm，下幅4～12cm，深さ7～12cmで，断面形はU字状をしている。aは，P₁に連結されている。

床 ほぼ平坦で，中央部は硬く踏み固められている。

ピット 3か所（P₁～P₃）。P₁・P₂は，径24cm，深さ42～52cmで支柱穴，P₃は，径24cm，深さ8cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央から北西寄りにあり，長径45cm，短径24cmの楕円形で，床面を6cm程掘り窪めている。覆土は，2層からなり，第1層はローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを少量含む褐色土，第2層は焼土粒子を少量と焼土小ブロックを中量含む暗赤褐色土である。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南東壁中央の壁際に付設されている。長径60cm，短径50cmの楕円形で，深さは42cmである。底面は皿状で，壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は1層で，焼土粒子と炭化物を多量に含んでいる。

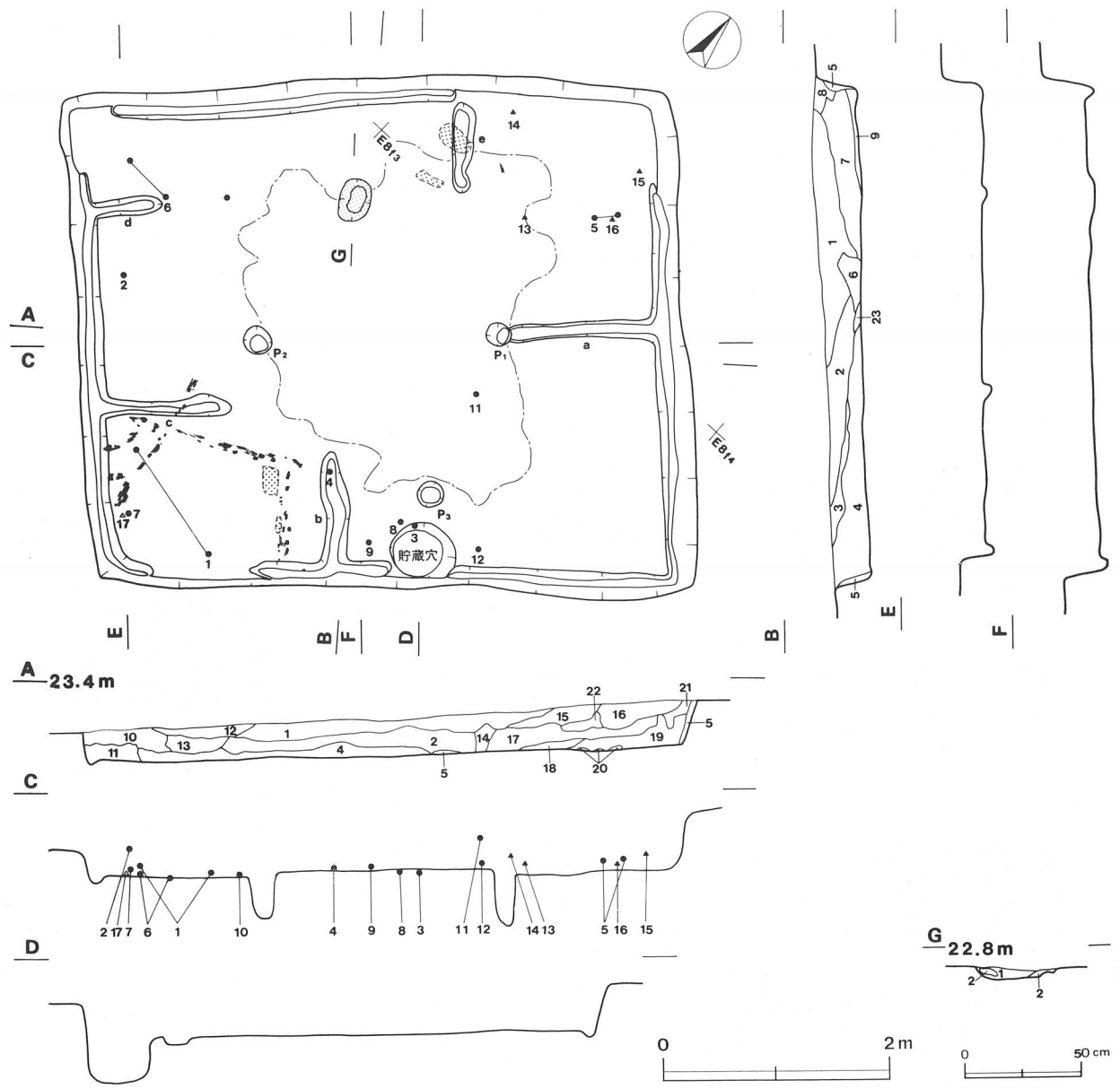
覆土 23層からなり，人為堆積である。ローム粒子及びローム小ブロックを含む褐色土を主体に，北東及び南西壁方向から，埋め戻されている。第4層中には，焼土ブロックや炭化材が含まれている。

遺物 覆土中層から床面にかけて多量に出土している。第44図3の土師器坏は南東壁から中央寄りの床面に潰れた状態で，5の土師器碗は北コーナー寄りの覆土下層から同じく潰れた状態で，9の土師器甕は南東中央壁際の床面から，12の須恵器坏は南東中央壁際の覆土下層から出土している。14と15の双孔円板は北コーナー覆土最下層から出土している。16の滑石は5の土師器碗と同じ位置から，17の鎌は南コーナーの床面から出土している。

所見 覆土下層から焼土塊や炭化材が確認されている。特に南コーナーの床面には住居の建築材の一部と考えられる炭化材が良好に遺存している。本跡は，出土遺物から，焼失後，間もなく人為的に埋め戻された古墳時代中期後半の住居跡である。

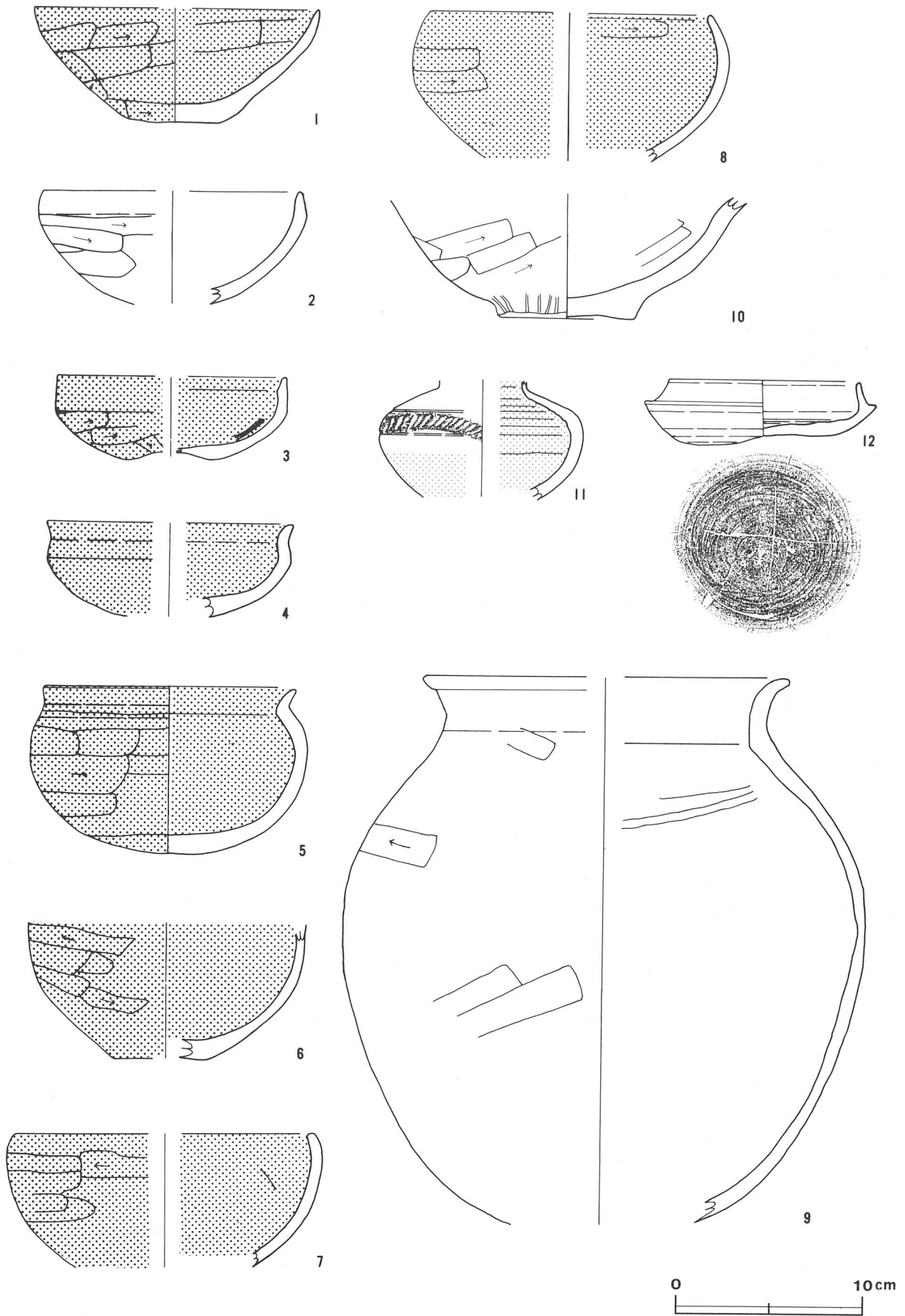
第7号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第44・45図 1	坏 土師器	A [15.2] B 6.3 C 5.0	体部及び口縁部の一部欠損。平底で，体部は直線的に立ち上がり，口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。内・外面赤彩。	長石・スコリア・砂粒 赤色 普通	P26 P L41 75% 覆土下層
2	坏 土師器	A [13.9] B (6.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P27 P L41 40% 覆土上層
3	坏 土師器	A [12.6] B (4.5)	底部から口縁部の破片。上げ底で，体部は内彎して立ち上がる。口縁部は直立し，内面に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後，磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P28 40% 床面
4	坏 土師器	A [13.3] B (5.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反し，体部との境に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面摩擦。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・スコリア・砂粒 赤褐色 普通	P29 45% 床面

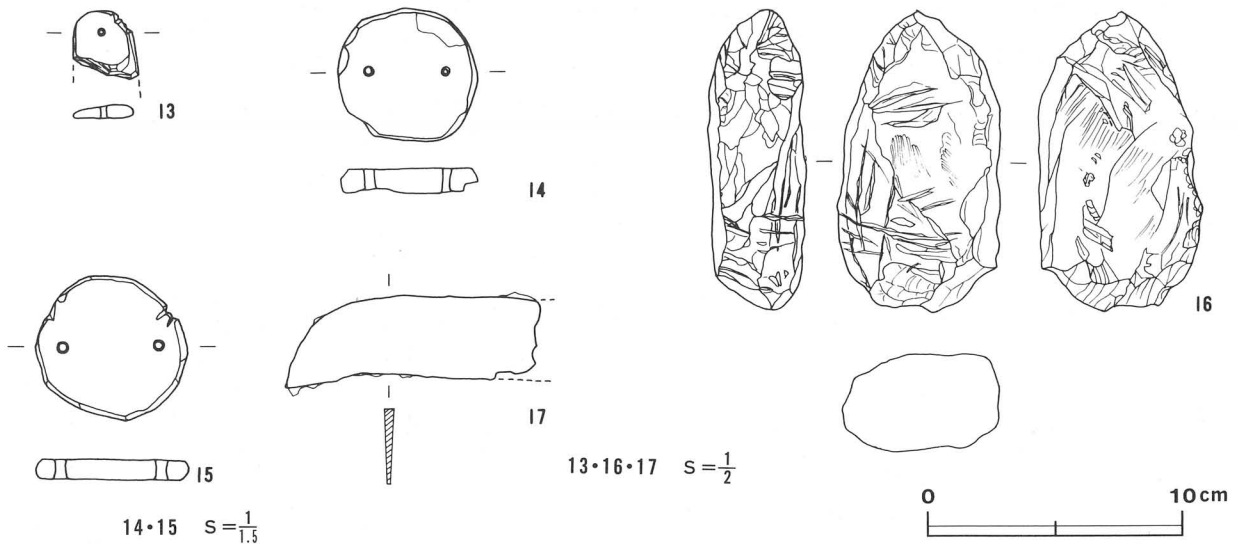


第43図 第7号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	埴土師器	A 13.7 B 9.2	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面剥離。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 30 P L 42 90% 覆土下層
6	埴土師器	B (7.4) C 4.4	平底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へら削り。内面剥離。内・外面赤彩。	長石・砂粒 暗赤褐色 普通	P 31 30% 床面
7	埴土師器	A [16.1] B (7.3)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P 32 20% 覆土下層
8	埴土師器	A [15.6] B (6.1)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 33 15% 床面
9	甕土師器	A [19.4] B (29.8)	体部から口縁部の破片。体部は球形状で、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P 34 P L 42 40% 床面



第44图 第7号住居跡出土遺物実測图(1)



第45図 第7号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
10	甕土師器	B (6.7) C 7.4	底部から体部の破片。底部は平底で、突出する。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。体部下端及び内面ヘラナデ。	長石・砂粒にぶい黄褐色普通	P35 15% 覆土下層
11	甕須恵器	B (4.0)	体部の破片。	体部内・外面横ナデ。肩部に2条の沈線を巡らし、間に櫛歯工具による刺突が施される。	長石・砂粒黒褐色良好	P36 P L41 15% 自然袖付着、覆土上層
12	坏身須恵器	A 10.2 B 3.5	丸底で、体部は内彎気味に立ち上がる。受部は外上方にのび、端部はシャープである。口縁部は内傾する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・砂粒普通	P37 P L41 95% 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
13	不明石製品	(1.9)	1.7	0.4	1.4	覆土下層	孔径 2.0mm Q10 滑石	P L69
14	双孔円板	2.7	2.7	0.5	6.0	覆土下層	孔径 2.0mm Q11 100% 滑石	P L70
15	双孔円板	3.1	2.9	0.4	6.7	覆土下層	孔径 2.5mm Q12 100% 滑石	P L70
16	石核	12.1	6.4	4.0	454.5	覆土下層	Q13 滑石	P L70
17	鎌	(6.7)	2.4	0.3	(8.5)	床面	M2 鉄製	P L71

第8号住居跡 (第46図)

位置 2区南西部, E8c₂区。

重複関係 本跡の中央から西寄りの一部は、第39号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.88m, 短軸4.62mの長方形である。

主軸方向 N-46°-W。

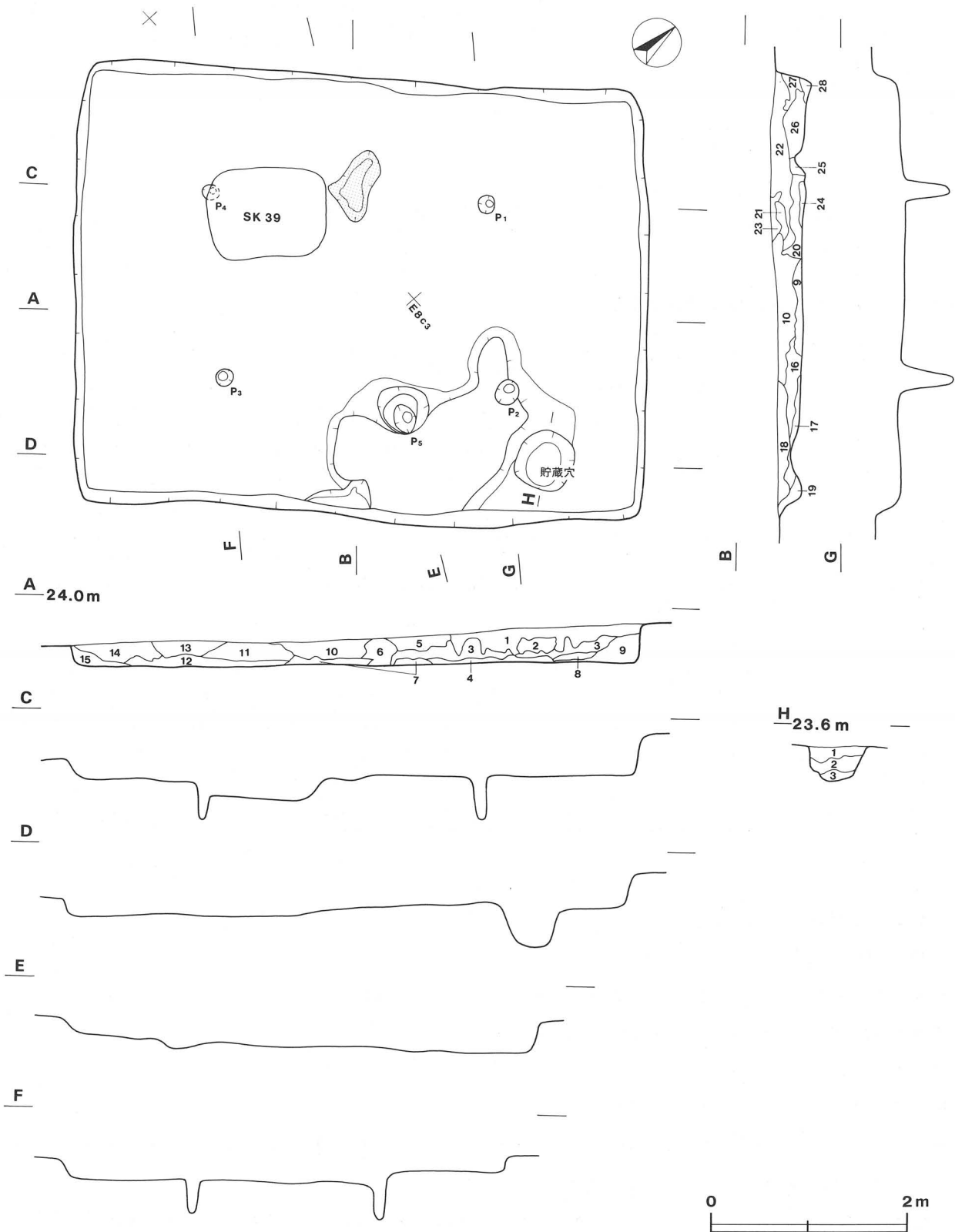
壁 壁高は18~44cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、全体的に硬く踏み固められている。北西壁下の一部は僅かに窪んでいる。南東壁から中央寄りには、高さ20cm程の不定形の高まりがみられる。

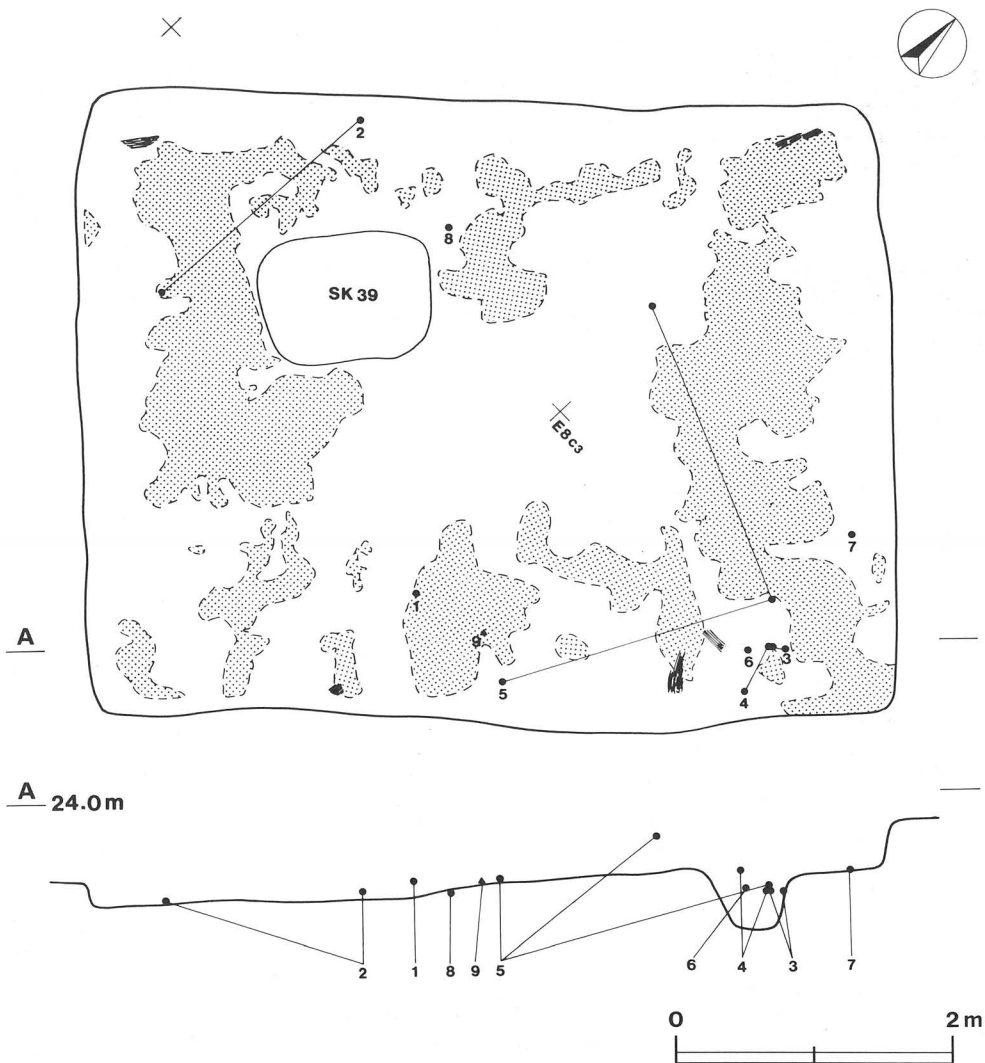
ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は、径18~26cm, 深さ40~54cmで支柱穴, P₅は、径52cm, 深さ12cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央から北西寄りにあり、長軸76cm、短軸34cmの不整形で、床面を5cm程掘り窪めている。覆土は1層で、焼土粒子及び炭化粒子を多量に含む暗赤褐色土である。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 東コーナーに付設されている。長径63cm、短径56cmの楕円形で、深さは46cmである。底面は皿状で、



第46図 第8号住居跡実測図



第47図 第8号住居跡出土遺物位置図

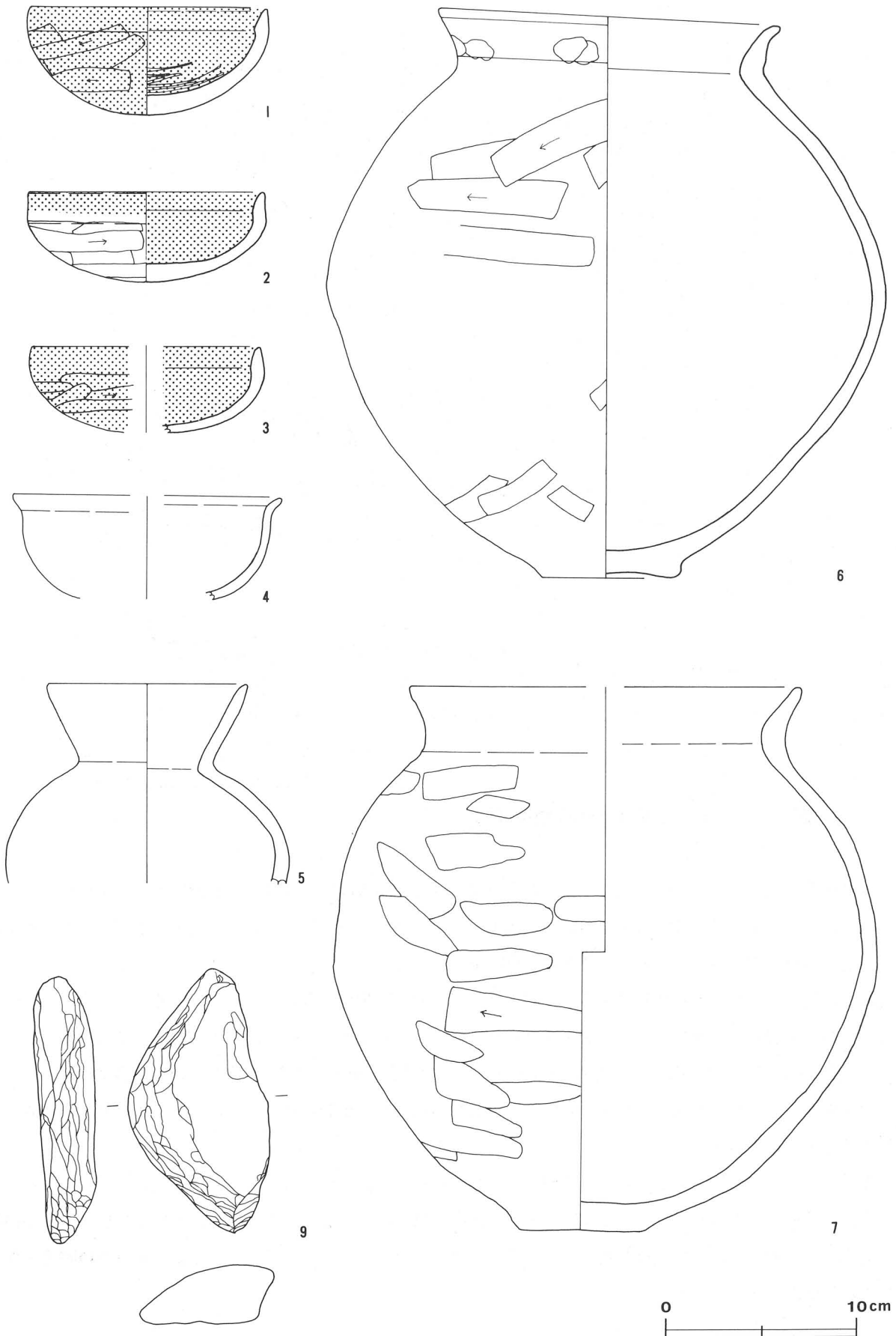
壁は外傾して立ち上がっている。覆土は3層からなり、第1層はローム粒子及び粘土中ブロックを少量とローム小ブロック及び焼土粒子を微量含む褐色土、第2層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む明褐色土、第3層はローム粒子を多量に含む褐色土である。

覆土 28層からなり、人為堆積である。下層には、焼土塊や炭化材が多量に含まれている。

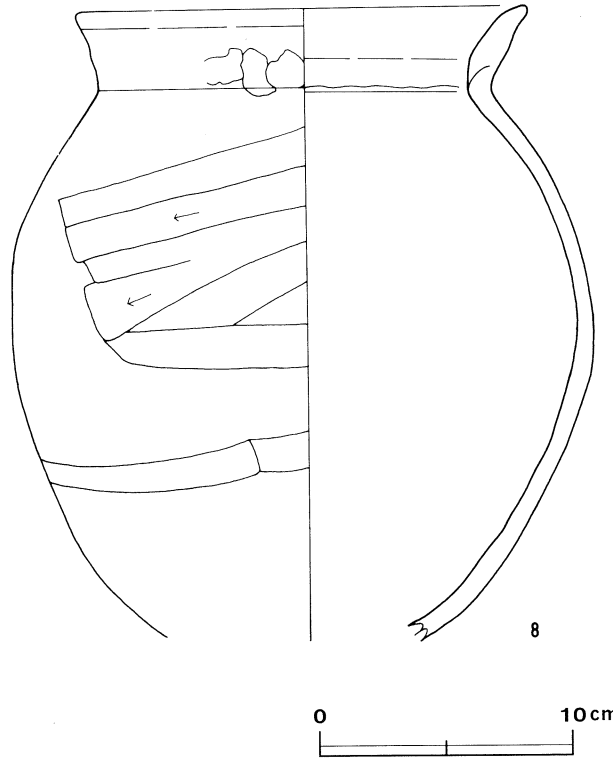
遺物 覆土下層から床面にかけての焼土及び炭化材に埋もれるように破碎された土師器片が多量に出土している。第48・49図1の土師器坏は南東壁から中央寄りの床面から正位の状態で、6と7の土師器甕は東コーナーの床面から、それぞれ斜位、横位の状態で出土している。8の土師器甕は中央から北西寄りの床面に潰れた状態で出土している。

所見 壁際を中心に、床面から10cm程の厚さで、焼土及び炭化材が堆積しており、焼失住居と考えられる。

出入り口施設と思われる不定形の高まりは、支柱穴であるP₂の位置まで広がりを見せており、当遺跡の住居跡内から確認された出入り口付近の高まりとは異なるものである。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。



第48图 第8号住居跡出土遺物実測図(1)



第49図 第8号住居跡出土遺物実測図(2)

第8号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第48・49図 1	坏 土師器	A 12.6 B 5.9	丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・スコリア・砂粒 赤褐色、普通	P38 P L41 95% 床面
2	坏 土師器	A 12.6 B 4.9	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P39 P L41 90% 覆土下層
3	坏 土師器	A [12.0] B (4.6)	底部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は直立し、内面に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P40 30% 床面
4	坏 土師器	A [12.1] B (5.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P41 P L42 25% 床面
5	壺 土師器	A 10.4 B (10.6)	体部から口縁部の破片。体部は球形状で、頸部から口縁部は外傾する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面へラナデ。口縁部内面及び体部外面へラナデ。	砂粒 赤色 普通	P42 P L42 45% 覆土下層
6	甕 土師器	A 18.0 B 30.5 C 7.4	体部の一部欠損。底部は突出する。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内面横ナデ。外面に指頭痕。体部外面へラ削り。内面へラナデ。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P43 P L42 90% 床面
7	甕 土師器	A [20.5] B 29.2 C 6.6	口縁部の一部欠損。底部は突出する。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ。	長石・雲母・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P44 P L42 80% 床面
8	甕 土師器	A 18.0 B (25.6)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部にかけて外反する。	口縁部内・外面横ナデ。外面に指頭痕。体部外面へラ削り。内面へラナデ。	長石・スコリア・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P45 P L42 85% 床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
9	不明石製品	14.2	7.5	3.1	373.3	覆土	Q14 堇青石 P L70

第9号住居跡 (第50図)

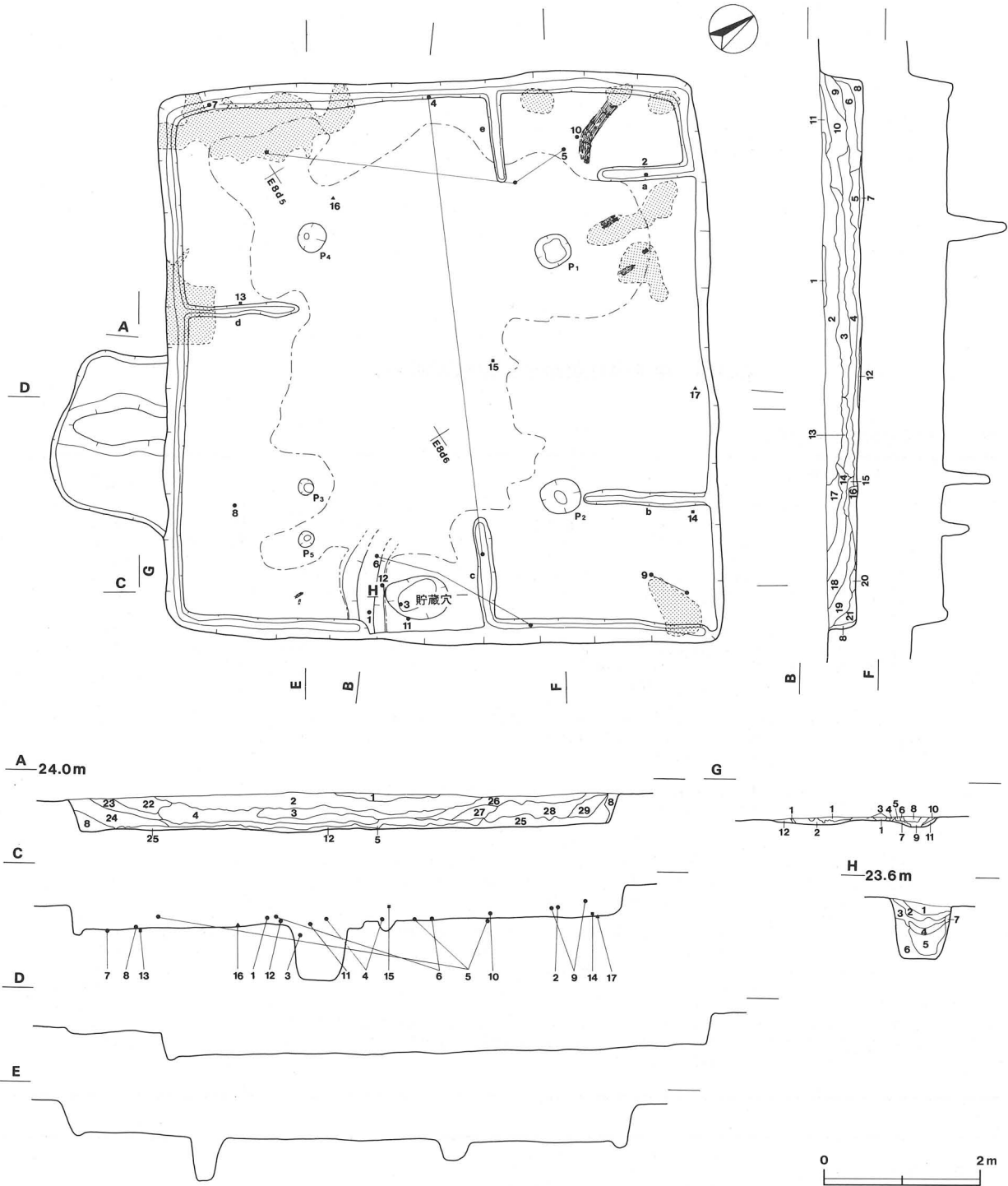
位置 2区南西部, E8c5区。

規模と平面形 長軸7.28m, 短軸6.98mの方形で, 南西壁の南コーナー寄りには, 長軸(2.04m), 短軸1.20mの台形状の張り出し部が付設されている。

主軸方向 N-60°-W。

壁 壁高は32~54cmで, 外傾して立ち上がっている。

壁溝 北東壁下を除き全周している。上幅12~22cm, 下幅5~14cm, 深さ2~7cmで, 断面形は皿状をしている。



第50図 第9号住居跡実測図

間仕切り溝 5条 (a～e)。北東壁側に2条 (a・b)、南東壁側に1条 (c)、南西壁側に1条 (d)、北東壁側に1条 (e) 確認され、長さ1.18～1.48m、上幅13～24cm、下幅4～13cm、深さ3～12cmで、断面形は逆台形状をしている。

床 ほぼ平坦で、中央部は硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには幅約60cm、高さ7cm程の馬の背状の高まりがみられ、出入口施設と考えられる。

ピット 5か所 (P₁～P₅)。P₁～P₄は、径22～50cm、深さ30～80cmで支柱穴と考えられる。P₅は、径22cm、深さ38cmで性格は不明である。

貯蔵穴 南東壁中央の壁下に付設されている。長径82cm、短径56cmの楕円形で、深さは62cmである。底面はU字状で、壁は垂直に立ち上がっている。覆土は7層からなり、第1層はローム粒子を少量含む暗褐色土、第2層は粘土粒子及び粘土小ブロックを多量に含むにぶい黄褐色土、第3層はローム粒子を少量と粘土粒子を微量含む褐色土、第4層はローム粒子を少量と粘土小ブロックを微量含む褐色土、第5層はローム粒子を少量と粘土粒子を中量含む褐色土、第6層はローム粒子及び粘土粒子を少量含むにぶい黄褐色土、第7層はローム粒子を微量含む暗褐色土である。

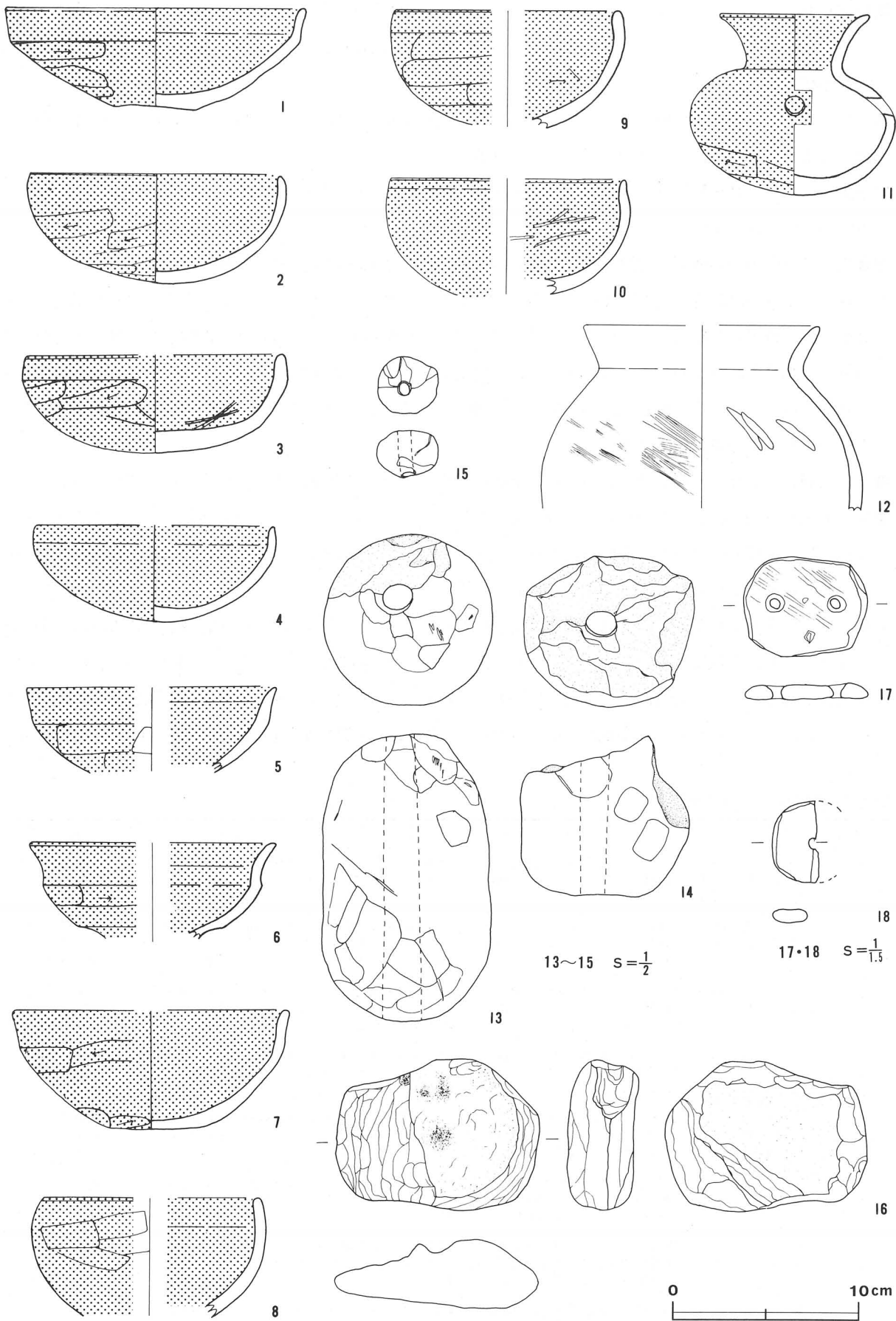
覆土 29層からなり、人為堆積と思われる。下層から床面にかけて多量の焼土及び炭化物がみられる。

遺物 壁際及び張り出し部を中心に、土師器片が少量出土している。第51図7の土師器坏は西コーナーの床面から逆位の状態で、11の土師器甗は南東壁南コーナー寄りの壁際の床面から正位の状態で、13の管状土錘は南西壁からやや中央寄りの床面に正位の状態で出土している。

所見 壁際の床面及び覆土下層には、焼土塊や炭化材がみられることから、焼失住居跡と考えられる。張り出し部は、底面までの深さが7cm程で、中央部は盛り上がり硬く踏み固められている。床面との比高は28cmで、性格は不明である。南東壁側にみられる馬の背状の高まりについては、本来は貯蔵穴を囲むように弧状に存在していたと考えられる。炉は確認されていない。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

第9号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第51図 1	坏 土師器	A 16.2	口縁部の一部欠損。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P46 P L43 80% 覆土下層
		B 5.6				
		C 4.4				
2	坏 土師器	A [13.7]	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面剥離。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P47 P L42 80% 覆土下層
		B 6.0				
3	坏 土師器	A [14.0]	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P48 P L42 55% 貯蔵穴覆土上層
		B 5.4				
4	坏 土師器	A [12.8]	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P49 P L42 40% 床面
		B 5.2				
5	坏 土師器	A [13.6]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P50 20% 床面
		B (4.6)				
6	高坏 土師器	A [13.4]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P51 15% 覆土
		B (5.2)				
7	坏 土師器	A [14.7]	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面剥離。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P53 P L42 70% 床面
		B 6.5				
8	塊 土師器	A [11.5]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P52 10% 床面
		B (6.5)				



第51图 第9号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
9	埴土師器	A 12.0 B (6.4)	底部から口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	砂粒 暗赤褐色 普通	P54 PL42 75% 覆土中層
10	埴土師器	A [12.6] B (6.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P55 15% 覆土下層
11	甗土師器	A 8.0 B 9.9	丸底で、体部は内彎して立ち上がり、上位に円孔を穿つ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面上位から中位ナデ。下位ヘラ削り。口縁・頸部及び体部外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P56 PL43 100% 床面
12	甗土師器	A [12.7] B (10.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ハケ目調整。内面ヘラナデ。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P57 20% 外面煤付着 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考				
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		孔径	DP	%	土製	
13	管状土錘	10.3	6.3	—	324.6	床面	孔径 14.0mm	DP3	85%	土製	PL69
14	管状土錘	(5.8)	5.4	—	125.4	覆土下層	孔径 11.0mm	DP4	40%	土製	PL69
15	球状土錘	1.7	2.2	—	6.1	覆土下層	孔径 5.0mm	DP5	95%	土製	PL68
16	凹石	8.2	11.0	3.8	416.3	床面	Q15 堇青石				
17	双孔円板	2.7	3.3	0.4	6.8	床面	孔径 5.0mm	Q16	100%	滑石	PL70
18	双孔円板	2.2	(1.3)	0.3	(1.6)	覆土	孔径 [3.0]mm	Q17	50%	滑石	PL70

第10号住居跡 (第52図)

位置 2区南西部, E8e₉区。

規模と平面形 長軸3.96m, 短軸3.28mの長方形である。

主軸方向 (N-44°-W)。

壁 壁高は11~14cmで、外傾して立ち上がっている。

床 凸凹で、あまり踏み固められていない。

炉 中央から北西寄りにあり、長径38cm, 短径32cmの楕円形で、炉床はほとんど掘り窪められておらず、床面が僅かに火熱を受け赤変している程度である。覆土は2層からなり、第1層は焼土粒子を多量に含む赤褐色土、第2層はローム粒子と焼土粒子を少量含む明褐色土である。

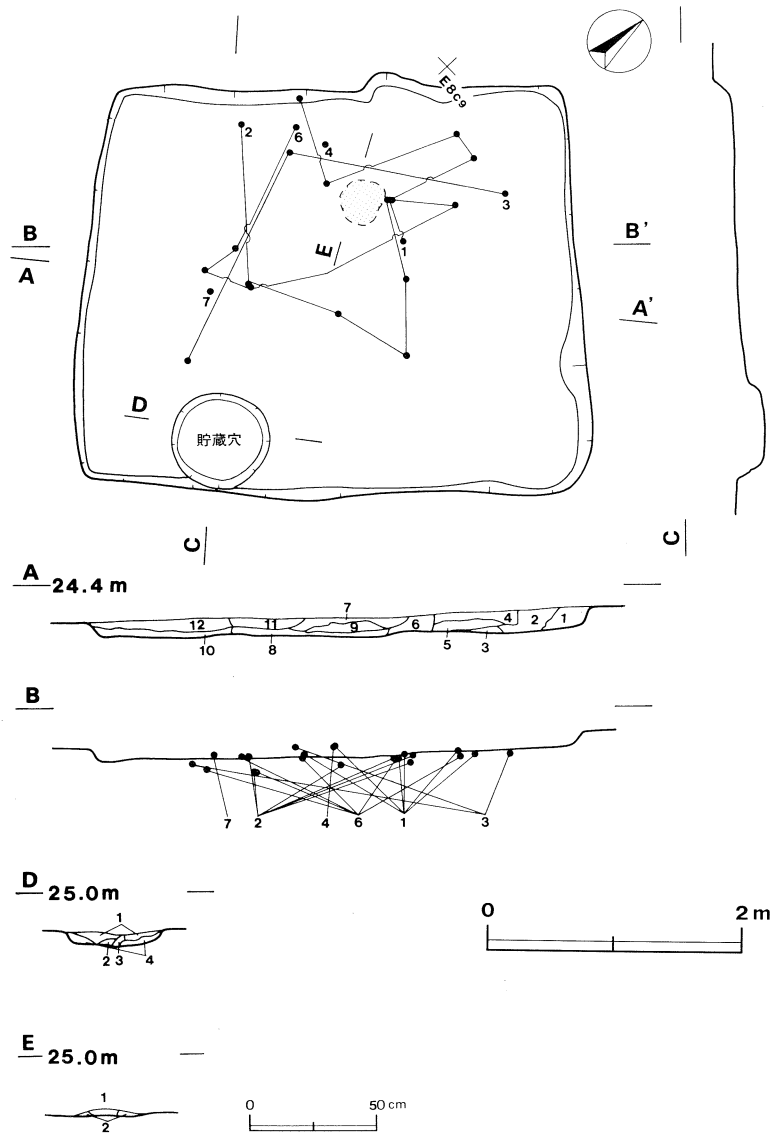
貯蔵穴 南コーナー寄りの南東壁際に付設されている。径76cmの円形で、深さは12cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は4層からなり、第1層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量、第2層はローム粒子を微量、第3層はローム粒子を多量に含む褐色土である。第4層はローム粒子を多量と炭化粒子を微量に含む明褐色土である。

覆土 12層からなり、人為堆積である。第1層はローム粒子を微量に含む褐色土、第2層はローム粒子及びローム小ブロックを少量と炭化粒子を極微量に含む褐色土、第3層はローム粒子を少量と炭化粒子を極微量に含む褐色土、第4層はローム粒子及び炭化粒子を極微量に含む暗褐色土、第5層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量に含む褐色土、第6層はローム粒子を中量含む褐色土、第7層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を微量に含む暗褐色土、第8層はローム粒子及び炭化粒子を極微量に含む褐色土、第9層はローム粒子及びローム小ブロックを多量に含む褐色土、第10層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量に含む褐色土、第11層はローム粒子を少量と炭化粒子を極微量に含む褐色土、第

12層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を極微量に含む褐色土である。

遺物 炉周辺の覆土下層から土師器の甕・甑片が集中して出土している。第53図1～3の土師器甕は炉の西側床面から3個体まとめて正位の状態出土している。7の土師器甑は中央から南西寄りの覆土下層から、正位の状態出土している。

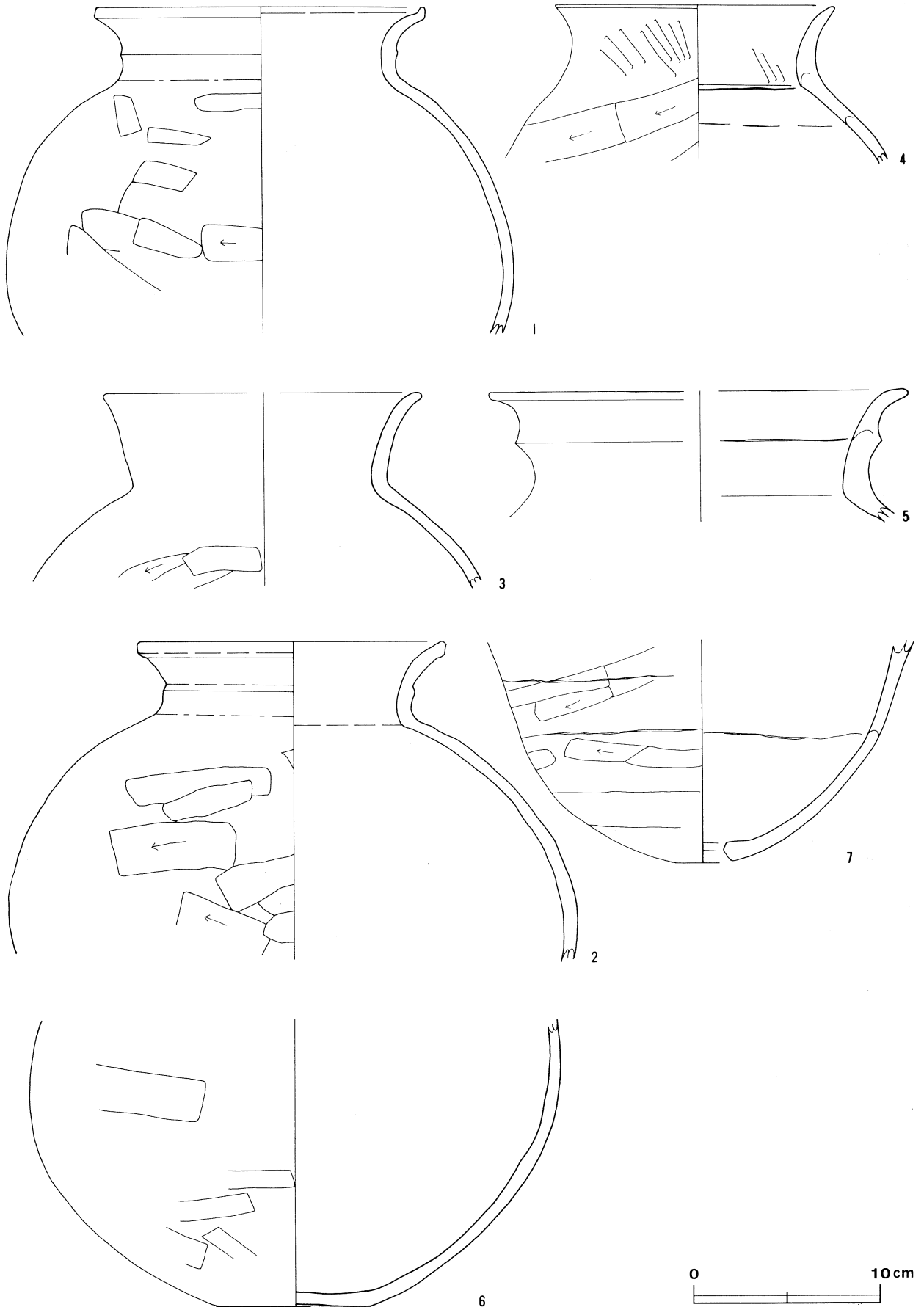
所見 本跡から出土した遺物は、覆土下層からのものがほとんどで床面出土のものはみられず、本跡廃絶後間もなく投棄された遺物であること、また、器種の大半が甕・甑類でその他は僅かに5点の坏片しか出土していないことから、居住以外の目的で使用されていた建物跡と考えられる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半のものである。



第52図 第10号住居跡実測図

第10号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第53図 1	甕 土師器	A 17.7 B 18.0	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。頸部に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒にぶい褐色普通	P58 PL43 50% 床面
2	甕 土師器	A 16.2 B (17.5)	体部から口縁部の破片。体部は球形で、頸部から口縁部は外反する。頸部に突出する稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P59 PL43 45% 床面
3	甕 土師器	A [16.8] B (10.7)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ。	長石・石英・砂粒 明褐色 普通	P60 PL43 40% 床面
4	甕 土師器	A 15.2 B (8.6)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面へラナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P61 PL43 30% 覆土上層
5	甕 土師器	A [22.6] B (7.2)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部にかけて外反する。頸部に突出する稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・スコリア・ 砂粒 橙色 普通	P62 PL43 15% 覆土



第53图 第10号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	甕土師器	B [15.6] C 8.0	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒 黒褐色 普通	P63 30% 床面
7	甕土師器	B (12.0) C 2.8	底部から体部の破片。単孔式。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P64 PL43 50% 覆土下層

第11号住居跡（第54図）

位置 2区南東部，E9d₂区。

規模と平面形 長軸6.08m，短軸5.90mの方形である。

主軸方向 N-28°-W。

壁 壁高は14～58cmで，北東・北西壁はほぼ垂直に，南東・南西壁は外傾して立ち上がっている。

壁溝 北西・南西壁下から確認されている。上幅11～20cm，下幅6～10cm，深さ3～9cmで，断面形は皿状をしている。

間仕切り溝 7条（a～g）。北東壁側に2条（a・b），南東壁側に2条（c・d），南西壁側に2条（e・f），北西壁側に1条（g）確認され，長さ0.80～1.28m，上幅18～44cm，下幅8～30cm，深さ9～19cmで，断面形はU字状をしている。b，e，fは，それぞれP₂～P₄に連結し，c，dは，出入り口部の高まり及び貯蔵穴と，他の部分を区画するように確認されている。

床 ほぼ平坦で，中央部がよく踏み固められている。南東壁から中央寄りには，壁と平行するように4cm前後の高まりがみられ，間仕切り溝c，dと併せて出入り口施設に伴うものと考えられる。

ピット 6か所（P₁～P₆）。P₁～P₄は，径24～38cm，深さ58～68cmで支柱穴，P₅は，径26cm，深さ32cmで，出入り口施設に伴うピットである。P₆は，径24cm，深さ45cmで性格は不明である。

炉 中央から北西寄りにあり，長径58cm，短径50cmの楕円形で，床面を僅かに掘り窪めている。覆土は3層からなり，第1層は焼土粒子を少量含む褐色土，第2層は焼土粒子を中量と焼土ブロックを少量含むにぶい赤褐色土，第3層は焼土粒子を少量含む暗褐色土である。炉床は，火熱をうけ赤変硬化している。

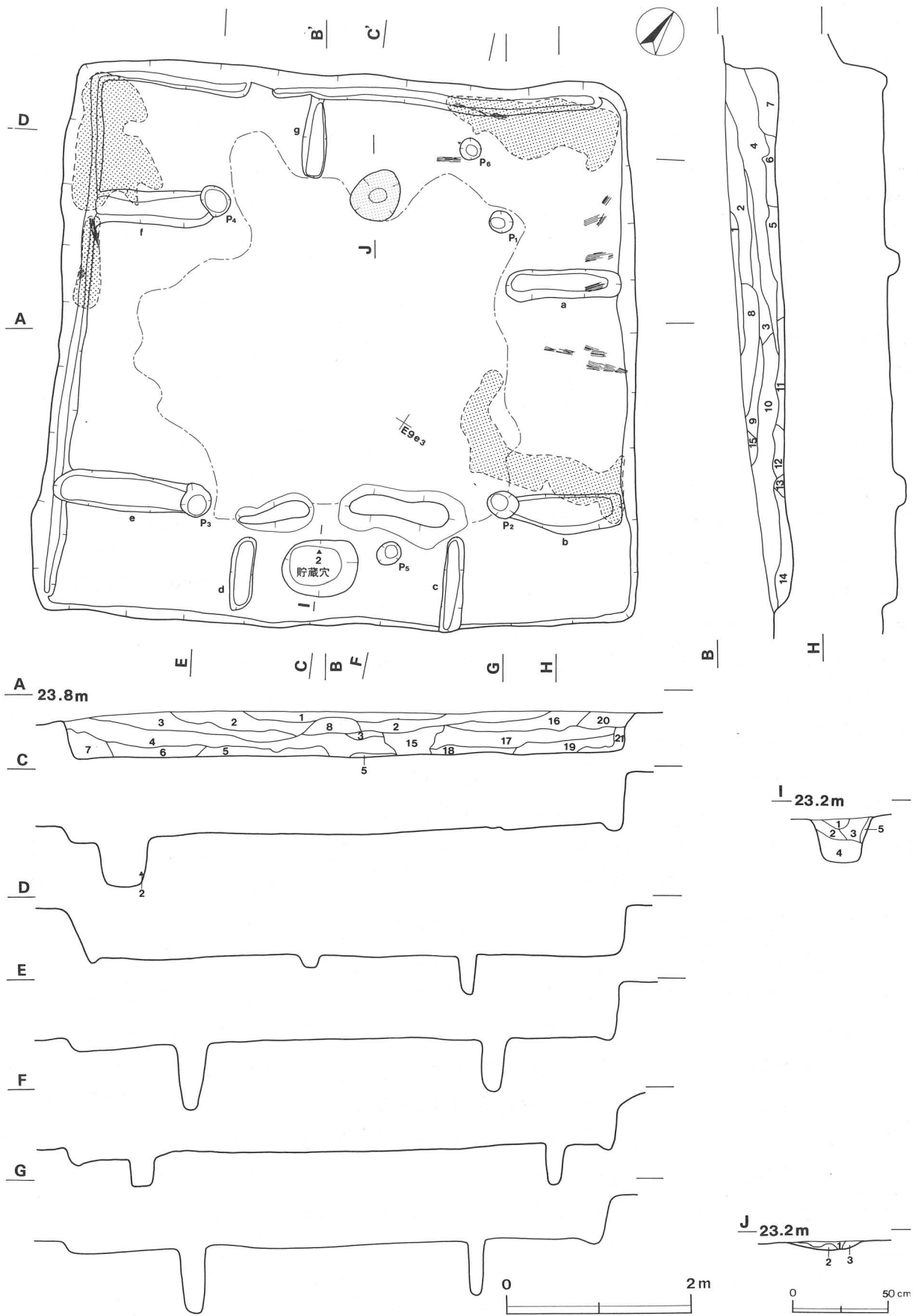
貯蔵穴 南東壁中央の壁際に付設されている。長径80cm，短径60cmの楕円形で，深さは52cmである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。覆土は5層からなり，第1～4層は褐色土で，第1層にはローム粒子を少量と炭化粒子を微量，第2層には炭化粒子及び炭化物を微量，第3層には炭化粒子及び焼土粒子を微量，第4層にはローム小ブロックを少量及び炭化粒子を微量に含んでいる。第5層は明褐色土でローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含んでいる。

覆土 21層からなり，人為堆積である。北東壁際の床面付近を中心に，炭化材及び焼土が確認されている。下層（5～7，12，13）は，炭化物，焼土粒子等を含む褐色土及び暗褐色土で，中層から上層にかけては，ローム粒子，ローム小ブロック等を含む褐色土及び暗褐色土で，北西壁方向から埋め戻されている。

遺物 主に，第3～6層及び床面にかけて，土師器の坏，碗等の破片が少量出土している。第55図1の土師器壺片は貯蔵穴覆土第2層から，2の紡錘車は，同じく貯蔵穴第4層から斜位の状態で出土している。

所見 本跡は，床面及び覆土下層から，炭化材及び焼土塊が確認されていることから焼失住居と考えられる。

本跡は，出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。



第54図 第11号住居跡実測図

第11号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第55図 1	壺 土師器	A [9.2] B (4.7)	頸部から口縁部の破片。頸部は外傾し、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P 65 10% 貯蔵穴覆土第2層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考				
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		孔径	[6.0]mm	Q18 50%	滑石	PL 69
2	紡錘車	(3.9)	(2.0)	1.3	(10.1)	貯蔵穴	孔径	[6.0]mm	Q18 50%	滑石	PL 69

第12号住居跡 (第56図)

位置 2区中央部, E9b₁区。

規模と平面形 長軸6.50m, 短軸6.48mの方形である。

主軸方向 N-33°-W。

壁 壁高は34~44cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 北西壁下から南西壁下にかけてと北東壁下の一部から確認されている。上幅6~18cm, 下幅3~15cm, 深さ4~7cmで、断面形は皿状をしている。

間仕切り溝 8条(a~h)。北東壁際に4条(a~d), 南西壁際に1条(e), 北西壁際に3条(f~h)確認され、上幅10~25cm, 下幅3~18cm, 深さ5~10cmで、断面形はU字状をしている。

床 ほぼ平坦で、P₁~P₄の内側は硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには貯蔵穴を囲むように、長さ1.76m, 幅26~34cm, 高さ3cmの土手状の高まりがみられる。

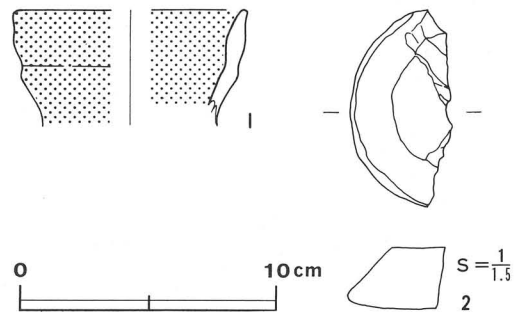
ピット 4か所(P₁~P₄)。径24~40cm, 深さ60~78cmで支柱穴と考えられる。

炉 中央から北西寄りにあり、長径66cm, 短径46cmの楕円形で、床面を6cm程掘り窪めている。覆土は5層からなり、第1層は焼土粒子を中量含む赤褐色土である。第2層から第5層暗赤褐色土で、第2層は焼土粒子を多量, 第3層は焼土粒子を中量, 第4層は焼土粒子を少量, 第5層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含んでいる。炉床は凸凹で、火熱を受け赤変硬化している。

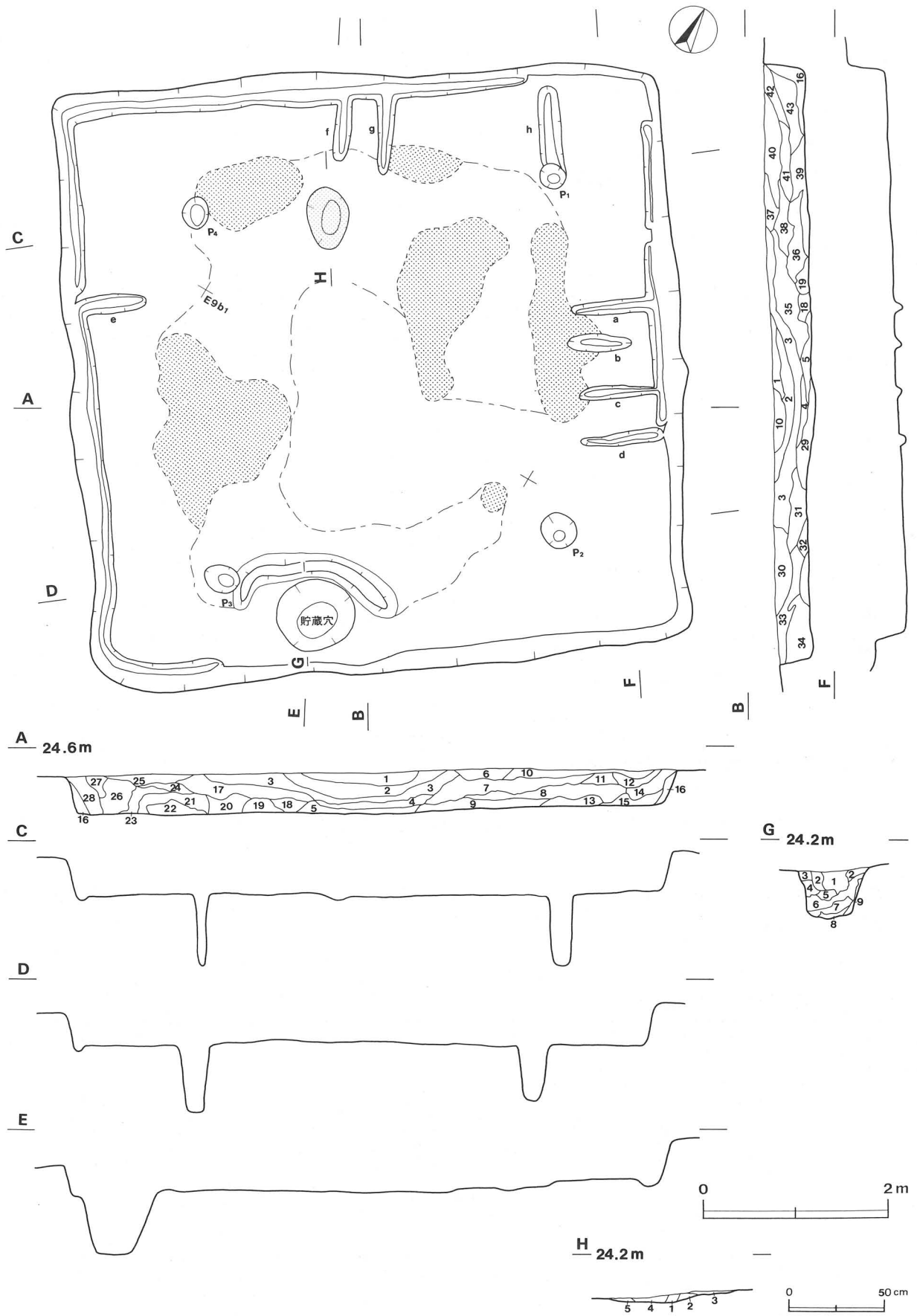
貯蔵穴 南コーナー寄りの南西壁際に付設されている。径84cmの円形で、深さは62cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は9層からなり、各層から焼土粒子及び炭化粒子が多量に確認されている。第1層はローム粒子を少量含む褐色土, 第2層はローム粒子を少量と炭化物を微量に含む褐色土, 第3層はローム粒子及びローム小ブロックを少量と炭化物を中量含む褐色土, 第4層はローム粒子中量含む褐色土, 第5層は焼土小ブロックを中量と炭化物を少量含むにぶい赤褐色土, 第6層は焼土小ブロック及び炭化物を少量含む暗褐色土, 第7層はローム粒子を中量と炭化物を微量に含む褐色土, 第8層はローム粒子及び炭化物を中量含む暗褐色土, 第9層はローム粒子を中量, 炭化物を微量に含む黄褐色土である。

覆土 43層からなり、壁際からローム粒子及びローム小ブロック混じりの褐色土, 暗褐色土で人為的に埋められている。覆土中央部(第1~4層)については、自然に堆積したものと考えられる。床面近くの下層には、焼土塊や炭化材が多量に含まれている。

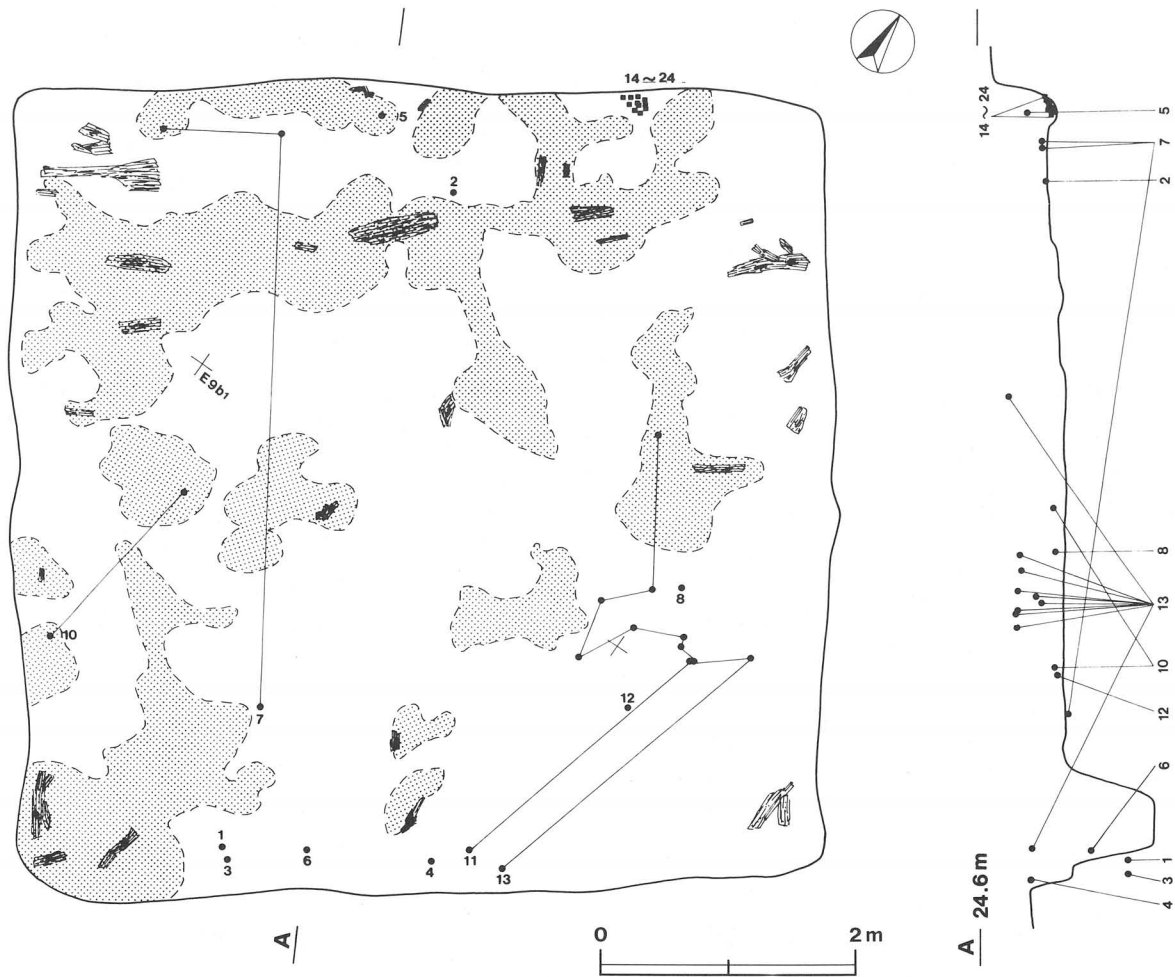
遺物 覆土上層から自然に流れ込んだと思われる土師器片が多量に出土している。第58図12の土師器甕は東



第55図 第11号住居跡出土遺物実測図



第56図 第12号住居跡実測図



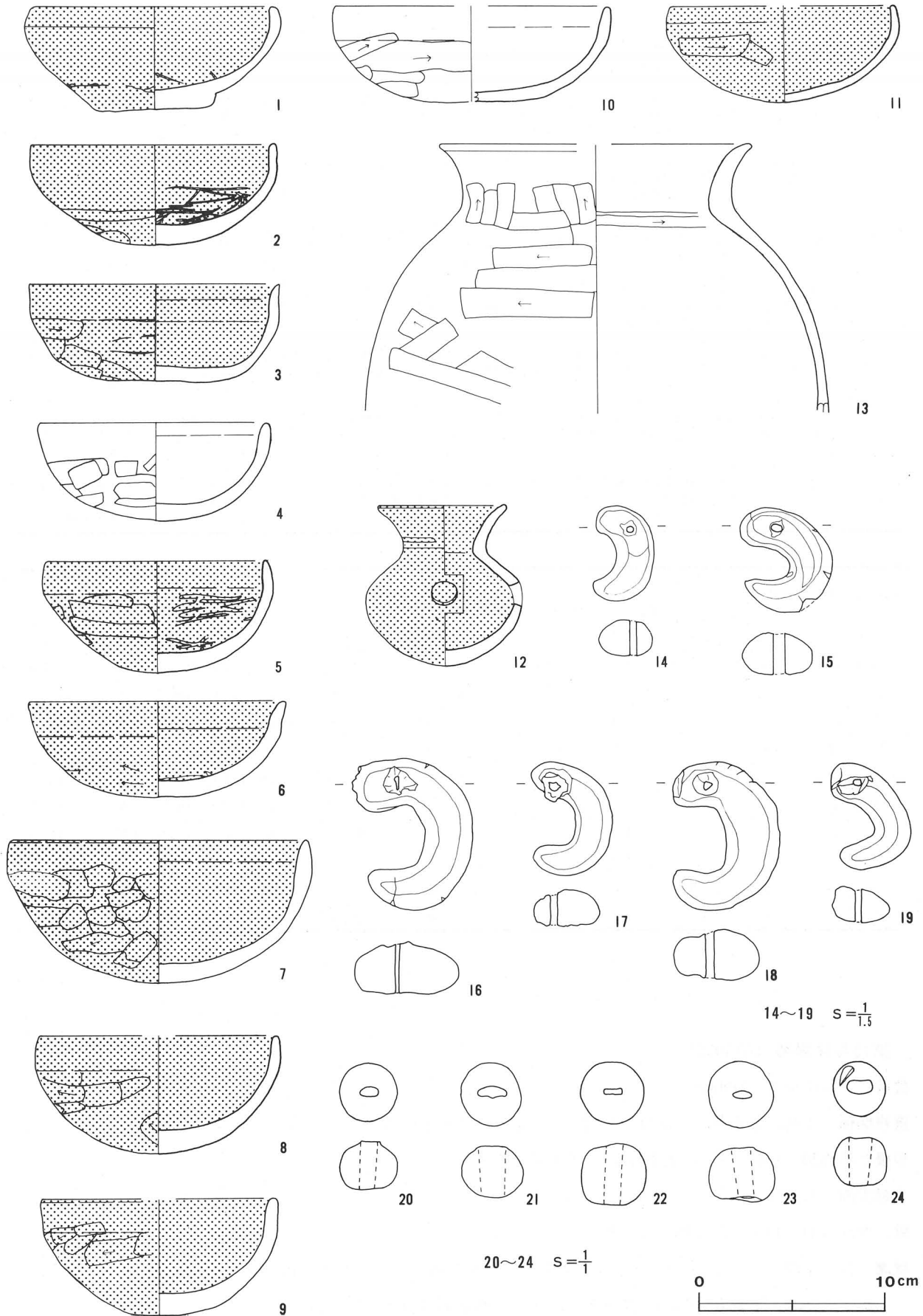
第57図 第12号住居跡出土遺物位置図

コーナー覆土下層から正位の状態出土している。14～24の土製勾玉と小玉は北コーナーの床面からまとめて出土している。

所見 床面及び覆土下層から焼土塊及び炭化材が多量に確認されていることから、焼失住居と考えられる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

第12号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第58図 1	坏 土師器	A 12.9 B 5.7 C 6.4	底部は突出する。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P66 P L43 100% 床面
2	坏 土師器	A 13.2 B 5.5	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P67 P L43 95% 床面
3	坏 土師器	A 13.6 B 5.3 C 7.7	口縁部の一部欠損。平底で、体部は内彎して立ち上がる。口縁部は肥厚して直立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	砂粒 明赤褐色 普通	P68 P L44 95% 床面
4	坏 土師器	A 12.4 B 5.3	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P69 P L44 95% 覆土上層
5	坏 土師器	A 11.9 B 6.1	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P70 P L44 85% 覆土中層



第58图 第12号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	坏土師器	A 13.9 B 5.2	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P71 PL44 80% 貯蔵穴覆土上層
7	坏土師器	A 15.8 B 7.7	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がる。口縁部は肥厚し直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P72 PL43 75% 覆土下層
8	坏土師器	A [12.8] B 6.4	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P73 PL45 65% 普通下層
9	坏土師器	A [12.4] B 6.3	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P74 PL45 60% 覆土
10	坏土師器	A [14.8] B 5.3 C [7.4]	底部から口縁部の破片。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P75 PL43 50% 覆土下層
11	坏土師器	A [12.0] B 5.3	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 明赤褐色 普通	P76 45% 覆土
12	甗土師器	A 6.9 B 8.8	丸底で、体部は内彎して立ち上がり、中に円孔を穿つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面一部へら削り。体部外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P78 PL44 100% 覆土下層
13	甗土師器	A [17.0] B (14.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び頸部内面下位へら削り。体部内面へらナデ。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P77 PL44 30% 覆土上層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考				
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		孔径	DP	%	土製	PL
14	勾玉	1.8	1.1	0.7	1.0	床面	孔径 1.0mm	DP6	100%	土製	PL69
15	勾玉	1.9	1.6	0.8	1.7	床面	孔径 2.0mm	DP7	95%	土製	PL69
16	勾玉	2.8	2.1	0.9	3.6	床面	孔径 2.0mm	DP8	100%	土製	PL69
17	勾玉	2.0	1.4	0.7	1.4	床面	孔径 2.0mm	DP9	100%	土製	PL69
18	勾玉	2.7	1.9	1.0	3.6	床面	孔径 2.0mm	DP10	100%	土製	PL69
19	勾玉	1.9	1.4	0.7	1.1	床面	孔径 1.0mm	DP11	100%	土製	PL69
20	小玉	0.9	1.1	0.9	0.9	床面	孔径 3.0mm	DP14	100%	土製	PL68
21	小玉	1.0	1.2	1.0	0.9	床面	孔径 5.0mm	DP15	100%	土製	PL68
22	小玉	1.1	1.2	1.1	1.4	床面	孔径 3.0mm	DP16	100%	土製	PL68
23	小玉	1.0	1.2	1.0	1.1	床面	孔径 3.5mm	DP17	100%	土製	PL68
24	小玉	0.9	1.0	0.9	0.7	床面	孔径 4.5mm	DP18	100%	土製	PL68

第13号住居跡 (第59図)

位置 2区中央部, D9h₂区。

重複関係 本跡の北東部の一部は第8号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸6.82m, 短軸6.70mの方形である。

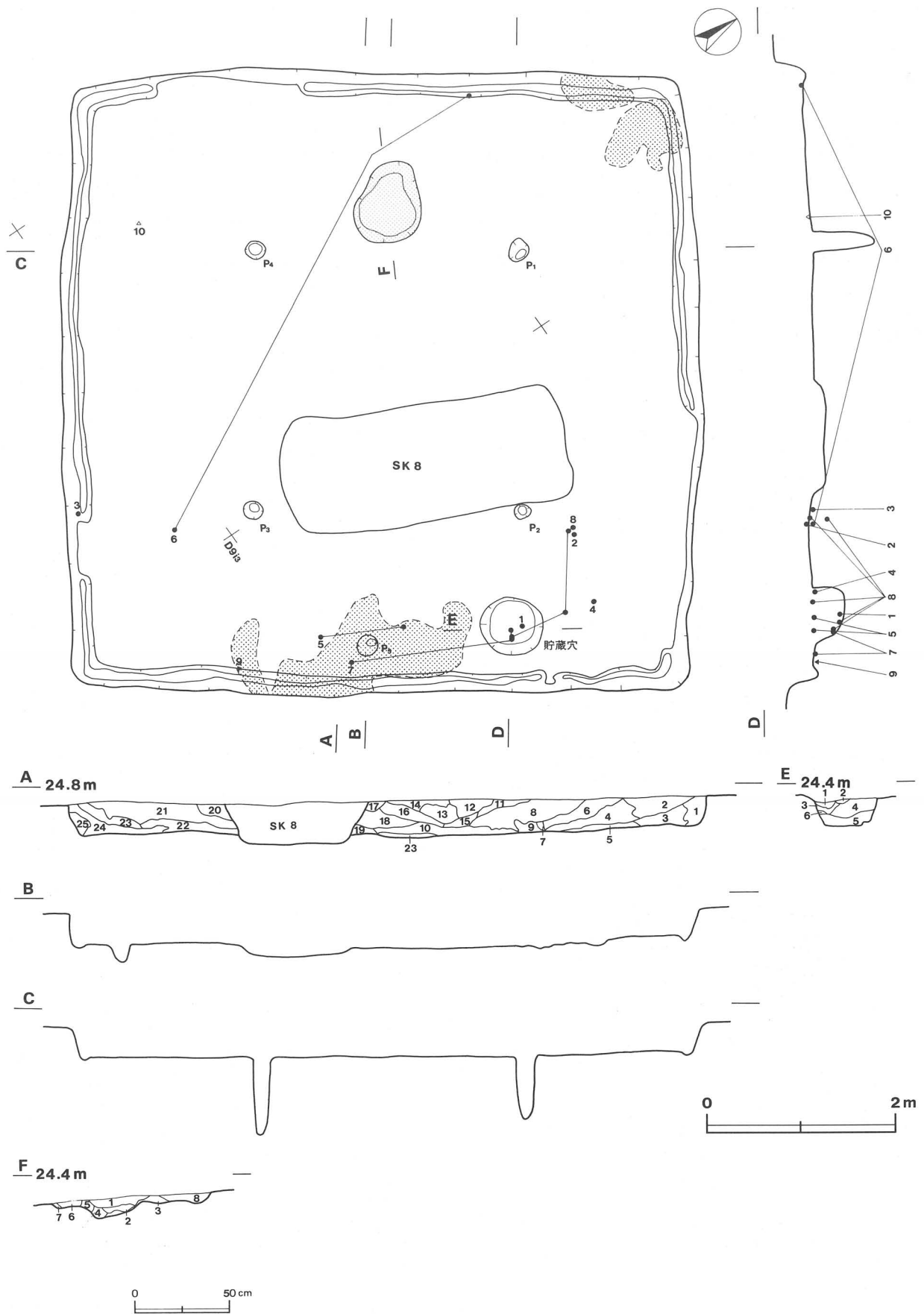
主軸方向 N-53°-W。

壁 壁高は34~44cmで、外傾して立ち上がっている。

壁溝 ほぼ全周している。東コーナー寄りの北東壁下及び西コーナー寄りの北西壁下からは確認されていない。

上幅7~18cm, 下幅6~13cm, 深さ3~7cmで、断面形は皿状をしている。

床 ほぼ平坦で、全体的に硬く踏み固められている。

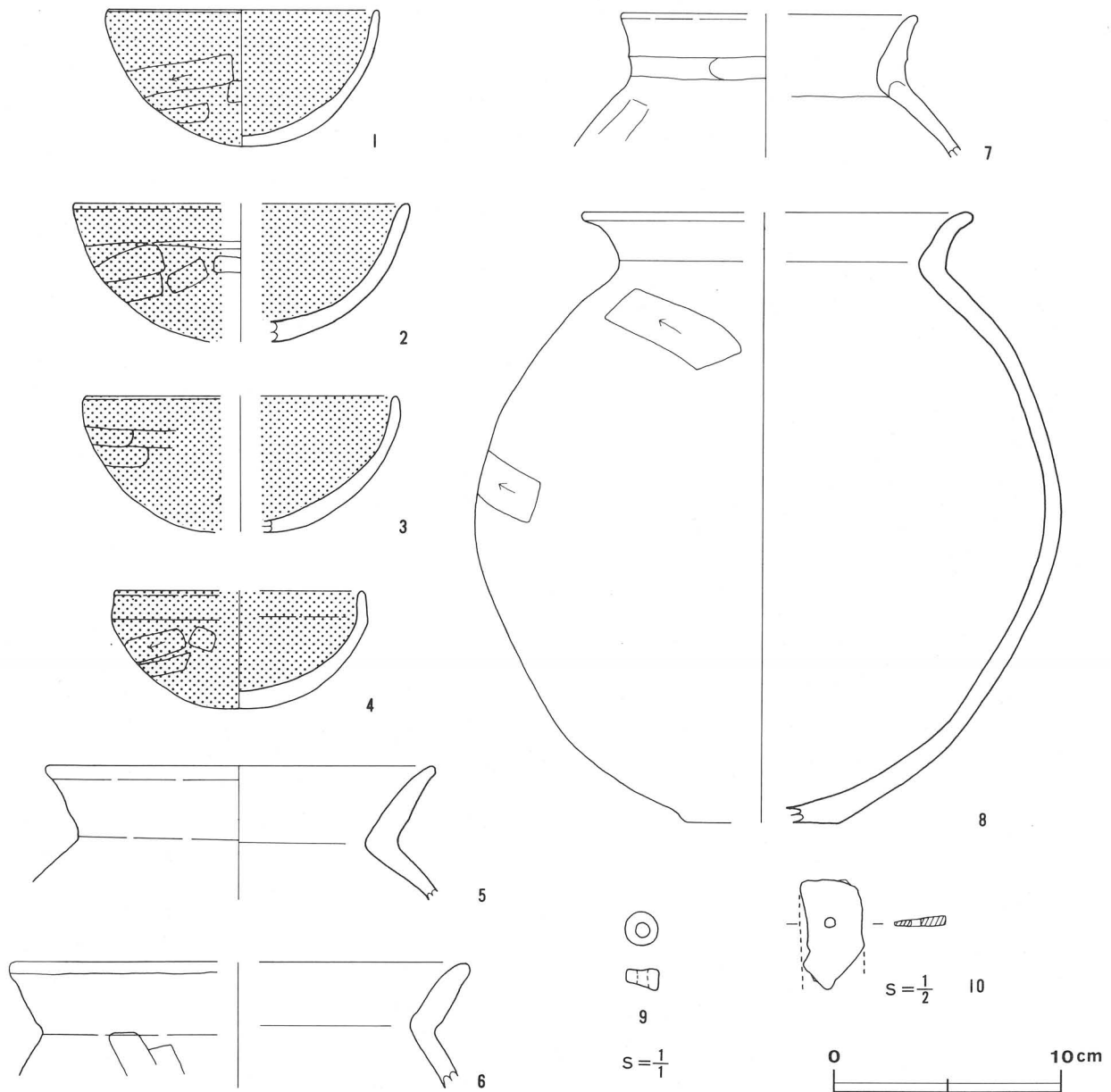


第59图 第13号住居跡実測図

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は、径18~24cm、深さ68~84cmで支柱穴、P₅は、径24cm、深さ20cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央から北西寄りにあり、長径96cm、短径70cmの楕円形で、床面を4~10cm程掘り窪めている。覆土は8層からなり、第1層は焼土粒子を少量と焼土小ブロックを微量に含む赤褐色土、第2層は同じく赤褐色土で、第1層に比べ焼土粒子を多量に含む。第3層も赤褐色土であるが、焼土ブロックは含まれない。第4層は焼土粒子を中量と炭化粒子を微量含むにぶい赤褐色土、第5層は焼土粒子を多量と炭化粒子を少量含む赤褐色土、第6層は焼土粒子及び焼土中ブロックを少量含むにぶい赤褐色土、第7層はローム粒子及び焼土粒子を微量含む褐色土、第8層はローム粒子及び焼土粒子と焼土小ブロックを少量含む褐色土である。炉床は、凸凹でブロック状に赤変硬化している。

貯蔵穴 南東壁からやや中央寄りに付設されている。径68cmの円形で、深さは35cmである。底面は皿状で、壁は北西側はほぼ垂直に、南東側は外傾して立ち上がっている。覆土は6層からなり、すべて褐色土である。



第60図 第13号住居跡出土遺物実測図

第1層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量，第2層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量，第3層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量，第4層はローム粒子及びローム小ブロックを少量，第5層はローム粒子を少量とローム小ブロックを極微量，第6層はローム粒子及び炭化粒子を微量に含む層である。

覆土 25層からなり，人為堆積である。壁際からローム粒子，ロームブロック混じりの褐色土及び暗褐色土で埋め戻されている。南東及び北西壁際の床面には，厚さ5cm前後に堆積した焼土が確認されている。

遺物 覆土下層から床面にかけて，投棄されたと思われる土師器片が多量に出土している。第62図2・4の土師器坏は東コーナー付近の床面から潰れた状態で，3の土師器坏は南コーナー寄りの南西壁際の床面から正位の状態出土している。5の土師器甕は南東壁中央の壁際床面から潰れた状態で出土している。9の白玉は南コーナー付近の床面から，1の土師器坏は貯蔵穴底面から正位の状態，10の小札は西コーナー付近の床面から出土している。

所見 遺物は破碎されたと思われる細片が多い。壁際に焼土塊がみられることから，焼失した住居と考えられる。本跡は，出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

第13号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第60図 1	坏 土師器	A 12.0 B 6.2	口縁部の一部欠損。丸底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P79 PL44 90% 床面
2	坏 土師器	A 14.9 B (6.2)	底部及び口縁部の一部欠損。丸底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は僅かに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P80 PL44 75% 床面
3	坏 土師器	A [14.0] B (5.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P81 30% 床面
4	坏 土師器	A [11.0] B 5.2	底部から口縁部の破片。丸底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P82 30% 床面
5	甕 土師器	A 17.0 B (6.0)	体部から口縁部の破片。頸部は外傾して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P83 15% 床面
6	甕 土師器	A [20.0] B (5.7)	体部から口縁部の破片。頸部は外傾して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P84 10% 床面
7	甕 土師器	A [13.1] B (6.5)	体部から口縁部の破片。頸部は外傾して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面下位及び体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P85 15% 床面
8	甕 土師器	A [17.2] B 27.5 C 6.6	底部から口縁部の一部欠損。平底で，体部は内彎して立ち上がる。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P86 80% 床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考			
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)					
9	白玉	0.3	0.7	0.3	0.1	床面	孔径 2.0mm	Q19 100%	滑石	PL71
10	小札	(3.3)	1.8	0.3	(1.7)	床面	孔径 2.0mm	M4	鉄製	PL71

第14号住居跡（第61図）

位置 2区北西部，D8f₉区。

重複関係 本跡の南西部は第9号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸7.00m，短軸6.90mの方形である。

主軸方向 N-15°-W。

壁 壁高は12~28cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝 北壁下の大半及び西壁下から南壁下の一部にかけて確認されている。上幅8~18cm，下幅3~14cm，深さ3~6cmで，断面形は皿状をしている。

床 ほぼ平坦で，壁際を除き硬く踏み固められている。南東コーナーから中央寄りには，貯蔵穴を囲むように，長さ約1.50m，幅38cmで，高さ4cm程の弧状の高まりが確認されている。

ピット 5か所（P₁~P₅）。P₁~P₄は，径30~45cm，深さ49~76cmで支柱穴，P₅は径24~44cm，深さ10cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。

炉 2か所（炉A・B）。いずれも中央から北寄りに確認されている。炉Aに比べて炉Bの使用頻度は低い。

炉Aは，長径64cm，短径55cmの楕円形で，床面を6cm程掘り窪めている。覆土は6層からなる。第4層がにぶい赤褐色土のほかは，すべて赤褐色土である。第1層は焼土粒子を少量，第2層は焼土粒子を多量と焼土小ブロックを中量，第3層は焼土粒子を中量，第4層は焼土粒子を少量，第5層は焼土粒子を中量と焼土小ブロックを少量含んでいる。第6層は第5層とほぼ同様であるが焼土ブロックは含まない。炉床は凸凹で，火熱を受け赤変硬化している。炉Bは，長径72cm，短径62cmの楕円形で，床面を8cm程掘り窪めている。覆土は6層からなり，第1層は焼土粒子を微量に含む褐色土，第2層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含む赤褐色土，第3層は焼土粒子を中量と焼土小ブロック及び炭化粒子を微量に含む赤褐色土，第4層は焼土粒子を多量と焼土小ブロックを中量含む明褐色土，第6層は焼土粒子を多量と焼土小ブロックを少量及び炭化粒子を微量に含む赤褐色土である。炉床は火熱を受け赤変している。

貯蔵穴 南東コーナーに付設されている。長径80cm，短径70cmの楕円形で，深さは54cmである。底面は皿状で壁は外傾して立ち上がっている。覆土は3層からなり，第1層はローム粒子を少量含む褐色土，第2層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量含む褐色土，第3層はローム粒子を少量含む黄褐色土である。

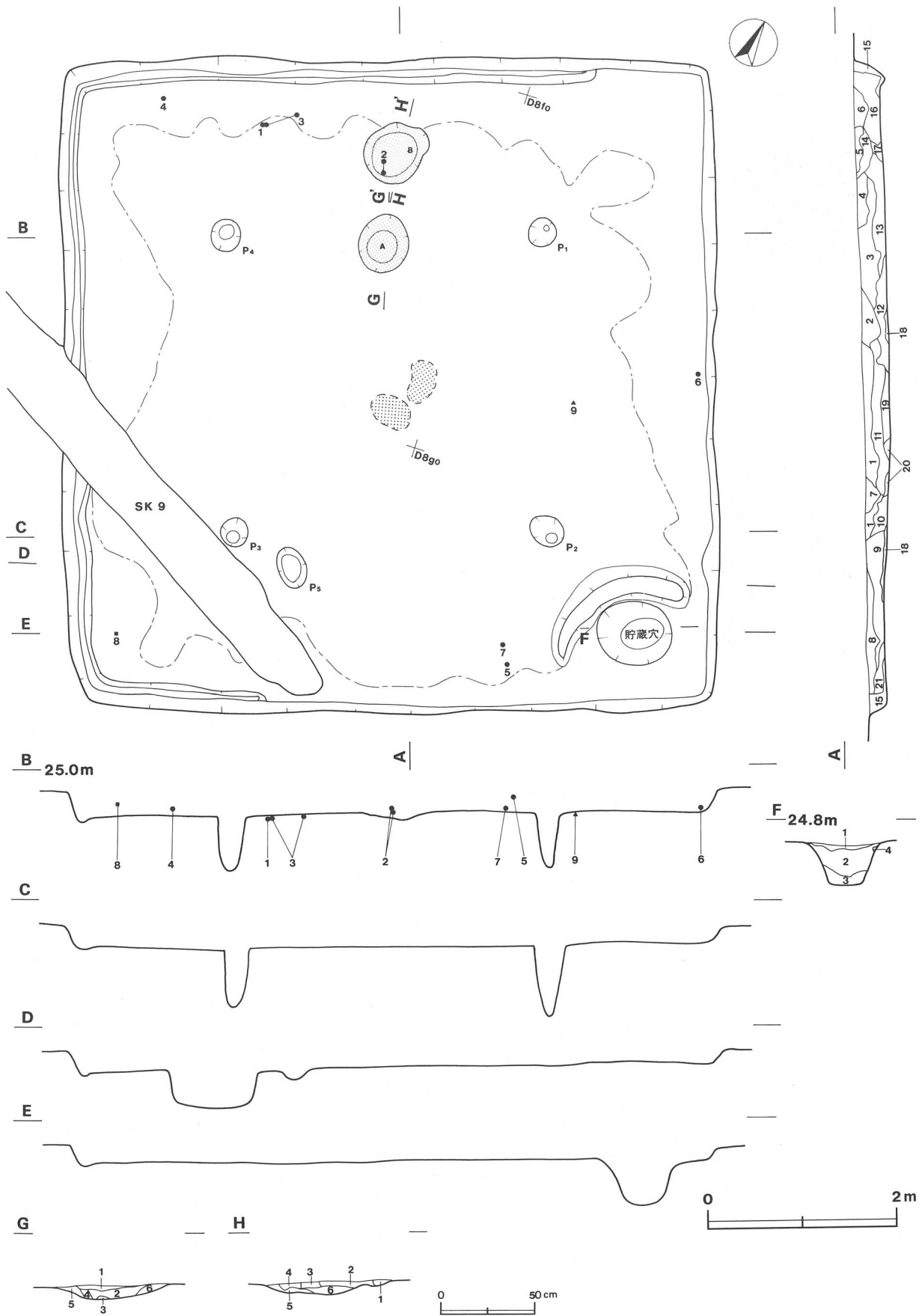
覆土 21層からなり，人為堆積である。

遺物 中央部の覆土上層及び壁際の覆土下層から床面にかけて少量出土している。第62図1・3の土師器坏は西コーナー寄りの北西壁際の床面から，4の土師器坏は北西コーナーの覆土下層からそれぞれ潰れた状態で，5の土師器坏と7の土師器甕は南東壁中央の壁際床面から，それぞれ正位，横位の状態で，6の土師器坏は北東壁中央の壁下から正位の状態で出土している。9の砥石は東寄りの床面から出土している。

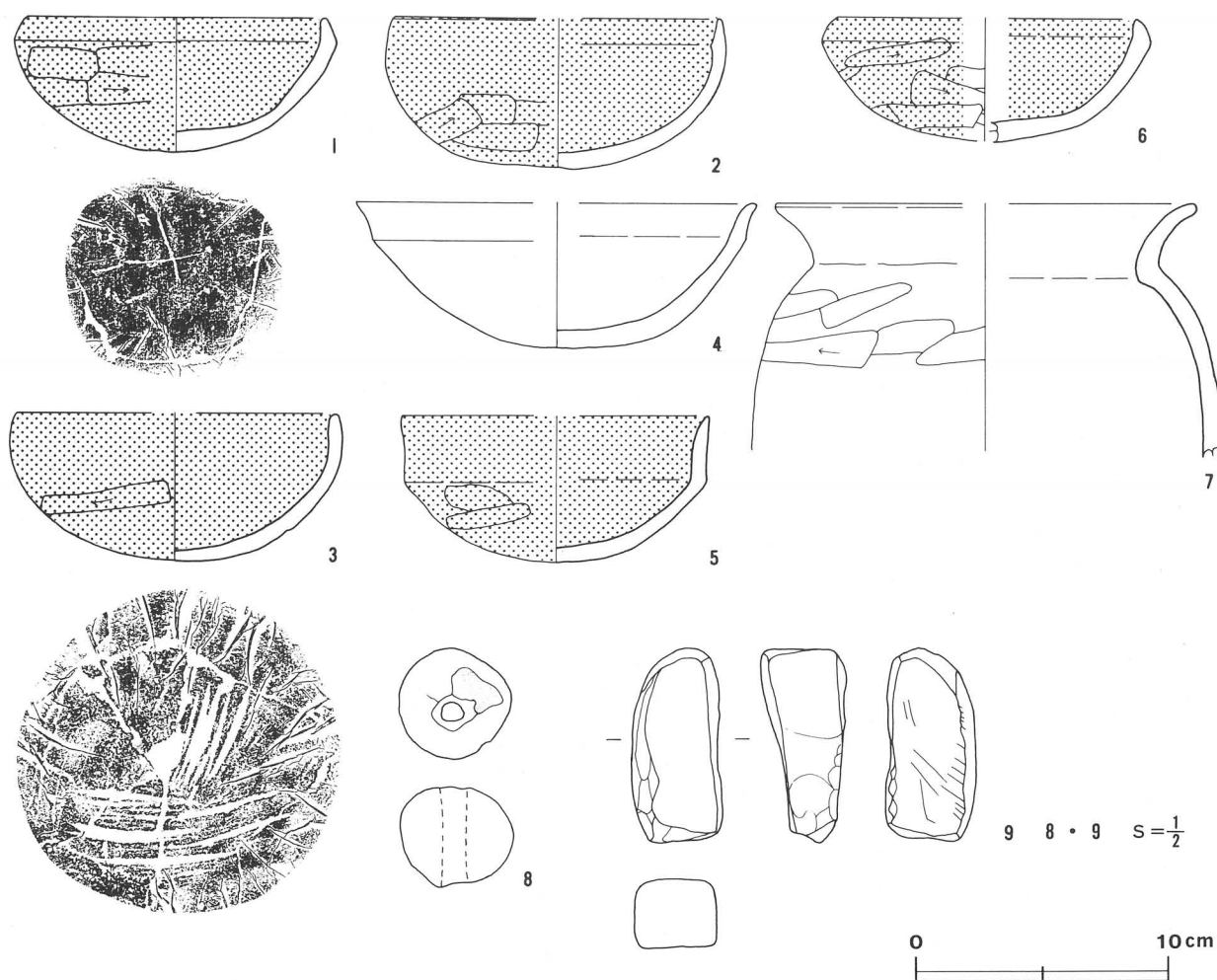
所見 本跡は，出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

第14号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第62図 1	坏 土師器	A 12.1 B 5.5	体部の一部欠損。丸底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。底部にヘラ記号。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P87 P L44 90% 床面
2	坏 土師器	A [13.0] B 6.2	体部から口縁部の一部欠損。丸底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P88 P L44 80% 覆土下層



第61图 第14号住居迹实测图



第62図 第14号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	坏土師器	A [13.0] B 6.0	体部から口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。内・外面赤彩。	砂粒にぶい赤橙色普通	P89 PL44 80% 砥石に転用床面
4	坏土師器	A [16.0] B 6.0	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・砂粒にぶい黄橙色普通	P90 PL44 70% 覆土下層
5	坏土師器	A [12.3] B 6.0	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒赤褐色普通	P91 PL44 50% 覆土上層
6	坏土師器	A [12.2] B (5.1)	底部から口縁部の破片。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒にぶい赤褐色普通	P92 45% 覆土下層
7	甕土師器	A [16.9] B (10.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・砂粒明褐色普通	P93 PL44 20% 床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
8	球状土錘	2.7	3.0	2.7	18.2	覆土中層	孔径 7.0mm DP19 100% PL68
9	砥石	(5.2)	3.4	1.9	(37.0)	床面	Q20 砂岩 PL70

第15号住居跡 (第63図)

位置 2区北西部, D8e₀区。

規模と平面形 長軸2.40m, 短軸2.34mの
方形である。

主軸方向 (N-122°-E)。

壁 壁高は14~18cmで, 外傾して立ち上がっている。

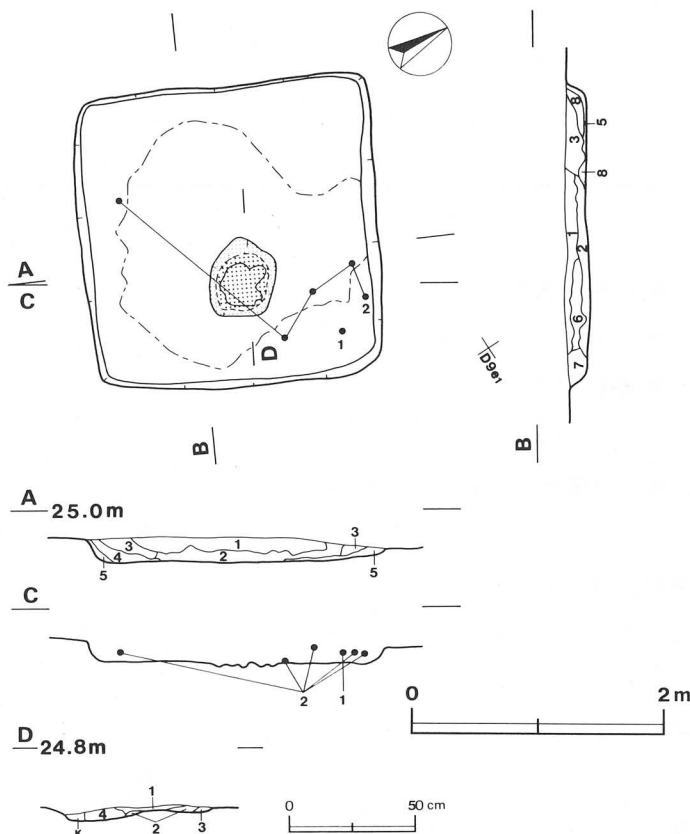
床 ほぼ平坦で, 中央部は硬く踏み固められている。

炉 中央から南東寄りにあり, 長径62cm, 短径50cmの楕円形で, 床面を僅かに掘り窪めている。覆土は4層からなり, 第1層は焼土粒子を少量含む褐色土, 第2層は焼土粒子を多量と焼土小ブロックを少量含む赤褐色土, 第3・4層は焼土粒子を中量含む暗赤褐色土である。炉床は火熱を受け, ブロック状に赤変硬化している。

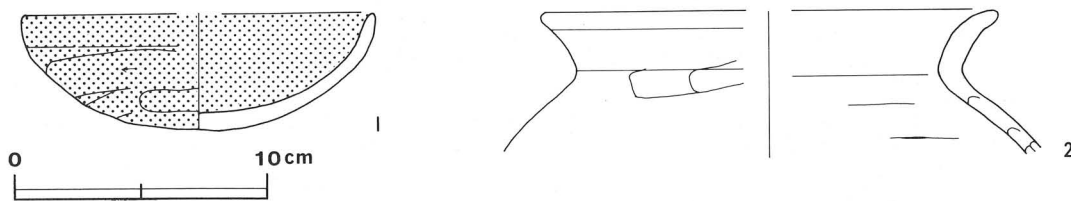
覆土 8層からなり, 自然堆積である。第1層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を極微量含む褐色土, 第2層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を微量に含む暗褐色土, 第3層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を微量に含む褐色土, 第4層はローム粒子を中量と焼土粒子及び炭化粒子を極微量に含む褐色土, 第5層はローム粒子を多量に含む粘性の強い明褐色土, 第6層はローム粒子を中量含む褐色土, 第7層はローム粒子を少量とローム小ブロックを極微量及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第8層はローム粒子を中量と焼土粒子及び炭化粒子を微量に含む褐色土である。

遺物 土師器片が少量出土している。第64図1の土師器坏は, 第2層東コーナー付近から潰れた状態で, 2の土師器甕は, 同じく東コーナー付近から出土した破片と西コーナー付近から出土した破片が接合したものである。

所見 本跡は, 床面の硬化具合から頻繁に出入りがあった建物と考えられるが, 規模が小さいため住居跡とは考えにくい。使用頻度が高かったと思われる炉が確認されていることから, 火の使用を主目的とした建物跡と考えられる。本跡は, 出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。



第63図 第15号住居跡実測図



第64図 第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第64図 1	坏 土師器	A [14.0] B 4.6	体部から口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P94 75% 覆土中層
2	甕 土師器	A [18.2] B (5.8)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P95 10% 覆土上層

第16号住居跡（第65図）

位置 2区北西部，D8d₀区。

重複関係 本跡の北東部は，第6号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸2.60m，短軸2.42mの方形である。

長軸方向 (N-122°-E)。

壁 壁高は21~28cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。

覆土 5層からなり，人為堆積である。第

1層はローム粒子少量とローム小ブロック及び炭化粒子を極微量に含む褐色土，

第2層はローム粒子少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量に含む褐色

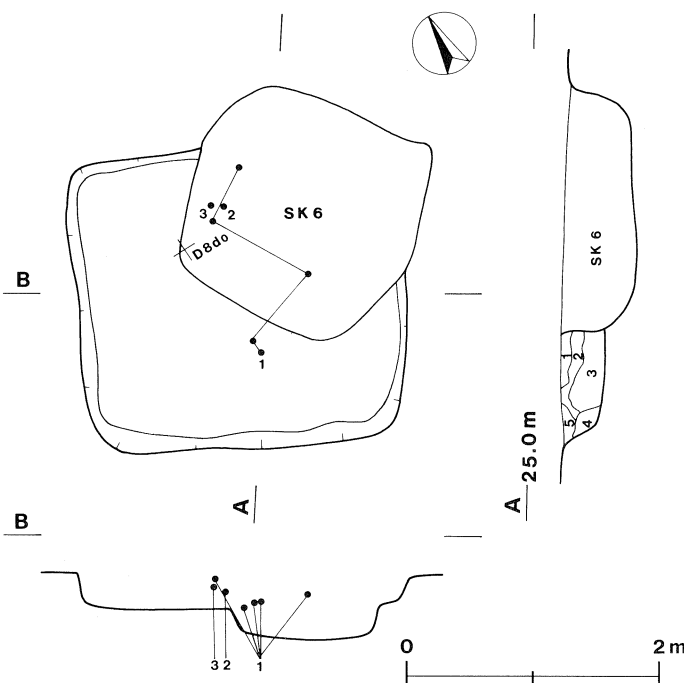
土，第3層はローム粒子を微量と炭化物を極微量に含む暗褐色土，第4層はローム粒子及びローム小ブロック

と炭化粒子を微量に含む締まりのある褐色土，第5層はローム粒子及び炭化粒子を微量に含む暗褐色土である。

遺物 下層から床面にかけて土師器の坏・甕片等が少量出土している。第66図1~3の土師器甕は，北壁際覆

土下層から1と2は逆位，3は正位の状態出土している。

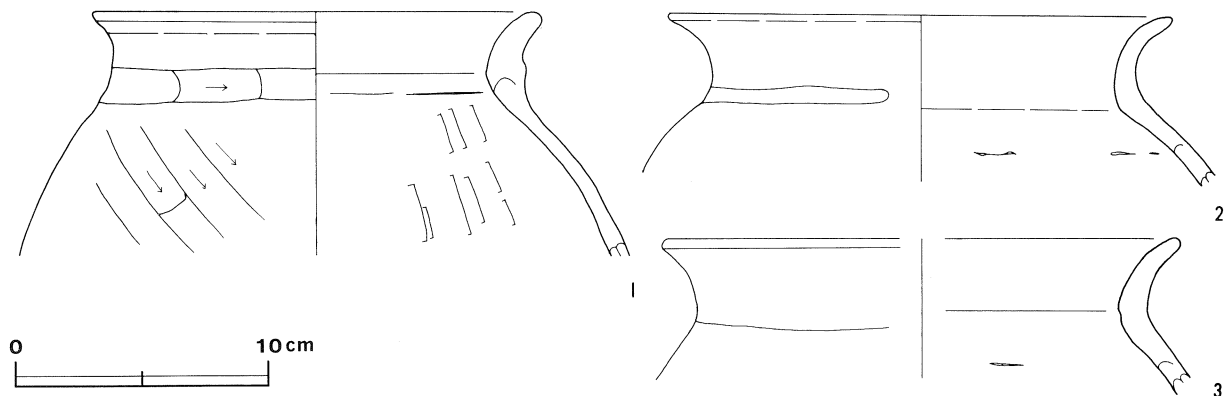
所見 住居の約3分の1が，第6号土坑に掘り込まれているため，炉等の内部施設は確認できないが，規模及び主軸方向等，第15号住居跡とほぼ同様であることから，本跡にも中央から南西寄りに炉が存在していた可能性が高い。本跡は，出土遺物から古墳時代中期後半の建物跡である。



第65図 第16号住居跡実測図

第16号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第66図 1	甕 土師器	A 17.8 B (9.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部下位及び体部外面へら削り。内面へらナデ。	長石・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P96 25% 覆土下層
2	甕 土師器	A 20.0 B (6.8)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は大きく外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部最下位へら削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P97 P L45 20% 覆土下層
3	甕 土師器	A 20.2 B (5.6)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へらナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P98 10% 覆土下層



第66図 第16号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡 (第67図)

位置 2区北東部, C9j₄区。

重複関係 本跡の中央から北東寄りには第47号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸7.80m, 短軸7.66mの方形である。

主軸方向 N-37°-W。

壁 壁高は38~52cmで, 外傾して立ち上がっている。

壁溝 南コーナーの壁下を除き, 壁下を全周している。上幅7~20cm, 下幅5~16cm, 深さ8~12cmで, 断面形はU字状をしている。

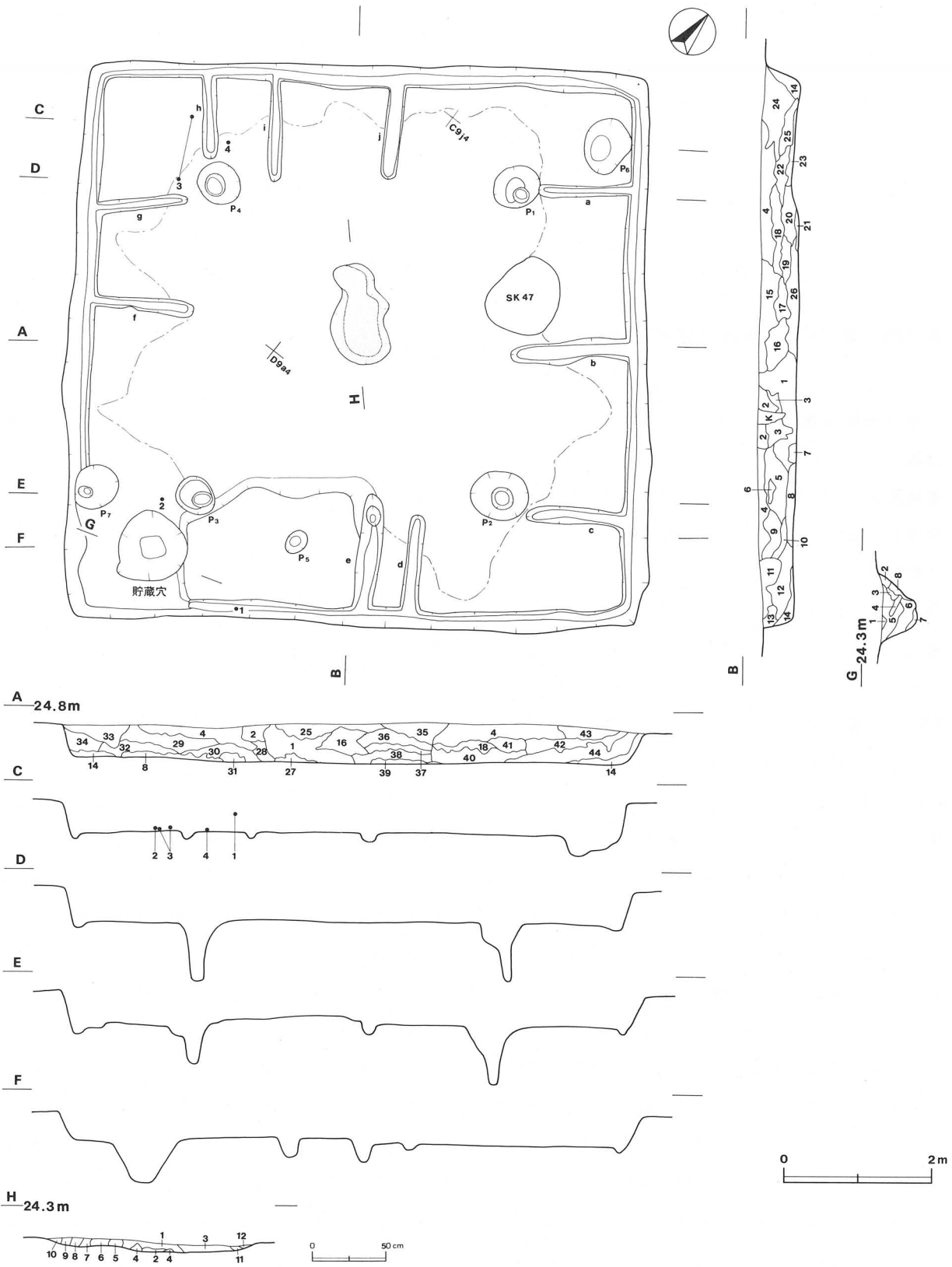
間仕切り溝 10条 (a~j)。北東壁側に3条 (a~c), 南東壁側に2条 (d・e), 南西壁側に2条 (f・g), 北西壁側に3条 (h~j) 確認され, 長さ1.10~1.60m, 上幅12~32cm, 下幅6~16cm, 深さ7~28cmで, 断面形はU字状をしている。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除いて硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには, 長軸2.80m, 短軸1.70m, 高さ10cm程の不定形の高まりがみられ, 出入口施設と考えられる。

ピット 7か所 (P₁~P₇)。P₁~P₄は, 径56~80cm, 深さ56~82cmで支柱穴, P₅は, 径34cm, 深さ28cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。P₆・P₇は, 径70~78cm, 深さ8~30cmで性格は不明である。

炉 ほぼ中央にあり, 長軸1.40m, 短軸0.42mの不定形で, 床面を4cm程掘り窪めている。覆土は12層からなり, 第1層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を微量に含む褐色土, 第2層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含む暗褐色土, 第3層は焼土粒子を中量と炭化粒子を少量含む暗褐色土, 第4層は焼土粒子を多量と焼土小ブロックを少量含む赤褐色土, 第5層は焼土粒子を多量に含む暗赤褐色土, 第6層は焼土粒子を中量と焼土小ブロックを少量含む暗赤褐色土, 第7層は焼土粒子を多量と焼土小ブロックを微量に含む暗赤褐色土, 第8層は焼土粒子を少量含む暗赤褐色土, 第9層は焼土粒子を多量と焼土小ブロック及び炭化粒子を微量に含む暗赤褐色土, 第10層は焼土粒子を少量含む暗褐色土, 第11層はローム粒子を中量と焼土粒子を微量に含む暗褐色土, 第12層は焼土粒子及び炭化粒子を少量含む暗褐色土である。

貯蔵穴 南コーナーに付設されている。径96cmのほぼ円形で, 深さは54cmである。底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がっている。覆土は8層からなり, 第1層はローム粒子を少量含む黒褐色土, 第2層はローム粒子を少量と炭化粒子を極微量に含む褐色土, 第3層はローム粒子を少量とローム小ブロックを中量含む黄褐色土, 第4層はローム粒子及びローム小ブロックを微量に含む褐色土, 第5層はローム粒子を少量と炭化粒子



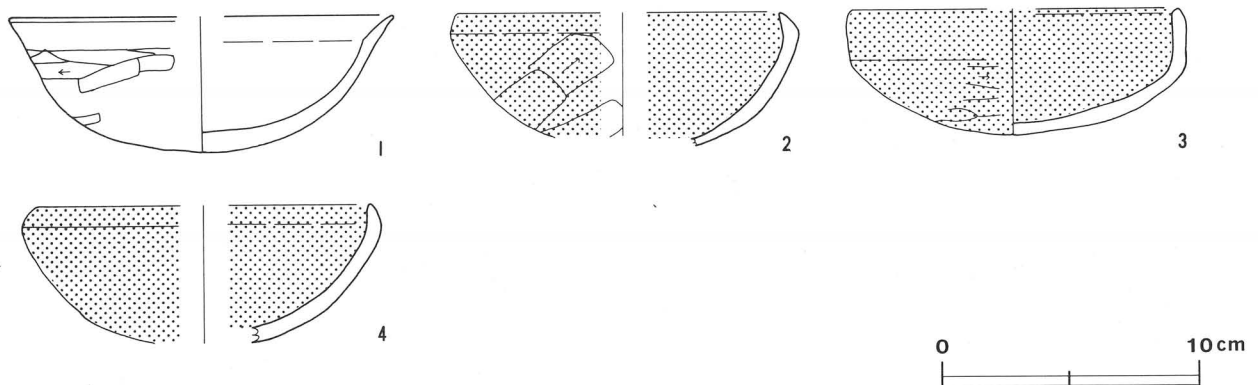
第67図 第17号住居跡実測図

を極微量に含む褐色土、第6層はローム粒子を中量とローム小・中ブロックを微量に含む黄褐色土、第7層はローム粒子を多量に含む黄褐色土、第8層はローム粒子を多量と炭化粒子を微量に含む黄褐色土である。

覆土 44層からなり、人為堆積である。主に褐色土及び暗褐色土がブロック状に堆積している。

遺物 覆土中層から上層にかけての埋め戻された土の中から、土師器片が少量出土している。第68図1の土師器坏は南コーナー寄りの南東壁際の覆土上層から逆位の状態で、4の土師器坏は西コーナー付近の床面から潰れた状態で出土している。

所見 本跡は、当遺跡から確認された住居跡の中で、最大規模を有する住居跡である。時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。



第68図 第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第68図 1	坏 土師器	A [15.0] B 5.5	体部から口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒 明赤褐色 普通	P 99 P L 45 70% 覆土上層
2	坏 土師器	A [12.8] B (5.4)	底部及び口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P 100 P L 45 70% 床面
3	坏 土師器	A [12.8] B 5.0	底部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P 101 40% 床面
4	坏 土師器	A [13.0] B (5.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 明赤褐色 普通	P 102 30% 床面

第18号住居跡 (第69図)

位置 2区北東部, C9c₁区。

規模と平面形 長軸3.00m, 短軸2.80mの方形である。

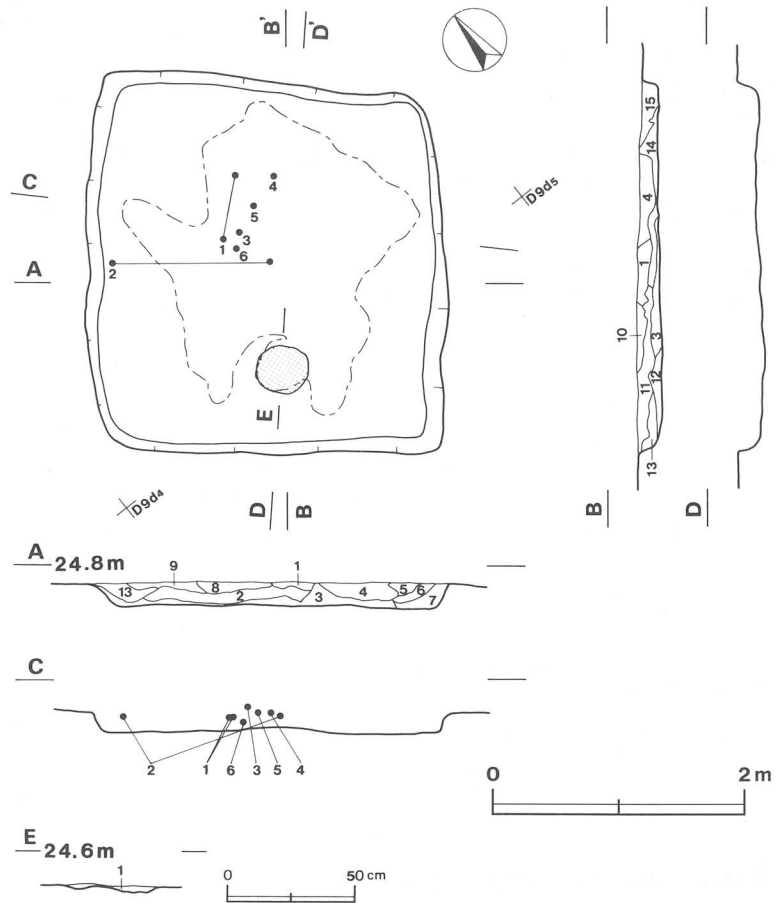
主軸方向 (N-140°-W)。

壁 壁高は14~18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部は僅かに盛り上がっている。壁際を除いて、硬く踏み固められている。

炉 中央から南西寄りにある。径40cmのほぼ円形で、床面を僅かに掘り窪めている。覆土は1層からなり、焼土粒子を少量と炭化粒子を微量含むにぶい赤褐色土である。床面は火熱を受け赤変している。

覆土 15層からなり、人為堆積である。第1層はローム粒子を微量含む褐色土、第2層はローム粒子を少量含む褐色土、第3層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土、第4層はローム粒子を微量含む暗褐色土、第5層はローム粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土、第6層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土、第7層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土、第8層はローム粒子を少量含む褐色土、第9層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び焼土粒子、炭化粒子を微量含む褐色土、第10層はローム粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土、第11層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量含む褐色土、第12層はローム粒



第69図 第18号住居跡実測図

子及び炭化粒子を微量と焼土粒子及び焼土小ブロックを中量含む明褐色土、第13層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土、第14層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む褐色土、第15層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量含む褐色土である。

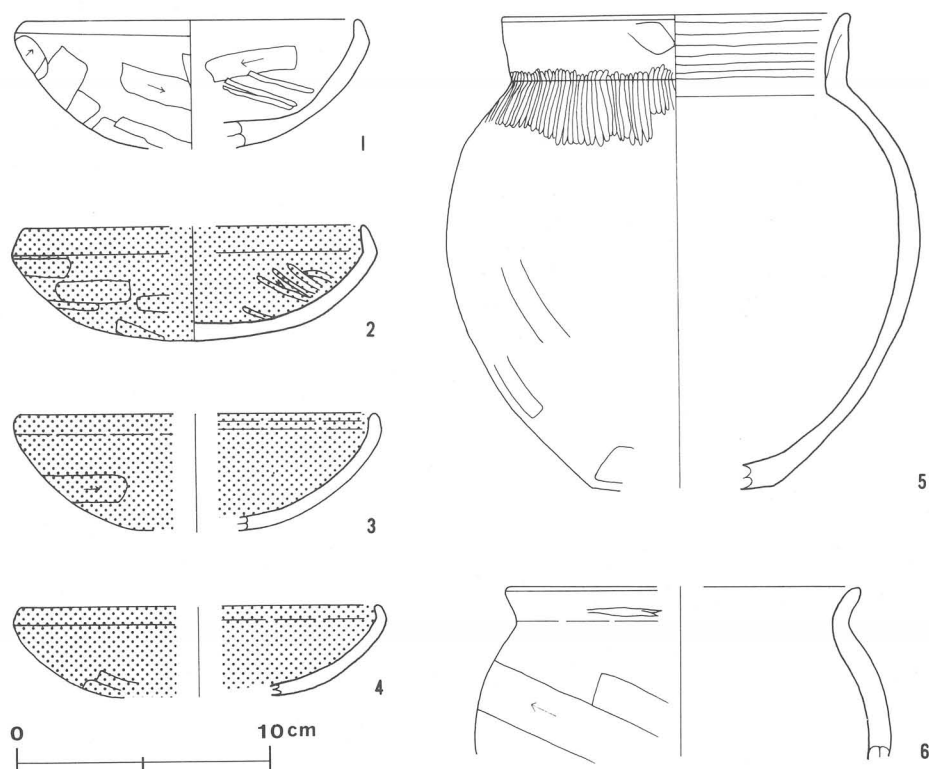
遺物 中央からやや北西寄りの覆土下層から上層にまとまって土師器片が出土している。第70図5の土師器甕は中央寄りの覆土上層、6は中央部覆土下層から、1・2の土師器坏は中央から北西寄りの覆土上層から、それぞれ潰れた状態で出土している。

所見 本跡は、炉以外に内部施設をもたない小形の建物跡である。時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。

第18号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第70図 1	坏 土師器	A 13.2 B (5.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へら削り後、磨き。	長石・スコリア・砂粒にぶい橙色普通	P103 40% 覆土上層
2	坏 土師器	A [13.4] B 4.6	体部及び口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒赤色普通	P104 50% 覆土上層
3	坏 土師器	A [14.0] B (4.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒明赤褐色普通	P105 30% 覆土上層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	坏土師器	A [14.2] B (3.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 明赤褐色 普通	P 106 20% 覆土上層
5	甕土師器	A 13.8 B (19.1) C [7.2]	底部及び体部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、最大径を上位にもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部外面横ナデ。口縁部内面及び頸部下位から体部上位にかけてへら磨き。外面下位へら削り。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P 107 P L 45 80% 覆土上層
6	甕土師器	A [13.8] B (7.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P 108 30% 覆土下層



第70図 第18号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡 (第71図)

位置 2区北東部, D9c₅区。

規模と平面形 長軸3.20m, 短軸3.14mの方形である。

主軸方向 (N-36°-E)。

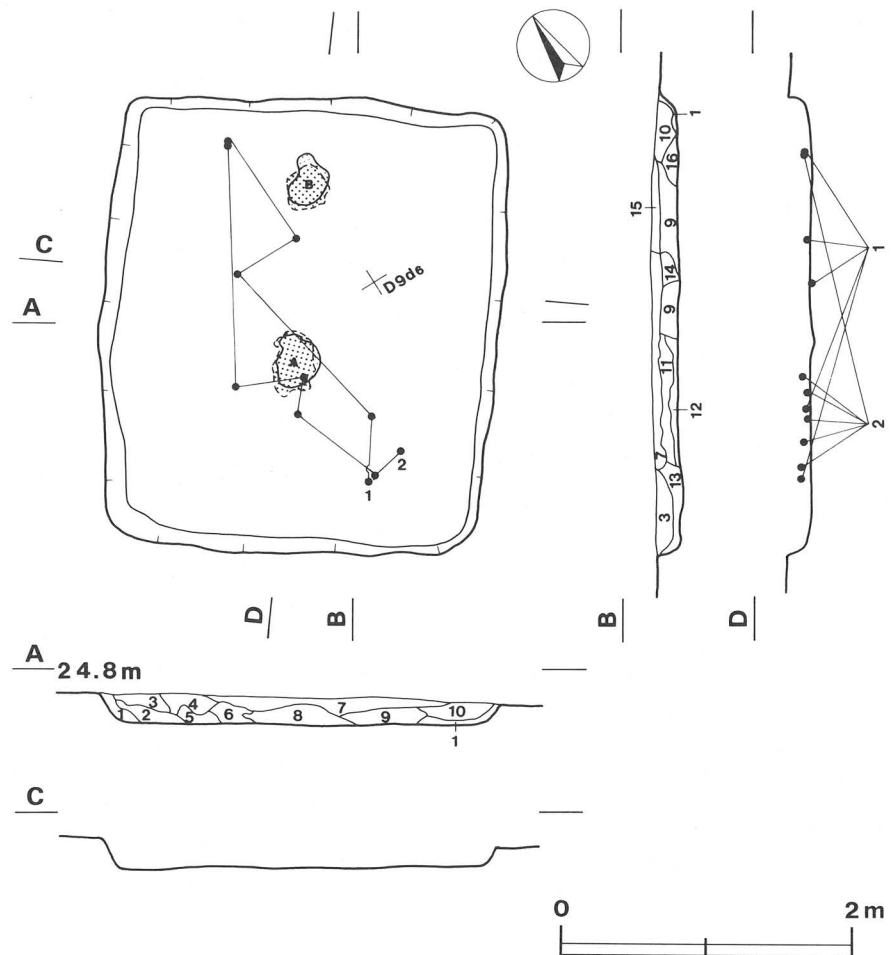
壁 壁高は12~22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、全体的に硬く踏み固められている。

炉 2か所 (炉A・B)。炉Aは中央から南西寄りにあり、長軸38cm, 短軸30cmである。炉Bは中央から北東寄りにあり、長軸36cm, 短軸22cmである。いずれも不整形で、炉床は掘り窪められておらず、床面が赤変している程度で、使用頻度の低いものである。

覆土 16層からなり、人為堆積である。第1層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量含む褐色土, 第2層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第3層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第4層はローム粒子及びローム小ブロックを少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む

む褐色土，第5層はローム粒子を微量含む褐色土，第6層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び焼土粒子，炭化粒子を微量含む褐色土，第7層はローム粒子を微量含む褐色土，第8層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土，第9層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む褐色土，第10層はローム粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土，第11層はローム粒子を少量含む褐色土，第12層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む褐色土，



第71図 第19号住居跡実測図

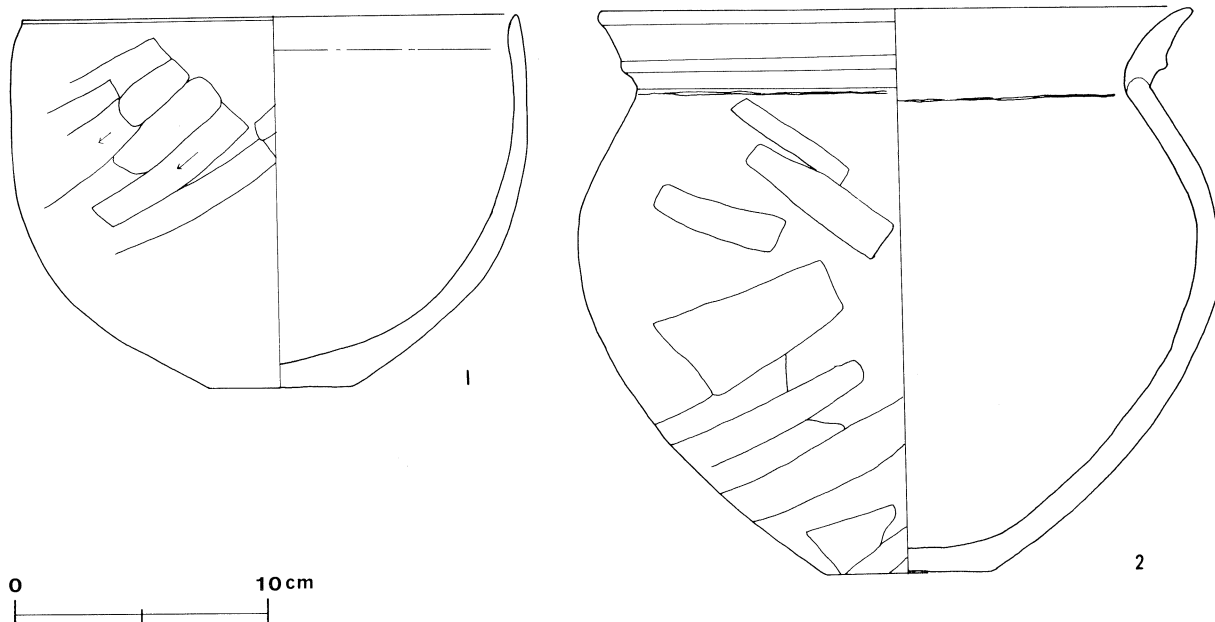
第13層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む黄褐色土，第14層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む暗褐色土，第15層はローム粒子を少量含む褐色土，第16層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び焼土小ブロックを微量含む褐色土である。

遺物 炉周辺の覆土下層及び床面から土師器片が少量出土している。第72図1の土師器鉢は炉Aと炉Bの間の覆土最下層から潰れた状態で出土したものと南コーナー付近の覆土最下層から出土した破片が接合したものである。2の土師器甕は，炉A周辺の覆土最下層から出土した破片と北及び南コーナー付近の覆土最下層から出土した破片が接合したものである。遺物は掲載したもののほかに，土師器片が127点出土したがすべて甕片である。

所見 炉以外に内部施設をもたない小形の建物跡である。本跡は，出土遺物から古墳時代中期後半の建物跡である。

第19号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第72図 1	鉢 土師器	A 19.8 B 14.9 C 5.8	体部の一部欠損。平底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P109 PL45 90% 覆土下層
2	甕 土師器	A 23.4 B 22.6 C 6.4	体部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。頸部に突出する稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P110 PL45 85% 覆土下層



第72図 第19号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡 (第73図)

位置 2区北東部, D9e₅区。

重複関係 本跡の中央から南東寄りの床面は第45号土坑に, 北東壁中央部付近は第46号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸7.32m, 短軸7.12mの方形である。

主軸方向 N-26°-W。

壁 壁高は20~36cmで, 北西壁はほぼ垂直に, その他の壁は外傾して立ち上がっている。

壁溝 全周している。上幅10~18cm, 下幅5~14cm, 深さは6~10cmで, 断面形は皿状をしている。東コーナー寄りの北東壁側は壁から20cm程内側に確認されている。

間仕切り溝 2か所 (a・b)。南西壁側に1か所 (a), 北西壁側に1か所 (b) 確認され, 長さ1.20~1.24m, 上幅13~27cm, 下幅4~16cm, 深さ7~9cmで, 断面形は皿状をしている。

床 ほぼ平坦で, 南東及び南西部の一部には, 火熱を受けた硬化面がみられる。

ピット 6か所 (P₁~P₆)。P₁~P₄は, 径26~40cm, 深さ63~80cmで支柱穴と考えられる。P₅・P₆は, 径20~42cm, 深さ12cmで性格は不明である。

炉 中央から北西寄りにあり, 長径48cm, 短径40cmの楕円形で, 炉床は掘り窪められておらず, 床面が僅かに赤変している。

貯蔵穴 東コーナーに付設されている。長軸1.10m, 短軸1.08mの方形で, 深さは51cmである。底面はほぼ平坦で, 壁は急角度に外傾して立ち上がっている。覆土は3層からなり, 第1層はローム粒子及びローム小・中ブロックを少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量に含む褐色土, 第2層はローム粒子を多量とローム小ブロックを微量含む明褐色土, 第3層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を微量含む褐色土である。

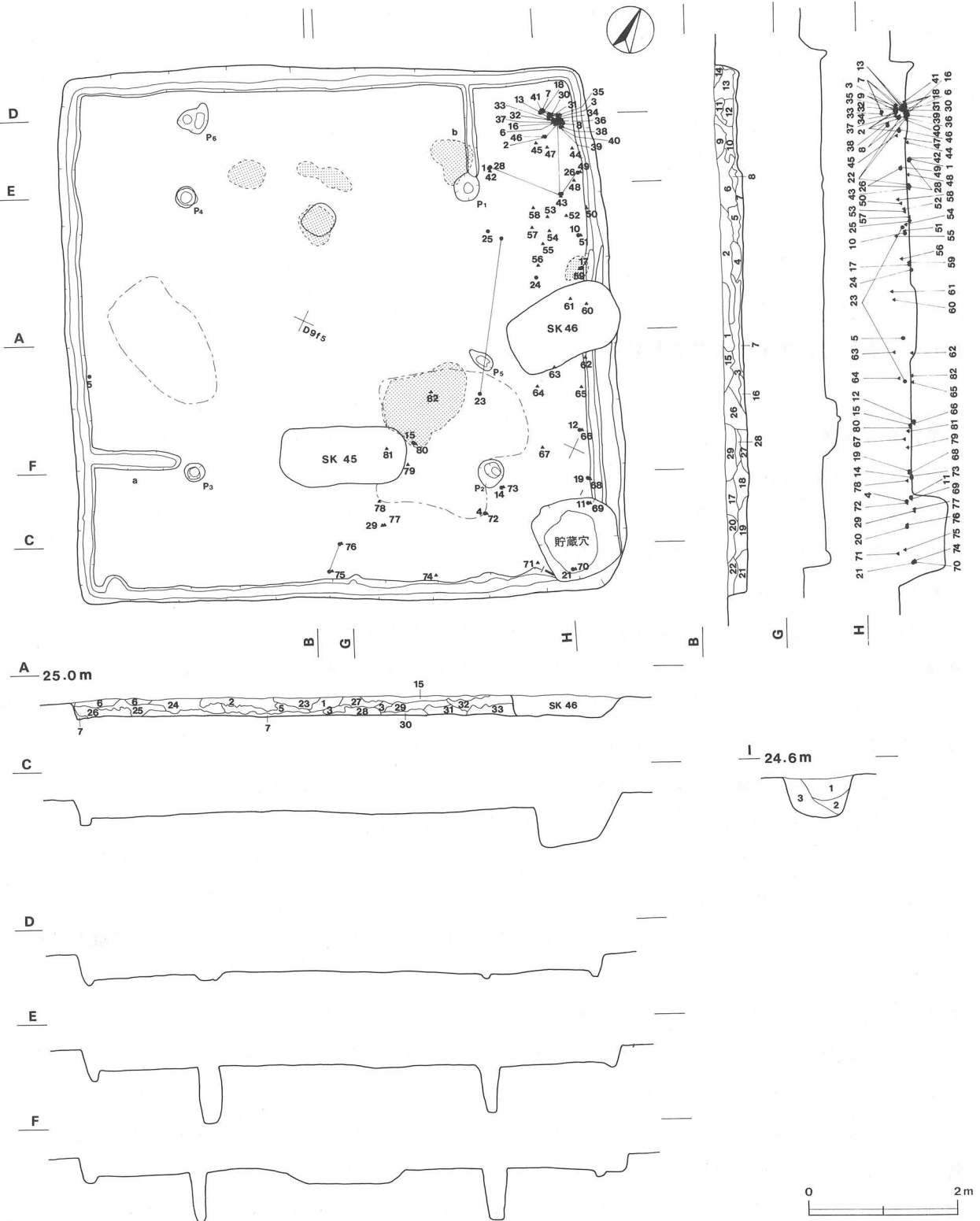
覆土 33層からなり, 人為堆積である。中層から下層にかけては, 炭化材や焼土塊がみられる。

遺物 東側の床面及び覆土下層から, 土師器の坏を主体に多量に出土している。第74~76図2・3・6~9・13・16・18・22の土師器坏は, 北コーナー床面から10点が正位に重なった状態で, 26の土師器甕は北コーナー付近の床面から正位の状態で, 28の土師器甕は北コーナー付近の床面から潰れた状態で出土している。32~82

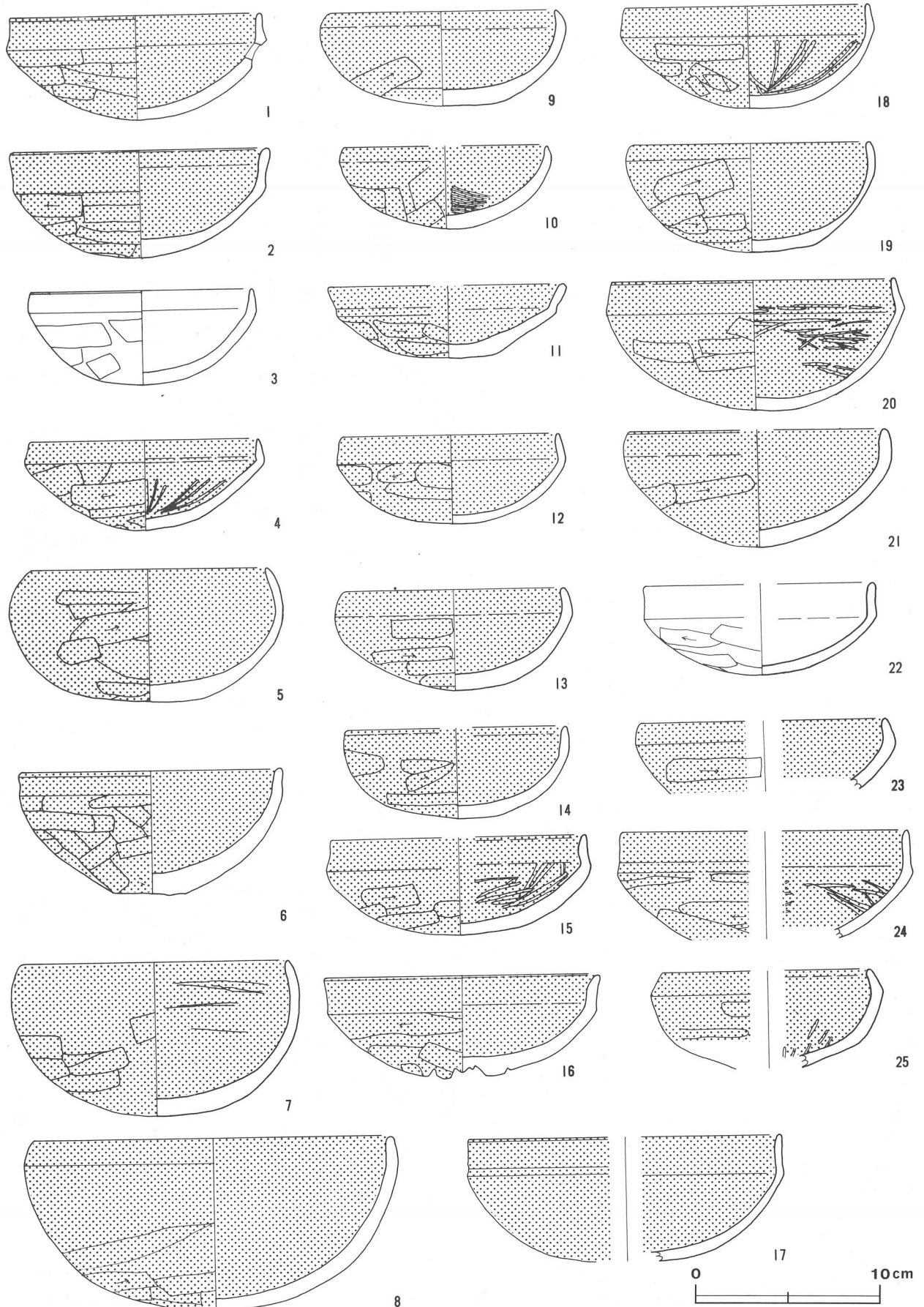
の白玉は南東壁中央の壁下の床面から出土している。

所見 焼土塊や炭化材がみられ、床面の一部が火熱を受けて赤変硬化していることから焼失住居と考えられる。

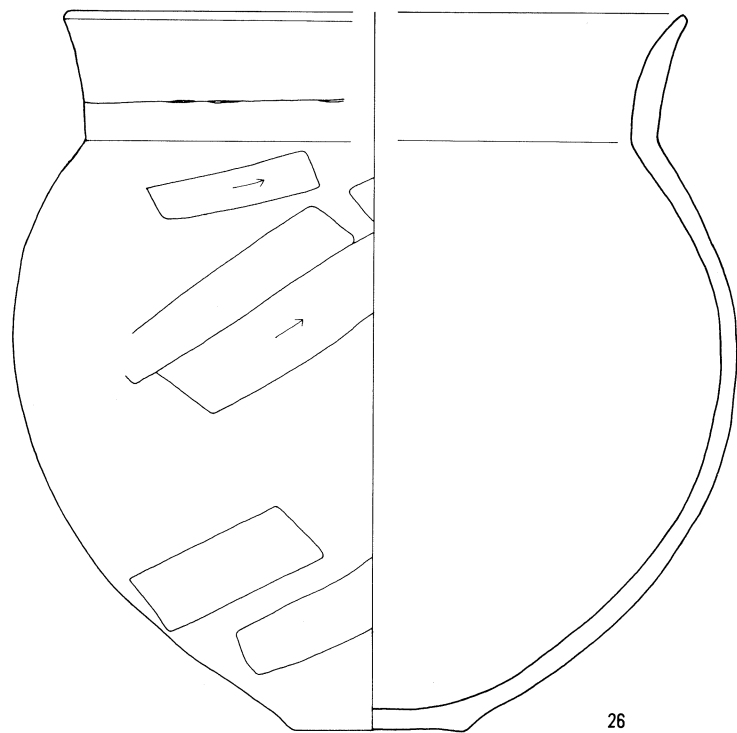
本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。



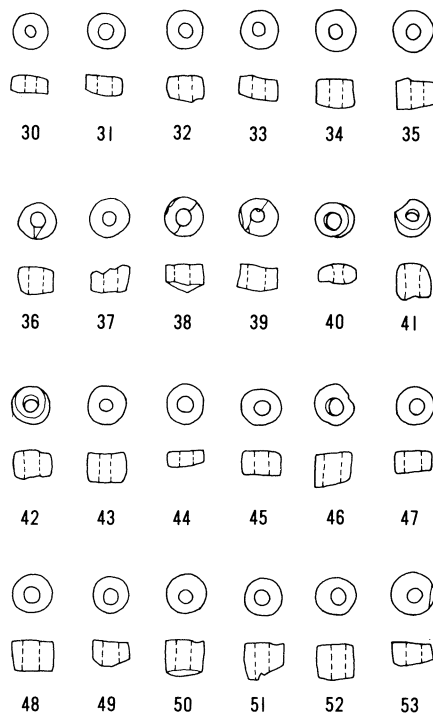
第73図 第20号住居跡実測図



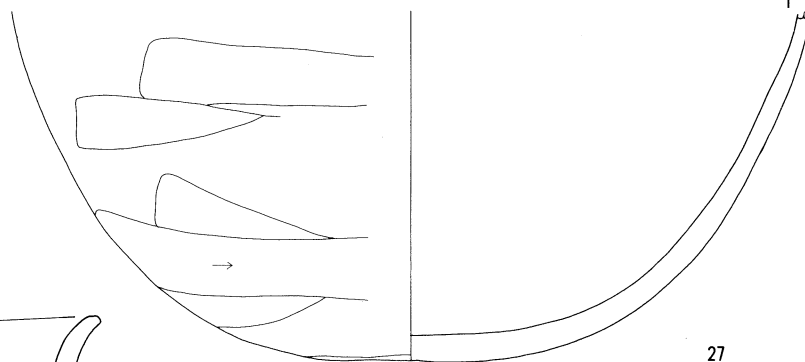
第74图 第20号住居跡出土遺物実測図(1)



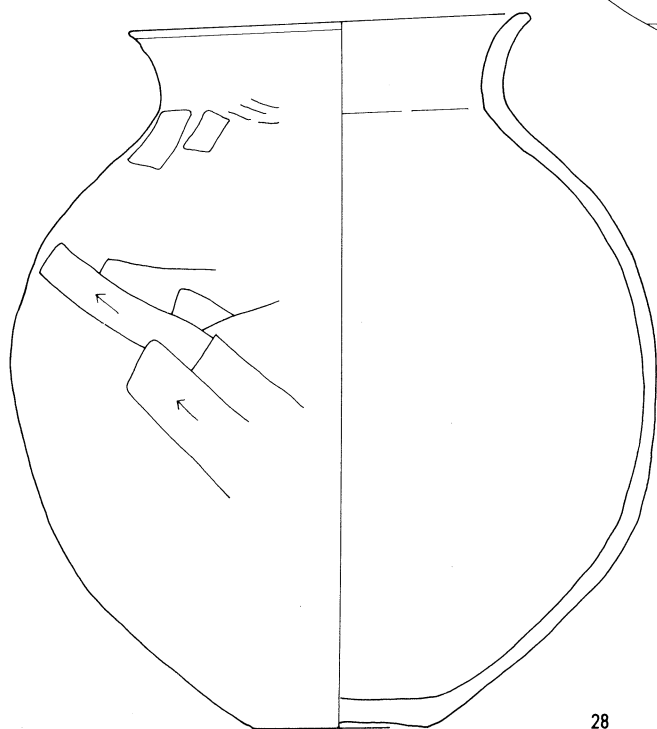
26



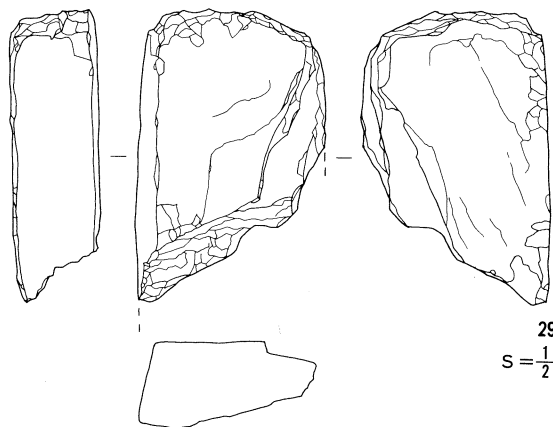
30~53 $s = \frac{1}{1}$



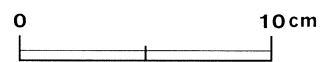
27



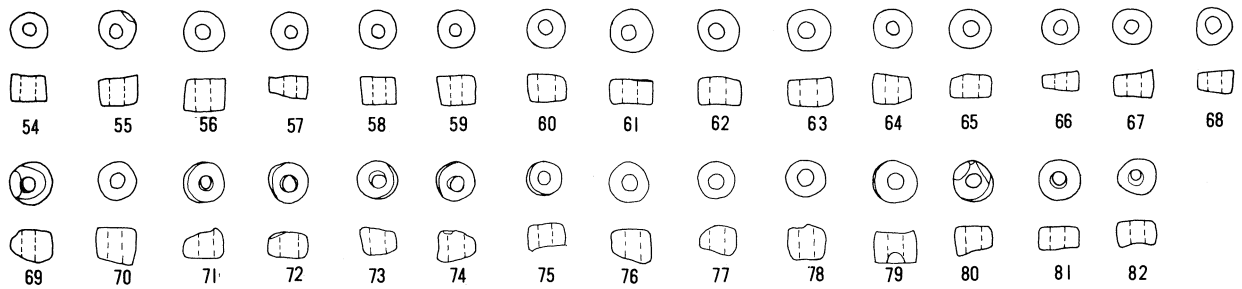
28



29
 $s = \frac{1}{2}$



第75图 第20号住居跡出土遺物実測図(2)



54~81 S = $\frac{1}{1}$

第76図 第20号住居跡出土遺物実測図(3)

第20号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第74~76図 1	坏 土師器	A 13.6 B 5.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内・外面赤彩。口縁部直下に焼成後の穿孔をもつ。	長石・砂粒 明褐色 普通	P111 P L45 100% 床面
2	坏 土師器	A 14.0 B 5.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は僅かに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。体部内面へら磨き。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P112 P L45 95% 床面
3	坏 土師器	A 12.2 B 5.2	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。	長石・スコリア・ 砂粒 明褐色 普通	P113 P L45 95% 床面
4	坏 土師器	A 12.5 B 7.3	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。体部内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P114 P L45 90% 床面
5	坏 土師器	A 12.8 B 7.3	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 にぶい褐色 普通	P115 P L46 90% 覆土
6	坏 土師器	A 14.2 B 6.7 C 4.0	口縁部の一部欠損。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。体部内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P116 P L46 95% 床面
7	坏 土師器	A 14.6 B 8.4	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部から口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。体部内面へらナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P117 P L46 85% 床面
8	坏 土師器	A 19.4 B 9.4	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。体部内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P118 P L46 80% 床面
9	坏 土師器	A 12.5 B 5.3	口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P119 P L46 95% 床面
10	坏 土師器	A [11.2] B 4.6	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P120 P L46 80% 覆土
11	坏 土師器	A [12.7] B 4.0	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は外傾して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 橙色 普通	P121 50% 床面
12	坏 土師器	A 12.0 B 4.9	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P122 P L46 60% 覆土
13	坏 土師器	A 12.0 B 5.5	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部から口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P123 P L46 70% 床面
14	坏 土師器	A 12.1 B 5.0	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 明赤褐色 普通	P124 60% 床面
15	坏 土師器	A [14.0] B 5.4	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P125 P L46 60% 床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
16	坏土師器	A 15.0 B 5.6	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P 126 P L 46 80% 砥石に転用 床面
17	坏土師器	A [16.8] B (6.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P 127 P L 46 65% 床面
18	坏土師器	A 13.4 B 5.7	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P 128 P L 47 95% 床面
19	坏土師器	A 12.8 B 6.0	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部から口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 129 P L 46 80% 床面
20	坏土師器	A 15.4 B 7.2	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。内外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P 130 P L 47 80% 覆土下層
21	坏土師器	A 14.0 B 6.4	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P 131 50% 覆土
22	坏土師器	A [12.3] B 5.0	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。	砂粒 橙色 普通	P 132 60% 床面
23	坏土師器	A 13.5 B (4.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 明赤褐色 普通	P 133 P L 47 15% 覆土下層
24	坏土師器	A [15.7] B (5.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P 134 30% 床面
25	坏土師器	A [11.1] B (5.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。体部下位を除き、内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P 135 20% 覆土
26	甕土師器	A [24.4] B 29.0 C 7.0	体部及び口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P 136 P L 47 85% 床面
27	甕土師器	B (14.1) C 7.0	底部の破片。平底で、体部は内彎して立ち上がる。	底部へら削り後、ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P 137 20% 貯蔵穴
28	甕土師器	A 16.0 B 28.5 C 7.0	体部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P 138 P L 47 75% 床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考				
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)						
29	砥石	(7.8)	5.0	2.4	123.5	床面	Q21	砂岩			P L 70
30	白玉	0.2	0.5	0.2	0.2	覆土下層	孔径 1.5mm	Q22	100%	滑石	P L 71
31	白玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm	Q23	100%	滑石	P L 71
32	白玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm	Q24	100%	滑石	P L 71
33	白玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆土上層	孔径 2.0mm	Q25	100%	滑石	P L 71
34	白玉	0.4	0.6	0.4	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm	Q26	100%	滑石	P L 71
35	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm	Q27	100%	滑石	P L 71
36	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm	Q28	100%	滑石	P L 71
37	白玉	0.4	0.6	0.4	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm	Q29	100%	滑石	P L 71
38	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm	Q30	100%	滑石	P L 71

図版番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考				
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		孔径	Q	%	滑石	PL
39	白 玉	0.4	0.6	0.4	0.2	貯 蔵 穴	孔径 2.0mm	Q31	100%	滑石	PL71
40	白 玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.0mm	Q32	100%	滑石	PL71
41	白 玉	0.5	0.5	0.5	0.2	床 面	孔径 2.5mm	Q33	100%	滑石	PL71
42	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q34	100%	滑石	PL71
43	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q35	100%	滑石	PL71
44	白 玉	0.2	0.6	0.2	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q36	100%	滑石	PL71
45	白 玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.0mm	Q37	100%	滑石	PL71
46	白 玉	0.5	0.5	0.5	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.0mm	Q38	100%	滑石	PL71
47	白 玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.0mm	Q39	100%	滑石	PL71
48	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q40	100%	滑石	PL71
49	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q41	100%	滑石	PL71
50	白 玉	0.5	0.6	0.5	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q42	100%	滑石	PL71
51	白 玉	0.5	0.5	0.5	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q43	100%	滑石	PL71
52	白 玉	0.5	0.5	0.5	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q44	100%	滑石	PL71
53	白 玉	0.3	0.6	0.3	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.0mm	Q45	100%	滑石	PL71
54	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.0mm	Q46	100%	滑石	PL71
55	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q47	100%	滑石	PL71
56	白 玉	0.5	0.6	0.5	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q48	100%	滑石	PL71
57	白 玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆 土 上 層	孔径 2.0mm	Q49	100%	滑石	PL71
58	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆 土 下 層	孔径 1.5mm	Q50	100%	滑石	PL71
59	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆 土 下 層	孔径 1.5mm	Q51	100%	滑石	PL71
60	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆 土 上 層	孔径 2.0mm	Q52	100%	滑石	PL71
61	白 玉	0.3	0.6	0.3	0.2	覆 土 上 層	孔径 2.0mm	Q53	100%	滑石	PL71
62	白 玉	0.4	0.6	0.4	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q54	100%	滑石	PL71
63	白 玉	0.4	0.6	0.4	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.0mm	Q55	100%	滑石	PL71
64	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆 土 上 層	孔径 2.0mm	Q56	100%	滑石	PL71
65	白 玉	0.3	0.6	0.3	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.0mm	Q57	100%	滑石	PL71
66	白 玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.0mm	Q58	100%	滑石	PL71
67	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.0mm	Q59	100%	滑石	PL71
68	白 玉	0.3	0.5	0.3	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q60	100%	滑石	PL71
69	白 玉	0.4	0.6	0.4	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q61	100%	滑石	PL71
70	白 玉	0.5	0.6	0.5	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q62	100%	滑石	PL71
71	白 玉	0.4	0.6	0.4	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.0mm	Q63	100%	滑石	PL71
72	白 玉	0.4	0.6	0.4	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.5mm	Q64	100%	滑石	PL71
73	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床 面	孔径 2.5mm	Q65	100%	滑石	PL71
74	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.3	床 面	孔径 2.0mm	Q66	100%	滑石	PL71
75	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.0mm	Q67	100%	滑石	PL71
76	白 玉	0.5	0.6	0.5	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.0mm	Q68	100%	滑石	PL71
77	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q69	100%	滑石	PL71
78	白 玉	0.5	0.5	0.5	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.0mm	Q70	100%	滑石	PL71
79	白 玉	0.5	0.6	0.5	0.3	覆 土 下 層	孔径 2.0mm	Q71	100%	滑石	PL71
80	白 玉	0.4	0.6	0.4	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.0mm	Q72	100%	滑石	PL71
81	白 玉	0.3	0.6	0.3	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.0mm	Q73	100%	滑石	PL71
82	白 玉	0.3	0.6	0.3	0.2	覆 土 下 層	孔径 2.0mm	Q74	100%	滑石	PL71

第21号住居跡（第77図）

位置 2区中央部，E9a₅区。

規模と平面形 長軸7.02m，短軸6.74mの方形である。

主軸方向 N-40°-E。

壁 壁高は20～62cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝 南東・南西壁下と北東・北西壁下の一部から確認されている。上幅7～19cm，下幅2～12cm，深さ4～6cmで，断面形は皿状をしている。

間仕切り溝 5条(a～e)。北東壁側から2条(a・b)，南東壁側から1条(c)，南西壁側から1条(d)，北西壁側から1条(e)確認され，長さ1.06～1.74m，上幅17～24cm，下幅5～12cm，深さ8～10cmで，断面形は皿状をしている。bはP₂と連結されている。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには，長さ2.10m，幅30～54cm，高さ4cmの土手状の高まりがみられ，出入り口施設と考えられる。

ピット 5か所(P₁～P₅)。P₁～P₄は，径32～72cm，深さ62～76cmで支柱穴，P₅は，径40cm，深さ8cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央から北西寄りにあり，長径80cm，短径24cmの楕円形で，床面を4cm程掘り窪めている。覆土は5層からなり，第1層は焼土小ブロックを少量と炭化粒子を極微量含む明褐色土，第2層は焼土小ブロック及び炭化粒子を少量含むにぶい赤褐色土，第3層は焼土小ブロックを多量に含む明赤褐色土，第4層は焼土粒子を少量と炭化粒子を微量含む黄褐色土，第5層は焼土粒子及び炭化粒子を微量含む黒褐色土である。

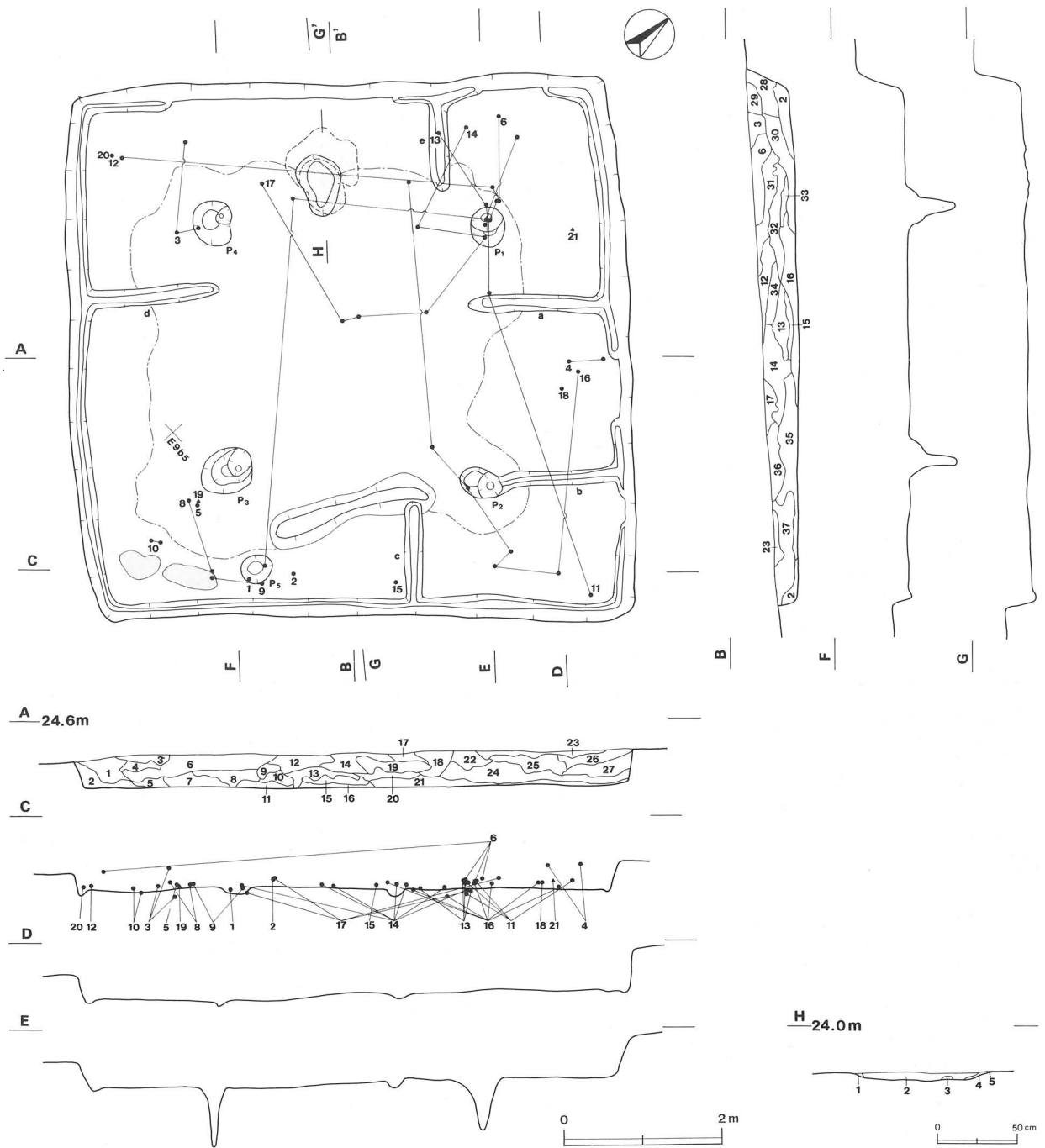
覆土 37層からなり，人為堆積である。ローム粒子，ローム小ブロック混じりの褐色土及び暗褐色土が入り乱れて堆積している。南コーナー付近の中層から下層にかけて粘土塊がみられる。

遺物 東・南・西コーナーの覆土上層から土師器片が少量，南・北コーナーの覆土下層から土師器片が多量に出土している。第78・79図1の土師器坏及び19の双孔円板は南コーナー付近の床面から，正位の状態で出土している。15の土師器甕は南東壁際の覆土下層から，18の土師器甌は北東壁際の覆土下層から，それぞれ斜位，横位の状態で出土している。12のミニチュア土器及び20の白玉は西コーナーの床面から正位の状態で出土している。

所見 遺物は細片が多いが，接合率が非常に高く，住居廃絶時に意図的に破碎して投棄したものと考えられる。本跡は，出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

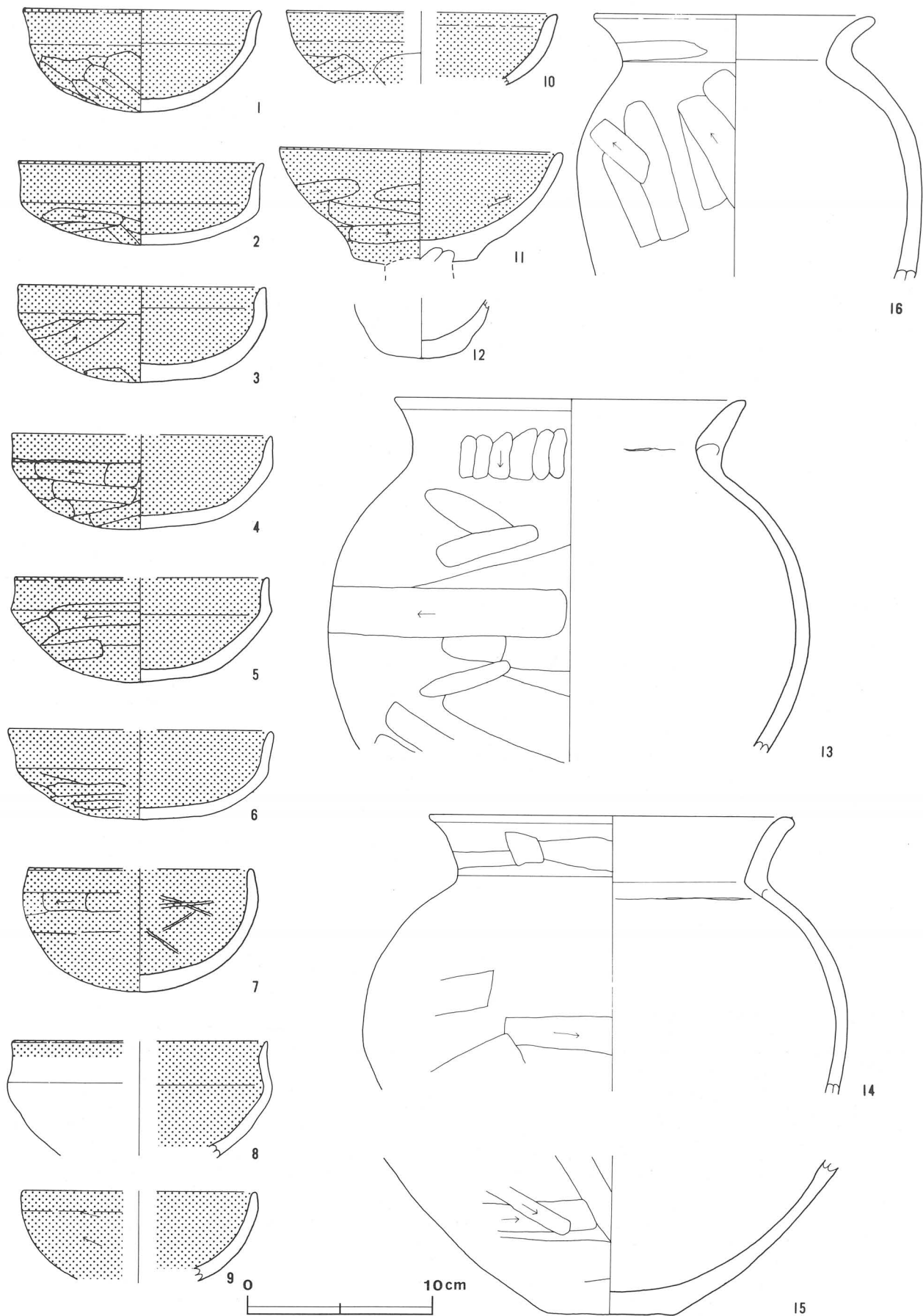
第21号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第78・79図 1	坏 土師器	A 12.6 B 5.7	口縁部の一部欠損。丸底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P139 P L47 85% 床面
2	坏 土師器	A 13.2 B 4.5	体部から口縁部の一部欠損。丸底で，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P140 P L47 70% 覆土中層
3	坏 土師器	A 13.3 B 5.3	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立し，内面に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・スコリア・ 砂粒 赤褐色 普通	P141 P L47 70% 覆土下層
4	坏 土師器	A [14.0] B 5.2	底部から口縁部の破片。丸底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P142 P L47 50% 覆土上層

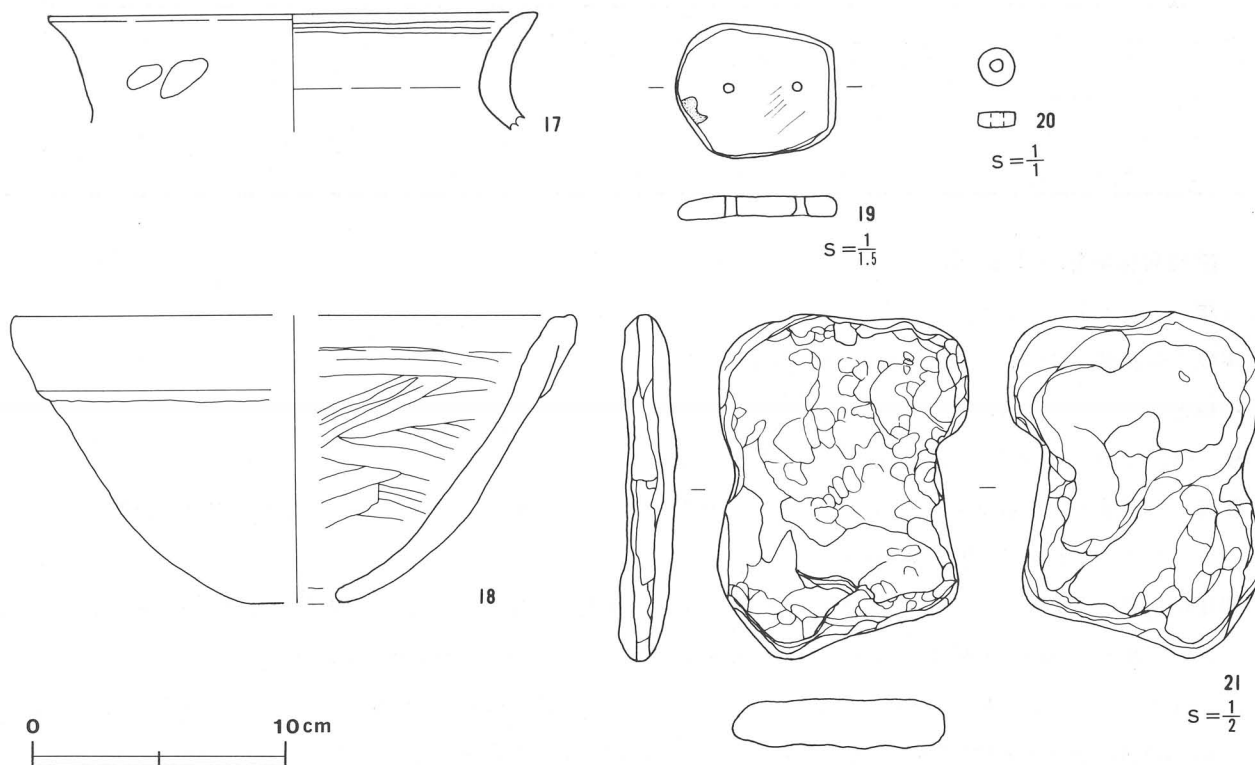


第77図 第21号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	坏土師器	A [13.6] B 5.7	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P 143 60% 覆土下層
6	坏土師器	A [14.0] B 4.9	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P 144 45% 覆土上層
7	坏土師器	A [12.0] B 6.7	底部から口縁部の破片。丸底で、体部から口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P 145 30% 覆土
8	坏土師器	A [13.6] B (6.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P 146 25% 覆土下層



第78図 第21号住居跡出土遺物実測図(1)



第79図 第21号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
9	坏土師器	A [12.6] B (4.8)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明褐色 普通	P147 25% 覆土下層
10	坏土師器	A [14.6] B (4.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	スコリア・砂粒 赤褐色 普通	P148 PL47 30% 覆土下層
11	高坏土師器	A 15.2 B (6.4)	脚部欠損。体部から口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ後、ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P149 PL47 60% 覆土下層
12	ミニチュア土師器	B (3.3) C 4.2	底部の破片。	底部及び体部内・外面ナデ。	スコリア・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P150 40% 床面
13	甕土師器	A 18.9 B (19.3)	底部及び体部の一部欠損。体部は球形状で、頸部から口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P151 PL48 85% 覆土下層
14	甕土師器	A 19.6 B (15.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 黄橙色 普通	P152 PL48 25% 床面
15	甕土師器	B (8.7) C 7.2	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P153 15% 覆土下層
16	甕土師器	A 14.9 B (14.4)	底部及び体部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、最大径を上位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい橙色 普通	P154 PL48 70% 覆土下層
17	甕土師器	A [19.5] B (4.8)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面に指頭痕。内面へラナデ。	長石・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P155 10% 床面
18	甕土師器	A [22.0] B 11.6	底部から口縁部の破片。単孔式。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。口縁部は折り返される。	口縁部及び体部外面ナデ。内面へラナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P156 PL47 35% 覆土下層

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
19	双 孔 円 板	3.2	2.7	0.5	5.8	床 面	孔径 2.0mm Q75 90% 滑石 P L70
20	白 玉	0.2	0.5	0.2	0.1	床 面	孔径 1.5mm Q76 100% 滑石 P L71
21	不明石製品	14.0	10.0	2.5	352.8	覆 土 下 層	Q77 堇青石 P L70

第22号住居跡 (第80図)

位置 2区北東部, D9i₇区。

規模と平面形 長軸5.68m, 短軸5.32mの方形である。

主軸方向 N-42°-W。

壁 壁高は30~58cmで, ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 南西壁下と南東壁下の大半及び北東・北西壁下の一部から確認されている。上幅8~24cm, 下幅4~16cm, 深さ4~8cmで, 断面形は皿状をしている。

間仕切り溝 3条(a~c)。北東壁側に1条(a), 南東壁側に1条(b), 南西壁側に1条(c)確認され, 長さ0.90~1.24m, 上幅14~20cm, 下幅3~8cm, 深さ6~9cmで, 断面形は皿状をしている。

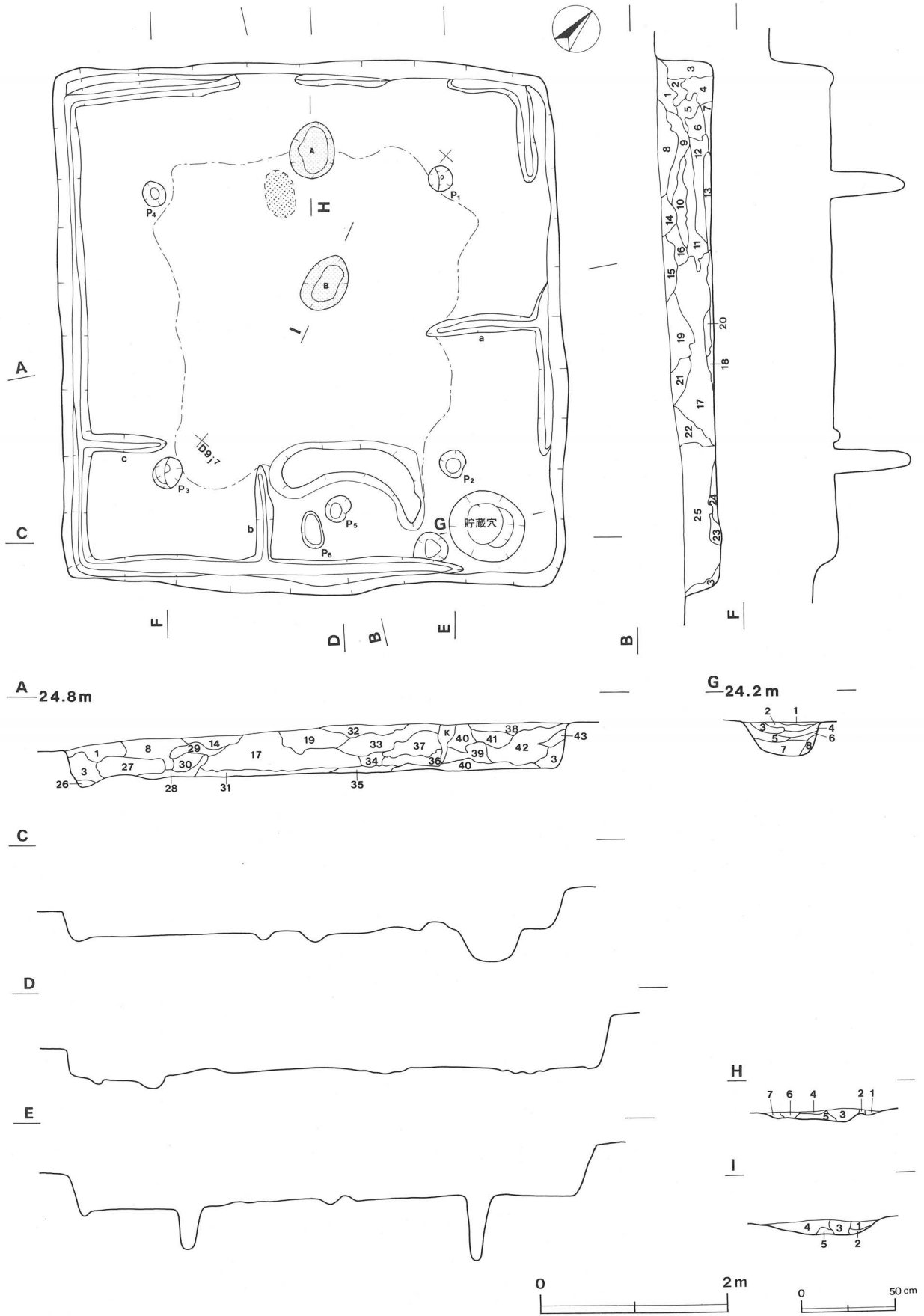
床 ほぼ平坦で, P₁~P₄の内側は硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには, P₅・P₆を囲むように, 幅約50cm, 高さ4cm程の鉤の手状の高まりがみられ, 出入口施設と考えられる。

ピット 6か所(P₁~P₆)。P₁~P₄は, 径26~34cm, 深さ44~83cmで主柱穴, P₅・P₆は, 径20~42cm, 深さ14~16cmで, 位置的に出入口施設に伴うピットと考えられる。

炉 2か所(炉A・B)。炉Aは中央から北西寄りにあり, 長径60cm, 短径44cmの楕円形で, 床面を5cm程掘り窪めている。覆土は7層からなり, 第1層はローム粒子及びローム小ブロックを微量含む褐色土, 第2層はローム中ブロックを少量と炭化粒子及び炭化物を微量含む赤褐色土, 第3層は焼土小ブロックを中量と炭化粒子を微量含むにぶい赤褐色土, 第4層は焼土粒子を中量と焼土小ブロックを少量及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第5層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量と炭化粒子を極微量含む褐色土, 第6層は焼土粒子及び焼土小ブロックを多量と炭化粒子を微量含む赤褐色土, 第7層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む褐色土である。炉床は火熱を受け赤変硬化している。炉Bはほぼ中央にあり, 長径62cm, 短径38cmの楕円形で, 床面を7cm程掘り窪めている。覆土は5層からなり, 第1層は焼土粒子を中量と焼土小ブロックを少量及び炭化粒子を微量含む極暗赤褐色土, 第2層は焼土粒子を少量と炭化粒子を極微量含むにぶい赤褐色土, 第3層は焼土粒子を中量と焼土小・中ブロックを少量及び炭化粒子を微量含む極赤褐色土, 第4層は焼土粒子を少量と焼土小ブロック及び炭化物を微量含む褐色土, 第5層はローム粒子を少量と焼土粒子を中量含む明赤褐色土である。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

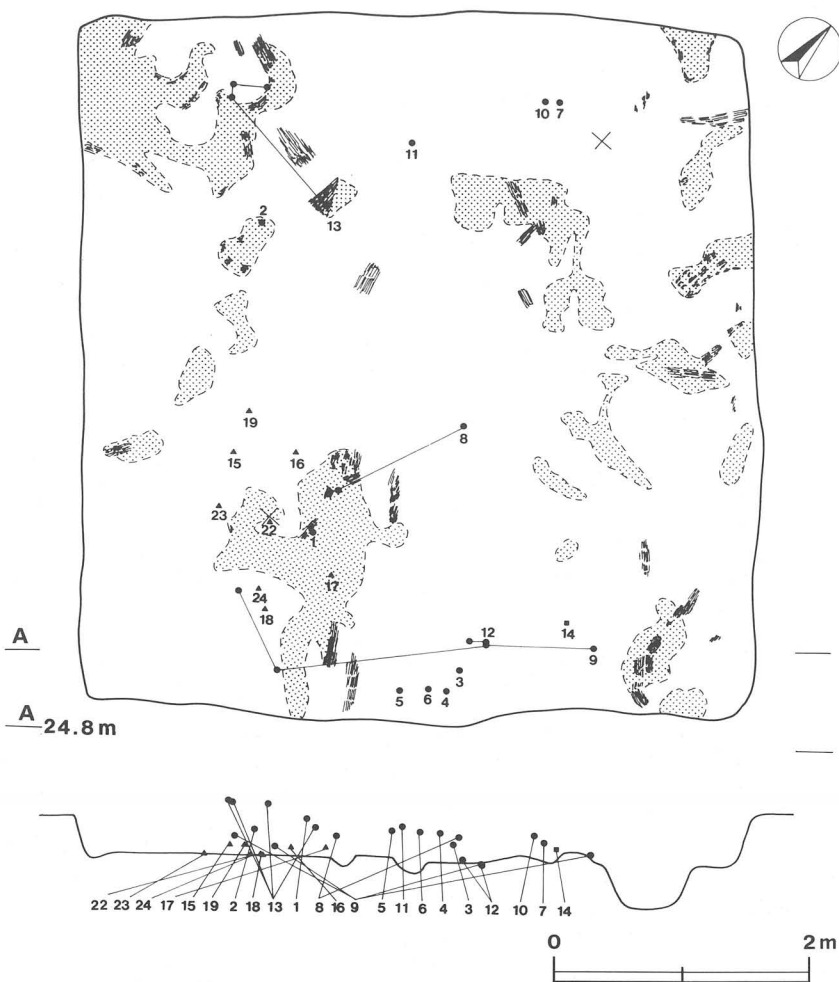
貯蔵穴 東コーナーに付設されている。径80cmの円形で, 深さ38cmである。底面はほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。覆土は8層からなり, 第1層はローム粒子を少量と焼土粒子を微量及び炭化粒子を少量含む褐色土, 第2層はローム粒子を多量とローム小ブロックを微量及び炭化粒子を極微量含む明褐色土, 第3層はローム粒子少量と焼土粒子を極微量含む暗褐色土, 第4層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量及び炭化粒子を極微量含む褐色土, 第5層はローム粒子を少量含む褐色土, 第6層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む褐色土, 第7層はローム粒子を中量含む明褐色土, 第8層はローム粒子を多量とローム中ブロックを微量含む明褐色土である。

覆土 43層からなり, 人為堆積である。下層から床面にかけて多量の焼土塊及び炭化材がみられる。



第80图 第22号住居跡実测图

遺物 覆土下層から床面にかけての焼土塊及び炭化材の上から多量に出土している。第82図1～10は土師器の坏で、覆土上層から下層にかけて出土している。4～6は南東壁中央の壁下から正位に並んだ状態で、3は同じく斜位の状態で、1は中央から西寄りに斜位の状態で、2は中央から北寄りに正位の状態で出土している。12の土師器甕は南西壁から中央寄りの床面から、13の須恵器蓋は西コーナー付近の覆土上層から出土している。14の球状土錘は東コーナー付近の覆土下層から、15～19、22～24の白玉は南コーナー付近の床面及び覆土下層から出土している。

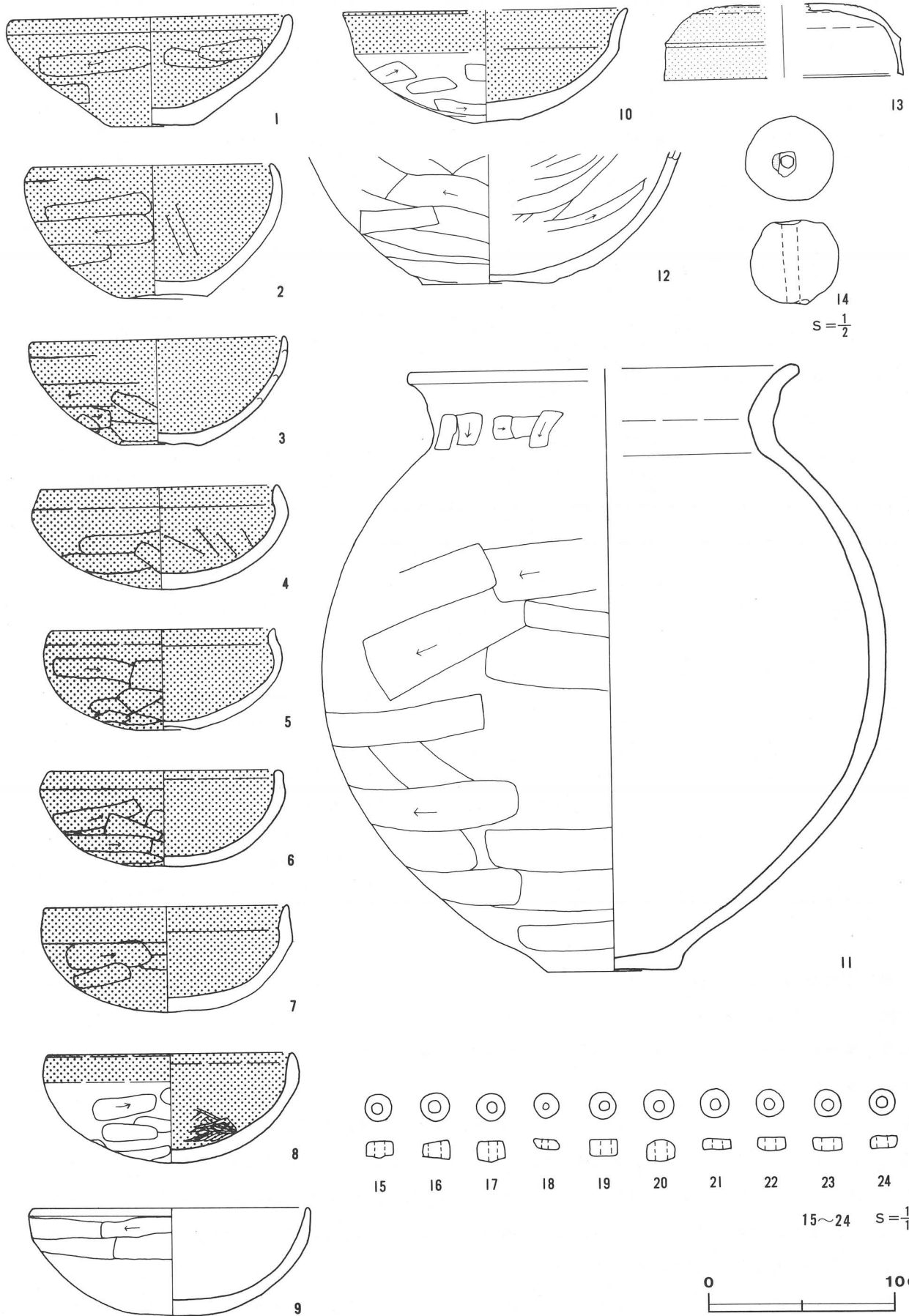


第81図 第22号住居跡出土遺物位置図

所見 本跡は焼失住居で、遺物の大半は住居が焼失した直後に、南東壁側を中心に投棄されたものと考えられる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

第22号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第82図 1	坏 土師器	A 15.3 B 6.0 C 4.7	平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後、ナデ。内・外面赤彩。	長石・スコリア・砂粒 赤色 普通	P157 P L48 100% 覆土上層
2	坏 土師器	A 13.0 B 7.3 C 4.8	平底。体部から口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	スコリア・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P158 P L48 100% 覆土上層
3	坏 土師器	A 13.9 B 5.9 C 4.3	平底。体部から口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P159 P L48 100% 覆土下層
4	坏 土師器	A 13.0 B 5.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明褐色 普通	P160 P L48 100% 覆土上層
5	坏 土師器	A 12.2 B 5.5	上げ底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P161 P L48 100% 覆土上層
6	坏 土師器	A 12.5 B 5.2	底部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P162 P L48 95% 覆土上層



第82图 第22号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特長	胎土・色調・焼成	備考
7	坏土師器	A 13.2 B 5.8	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒にぶい赤褐色普通	P163 P L48 90% 覆土下層
8	坏土師器	A 13.3 B 5.9	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ後、磨き。口縁部外面及び体部内面赤彩。	スコリア・砂粒赤褐色普通	P164 P L48 80% 覆土下層
9	坏土師器	A 15.0 B 5.9	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒にぶい黄褐色普通	P165 P L48 75% 覆土下層
10	坏土師器	A [15.2] B 6.1	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒赤褐色普通	P166 P L48 85% 覆土下層
11	甕土師器	A [20.8] B 32.8 C 7.0	体部及び口縁部の一部欠損。平底。体部は球形で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒明赤褐色普通	P167 P L49 65% 覆土上層
12	甕土師器	B (7.0) C 7.2	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面へラ削り。	長石・砂粒にぶい黄色普通	P168 40% 床面
13	坏蓋須恵器	A 12.9 B 4.0	天井部から口縁部の破片。天井部は内彎し、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は僅かに外傾し、端部には沈線が巡る。	天井部回転へラ削り。	長石・砂粒灰色普通	P169 P L49 35% 自然釉付着 覆土上層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
14	球状土錘	3.1	3.1	3.1	26.1	覆土下層	孔径 10.0mm DP20 100% P L68
15	白玉	0.3	0.5	0.3	0.1	覆土下層	孔径 2.0mm Q78 100% 滑石 P L71
16	白玉	0.3	0.6	0.3	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q79 100% 滑石 P L71
17	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆土下層	孔径 1.5mm Q80 100% 滑石 P L71
18	白玉	0.2	0.5	0.2	0.1	床面	孔径 1.0mm Q81 100% 滑石 P L71
19	白玉	0.3	0.5	0.3	0.1	覆土下層	孔径 2.0mm Q82 100% 滑石 P L71
20	白玉	0.4	0.6	0.4	0.2	覆土	孔径 2.0mm Q83A100% 滑石 P L71
21	白玉	0.2	0.5	0.2	0.1	覆土	孔径 2.0mm Q83B100% 滑石 P L71
22	白玉	0.2	0.5	0.2	0.1	床面	孔径 2.0mm Q84 100% 滑石 P L71
23	白玉	0.2	0.5	0.2	0.1	床面	孔径 2.0mm Q85 100% 滑石 P L71
24	白玉	0.2	0.5	0.2	0.1	床面	孔径 2.0mm Q86 100% 滑石 P L71

第23号住居跡 (第83図)

位置 2区北東部, D9h₉区。

規模と平面形 長軸2.72m, 短軸(2.48m)の長方形をしていたものと考えられる。

主軸方向 N-54°-E。

壁 壁高は0~9cmで、外傾して立ち上がっている。南東側からは確認されていない。

床 ほぼ平坦で、中央の一部は非常に硬く踏み固められているが、それ以外の部分は軟質の床である。

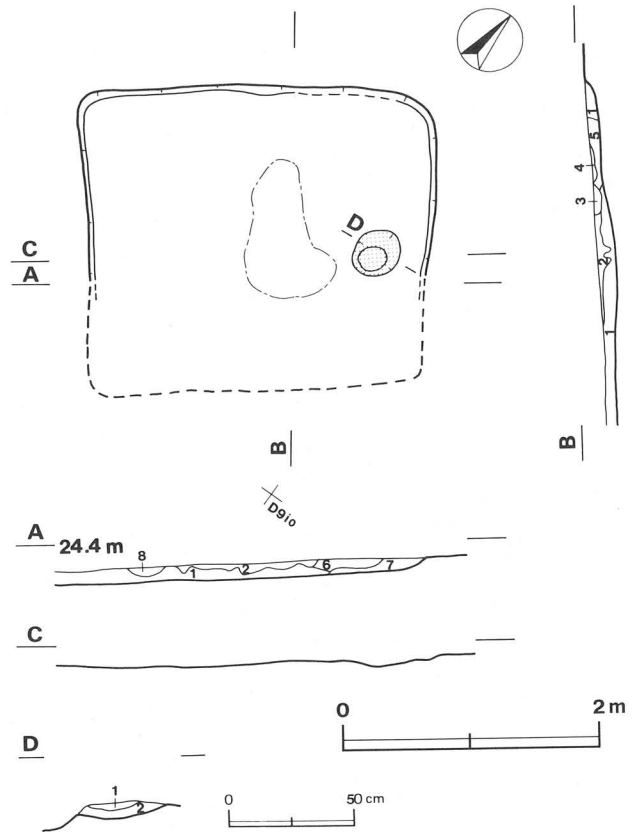
炉 中央から北東寄りにあり、長径40cm, 短径34cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。覆土は2層からなり、第1層は焼土粒子を少量と炭化粒子を微量含むにぶい赤褐色土、第2層は焼土粒子を微量含む褐色土である。炉床はあまり火熱を受けていない。

覆土 8層からなり、自然堆積と思われる。第1層はローム粒子を多量に含む黄褐色土、第2層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む褐色土、第3層はローム粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土、第4層はロー

ム粒子を少量含む褐色土，第5層はローム粒子を少量と炭化物を微量含む褐色土，第6層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土，第7層はローム粒子を少量と焼土粒子を中量及び焼土小ブロックを微量含む赤褐色土，第8層はローム粒子を少量及び炭化粒子を極微量含む褐色土である。

遺物 中央から北東側に土師器片が少量出土している。

所見 南東側は削平されているため確認できなかったが，当遺跡で確認例のある炉以外に内部施設をもたない小形の建物跡と考えられる。本跡は，出土遺物から古墳時代中期後半の建物跡である。



第83図 第23号住居跡実測図

第24号住居跡 (第84図)

位置 2区北東部，D9j₀区。

規模と平面形 長軸3.24m，短軸3.04mの方形である。

主軸方向 (N-34°-W)。

壁 壁高は8~24cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部は硬く踏み固められている。

炉 中央から北西寄りにあり，長軸68cm，短軸52cmの不定形で，床面を8cm程掘り窪めている。覆土は3層からなり，第1層は焼土粒子を少量と焼土小ブロック及び炭化粒子を微量含むにぶい赤褐色土，第2層は焼土粒子を中量と炭化粒子を少量含む赤褐色土，第3層は焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土である。炉床は火熱を受け，赤変硬化している。

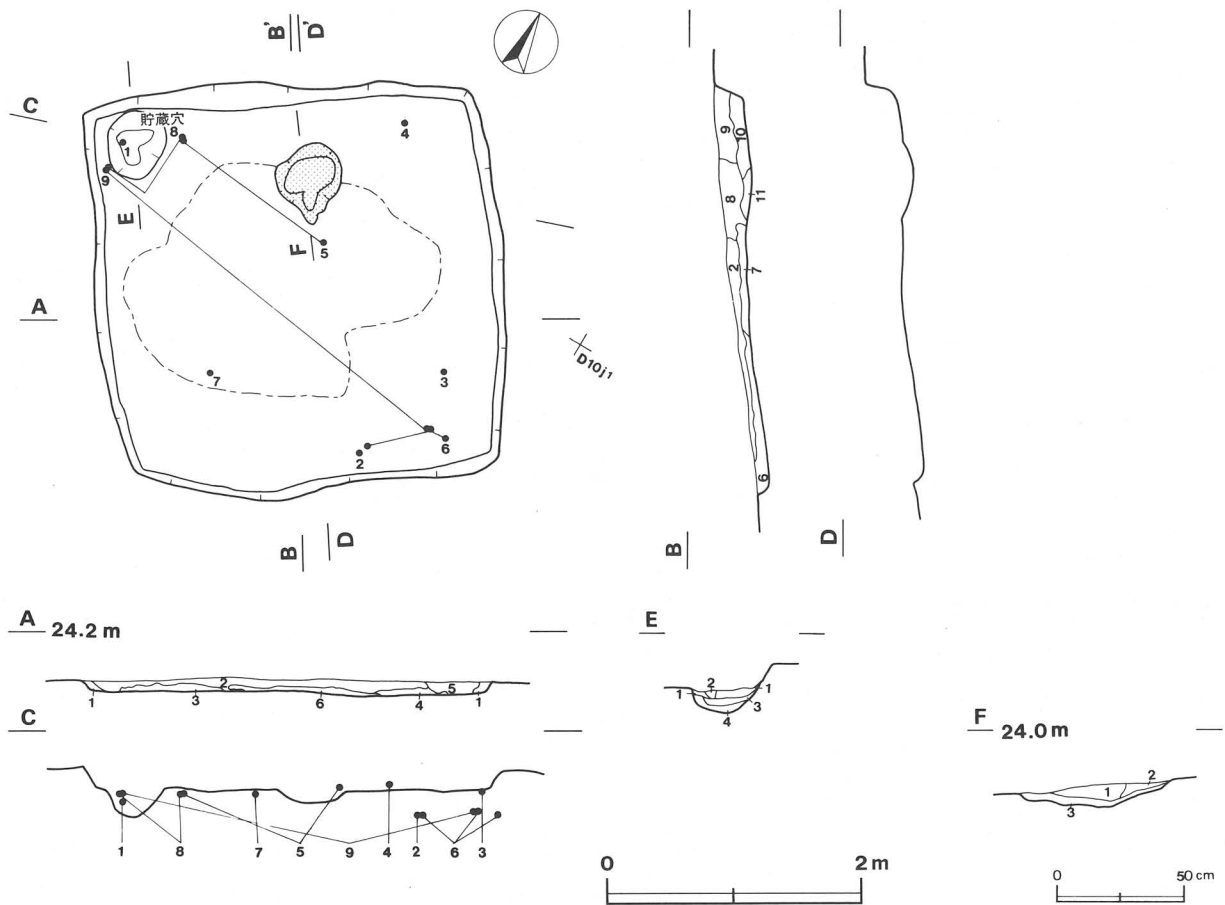
貯蔵穴 西コーナーに付設されている。長径56cm，短径45cmの楕円形で，深さは23cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。覆土は4層からなり，第1層はローム粒子を少量と炭化粒子を極微量含む褐色土，第2層はローム粒子を少量含む褐色土，第3層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量及び炭化粒子を極微量含む黄褐色土，第4層はローム粒子を少量とローム小ブロックを極微量含む褐色土である。

覆土 8層からなり，人為堆積である。第1層から第6層及び第8層は褐色土，第7層は暗褐色土ある。第1層はローム粒子及び炭化粒子を微量，第2層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量，第3層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び焼土粒子を微量，第4層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量，第5層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量，第6層はローム粒子及び炭化粒子を少量，第7層はローム粒子及びローム小ブロックを微量と焼土粒子及び炭化物を少量，第8層はローム粒

子及び焼土粒子と炭化粒子を微量含んでいる。

遺物 東・西コーナー及び中央部付近の覆土下層から床面にかけてまとまって出土している。第85図1～3は土師器坏で、2は南東壁際の床面から正位の状態、3は東コーナー付近の床面から逆位の状態、4の坑は北コーナー付近の床面から逆位の状態、1の土師器坏は貯蔵穴内覆土中層から斜位の状態で出土している。出土した遺物の大半は土師器の甕片で占められている。

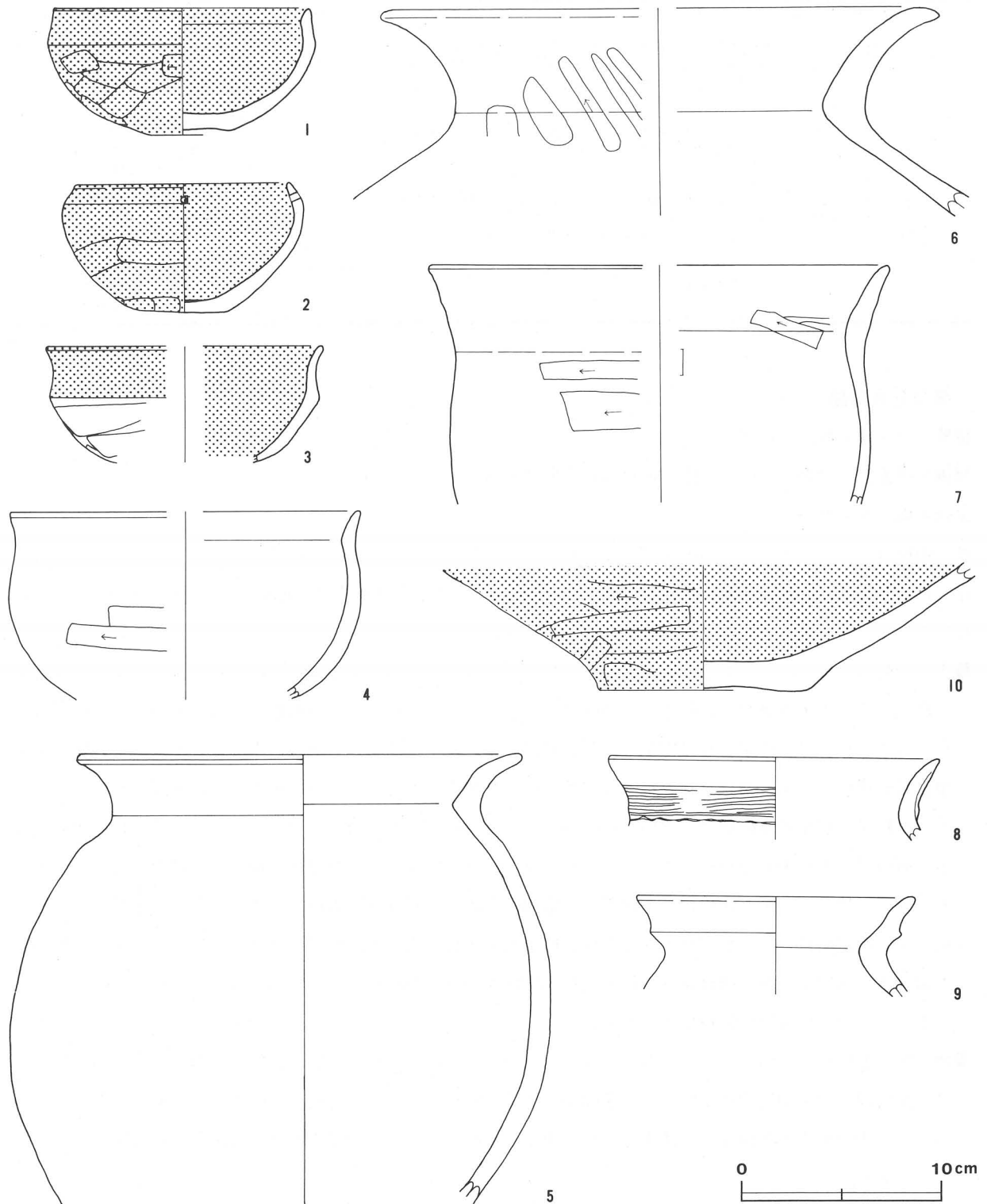
所見 本跡は炉と貯蔵穴をもつ小形の建物跡である。貯蔵穴を西コーナー部に付設する例は、当遺跡では少ない。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡、または居住以外の目的をもつ建物跡と考えられる。



第84図 第24号住居跡実測図

第24号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第85図 1	坏 土師器	A 12.8 B 6.5 C 4.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P170 P L49 100% 貯蔵穴覆土中層
2	坏 土師器	A 10.6 B 6.6 C 4.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。口縁部下に焼成後の穿孔をもつ。	長石・砂粒 赤色 普通	P171 P L49 100% 床面
3	坏 土師器	A [13.8] B (5.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P172 30% 床面
4	坑 土師器	A [17.6] B (9.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P173 P L49 40% 覆土



第85図 第24号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	甕 土師器	A [22.0] B (22.7)	体部から口縁部の破片。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P174 PL49 50% 外面煤付着 床面
6	甕 土師器	A [33.5] B (8.6)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 灰黄褐色 普通	P175 15% 床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
7	甕 土師器	A [22.8] B (12.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、最大径を上位にもつ。頸部から口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面及び体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	長石・スコリア・砂粒にぶい橙色良好	P176 10% 床面
8	甕 土師器	A 16.6 B (4.2)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。口縁部は折り返される。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・砂粒にぶい赤褐色普通	P177 10% 床面
9	甕 土師器	A 14.0 B (5.0)	頸部から口縁部の破片。頸部は「く」の字状に屈曲し、突出する稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・砂粒にぶい黄褐色普通	P178 5% 床面
10	甕 土師器	B (5.8) C 10.5	底部から体部の破片。平底で、体部は大きく外傾して立ち上がる。	体部外面及び底部外面へラ削り。内・外面赤彩。	長石・砂粒にぶい橙色普通	P179 15% 覆土

第25号住居跡（第86図）

位置 2区南東部，E9d₇区。

規模と平面形 長軸3.30m，短軸2.46mの長方形である。

主軸方向 (N-0°)。

壁 南壁は壁高約4cm，その他の壁高は32～34cmで，外傾して立ち上がっている。

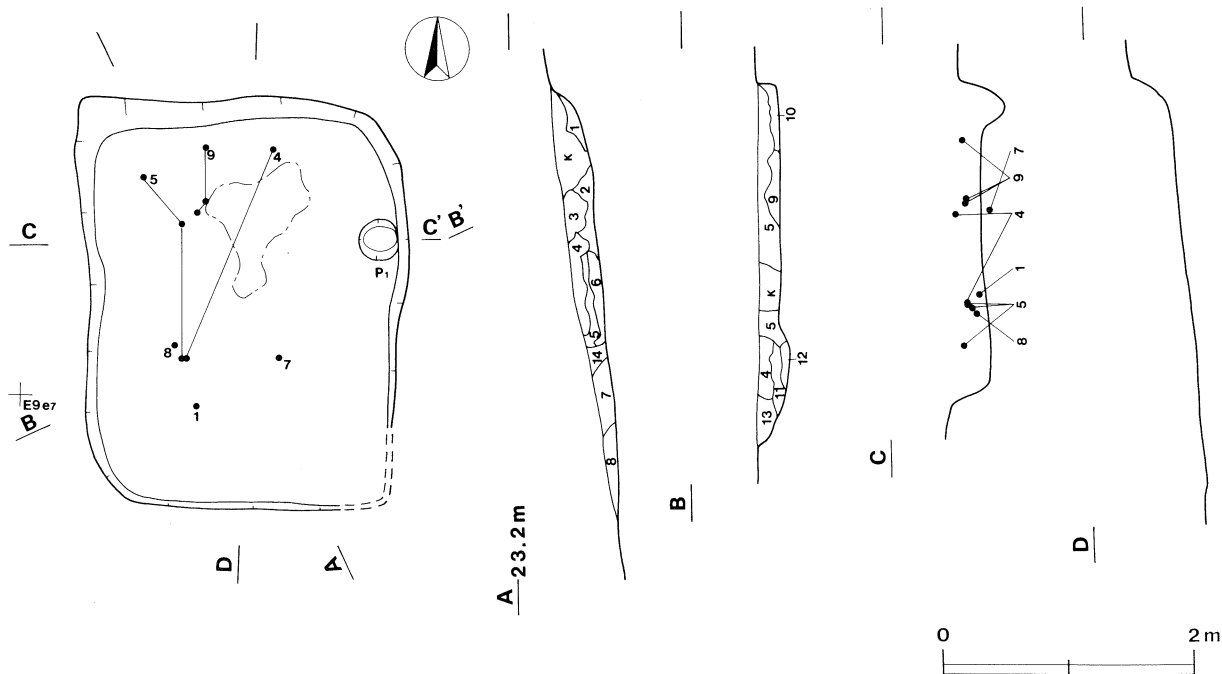
床 ほぼ平坦で，北側から南側にかけて緩やかに傾斜している。中央からやや北寄りに一部硬化面がみられる。

ピット 1か所 (P₁)。径34cm，深さ16cmで性格は不明である。

覆土 14層からなり，人為堆積である。ローム粒子混じりの暗褐色土を主体に，傾斜に沿って北側から埋め戻されている。第1層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量含む暗褐色土，第2層はローム粒子及びローム小ブロックを微量含む黒褐色土，第3層はローム粒子を微量含む黒褐色土，第4層はローム粒子を微量含む暗褐色土，第5層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を微量含む暗褐色土，第6層はローム粒子及び炭化粒子と炭化物を微量含む黒色土，第7層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む暗褐色土，第8層はローム粒子及びローム小ブロックを中量とローム中ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土，第9層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む暗褐色土，第10層はローム粒子を中量と炭化粒子を微量含む暗褐色土，第11層はローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土，第12層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む褐色土，第13層はローム粒子及び炭化物を微量含む暗褐色土，第14層はローム粒子を少量とローム小ブロックを少量含む暗褐色土である。

遺物 覆土上層から下層にかけて，埋め戻された土とともに投棄されたと思われる土師器片が少量出土している。第87図1の土師器坏は南西寄りの床面から逆位の状態で，7の土師器甕は南寄りの床面から出土している。4の土師器甕は南西寄りの覆土上層から出土した破片と北寄りの覆土下層から出土した破片が接合したものである。

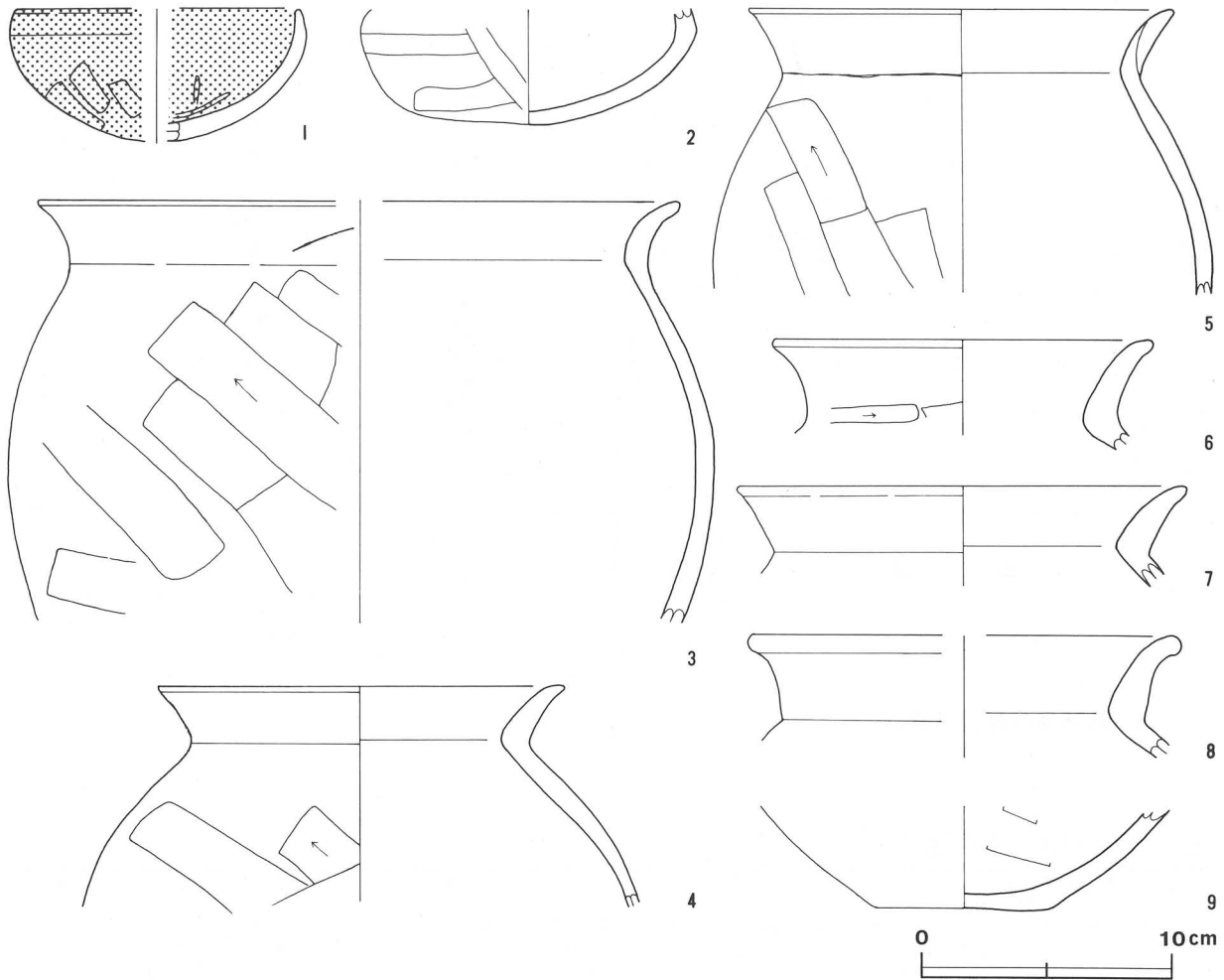
所見 本跡は斜面部に確認された小形の建物跡である。床面から出土した遺物はみられないが，古墳時代中期後半の建物跡と考えられる。



第86図 第25号住居跡実測図

第25号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第87図 1	坏土師器	A [11.2] B (5.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P 180 35% 床面
2	坏土師器	B (4.7)	底部から体部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒 明赤褐色 普通	P 181 45% 覆土
3	甕土師器	A [25.6] B (17.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P 182 P L 49 45% 床面
4	甕土師器	A 15.2 B (8.9)	体部から口縁部の破片。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P 183 P L 49 20% 覆土上層
5	甕土師器	A 17.0 B (11.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 明褐色 普通	P 184 P L 49 20% 覆土上層
6	甕土師器	A 15.2 B (4.4)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ削り。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P 185 20% 覆土
7	甕土師器	A 14.0 B (4.1)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P 186 15% 床面
8	甕土師器	A [17.0] B (5.0)	頸部から口縁部の破片。頸部は外傾し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 にぶい褐色 普通	P 187 10% 覆土下層
9	甕土師器	B (3.1) C 7.0	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ナデ。内面ヘラナデ。	長石・砂粒 黒褐色 普通	P 188 15% 覆土



第87図 第25号住居跡出土遺物実測図

第26号住居跡 (第88図)

位置 2区南東部, E9f₄区。

規模と平面形 長軸 (3.50)m, 短軸3.26m の台形である。

主軸方向 (N-81°-E)。

壁 北壁の一部と東壁は削平されて残存していない。壁高は12~24cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 凸凹で, 北側から南側にかけて傾斜している。中央部と南壁際の一部は攪乱されている。床面はあまり硬く踏み固められていない。

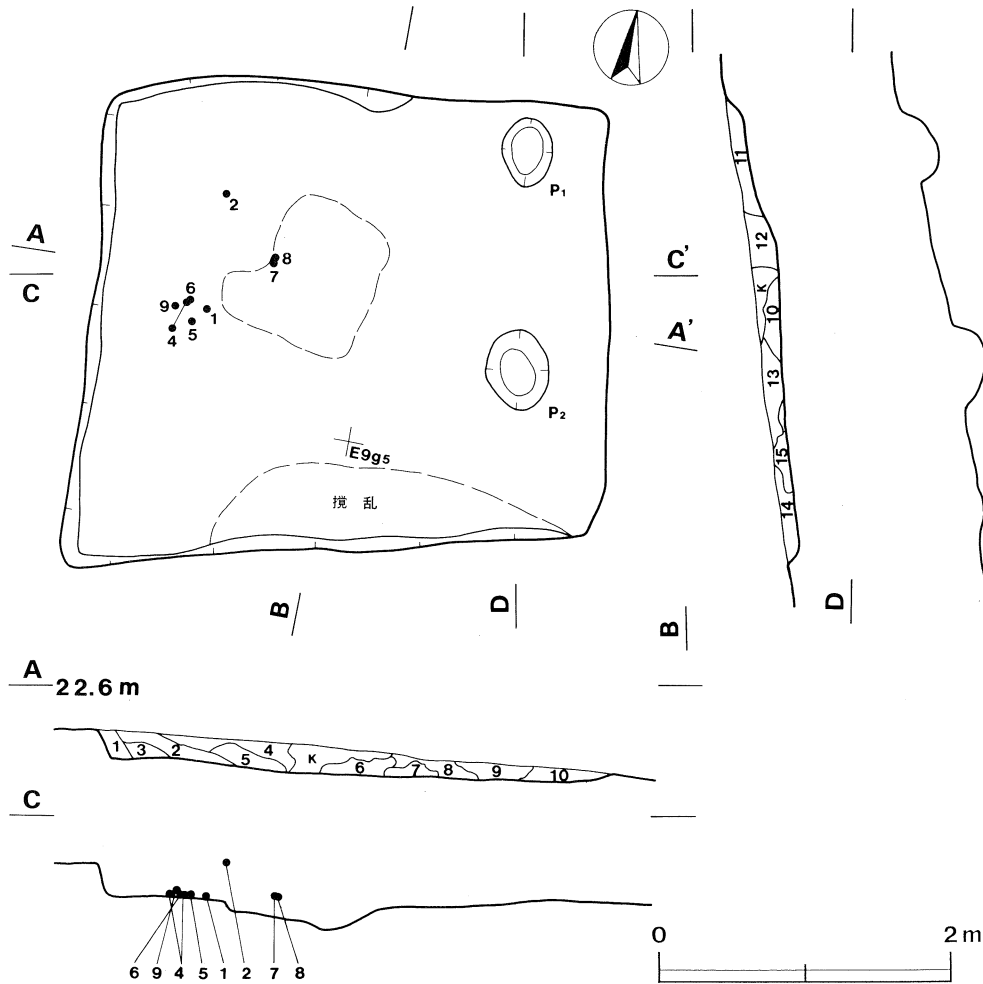
ピット 2か所 (P₁・P₂)。P₁・P₂は, 径34~54cm, 深さ16~18cmで性格は不明である。

覆土 15層からなり, 人為堆積である。第1層はローム粒子を微量含む褐色土, 第2層はローム粒子及びローム小ブロックを微量含む褐色土, 第3層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量含む褐色土, 第4層はローム粒子を微量含む暗褐色土, 第5層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第6層はローム粒子及びローム中ブロックと焼土粒子を微量含む暗褐色土, 第7層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を微量含む褐色土, 第8層はローム粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第9層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第10層はローム粒子を中量含む褐色土, 第11層はローム粒子を微量含む暗褐色土, 第12層はローム粒子を微量含む暗褐色土, 第13層はローム粒子を中量

とローム小ブロックを少量含む褐色土，第14層はローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む黒褐色土，第15層はローム粒子及びローム小ブロックと炭化粒子を微量含む黒褐色土である。

遺物 中央から西寄りの覆土上層から下層にかけてまとめて土師器片が少量出土している。第89図1・2・4・5の土師器坏及び9の手捏土器は中央から西寄りの覆土上層から床面にかけて，1・2・4は正位，5は横位の状態で出土している。

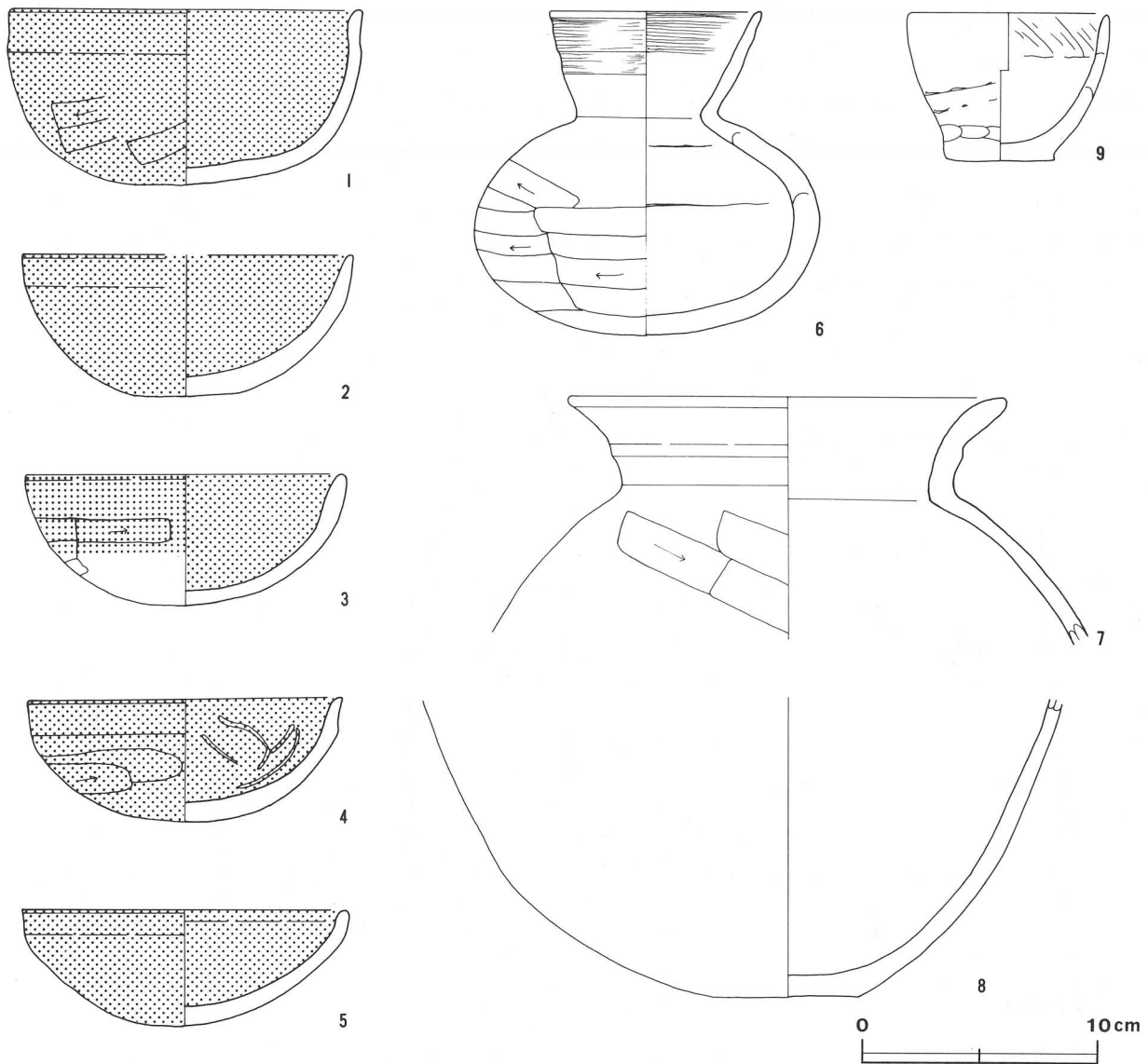
所見 斜面部に確認された小形の建物跡で，床面は約10度の傾斜をもって構築されている。本跡は，出土遺物から古墳時代中期後半の建物跡である。



第88図 第26号住居跡実測図

第26号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第89図 1	坏 土師器	A 15.0 B 7.6	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・雲母・砂粒 明赤褐色 普通	P189 P L50 60% 床面
2	坏 土師器	A [14.2] B 7.1 C 3.8	体部及び口縁部の一部欠損。平底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P190 P L50 60% 覆土上層
3	坏 土師器	A 13.6 B 5.6	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。体部外面上位及び内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P191 P L50 70% 覆土



第89図 第26号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	坏土師器	A 13.4 B 5.3	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P 192 70% 床面
5	坏土師器	A 14.0 B 5.1	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面摩耗。内・外面赤彩。	長石・砂粒 橙色 普通	P 193 P L 50 65% 床面
6	壺土師器	A 9.2 B 14.0	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がる。頸部か口縁部は外傾する。頸部に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	長石・砂粒 橙色 普通	P 194 P L 50 75% 床面
7	甕土師器	A 18.4 B (10.6)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。頸部に突出する稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P 195 P L 50 30% 覆土下層
8	甕土師器	B (12.9) C 5.8	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎して立ち上がる。	内・外面摩耗。	砂粒 黄橙色 普通	P 196 20% 覆土下層
9	手捏土器土師器	A [8.5] B 6.5 C 4.6	口縁部の一部欠損。平底で、体部から口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内面ヘラナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P 197 70% 覆土下層

第27号住居跡 (第90図)

位置 2区南西部, E8₈区。

規模と平面形 長軸3.74m, 短軸3.20mの長方形である。

主軸方向 N-60°-E。

壁 壁高は16~30cmで, 外傾して立ち上がっている。南コーナー付近は削平されて確認されていない。

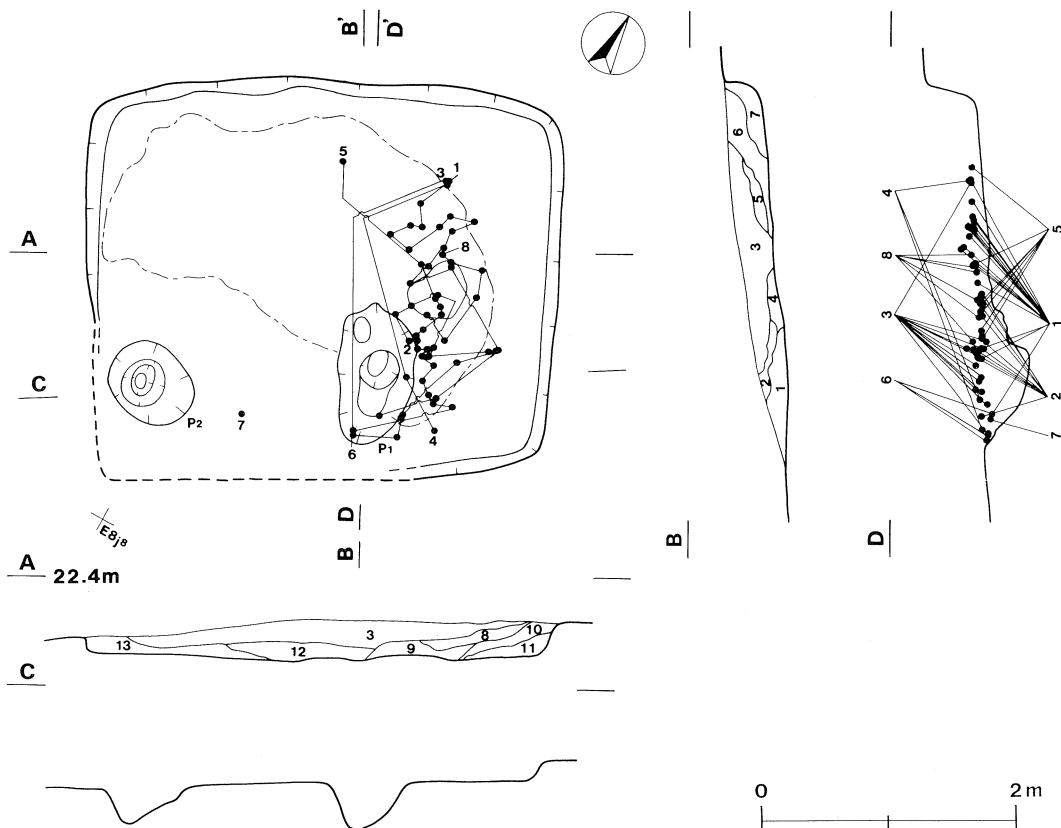
床 ほぼ平坦で, 中央部は硬く踏み固められている。北東側から南東側にかけて緩やかに傾斜している。

ピット 2か所 (P₁・P₂)。P₁・P₂は, 径58~70cm, 深さ30~38cmである。

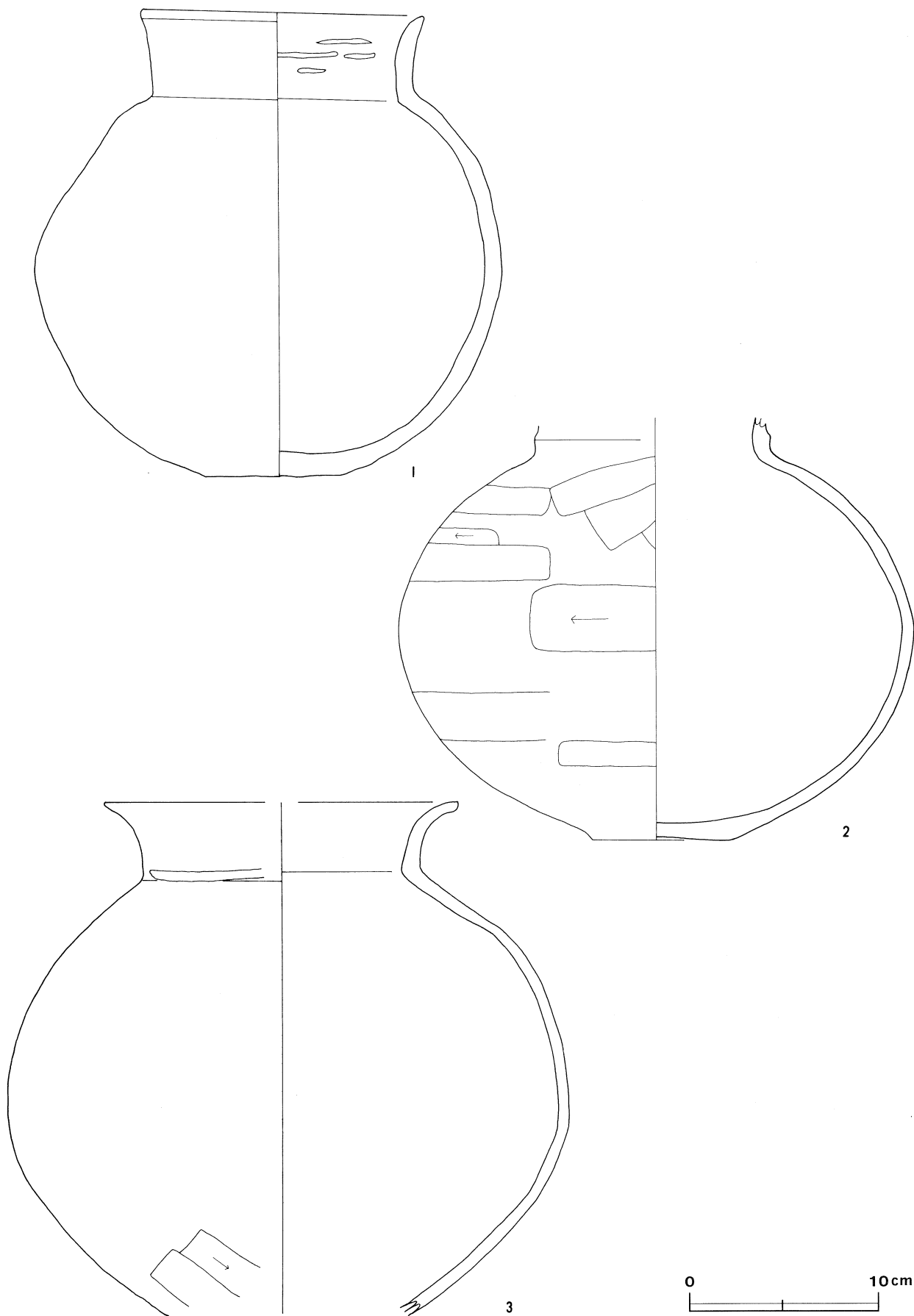
炉 中央から北東寄りにあり, 長径48cm, 短径38cmの楕円形である。炉床はほとんど掘り窪められておらず, 僅かに赤変している程度である。

覆土 13層からなり, 人為堆積である。第1層はローム粒子を微量と焼土粒子及び炭化粒子を極微量含む黒褐色土, 第2層はローム粒子を微量含む褐色土, 第3層はローム粒子及び炭化粒子を微量含む黒褐色土, 第4層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む黒褐色土, 第5層はローム粒子及び炭化粒子を微量含む黒褐色土, 第6層はローム粒子を微量と炭化粒子及び炭化物を極微量含む暗褐色土, 第7層はローム粒子及び焼土粒子を微量と炭化粒子を極微量含む暗褐色土, 第8層は焼土粒子及び炭化粒子を極微量含む暗褐色土, 第9層は焼土粒子及び炭化粒子と炭化物を微量含む黒褐色土, 第10層はローム粒子を少量含む褐色土, 第11層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土, 第12層は炭化物を少量含む黒褐色土, 第13層はローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む黒褐色土である。

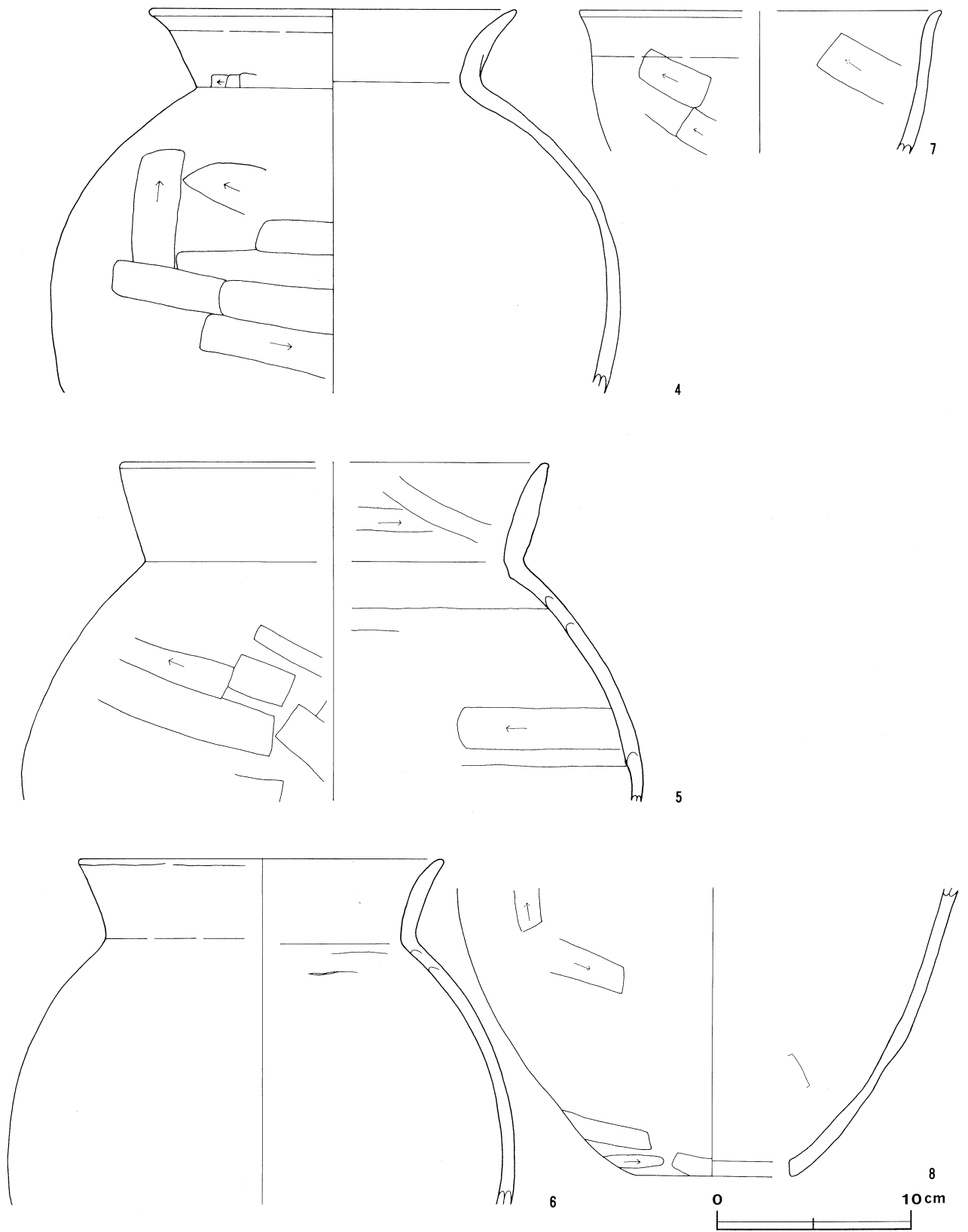
遺物 北東壁側の覆土下層から床面にかけて, 意図的に破碎したうえで北西壁側から投棄されたと考えられる土師器の細片が多量に出土している。器種は土師器の甕・甌類が大半を占め, 坏・埴類の出土は極僅かである。



第90図 第27号住居跡実測図



第91図 第27号住居跡出土遺物実測図(1)



第92图 第27号住居跡出土遺物実測図(2)

る。第91・92図2～6・8の土師器甕・甔は北東壁側から出土した破片が接合したものである。7の土師器甕は中央から南寄りのほぼ床面から出土している。

所見 2か所のピットの位置及び形状は、当遺跡から確認された建物跡の類例から、P₁が出入り口施設に伴うピット、P₂が貯蔵穴という可能性も考えられる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の建物跡と考えられる。

第27号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第91・92図 1	甕 土師器	A 15.2 B 25.5 C 7.4	体部の一部欠損。平底。体部は球形で、最大径を中位にもつ。頸部はほぼ直立し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面へら削り。体部内・外面ナデ。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P198 P L49 80% 覆土下層
2	甕 土師器	B (24.0) C 7.6	口縁部欠損。平底。体部は球形で、最大径を中位にもつ。	体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P199 P L49 75% 覆土下層
3	甕 土師器	A [19.0] B (27.7)	底部及び口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部下位及び体部下位へら削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P200 P L50 70% 覆土下層
4	甕 土師器	A 19.0 B (20.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部下位及び体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P201 P L50 45% 覆土下層
5	甕 土師器	A [22.3] B (18.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面及び体部内・外面へら削り後、ナデ。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P202 P L50 30% 覆土下層
6	甕 土師器	A [19.0] B (18.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面摩耗。内面ナデ。	長石・スコリア・ 砂粒 橙色 普通	P203 P L49 30% 床面
7	甕 土師器	A [19.0] B (7.7)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へら削り後、ナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P204 10% 床面
8	甔 土師器	B (15.3) C 8.2	底部から体部の破片。無底式。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面へら削り後、ナデ。内面へらナデ。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P205 P L49 50% 覆土下層

第28号住居跡（第93図）

位置 2区北東部、D9d₁区。

規模と平面形 長軸3.00m、短軸2.06mの長方形である。

主軸方向 (N-57°-W)。

壁 壁高は52～58cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、あまり踏み固められていない。

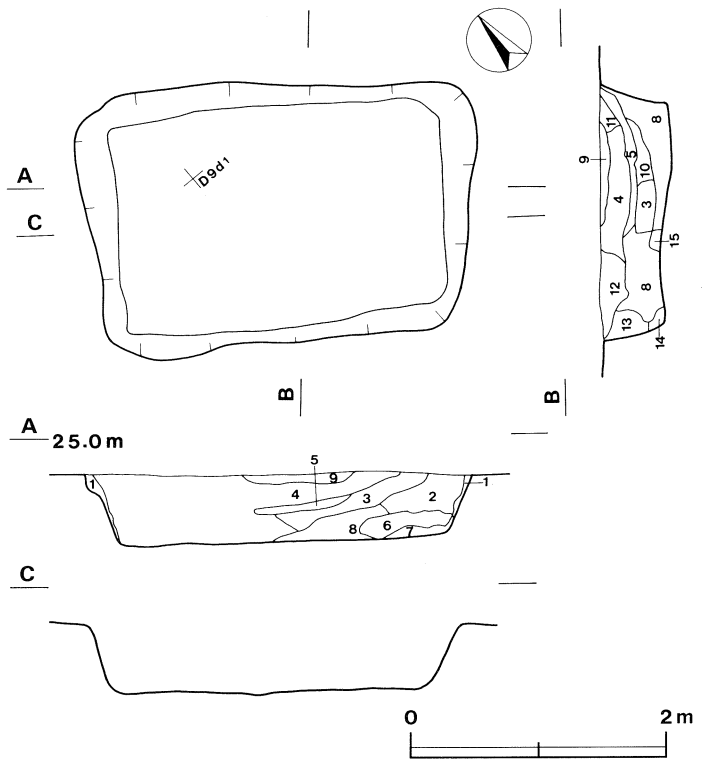
覆土 15層からなり、人為堆積である。北西側はロームブロック混じりの褐色土で、一度に埋め戻されている。

第1層はローム小ブロックを微量含む褐色土、第2層はローム粒子及びローム中ブロックを中量含む褐色土、第3層はローム粒子及びローム小ブロックを微量含む暗褐色土、第4層はローム小・中ブロック及び炭化物を微量含む褐色土、第5層はローム小・中ブロック及び炭化粒子を微量含む暗褐色土、第6層は炭化物を微量含む褐色土、第7層はローム小から大ブロックを微量含む褐色土、第8層はローム小・中ブロックを中量とローム大ブロック及び炭化物を微量含む褐色土、第9層はローム小ブロック及び焼土粒子と炭化物を微量含む暗褐色土、第10層はローム小・中ブロックを微量含む褐色土、第11層はローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む暗褐色土、第12層はローム小ブロックを微量含む褐色土、第13層はローム小ブロック及び炭化物を

を微量含む褐色土，第14層はローム小ブロックを微量と炭化粒子を極微量含む褐色土，第15層はローム小ブロックを微量含む暗褐色土である。

遺物 中央から南西寄りの覆土上層から下層にかけて，少量の土師器片がまとまって出土している。第94図1の土師器甕は南西壁際の覆土中層から出土している。

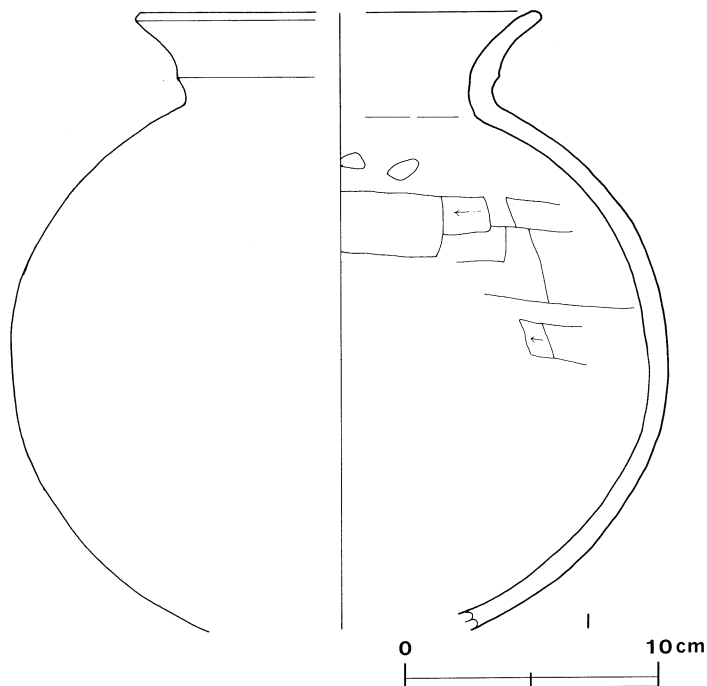
所見 形状及び内部施設，遺物の出土状況が，第45号住居跡等と類似していることから，居住以外の目的をもつ建物跡と考えられる。時期は，出土遺物から古墳時代中期後半である。



第93図 第28号住居跡実測図

第28号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第94図 1	甕 土師器	A [15.4] B (24.9)	体部から口縁部の破片。体部は球形形状で，頸部から口縁部は外反する。頸部に突出する稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面摩擦。内面ヘラナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P206 35% 覆土中層



第94図 第28号住居跡出土遺物実測図

第30号住居跡 (第95図)

位置 2区南西部, F8a₈区。

規模と平面形 長軸3.10m, 短軸(2.10)mの長方形と考えられる。

主軸方向 (N-28°-W)。

壁 壁高は14~24cmで, ほぼ垂直に立ち上がっている。南東壁は削平され残存していない。

床 ほぼ平坦で, 北西から南西側にかけて緩やかに傾斜している。床面はあまり踏み固められていない。

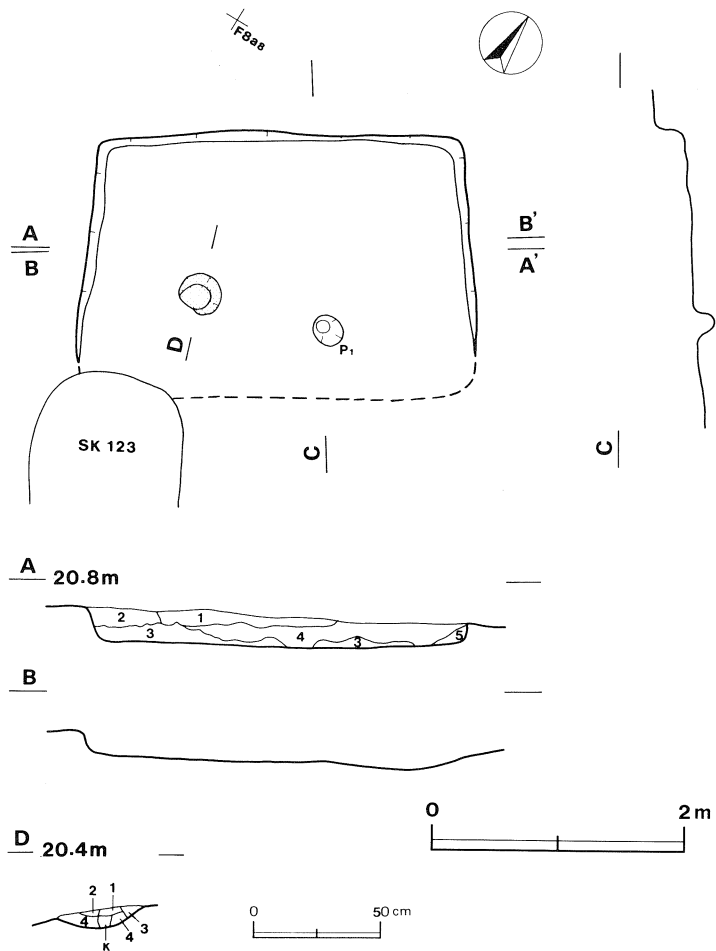
炉 中央から南西寄りにあり, 長径36cm, 短径28cmの楕円形で, 床面を8cm程掘り窪めている。覆土は4層からなり, 第1層はローム粒子を少量と焼土粒子を中量含む赤褐色土, 第2層はローム粒子を微量と焼土粒子を少量含む暗褐色土, 第3層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第4層は焼土粒子を中量と炭化粒子を少量含む暗赤褐色土である。

覆土 5層からなり, 自然堆積である。

第1層はローム粒子を微量と焼土粒子及び炭化粒子を極微量含む極暗褐色土, 第2層はローム粒子中量と焼土粒子及び炭化粒子を極微量含む暗褐色土, 第3層は第2層に褐色土ブロックを少量含む暗褐色土, 第4層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を微量含む極暗褐色土, 第5層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を極微量含む暗褐色土である。

遺物 覆土中層から下層にかけて98点の土師器片が出土している。

所見 本跡は, 斜面部の暗褐色土中から確認された小形の建物跡で, 時期は, 出土遺物から古墳時代中期と考えられる。



第95図 第30号住居跡実測図

第31号住居跡 (第96図)

位置 1区北東部, A11e7区。

規模と平面形 長軸3.80m, 短軸3.24mの長方形である。

主軸方向 N-60°-W。

壁 壁高は14~24cmで, 外傾して立ち上がっている。

壁溝 西コーナー付近の壁下を除いて全周している。上幅5~16cm, 下幅2~9cm, 深さ2~6cmで, 断面形は皿状をしている。

床 ほぼ平坦で, 中央部と炉の周辺は硬く踏み固められている。

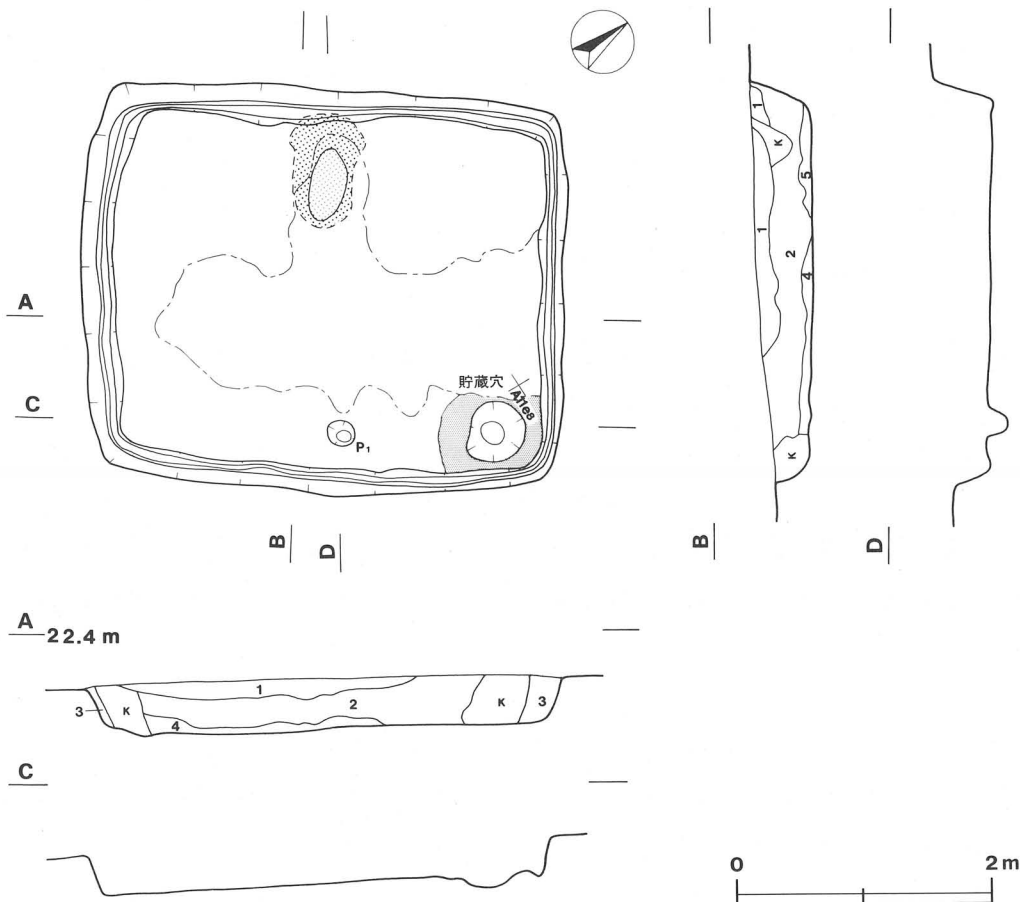
ピット 1か所 (P₁)。径22cm, 深さ20cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央から北西寄りにあり, 長径58cm, 短径38cmの楕円形で, 炉床は掘り窪められておらず, 床面が赤変している程度である。

貯蔵穴 東コーナーに付設されている。長径50cm, 短径44cmの楕円形で, 深さ26cmである。底面はほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。周囲には白色粘土が1.5~2.0cm程積まれている。

覆土 5層からなり, 自然堆積である。第1層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む黒褐色土, 第2層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む褐色土, 第3層はローム粒子を多量に含む褐色土, 第4層はローム粒子を中量とローム中ブロックを少量含む褐色土, 第5層はローム粒子及び焼土粒子を中量と炭化物を微量含む極暗赤褐色土である。壁際の一部は木根によって攪乱されている。

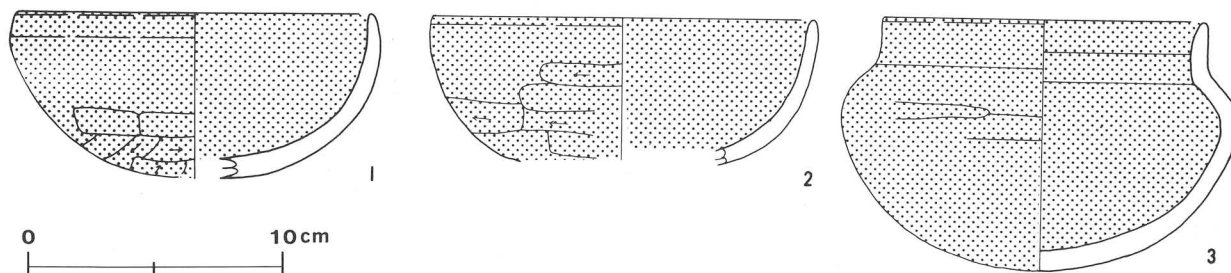
遺物 壁際の覆土上層から下層にかけて, 土師器片が少量出土している。第97図1・2は土師器の坏で, 1は



第96図 第31号住居跡実測図

第1層から、2は第4層から出土している。3は土師器塚で、第4層から出土している。

所見 1区最北東部に位置し、他の住居跡群から50m以上離れて確認されている。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡と考えられる。



第97図 第31号住居跡出土遺物実測図

第31号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第97図 1	坏 土師器	A 14.0 B (5.6)	底部及び口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P207 P L50 60% 覆土上層
2	坏 土師器	A 14.0 B (5.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面剥離。内・外面赤彩。	砂粒 明赤褐色 普通	P208 P L51 30% 覆土下層
3	塚 土師器	A 12.8 B 10.1	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P209 P L51 60% 覆土下層

第32号住居跡 (第98図)

位置 1区中央部, B11i₁区。

規模と平面形 長軸3.00m, 短軸2.84mの方形である。

主軸方向 N-71°-W。

壁 壁高は20~46cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて硬く踏み固められている。東壁から中央寄りには東壁と平行するように、長さ1.50m, 幅約36cm, 高さ4cm程の土手状の高まりがみられ、出入り口施設と考えられる。

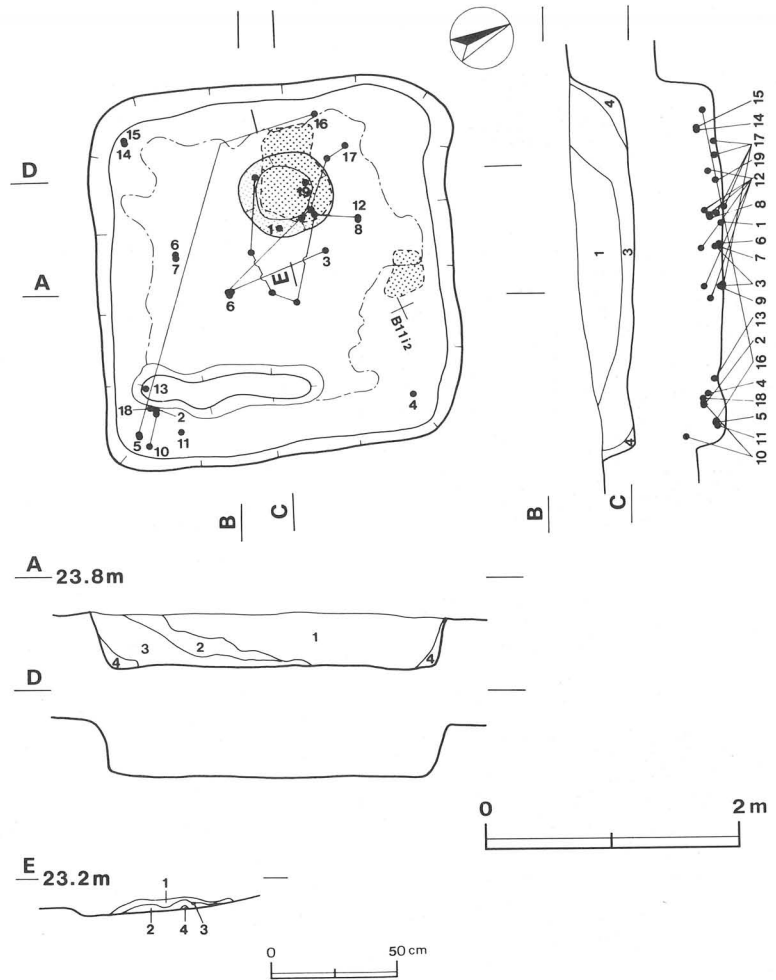
炉 中央から西寄りにあり、長径74cm, 短径66cmの楕円形で、床面を3cm程掘り窪めている。覆土は4層からなり、第1層は焼土粒子及び焼土小ブロックを中量と炭化物を少量含む極暗赤褐色土、第2層は焼土粒子及び焼土小ブロックを多量と炭化粒子を中量及び炭化物を少量含む赤褐色土、第3層は炭化物及び灰を多量に含む極暗赤褐色土、第4層は焼土小ブロックを多量に含む明赤褐色土である。炉床はブロック状に赤変硬化している。

覆土 4層からなり、人為堆積である。第1層はローム粒子を中量とローム小から大ブロックを少量、焼土粒子及び焼土小ブロックと炭化物を少量含む暗褐色土、第2層はローム粒子を多量とローム小から大ブロックを中量含む明褐色土、第3層はローム粒子及び焼土小ブロックと炭化物を少量含む暗褐色土で、下層には炭化材がみられる。第4層はローム粒子を多量と炭化粒子を少量含むにぶい褐色土である。

遺物 覆土下層から床面にかけて、土師器甕を中心に多数出土している。1の土師器坏は北西寄りの床面から逆位の状態で、19の須恵器坏は同じく北西寄りの覆土下層から正位の状態で出土している。4~17は土師器

甕で、5は南コーナー部壁際の覆土下層から横位の状態で、4と14の土師器甕はそれぞれ東コーナー部床面、南西寄りの覆土下層から斜位の状態で出土している。18の土師器甕は10と接するように覆土最下層から正位の状態で出土している。

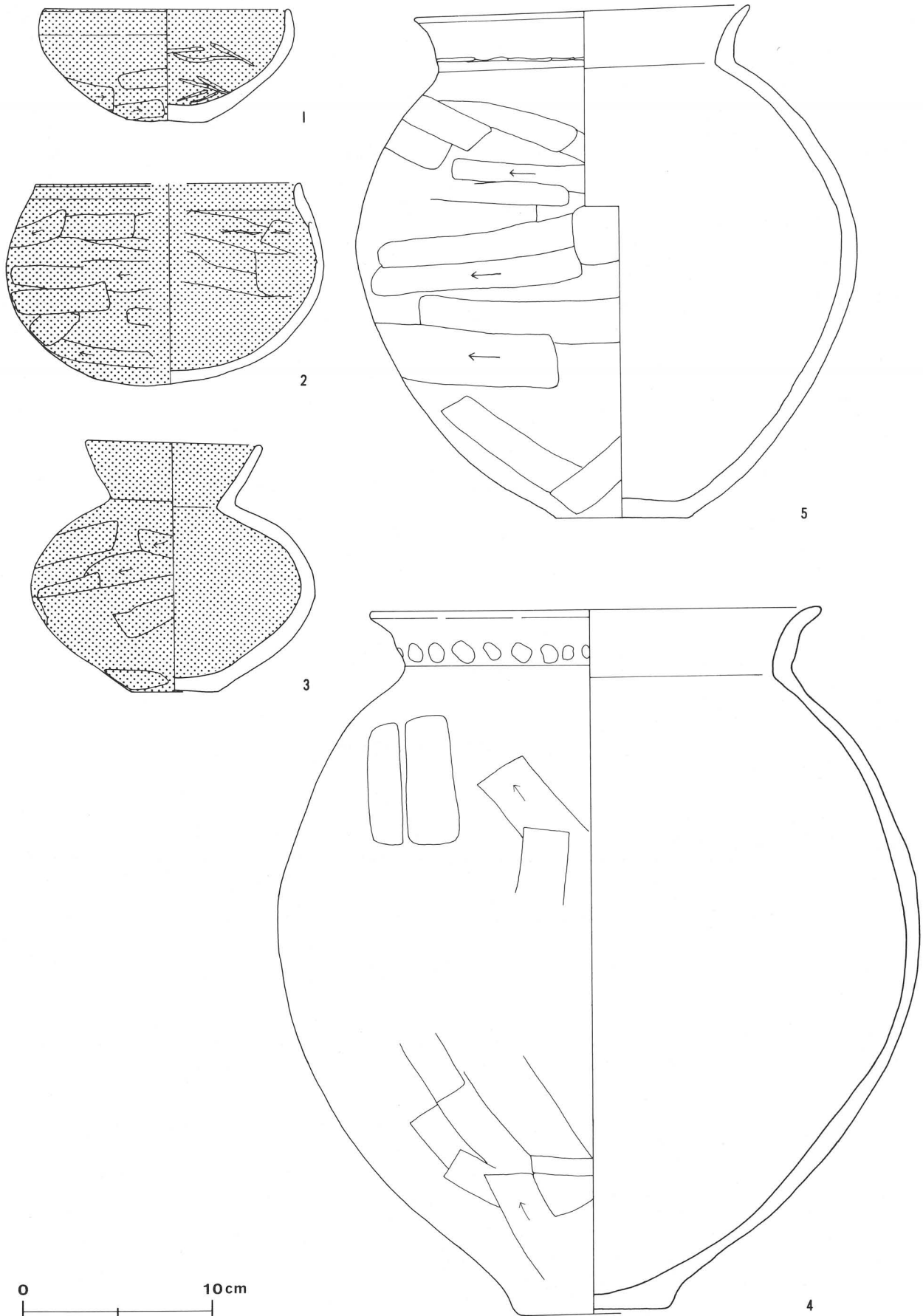
所見 遺物は残存率の高い土師器の甕がほとんどで、環類の出土が少なく、小形の建物跡であることから、当遺跡から確認されている居住目的以外の建物跡と考えられる。また、下層から床面にかけて焼土塊及び炭化材が確認されていることから、当建物は焼失したものと思われるが、出土した遺物には二次焼成の痕跡が見られないことから、焼失後、間もなく投棄され、埋め戻しが行われたものと考えられる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の建物跡と考えられる。



第98図 第32号住居跡実測図

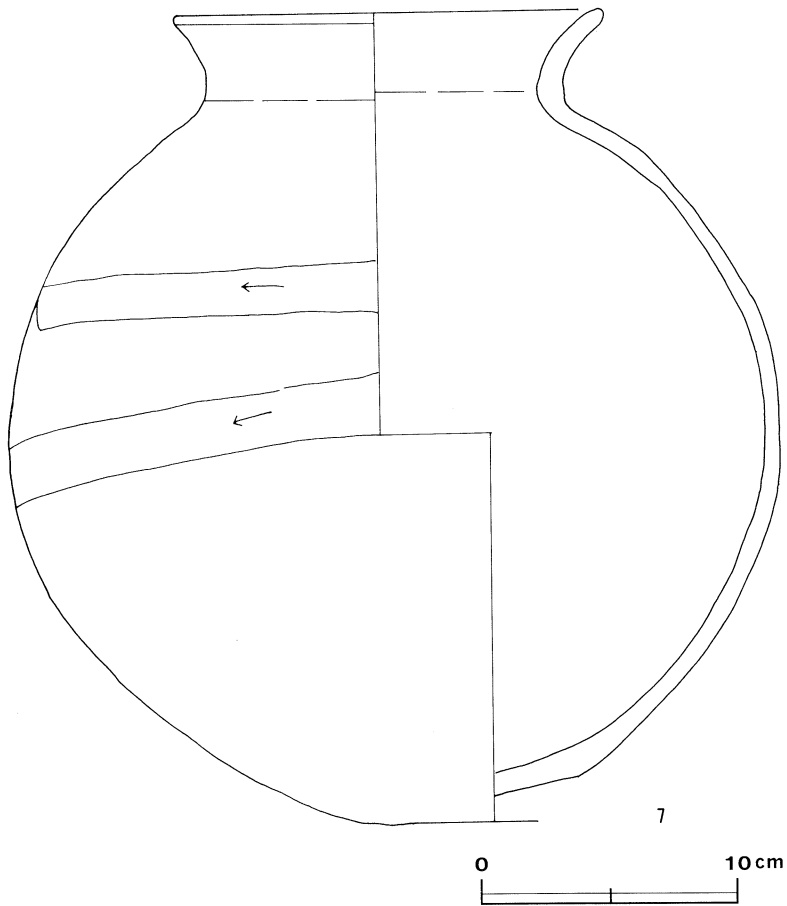
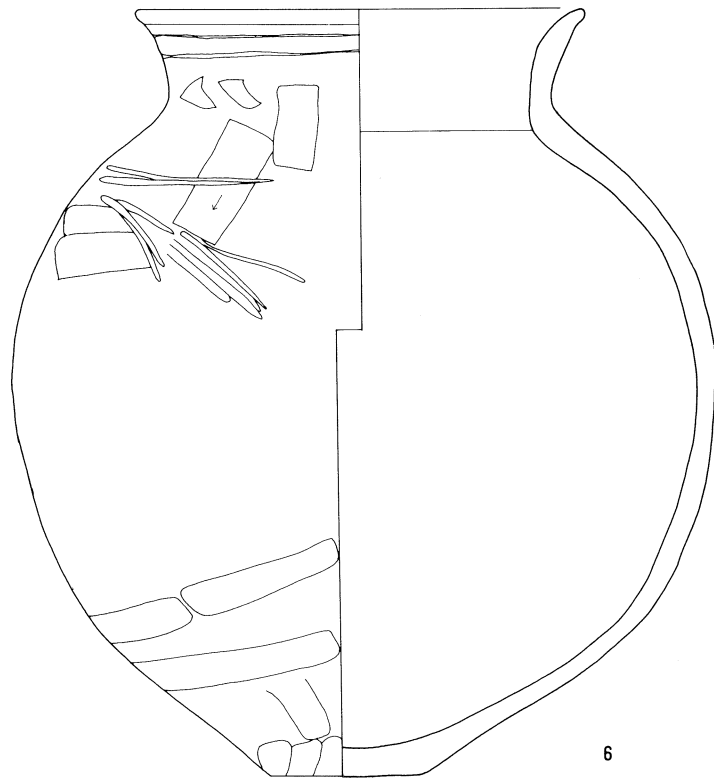
第32号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第99~104図 1	土師器 甕	A 13.2 B 6.1 C 4.4	口縁部の一部欠損。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P210 PL51 90% 床面
2	土師器 埴	A [14.1] B 6.1	体部及び口縁部一部の欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P211 PL51 70% 覆土中層
3	土師器 壺	A 9.1 B 13.4 C 4.6	平底。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外傾する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P212 PL51 95% 床面
4	土師器 甕	A 24.0 B 38.5 C 8.2	底部は平底で突出する。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面に指頭痕。内面ナデ。体部外面へら削り。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P213 PL51 100% 床面
5	土師器 甕	A 17.8 B 25.8 C 7.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面下位及び体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 黄橙色 普通	P214 PL51 95% 覆土下層
6	土師器 甕	A 17.6 B 31.0 C 6.0	体部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、上位は磨き。	長石・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P215 PL51 90% 床面

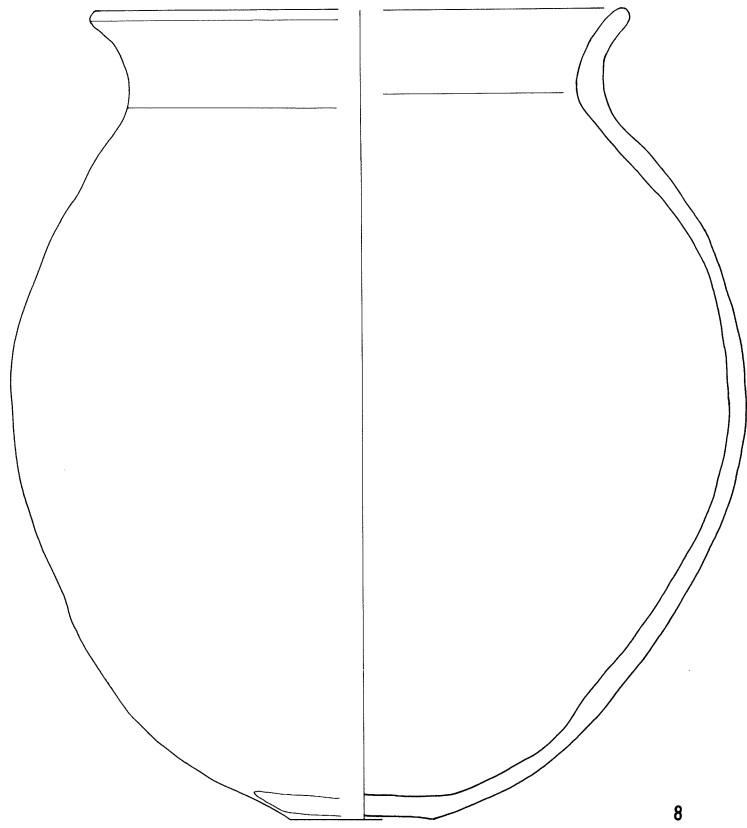


0 10cm

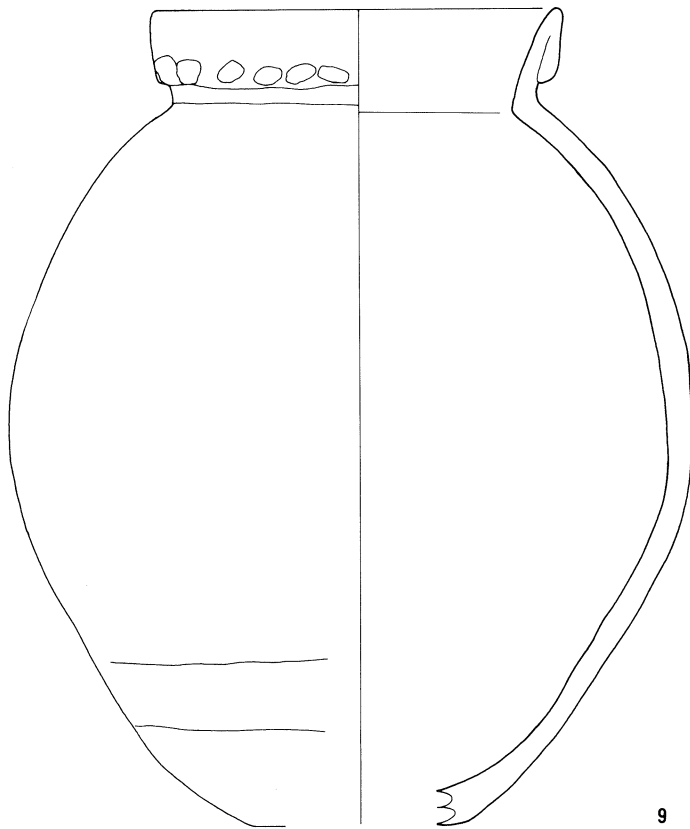
第99図 第32号住居跡出土遺物実測図(1)



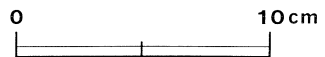
第100图 第32号住居跡出土遺物実測図(2)



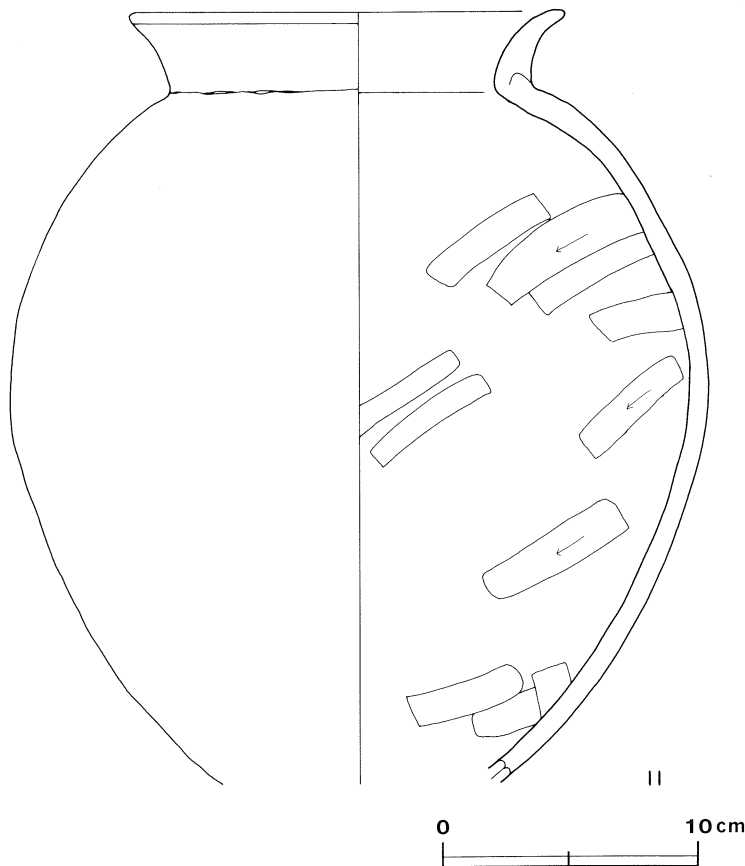
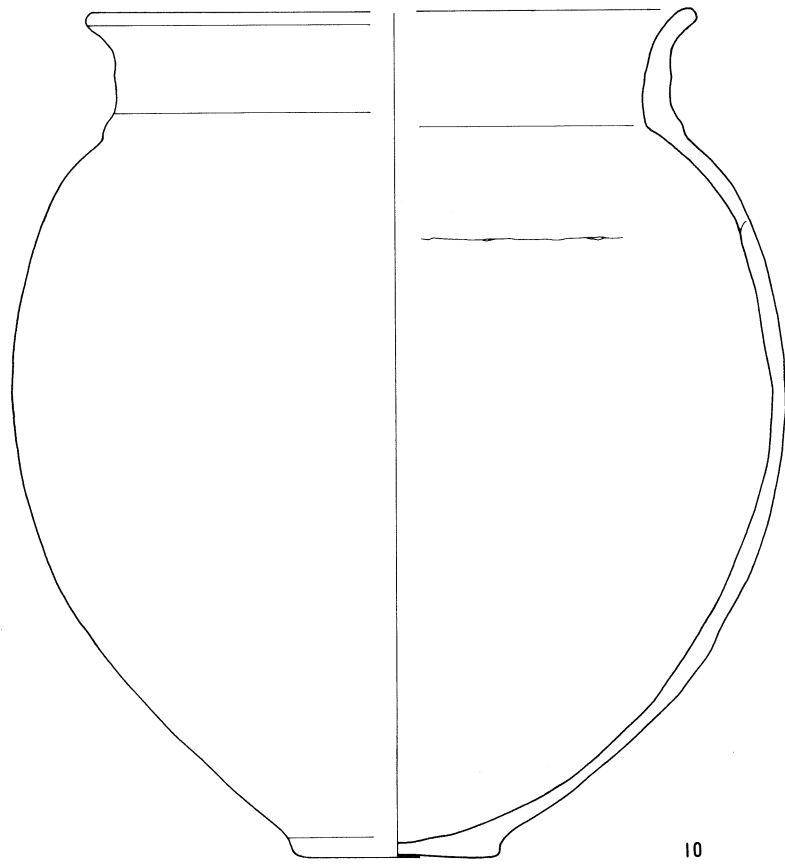
8



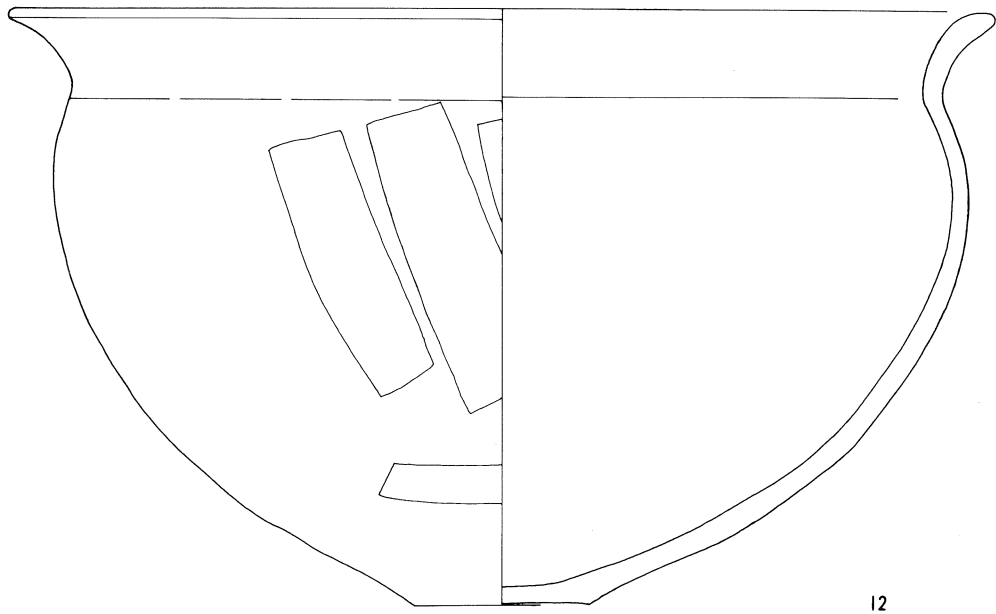
9



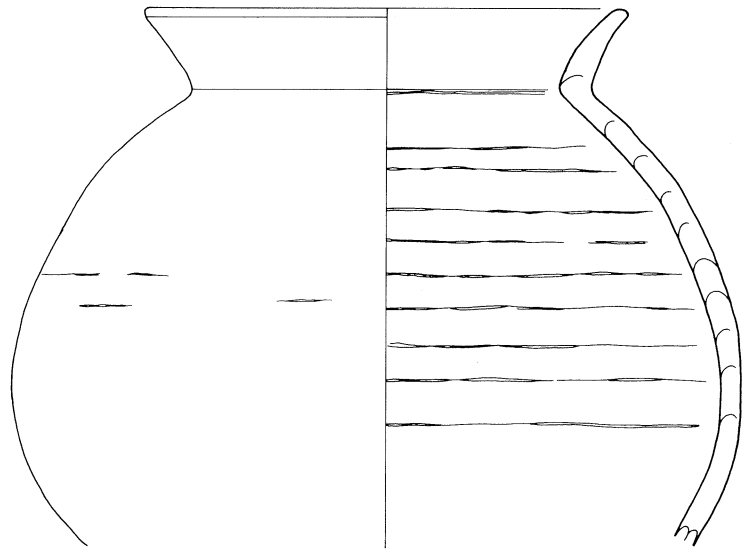
第101图 第32号住居跡出土遺物実測図(3)



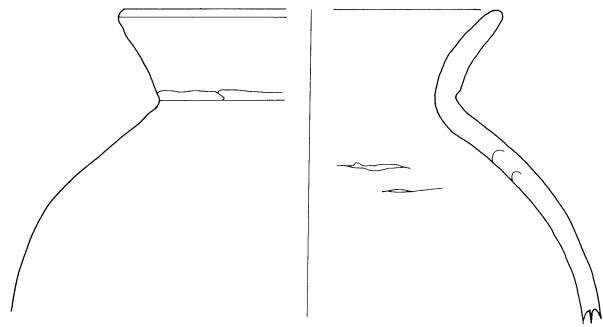
第102図 第32号住居跡出土遺物実測図(4)



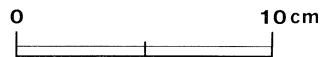
12



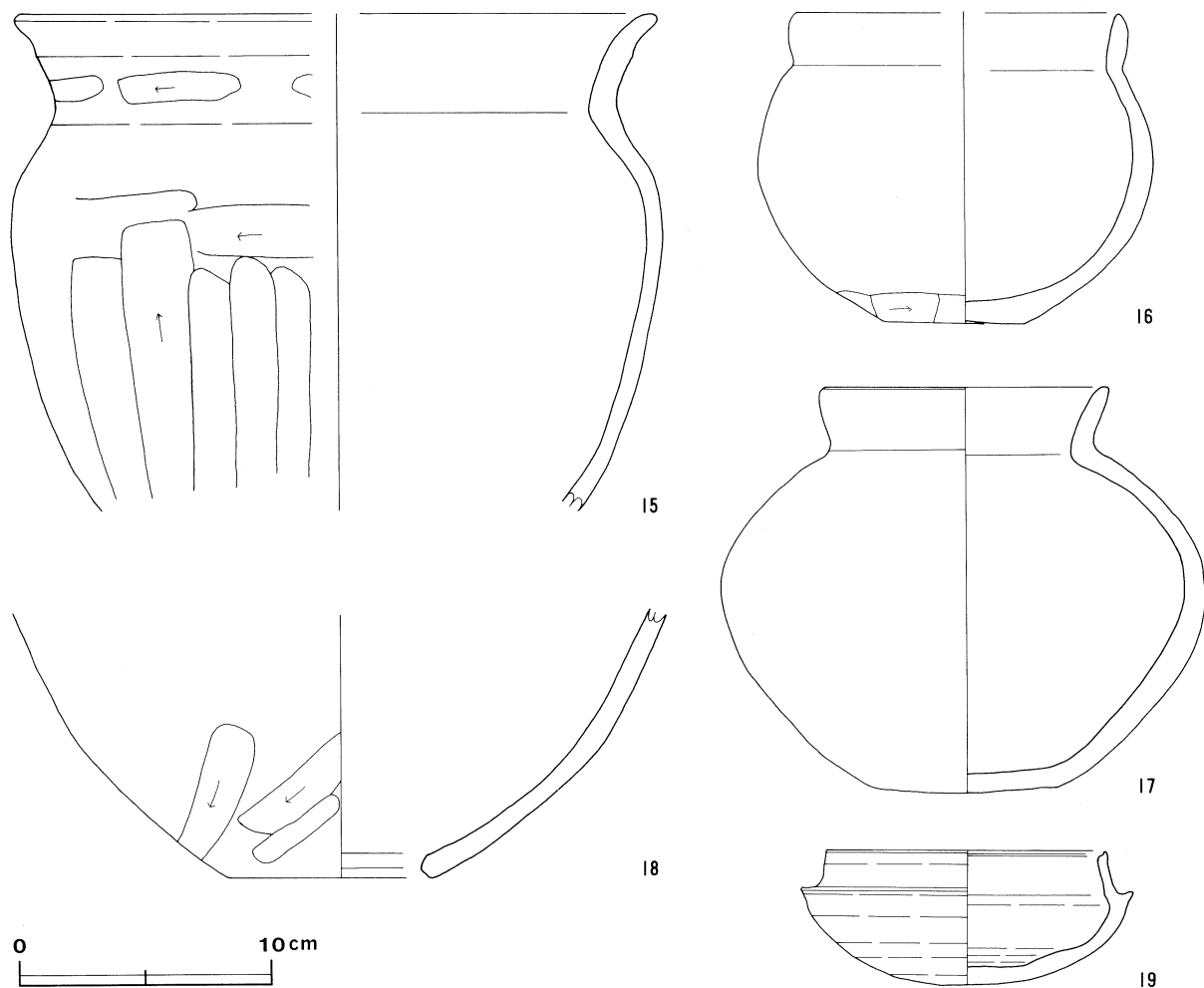
13



14



第103図 第32号住居跡出土遺物実測図(5)



第104図 第32号住居跡出土遺物実測図(6)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
7	甕 土師器	A 17.8 B 32.6 C 6.5	体部の一部欠損。平底。体部は球形形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。	長石・砂粒にぶい黄橙色普通	P216 PL51 80% 床面
8	甕 土師器	A [15.6] B 32.7 C 5.8	体部及び口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面摩耗。	長石・石英・砂粒にぶい黄橙色普通	P217 PL52 75% 覆土下層
9	甕 土師器	A 15.2 B (32.6)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部外傾し、口縁部は折り返される。	口縁部外面下位に指頭痕。体部内・外面摩耗。	長石・砂粒にぶい黄橙色普通	P218 PL52 75% 床面
10	甕 土師器	A [23.2] B 34.1 C 8.0	体部及び口縁部の一部欠損。突出する底部で、体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部は直立し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面摩耗。	長石・石英・砂粒にぶい黄橙色普通	P219 PL52 70% 覆土上層
11	甕 土師器	A 17.0 B (31.0)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面摩耗。内面へラ削り後、ナデ。	長石・石英・砂粒にぶい橙色普通	P220 PL52 65% 覆土下層
12	甕 土師器	A 38.6 B 23.9 C 7.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を上位にもつ。口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒にぶい赤褐色普通	P221 PL53 50% 覆土中層
13	甕 土師器	A 19.0 B (21.7)	体部から口縁部の破片。体部は球形形状で、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・砂粒にぶい褐色普通	P222 PL52 50% 床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
14	甕 土師器	A 14.8 B (12.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面下位へラ削り。体部外面摩耗。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P223 P L52 45% 覆土下層
15	甕 土師器	A [25.0] B (20.0)	底部から口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、最大径を上位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P224 P L52 60% 覆土下層
16	甕 土師器	A [12.6] B 12.5 C 5.6	体部及び口縁部の一部欠損。平底。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は僅かに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面剥離。	長石・砂粒 橙色 普通	P225 P L51 85% 覆土下層
17	甕 土師器	A 11.0 B 16.4 C 7.2	平底。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び体部外面摩耗。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい橙色 普通	P226 P L53 95% 床面
18	甕 土師器	B (10.9) C 8.0	底部から体部の破片。無底式。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P227 P L52 50% 覆土中層
19	坏 須恵器	A 11.0 B 5.4	丸底。体部は内彎して立ち上がる。受部は外上方にのび、受部端部は丸味をおびる。口縁部は内傾し、端部に沈線が巡る。	体部外面回転へラ削り。	長石・砂粒 灰色 良好	P228 P L53 100% 覆土下層

第33号住居跡（第105図）

位置 1区中央部，B10j₉区。

規模と平面形 長軸7.52m，短軸7.44mの方形である。

主軸方向 N-52°-W。

壁 壁高は32～52cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅7～19cm，下幅6～15cm，深さ48cmで，断面形は皿状をしている。

間仕切り溝 6条（a～f）。北東側に2条（a・b），南西側に3条（c～e），北西側に1条（f）確認され，長さ1.24～1.50m，上幅15～32cm，下幅6～22cm，深さ4～18cmで，断面形はU字状をしている。

床 ほぼ平坦で，全体的に硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには，貯蔵穴Aを囲むように，幅約40cm，高さ4cm程のかまがいの高まりがみられる。

ピット 5か所（P₁～P₅）。P₁～P₄は，径42～82cm，深さ66～75cmで主柱穴，P₅は，径44cm，深さ65cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 2か所（炉A・B）。炉Aは中央から北西寄りにあり，長径1.60m，短径0.82mの楕円形で，炉床は掘り窪められていない。覆土は2層からなり，第1層は焼土小ブロックを中量と焼土粒子及び炭化粒子を少量含む暗赤褐色土，第2層は焼土粒子を中量と焼土小ブロックを多量及び炭化物を少量含むにぶい赤褐色土である。炉床は赤変している。炉Bは中央から南東寄りにあり，長径0.96m，短径0.72mの楕円形で，炉床は掘り窪められていない。覆土は4層からなり，第1層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を少量含む暗褐色土，第2層は焼土粒子及び炭化粒子を少量含む暗赤褐色土，第3層は焼土粒子を中量と炭化粒子を微量含む極暗赤褐色土，第4層はローム粒子及び焼土粒子を中量と炭化粒子を微量含むにぶい赤褐色土である。炉床は炉Aに比べて焼けていない。

貯蔵穴 2か所（貯蔵穴A・B）。貯蔵穴Aは南東壁中央の壁下に付設されている。長径0.72m，短径0.54mの楕円形で，深さは33cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴Bは南コーナーに付設されている。径64cmの円形で，深さは53cmである。底面は平坦で，壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土はA・Bともに3層からなり，第1層はローム粒子を中量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土，

第2層は焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土、第3層はローム粒子を多量に含む褐色土である。

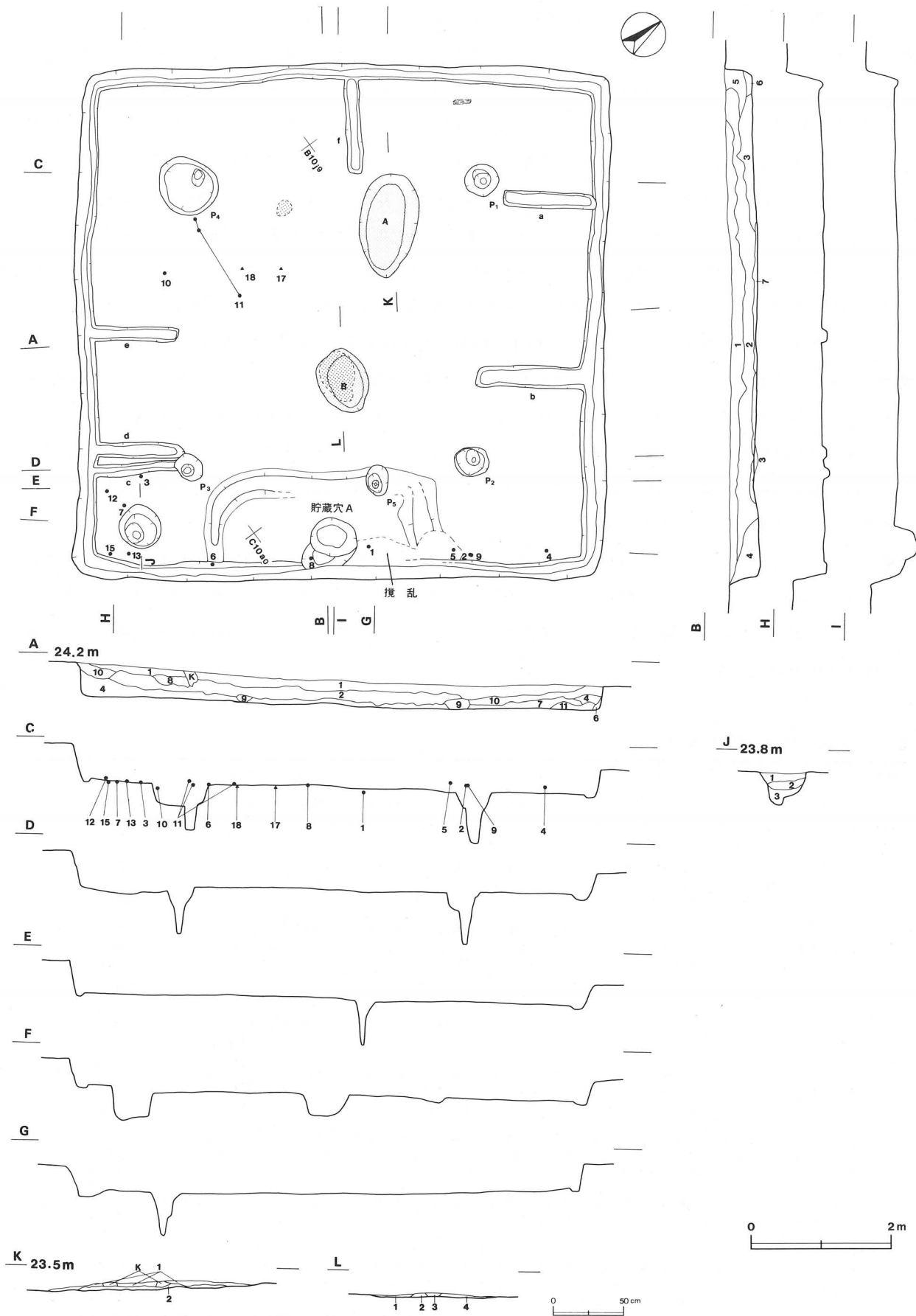
覆土 11層からなる。壁際及び下層にはローム粒子が多量にみられるが自然堆積である。第1層はローム粒子及び焼土小ブロックを少量と炭化粒子及び炭化物を微量含む黒褐色土、第2層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土、第3層はローム粒子多量と焼土粒子及び焼土小ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土、第4層はローム粒子を多量と焼土粒子を少量、炭化粒子及び炭化物を微量含む褐色土、第5層はローム粒子を中量とローム小ブロック及び焼土粒子、炭化粒子を微量含む暗褐色土、第6層はローム粒子を多量に含む褐色土、第7層はローム粒子を多量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土、第8層はローム粒子及び炭化粒子を微量と焼土粒子を多量に含む極暗褐色土、第9層はローム粒子を中量と焼土粒子及び焼土小ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土、第10層はローム粒子を中量と焼土粒子を少量及び炭化粒子を微量含む暗褐色土、第11層はローム粒子を中量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土である。

遺物 南側の覆土下層から床面を中心に、土師器の坏を主体に多量に出土している。第106図15の土師器甕は南コーナー部床面（第4層）から潰れた状態で出土している。1～12は土師器坏，13は土師器塚で，1・2・4～6・8・9は南東壁際の床面から出土している。3と7は南コーナー部床面から正位の状態で出土している。14の須恵器甕は北寄りの覆土中から出土したものと、別の遺構（第34・35・38・43・46号住居跡）及び遺構外から出土した破片が接合したものである。

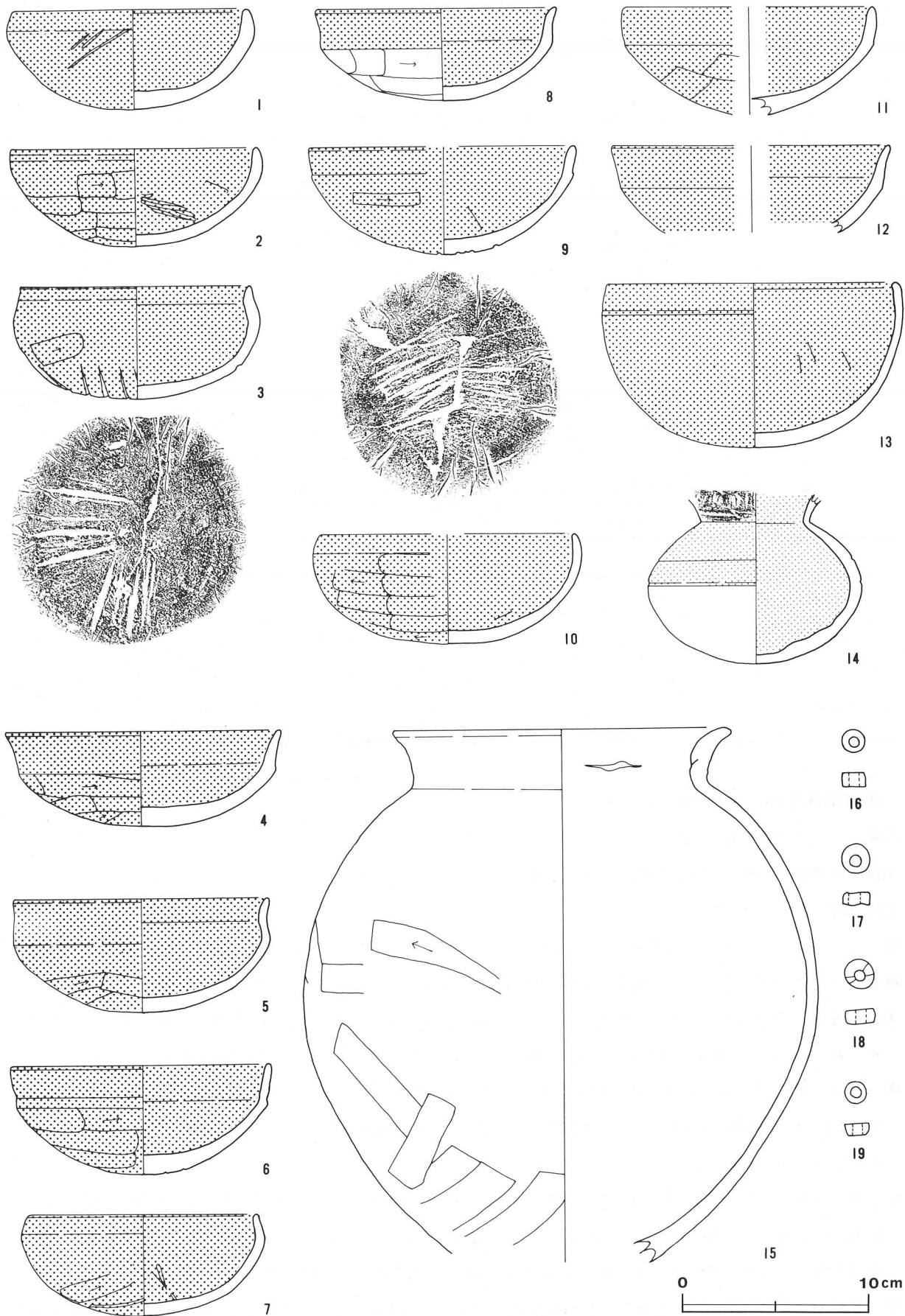
所見 出土した遺物の中で、土師器坏の占める割合が非常に高く、甕等の大形の遺物は極僅かである。出土状況をみると、南コーナーから南東壁にかけての壁際に土師器の坏・塚が9点、意図的に並べたように置かれており、住居廃絶時に伴う何らかの祭祀行為のひとつということも考えられる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

第33号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第106図 1	坏 土師器	A 12.6 B 5.5	丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面摩耗。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P229 P L53 100% 床面
2	坏 土師器	A 13.4 B 5.4	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ後、磨き。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P230 P L53 90% 床面
3	坏 土師器	A 12.4 B 6.1	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P231 P L53 90% 砥石に転用 床面
4	坏 土師器	A 14.8 B 5.1	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P232 P L53 90% 床面
5	坏 土師器	A 13.8 B 6.2	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・雲母・砂粒 赤色 普通	P233 P L53 85% 床面
6	坏 土師器	A 14.0 B 6.0	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P234 P L53 80% 床面
7	坏 土師器	A 12.2 B 5.5	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・雲母・砂粒 赤褐色 普通	P235 P L53 80% 床面
8	坏 土師器	A 13.0 B 5.1	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P236 P L53 75% 床面



第105图 第33号住居跡実测图



第106图 第33号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
9	坏土師器	A [14.5] B 5.9	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面へらナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P237 PL54 75% 砥石に転用 床面
10	坏土師器	A [14.0] B 6.0	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部から口縁部は内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P238 PL54 60% 床面
11	坏土師器	A [13.4] B (5.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P239 PL54 40% 床面
12	坏土師器	A [15.0] B (5.7)	体部から口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P240 10% 覆土下層
13	埴土師器	A 15.7 B 9.0	口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に沈線が巡る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面摩擦。内面へらナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P241 PL54 95% 床面
14	甕須恵器	B (9.2)	口縁部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がる。体部中位に2条の沈線を巡らせ、間に櫛歯による刺突が施される。頸部には櫛描波状文が施される。	体部内・外面ナデ。	長石・砂粒 灰オリーブ色 普通	P242 75%自然釉付着 覆土
15	甕土師器	A 17.9 B (29.0)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P243 PL54 80% 床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考				
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		孔径	滑石	Q	%	備考
16	白玉	0.3	0.5	0.3	0.1	覆土	孔径 2.0mm	Q88	100%	滑石	PL71
17	白玉	0.3	0.5	0.3	0.1	床面	孔径 2.0mm	Q89	100%	滑石	PL71
18	白玉	0.3	0.6	0.3	0.2	床面	孔径 2.0mm	Q90	100%	滑石	PL71
19	白玉	0.2	0.4	0.2	0.1	覆土	孔径 1.5mm	Q91	100%	滑石	PL71

第34号住居跡（第107図）

位置 1区北西部，B10g₇区。

規模と平面形 長軸7.28m，短軸7.28mの方形である。

主軸方向 N-52°-W。

壁 壁高は32～52cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅10～19cm，下幅6～14cm，深さ6～14cmで、断面形はU字状をしている。

間仕切り溝 9条（a～i）。北東側に4条（a～d），南東側に1条（e），南西側に4条（f～i）確認され、長さ0.94～1.68m，上幅10～28cm，下幅4～22cm，深さ4～6cmで、断面形は皿状をしている。

床 ほぼ平坦で、全体的に硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りにはP₅を囲むように、幅36～60cm，高さ約5cmの馬蹄形の高まりが、北西壁から中央寄りには貯蔵穴を囲むように、幅20～30cm，高さ2～3cmの鋸状の高まりがみられる。

ピット 8か所（P₁～P₈）。P₁～P₄は、径46～70cm，深さ0.94～2.08mで支柱穴，P₆は、径30cm，深さ36cmで配置から支柱穴の一部と考えられる。P₅・P₇は、径44～54cm，深さ40～42cmで配置から、いずれも出入り口施設に伴うピットと考えられる。P₈は、径36cm，深さ32cmで性格は不明である。

炉 2か所（炉A・B）。炉Aは中央から北西寄りにあり、長軸1.32m，短軸0.94mの不整形で、床面を僅かに掘り窪めている。覆土は7層からなり、第1層はローム粒子及び焼土粒子を中量含む赤褐色土，第2層は

ローム粒子を少量、焼土粒子を多量、焼土小ブロックを少量含む赤褐色土、第3層はローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む明赤褐色土、第4層は焼土粒子を中量、炭化粒子を微量含む赤褐色土、第5層はローム粒子を多量、炭化粒子を中量含む明赤褐色土、第6層はローム粒子を多量、炭化粒子を微量含む明赤褐色土、第7層はローム粒子及び焼土粒子を多量に含む橙色土である。炉床は火熱を受け、ブロック状に赤変硬化している。炉Bはほぼ中央にあり、長径56cm、短径52cmの楕円形で、床面を3cm程掘り窪めている。覆土は1層で焼土粒子を中量、焼土小ブロックと炭化粒子を少量含む赤褐色土である。炉床は凸凹で火熱を受け、赤変硬化している。

貯蔵穴 西コーナー寄りの北西壁下に付設されている。長軸1.00m、短軸0.72mの長方形で、深さは30cmである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は5層からなり、第1層はローム粒子を少量とローム中ブロック及び焼土粒子を中量含む褐色土、第2層はローム粒子を中量と炭化粒子を少量含む褐色土、第3層はローム粒子を中量と炭化粒子を多量に含む暗褐色土、第4層はローム粒子を多量に含む明褐色土、第5層はローム粒子を多量と炭化粒子を微量含むにぶい褐色土である。

覆土 33層からなり、下層から中層にかけては人為堆積である。

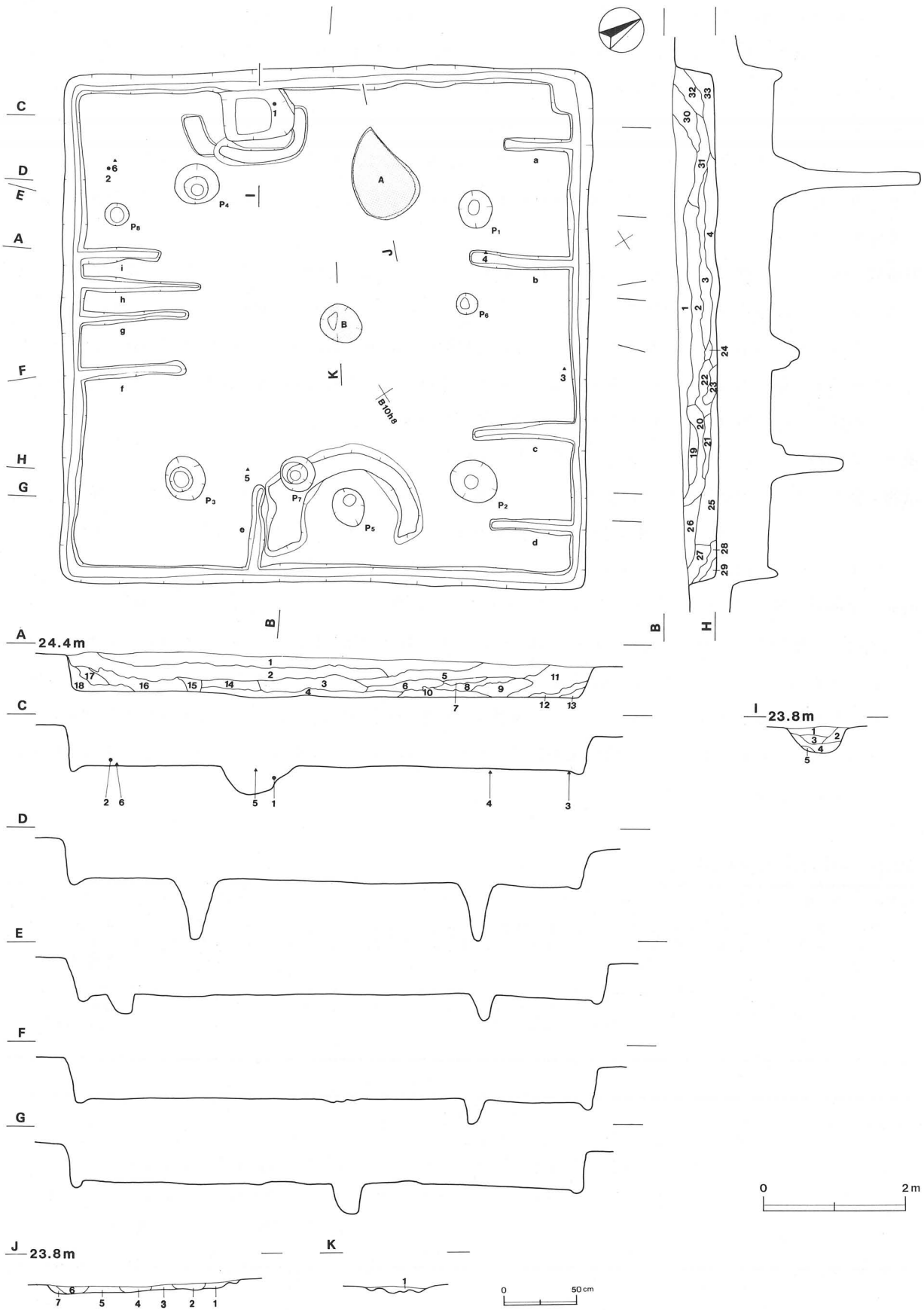
遺物 覆土上層から土師器片が少量出土している。第108図1は土師器甕で貯蔵穴の覆土上層から潰れた状態で出土している。3の砥石は北東壁際から、4の勾玉は北東寄りの床面から出土している。5と6は白玉で、5は南東寄りに、6は西コーナーからそれぞれ出土している。

所見 本跡の貯蔵穴は、出入り口方向と反対側の壁際に、馬の背状の高まりに囲まれるように確認されている。当遺跡から確認された住居跡にみられる貯蔵穴には、馬の背状の高まりによって囲まれるものも多くみられるが、位置はほとんどが出入り口施設をもつ壁際のものばかりであり、本跡例はみられない。間仕切り溝のうち、北東側に確認された4条については、規模及び形状、位置関係から、a・dとb・cまたはa・bとc・dがそれぞれ対になり、同じ機能を果していたものと思われる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

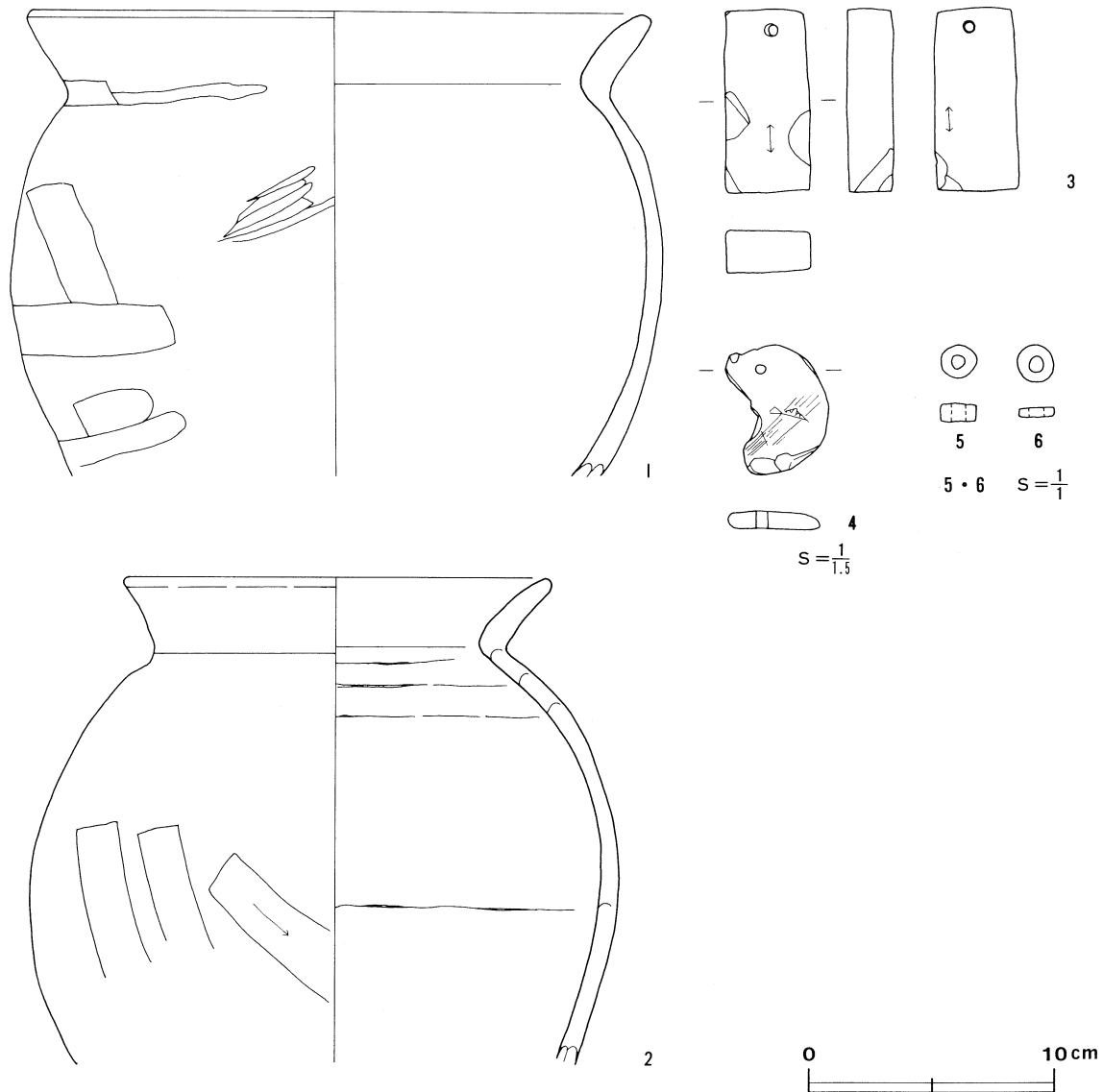
第34号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第108図 1	甕 土師器	A 25.1 B (19.3)	底部から体部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。頸部下位及び体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒にぶい黄橙色普通	P244 PL54 70% 貯蔵穴覆土上層
2	甕 土師器	A 15.0 B (20.2)	底部から体部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・雲母・砂粒極暗赤褐色普通	P245 PL54 60% 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考				
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		孔径	Q	%	成分	
3	砥石	5.1	2.3	1.2	27.8	床面	孔径 2.0mm	Q92	90%	砂岩	PL70
4	勾玉	2.7	2.1	0.4	4.0	床面	孔径 2.0mm	Q93	100%	滑石	PL70
5	白玉	0.2	0.5	0.2	0.2	床面	孔径 2.0mm	Q94	100%	滑石	PL71
6	白玉	0.1	0.5	0.1	0.1	床面	孔径 1.0mm	Q95	100%	滑石	PL71



第107图 第34号住居跡実測图



第108図 第34号住居跡出土遺物実測図

第35号住居跡 (第109図)

位置 1区南西部, C10c₉区。

重複関係 本跡の西コーナー付近は, 第37号住居跡の東コーナー付近を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸7.26m, 短軸7.24mの方形である。

主軸方向 N-69°-W。

壁 壁高は26~70cmで, 外傾して立ち上がっている。

壁溝 北コーナー寄りの北西壁下を除き全周している。上幅6~17cm, 下幅2~10cm, 深さ5~10cmで, 断面形はU字状をしている。

間仕切り溝 3条(a~c)。北東壁側に2条(a・b), 南西壁側に1条(c)確認され, 長さ1.02~1.20m, 上幅13~26cm, 下幅3~8cm, 深さ6~14cmで, 断面形はU字状をしている。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除き硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには, 幅24~76cm, 高さ約4cmのL字状の高まりがみられ, 出入口施設と考えられる。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は、径30~54cm、深さ86~98cmで支柱穴、P₅は、径22cm、深さ20cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央から北西寄りにあり、長径1.37m、短径0.34mの楕円形で、床面を8cm程掘り窪めている。覆土は8層からなり、第1層はローム粒子を中量と焼土粒子及び焼土小ブロック、炭化粒子を少量含む明褐色土、第2層は焼土粒子を中量と炭化粒子を少量含む赤褐色土、第3層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を中量含む暗赤褐色土、第4層は焼土粒子を中量と炭化粒子を少量及び小石を僅かに含むにぶい赤褐色土、第5層は焼土粒子を中量と焼土小ブロック及び炭化粒子を少量含む赤褐色土、第6層はローム粒子を微量と焼土を中量及び炭化粒子を少量含む暗赤褐色土、第7層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含むにぶい赤褐色土、第7層は焼土粒子及び炭化粒子を少量と炭化物を微量含むにぶい赤褐色土である。炉床は火熱を受け、赤変硬化している。

貯蔵穴 東コーナーに付設されている。長径1.06m、短径0.96mの楕円形で、深さは46cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は5層からなり、第1層はローム粒子を多量と炭化粒子を少量含む明褐色土、第2層は第1層に焼土粒子を少量含む明褐色土、第3層はローム粒子を中量と焼土粒子を少量及び炭化粒子を多量に含む暗褐色土、第4層はローム粒子を多量に含む褐色土、第5層はローム粒子を多量に含む明褐色土である。

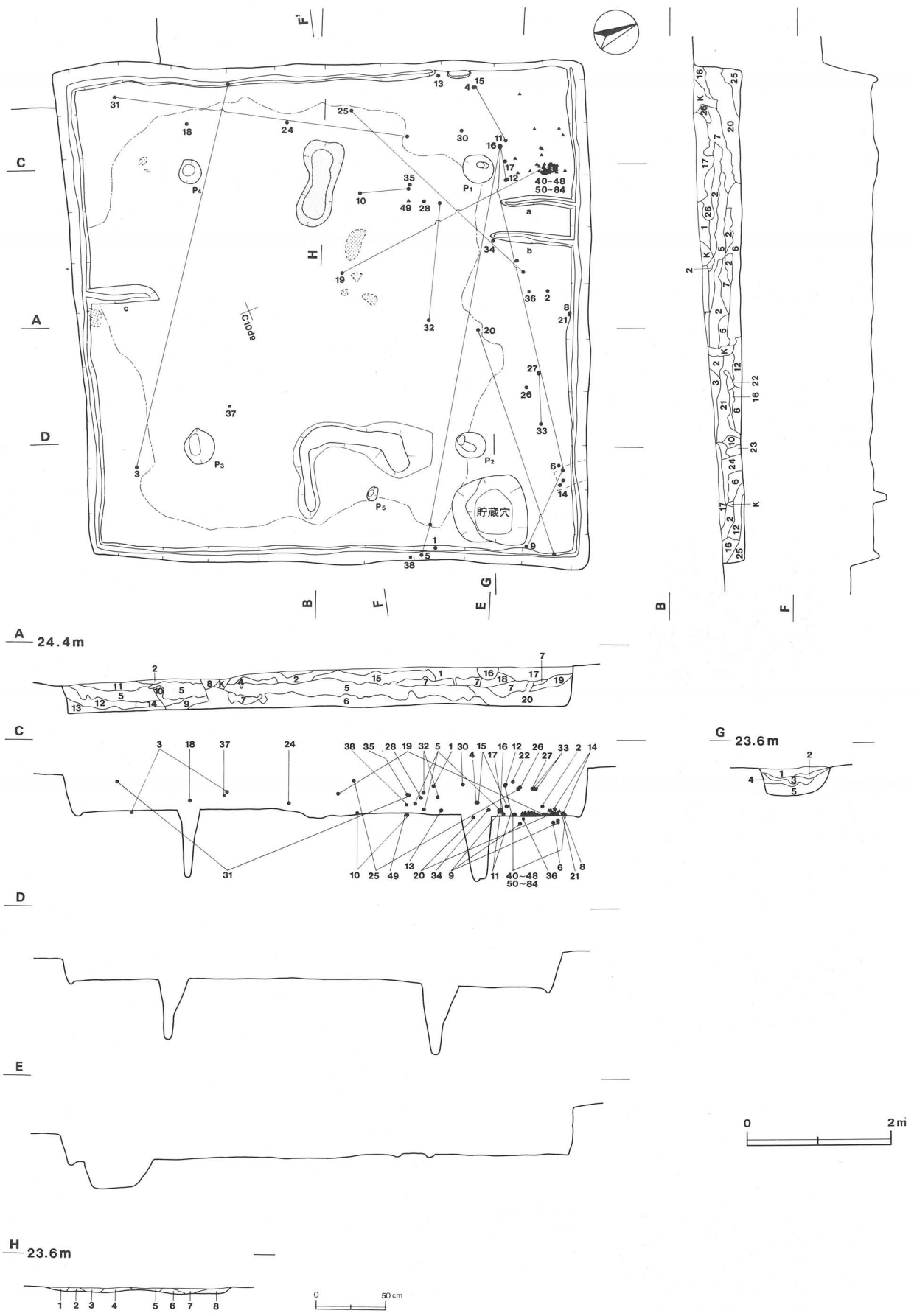
覆土 26層からなり、人為堆積である。焼土粒子、炭化粒子混じりの褐色土及び暗褐色土がブロック状に堆積している。

遺物 北側の覆土上層から床面を中心に、土師器の坏・甕等が多量に出土している。第110・111図1~17は土師器坏で、3は西コーナー寄りの覆土下層から出土した破片と南コーナーの床面から出土した破片が接合したものである。6は東コーナー寄りの南東壁際の床面から逆位の状態で出土している。20の土師器高坏は東コーナー部の床面から逆位の状態で、40~48、50~84の白玉は北コーナーの床面からまとまって出土している。22の須恵器の把手付塊は北東寄りの覆土上層から出土した破片と、第39・51号住居跡から出土した破片が接合したものである。

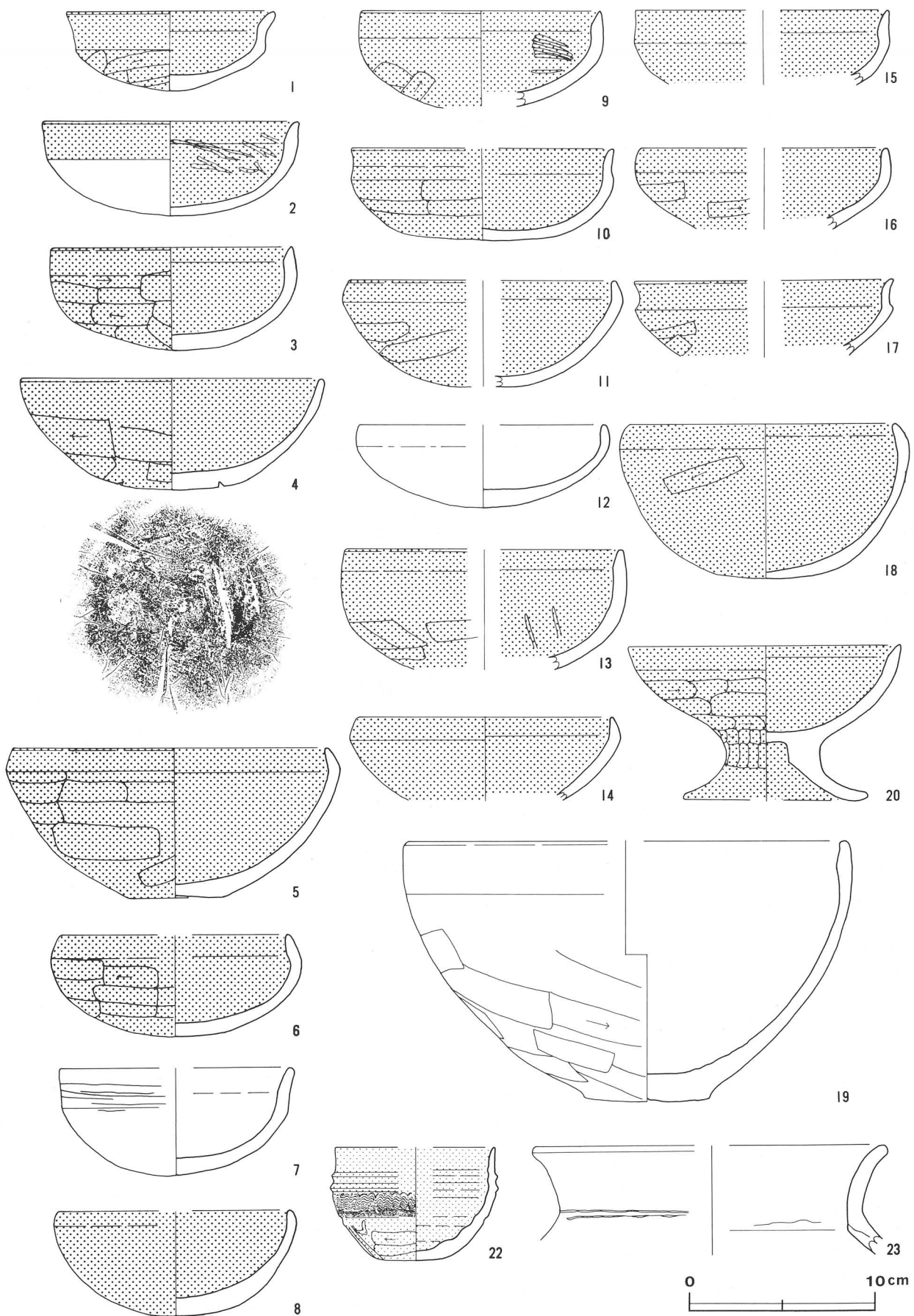
所見 本跡の規模は、第34号住居跡とほぼ同様である。壁際から炭化材及び焼土塊がみられることから焼失住居で、南西壁中央の壁下からは、屋根材と思われる炭化材が出土している。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

第35号住居跡出土遺物観察表

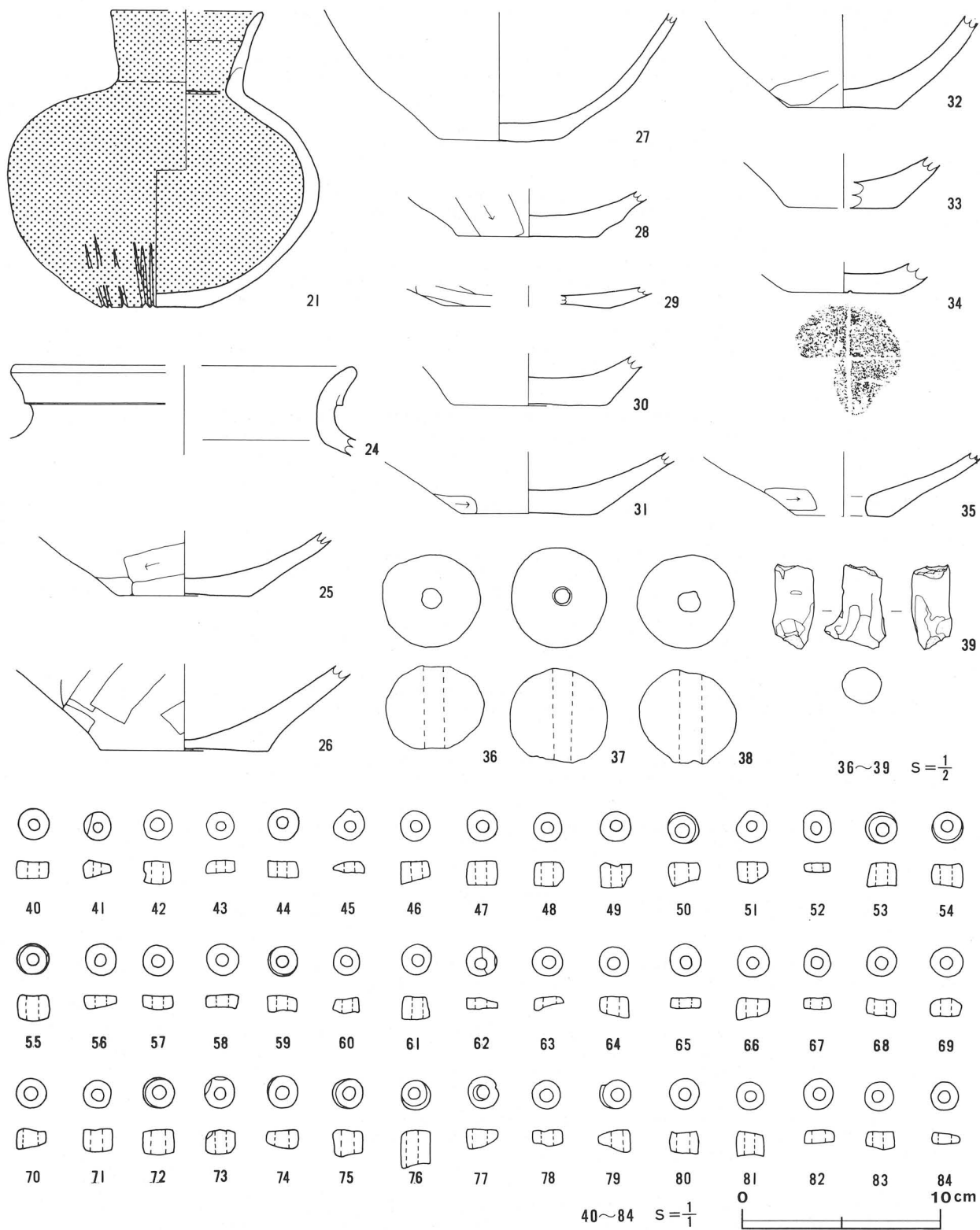
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第110・111図 1	坏 土師器	A 11.2 B 4.4	丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面剥離。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P246 PL54 100% 覆土中層
2	坏 土師器	A 13.6 B 5.2	丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面ナデ後、磨き。口縁部外面及び体部内面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P247 PL54 100% 覆土下層
3	坏 土師器	A 13.0 B 5.7	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P248 PL54 95% 覆土下層
4	坏 土師器	A 16.3 B 6.1	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P249 PL54 90% 砥石に転用 覆土下層
5	坏 土師器	A 17.0 B 8.2 C 5.0	体部及び口縁部の一部欠損。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P250 PL55 80% 覆土下層



第109图 第35号住居跡実測图



第110图 第35号住居跡出土遺物実測図(1)



第111图 第35号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	坏土師器	A [14.0] B 5.6	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 251 P L 55 75% 床面
7	坏土師器	A 11.4 B 5.9	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P 252 P L 55 70% 覆土
8	坏土師器	A 12.6 B 5.7	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面摩耗。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P 253 60% 床面
9	坏土師器	A 13.0 B (5.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 254 50% 覆土下層
10	坏土師器	A [14.0] B 5.0	底部から口縁部の破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 255 P L 55 50% 床面
11	坏土師器	A [14.2] B 5.8	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P 256 P L 55 40% 覆土上層
12	坏土師器	A [13.4] B 4.6	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面摩耗。	砂粒 赤色 普通	P 257 35% 覆土上層
13	坏土師器	A [14.8] B 6.6	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 258 30% 覆土下層
14	坏土師器	A 14.0 B (4.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明褐色 普通	P 259 20% 覆土下層
15	坏土師器	A [13.8] B (4.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 260 20% 覆土下層
16	坏土師器	A [13.4] B (4.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P 261 20% 覆土下層
17	坏土師器	A [14.0] B (4.2)	体部から口縁部の破片。体部と口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P 262 10% 床面
18	埴土師器	A 14.5 B 8.3	体部から口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面剥離。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 263 P L 55 80% 覆土下層
19	鉢土師器	A [23.6] B 14.2 C 6.6	体部及び口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面剥離。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P 264 P L 55 70% 覆土下層
20	高坏土師器	A 14.8 B 8.4 D [10.0] E 3.0	脚部及び口縁部の一部欠損。脚部は短脚で、ラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部及び脚部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P 265 P L 55 80% 床面
21	壺土師器	A [7.8] B 15.2 C 5.0	体部及び口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内面横ナデ。体部外面摩耗。内・外面赤彩。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P 266 P L 55 80% 砥石に転用 床面
22	把手付埴須恵器	A [8.4] B 6.3 C 4.0	体部、口縁部の一部及び把手欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。体部下位に1条の沈線が巡り、口縁部との境に稜を2段もつ。沈線と稜との間には櫛描き波状文が施される。口縁部は直立し、端部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位へら削り。内・外面ナデ。	長石・砂粒 黄灰色 良好	P 267 P L 55 60% 自然釉付着 覆土上層
23	甕土師器	A [18.8] B 6.0	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P 268 30% 覆土

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
24	甕土師器	A [17.2] B (4.6)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。口縁部は折り返される。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P269 10% 覆土下層
25	甕土師器	B (3.3) C 6.6	底部から体部の破片。平底。	底部外面へラ削り後、ナデ。体部外面へラ削り。内面摩耗。	長石・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P270 20% 覆土上層
26	甕土師器	B (4.0) C [8.6]	底部から体部の破片。平底で、体部は外傾して立ち上がる。	底部及び体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P271 20% 覆土中層
27	甕土師器	B (6.6) C 6.0	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面摩耗。内面剝離。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P272 20% 覆土中層
28	甕土師器	B (2.6) C 7.2	底部から体部の破片。平底。	底部及び体部外面へラ削り。内面摩耗。	長石・砂粒 にぶい褐色 10%	P273 10% 覆土下層
29	甕土師器	B (1.1) C [8.5]	底部の破片。平底。	体部外面へラ削り。	長石・雲母・砂粒 褐色 普通	P274 10% 覆土
30	甕土師器	B (3.6) C 8.0	底部の破片。平底。	底部内・外面摩耗。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P275 10% 覆土中層
31	甕土師器	B (3.0) C 7.0	底部から体部の破片。平底で、体部は外傾して立ち上がる。	体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 暗褐色 普通	P276 10% 覆土上層
32	甕土師器	B (4.8) C [5.6]	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎気味に立ち上がる。	底部外面へラ削り後、ナデ。体部外面へラ削り。内面剝離。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P277 20% 覆土下層
33	甕土師器	B (2.8) C [5.6]	底部の破片。平底。	底部内・外面ナデ。	長石・砂粒 褐色 普通	P278 10% 覆土中層
34	甕土師器	B (1.6) C 5.6	底部の破片。平底。	底部内・外面ナデ。底部内・外面にへラ記号「×」。	長石・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P279 10% 覆土下層
35	甕土師器	B (3.2) C [4.8]	底部から体部の破片。単孔式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P280 10% 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考				
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		孔径	DP	%	滑石	
36	球状土錘	3.3	3.3	3.3	27.4	床面	孔径 7.0mm	DP21	100%	滑石	PL68
37	球状土錘	3.2	3.4	3.2	32.7	覆土	孔径 7.0mm	DP22	100%	滑石	PL68
38	球状土錘	3.2	3.3	3.2	28.2	覆土	孔径 8.0mm	DP23	100%	滑石	PL68
39	不明土製品	(2.9)	(2.1)	1.2	5.8	覆土		DP24			PL69
40	白玉	0.5	0.5	0.3	0.2	床面	孔径 2.0mm	Q96	100%	滑石	PL71
41	白玉	0.4	0.5	0.3	0.2	床面	孔径 1.5mm	Q97	100%	滑石	PL71
42	白玉	0.5	0.5	0.4	0.2	床面	孔径 2.0mm	Q98	100%	滑石	PL71
43	白玉	0.3	0.5	0.4	0.2	床面	孔径 1.5mm	Q99	100%	滑石	PL71
44	白玉	0.3	0.6	0.3	0.2	床面	孔径 2.0mm	Q100	100%	滑石	PL71
45	白玉	0.2	0.6	0.2	0.2	床面	孔径 2.0mm	Q101	100%	滑石	PL71
46	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床面	孔径 2.0mm	Q102	100%	滑石	PL71
47	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床面	孔径 2.0mm	Q103	100%	滑石	PL71
48	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床面	孔径 2.0mm	Q104	100%	滑石	PL71
49	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床面	孔径 2.0mm	Q105	100%	滑石	PL71
50	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床面	孔径 2.5mm	Q106	100%	滑石	PL71
51	白玉	0.4	0.6	0.4	0.2	床面	孔径 1.5mm	Q107	100%	滑石	PL71

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考				
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		孔径	Q	%	滑石	PL
52	白 玉	0.2	0.5	0.2	0.1	床 面	孔径 2.0mm	Q108	100%	滑石	PL71
53	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q109	100%	滑石	PL71
54	白 玉	0.4	0.6	0.4	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q110	100%	滑石	PL71
55	白 玉	0.5	0.6	0.5	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q111	100%	滑石	PL71
56	白 玉	0.2	0.6	0.2	0.1	床 面	孔径 2.0mm	Q112	100%	滑石	PL71
57	白 玉	0.3	0.5	0.3	0.1	床 面	孔径 2.0mm	Q113	100%	滑石	PL71
58	白 玉	0.3	0.6	0.3	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q114	100%	滑石	PL71
59	白 玉	0.3	0.5	0.3	0.1	床 面	孔径 2.0mm	Q115	100%	滑石	PL71
60	白 玉	0.3	0.5	0.3	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q116	100%	滑石	PL71
61	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q117	100%	滑石	PL71
62	白 玉	0.2	0.5	0.2	0.1	床 面	孔径 2.0mm	Q118	100%	滑石	PL71
63	白 玉	0.2	0.5	0.2	0.1	床 面	孔径 2.0mm	Q119	100%	滑石	PL71
64	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q120	100%	滑石	PL71
65	白 玉	0.2	0.5	0.2	0.1	床 面	孔径 2.0mm	Q121	100%	滑石	PL71
66	白 玉	0.4	0.6	0.4	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q122	100%	滑石	PL71
67	白 玉	0.2	0.5	0.2	0.1	床 面	孔径 2.0mm	Q123	100%	滑石	PL71
68	白 玉	0.3	0.5	0.3	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q124	100%	滑石	PL71
69	白 玉	0.3	0.6	0.3	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q125	100%	滑石	PL71
70	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q126	100%	滑石	PL71
71	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q127	100%	滑石	PL71
72	白 玉	0.5	0.5	0.5	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q128	100%	滑石	PL71
73	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q129	100%	滑石	PL71
74	白 玉	0.3	0.6	0.3	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q130	100%	滑石	PL71
75	白 玉	0.5	0.5	0.5	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q131	100%	滑石	PL71
76	白 玉	0.7	0.5	0.7	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q132	100%	滑石	PL71
77	白 玉	0.3	0.5	0.3	0.2	床 面	孔径 2.5mm	Q133	100%	滑石	PL71
78	白 玉	0.3	0.5	0.3	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q134	100%	滑石	PL71
79	白 玉	0.4	0.6	0.4	0.2	床 面	孔径 2.5mm	Q135	100%	滑石	PL71
80	白 玉	0.4	0.6	0.4	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q136	100%	滑石	PL71
81	白 玉	0.4	0.5	0.4	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q137	100%	滑石	PL71
82	白 玉	0.2	0.5	0.2	0.1	床 面	孔径 2.0mm	Q138	100%	滑石	PL71
83	白 玉	0.3	0.5	0.3	0.2	床 面	孔径 2.0mm	Q139	100%	滑石	PL71
84	白 玉	0.2	0.5	0.2	0.1	床 面	孔径 2.0mm	Q140	100%	滑石	PL71

第36号住居跡 (第112図)

位置 1区南西部, C10b7区。

規模と平面形 長軸3.14m, 短軸2.06m の長方形である。

主軸方向 N-39°-E。

壁 壁高は16~24cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 全体的に硬く踏み固められている。西コーナー付近は木根によって攪乱されている。

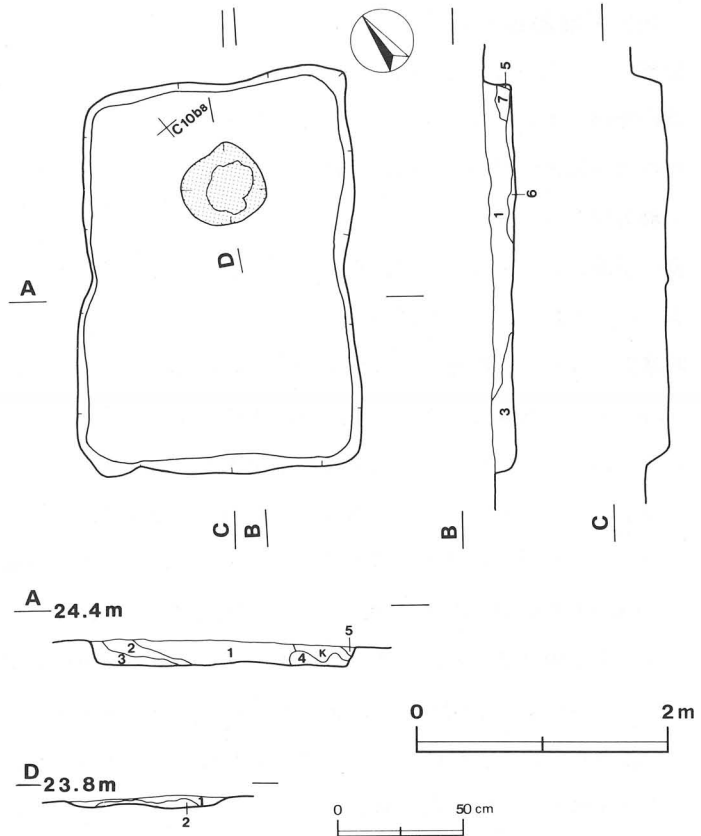
炉 中央から北東寄りにあり, 径68cmの円形で, 床面を3cm程掘り窪めている。覆土は2層からなり, 第1層は焼土粒子を中量と炭化粒子を少量含む赤褐色土, 第2層は焼土小ブロック及び炭化粒子を多量に含む暗赤褐色土である。炉床は火熱を受け, 赤変硬化している。

覆土 7層からなり、自然堆積である。第

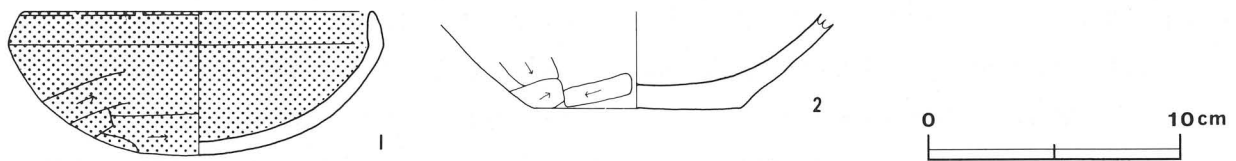
1層はローム粒子を少量含む褐色土、第2層はローム粒子及びローム小ブロックと炭化粒子を少量含む暗褐色土、第3層はローム粒子を少量含む暗褐色土、第4層はローム粒子を少量含む暗褐色土、第5層はローム粒子を多量に含む明褐色土、第6層はローム粒子を多量と褐色土ブロックを少量含む明褐色土、第7層はローム粒子及び焼土小ブロックを少量含む暗褐色土、第7層はローム粒子を中量と焼土粒子を少量含む褐色土である。

遺物 東コーナー及び炉周辺の覆土上層から下層にかけて、少量の土師器甕片等がまとまって出土している。第113図2の土師器甕は東コーナーの覆土上層（第1層）から斜位の状態で出土している。1の土師器坏は南東部覆土上層から床面にかけて出土した破片が接合したものである。

所見 遺物は意図的に破碎されたとと思われる細片がほとんどである。本跡は、炉以外に内部施設をもたない小形の建物跡で、時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。



第112図 第36号住居跡実測図



第113図 第36号住居跡出土遺物実測図

第36号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第113図 1	坏 土師器	A 14.0 B 5.7	体部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P 281 P L 55 90% 覆土上層
2	甕 土師器	A (15.0) B 8.2	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎気味に立ち上がる。	底部及び体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・雲母・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P 282 20% 覆土上層

第37号住居跡（第114図）

位置 1区南西部，C10d₇区。

重複関係 本跡の東コーナー付近は，第35号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.20m，短軸2.56mの長方形である。

主軸方向 (N-20°-E)。

壁 壁高は42～58cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

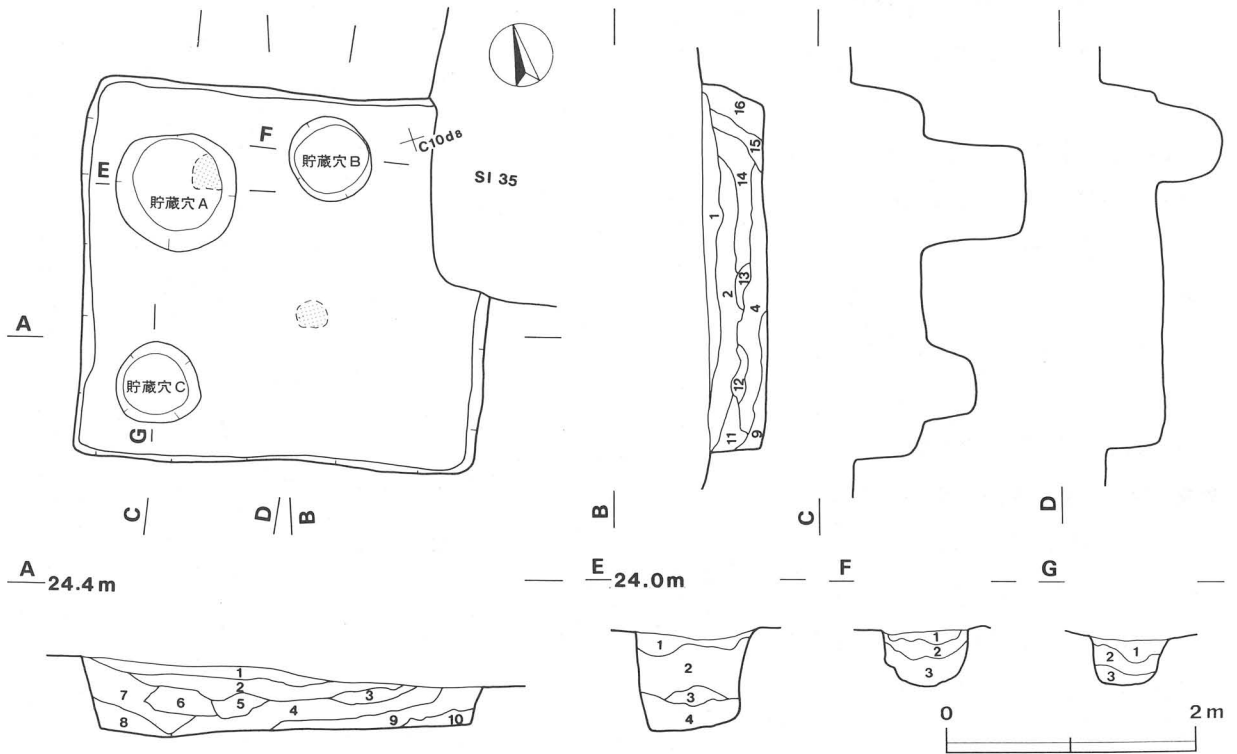
床 ほぼ平坦で，あまり踏み固められていない。

貯蔵穴 3か所（貯蔵穴A～C）。貯蔵穴Aは，北コーナーに付設されている。径約1mの円形で，深さは84cmである。底面は平坦で，壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は4層からなり，第1層はローム粒子とローム小・中ブロックを少量含む暗褐色土，第2層はローム粒子を少量含む褐色土，第3層はローム粒子を中量とローム大ブロックを微量含む褐色土，第4層はローム大ブロックと焼土中ブロックを少量含む褐色土である。底面には焼土と焼土ブロックが少量みられる。貯蔵穴Bは，中央から北東寄りに付設されている。径68cmの円形で，深さは50cmである。底面は皿状で，壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は3層からなり，第1層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土，第2層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む明褐色土，第3層はローム粒子を多量に含む明褐色土である。貯蔵穴Cは，西コーナーに付設されている。径66cmの円形で，深さは42cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。覆土は3層からなり，第1層はローム小ブロックを少量含むにぶい褐色土，第2層はローム粒子を少量と焼土粒子を微量含む暗褐色土，第3層はローム粒子及び焼土中ブロックを少量と焼土粒子を中量含む赤褐色土である。

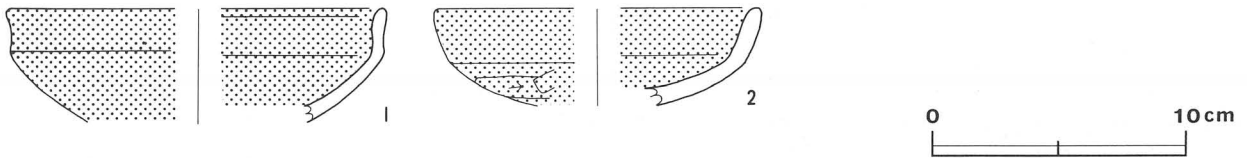
覆土 16層からなり，人為堆積である。第1層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む暗褐色土，第2層はローム粒子及びローム小から大ブロックを少量含む褐色土，第3層はローム粒子及びローム小・大ブロックを少量含む暗褐色土，第4層はローム粒子及びローム小・中ブロックを中量含む褐色土，第5層はローム粒子及びローム小・中ブロックを少量含む黒褐色土，第6層はローム粒子及びローム小ブロックを中量とローム中・大ブロックを少量含む褐色土，第7層はローム粒子を中量とローム小・中ブロックを少量含む褐色土，第8層はローム粒子を中量とローム小ブロック及び焼土粒子を少量含むにぶい褐色土，第9層はローム粒子及びローム中ブロックを少量と焼土小ブロックを多量に含む暗褐色土，第10層はローム粒子を多量とローム中ブロックを中量，焼土粒子及び炭化粒子を微量含む明褐色土，第11層はローム粒子及びローム小ブロックを中量含む褐色土，第12層はローム粒子及びローム小ブロックと焼土粒子を少量含む暗褐色土，第13層はローム粒子及びローム中ブロックを少量含む褐色土，第14層はローム粒子及びローム小・大ブロックを少量含む褐色土，第15層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土，第16層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量及びローム中ブロックを中量含むにぶい褐色土である。

遺物 覆土中から土師器片が38点出土しているだけである。第115図1と2は土師器坏で，1は西コーナー寄りの覆土中層から，2は北西寄りの覆土上層から出土している。

所見 本跡は，貯蔵穴を3か所有するほかは内部施設を何ももたない小形の建物跡で，第64・71号住居跡と類似している。本跡は，遺構の形態及び出土遺物等から古墳時代中期後半の建物跡と考えられる。



第114図 第37号住居跡実測図



第115図 第37号住居跡出土遺物実測図

第37号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第115図 1	坏土師器	A [14.6] B (4.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P283 20% 覆土中層
2	坏土師器	A [12.6] B (3.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・雲母・砂粒 暗赤褐色 普通	P284 20% 覆土上層

第38号住居跡 (第116図)

位置 1区南西部, C10d₆区。

規模と平面形 長軸3.60m, 短軸3.26mの方形である。

主軸方向 (N-30°-E)。

壁 壁高は4~22cmで、外傾して立ち上がっている。

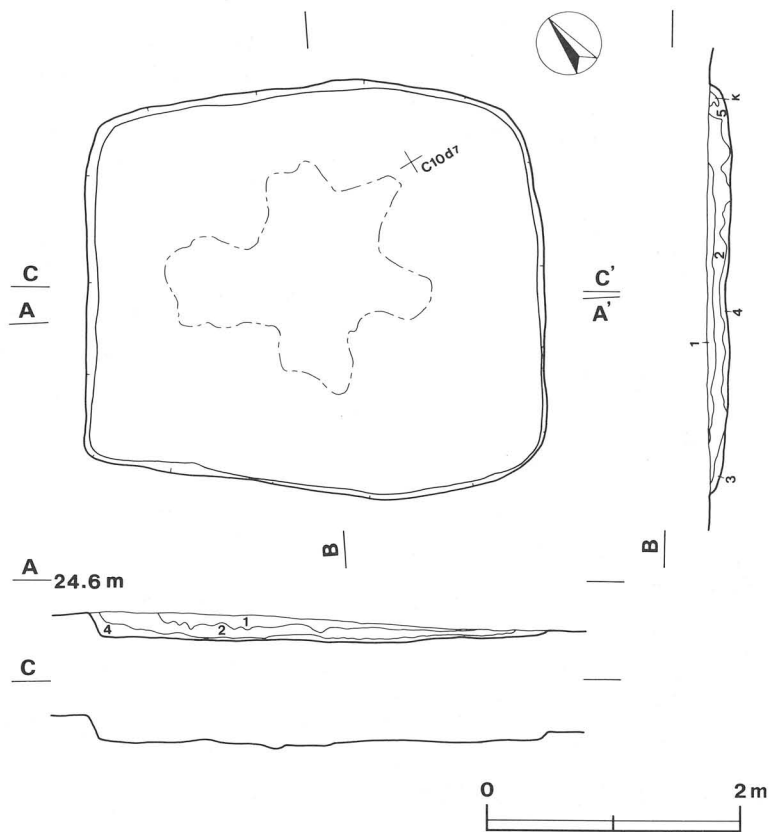
床 凸凹で、中央部は硬く踏み固められている。

覆土 5層からなり、自然堆積である。第1層はローム粒子を微量と焼土小ブロックを極微量含む黒褐色土、第2層はローム粒子を微量とローム小ブロック及び焼土粒子を極微量含む褐色土、第3層はローム粒子及び

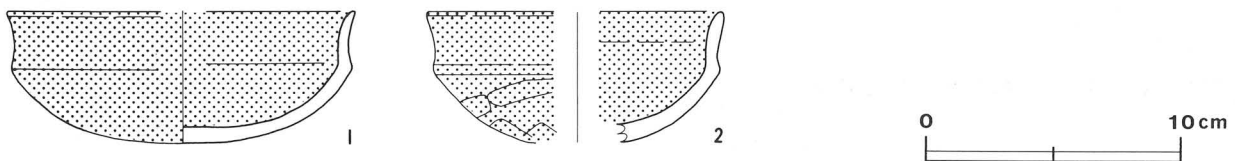
ローム小ブロックを少量含む褐色土、第4層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び焼土粒子を極微量含む褐色土、第5層はローム粒子を微量とローム中ブロックを極微量含む褐色土である。

遺物 覆土第1・2層から、土師器の坏・甕片等が僅かに出土している。第117図1・2は土師器坏で、いずれも中央部から出土している。

所見 本跡は内部施設を何も持たない小形の建物跡である。遺物はすべて流れ込んだものであるが、出土遺物及び遺構の形態から、古墳時代中期後半のものと考えられる。



第116図 第38号住居跡実測図



第117図 第38号住居跡出土遺物実測図

第38号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	坏 土師器	A [13.8] B 5.2	底部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P285 30% 覆土上層
2	坏 土師器	A [11.8] B (5.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P286 20% 覆土上層

第39号住居跡 (第118図)

位置 1区南西部, C10b₆区。

規模と平面形 長軸5.34m, 短軸4.50m の長方形である。

主軸方向 N-26°-E。

壁 壁高は46~60cmで、外傾して立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅10~18cm, 下幅4~12cm, 深さ7~10cmで、断面形はU字状をしている。

床 ほぼ平坦で、出入り口から中央部にかけて硬く踏み固められている。南西壁から中央寄りには、長軸1.70m、短軸1.24mの方形の高まりがみられる。床面との比高は約4cmで、出入り口施設と考えられる。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁~P₃は、径34~56cm、深さ18~24cmで支柱穴、P₄は、径18cm、深さ26cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央から南東寄りにあり、長軸82cm、短軸53cmの楕円形で、床面を4cm程掘り窪めている。覆土は4層からなり、すべて明赤褐色土である。第1層はローム粒子及び焼土小ブロックを少量と焼土粒子を中量、第2層は第1層に比べ焼土粒子を多量に含んでいる。第3層はローム粒子を中量と焼土粒子を多量、第4層はローム粒子を中量と焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含んでいる。

貯蔵穴 北コーナーに付設されている。径1.10mの円形で、深さ48cmである。底面は皿状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は4層からなり、第1層はローム粒子を中量と黒色土を微量含む褐色土、第2層はローム粒子を中量含む褐色土、第3層はローム粒子を多量に含む明褐色土、第4層はローム粒子を中量と炭化粒子を少量含むにぶい褐色土である。

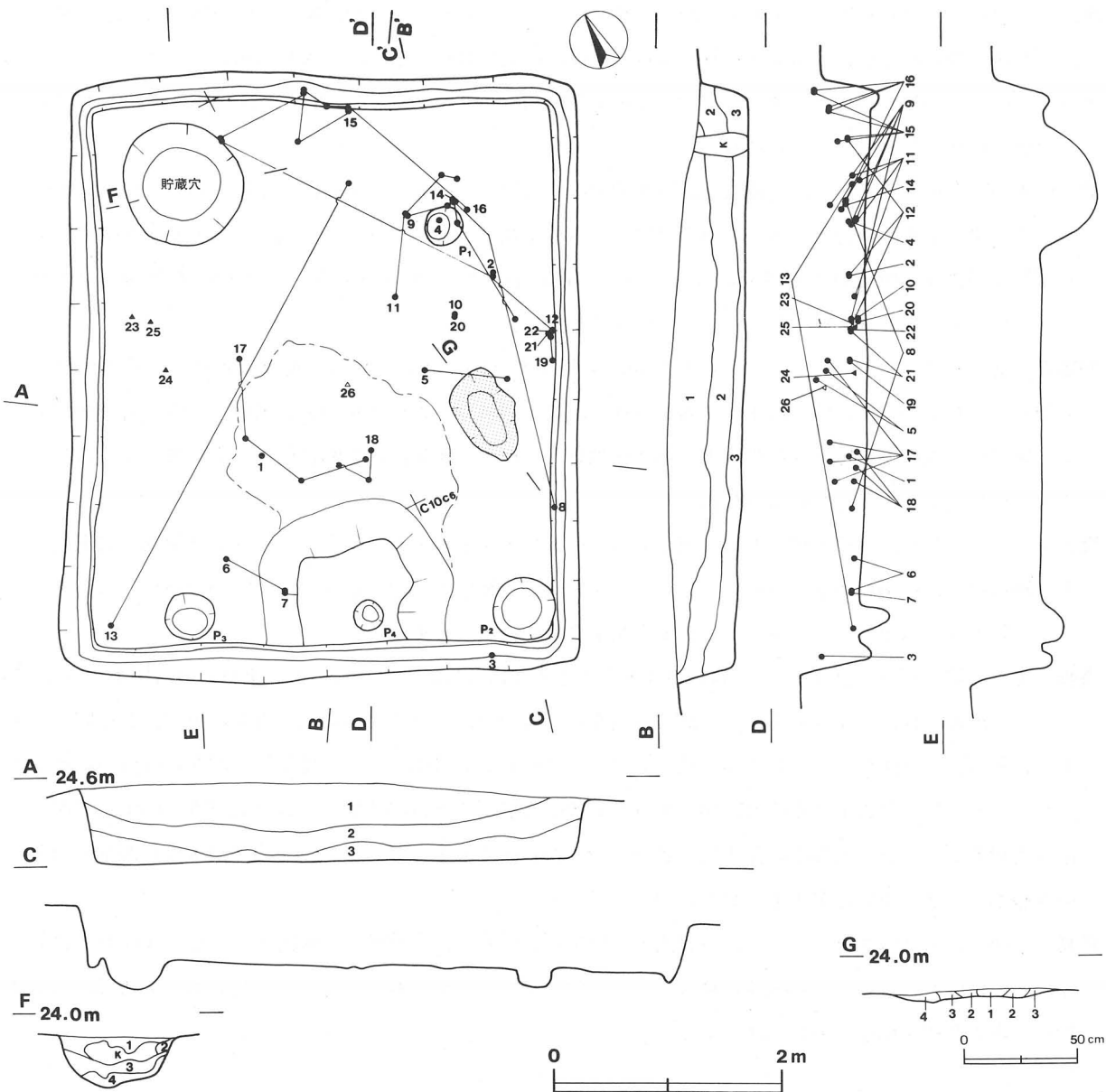
覆土 3層からなり、自然堆積である。第1層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量含む暗褐色土、第2層はローム粒子を多量とローム中ブロックを中量含む褐色土、第3層はローム粒子及びローム小ブロックを多量とローム中ブロック及び炭化粒子を微量含む明褐色土である。

遺物 覆土の第2・3層にかけて、土師器の坏・甕片を主体に多量に出土している。第119~121図1・2・4・6~8の土師器坏は、いずれも覆土第3層から出土したもので、1は中央から南西寄りに正位、2は同じく東寄りに斜位、6は西コーナーに正位の状態で出土している。3は南コーナー覆土第2層から斜位の状態で出土している。10~22の土師器甕は、10が東寄りの覆土下層から逆位の状態で、14が北東寄りの覆土下層から潰れた状態で、21が南東壁際の覆土第3層から潰れた状態で出土している。23~25の白玉は北西寄りの覆土第3層から、26の小札は覆土第2層から出土している。

所見 本跡の貯蔵穴は北コーナーに、炉は出入り口付近に位置し、当遺跡から確認された他の住居跡とは異なる場所に付設されている。出入り口施設の高まりは、ロームを掘り残してつくられている。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

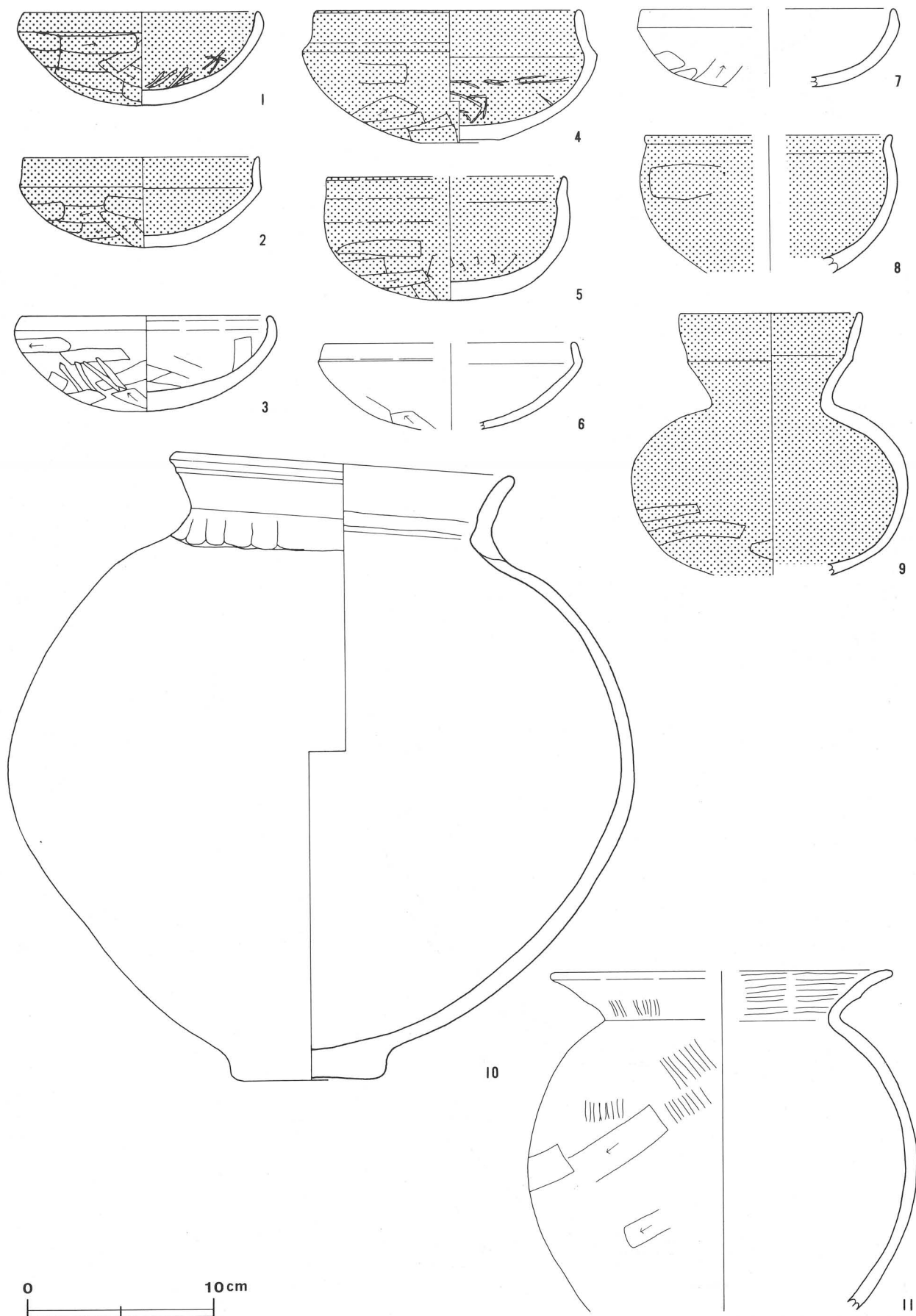
第39号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第119~121図 1	坏 土師器	A 12.8 B 5.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P287 P L56 100% 覆土下層
2	坏 土師器	A 12.8 B 5.0	体部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。内・外面赤彩。	砂粒 にぶい赤色 普通	P288 P L56 95% 覆土下層
3	坏 土師器	A 13.4 B 5.3	口縁部の一部欠損。丸底で、体部から口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P289 P L56 95% 覆土上層
4	坏 土師器	A 14.4 B 7.2 C 4.4	口縁部の一部欠損。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P290 95% 覆土下層
5	坏 土師器	A [13.1] B 6.8	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 暗赤褐色 普通	P291 90% 覆土上層
6	坏 土師器	A [13.4] B (4.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P292 25% 覆土下層

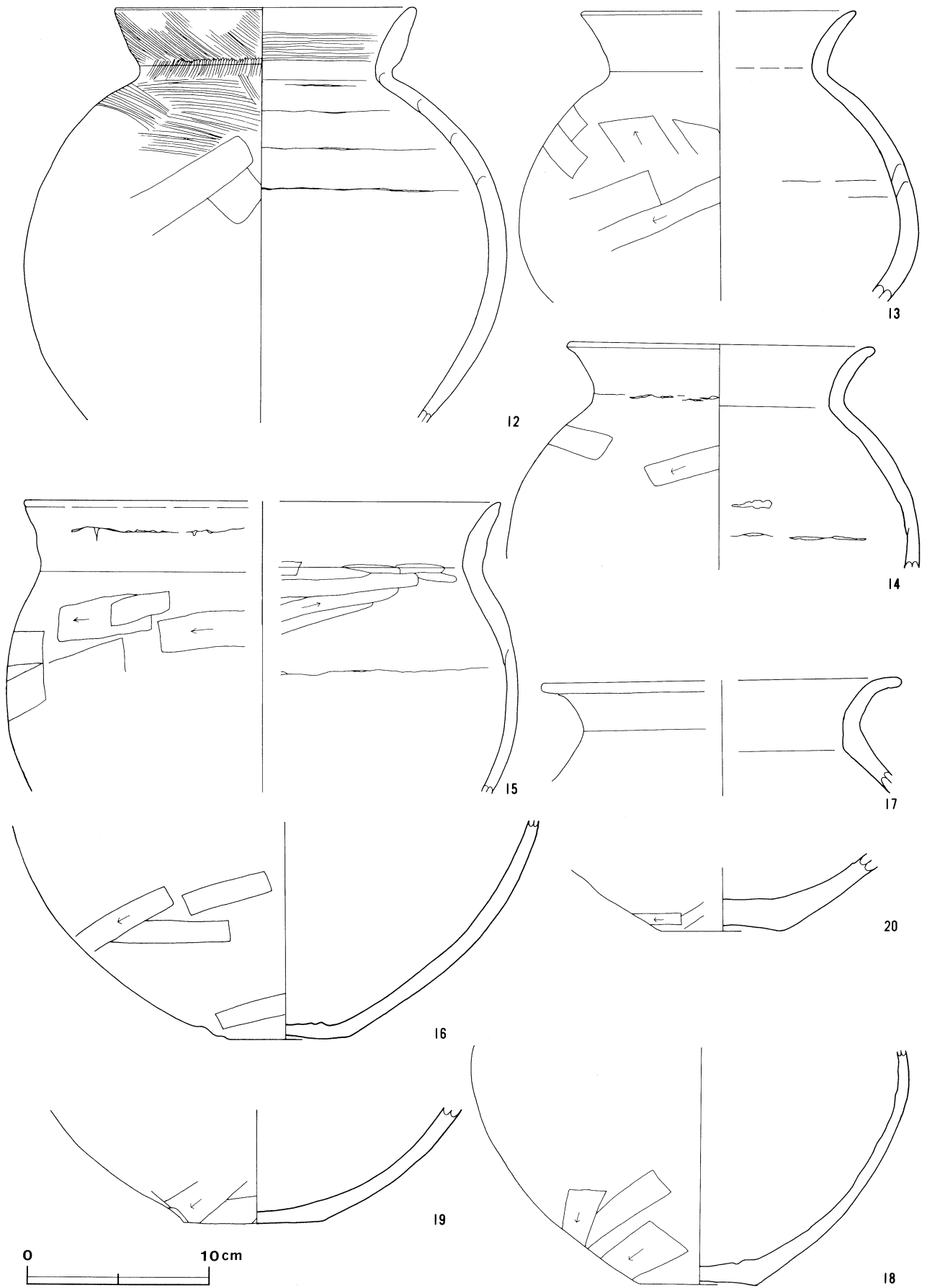


第118図 第39号住居跡実測図

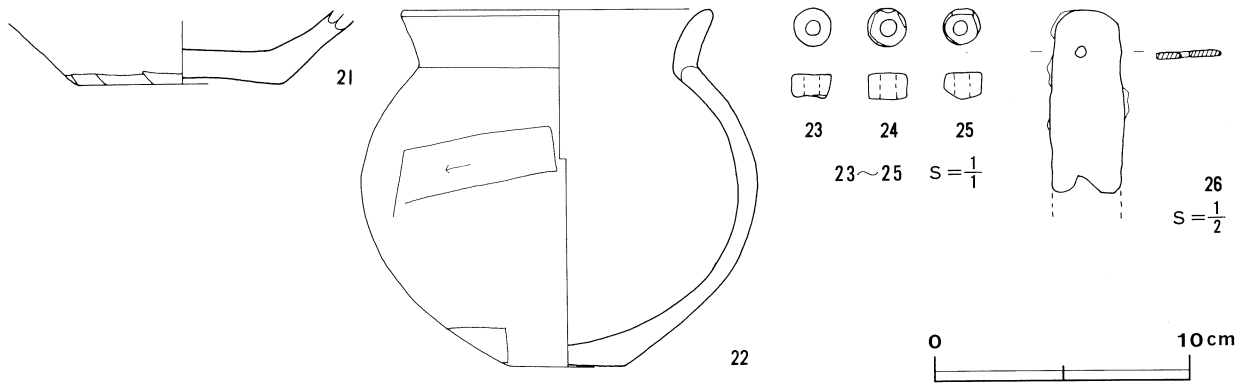
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
7	坏土師器	A [13.8] B (4.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒にぶい橙色普通	P293 20% 覆土下層
8	坏土師器	A [13.2] B (7.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒赤褐色普通	P294 30% 覆土下層
9	壺土師器	A 10.0 B (14.3)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外傾し、中位に稜をもつ。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒赤褐色普通	P308 P L57 75% 覆土下層
10	甕土師器	A 18.2 B 34.4 C 8.4	体部の一部欠損。平底。体部は球形形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内面横ナデ。頸部外面下位ヘラ削り。体部外面ナデ。	砂粒・長石にぶい黄褐色普通	P295 P L57 90% 覆土下層
11	甕土師器	A [18.4] B (18.5)	底部欠損。体部は球形形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は大きく外反する。頸部に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内・外面ハケ目調整。体部外面ヘラ削り後、ハケ目調整。内面ナデ。	長石・石英・砂粒にぶい赤褐色普通	P296 P L56 75% 覆土下層



第119图 第39号住居跡出土遺物実測図(1)



第120图 第39号住居跡出土遺物実測図(2)



第121図 第39号住居跡出土遺物実測図(3)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
12	甕 土師器	A 16.8 B (23.2)	底部欠損。体部は球形で、最大径を中位にもつ。頸部は肥厚し、口縁部は外傾する。	口縁部及び頸部内・外面ハケ目調整。体部外面へラ削り後、ハケ目調整。内面ナデ。	長石・砂粒 灰褐色 普通	P297 P L57 55% 覆土下層
13	甕 土師器	A [15.0] B (16.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。口唇部は尖る。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P298 P L55 35% 覆土下層
14	甕 土師器	A 16.5 B (12.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P299 P L56 20% 覆土下層
15	甕 土師器	A [26.0] B (16.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へラ削り後、ナデ。	長石・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P300 P L55 30% 覆土上層
16	甕 土師器	B (12.0) C 6.7	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P301 15% 覆土上層
17	甕 土師器	A [20.0] B (6.5)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P302 P L57 5% 覆土上層
18	甕 土師器	B (13.2) C 6.5	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラ削り。内面剥離。底部外面へラ削り後、ナデ。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P303 P L57 20% 覆土下層
19	甕 土師器	B (6.4) C 7.8	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラ削り。内面及び底部外面ナデ。	長石・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P304 10% 覆土下層
20	甕 土師器	B (3.5) C 6.9	底部の破片。平底。	底部外面へラ削り後、ナデ。内面剥離。	長石・砂粒 褐色 普通	P305 5% 覆土下層
21	甕 土師器	B (2.9) C 8.2	底部の破片。平底。	底部内・外面へラ削り後、ナデ。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P306 5% 覆土下層
22	甕 土師器	A 12.2 B 14.4 C 4.4	体部の一部欠損。平底。体部は球形で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P307 P L57 75% 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
23	白玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q141 100% 滑石 P L71
24	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q142 100% 滑石 P L71
25	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q143 100% 滑石 P L71
26	小札	(4.9)	1.9	0.2	(4.2)	覆土上層	孔径 2.5mm M8 鉄製 P L71

第40号住居跡（第122図）

位置 1区北東部，B10i₄区。

重複関係 本跡の北コーナー寄りの北東壁は第129号土坑に，西コーナー寄りの南西壁は第128号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸7.36m，短軸7.10mの方形である。

主軸方向 N-71°-W。

壁 壁高は36～60cmで，北西壁は外傾して，その他の壁はほぼ垂直に立ち上がっている。東コーナー寄りの南東壁は攪乱され壊されている。

壁溝 壁下を全周している。上幅12～20cm，下幅8～16cm，深さ7～12cmで，断面形はU字状をしている。

床 ほぼ平坦で，P₁～P₄の内側は硬く踏み固められている。

ピット 5か所（P₁～P₅）。P₁～P₄は，径56～76cm，深さ70～82cmで支柱穴，P₅は，径37cm，深さ52cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

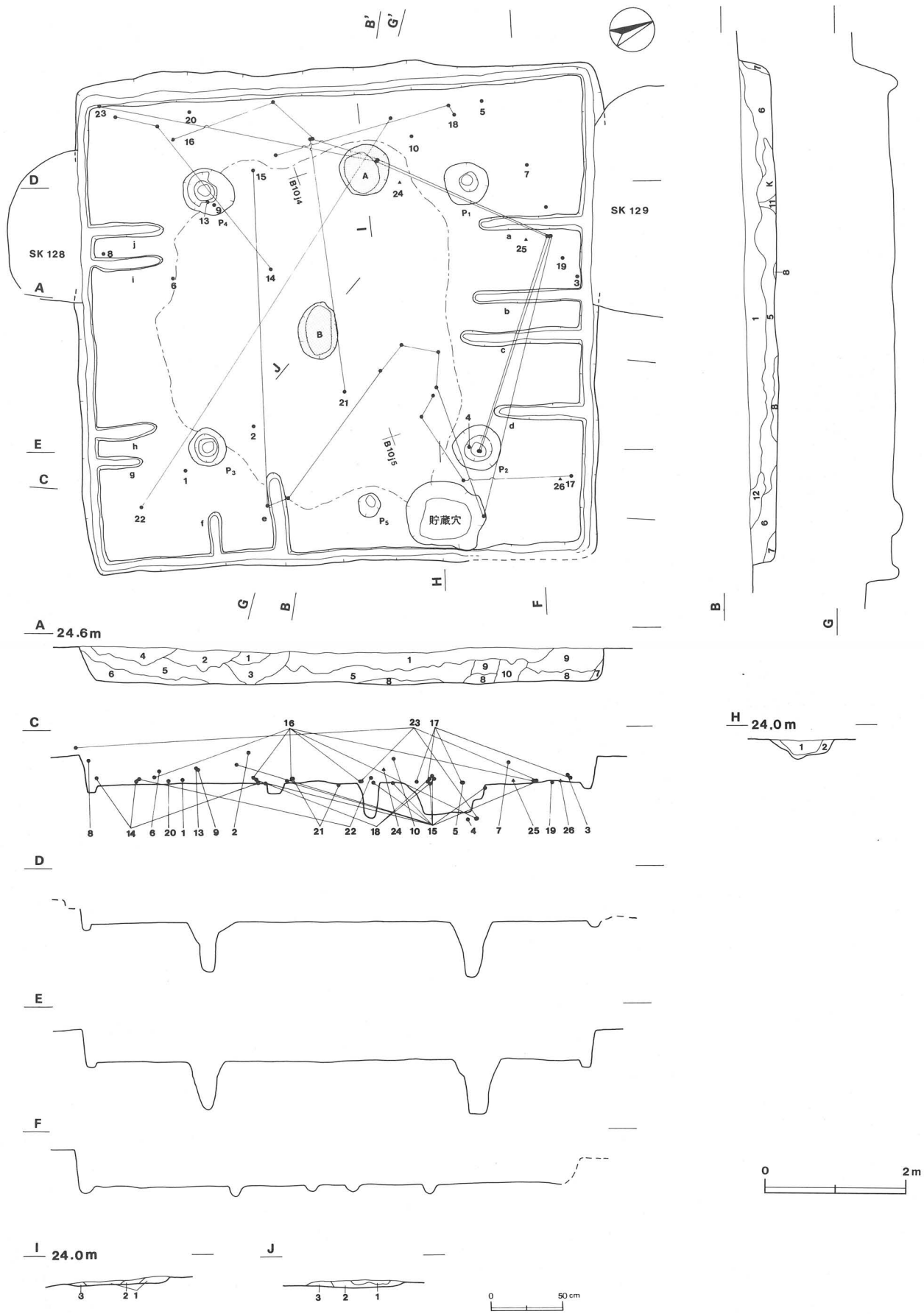
炉 2か所（炉A・B）。炉床の状態から炉Aに比べ炉Bの方が使用頻度が高いことがわかる。炉Aは，中央から北西寄りに付設されている。径74cmの円形で，炉床はほとんど掘り窪められておらず，床面が僅かに赤変している程度である。覆土は3層からなり，第1層は焼土粒子を中量と炭化粒子を微量含む赤褐色土，第2層は焼土粒子を少量と炭化粒子を微量含む赤褐色土，第3層は焼土粒子及び炭化粒子を少量含むにぶい赤褐色土である。炉Bは，ほぼ中央部に付設されている。長径84cm，短径56cmの楕円形で，床面を僅かに掘り窪めている。覆土は3層からなり，第1層は焼土粒子及び炭化粒子を少量含む暗赤褐色土，第2層は焼土粒子を中量と焼土小ブロック及び炭化粒子を微量含むにぶい赤褐色土，第3層はローム粒子を少量と焼土粒子を中量，焼土小ブロック及び炭化粒子を微量含む暗赤褐色土である。炉床は火熱を受け，赤変硬化している。

貯蔵穴 東コーナー寄りの南東壁下に付設されている。長径1.16m，短径0.96mの楕円形で，深さは43cmである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。覆土は2層からなり，第1層はローム粒子を少量含む褐色土，第2層はローム粒子を多量に含む明褐色土である。

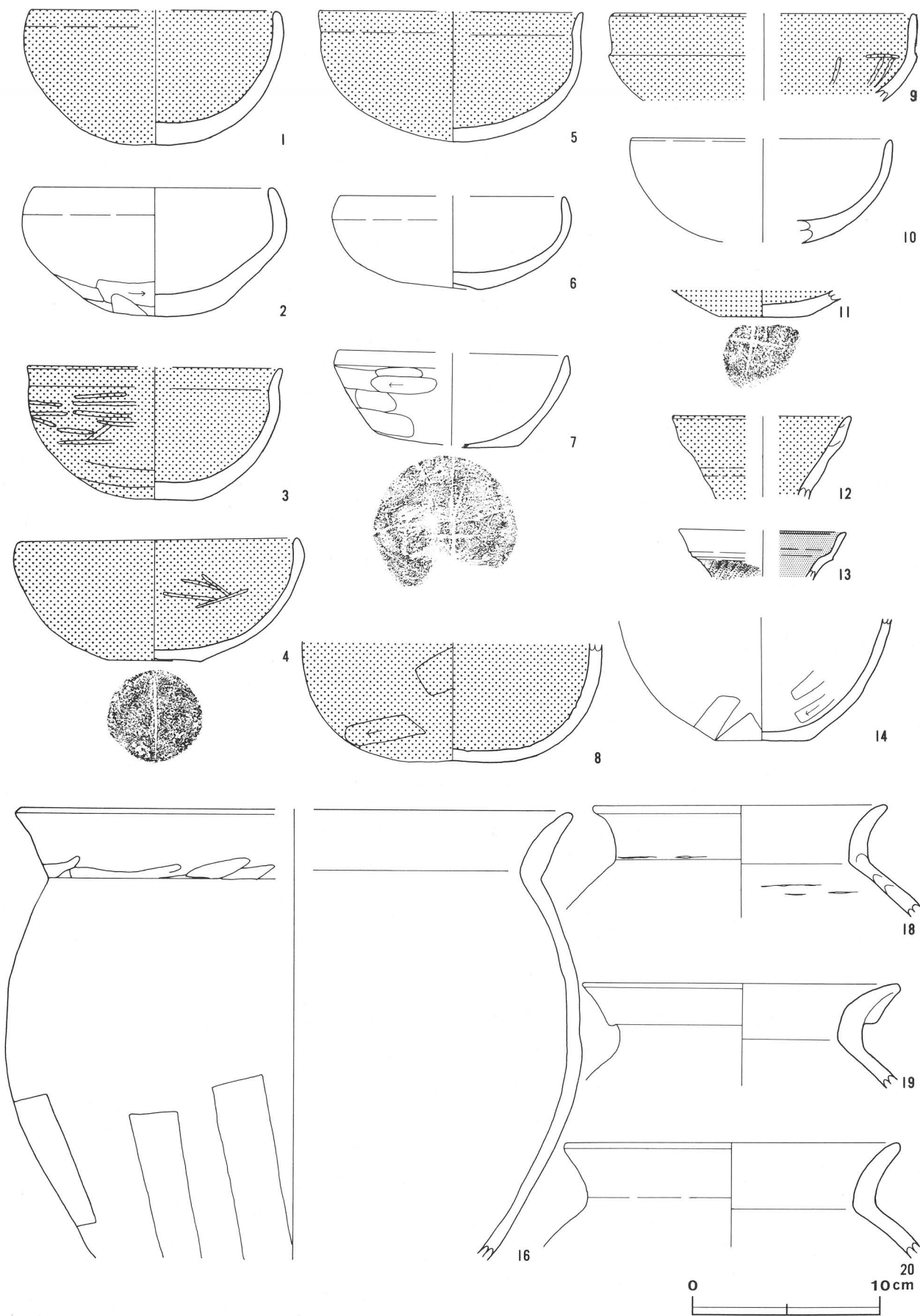
覆土 12層からなり，下層は人為堆積，上層は自然堆積である。第1層はローム粒子を中量と焼土粒子を少量含む暗褐色土，第2層はローム粒子及びローム中ブロックを少量含む黒褐色土，第3層はローム粒子を少量と焼土粒子を微量含む暗褐色土，第4層はローム粒子を中量とローム中ブロックを少量及び焼土粒子を微量含む褐色土，第5層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む褐色土，第6層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量及び焼土粒子を微量含む褐色土，第7層はローム粒子を極めて多量とローム小ブロックを少量含む明褐色土，第8層はローム粒子を多量とローム大ブロックを微量含む褐色土，第9層はローム粒子を多量とローム小ブロック及び焼土粒子を微量含む褐色土，第10層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む褐色土，第11層はローム粒子及びローム中ブロックを中量と焼土粒子を微量含む褐色土，第12層はローム粒子及びローム小ブロックを中量と焼土粒子を少量含む褐色土である。

遺物 ほとんどが覆土上層から下層にかけて出土したもので，床面からの出土は少量である。第123図4の土師器坏はP₂内覆土下層から斜位の状態で，14の土師器坏と20の土師器甕は南西コーナー付近の覆土下層及び床面から正位の状態で出土している。第125図17・21・22の土師器甕は東側の床面及び覆土下層から出土した破片が接合したものである。第123図13の須恵器甗は南西寄りの覆土下層から出土している。

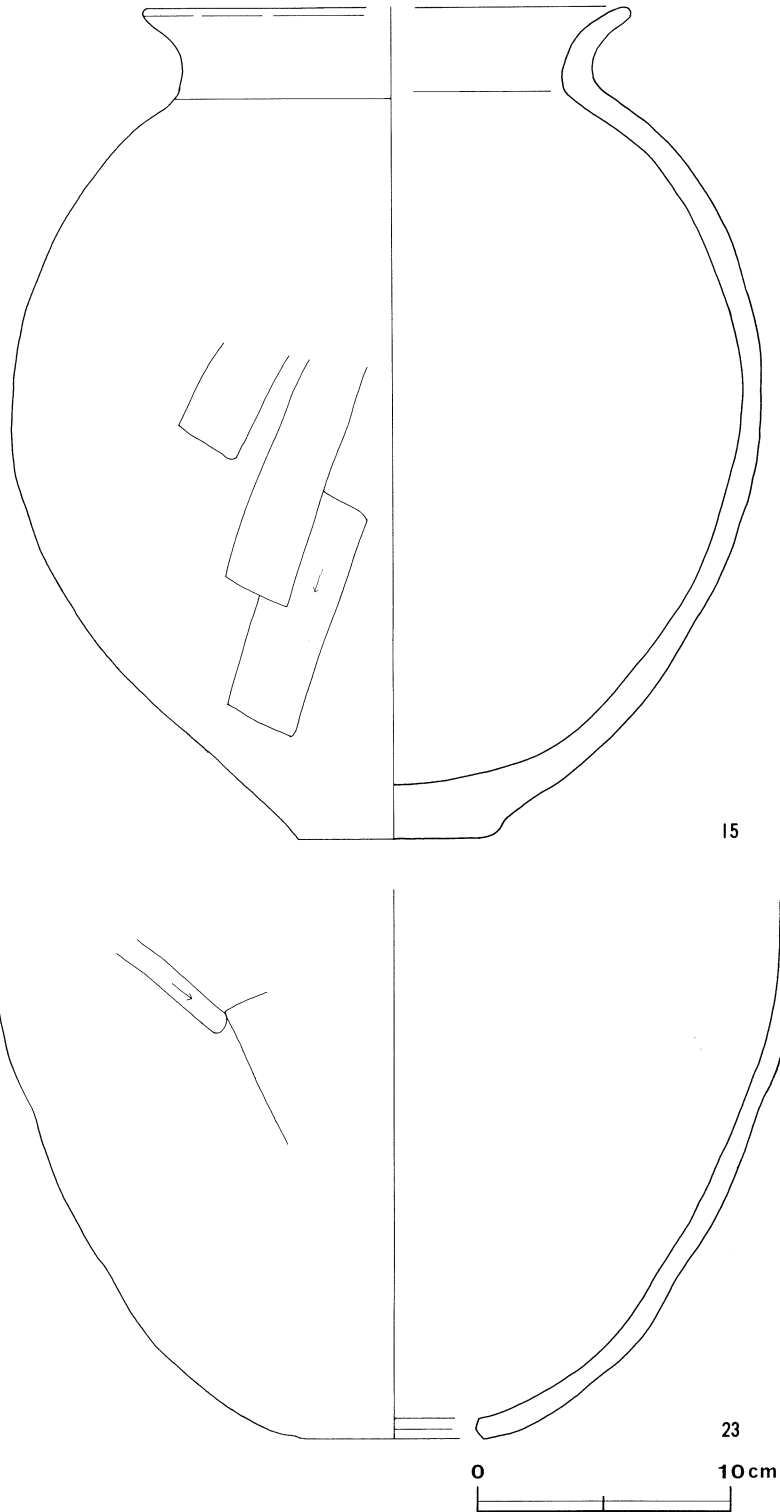
所見 本跡は，出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。



第122图 第40号住居跡実測图



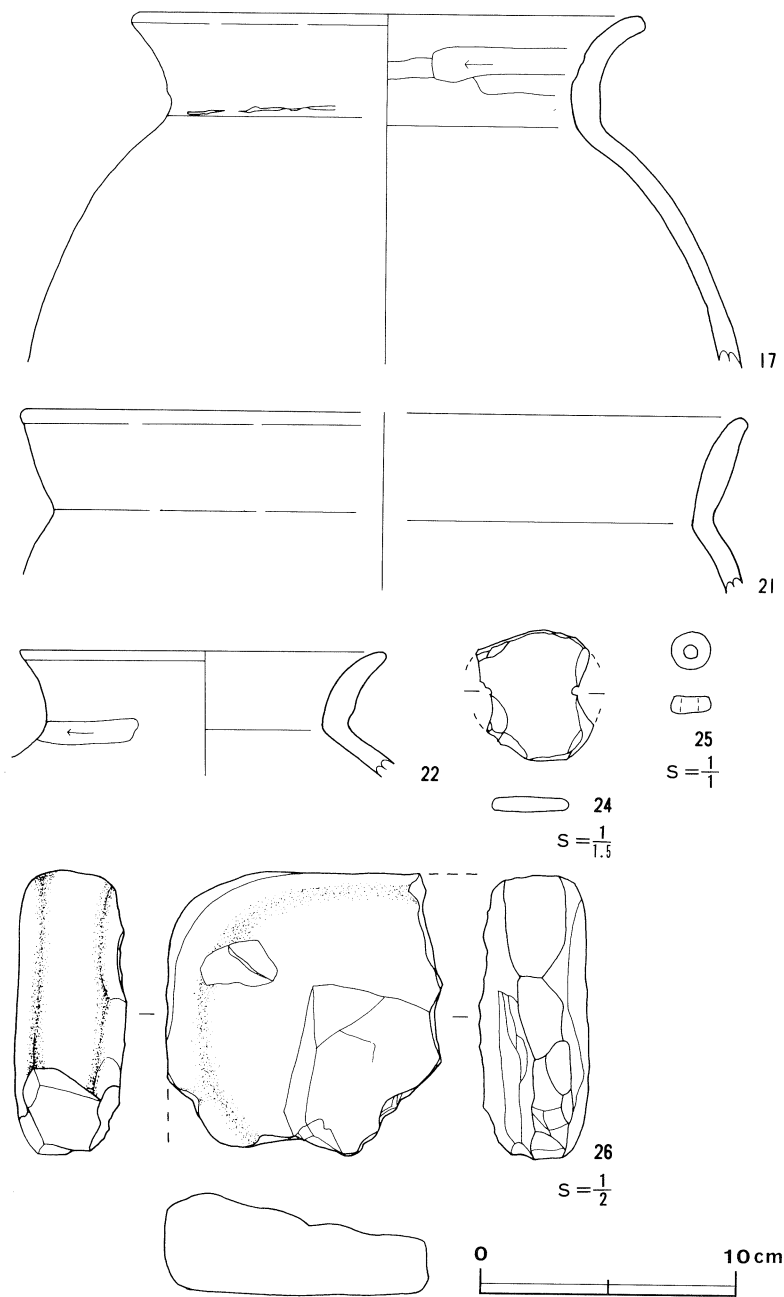
第123图 第40号住居跡出土遺物実測図(1)



第124図 第40号住居跡出土遺物実測図(2)

第40号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第123~125図 1	坏 土師器	A [13.2] B 7.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、 口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面摩耗。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P309 P L56 100% 覆土下層
2	坏 土師器	A 13.0 B 7.1	丸底で、体部は内彎して立ち上 がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒 明赤褐色 普通	P310 P L56 100% 覆土上層



第125図 第40号住居跡出土遺物実測図(3)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	坏土師器	A 13.7 B 7.3 C 5.0	口縁部の一部欠損。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ磨き。内面剥離。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P311 P L56 80% 覆土下層
4	坏土師器	A 14.9 B 6.8 C 5.0	口縁部の一部欠損。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P312 P L56 80% P ₂ 覆土下層
5	坏土師器	A [14.2] B 7.2	体部及び口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P313 P L56 70% 床面
6	坏土師器	A [12.2] B 5.1 C 3.8	底部から口縁部の一部欠損。上げ底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面剥離。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P314 P L56 70% 覆土下層
7	坏土師器	A [12.4] B 5.2 C [7.6]	底部から口縁部の一部欠損。平底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。底面にへラ記号「×」。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P315 P L56 60% 覆土上層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
8	坏土師器	B (6.5)	底部から口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部外面、ヘラ削り後、ナデ。内面剝離。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P 316 P L 56 60% 覆土上層
9	坏土師器	A [16.4] B (4.8)	体部から口縁部の破片。体部と口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 317 P L 56 10% 覆土下層
10	坏土師器	A [13.8] B (5.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	内・外面摩耗。	砂粒 にぶい橙色 普通	P 318 30% 覆土上層
11	坏土師器	B (1.5) C 5.6	底部の破片。平底。	底部外面ヘラ削り後、ナデ。ヘラ記号「×」。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P 319 P L 55 10% 覆土
12	壺土師器	A [9.6] B (4.6)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外傾する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P 320 10% 覆土
13	甗須恵器	A [9.0] B (2.5)	頸部から口縁部の破片。頸部と口縁部の境に稜をもち、口縁部は外傾する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。頸部に櫛描波状文が施される。	長石・砂粒 黄灰色 普通	P 321 P L 57 5% 自然釉付着 覆土下層
14	甗土師器	B (6.6) C 5.0	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面外面ヘラ削り後、ナデ。	長石・砂粒 暗赤褐色 普通	P 322 20% 覆土下層
15	甗土師器	A [19.0] B 33.6 C 7.8	体部及び口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後、ナデ。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P 323 P L 57 70% 覆土下層
16	甗土師器	A [29.6] B (24.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面下位及び体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	石英・砂粒 にぶい褐色 普通	P 324 P L 56 30% 床面
17	甗土師器	A 19.8 B (14.1)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内・外面ヘラ削り後、ナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P 325 P L 57 40% 床面
18	甗土師器	A 15.8 B (6.2)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P 326 P L 56 30% 覆土下層
19	甗土師器	A 17.2 B (5.7)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。口縁部は折り返される。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P 327 P L 56 30% 床面
20	甗土師器	A [18.0] B (6.3)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P 328 P L 56 20% 床面
21	甗土師器	A [28.2] B (7.1)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外傾する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P 329 10% 床面
22	甗土師器	A 14.4 B (5.0)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。頸部外面下位ヘラ削り。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P 330 P L 56 10% 覆土下層
23	甗土師器	B (22.0) C 7.0	底部から体部の破片。無底式。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P 331 P L 57 30% 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
24	双孔円板	(2.3)	(2.6)	0.3	2.0	覆土下層 孔径 [2.0]mm Q144 75% 滑石	P L 70
25	白玉	0.2	0.5	0.2	0.1	覆土下層 孔径 2.0mm Q145 100% 滑石	P L 71
26	不明石製品	(7.5)	(7.2)	(2.9)	131.0	床面 Q146 安山岩	P L 70

第41号住居跡（第126図）

位置 1区西部，C10a₄区。

規模と平面形 長軸2.52m，短軸2.34mの不定形である。

主軸方向 N-155°-E。

壁 壁高は8～22cmで，外傾して立ち上がっている。

床 凸凹で，中央部分は僅かに盛り上がり，硬く踏み固められている。

竈 竈状の遺構で，中央から南東寄りに付設されている。幅14～27cm，高さ約18cm，径約90cmで山砂混じりの粘土でリング状に構築されている。火床部は床面を12cm程掘り込み，皿状をしている。内壁及び火床は火熱を受け，赤変硬化している。火床部内から完形の土師器碗が逆位の状態で出土している。覆土は9層からなり，第1層はローム粒子を中量と焼土粒子を多量含む暗赤褐色土，第2層はローム粒子を少量と焼土粒子を中量含む暗赤褐色土，第3層はローム粒子を中量と焼土粒子を多量及び砂を少量含む暗赤褐色土，第4層は焼土粒子を少量と焼土中ブロックを中量含む明赤褐色土，第5層は焼土粒子を中量と焼土小ブロック及び粘土小ブロックを少量含む褐色土，第6層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含むにぶい赤褐色土，第7層は焼土粒子を中量と焼土小ブロック及び炭化粒子を少量含むにぶい赤褐色土，第8層は焼土粒子を多量含む橙色土，第9層はローム粒子を多量と焼土小ブロックを少量含む明褐色土である。

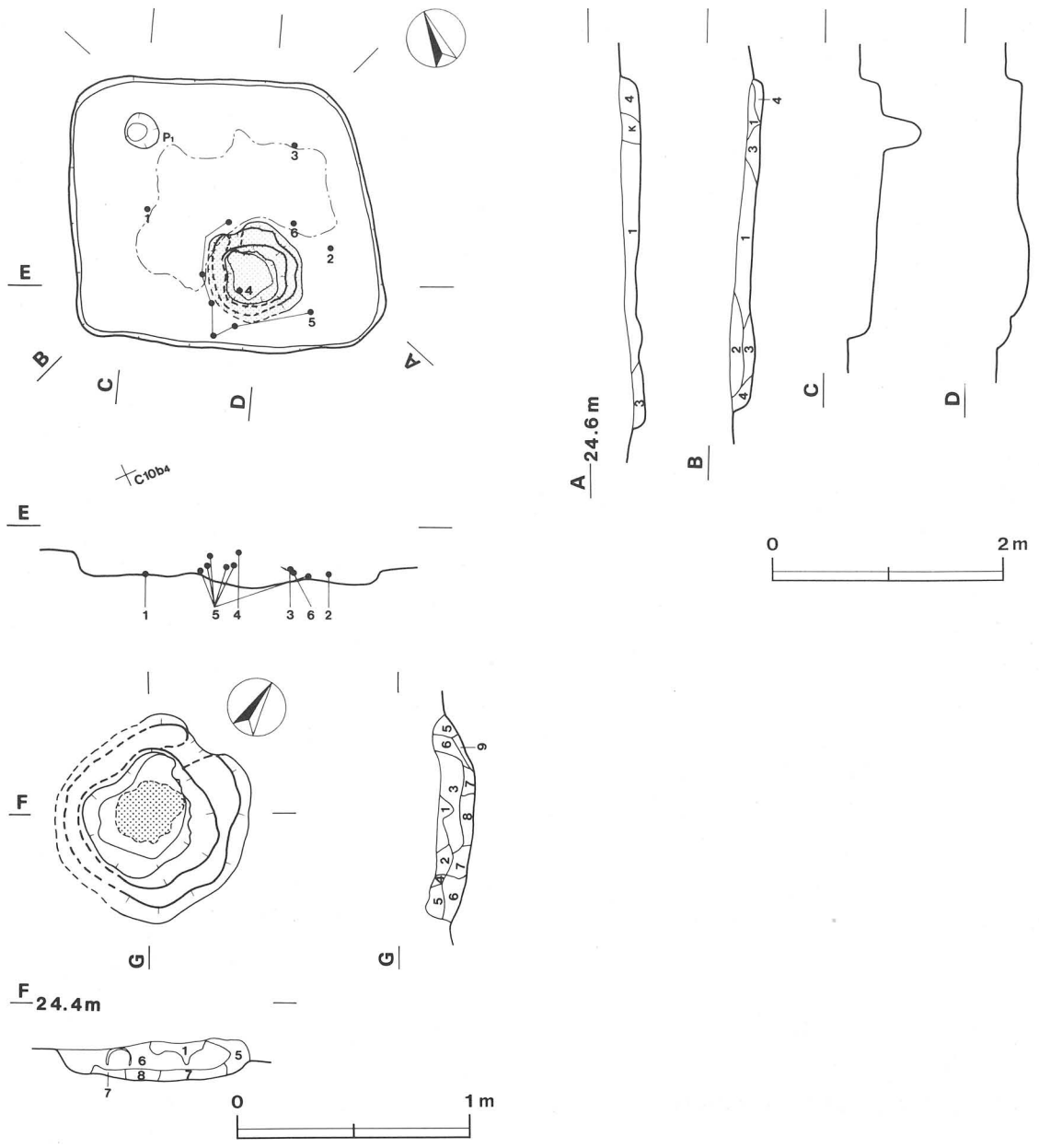
覆土 4層からなり，人為堆積である。第1層はローム粒子を中量とローム小・中ブロックを少量及び焼土粒子を微量含む暗褐色土，第2層はローム粒子及びローム小ブロックを少量と炭化物を微量含む褐色土，第3層はローム粒子及びローム中ブロックを中量とローム小ブロックを少量含む褐色土，第4層はローム粒子を多量に含む明褐色土である。

遺物 竈の周辺から，土師器片が極少量出土している。第127図1と2の土師器杯は，1が北西寄りの床面から正位の状態で，2が南東寄りの床面から逆位の状態で出土している。4の土師器碗は竈内から逆位の状態で出土している。

所見 本跡は，小形の建物跡で炉の代わりに竈状の遺構を有している。壁外に掘り込んで構築する竈以前のもので，粘土をリング状に積み上げて構築しただけで，天井部はなかったものと考えられる。火床部から出土した碗は出土状況から支脚の役割を果たしていた可能性が考えられる。本跡は，出土遺物から古墳時代中期後半の建物跡である。

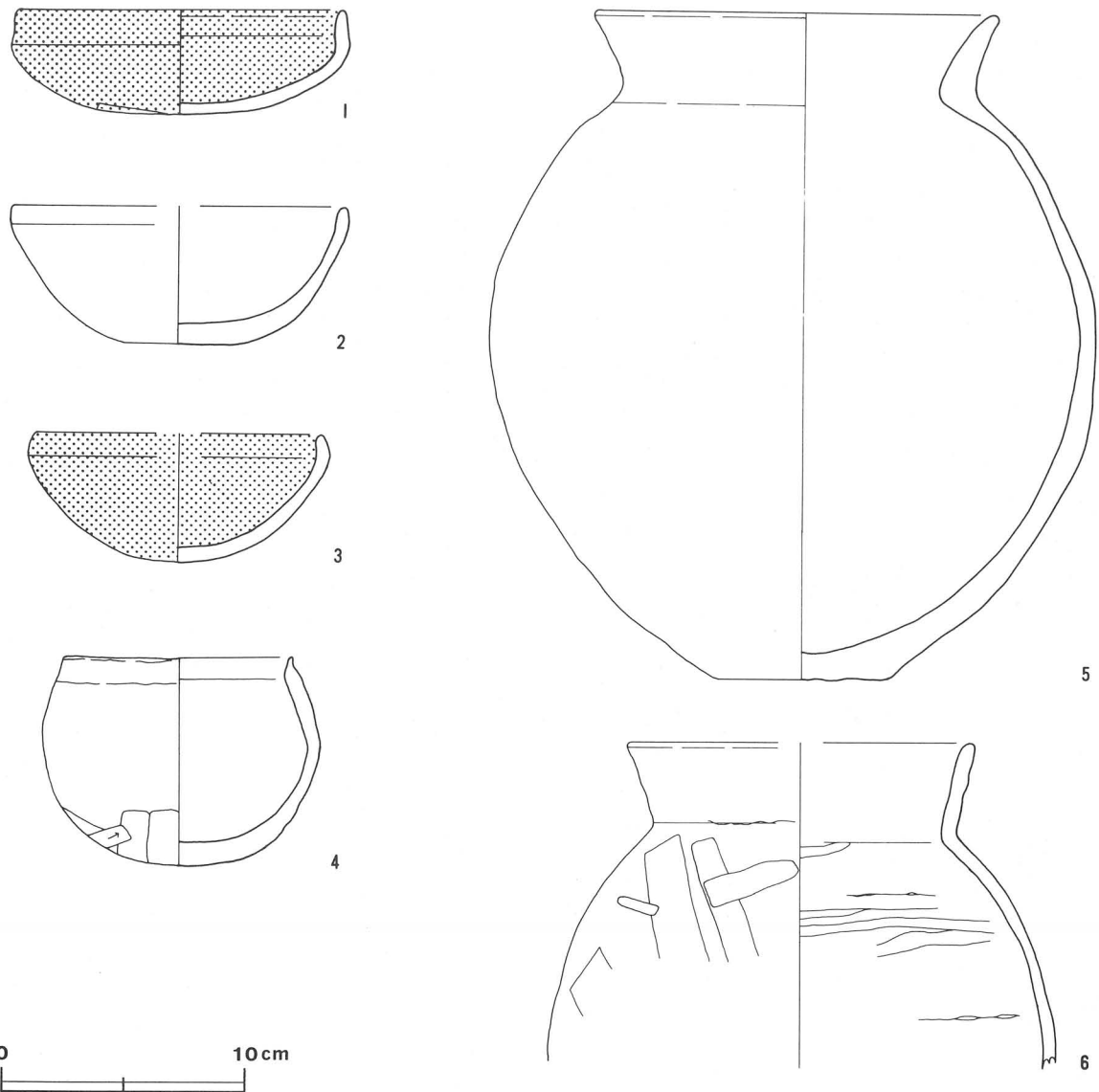
第41号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第127図 1	杯 土師器	A 13.5 B 4.3	体部の一部欠損。丸底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P332 PL58 70% 床面
2	杯 土師器	A [13.8] B 5.8 C 5.0	口縁部の一部欠損。平底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面摩耗。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P333 65% 床面
3	杯 土師器	A [12.0] B 5.4	底部から口縁部の破片。丸底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面摩耗。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P334 30% 覆土上層
4	碗 土師器	A 9.4 B 8.8	丸底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後，ナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P335 PL58 100% 竈
5	甕 土師器	A 16.1 B 28.2 C 6.9	体部の一部欠損。体部は球形状で，最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外傾する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P336 PL59 65% 覆土上層



第126図 第41号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	甕土師器	A [14.0] B (13.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外傾する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ後、ナデ。	砂粒にぶい黄橙色普通	P337 PL57 30% 覆土上層



第127図 第41号住居跡出土遺物実測図

第42号住居跡 (第128図)

位置 1区西部, C10a₃区。

規模と平面形 長軸3.98m, 短軸3.30mの長方形である。

主軸方向 N-43°-E。

壁 壁高は26~30cmで, 外傾して立ち上がっている。

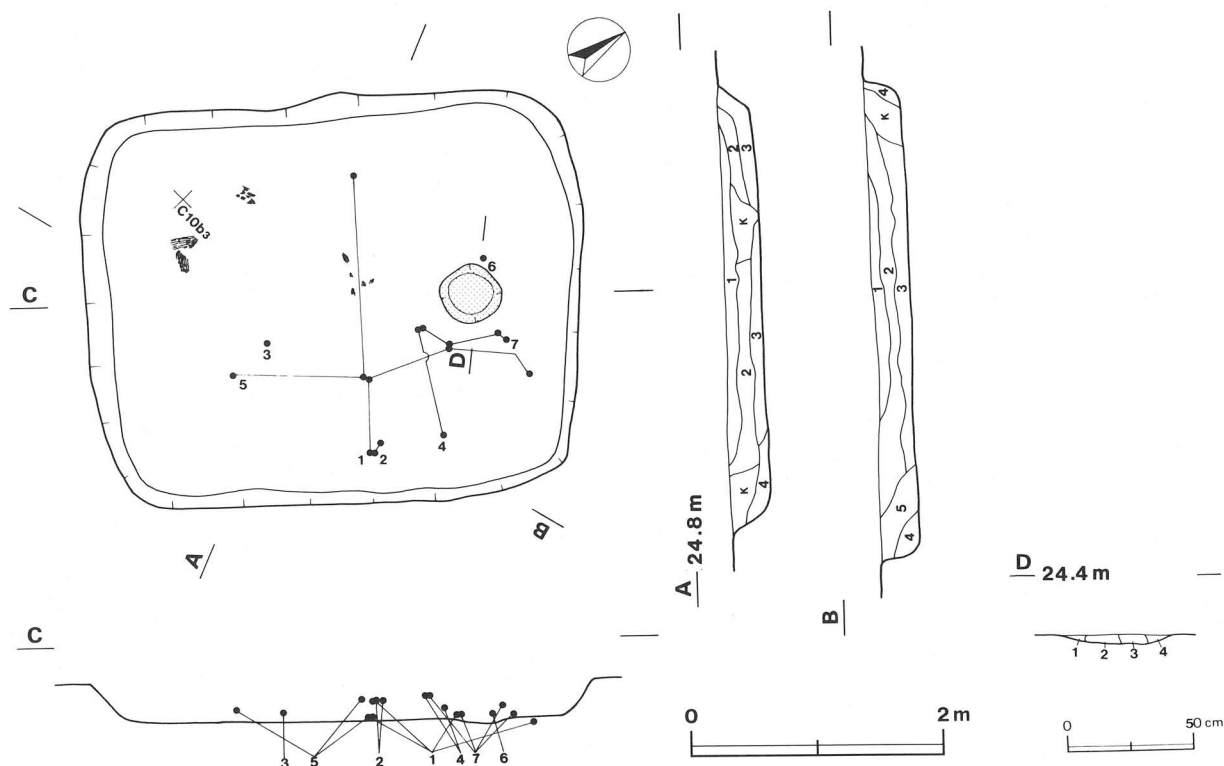
床 ほぼ平坦で, あまり踏み固められていない。

炉 中央から北東寄りにあり, 径46cmの円形で, 床面を6cm程掘り窪めている。覆土は4層からなり, すべてにふい赤褐色土である。第1層はローム粒子を中量と焼土粒子を少量, 第2層はローム粒子を多量と焼土粒子を中量, 第3層はローム粒子を多量と焼土粒子を微量, 第4層はローム粒子を中量と焼土粒子を微量含んでいる。覆土5層からなり, 自然堆積である。第1層はローム粒子を少量と焼土粒子を微量含む暗褐色土, 第2層はローム粒子を少量含む暗褐色土, 第3層はローム粒子及びローム小ブロックを中量含む褐色土, 第4層はローム粒子を多量に含む褐色土, 第5層はローム粒子を少量とローム小ブロックを中量含む暗褐色土

である。

遺物 北東側を中心に、土師器の甕片等が多量に出土している。第129図4の土師器甕は第1層と第3層から出土したものが接合したものである。1の土師器甕及び第130図7の土師器甕は北東寄りの覆土下層（第3層）から出土している。

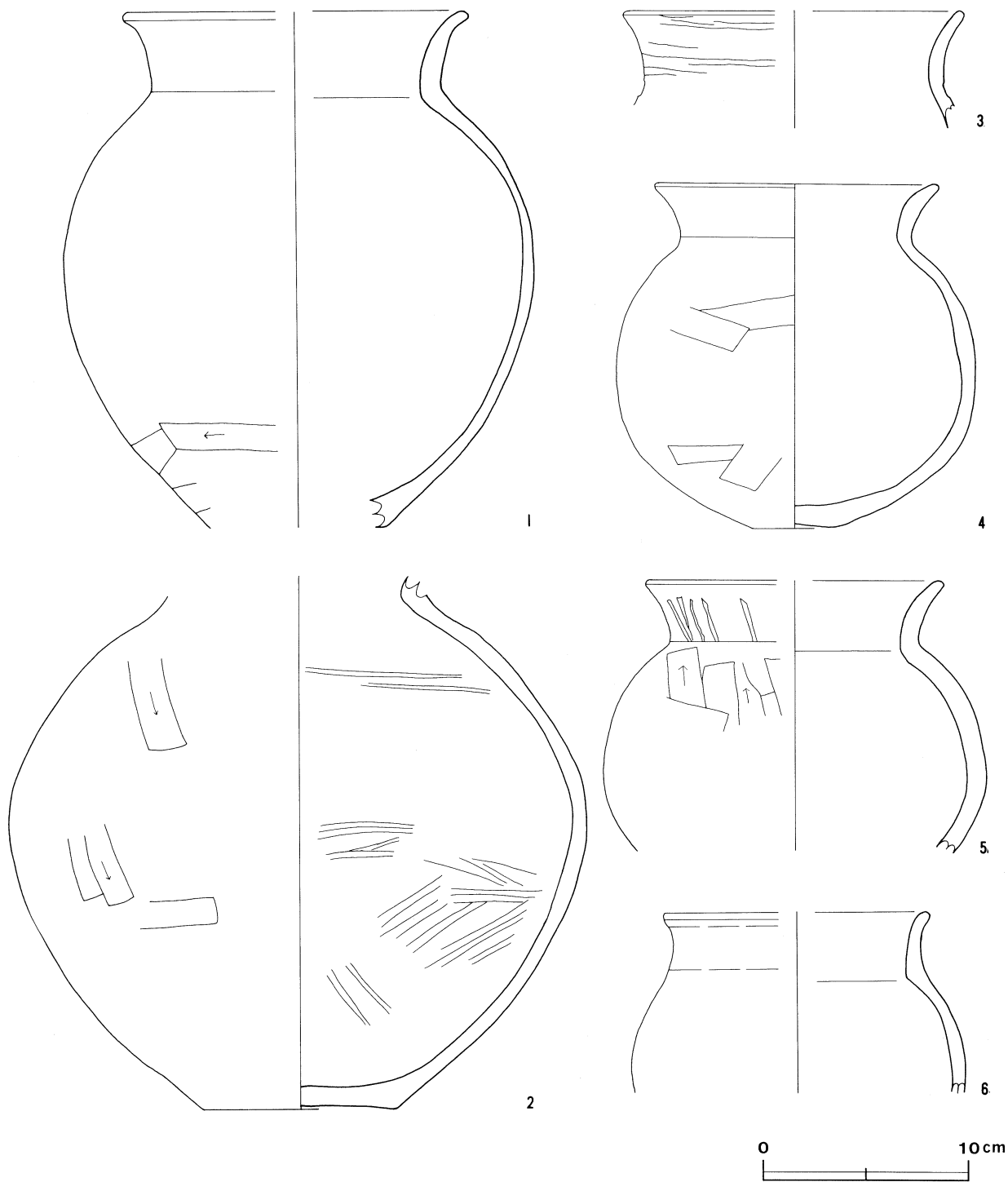
所見 本跡は、床面及び覆土下層に、炭化材が確認されていることから、焼失したものと思われる。時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。



第128図 第42号住居跡実測図

第42号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第129-130図 1	甕 土師器	A [16.6] B (25.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P338 P L60 50% 覆土下層
2	甕 土師器	B (26.1) C 9.4	底部から体部の破片。平底。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。	体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P339 P L60 40% 覆土上層
3	甕 土師器	A [16.0] B 5.7	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P340 5% 覆土下層
4	甕 土師器	A 13.6 B 17.0 C 4.2	底部から口縁部の破片。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P341 P L57 30% 覆土上層
5	甕 土師器	A [13.8] B (13.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P342 P L57 30% 覆土下層
6	甕 土師器	A [12.9] B (8.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部は直立し、口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P343 P L58 30% 覆土下層



第129図 第42号住居跡出土遺物実測図(1)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
7	甗 土師器	A 25.2 B 28.6 C [7.4]	底部及び体部の一部欠損。無底式。 体部は内彎気味に立ち上がり、最大径を上位にもつ。頸部から口縁部は外傾する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。 体部外面ヘラ削り。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P344 PL58 80% 覆土下層

第43号住居跡 (第131図)

位置 1区南西部, C10e₉区。

規模と平面形 長軸6.50m, 短軸6.24mの方形である。

主軸方向 N-27°-E。

壁 壁高は42~64cmで, 外傾して立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅6~24cm, 下幅3~16cm, 深さ5~10cmで, 断面形はU字状をしている。

間仕切り溝 4条(a~d)。北東壁側に1条(a), 南東壁側に1条(b), 南西壁側に2条(c・d)確認され, 長さ0.62~1.08m, 上幅14~22cm, 下幅4~10cm, 深さ8cmで, 断面形は皿状をしている。

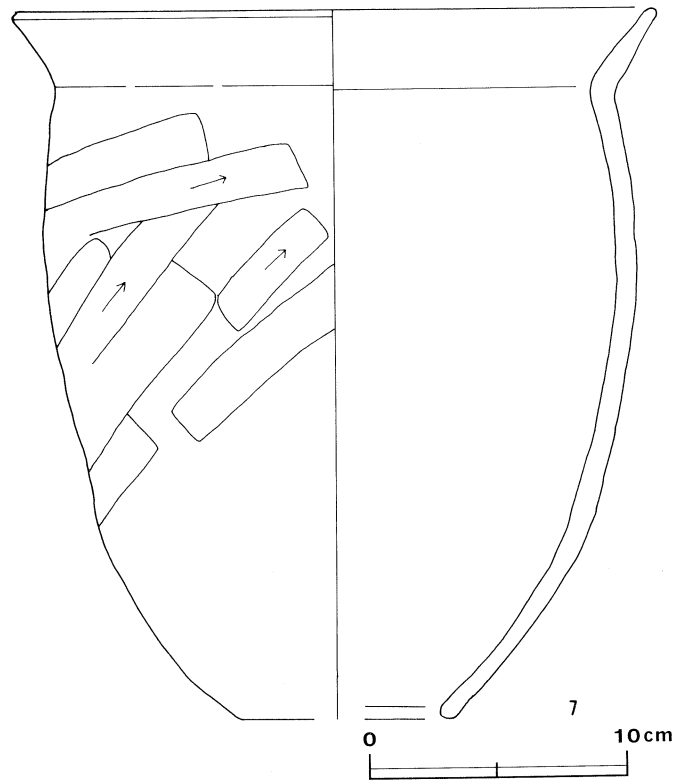
床 ほぼ平坦で, 出入り口から中央部にかけて硬く踏み固められている。南西壁から中央寄りには幅約40cm, 高さ6cm程の馬の背状の高まりが鋤状にみられ, 出入り口施設と考えられる。

ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁~P₄は, 径32~42cm, 深さ48~64cmで支柱穴, P₅は, 径12cm, 深さ12cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央から北東寄りにあり, 長軸84cm, 短軸54cmの不整形で, 床面を4cm程掘り窪めている。覆土は2層からなり, 第1層は焼土粒子を中量と炭化粒子を多量に含む明赤褐色土, 第2層は焼土粒子を多量に含む赤褐色土である。炉床は火熱を受け, 赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナーに付設されている。径72cmの円形で, 深さは42cmである。底面は皿状で, 壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は6層からなり, 第1層はローム粒子及びローム中ブロックと炭化物を中量及び焼土小ブロックを少量含む褐色土, 第2層はローム粒子及びローム小ブロックと炭化粒子及び炭化物を少量含む暗褐色土, 第3層はローム粒子及びローム小ブロックを少量と炭化粒子及び炭化物を中量含む灰褐色土, 第4層はローム粒子を多量と焼土粒子を少量及び炭化粒子を中量含む褐色土, 第5層はローム粒子を少量と焼土粒子を多量, 焼土小ブロック及び炭化物を中量含むにぶい赤褐色土, 第6層は焼土粒子を多量に含む赤褐色土である。

覆土 14層からなり, 壁際は人為堆積, 中央部付近は自然堆積と思われる。第1層はローム粒子を少量とローム中ブロック及び焼土粒子, 炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第2層はローム粒子を中量とローム中ブロックを少量, 焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第3層はローム粒子を中量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第4層はローム粒子を中量とローム小ブロック及び焼土粒子, 炭化粒子を少量含む暗褐色土, 第5層はローム粒子を中量と焼土粒子を少量及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第6層はローム粒子を多量と焼土粒子を少量及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第7層はローム粒子及び焼土粒子を中量と焼土小ブロックを微量及び炭化粒子を少量含む暗褐色土, 第8層はローム粒子を中量と炭化粒子を微量含む暗褐色土,



第130図 第42号住居跡出土遺物実測図(2)

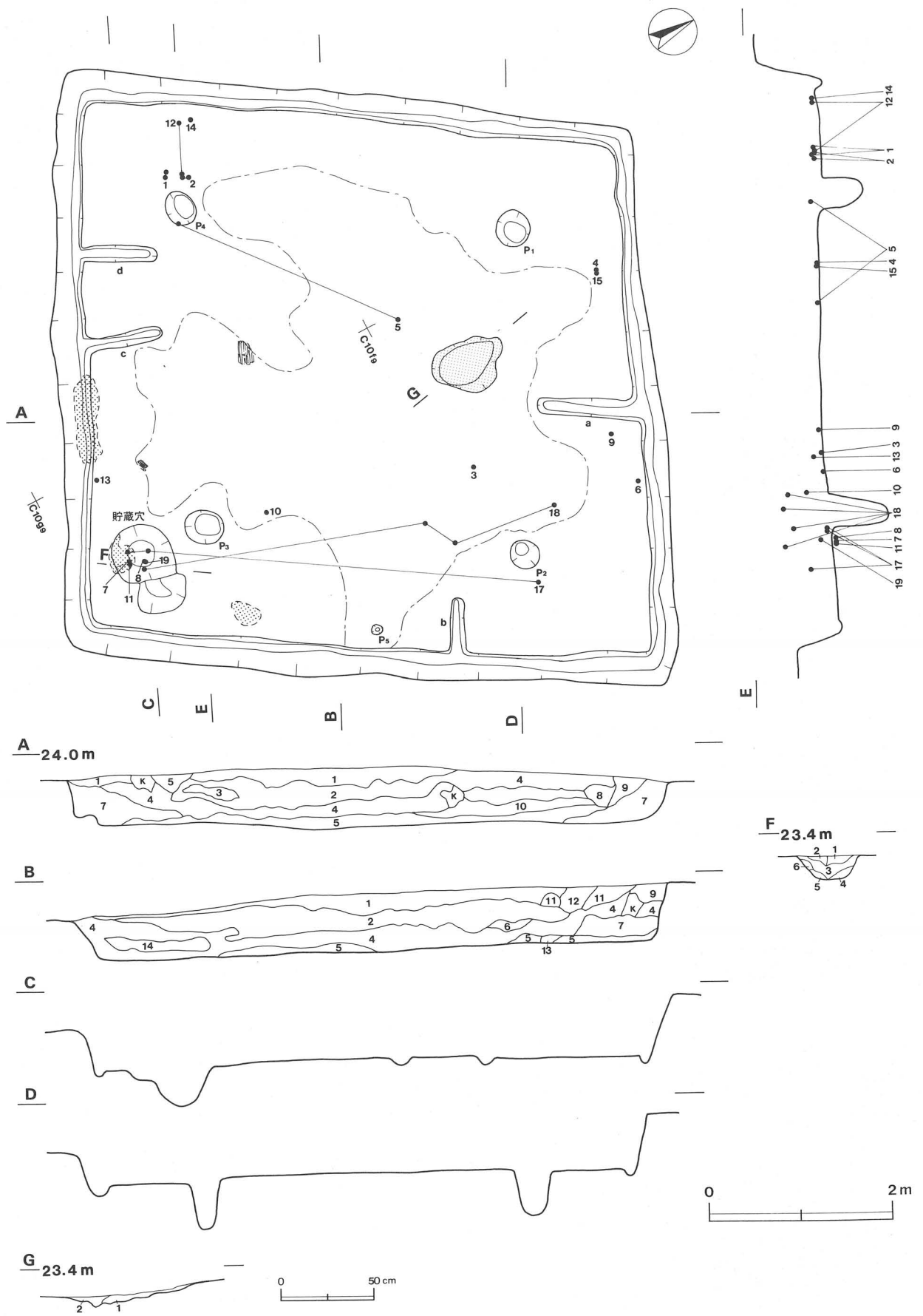
第9層はローム粒子を中量とローム小ブロック及び焼土粒子，炭化粒子を微量含む暗褐色土，第10層はローム粒子を多量とローム小・大ブロック及び焼土粒子，炭化粒子を微量，第11層はローム粒子を中量と焼土粒子を微量含む暗褐色土，第12層はローム粒子を少量と焼土粒子を中量，焼土中ブロックを微量と炭化粒子を少量含む暗褐色土，第13層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む黒褐色土，第14層はローム粒子を多量と焼土粒子及び炭化物を微量，炭化粒子を少量含む褐色土である。

遺物 各コーナー付近の床面及び覆土下層から，土師器の坏・甕片等が多量に出土している。第132図1・2の土師器坏と12・14の土師器碗は西コーナー付近の覆土下層から，3・6・9の土師器坏は東コーナー付近の床面から，7・8・11の土師器坏は貯蔵穴の覆土から斜位の状態で出土している。4の土師器坏及び15の土師器壺は北コーナー寄りの床面からそれぞれ出土している。20～22の球状土錘は東コーナー付近の覆土中から出土している。

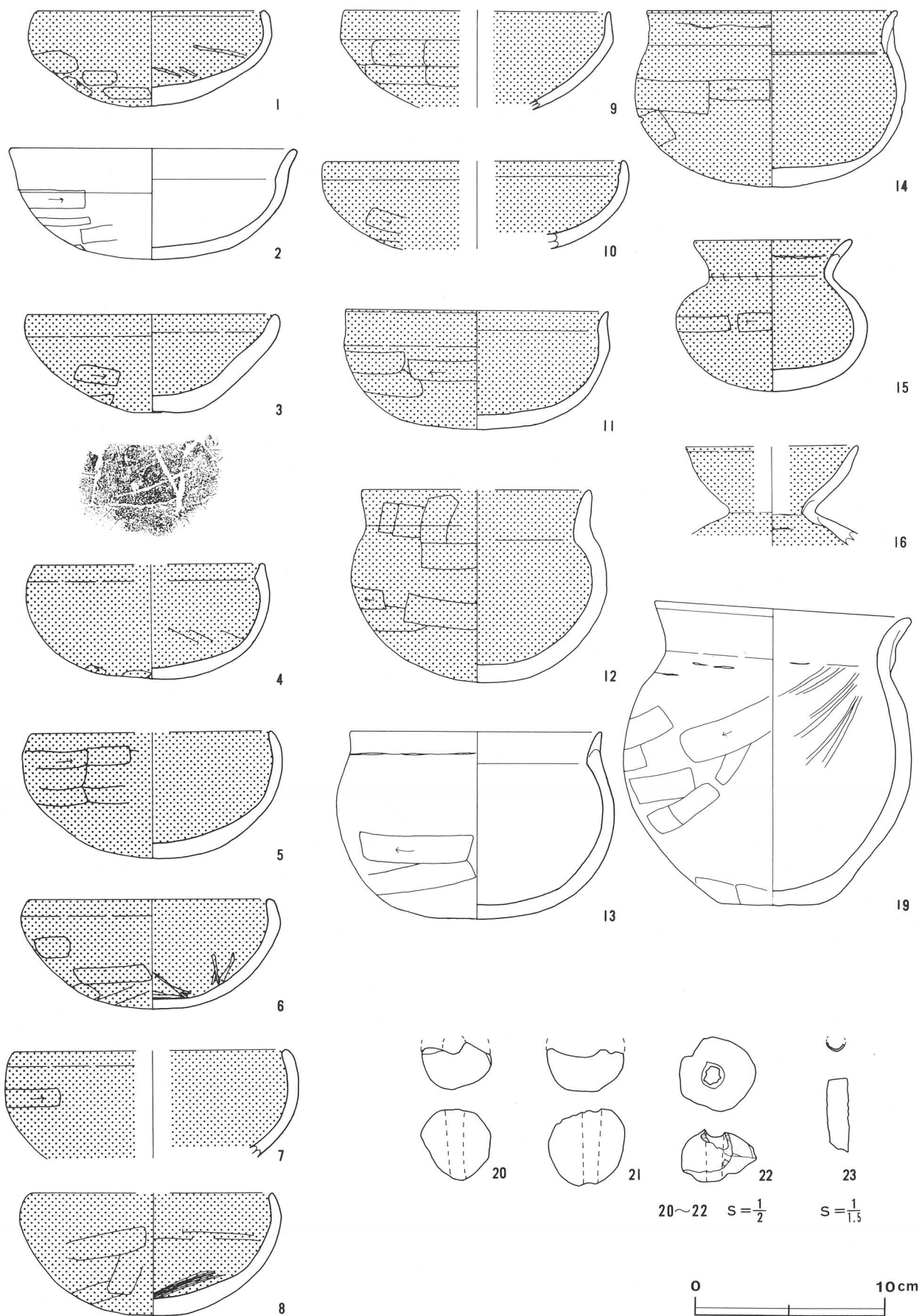
所見 本跡は，床面及び覆土下層から焼土，炭化材が確認されていることから，焼失したものと考えられる。時期は，出土遺物から古墳時代中期後半である。

第43号住居跡出土遺物観察表

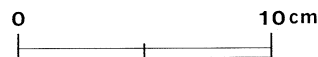
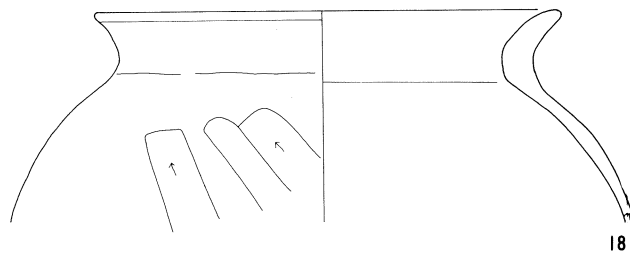
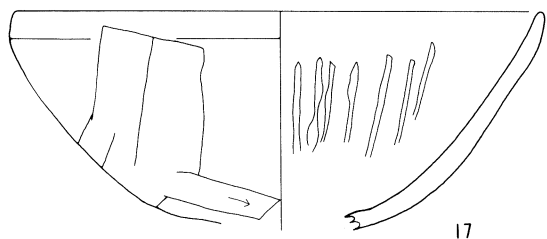
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第132・133図 1	坏 土師器	A 12.2 B 5.3	口縁部の一部欠損。丸底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後，磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P 345 P L 58 95% 覆土下層
2	坏 土師器	A 15.2 B 6.1	口縁部の一部欠損。丸底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・雲母・砂粒 赤褐色 普通	P 346 P L 59 95% 覆土下層
3	坏 土師器	A 13.6 B 5.4 C 2.5	体部及び口縁部の一部欠損。平底で，体部は外傾して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・スコリア・ 砂粒 橙色 普通	P 347 P L 58 70% 床面
4	坏 土師器	A [12.0] B 6.3	底部から口縁部の一部欠損。丸底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後，ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 348 P L 58 70% 覆土下層
5	坏 土師器	A [13.0] B 6.8	口縁部の一部欠損。丸底で，体部から口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P 349 P L 58 70% 覆土下層
6	坏 土師器	A 12.8 B 5.0	底部から口縁部の一部欠損。丸底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後，磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 暗赤褐色 普通	P 350 P L 58 55% 床面
7	坏 土師器	A [14.7] B (5.9)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後，ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P 351 30% 覆土下層
8	坏 土師器	A 12.8 B 6.7	丸底。体部から口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P 352 P L 58 100% 貯蔵穴
9	坏 土師器	A [14.2] B (5.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 353 10% 床面
10	坏 土師器	A [16.1] B (4.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部内面に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P 354 20% 覆土中層
11	坏 土師器	A [14.0] B 7.5	底部から口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P 355 P L 58 70% 床面
12	碗 土師器	A 12.2 B 10.6	体部の一部欠損。丸底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は僅かに外傾する。	口縁部内面横ナデ。口縁部外面及び体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 356 P L 58 95% 覆土下層



第131图 第43号住居跡実測图



第132图 第43号住居跡出土遺物実測図(1)



第133図 第43号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
13	埴土師器	A 13.4 B 10.2	口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・砂粒 褐灰色 普通	P 357 P L 58 90% 覆土下層
14	埴土師器	A 13.3 B 9.7	体部から口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	石英・雲母・砂粒 赤褐色 普通	P 358 P L 59 70% 覆土下層
15	壺土師器	A 8.4 B 8.3	口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P 359 P L 59 95% 覆土下層
16	壺土師器	A [9.2] B (5.6)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は内彎気味に立ち上がる。	内・外面摩擦。内・外面赤彩。	砂粒 橙色 普通	P 360 10% 覆土
17	鉢土師器	A 20.7 B (8.8)	底部欠損。体部から口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。	長石・砂粒 灰黄褐色 普通	P 361 P L 55 80% 覆土中層
18	甕土師器	A 18.6 B (8.5)	体部から口縁部の破片。頸部かせ口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・砂粒 灰黄褐色 普通	P 362 P L 58 15% 覆土上層
19	甕土師器	A 13.6 B 16.6 C 5.6	体部から口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反し、口縁部は折り返される。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P 363 P L 58 60% 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
20	球状土錘	(2.6)	(2.5)	(2.6)	6.2	覆土 孔径 7.0mm DP 25 50%	P L 69
21	球状土錘	(2.7)	(2.8)	(2.7)	8.3	覆土 孔径 [7.0]mm DP 26 50%	P L 69
22	球状土錘	2.0	2.7	2.0	8.0	覆土 孔径 8.0mm DP 27 50%	P L 69
23	管玉	(2.0)	(0.6)	-	0.4	覆土 孔径 [4.0]mm Q149 50% 滑石	P L 69

第44号住居跡 (第134図)

位置 1区南西部, C10f₇区。

重複関係 本跡の北西コーナーから北壁にかけては, 第58号住居跡の南コーナーから南西壁を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.08m, 短軸2.56mの長方形である。

主軸方向 N-64°-W。

壁 壁高は30~50cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, あまり踏み固められていない。南東コーナー部には半径90cm, 高さ18cm程の扇形状の高まりがみられる。

覆土 4層からなり, 自然堆積である。第1層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む極暗褐色土, 第2層はローム粒子

及びローム小ブロックを少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第3層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量, 焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第4層はローム粒子を多量とローム小ブロックを中量及び炭化物を微量含む褐色土で, レンズ状に堆積している。

遺物 覆土中から, 土師器の坏・甕片が75点出土している。

所見 覆土下層から, 焼土塊が確認されていることから, 本跡は焼失後, 自然に埋もれたものと思われる。本跡の南東コーナー部から確認された高まりは, 他の住居跡等にみられる出入り口施設と考えられる高まりとは, 位置的に異なることから, 別の目的をもつものと思われる。本跡は, 出土遺物から古墳時代中期頃の建物跡と考えられる。

第45号住居跡 (第135図)

位置 1区南西部, C10e₆区。

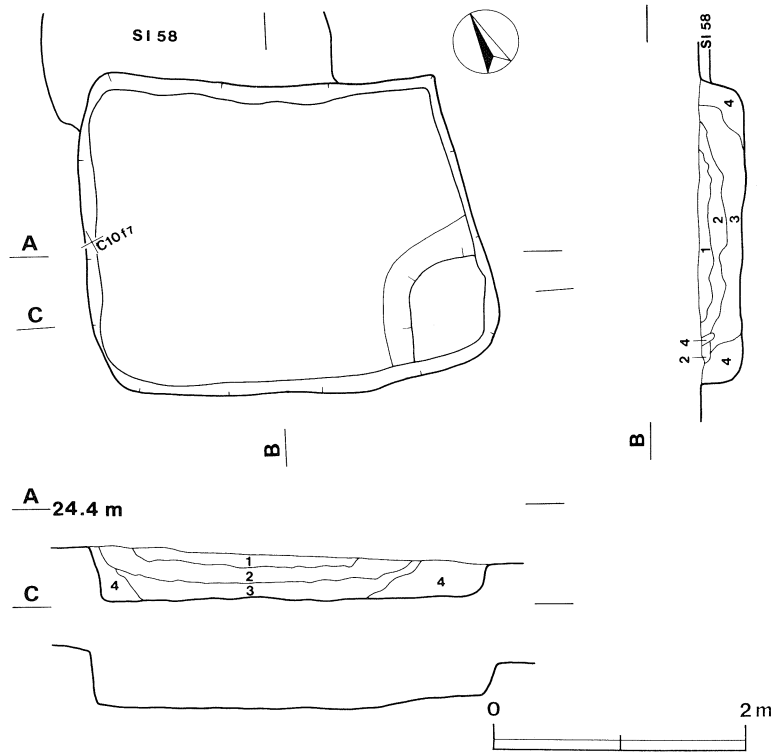
規模と平面形 長軸4.02m, 短軸2.30mの長方形である。

主軸方向 (N-26°-E)。

壁 壁高は46~56cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, あまり踏み固められていない。

覆土 7層からなり, 人為堆積である。ロームブロック混じりの褐色土及び暗褐色土で埋め戻されている。第1層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量, 焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土, 第2層はローム粒子及びローム小ブロックを中量とローム大ブロック及び焼土粒子, 炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第3層はローム粒子とローム小・中ブロックを中量, 焼土粒子及び炭化粒子を多量に含む暗褐色土, 第4層は第

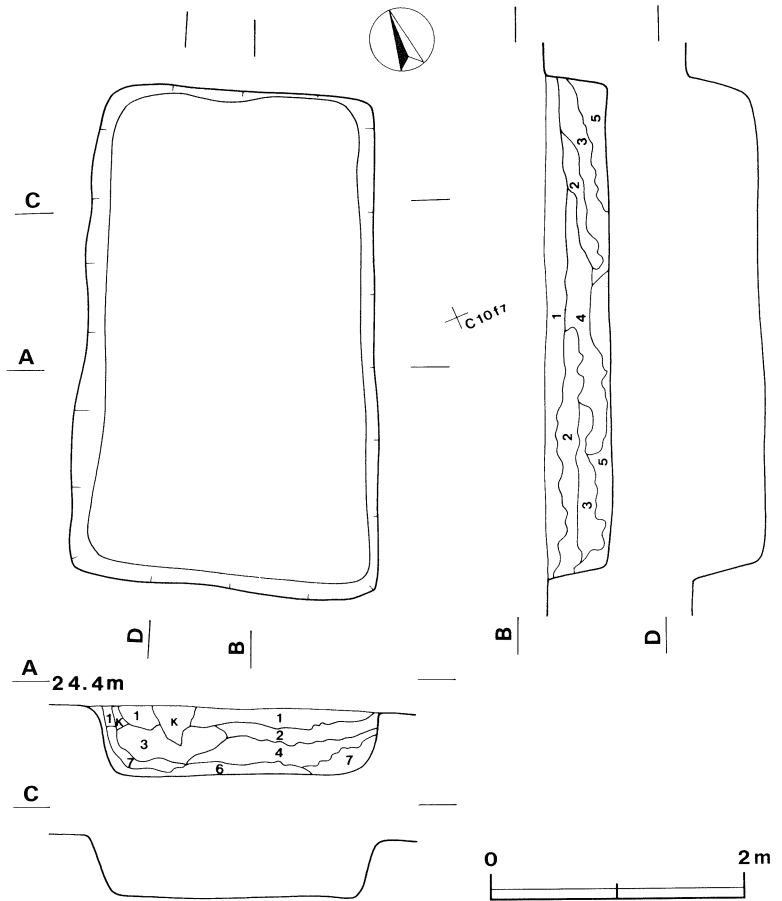


第134図 第44号住居跡実測図

3層にローム大ブロックを微量に含む暗褐色土，第5層はローム粒子を多量とローム小ブロックを中量含む褐色土，第6層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む褐色土，第7層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む暗褐色土である。

遺物 覆土中層から下層にかけて，土師器の坏・甕片等が極少量出土している。第136図1の土師器甕は北東寄りの覆土中層から出土している。

所見 本跡は，内部施設を何も持たない長方形の建物跡である。時期は，出土遺物から古墳時代中期後半と考えられる。



第135図 第45号住居跡実測図

第45号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第136図 1	甕 土師器	B (9.5) C [5.4]	底部から体部の破片。無底式。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面摩耗。内面ヘラ削り後，ヘラナデ。	長石・砂粒にぶい黄橙色普通	P 364 10% 覆土

第46号住居跡 (第137図)

位置 1区南西部，C10g₅区。

規模と平面形 長軸6.90m，短軸5.80mの長方形である。

主軸方向 N-45°-W。

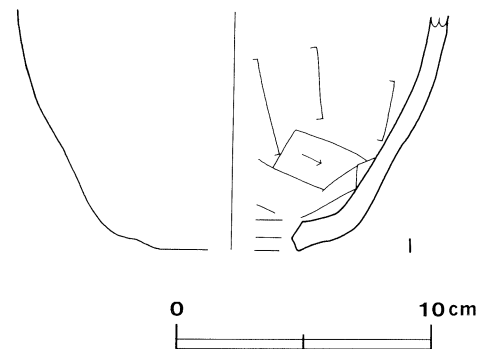
壁 壁高は38~56cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅12~18cm，下幅6~16cm，深さ6~13cmで，断面形はU字状をしている。

間仕切り溝 2か所 (a・b)。北東壁側に1条 (a)，南西壁側に1条 (b) 確認され，長さ88~92cm，上幅14~22cm，下幅9~17cm，深さ6~12cmで，断面形はコの字状をしている。

bの先端部は径30cmの円形をしている。

床 ほぼ平坦で，中央部は硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには，P₂を囲むように幅34~58cm，高さ6cm程の馬の背状の高まりが鋸状にみられ，出入口施設と考えられる。



第136図 第45号住居跡出土遺物実測図

ピット 2か所 (P₁・P₂)。P₁は、径28cm、深さ35cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。P₂は、24cm、深さ19cmで性格は不明である。

炉 3か所 (炉A～C)。炉A・Bは、ともに中央から北西寄りに付設されている。炉Aは長径81cm、短径60cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。覆土は2層からなり、第1層は焼土粒子を中量と焼土小ブロックを少量含む明赤褐色土、第2層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含むにぶい赤褐色土である。炉床は火熱を受け、赤変硬化している。炉Bは長径90cm、短径69cmの楕円形で、床面を2cm程掘り窪めている。覆土は1層で、炉Aの第2層と同様である。炉床は火熱を受け、赤変硬化している。炉Cは、中央から南コーナー寄りに付設されており、長径58cm、短径42cmの楕円形で、炉床はほとんど掘り窪められておらず、火熱を受け、赤変している程度である。

貯蔵穴 東コーナーに付設されている。長径58cm、短径40cm、深さ44cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は2層からなり、第1層はローム粒子を多量と焼土粒子を微量含む明褐色土、第2層はローム粒子を多量に含むにぶい赤褐色土である。

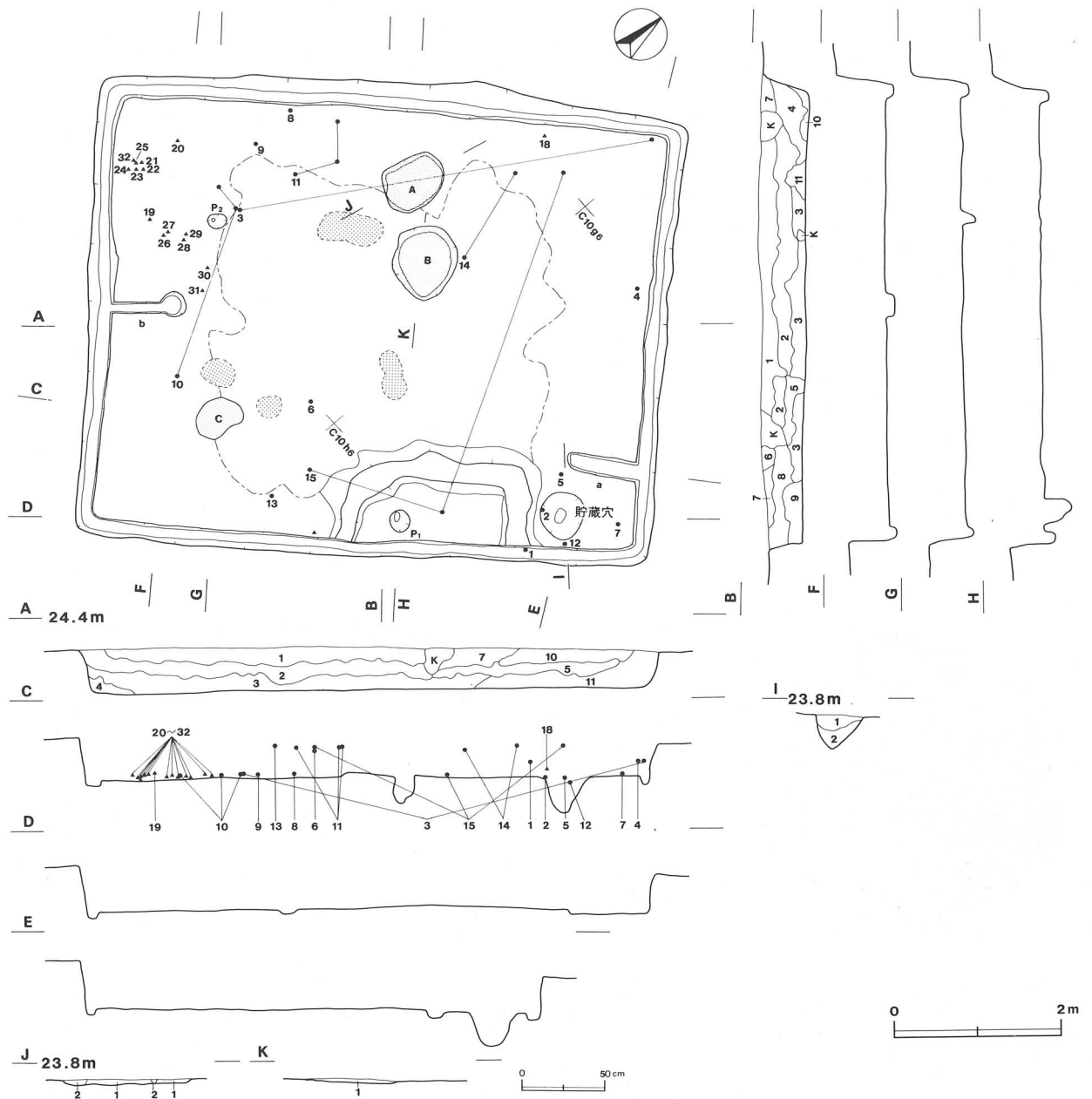
覆土 11層からなり、上層を除き人為堆積である。第1層はローム粒子を中量と焼土粒子を少量含む暗褐色土、第2層はローム粒子及びローム小ブロックを中量と焼土粒子を少量含む暗褐色土、第3層はローム粒子を多量とローム小ブロックを中量含む褐色土、第4層はローム粒子を中量含む暗褐色土、第5層はローム粒子を少量含む暗褐色土、第6層はローム粒子を中量含む褐色土、第7層はローム粒子を多量に含む褐色土、第8層はローム粒子を中量と炭化粒子を少量含む暗褐色土、第9層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第10層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量及び焼土粒子を微量含む褐色土、第11層はローム粒子を中量と焼土粒子及び炭化粒子を少量含む暗褐色土である。

遺物 覆土上層から床面にかけて、土師器の坏・甕片等が多量に出土している。第138図2・7の土師器坏及び12の土師器碗は東コーナーの床面から正位の状態、8・9の土師器坏は西コーナー寄りの北西壁際床面から正位の状態で出土している。15の須恵器坏蓋は南東壁際の覆土中から、16の須恵器甕は南西部の覆土中から出土した破片が接合したものである。14のミニチュア土器は北寄りの覆土上層から、20～32の白玉及び19の双孔円板は南西寄りの床面及び覆土下層から出土している。

所見 本跡は、床面及び覆土下層から焼土塊が確認されていることから焼失住居で、時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。

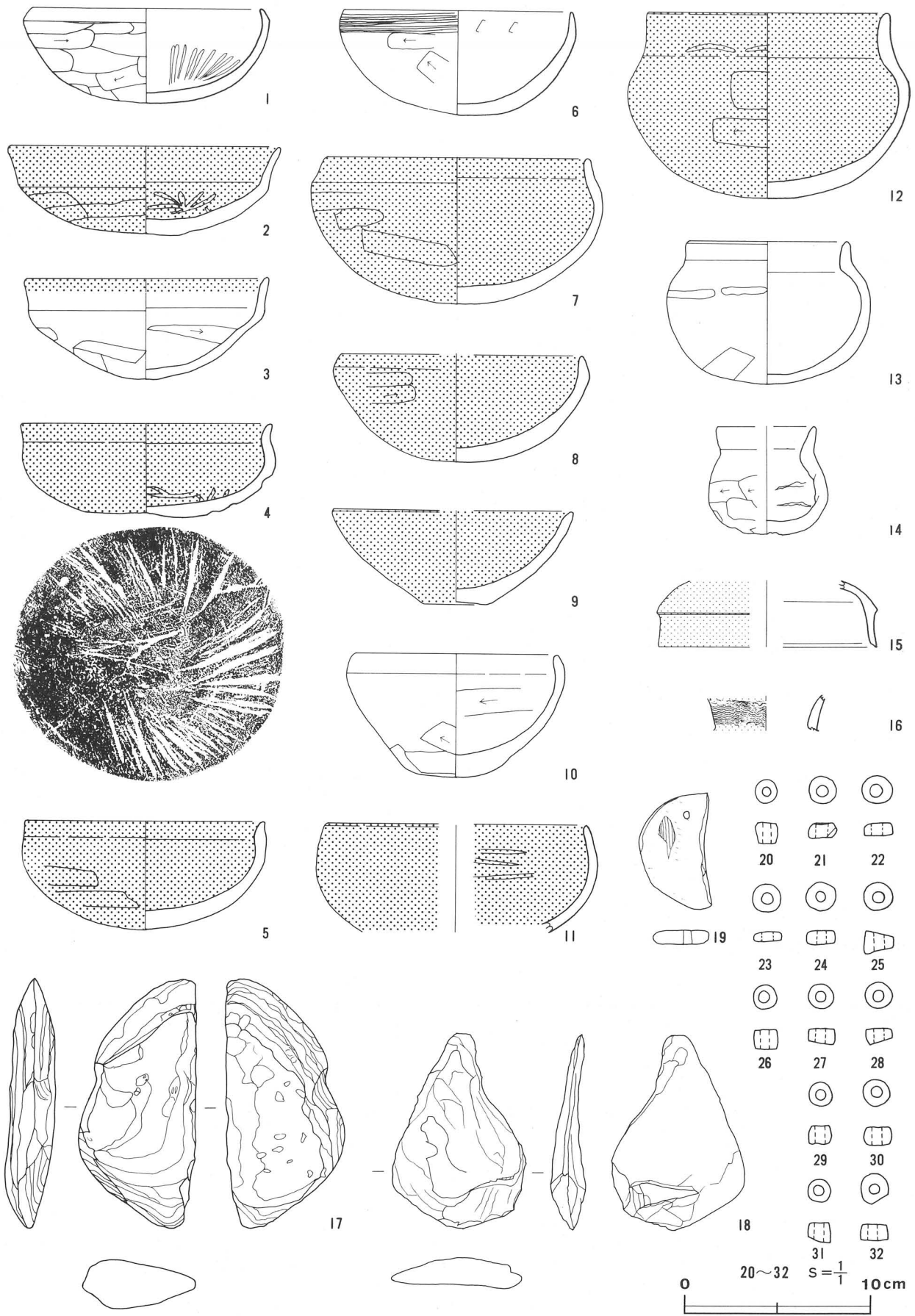
第46号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第138図 1	坏 土師器	A 12.4 B 5.2	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。	長石・砂粒 橙色 良好	P365 P L59 95% 覆土下層
2	坏 土師器	A 12.4 B 5.2	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P366 P L59 95% 床面
3	坏 土師器	A 12.8 B 5.6	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へら削り後、ナデ。口縁部内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P367 P L59 95% 覆土下層
4	坏 土師器	A 13.2 B 5.1	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P368 P L59 95% 覆土下層
5	坏 土師器	A 12.6 B 6.0	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P369 P L59 95% 砥石に転用 床面



第137図 第46号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	坏土師器	A 12.4 B 5.7	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P 370 P L 59 90% 覆土上層
7	坏土師器	A 13.8 B 8.1	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P 371 P L 59 80% 床面
8	坏土師器	A [13.0] B 5.8	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P 372 P L 59 85% 床面
9	坏土師器	A [13.4] B 5.1 C 3.6	体部及び口縁部の一部欠損。平底で、体部から口縁部は内彎気味に立ち上がる。	内・外面剥離。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P 373 P L 59 70% 床面
10	坏土師器	A 10.8 B 6.7 C 3.2	体部及び口縁部の一部欠損。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P 374 P L 59 65% 覆土下層



第138图 第46号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
11	坏土師器	A [14.0] B (5.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P375 PL59 45% 覆土上層
12	坑土師器	A 12.9 B 10.2	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P376 PL61 85% 床面
13	坑土師器	A [8.6] B 7.8	体部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P377 PL60 75% 覆土上層
14	ミニチュア土師器	A [5.2] B 5.9	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P378 PL59 45% 覆土上層
15	坏蓋須恵器	A [11.8] B (3.6)	天井部から口縁部の破片。天井部と口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は僅かに外傾し、端部に凹面をもつ。	天井部回転へら削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 黄灰色 良好	P379 PL59 20% 自然釉付着 覆土上層
16	甗須恵器	B (1.9)	頸部の破片。頸部は外傾して立ち上がり、櫛描波状文が充填されている。	内面ナデ。	長石・石英・砂粒 黄灰色 良好	P380 10% 自然釉付着 覆土

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
17	不明石製品	13.6	6.3	2.7	252.4	覆土	Q151 堇青石 PL70
18	不明石製品	10.7	7.2	1.9	96.6	床面	Q152 堇青石 PL70
19	双孔円板	(2.0)	3.1	0.3	(3.7)	覆土下層	孔径 2.0mm Q150 50% 滑石 PL70
20	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆土下層	孔径 1.5mm Q153 100% 滑石 PL71
21	白玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q154 100% 滑石 PL71
22	白玉	0.2	0.5	0.2	0.1	覆土下層	孔径 2.0mm Q155 100% 滑石 PL71
23	白玉	0.2	0.5	0.2	0.1	覆土下層	孔径 2.0mm Q156 100% 滑石 PL71
24	白玉	0.2	0.5	0.2	0.1	覆土下層	孔径 1.5mm Q157 100% 滑石 PL71
25	白玉	0.5	0.5	0.5	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q158 100% 滑石 PL71
26	白玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q159 100% 滑石 PL71
27	白玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q160 100% 滑石 PL71
28	白玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q161 100% 滑石 PL71
29	白玉	0.4	0.4	0.4	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q162 100% 滑石 PL71
30	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q163 100% 滑石 PL71
31	白玉	0.4	0.4	0.4	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q164 100% 滑石 PL71
32	白玉	0.3	0.5	0.3	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q165 100% 滑石 PL71

第47号住居跡（第139図）

位置 1区南西部，C10j₇区。

規模と平面形 長軸7.06m，短軸7.00mの方形である。

主軸方向 N-40°-W。

壁 壁高は38～56cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝 北西壁下の一部を除き全周している。上幅7～20cm，下幅4～15cm，深さ4～8cmで，断面形は皿状をしている。

床 ほぼ平坦で，全体的に硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには，貯蔵穴を囲むように，幅48～90cm，高さ約7cmの馬蹄形状の高まりがみられる。

ピット 5か所（P₁～P₅）。P₁～P₄は，径36～44cm，深さ62～72cmで支柱穴，P₅は，径22cm，深さ22cmで性格は不明である。

炉 中央から北西寄りにあり，長軸66cm，短軸40cmの不整形で，床面を4cm程掘り窪めている。覆土は3層からなり，第1層は焼土大ブロック及び炭化粒子を少量含む赤褐色土，第2層は焼土粒子及び炭化物を中量含む褐色土，第3層はローム粒子及びローム小ブロックを中量と焼土粒子を少量含む褐色土である。炉床は火熱を受け赤変している。

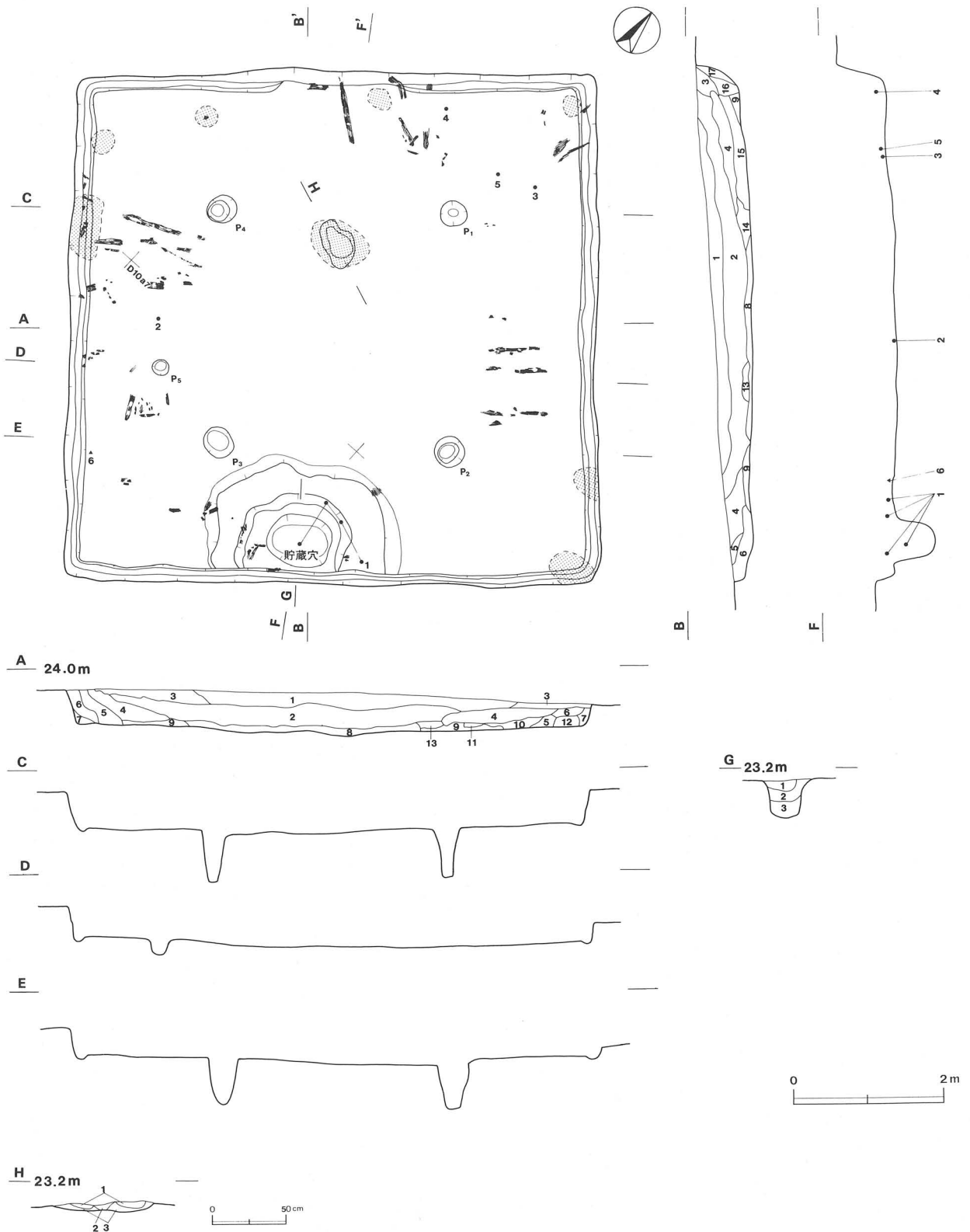
貯蔵穴 南東壁中央寄りに付設されている。長径88cm，短径70cmの楕円形で，深さは56cmである。底面は皿状で，壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は3層からなり，第1層はローム粒子を中量とローム小ブロックと焼土粒子及び炭化粒子を少量含む暗褐色土，第2層はローム粒子を少量含む暗褐色土，第3層はローム粒子を多量に含む褐色土である。

覆土 17層からなり，人為堆積である。第1層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む黒褐色土，第2層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び焼土粒子，炭化粒子を微量含む極暗褐色土，第3層はローム粒子を中量と焼土粒子を少量及び炭化粒子を微量含む暗褐色土，第4層はローム粒子を多量と焼土粒子を中量及び炭化粒子を少量，炭化物を微量含む暗褐色土，第5層はローム粒子を多量と焼土粒子及び炭化粒子を中量，炭化物を微量含む褐色土，第6層はローム粒子を多量と焼土粒子を中量及び炭化粒子を少量含む褐色土，第7層はローム粒子を多量と焼土粒子及び炭化粒子，炭化物を中量含む褐色土，第8層はローム粒子及び炭化粒子を多量と焼土粒子を少量及び炭化物を中量含む褐色土，第9層はローム粒子を多量と焼土粒子を中量及び炭化粒子を少量含む褐色土，第10層はローム粒子及び炭化粒子と炭化物を中量及び焼土粒子を多量に含む暗褐色土，第11層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を中量，焼土小ブロックを微量含む暗褐色土，第12層はローム粒子を多量と焼土粒子を少量，焼土小ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土，第13層はローム粒子を中量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土，第14層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を中量及び炭化物を少量含む暗褐色土，第15層はローム粒子を多量と焼土粒子を中量及び炭化粒子を少量含む褐色土，第16層はローム粒子及び焼土粒子を多量と炭化物を少量及び炭化材を中量含むにぶい赤褐色土，第17層はローム粒子を多量と焼土粒子及び炭化粒子を少量含む褐色土である。

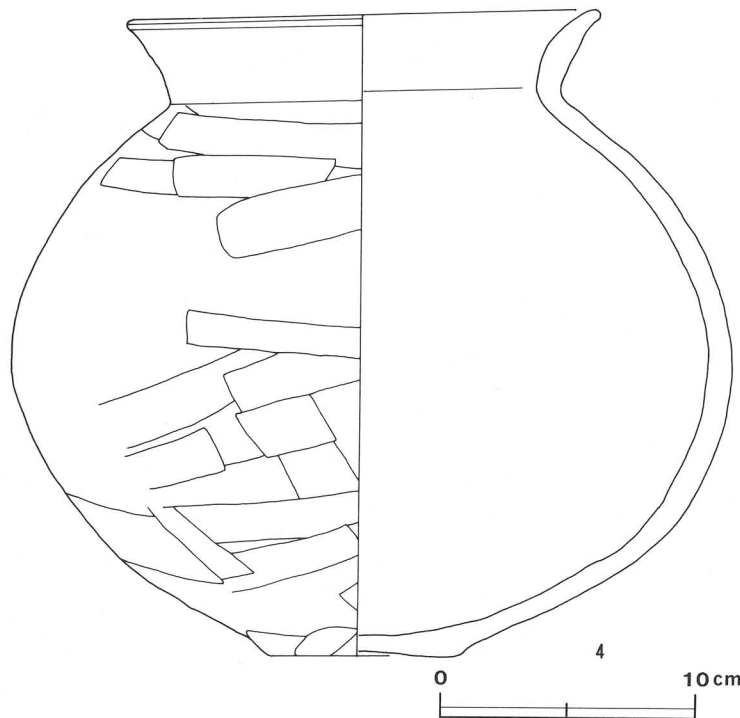
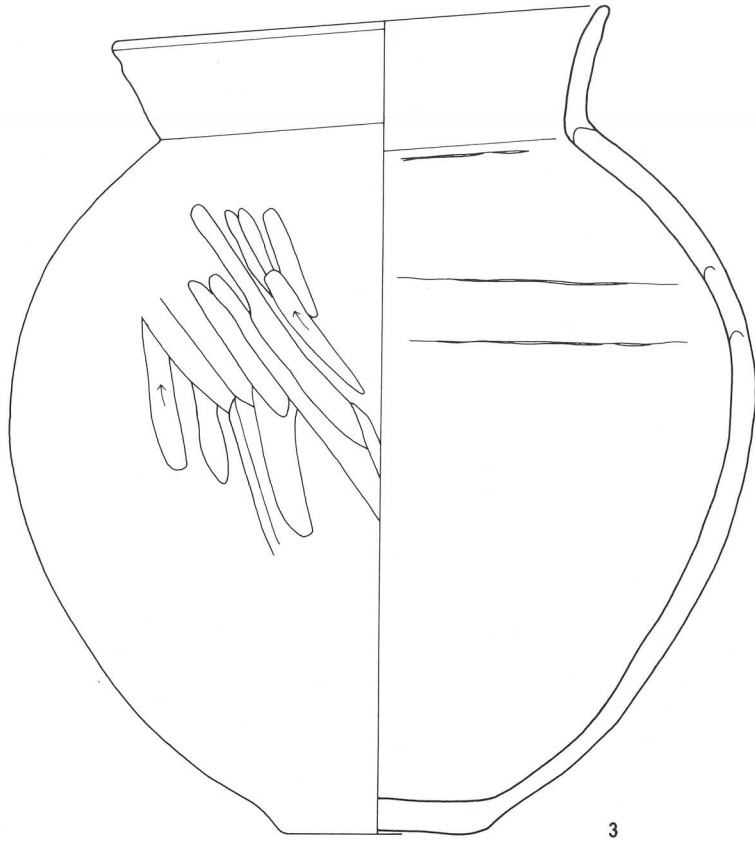
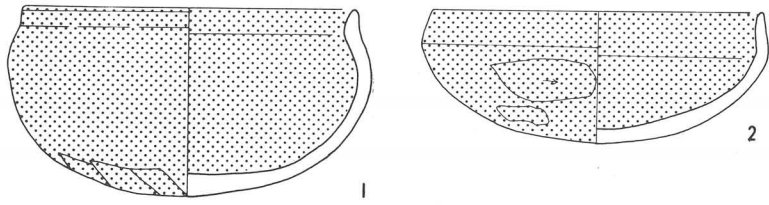
遺物 土師器の坏・甕片等が少量出土している。第140図1の土師器坏は貯蔵穴付近の床面から出土した破片が接合したものである。2の土師器坏は南西寄りの床面から正位の状態出土している。3及び第141図4・5の土師器甕は北コーナー覆土下層から，3は横位，4と5は正位の状態，第141図6の砥石は南コーナー寄りの南西壁際覆土下層から正位の状態出土している。

所見 本跡は，壁際の床面及び覆土下層に，焼土及び炭化材が確認されていることから焼失住居である。炭化

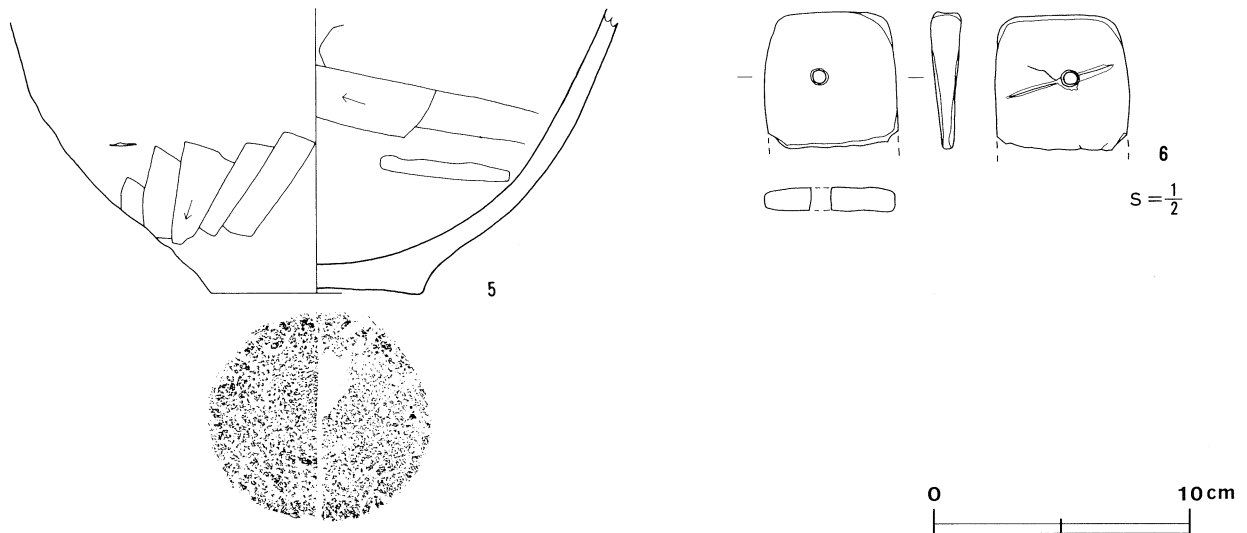
材の一部には、焼失前、木材の周囲に貼ってあったと思われる粘土が火熱を受け、そのまま付着した状態で出土しているものもあり、部材の補強に粘土を使用していたことが考えられる。時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。



第139図 第47号住居跡実測図



第140图 第47号住居迹出土遺物実測図(1)



第141図 第47号住居跡出土遺物実測図(2)

第47号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第140・141図 1	坏 土師器	A 13.1 B 7.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 橙色 普通	P 381 P L 60 100% 床面
2	坏 土師器	A 13.0 B 5.5	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面剥離。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 382 P L 60 90% 床面
3	甕 土師器	A 19.6 B 33.3 C 7.8	体部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を上位にもつ。頸部から口縁部は外傾する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。	長石・石英・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P 383 P L 61 95% 覆土下層
4	甕 土師器	A 18.7 B 26.1 C 7.7	体部の一部欠損。平底。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。	砂粒 にぶい褐色 普通	P 384 P L 61 90% 覆土下層
5	甕 土師器	B (11.5) C 8.4	底部から体部の破片。底部は平底で、突出する。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面へラ削り後、ナデ。底部外面に木葉痕。	長石・砂粒 橙色 普通	P 385 30% 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	砥石	(3.7)	3.5	0.8	(13.8)	覆土下層	Q166 砂岩

第48号住居跡 (第142図)

位置 1区南西部, D10b₆区。

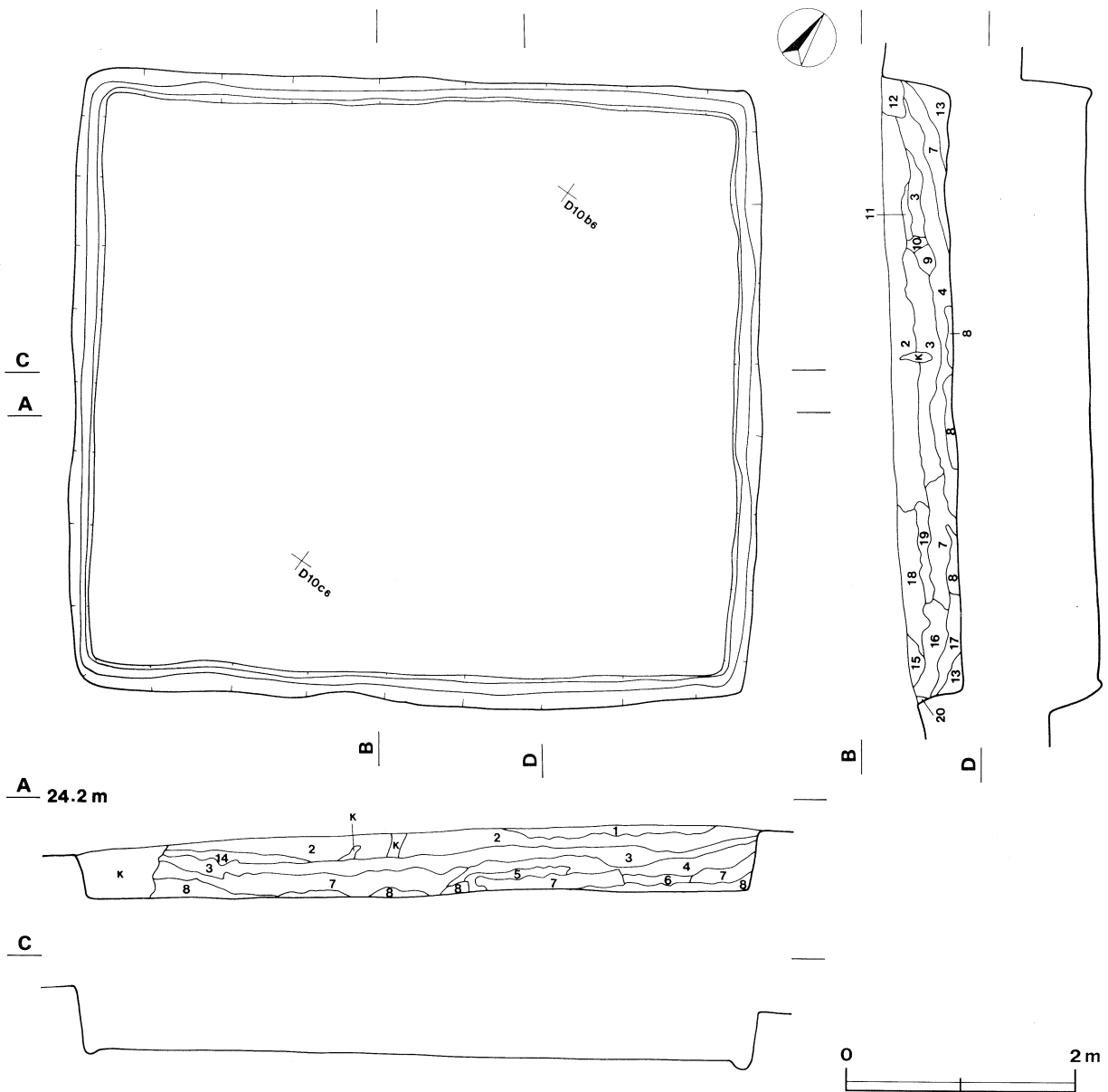
規模と平面形 長軸6.00m, 短軸5.78mの方形である。

主軸方向 (N-33°-W)。

壁 壁高は44~56cmで、南東壁は外傾して、その他の壁は垂直に立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、あまり踏み固められていない。

覆土 20層からなり、人為堆積である。第1層はローム粒子を少量含む暗褐色土、第2層はローム粒子を中量含む褐色土、第3層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第4層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土、第5層はローム粒子及びローム小ブロックを中量と焼土粒子を微量含む黒

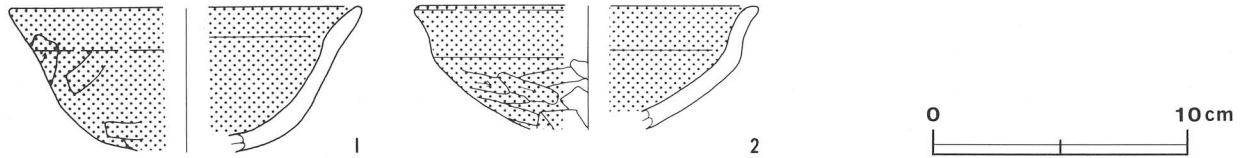


第142図 第48号住居跡実測図

褐色土，第6層はローム粒子を多量とローム小ブロックを中量含む褐色土，第7層はローム粒子を多量及びローム小ブロックを中量と炭化粒子を微量含む褐色土，第8層はローム粒子を多量と炭化粒子を微量含む褐色土，第9層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む褐色土，第10層はローム粒子を多量に含む褐色土，第11層はローム粒子を中量含む褐色土，第12層はローム粒子を多量とローム小ブロックを微量含む褐色土，第13層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む褐色土，第14層はローム粒子及びローム小ブロックを中量と炭化粒子を微量含む褐色土，第15層はローム粒子を多量に含む褐色土，第16層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む褐色土，第17層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む暗褐色土，第18層はローム粒子を中量含む暗褐色土，第19層はローム粒子を少量含む暗褐色土，第20層はローム粒子を多量含む褐色土である。

遺物 覆土中及び床面から，土師器の坏・甕片が極少量出土している。第143図1と2の土師器坏は南コーナー寄りの南東壁際覆土中層から出土している。

所見 当遺跡から確認されている内部施設を何ももたない建物跡は、規模が一辺3m前後の小形のもので、本例のように大規模のものはみられないことから、ここでは住居跡と考えておきたい。時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。



第143図 第48号住居跡出土遺物実測図

第48号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第143図 1	坏 土師器	A [13.8] B (5.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 386 30% 覆土中層
2	坏 土師器	A [13.0] B (5.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 387 15% 覆土中層

第50号住居跡（第144図）

位置 1区南西部，C10j₂区。

重複関係 本跡の東コーナー付近は、第49号住居跡の南西コーナー部に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸6.70m，短軸5.94mの長方形である。

主軸方向 N-49°-W。

壁 壁高は26～34cmで、南東壁はほぼ垂直に、それ以外の壁は外傾して立ち上がっている。

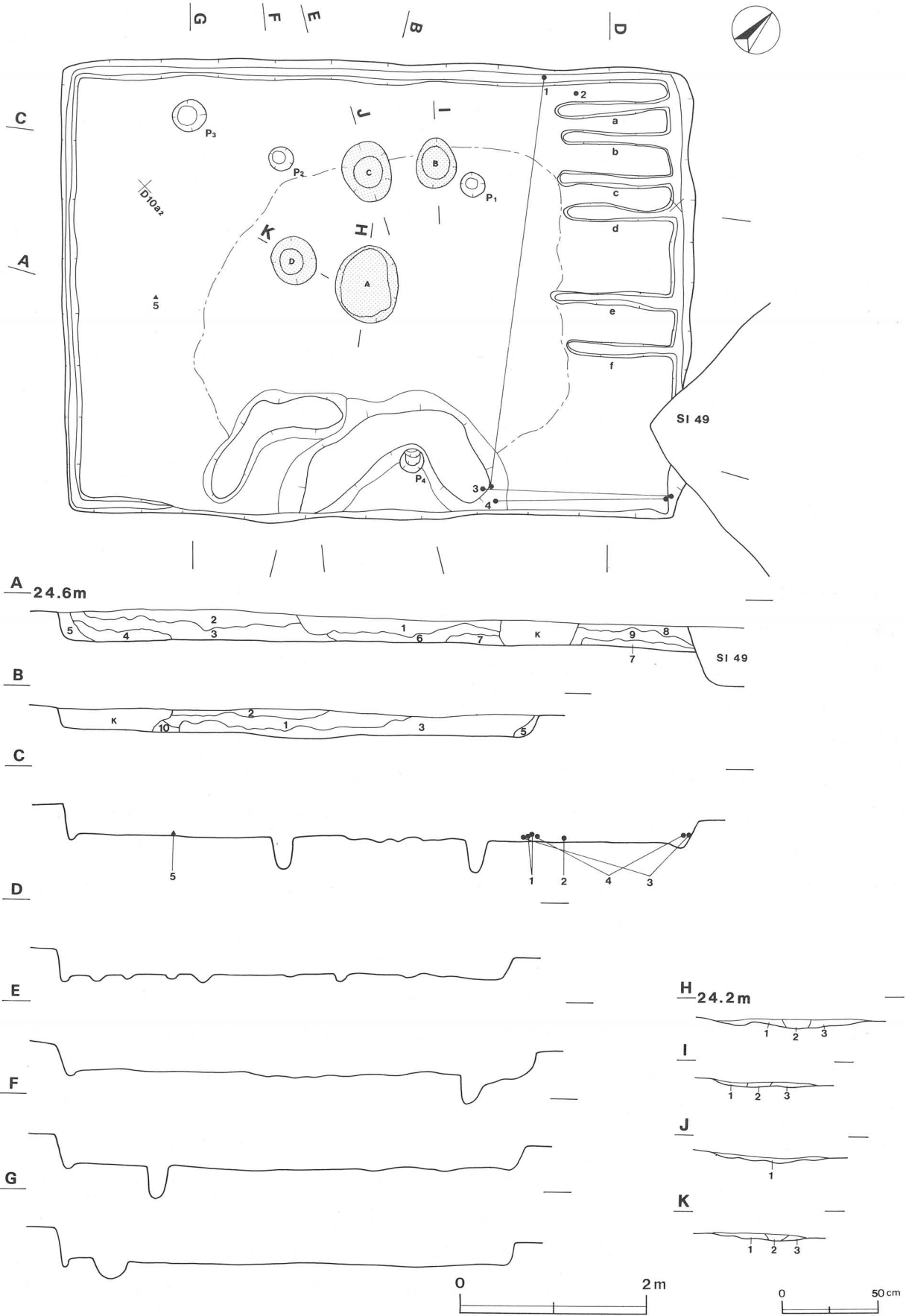
壁溝 東コーナーから南東壁下の大半を除き周回している。上幅8～16cm，下幅5～12cm，深さ4～8cmで、断面形は皿状をしている。

間仕切り溝 6条（a～f）。すべて北東壁側から確認され、長さ1.16～1.34m，上幅10～19cm，下幅4～13cm，深さ4～10cmで、断面形は皿状をしている。

床 ほぼ平坦で、出入り口から中央部にかけて硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには、幅36～80cm，高さ7cm程の馬の背状の高まりがみられ、出入り口施設と考えられる。

ピット 4か所（P₁～P₄）。P₁～P₃は、径28～38cm，深さ22～35cmで主柱穴，P₄は、径26cm，深さ34cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 4か所（炉A～D）。炉Aは床面ほぼ中央にあり、長径83cm，短径66cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。覆土は3層からなり、第1層は焼土粒子を中量と焼土小ブロックを少量含む赤褐色土，第2層は焼土粒子を少量と炭化物を微量含むにぶい赤褐色土，第3層は焼土粒子を中量と焼土小ブロックを少量及び炭化粒子を微量含むにぶい赤褐色土である。炉床は火熱を受け、赤変硬化している。炉Bは中央から北西寄りにあり、長径54cm，短径42cmの楕円形で、床面を3cm程掘り窪めている。覆土は3層からなり、第1層は焼土粒子を少量と焼土小ブロック及び炭化粒子を微量含むにぶい赤褐色土，第2層は焼土粒子を中量と焼土小ブロックを少量及び炭化粒子を微量含む赤褐色土，第3層は焼土粒子及び焼土小ブロックを中量と炭化粒子を少量含む暗赤褐色土である。炉床は火熱を受け、赤変硬化している。炉Cは炉Bの南西約30cmに位置し、



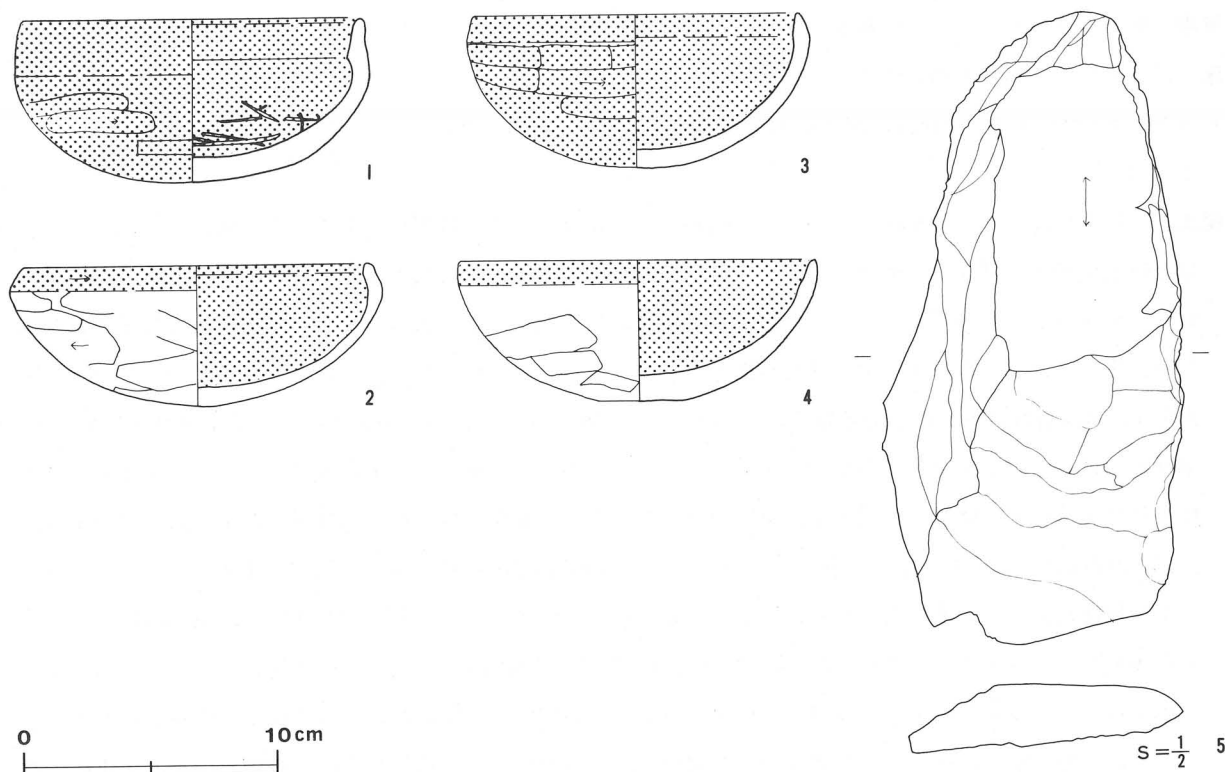
第144图 第50号住居跡実測図

長径66cm, 短径52cmの楕円形で, 床面を6cm程掘り窪めている。覆土は1層で, 焼土粒子を中量と焼土小ブロックを微量含む暗赤褐色土である。炉床は凸凹で火熱を受け, 赤変硬化している。炉Dは中央から南西寄りにあり, 径約52cmの円形で, 床面を2cm程掘り窪めている。覆土は3層からなり, 第1層は焼土粒子を中量と焼土小ブロックを微量含むにぶい赤褐色土, 第2層は焼土粒子を中量と炭化粒子を微量含む暗赤褐色土, 第3層は第2層にローム粒子を少量含む暗赤褐色土である。炉床は火熱を受け赤変している。

覆土 10層からなり, 人為堆積である。第1層はローム粒子を微量含む暗褐色土, 第2層はローム粒子を中量含む褐色土, 第3層はローム粒子を中量とローム中・大ブロックを少量含む明褐色土, 第4層はローム粒子及びローム小ブロックを中量とローム中ブロックを少量含む明褐色土, 第5層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む橙色土, 第6層はローム粒子を多量とローム小ブロックを中量含む橙色土, 第7層はローム粒子を中量とローム中ブロックを少量含む褐色土, 第8層はローム粒子及びローム小・中ブロックを少量含む褐色土, 第9層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む褐色土, 第10層はローム粒子を多量に含む褐色土である。

遺物 床面からの出土は第145図5の砥石のみで, 南西寄りの床面から出土している。1～4は土師器坏で, 1は東コーナー部及び北コーナー寄りの北西壁際から出土した破片が, 3・4は東コーナー寄りの南東壁際覆土下層から出土した破片が接合したものである。2は北コーナー寄りの北西壁際覆土中層から下層にかけて流れ込んだ状態で出土している。

所見 炉同様, 間仕切溝は何回か作りかえられたものと考えられるが, 詳細は不明である。本跡は, 出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。



第145図 第50号住居跡出土遺物実測図

第50号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第145図 1	坏土師器	A 13.5 B 6.5	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P 391 P L 60 90% 覆土下層
2	坏土師器	A 13.7 B 5.6	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・雲母・砂粒 暗赤褐色 普通	P 392 P L 60 90% 覆土下層
3	坏土師器	A 13.0 B 6.1	体部から口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がる。口縁部は直立し、口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P 393 P L 60 70% 覆土下層
4	坏土師器	A 14.1 B 5.7	体部から口縁部の一部欠損。丸底で、体部から口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 394 P L 60 70% 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
5	砥石	16.7	7.9	1.8	292.5	床面	Q 167 砂岩

第51号住居跡（第146図）

位置 1区南西部，C10h₁区。

規模と平面形 長軸6.80m，短軸6.70mの方形である。

主軸方向 (N-42°-W)。

壁 壁高は46～56cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅8～20cm，下幅4～14cm，深さ4～7cmで，断面形はU字状をしている。

床 ほぼ平坦で，あまり踏み固められていない。

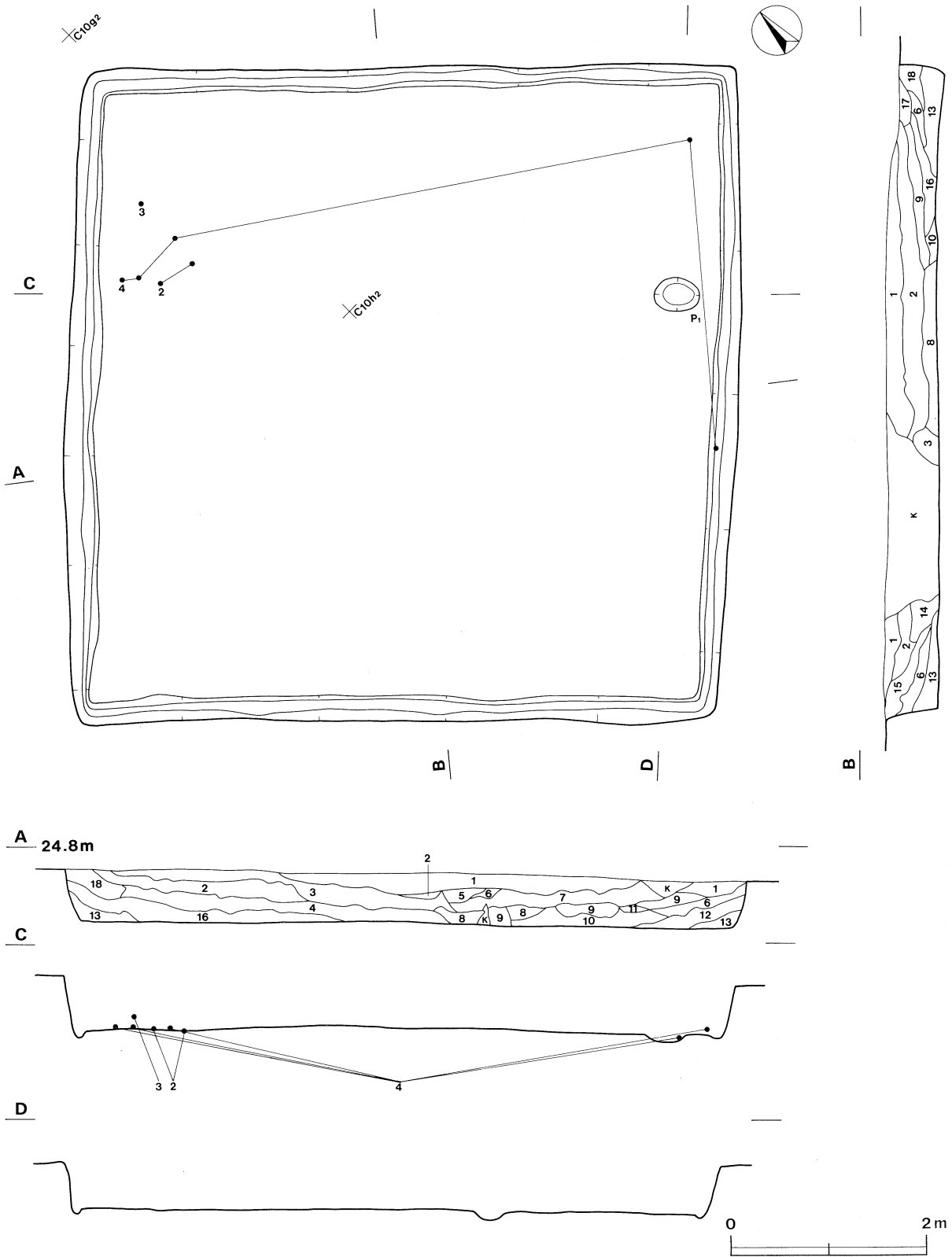
ピット 1か所 (P_i)。径46cm，深さ10cmで位置的に出入り口施設に伴うピットとも考えられるが，断定することはできない。

覆土 18層からなり，上層を除き，褐色土と暗褐色土が交互に入る人為堆積である。第1層はローム粒子を多量と焼土粒子を少量含む暗褐色土，第2層はローム粒子を多量に含む褐色土，第3層はローム粒子を中量とローム小ブロック及び焼土粒子，炭化粒子を少量含む暗褐色土，第4層はローム粒子を極めて多量に含む褐色土，第5層はローム粒子を中量含む暗褐色土，第6層はローム粒子及び焼土粒子と炭化粒子を少量含む暗褐色土，第7層はローム粒子を多量に含む褐色土，第8層はローム粒子を多量と焼土粒子を微量含む褐色土，第9層はローム粒子を極めて多量とローム小ブロックを微量含む褐色土，第10層はローム粒子を多量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土，第11層はローム粒子を中量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土，第12層はローム粒子を中量と焼土粒子を少量含む暗褐色土，第13層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む褐色土，第14層はローム粒子を中量とローム中ブロックを微量含む褐色土，第15層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量，焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土，第16層はローム粒子及びローム小ブロックを少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土，第17層はローム粒子を中量とローム小ブロック及び焼土粒子，炭化粒子を微量含む暗褐色土，第18層はローム粒子及び焼土粒子を少量と炭化粒子及び炭化物を微量含む暗褐色土である。

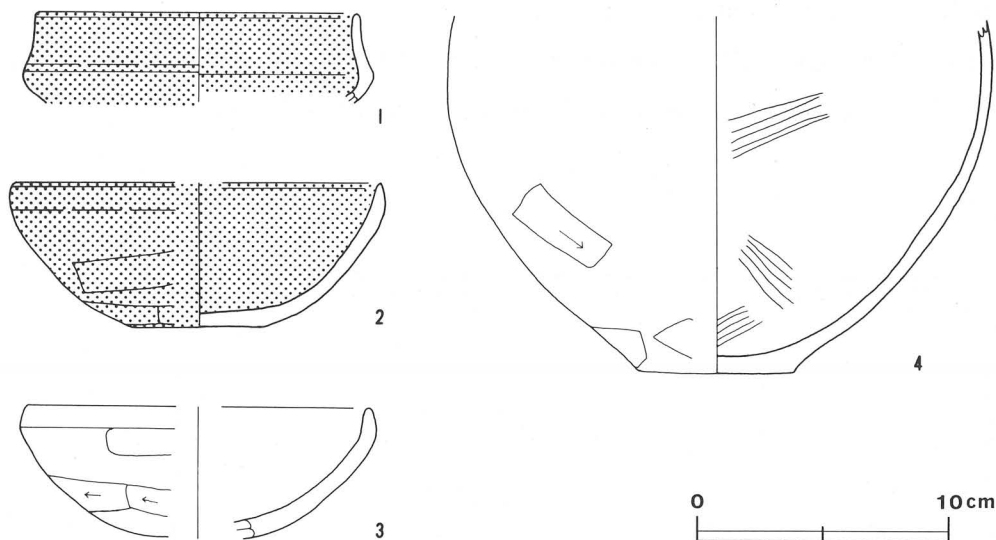
遺物 北及び東コーナーの覆土を中心に，土師器の坏・甕片等が少量出土している。第147図2・3は土師器坏で，北コーナー付近の床面及び覆土下層から出土している。4の土師器甕は北コーナー，東コーナー及び南

東壁際の床面から出土した破片が接合したものである。

所見 本跡は、第48号住居跡と同様に一辺が6m 台の住居跡と考えられるが、出入口施設に伴うようなピットが確認されている点で異なる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。



第146図 第51号住居跡実測図



第147図 第51号住居跡出土遺物実測図

第51号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第147図 1	坏 土師器	A 12.9 B (3.6)	体部から口縁部の破片。口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 395 P L 60 45% 覆土
2	坏 土師器	A [14.6] B (5.8) C 4.9	底部から口縁部の破片。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	石英・砂粒 暗赤褐色 普通	P 396 P L 60 40% 床面
3	坏 土師器	A [13.8] B (5.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P 397 P L 60 35% 覆土下層
4	甗 土師器	B (14.4) C 6.2	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後、ナデ。体部内面ヘラナデ。	長石・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P 398 25% 床面

第52号住居跡 (第148図)

位置 1区西部, C10b₂区。

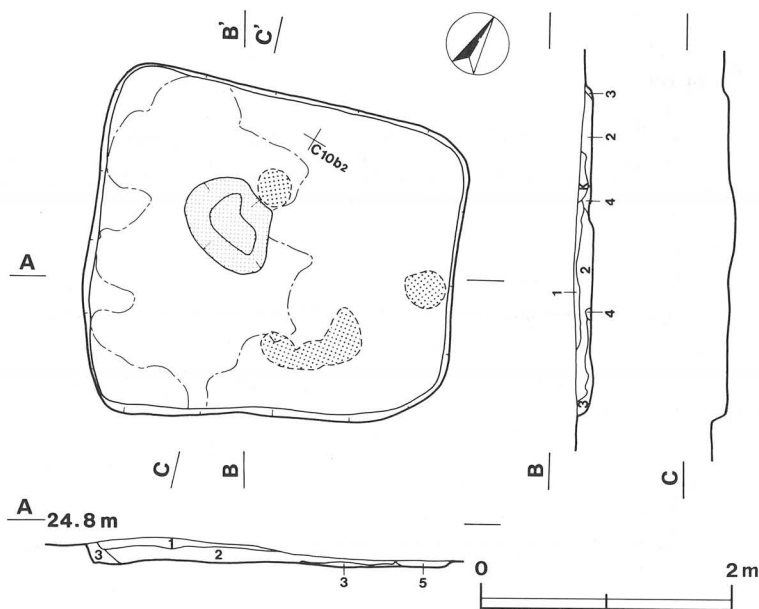
規模と平面形 長軸2.90m, 短軸2.58mの台形である。

主軸方向 N-25°-W。

壁 壁高は7~14cmで、外傾して立ち上がっている。

床 凸凹で、炉の周辺は硬く踏み固められている。

炉 中央からやや南西寄りにあり、長径84cm, 短径62cmの楕円形で、床面を5cm程掘り窪めている。覆土は1層で、焼土粒子及び炭化粒子を少量含む暗赤褐色土である。



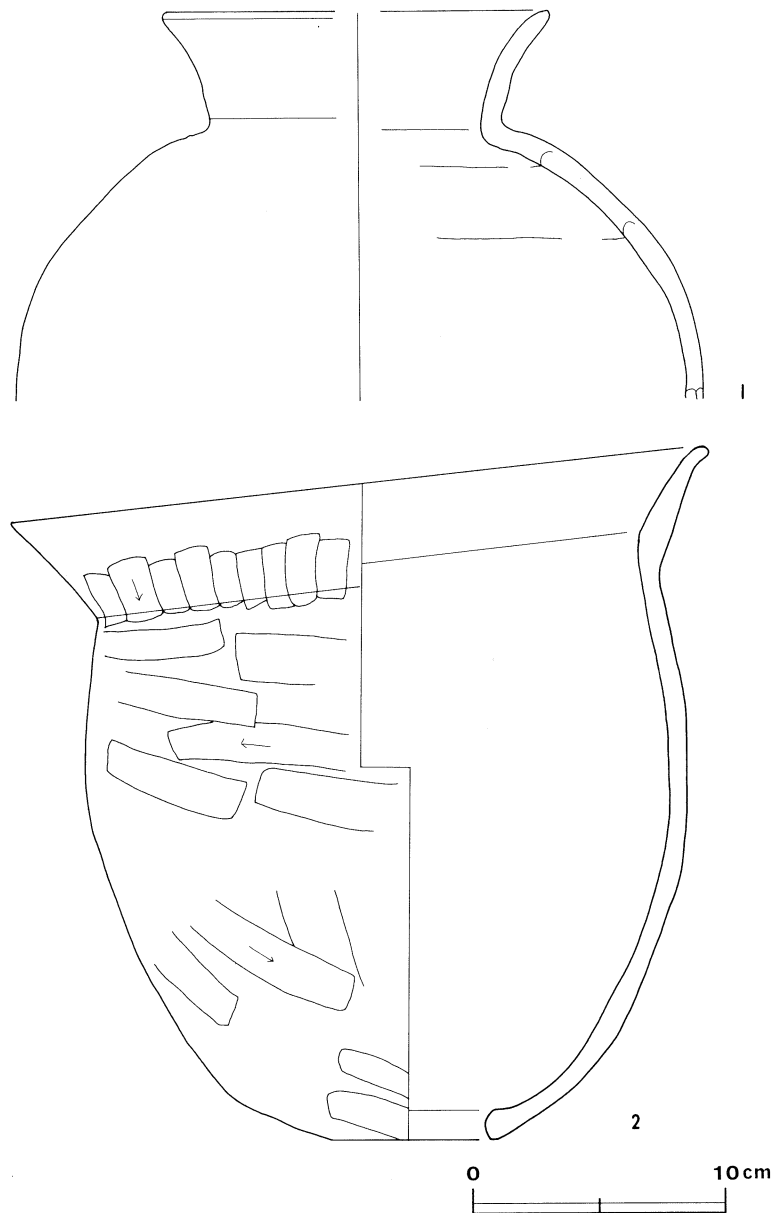
第148図 第52号住居跡実測図

炉床は火熱を受け、赤変している。

覆土 5層からなり、人為堆積である。第1層はローム粒子を少量含む褐色土、第2層はローム粒子及びローム小ブロックを中量とローム中ブロック及び炭化物を少量含む暗褐色土、第3層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第4層はローム粒子を少量と焼土粒子を多量及び焼土小ブロックを中量含む極暗赤褐色土、第5層は焼土粒子を多量に含む赤褐色土である。

遺物 覆土中から、土師器甕類の破片を主体に少量出土している。第149図1の土師器甕は東コーナー付近の覆土下層から、2の土師器甕は炉付近の覆土下層から潰れた状態で出土している。

所見 本跡は、炉以外に内部施設をもたない小形の建物跡で、時期は、出土遺物から古墳時代中期後半と考えられる。



第149図 第52号住居跡出土遺物実測図

第52号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第149図 1	甕 土師器	A 15.5 B (15.6)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・砂粒にふい赤褐色普通	P399 15% 覆土下層
2	甗 土師器	A 27.6 B 27.9 C 6.8	体部の一部欠損。無底式。体部は内彎気味に立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面下位及び体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 黒褐色 普通	P400 P L61 85% 覆土下層

第53号住居跡 (第150図)

位置 1区南西部, C10c₁区。

規模と平面形 長軸2.04m, 短軸2.00mの方形である。

主軸方向 N-17°-W。

壁 壁高は4~8cmで, 外傾して立ち上がっている。

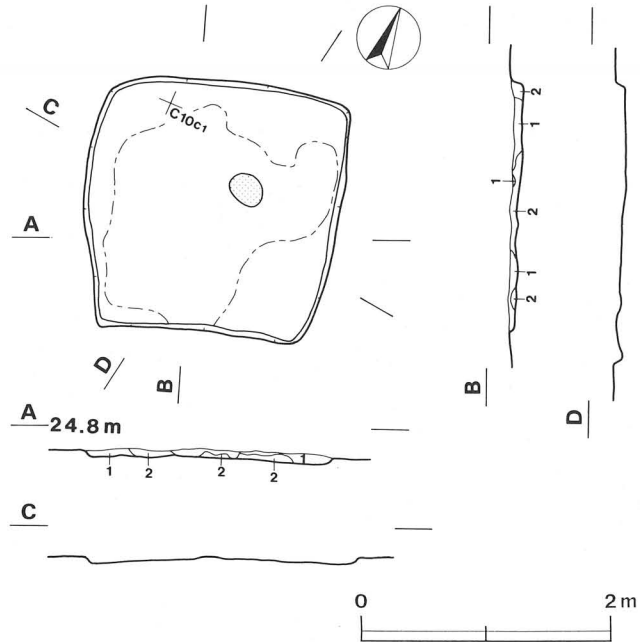
床 凸凹で, 壁際を除き硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには僅かに高まり, 出入口部と考えられる。

炉 中央から北東寄りにあり, 長径28cm, 短径22cmの楕円形で, 炉床はほとんど掘り窪められておらず, 床面が赤変している程度である。

覆土 2層からなり, 人為堆積である。第1層はローム粒子を少量含む暗褐色土, 第2層はローム粒子を多量とローム中ブロックを中量含む褐色土である。

遺物 覆土下層から, 土師器の坏・甕片が25点出土している。

所見 本跡は, 当遺跡から確認された住居跡及び建物跡の中では最小規模のもので, 時期は, 出土遺物及び遺構の形態から古墳時代中期と考えられる。



第150図 第53号住居跡実測図

第54号住居跡 (第152図)

位置 1区南西部, C9d₉区。

規模と平面形 長軸5.36m, 短軸5.30mの方形である。

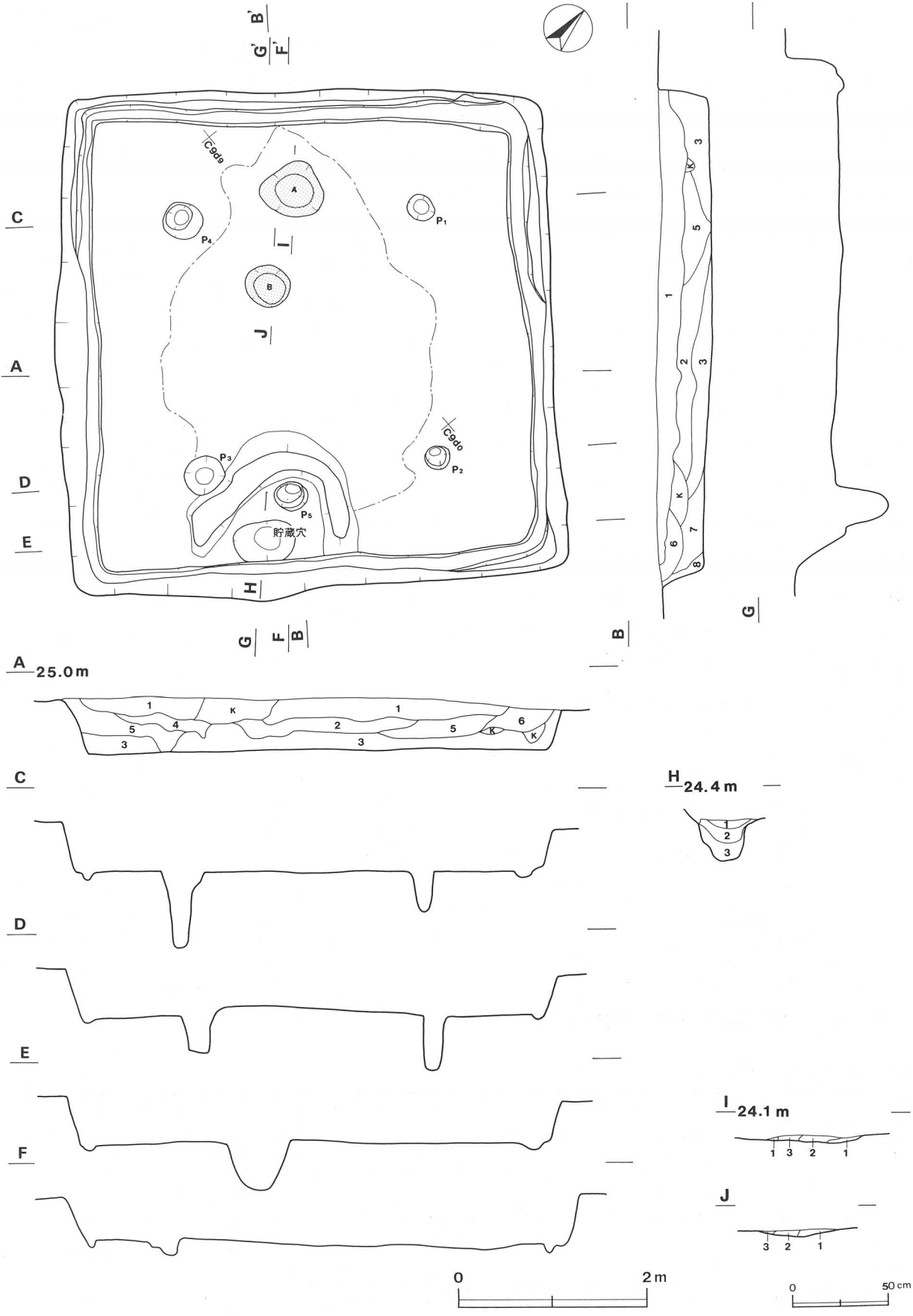
主軸方向 N-50°-W。

壁 壁高は42~56cmで, 北西壁はほぼ垂直に, その他の壁は外傾して立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅14~28cm, 下幅8~18cm, 深さ6~10cmで, 断面形はU字状をしている。

床 ほぼ平坦で, 出入口から支柱穴の内側にかけて硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには, 貯蔵穴及びP₅を囲むように, 幅32~52cm, 高さ6cm程の馬の背状の高まりが馬蹄形状にみられる。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は, 径28~43cm, 深さ43~82cmで支柱穴, P₅は, 径38cm, 深さ20cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。



第151图 第54号住居跡実測图

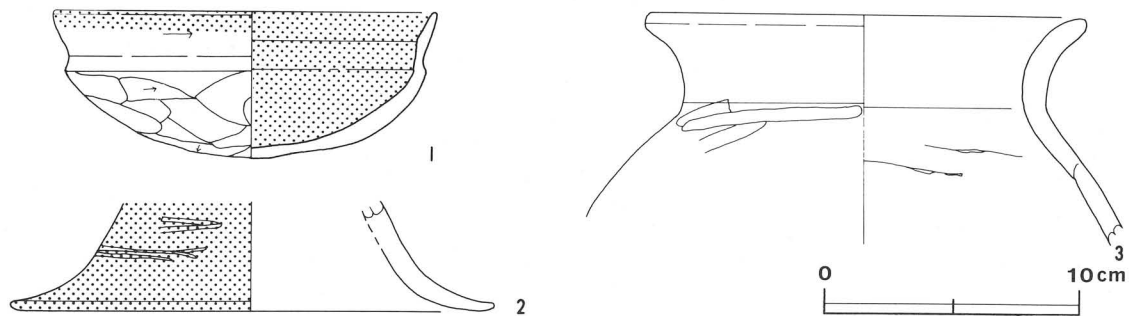
炉 2か所(炉A～B)。炉Aは中央から北西寄りにあり、長径70cm、短径63cmの楕円形で、床面を3cm程掘り込んでいる。覆土は3層からなり、すべて明赤褐色土である。第1層は焼土粒子を少量と焼土小ブロックを微量、第2層は焼土粒子を中量と焼土小ブロックを少量、第3層は第2層に焼土小ブロックを少量含んでいる。炉床は火熱を受け、赤変硬化している。炉Bは炉Aの南東約50cmの位置にあり、径50cmのほぼ円形で、床面を4cm程掘り込んでいる。覆土は3層からなり、第1層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含む明赤褐色土、第2層は焼土小ブロック及び焼土大ブロックを少量含む明赤褐色土、第3層は焼土粒子を少量含むにぶい赤褐色土である。炉床は火熱を受け、赤変硬化している。

貯蔵穴 南東壁から中央寄りに付設されている。長径68cm、短径42cm、深さは55cmである。底面は皿状で、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は3層からなり、第1層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土、第2層はローム粒子を中量とローム中ブロックを少量含む褐色土、第3層はローム粒子を多量とローム小ブロックを中量含む明褐色土である。

覆土 8層からなり、人為堆積である。第1層はローム粒子を少量含む極暗褐色土、第2層はローム粒子を多量に含む褐色土、第3層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第4層はローム粒子を中量含む暗褐色土、第5層はローム粒子を多量とローム小・中ブロックを微量含む褐色土、第6層はローム粒子を多量と焼土粒子及び炭化粒子を少量含む褐色土、第7層はローム粒子を多量とローム小ブロックを中量含む暗褐色土、第8層はローム粒子を少量含む暗褐色土である。

遺物 壁際を中心に、土師器の坏・甕片等が少量出土している。第152図1の土師器坏は貯蔵穴底面から正位の状態で、2の土師器高坏は同じく貯蔵穴の覆土から出土している。3の土師器甕は東コーナー寄りの北東壁際から流れ込んだ状態で出土している。

所見 本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。



第152図 第54号住居跡出土遺物実測図

第54号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第152図 1	坏 土師器	A 15.1 B 5.9	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 401 P L 61 90% 貯蔵穴底面
2	高坏 土師器	D (4.3) E [19.1]	脚部の破片。裾部はラップ状に開く。	脚部外面ナデ後、磨き。内面ナデ。外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P 402 10% 貯蔵穴覆土
3	甕 土師器	A 17.0 B (9.3)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P 403 P L 59 15% 覆土

第55号住居跡 (第153図)

位置 1区南西部, C9f₀区。

規模と平面形 長軸3.50m, 短軸

2.76mの長方形である。

主軸方向 N-35°-E。

壁 壁高は8~14cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, あまり硬く踏み固められていない。

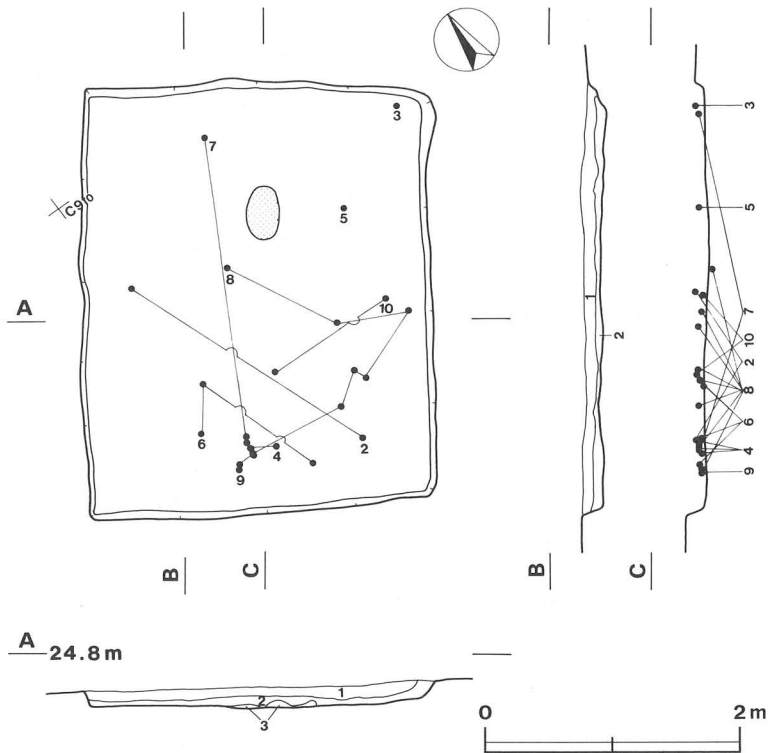
炉 中央から北東寄りにあり, 長径44cm, 短径26cmの楕円形で, 炉床は掘り窪められておらず, 床面が赤変している程度である。

覆土 3層からなり, 自然堆積である。第1層は焼土粒子を微量と炭化粒子を少量含む暗褐色土, 第2層は焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第3層は焼土粒子を少量と炭化粒子を微量含む褐色

土である。第1・2層には破碎された土師器片が多量に含まれている。

遺物 土師器の甕片を中心に, 覆土中から多量に出土している。第154図1の土師器坏は東コーナー付近の覆土中から, 2の土師器鉢は北西及び南コーナー寄りの覆土下層から出土した破片が接合したものである。3~10は土師器甕で, 3は東コーナー部覆土第2層から逆位の状態で, 5は北東寄りの覆土第3層から正位の状態出土している。

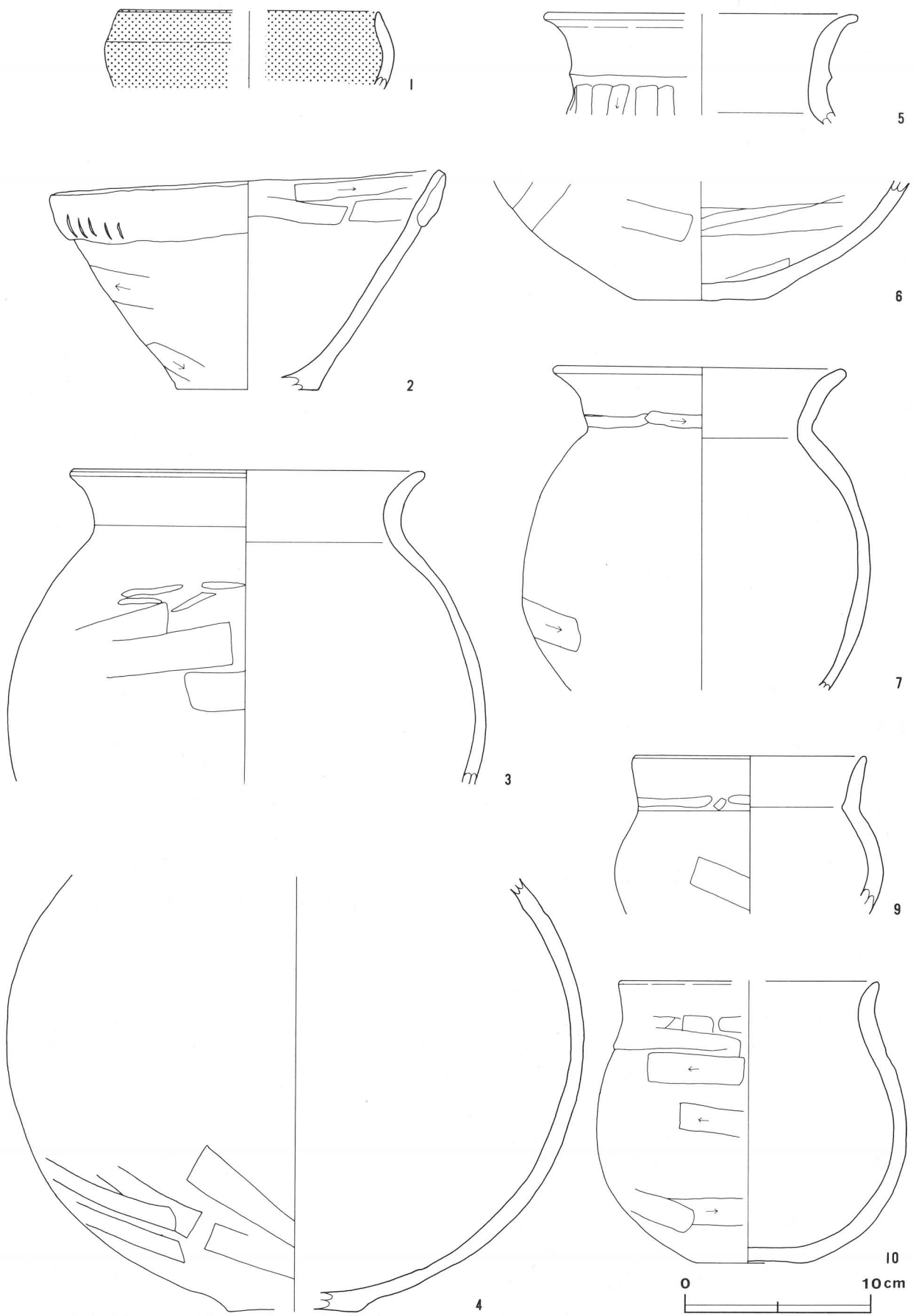
所見 出土した遺物の大半は細片で, 床面より僅かに浮いた位置から出土していることから, 本跡廃絶後, 間もなく破碎して投棄したものと思われる。本跡は, 出土遺物及び遺構の形態から古墳時代中期後半の建物跡と考えられる。



第153図 第55号住居跡実測図

第55号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第154・155図 1	坏 土師器	A [15.1] B (4.3)	体部から口縁部の破片。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 暗赤褐色 普通	P 404 20% 覆土
2	鉢 土師器	A 20.6 B 12.1 C 7.6	底部及び口縁部の一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部は折り返される。	口縁部内・外面ヘラナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P 405 P L 61 75% 覆土下層
3	甕 土師器	A 18.8 B (17.1)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり, 頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P 406 P L 62 65% 覆土上層
4	甕 土師器	B (23.7) C [7.0]	底部から体部の破片。平底。体部は球形状で, 最大径を中位にもつ。	体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒 黒褐色 普通	P 407 P L 61 50% 覆土下層



第154图 第55号住居跡出土遺物実測図(1)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	甕 土師器	A 16.6 B (6.0)	頸部から口縁部の破片。頸部と口縁部の境に突出する稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P408 10% 覆土下層
6	甕 土師器	B (6.5) C 7.1	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎気味に立ち上がる。	底部外面へラ削り後、ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ。	長石・砂粒 黒褐色 普通	P409 10% 覆土下層
7	甕 土師器	A 15.2 B (17.7)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面下位及び体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P410 P L62 70% 覆土下層
8	甕 土師器	A [16.6] B (20.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P411 P L61 45% 覆土下層
9	甕 土師器	A 12.2 B (8.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面下位及び体部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P412 P L61 30% 覆土下層
10	甕 土師器	A [13.9] B 15.0	体部及び口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい黄褐色 普通	P413 P L63 50% 覆土下層

第56号住居跡 (第156図)

位置 1区南西部, C9g₅区。

規模と平面形 長軸5.62m, 短軸5.32mの方形である。

主軸方向 N-38°-W。

壁 壁高は46~56cmで, 外傾して立ち上がっている。

壁溝 北コーナーから北東壁下を除き壁下を周回している。上幅7~14cm, 下幅5~10cm, 深さ3~6cmで, 断面形は逆台形状をしている。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除き硬く踏み固められている。

東コーナー部には厚さ5cm程の粘土塊がみられる。

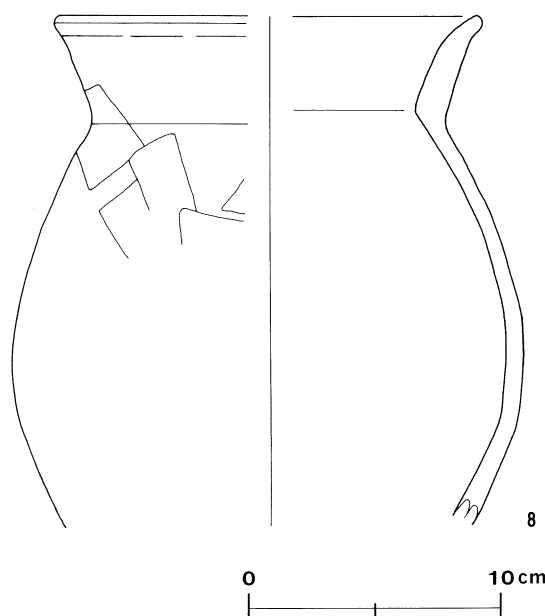
ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁~P₄は, 径22~46cm, 深さ35~51cmで支柱穴, P₅は, 径32cm, 深さ15cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央から北西寄りにあり, 長径51cm, 短径44cmの楕円形で, 床面を4cm程掘り窪めている。覆土は3層からなり, すべて暗赤褐色土である。第1層は焼土粒子

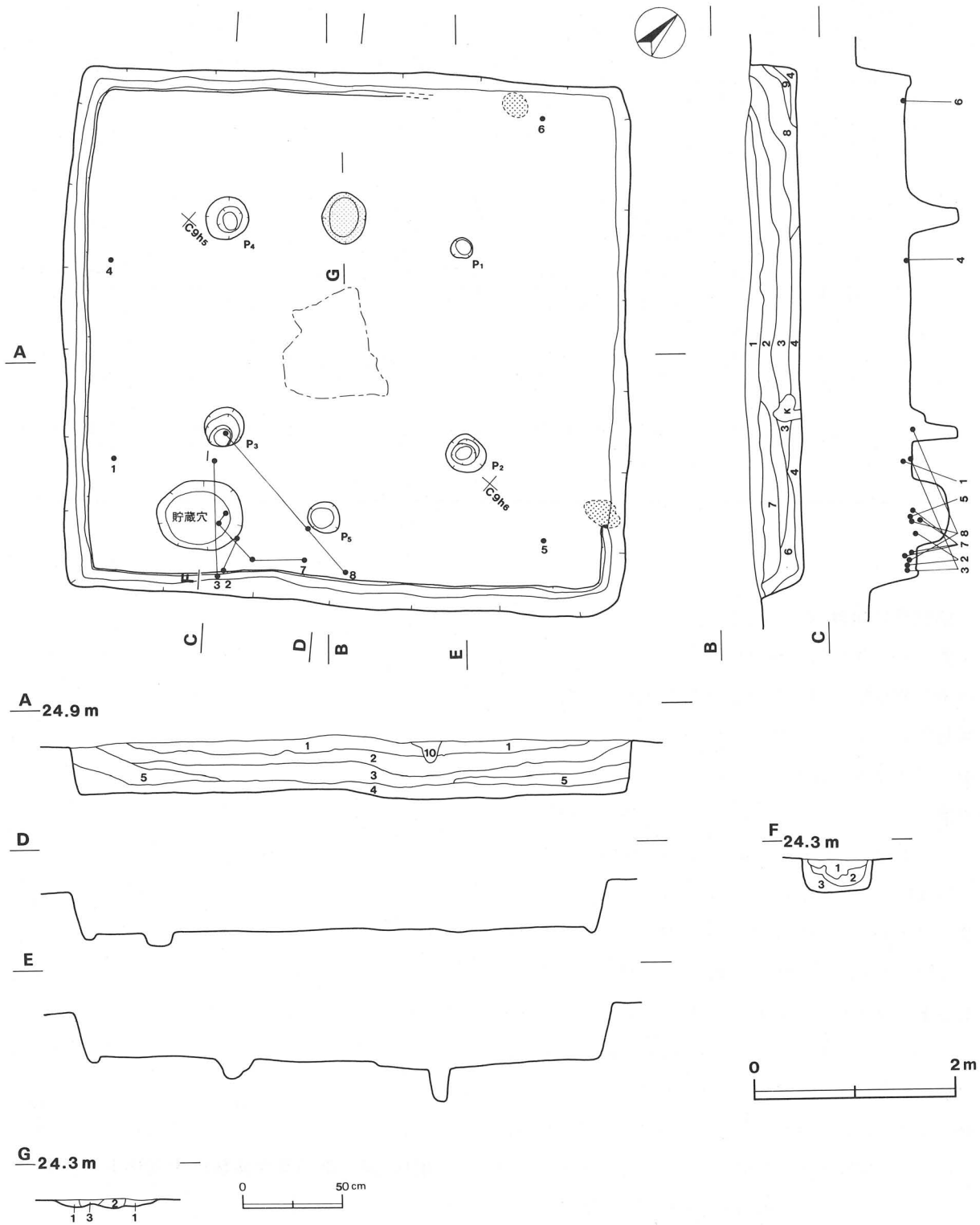
を中量と焼土小ブロックを少量, 第2層は焼土粒子及び焼土小ブロックを中量, 第3層は焼土粒子を中量と炭化粒子を微量含んでいる。炉床は凸凹で, 火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 南コーナーからやや北東寄りに付設されている。長径84cm, 短径68cmの楕円形で, 深さは34cmである。底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がっている。覆土は3層からなり, 第1層はローム粒子を少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土, 第2層はローム粒子を多量に含む褐色土, 第3層はローム粒子を極めて多量とローム小ブロックを少量含む褐色土である。

覆土 10層からなり, 自然堆積である。第1層はローム粒子を少量含む黒褐色土, 第2層はローム粒子を微量



第155図 第55号住居跡出土遺物実測図(2)



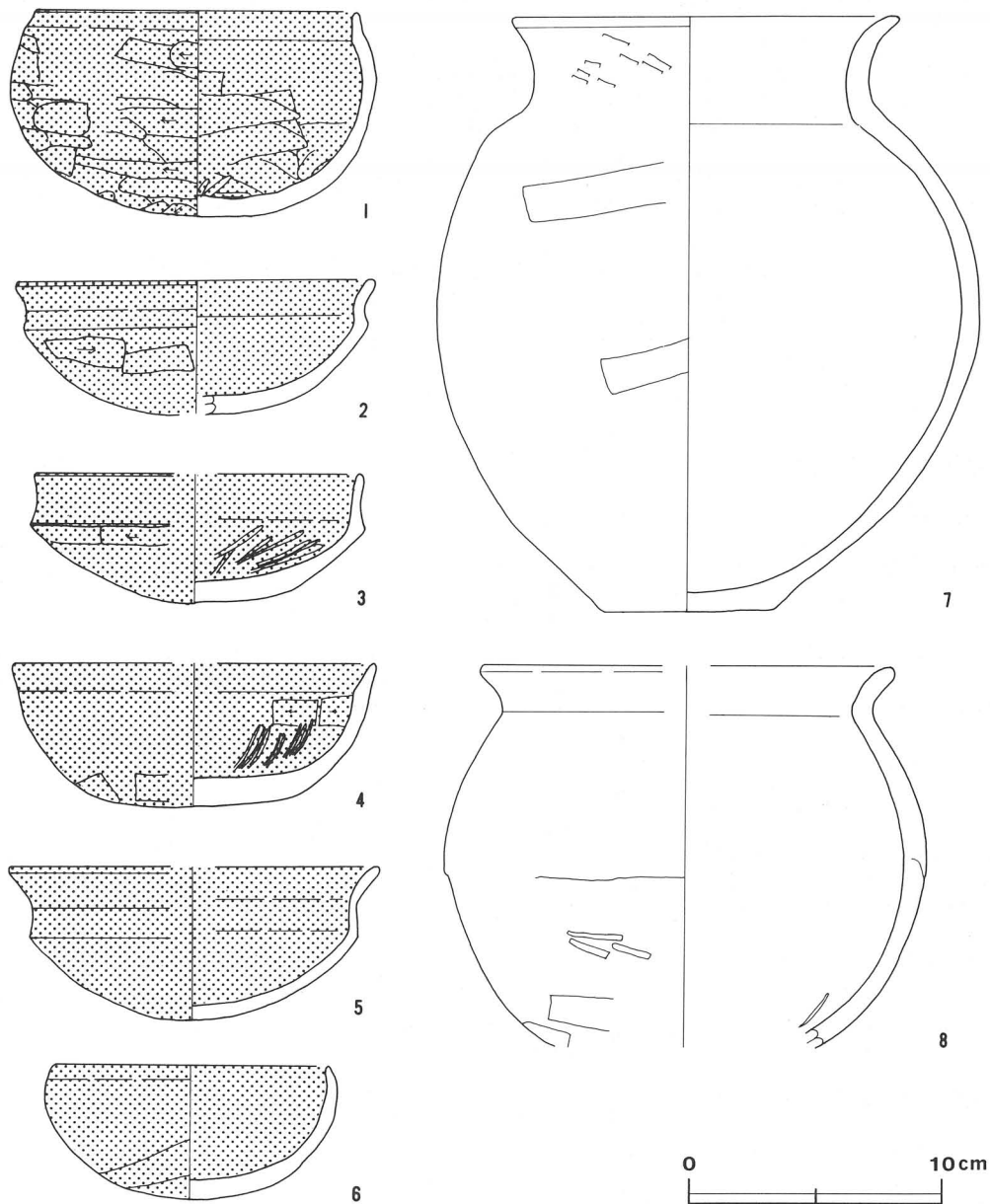
第156図 第56号住居跡実測図

含む極暗褐色土，第3層はローム粒子を中量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む暗褐色土，第4層はローム粒子を極めて多量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土，第5層はローム粒子及び炭化粒子を少量と焼土粒子を微量含む暗褐色土，第6層はローム粒子を多量と焼土粒子を少量含む褐色土，第7層はローム粒子を少量含む暗褐色土，第8層はローム粒子及びローム小ブロックを中量と焼土粒子を少量含む暗褐色土，第9層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む褐色土，第10層はローム粒子を中量と炭化粒子を微

量含む暗褐色土である。

遺物 主に、覆土第3～5・8層から、土師器の坏・甕片等が出土している。第157図1～6は土師器坏で、1は南コーナー寄りの南西壁際（第8層）から斜位の状態で、2と3は貯蔵穴付近（第4層）から、4は南西壁中央付近の壁際（第4層）から逆位の状態で、5は東コーナー部床面から潰れた状態で、6は北コーナー付近の床面から正位の状態で出土している。7と8は土師器甕で、7は南コーナー付近の床面から、8は南東壁中央の壁際床面から出土している。

所見 北・東コーナー付近の壁際から焼土が確認されているが、東コーナー部から同レベルに確認された白色粘土が焼けていないことから、流れ込んだ焼土と思われる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。



第157図 第56号住居跡出土遺物実測図

第56号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第157図 1	坏 土師器	A 12.8 B 8.4	体部の一部欠損。丸底で、体部は内内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。底部内面磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P 414 P L 61 95% 覆土下層
2	坏 土師器	A 13.9 B 5.6	底部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・雲母・砂粒 赤色 普通	P 415 P L 62 85% 覆土下層
3	坏 土師器	A [13.2] B 5.2	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 暗赤褐色 良好	P 416 P L 62 75% 覆土下層
4	坏 土師器	A [14.6] B 5.8	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部から口縁部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 417 P L 62 60% 覆土下層
5	坏 土師器	A [14.8] B 6.2	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面摩耗。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P 418 P L 62 60% 床面
6	坏 土師器	A [11.0] B 5.5	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P 419 P L 62 70% 床面
7	甕 土師器	A 15.4 B 24.4 C 6.6	体部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面へらナデ。体部外面へら削り。	砂粒 にぶい橙色 普通	P 420 P L 63 85% 床面
8	甕 土師器	A [16.5] B (15.5)	体部から口縁部の破片。体部は球形で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P 421 P L 62 40% 床面

第57号住居跡 (第158図)

位置 1区南西部, D10d₂区。

規模と平面形 長軸3.42m, 短軸3.10m
mの方形である。

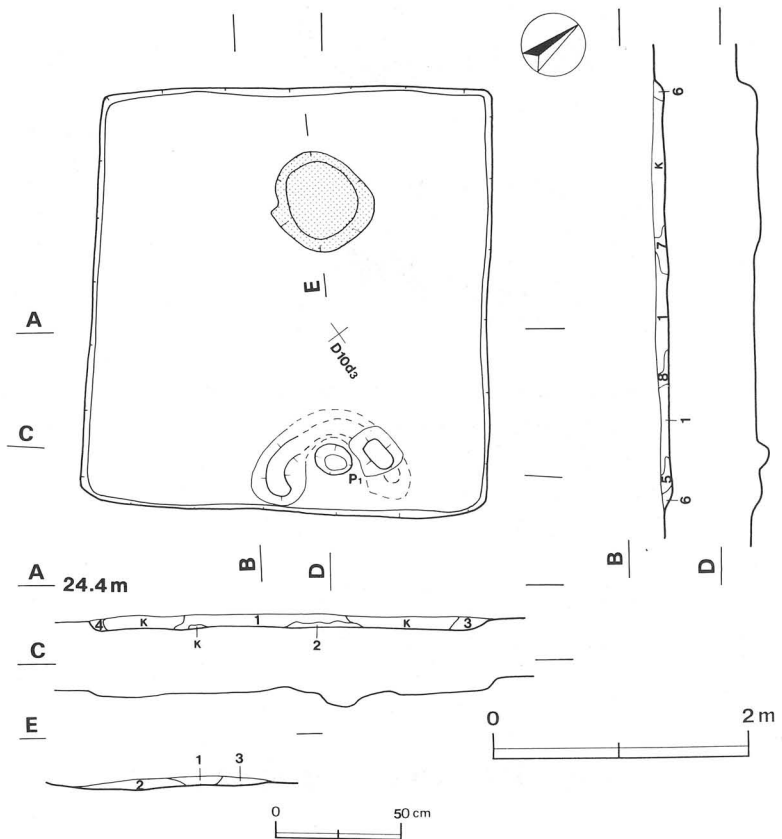
主軸方向 N-53°-W。

壁 壁高は6~12cmで、外傾して立ち上がっている。

床 凸凹で、全体的に硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには、幅30~46cm, 高さ5cm程の馬の背状の高まりがみられ、出入り口施設と考えられる。

ピット 1か所 (P₁)。径30cm, 深さ11cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央から北西寄りにあり、径約80cmのほぼ円形で、床面を6cm程掘り窪めている。覆土は3層からなり、第1層は焼土小ブロックを



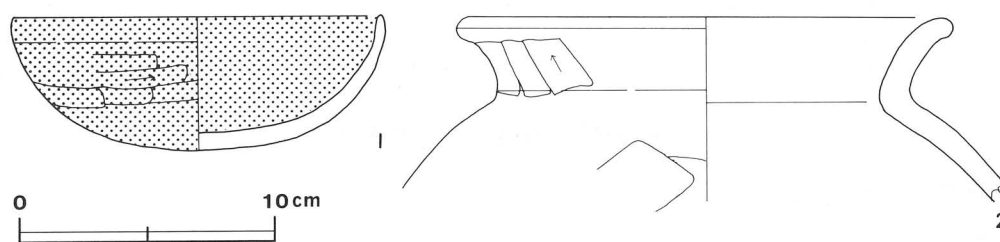
第158図 第57号住居跡実測図

少量と炭化粒子を微量含むにぶい赤褐色土，第2層は焼土小ブロック及び炭化粒子を少量と焼土中ブロックを微量含む明赤褐色土，第3層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含む赤褐色土である。炉床は火熱を受け，赤変硬化している。

覆土 北東・南西・北西壁際は，攪乱されているが，8層からなり人為堆積と思われる。第1層はローム粒子及びローム小・中ブロックを少量含む褐色土，第2層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む暗褐色土，第3層はローム粒子及びローム大ブロックを少量含む褐色土，第4層はローム粒子を中量と炭化粒子を少量含む明褐色土，第5層はローム粒子を多量に含む明褐色土，第6層はローム粒子を多量に含む橙色土，第7層は焼土粒子を少量含む褐色土，第8層はローム粒子及び焼土粒子を中量含む褐色土である。

遺物 土師器の甕片を主体に，少量出土している。第159図1の土師器坏は北コーナー覆土下層から斜位の状態で，2の土師器甕は南東寄りの床面から正位の状態で出土している。

所見 本跡の出入り口部の高まりは，当遺跡から確認された建物跡及び住居跡の例から，本来はP₁を囲んでいたものと考えられる。本跡は，炉及び出入り口施設の高まりをもつ小形の建物跡で，第32号住居跡と同じ様相を示している。時期は，出土遺物から古墳時代中期後半である。



第159図 第57号住居跡出土遺物実測図

第57号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第159図 1	坏 土師器	A 14.6 B 5.4	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で，体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 422 P L 62 80% 覆土下層
2	甕 土師器	A 18.6 B (7.5)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P 423 P L 63 20% 床面

第58号住居跡（第160図）

位置 1区南西部，C10e₇区。

重複関係 本跡の南コーナーから南西壁は，第44号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸2.30m，短軸2.10mの長方形である。

主軸方向 (N-26°-E)。

壁 壁高は7~20cmで，外傾して立ち上がっている。

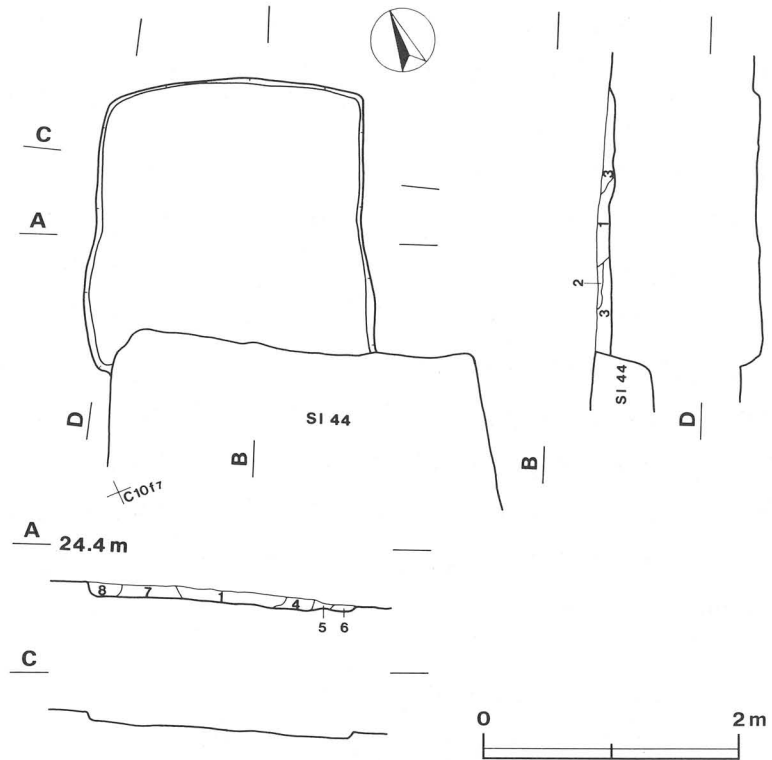
床 凸凹で，あまり踏み固められていない。

覆土 8層からなり，人為堆積である。第1層はローム小ブロックと焼土粒子及び炭化粒子を少量含む明赤褐色土，第2層はローム粒子を中量含む明赤褐色土，第3層はローム粒子を多量とローム中ブロックを少量含む明赤褐色土，第4層はローム粒子を中量と焼土小ブロックを微量含む明赤褐色土，第5層はローム粒子を多量に含む橙色土，第6層はローム粒子を中量含む明褐色土，第7層は炭化物を微量含むにぶい褐色土，第

8層はローム粒子を中量含む明褐色土である。

遺物 覆土下層から、土師器片が10点出土している。

所見 出土した遺物は破片で、時期を決定することは難しいが、本跡は、古墳時代中期頃の建物跡と考えられる。



第160図 第58号住居跡実測図

第59号住居跡 (第161図)

位置 3区北東部, E7g₇区。

規模と平面形 長軸3.74m, 短軸2.92mの長方形である。

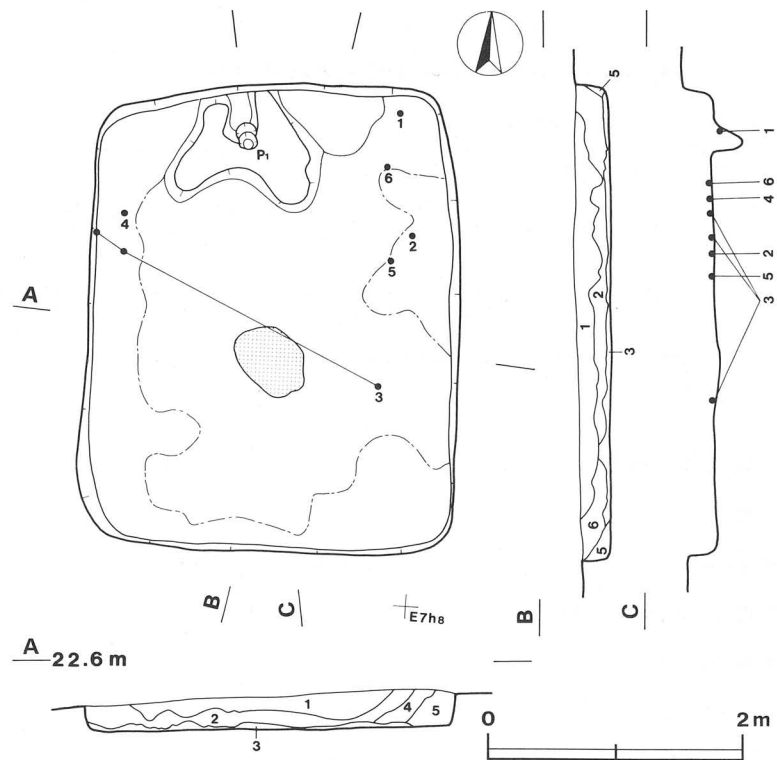
主軸方向 N-179°-E。

壁 壁高は20~36cmで、垂直に立ち上がっている。

床 凸凹で、壁際を除き硬く踏み固められている。北壁から中央寄りには、高さ4cm程の不整形の高まりがみられ出入口施設と考えられる。

ピット 1か所(P₁)。径16cm, 深さ24cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央から南寄りにあり、長径64cm, 短径48cmの楕円形で、床面を3cm程掘り窪めている。覆土は1層で、焼土粒子及び炭化粒子を少量含む暗赤褐色土である。炉床は凸凹で僅かに赤変している。



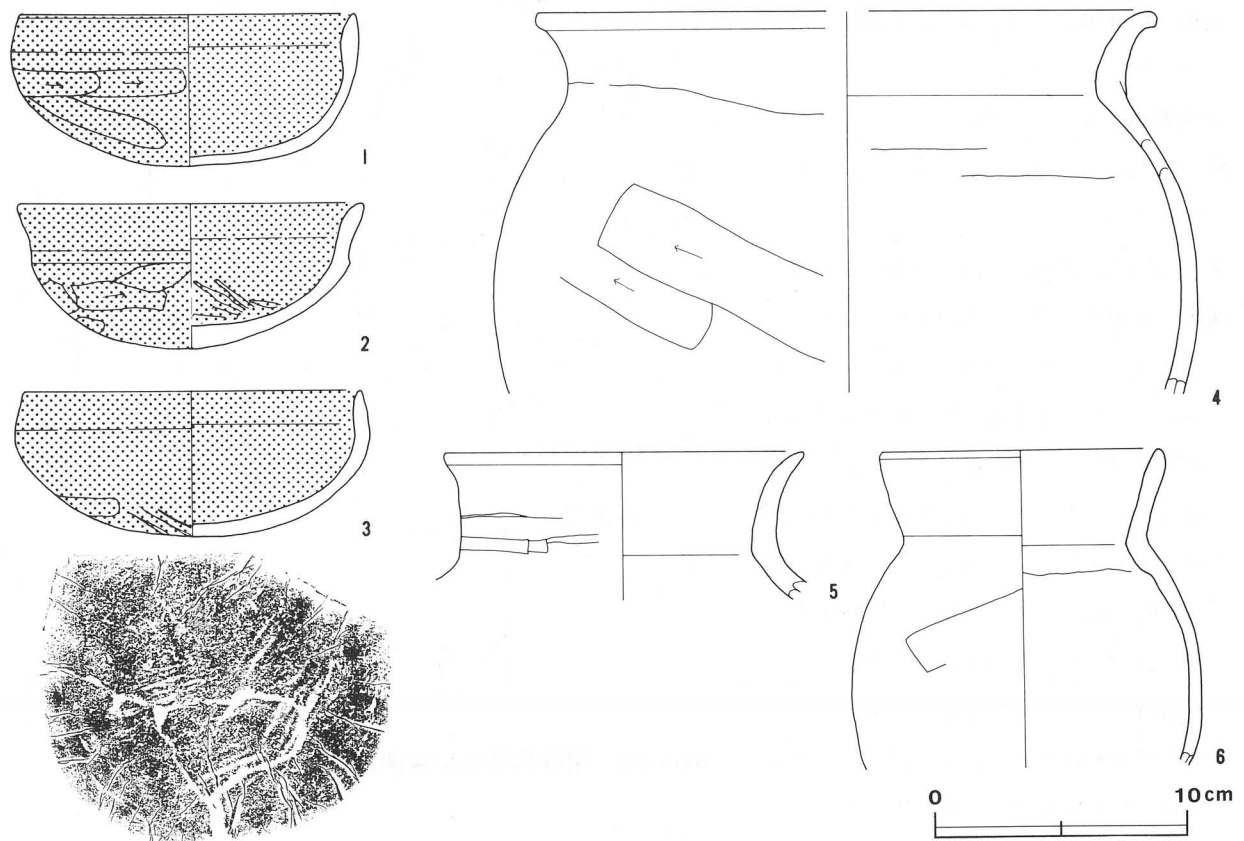
第161図 第59号住居跡実測図

覆土 6層からなり、人為堆積である。第1層はローム大ブロックを多量に含む褐色土, 第2層はローム粒子

及びローム中ブロックを中量含む暗褐色土、第3層はローム中ブロック及び焼土粒子を中量含む暗褐色土、第4層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む極暗褐色土、第5層はローム中ブロックを多量に含む黄褐色土、第6層はローム粒子及びローム中ブロックを中量と焼土粒子を微量含む極暗褐色土である。

遺物 壁際を中心に、土師器の坏・甕片等が少量出土している。第162図1～3は土師器坏で、1は北東コーナー部床面から逆位の状態で、2は東寄りの床面から正位の状態で出土している。3は南東寄りの床面から出土したものと北西コーナー寄りの西壁際床面から出土したものが接合したものである。4～6は土師器甕で、4は北西コーナー寄りの床面から、5と6は北東コーナー付近の床面から出土している。

所見 本跡は、当遺跡から確認された住居跡及び建物跡とは、著しく主軸方向が異なる建物跡である。時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。



第162図 第59号住居跡出土遺物実測図

第59号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第162図 1	坏 土師器	A 13.4 B 6.1	体部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 424 P L 62 95% 床面
2	坏 土師器	A 13.6 B 5.8	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P 425 P L 62 85% 床面
3	坏 土師器	A 13.4 B 5.8	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 426 P L 62 80% 床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	甕 土師器	A [24.7] B (15.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒にぶい橙色普通	P 427 20% 床面
5	甕 土師器	A 14.2 B (5.8)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。頸部外面下位へラ削り。	砂粒橙色普通	P 428 10% 床面
6	甕 土師器	A 11.0 B (12.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、頸部から口縁部は外傾する。	体部外面へラ削り。内・外面摩耗。	砂粒橙色普通	P 429 40% 床面

第60号住居跡 (第163図)

位置 3区北東部, E7j₀区。

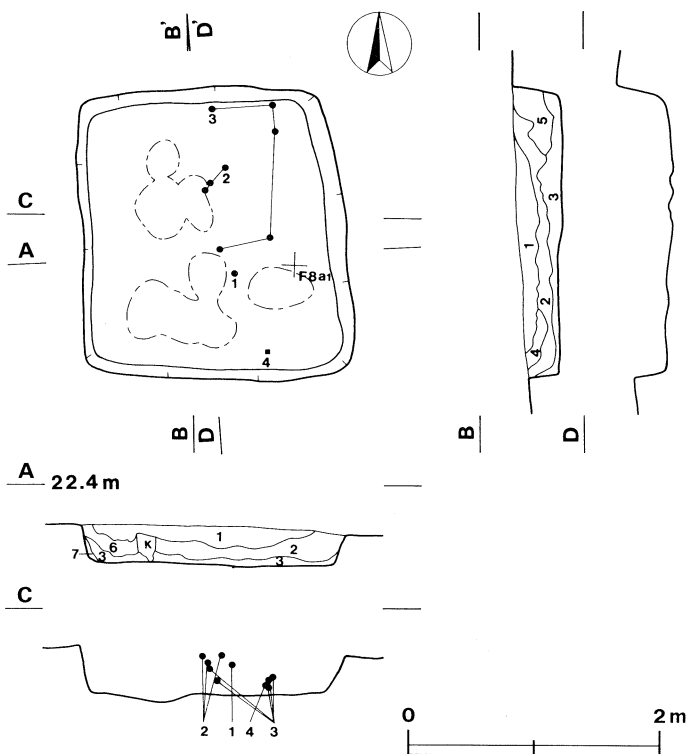
規模と平面形 長軸3.34m, 短軸2.10mの長方形である。

主軸方向 (N - 4° - W)。

壁 壁高は25~40cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 凸凹で, 部分的に硬化面がみられる。

覆土 7層からなり, 人為堆積である。第1層はローム大ブロックを多量, 第2層はローム粒子を中量と焼土粒子を少量含む極暗褐色土, 第3層はローム粒子を少量とローム中ブロックを多量に含む暗褐色土, 第4層はローム小ブロックを中量含む暗褐色土, 第5層はローム粒子及びローム中ブロックを中量含む褐色土, 第6層はローム粒子及びローム小ブロックを中量含む暗褐色土, 第7層はローム中ブロックを多量に含む褐色土である。



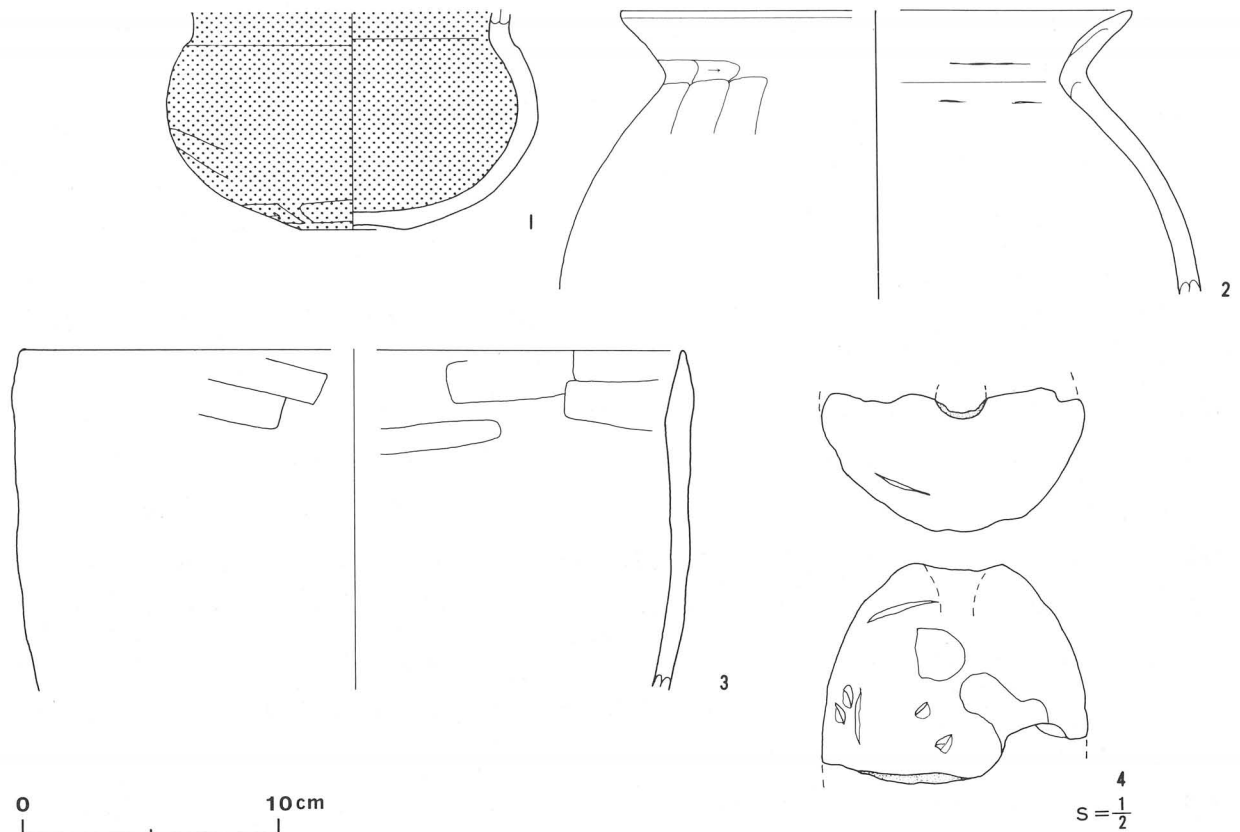
第163図 第60号住居跡実測図

遺物 北壁側から投棄された状態で, 土師器の坏・甕片等が少量出土している。第164図1の土師器壺と4の管状土錘は南寄りの覆土上層及び下層から, 2の土師器甕及び3の土師器鉢は北寄りの覆土上層及び下層から出土している。

所見 本跡は, 内部施設を何ももたない, 居住以外の目的をもつ小形の建物跡と考えられる。時期は, 出土遺物及び遺構の形態から古墳時代中期後半である。

第60号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第164図 1	壺 土師器	B (8.8) C 3.2	底部から体部の破片。平底で, 体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラ削り後, ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒赤褐色普通	P 430 P L64 50% 覆土上層
2	甕 土師器	A [20.2] B (11.5)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外傾する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。頸部外面下位から体部外面上位へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒橙色普通	P 431 15% 覆土上層



第164図 第60号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	鉢土師器	A [26.0] B (13.6)	体部から口縁部の破片。体部は僅かに内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面ヘラ削り。体部内・外面ナデ。	スコリア・砂粒にふい褐色普通	P 432 20% 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	管状土錘	(5.8)	(3.9)	—	115.9	覆土下層	孔径 [17.0]mm DP28 20% PL69

第61号住居跡 (第165図)

位置 3区北東部, F7a₉区。

重複関係 本跡の南西コーナー寄りの南壁は、第230号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.64m, 短軸2.86mの長方形である。

主軸方向 N-20°-W。

壁 壁高は14~30cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 北東・南西コーナー付近の壁下を除き周回している。上幅7~14cm, 下幅4~10cm, 深さ4~8cmで、断面形はU字状をしている。

床 ほぼ平坦で、出入り口から中央部にかけて硬く踏み固められている。ピットの周辺は僅かに盛り上がっている。

ピット 1か所 (P₁)。径28cm, 深さ18cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 2か所 (炉A・B)。炉Aは中央から南西寄りにあり、長径60cm, 短径36cmの楕円形で、炉床は掘り窪め

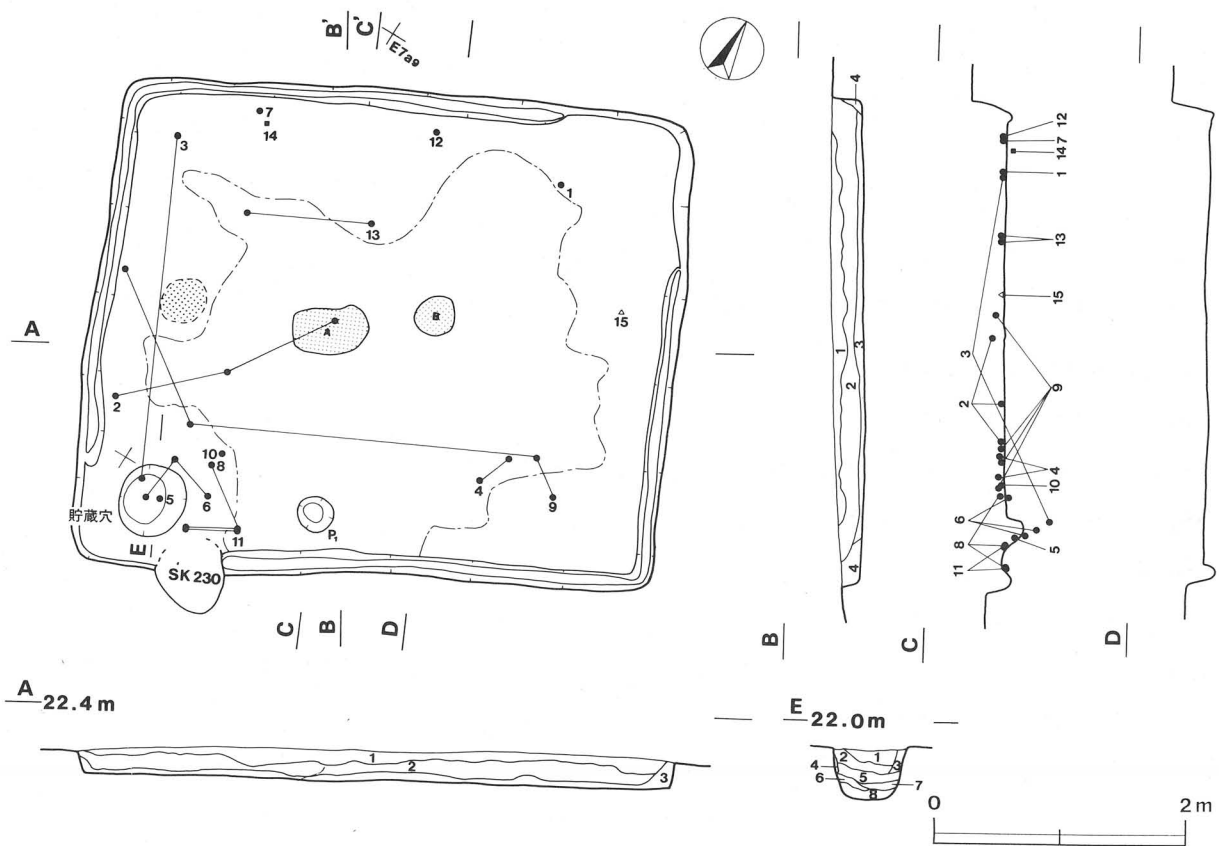
られておらず、床面が火熱を受け赤変硬化している。炉Bは炉Aの北東36cmに位置し、径35cmの円形で、炉床は炉Aと同様である。

貯蔵穴 南西コーナーに付設されている。長径60cm、短径52cmの楕円形で、深さは44cmである。底面は皿状で、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。覆土は8層からなり、第1層はローム粒子及びローム小ブロックを中量と焼土粒子を少量含む暗褐色土、第2層はローム中ブロックを中量含む褐色土、第3層はローム中ブロックを多量に含む褐色土、第4層はローム粒子を少量含む褐色土、第5層はローム中ブロックを中量と焼土粒子を微量含む褐色土、第6層はローム中ブロックを少量含む褐色土、第7層はローム粒子を少量含む暗褐色土、第8層はローム粒子を少量とローム中ブロックを中量含む黄褐色土である。

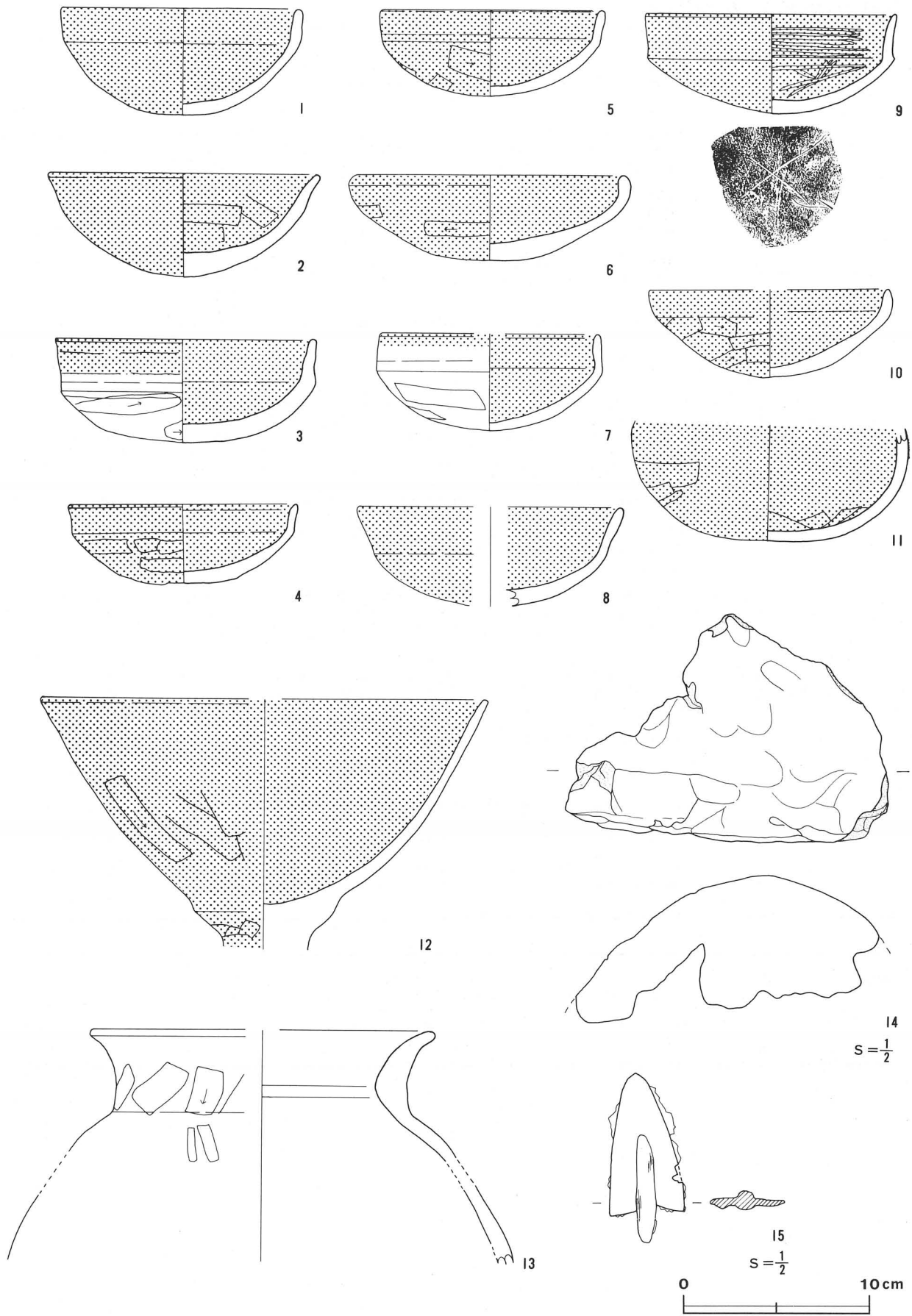
覆土 4層からなり、人為堆積である。第1層はローム粒子及びローム小ブロックを多量とローム中ブロックを中量含む極暗褐色土、第2層はローム粒子を多量とローム小ブロック及び焼土粒子を少量含む褐色土、第3層はローム大ブロックを多量に含むにぶい褐色土、第4層はローム中ブロックを多量に含む褐色土である。

遺物 土師器の坏片を主体に、南西壁側から投棄された状態で、多量に出土している。第166図1～4の土師器坏は、1が北コーナー付近の覆土下層から正位の状態で、2が南西側の覆土下層から出土している。3は西コーナー付近の床面から出土した破片と貯蔵穴の覆土から出土した破片が接合したものである。4は東コーナー付近の覆土下層から出土している。15の鉄鏃は北東壁中央付近の床面から出土している。中央から北西及び南東奇りの覆土下層からは炭化した種子が出土している。

所見 壁際から、焼土塊及び炭化材が確認されていることから、焼失住居と思われる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。



第165図 第61号住居跡実測図



第166图 第61号住居跡出土遺物実測図

第61号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第166図 1	坏土師器	A 12.7 B 5.9	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面剥離。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P433 PL63 95% 覆土下層
2	坏土師器	A 14.5 B 5.8	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面剥離。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P434 PL63 90% 覆土下層
3	坏土師器	A 14.1 B 5.8	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P435 PL63 90% 床面・貯蔵穴
4	坏土師器	A 12.2 B 4.4	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は僅かに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P436 PL62 90% 覆土下層
5	坏土師器	A 12.1 B 4.8	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は僅かに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P437 PL62 85% 貯蔵穴覆土
6	坏土師器	A 14.8 B 4.7	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は外傾して立ち上がり、口縁部は直立する。口唇部は丸い。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P438 PL62 70% 床面・貯蔵穴
7	坏土師器	A [11.8] B 5.3	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P439 PL62 60% 覆土下層
8	坏土師器	A [14.2] B (5.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P440 50% 床面
9	坏土師器	A 13.6 B 5.5	体部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部外面横ナデ。体部外面ナデ。口縁部及び体部内面に磨き。内・外面赤彩。底部外面にヘラ記号「×」。	長石・砂粒 赤褐色 良好	P441 PL63 60% 覆土下層
10	坏土師器	A [13.0] B 4.8	体部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面剥離。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P442 PL63 50% 床面
11	坏土師器	B (6.4)	口縁部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ヘラ削り後、ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 橙色 普通	P443 70% 覆土下層
12	高坏土師器	A [23.8] B (13.6)	脚部から口縁部の破片。脚部と坏部の境に段をもつ。体部から口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び脚部上位ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P444 PL64 45% 覆土下層
13	甕土師器	A [18.3] B (12.6)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面ヘラ削り。内・外面摩耗。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P445 PL64 20% 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
14	支脚	(8.3)	(11.5)	5.6	286.8	床面	D P29 30% PL69
15	鉄鍬	6.2	2.7	0.7	7.1	床面	M10 95% PL71

第62号住居跡 (第167図)

位置 3区北東部, F7c₄区。

規模と平面形 長軸5.20m, 短軸4.84mの方形である。

主軸方向 N-18°-W。

壁 壁高は34~48cmで, 外傾して立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅6~20cm, 下幅3~12cm, 深さ4~8cmで, 断面形は皿状をしている。

間仕切り溝 3条(a~c)。東壁側に2条(a・b), 西壁側に1条(c)確認され, 長さ0.64~1.00m, 上幅18~36cm, 下幅8~13cm, 深さ10~12cmで, 断面形は皿状をしている。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除き硬く踏み固められている。

ピット 6か所(P₁~P₆)。P₁~P₄は, 径28~38cm, 深さ56~60cmで支柱穴, P₅は, 径17cm, 深さ25cmで出入り口施設に伴うピット, P₆は, 径24cm, 深さ15cmで補助柱穴と考えられる。P₅の周囲には, 柱材の補強に使われたと思われる粘土が確認されている。

炉 中央から北寄りにあり, 長径45cm, 短径28cmの楕円形で, 炉床は僅かに掘り窪められ, ブロック状に赤変硬化している。

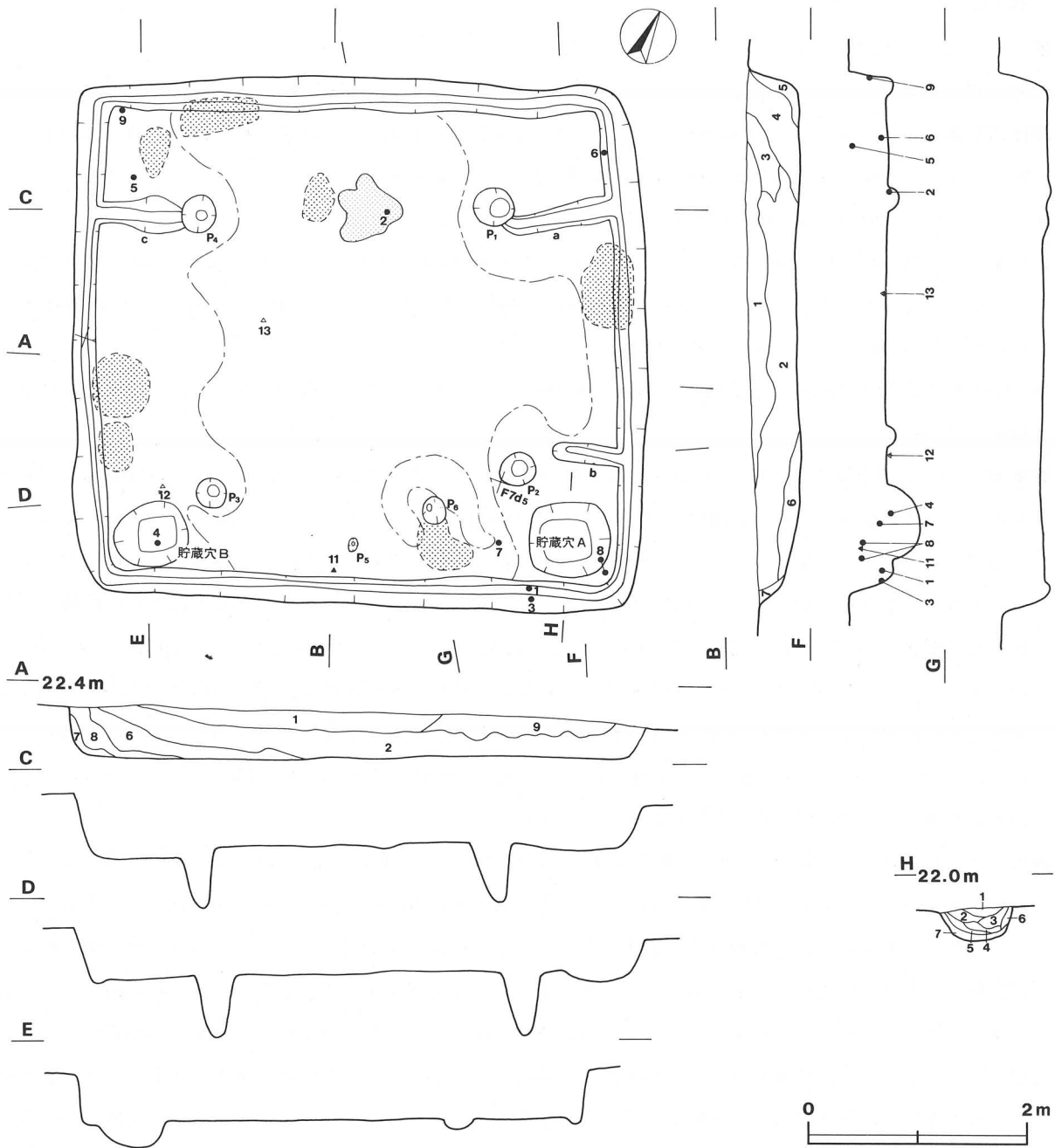
貯蔵穴 2か所(貯蔵穴A・B)。貯蔵穴Aは南東コーナーに付設されている。長軸74cm, 短軸68cmの隅丸長方形で, 深さは30cmである。底面はほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。覆土は7層からなり, 第1層はローム粒子を中量とローム小ブロック及び粘土粒子を少量含む褐色土, 第2層はローム粒子及びローム小ブロックを少量と焼土粒子を中量含む褐色土, 第3層はローム大ブロック及び焼土粒子と炭化粒子を少量含む明褐色土, 第4層はローム小ブロックを少量と焼土中ブロックを多量及び炭化物を中量含む赤褐色土, 第5層はローム中ブロックを少量と焼土粒子及び炭化物を中量含む明褐色土, 第6層はローム中ブロックを多量に含む黄褐色土, 第7層は焼土粒子を微量含む黄褐色土である。貯蔵穴Bは南西コーナーに付設されている。長径66cm, 短径56cmの楕円形で, 深さは26cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。覆土は貯蔵穴Aとほぼ同じような堆積状況を示している。

覆土 9層からなり, 人為堆積である。第1層はローム粒子を多量と焼土粒子を少量含む褐色土, 第2層はローム粒子を多量とローム小ブロック及び焼土粒子を中量含む褐色土, 第3層はローム小ブロックを少量とローム大ブロックを多量に含む黄褐色土, 第4層はローム小ブロックを中量とローム中ブロック及び焼土粒子, 炭化粒子を少量含む褐色土, 第5層はローム小・中ブロックを中量と焼土粒子を少量含む暗褐色土, 第6層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量, ローム中ブロック及び焼土粒子を中量含む明褐色土, 第7層はローム小ブロックを多量に含む褐色土, 第8層はローム小ブロックを中量と焼土小・中ブロックを少量含む暗赤褐色土, 第9層はローム粒子及び炭化粒子を多量とローム小ブロックを少量及び炭化物を中量含む褐色土である。

遺物 南壁側を中心に, 土師器の坏・甕等が少量出土している。第168図1~6は土師器坏で, 1は東コーナー付近の覆土下層から逆位の状態で, 2は北寄りの覆土下層から正位の状態で, 3は1の下の床面から逆位の状態で, 4は貯蔵穴の覆土上層から, 5は西コーナーの覆土上層から, 6は北コーナーの覆土下層から逆位の状態で出土している。7は土師器碗で, 東コーナーの覆土下層から正位の状態で出土している。8と9は土師器甕で, 8は東コーナーの覆土上層から, 9は西コーナーの覆土中層から出土している。12の鉄鏃は南コーナーの床面から出土している。

所見 2か所の貯蔵穴は覆土の状況から, 同時期に使用され同時期に埋もれたものと思われる。本跡は, 壁際

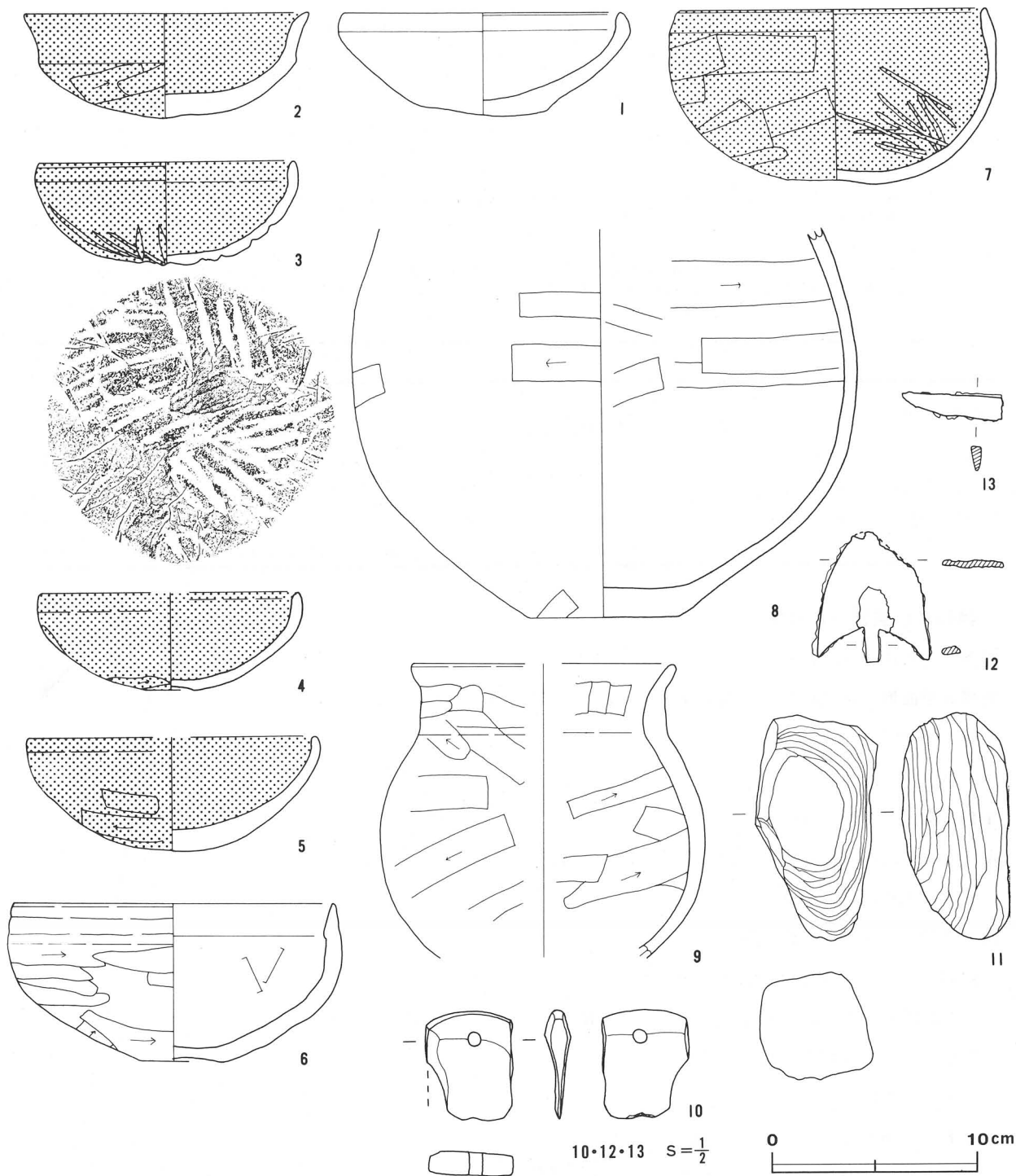
の覆土下層から床面にかけて焼土塊がみられることから焼失住居である。時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。



第167図 第62号住居跡実測図

第62号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第168図 1	坏 土師器	A 13.6	口縁部の一部欠損。平底で、体部は外傾して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒にぶい褐色普通	P 446 P L 63 95% 覆土下層
		B 6.2				
		C 6.4				
2	坏 土師器	A 13.8	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒赤褐色普通	P 447 P L 63 95% 覆土下層
		B 5.2				



第168図 第62号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	坏土師器	A 12.5 B 5.1	体部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	石英・砂粒にふい橙色普通	P 448 P L 63 90% 砥石に転用床面
4	坏土師器	A [12.4] B 4.8 C [2.2]	底部から口縁部の破片。平底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面剥離。内・外面赤彩。	長石・砂粒赤色普通	P 449 P L 62 45% 貯蔵穴覆土上層
5	坏土師器	A [14.0] B 5.5	底部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒赤褐色普通	P 450 40% 覆土上層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	坏土師器	A 15.7 B 7.6 C 4.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面へらナデ。	長石・砂粒にぶい黄橙色普通	P 451 P L 64 100% 覆土下層
7	埴土師器	A 15.8 B 8.7 C 3.9	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	石英・砂粒赤色普通	P 452 P L 64 100% 覆土下層
8	甕土師器	B (19.1) C 7.5	底部から体部の破片。平底。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。	体部外面へら削り。内面へらナデ。	長石・砂粒灰褐色普通	P 453 30% 覆土上層
9	甕土師器	A [12.9] B (14.5)	体部から口縁部の破片。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	内・外面へら削り。	長石・スコリア・砂粒にぶい橙色普通	P 454 30% 覆土中層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
10	砥石	(3.6)	(2.9)	0.8	7.9	覆土下層	孔径 4.5mm Q169 砂岩	P L 70
11	不明石製品	11.2	6.0	5.4	471.0	覆土上層	Q168 董青石	P L 70
12	鉄鏝	4.3	3.8	0.9	7.5	床面	M11 80%	P L 71
13	刀子	(3.3)	0.8	0.3	1.5	床面	M12 10% 鉄製	P L 71

第63号住居跡 (第169図)

位置 3区南東部, F7h₇区。

規模と平面形 長軸4.20m, 短軸4.20mの方形をしていたものと考えられる。

主軸方向 (N-38°-W)。

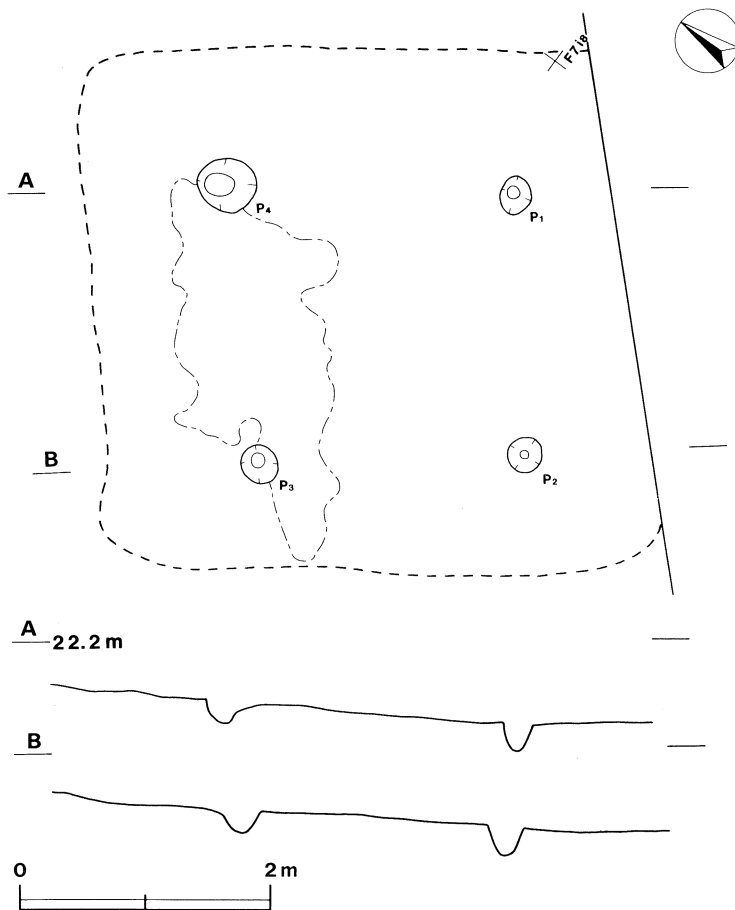
壁 削平されて残存していない。南東壁は調査区外にのびている。

床 北側から南側に向けて緩やかに傾斜している。P₁とP₃の間に硬化面が僅かにみられる程度で、その他については削平されているためとらえられない。

ピット 4か所(P₁~P₄)。P₁~P₄は、径26~50cm, 深さ17~24cmで支柱穴と考えられる。

遺物 土師器の坏・甕片が40点, 縄文土器が1点出土しているだけである。

所見 本跡の大半は削平されているため, 規模や形状等, 推定の部分が多い。時期については, 出土遺物から古墳時代中期と考えられる。



第169図 第63号住居跡実測図

第64号住居跡 (第171図)

位置 3区北西部, F7d₂区。

規模と平面形 長軸2.94m, 短軸2.88m の方形である。

主軸方向 (N-40°-W)。

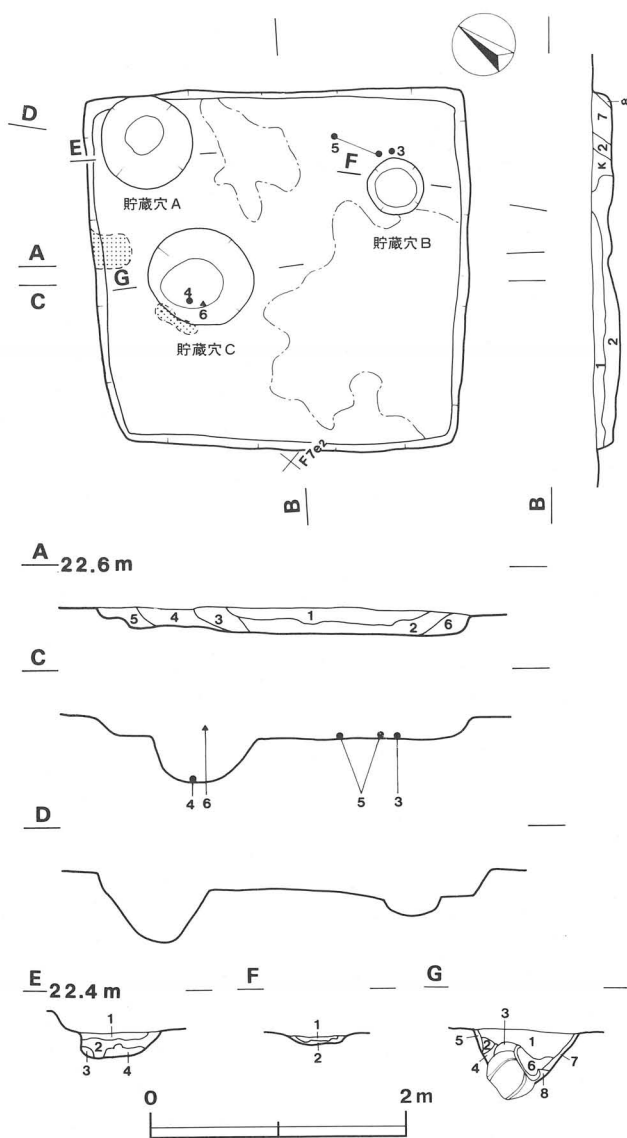
壁 壁高は14~20cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 特に南東部は硬く踏み固められている。貯蔵穴Bの周辺には粘土塊が僅かにみられる。

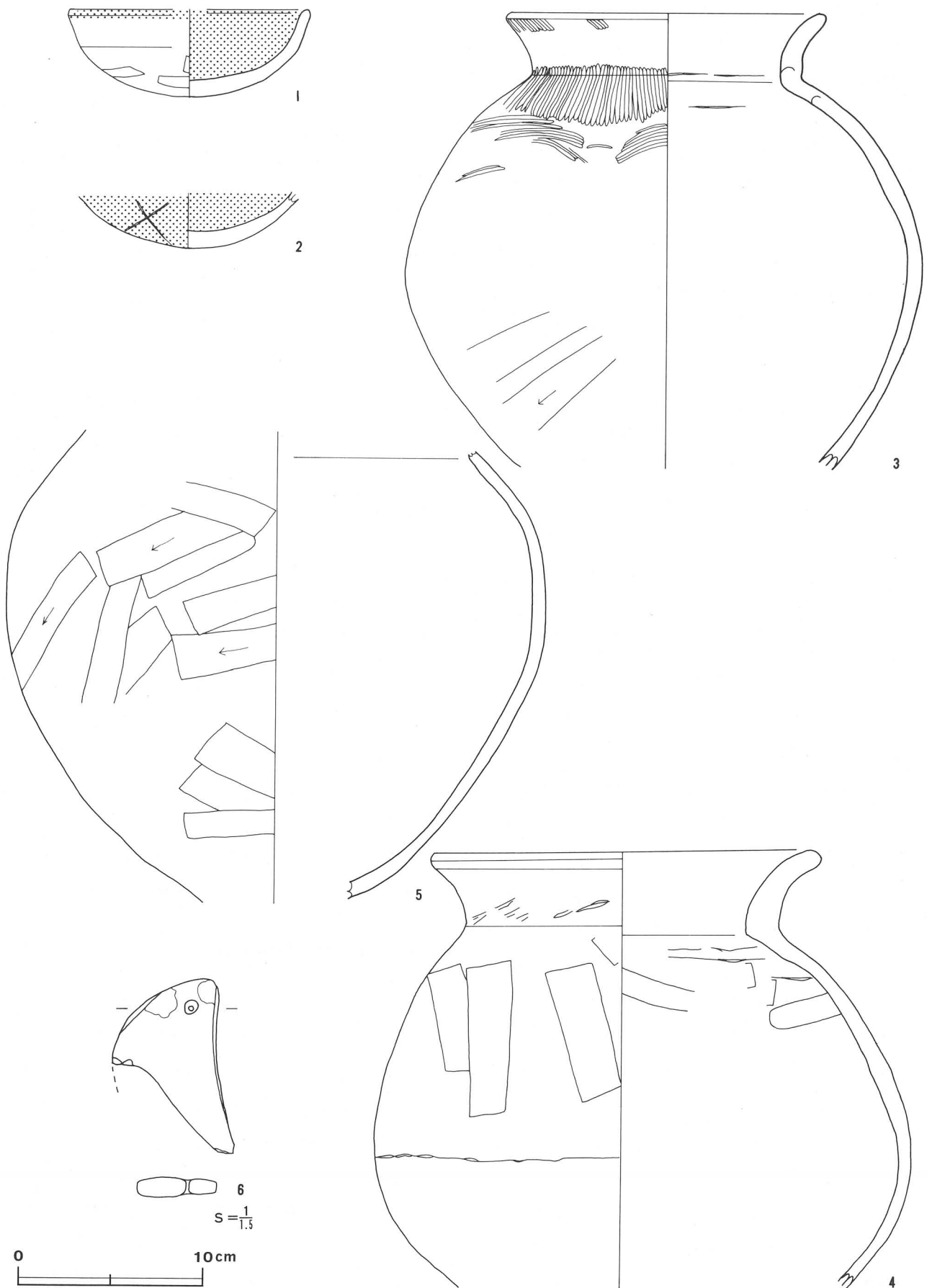
貯蔵穴 3か所 (貯蔵穴A~C)。貯蔵穴Aは北コーナーに付設されている。径72cmの円形で, 深さは42cmである。底面は皿状で, 壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は4層からなり, 第1層はローム粒子及び焼土粒子を微量含む褐色土, 第2層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む褐色土, 第3層はローム小ブロックを少量含む褐色土, 第4層はローム粒子及びローム中ブロックを中量含む暗褐色土である。貯蔵穴Bは東コーナー付近に付設されている。径46cmの円形で, 深さは15cmである。底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がっている。覆土は2層からなり, 第1層はローム粒子を微量含む明褐色土, 第2層はローム小ブロックを中量含む明褐色土である。貯蔵穴Cは中央から北西寄りに付設されている。径82cmのほぼ円形で, 深さは37cmである。底面は皿状で, 壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は8層からなり, 第1層から第4層は褐色土で, ローム粒子及びローム小ブロックと焼土粒子を含んでいる。第5層はハードブロック混じりの黄褐色土である。第6層から第8層は褐色土で, ローム粒子を主体に, 焼土粒子と炭化粒子を僅かに含んでいる。

覆土 8層からなり, 人為堆積である。第1層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土, 第2層はローム小ブロックを中量とローム中ブロックを少量含む明褐色土, 第3層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む暗褐色土, 第4層はローム粒子を少量含む褐色土, 第5層はローム粒子を中量と焼土粒子を少量含む明褐色土, 第6層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む明褐色土, 第7層はローム粒子を極めて多量とローム小ブロックを少量及びローム中ブロックを中量含む明褐色土, 第8層はローム粒子を極めて多量に含む橙色土である。

遺物 東コーナー付近からまとまって, 土師器の甕片等が少量出土している。第171図1の土師器杯は覆土中から出土した破片が接合したものである。3~5は土師器甕で, 3は東コーナーの床面から横位の状態で, 5



第170図 第64号住居跡実測図



第171图 第64号住居跡出土遺物実測図

は同じく潰れた状態で、4は貯蔵穴のほぼ底面から横位の状態で出土している。6の勾玉は西寄りの覆土下層から出土している。

所見 北西壁側に焼土塊が確認されているが、覆土の上層付近に位置し下層まで達していないこと、貯蔵穴B周辺に確認された粘土が焼けていないことから、本跡に関連するものではない。本跡は、第37・71号住居跡と同じ内部施設に貯蔵穴を3か所有する小形の建物跡で、時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。

第64号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第171図 1	坏土師器	A [12.0] B 4.9	底部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 455 40% 覆土
2	坏土師器	B (3.3)	底部の破片。丸底。	内・外面赤彩。底部外面にへら記号「×」。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 456 30% 覆土
3	甕土師器	A 15.2 B (25.4)	底部欠損。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部から体部上位はへら磨き。口縁部内面横ナデ。体部外面下位へら削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい橙色 普通	P 457 P L 64 80% 床面
4	甕土師器	A 20.7 B (24.5)	底部欠損。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P 458 P L 65 60% 貯蔵穴底面
5	甕土師器	B (26.2)	底部及び口縁部欠損。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。	体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P 459 P L 65 80% 床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考			
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)					
第171図6	勾玉	(4.8)	3.3	0.6	11.3	覆土下層	孔径 2.0mm	Q170	滑石	P L 70

第65号住居跡 (第172図)

位置 3区北東部, F7g₃区。

規模と平面形 長軸5.12m, 短軸5.06mの方形である。

主軸方向 N-26°-W。

壁 壁高は36~58cmで、外傾して立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅8~18cm, 下幅4~10cm, 深さ3~6cmで、断面形は皿状をしている。

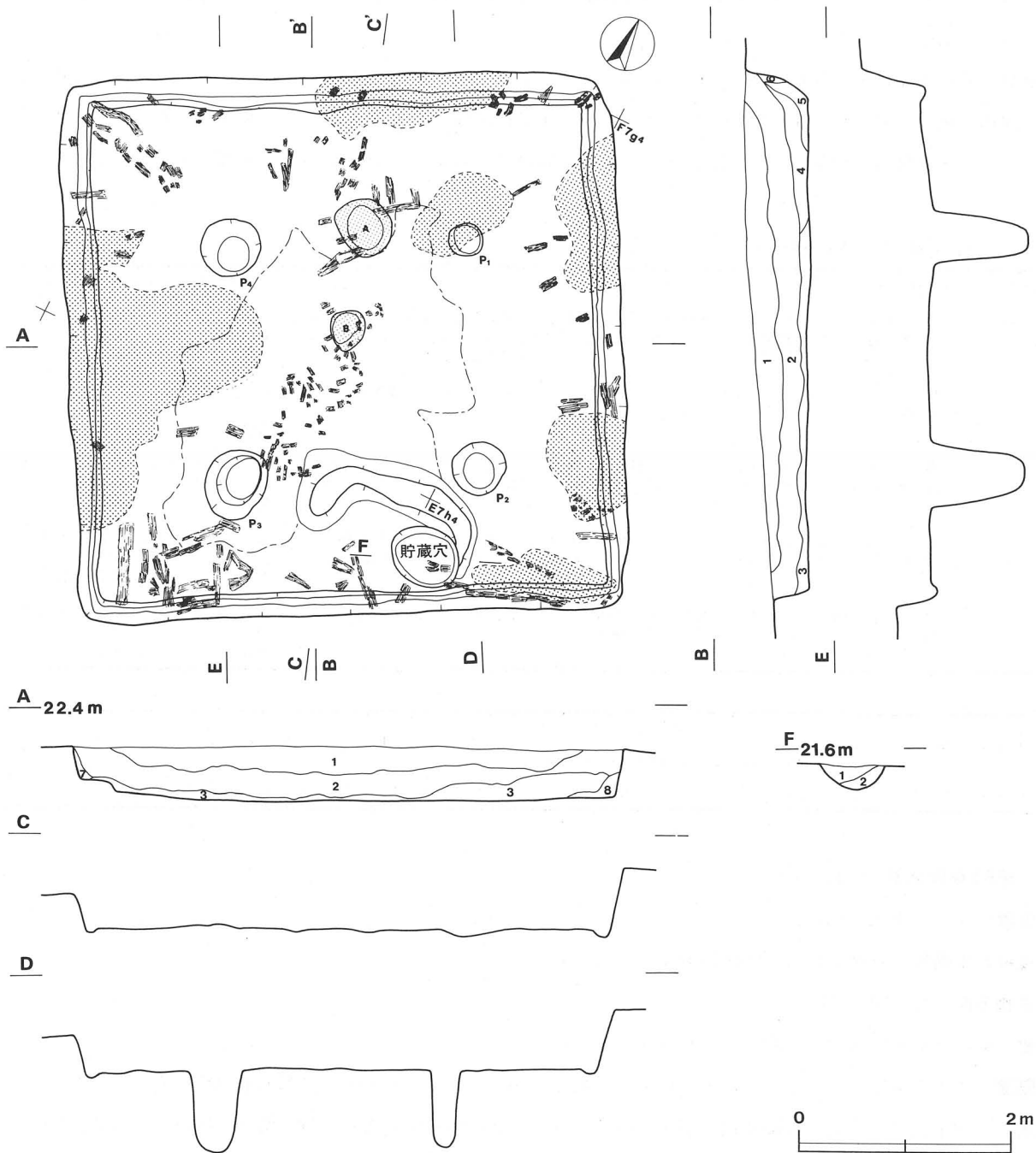
床 ほぼ平坦で、中央部は硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには、幅40~60cm, 高さ4cm程の馬の背状の高まりがみられ、出入り口施設と考えられる。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁~P₄は、径34~70cm, 深さ74~94cmで支柱穴と考えられる。

炉 2か所 (炉A・B)。炉Aは中央から北西寄りにあり、長径56cm, 短径48cmの楕円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け、赤変硬化している。炉Bはほぼ中央にあり、長径40cm, 短径34cmの楕円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け、赤変している。

貯蔵穴 東コーナー寄りの南東壁下に付設されている。長径68cm, 短径54cmの楕円形で、深さは21cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は2層からなり、第1層はローム粒子を中量と焼土粒子及び炭化粒子を少量含む暗褐色土、第2層は焼土粒子と焼土小ブロックを少量及び炭化物を中量含む暗褐色土である。いずれも、本跡が焼失した際に入り込んだものと思われる。

覆土 8層からなり、人為堆積である。第2層以下には、焼土粒子及び炭化物が多く含まれており、本跡が焼



第172図 第65号住居跡実測図

第65号住居跡出土遺物観察表

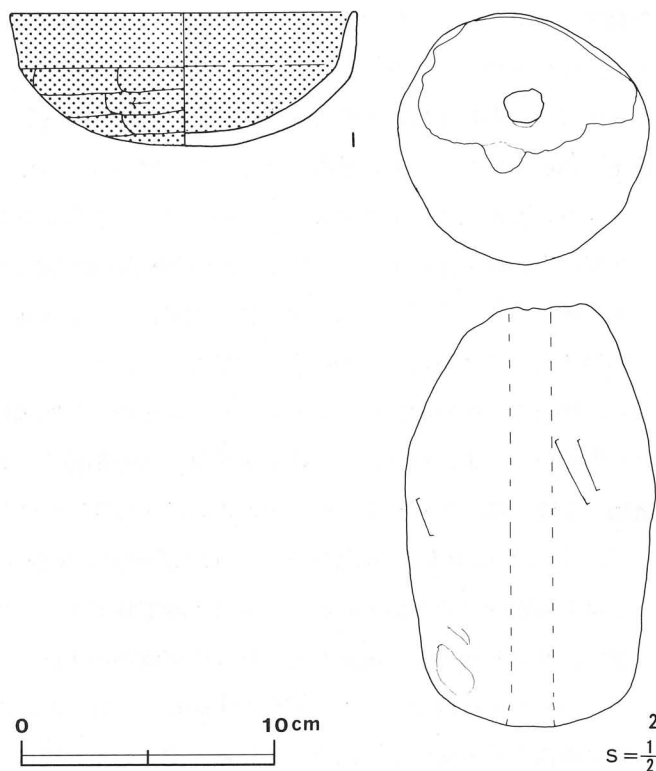
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第173図 1	坏 土師器	A 13.8 B 5.3	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P460 PL64 90% 床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
2	管状土錘	11.1	6.7	-	396.2	覆土	孔径 13.0mm DP30 80% PL69

失した際に埋め戻されたものと考えられる。第1層はローム粒子及び焼土粒子を中量含む黒褐色土、第2層はローム粒子及びローム中ブロックを中量と焼土粒子を少量含む褐色土、第3層はローム小ブロックを少量と焼土粒子を多量及び炭化物を中量含む明褐色土、第4層はローム中ブロックを多量と炭化物を少量含む褐色土、第5層は焼土粒子を中量と焼土大ブロックを少量及び炭化物を多量に含む褐色土、第6層はローム中ブロックを中量と焼土粒子を少量含む褐色土、第7層はローム小ブロックと焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含むにぶい褐色土、第8層はローム大ブロックを多量と炭化物を微量含む明褐色土である。

遺物 床面及び覆土下層から、土師器の坏・甕片等が520点程出土している。第173図1の土師器坏は炉A付近の床面から出土している。

所見 本跡は焼失住居である。遺物は焼失後、意図的に破碎し投棄されたものと思われる。時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。



第173図 第65号住居跡出土遺物実測図

第66号住居跡 (第174図)

位置 3区北西部, F6f₀区。

重複関係 本跡の北コーナー付近は、第223号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸6.34m, 短軸4.04mの長方形である。

主軸方向 N-46°-W。

壁 壁高は17~24cmで、外傾して立ち上がっている。

壁溝 北コーナー付近を除き、壁下を周回している。上幅5~20cm, 下幅3~14cm, 深さ3~8cmで、断面形は皿状をしている。

間仕切り溝 2条(a・b)。北東壁側に1条(a), 南西壁側に1条(b)確認され、長さ0.62~1.32m, 上幅14~41cm, 下幅6~14cm, 深さ6~20cmで、断面形はU字状をしている。

床 ほぼ平坦で、出入り口から中央部にかけて硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには、幅約30cm, 高さ3cm程の馬の背状の高まりがみられ、出入り口施設と考えられる。

ピット 6か所(P₁~P₆)。P₁~P₅は、径26~38cm, 深さ18~49cmで支柱穴及び支柱穴に関連するピット, P₆は、径34cm, 深さ30cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央から北西寄りにあり、長軸51cm, 短軸41cmの不整形で、床面を2cm程掘り窪めている。覆土は1層で、焼土粒子及び炭化粒子を少量と焼土小ブロックを微量含むにぶい赤褐色土である。炉床は凸凹で、火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 東コーナーに付設されている。長軸96cm、短軸66cmの長方形で、深さは23cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は3層からなり、第1層はローム粒子を少量とローム小ブロックを中量含む褐色土、第2層は焼土粒子を中量含む褐色土、第3層はローム粒子を多量に含む明褐色土である。

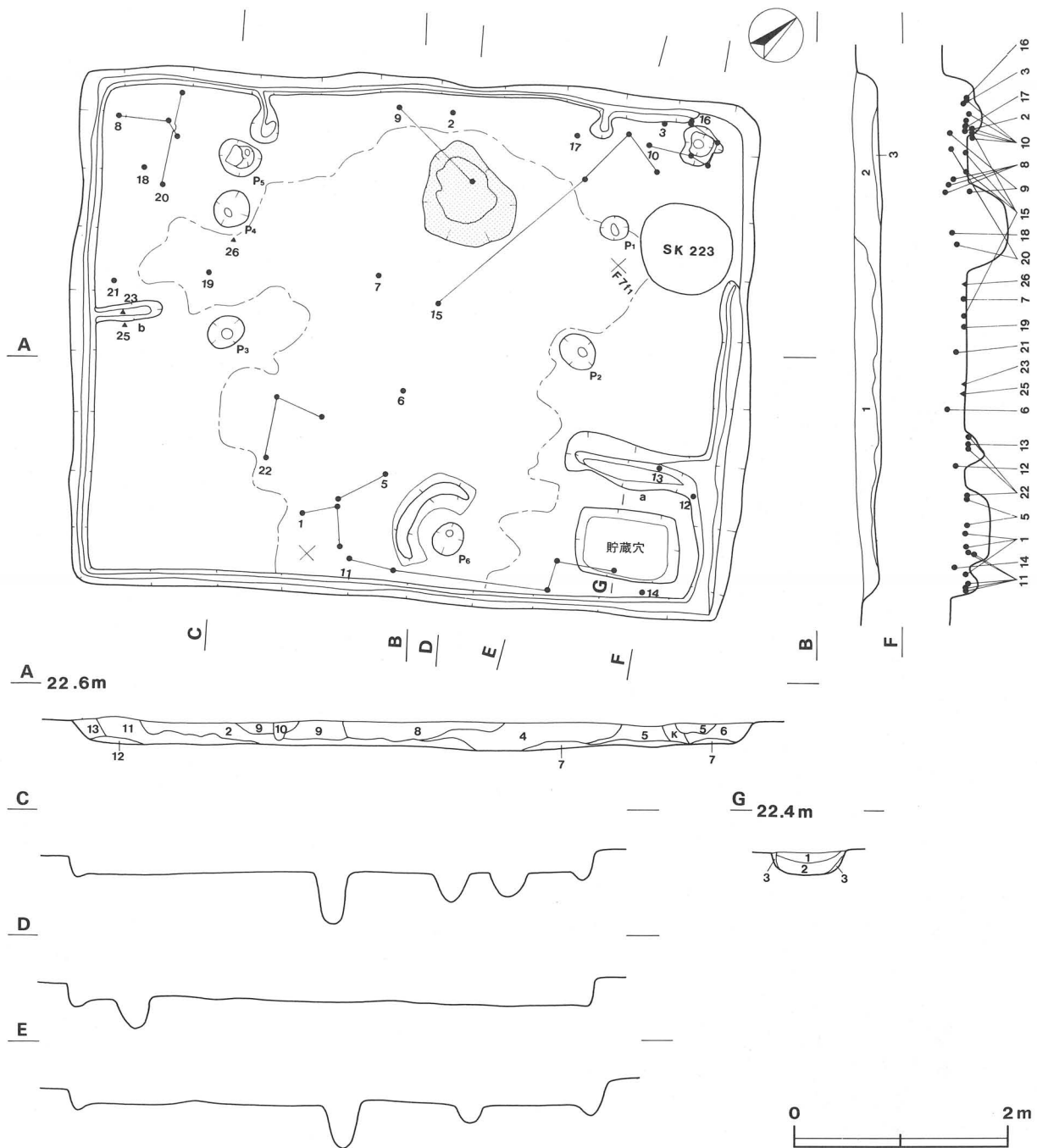
覆土 13層からなり、人為堆積である。第1層はローム中ブロックを中量含む明褐色土、第2層はローム粒子を少量含む褐色土、第3層はローム中ブロックを少量含む暗褐色土、第4層はローム中ブロックを中量含む暗褐色土、第5層はローム小ブロックを少量含む暗褐色土、第6層はローム大ブロックを多量に含む橙色土、第7層はローム大ブロックを中量含む明褐色土、第8層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む明褐色土、第9層はローム粒子を少量とローム大ブロックを多量に含む褐色土、第10層は焼土粒子を微量含む暗褐色土、第11層はローム大ブロックを中量含む明褐色土、第12層はローム大ブロックを極めて多量に含む明褐色土、第13層はローム粒子を多量に含む褐色土である。

遺物 壁際の覆土下層を中心に、土師器の坏・甕片等が多量に出土している。第175～177図1～6は土師器坏で、1・5は南東寄りの床面から、2は北西壁際の床面から、3は北コーナーの覆土下層から出土している。7は土師器碗で中央部床面から、8は土師器鉢で西コーナーの覆土上層から出土している。9～21は土師器甕で、9は北西寄りの床面から、11は南東壁際の床面から、12～14は東コーナーの覆土上層から床面にかけて、10・16・17は北コーナー付近の床面から、18・20は南西寄りの覆土下層から出土している。22の土師器甕は南西寄りの床面から出土している。23の勾玉の模造品と25・26の白玉は南西寄りの床面から覆土下層にかけて出土している。

所見 遺物は出土状況から、本跡廃絶後、間もなく投棄されたものと思われる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

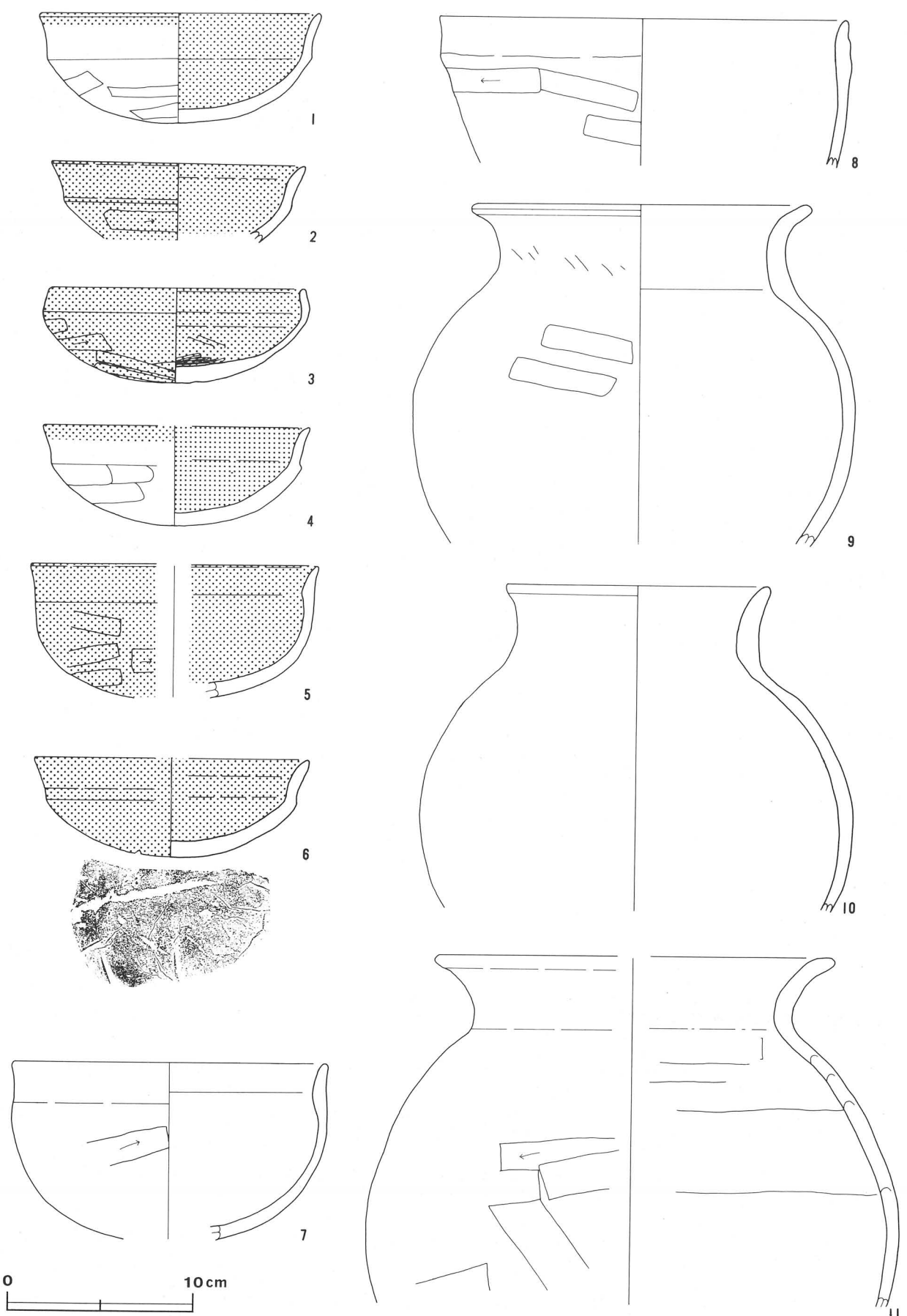
第66号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第175～177図 1	坏 土師器	A 15.0 B 6.1	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	石英・砂粒 暗赤色 普通	P 461 P L 64 80% 床面
2	坏 土師器	A 13.8 B (4.3)	底部欠損。体部と口縁部の境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 462 P L 64 65% 床面
3	坏 土師器	A 13.5 B 5.3	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へら削り。内面ナデ。内面へらナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 463 P L 64 70% 覆土下層
4	坏 土師器	A [14.4] B 5.5	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P 464 60% 覆土
5	坏 土師器	A [15.5] B (7.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P 465 P L 64 45% 床面
6	坏 土師器	A [14.8] B 5.4	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P 466 P L 64 40% 砥石に転用 覆土上層
7	碗 土師器	A 16.5 B (9.7)	底部及び体部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P 467 55% 床面
8	鉢 土師器	A 22.0 B (8.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P 468 20% 覆土上層
9	甕 土師器	A 17.7 B (18.7) C 5.6	底部欠損。体部は球形状で、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面へら削り後、ナデ。内面ナデ。	石英・砂粒 橙色 普通	P 469 P L 65 55% 床面

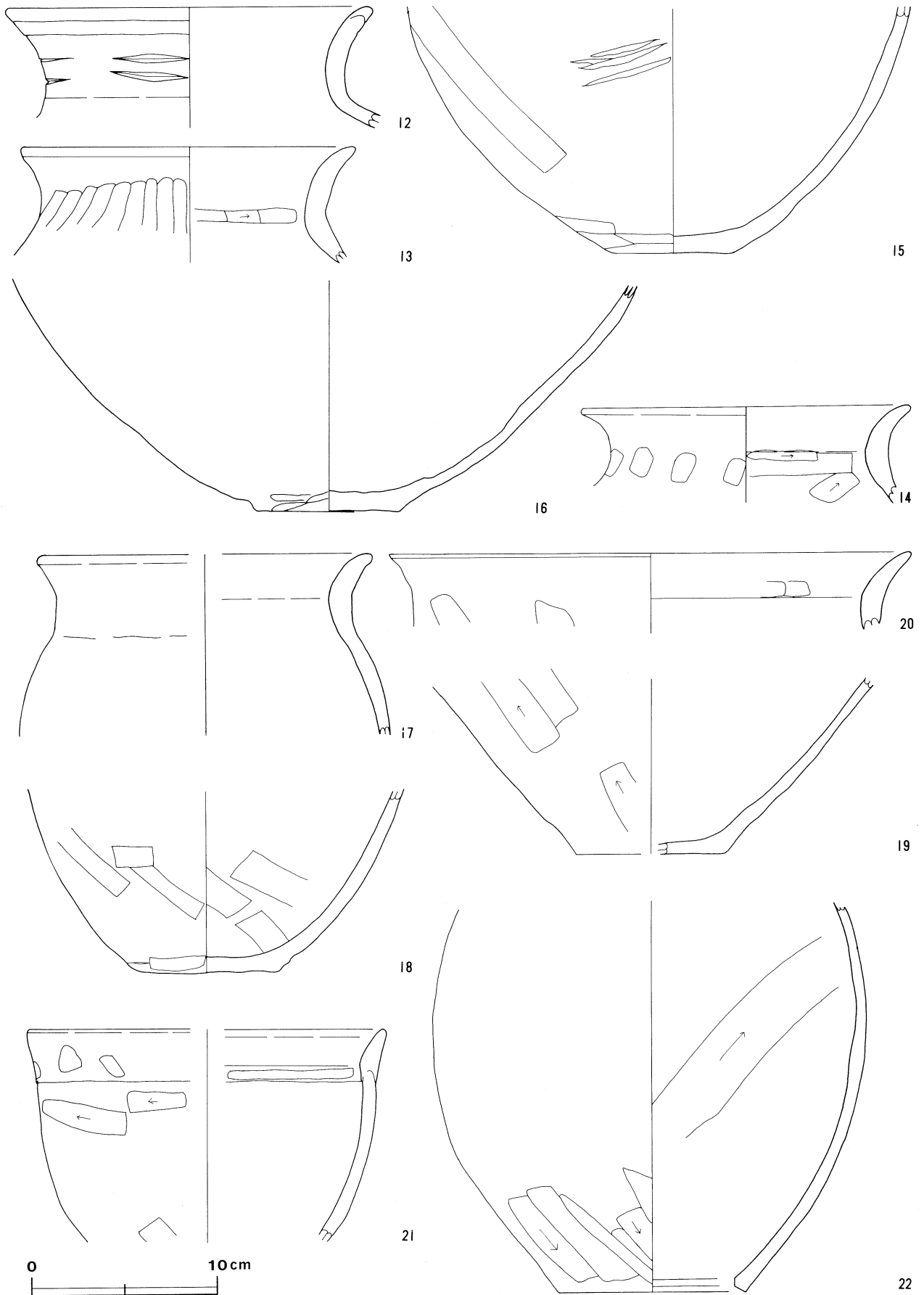


第174図 第66号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
10	甕土師器	A 14.0 B (17.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P 470 P L66 50% 床面
11	甕土師器	A [21.3] B (20.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体。部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P 471 P L65 25% 床面
12	甕土師器	A 19.5 B (6.7)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P 472 P L63 15% 砥石に転用 覆土上層
13	甕土師器	A 18.0 B (6.4)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ削り。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P 473 P L63 20% 床面



第175图 第66号住居跡出土遺物実測図(1)



第176图 第66号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
14	甕土師器	A 17.7 B (5.4)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内・外面ヘラ削り。	長石・砂粒 橙色 普通	P474 P L63 10% 覆土上層
15	甕土師器	B (13.6) C 6.8	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P475 P L65 40% 床面
16	甕土師器	B (12.8) C 7.6	底部から体部の破片。平底で、体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。外面下位ヘラ削り。	砂粒 暗赤褐色 普通	P476 40% 床面
17	甕土師器	A [17.8] B (10.0)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	内・外面摩耗。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P477 5% 床面
18	甕土師器	B (10.1) C 8.0	底部から口縁部の破片。平底で、体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P478 20% 覆土下層
19	甕土師器	B (9.6) C [8.2]	底部から体部の破片。平底で、体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・スコリア・ 砂粒 黒色 普通	P479 20% 覆土下層
20	甕土師器	A 28.4 B (4.4)	頸部から口縁部の破片。頸部は直立し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内・外面ヘラ削り。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P480 5% 覆土下層
21	甕土師器	A [19.5] B (11.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外傾する。口縁部は折り返される。	口縁部外面に指頭痕。内面下位及び体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。	長石・砂粒 灰黄褐色 普通	P481 15% 覆土下層
22	甕土師器	B (21.4) C 10.2	頸部から口縁部欠損。無底式。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。	体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	長石・石英・砂粒 にぶい褐色 普通	P482 P L66 60% 床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考				
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)						
第177図23	勾玉	3.3	2.1	0.5	5.8	床面	孔径 2.0mm	Q171	100%	滑石	P L70
24	白玉	0.4	0.5	0.4	0.2	覆土	孔径 1.5mm	Q172	100%	滑石	P L71
25	白玉	0.5	0.5	0.5	0.2	覆土下層	孔径 1.5mm	Q173	100%	滑石	P L71
26	白玉	0.2	0.5	0.2	0.1	覆土下層	孔径 1.5mm	Q174	100%	滑石	P L71
27	不明石製品	8.8	7.2	2.6	176.1	覆土	Q175	薰青石			P L70

第67号住居跡 (第178図)

位置 3区中央部, F7j₁区。

規模と平面形 長軸5.50m, 短軸5.40mの方形である。

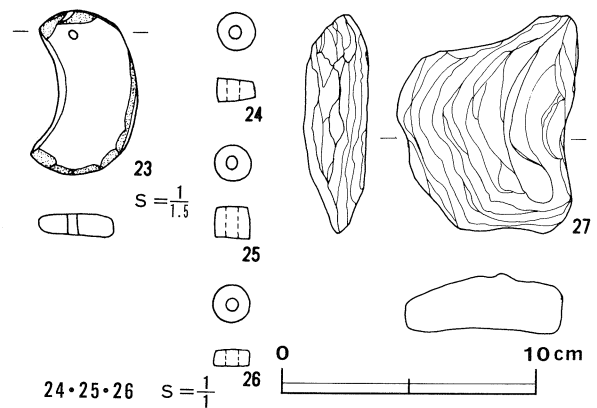
主軸方向 N-25°-W。

壁 壁高は38~64cmで、外傾して立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅7~16cm, 下幅4~14cm, 深さ3~9cmで、断面形は皿状をしている。

床 ほぼ平坦で、支柱穴の内側は硬く踏み固められている。南東壁から中央寄りには、幅約20cm, 高さ2cm程の馬の背状の高まりがみられ、出入口施設と考えられる。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は、径26~36cm, 深さ46~60cmで支柱穴, P₅は、径24cm, 深さ28cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。



第177図 第66号住居跡出土遺物実測図(3)

炉 中央から北西寄りにあり、長径74cm、短径60cmの楕円形で、床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。

貯蔵穴 東コーナーに付設されている。長軸58cm、短軸56cmの隅丸方形で、深さは28cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は4層からなり、第1層はローム粒子を少量含む褐色土、第2層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土、第3層はローム粒子を微量含む褐色土、第4層はローム小・中ブロックを少量含む明褐色土である。

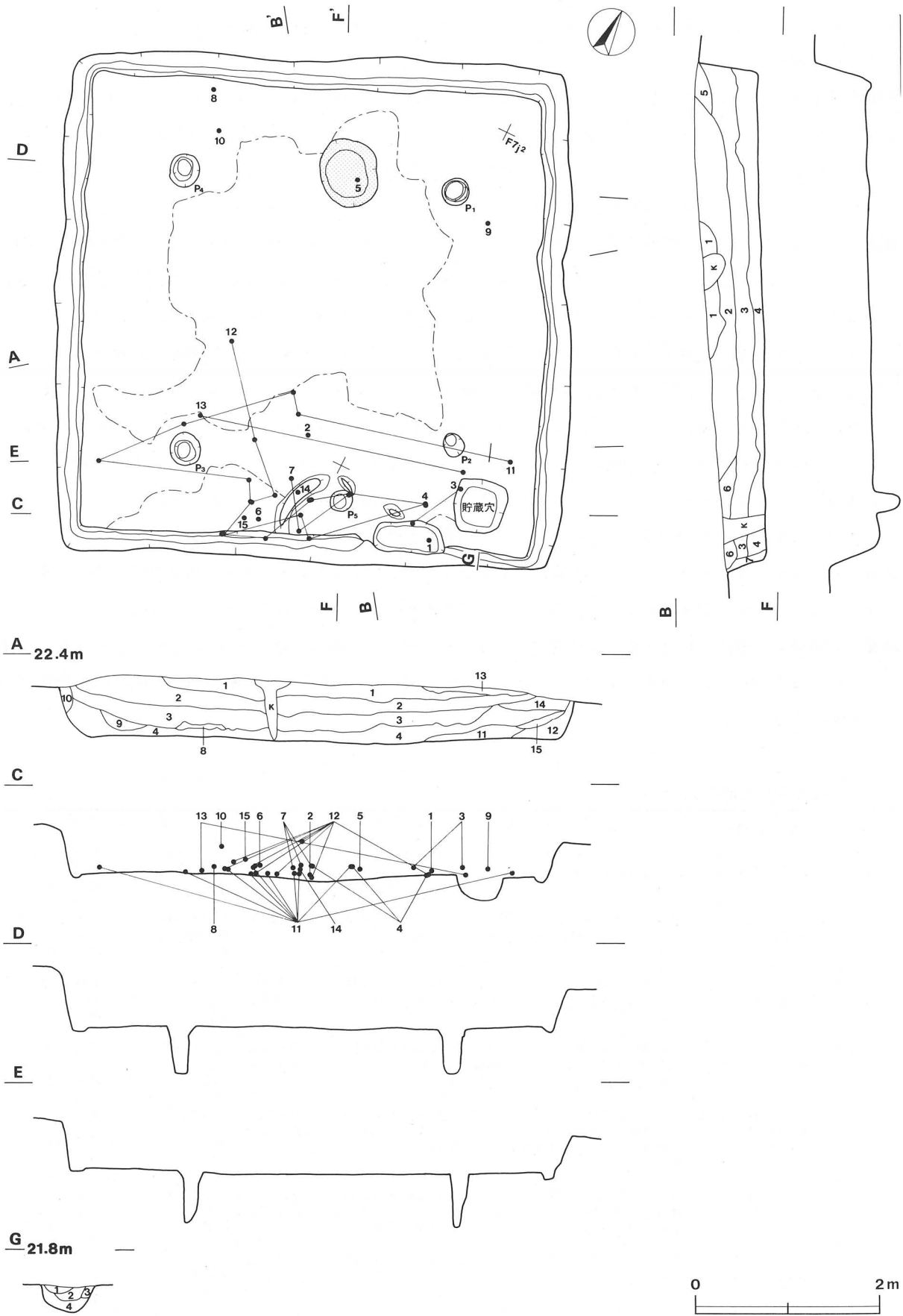
覆土 15層からなり、自然堆積である。第1層はローム粒子及びローム中ブロックを少量含む極暗褐色土、第2層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む暗褐色土、第3層はローム粒子を微量含む褐色土、第4層はローム小ブロックを中量含むにぶい褐色土、第5層はローム粒子を少量含む褐色土、第6層はローム粒子を少量と焼土粒子を微量含む褐色土、第7層はローム大ブロックを多量に含む明褐色土、第8層はローム中ブロックを中量と焼土粒子を微量含む褐色土、第9層はローム中ブロックを中量と黒色土ブロックを少量含む黄褐色土、第10層はローム中ブロックを中量含む褐色土、第11層はローム中ブロックを中量と黒色土ブロックを少量含む褐色土、第12層はローム小ブロックを中量とローム大ブロックを多量に含む黄褐色土、第13層はローム粒子を少量とローム小ブロックを微量含む褐色土、第14層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土、第15層はローム中ブロックを微量含む褐色土である。

遺物 南東壁際の覆土下層を中心に、土師器・須恵器片が少量出土している。11の土師器甕は南寄りの覆土下層から出土した破片が接合したものである。15の須恵器甕は南東壁際の覆土下層から出土している。

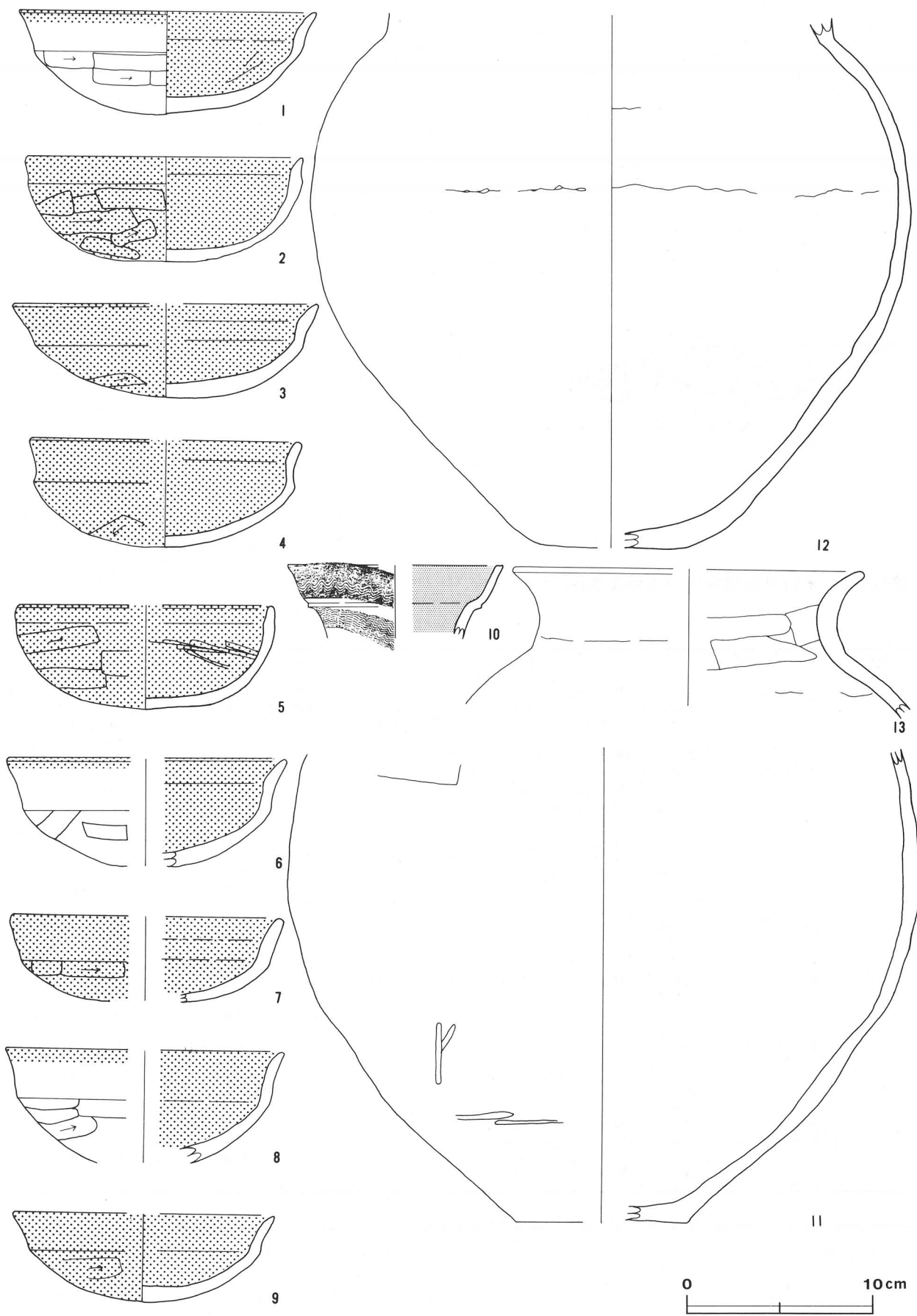
所見 当遺跡から確認された住居跡及び建物跡の例から、出入り口施設と考えられる馬の背状の高まりは、本来、P₅を取り囲むように弧状に存在していたものと思われる。本跡は、出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

第67号住居跡出土遺物観察表

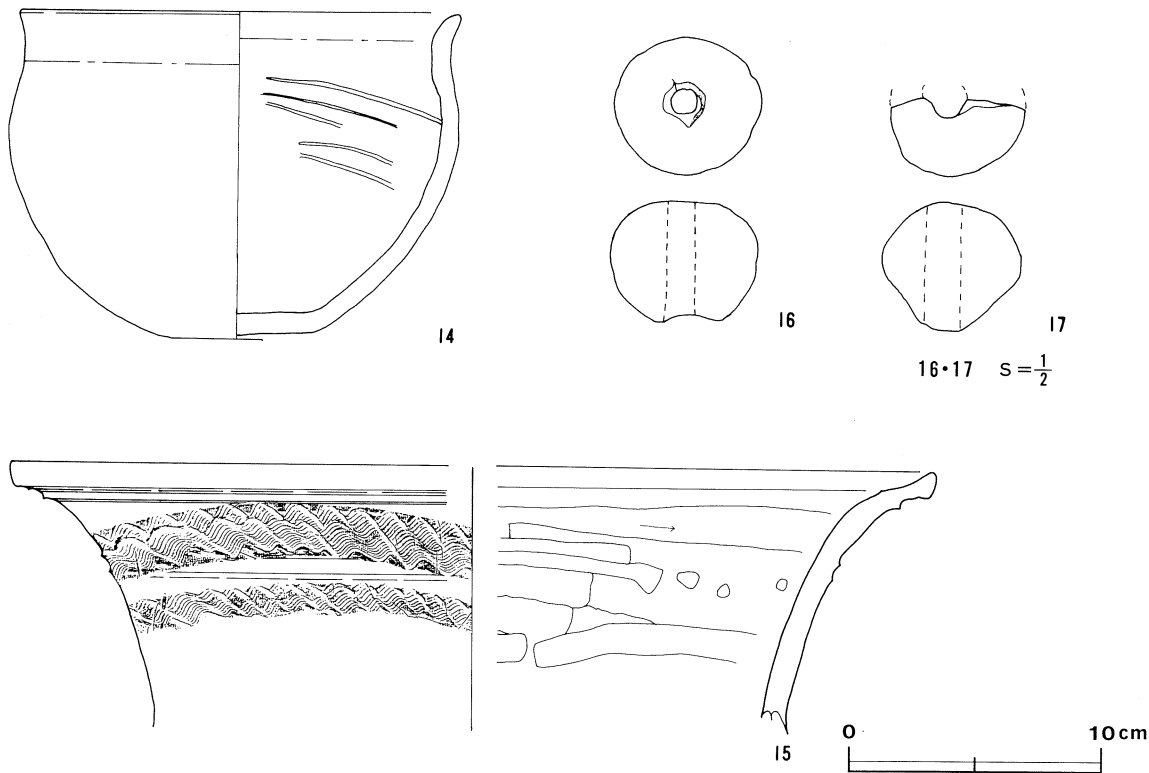
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第179・180図 1	坏土師器	A 16.0 B 5.7	丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 483 P L 64 100% 覆土下層
2	坏土師器	A 14.7 B 5.7	体部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P 484 P L 64 95% 覆土下層
3	坏土師器	A [16.2] B 5.2	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P 485 P L 65 55% 覆土下層
4	坏土師器	A [14.0] B 5.9	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P 486 P L 65 75% 覆土下層
5	坏土師器	A [13.6] B 5.7	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P 487 P L 65 55% 覆土下層
6	坏土師器	A [14.8] B (6.9)	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	石英・砂粒 赤色 普通	P 488 P L 65 35% 覆土下層
7	坏土師器	A [14.6] B (4.7)	体部から口縁部の破片。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 489 45% 覆土下層
8	坏土師器	A [15.0] B (6.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 490 40% 覆土下層



第178图 第67号住居跡実测图



第179图 第67号住居跡出土遺物実測図(1)



第180図 第67号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
9	坏土師器	A [14.0] B 4.8	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P 491 20% 覆土下層
10	甕須恵器	A [11.6] B (4.0)	頸部から口縁部の破片。頸部と口縁部の境にシャープな稜をもつ。口縁部は外傾し、端部に凹面をもつ。頸部には9条、口縁部には3条の櫛描波状文が施されている。	口縁部及び頸部外面横ナデ。	長石・砂粒 褐灰色 良好	P 492 P L 66 5% 自然釉付着 覆土中層
11	甕土師器	B (26.0) C [9.2]	底部から体部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。	体部外面上位へら削り。下位は磨き。内面ナデ。	長石・砂粒 褐灰色 普通	P 493 P L 66 45% 覆土下層
12	甕土師器	B (29.2) C [7.6]	底部から体部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を上位にもつ。	体部内・外面ナデ。	砂粒 橙色 普通	P 494 P L 67 30% 覆土
13	甕土師器	A [18.8] B (7.5)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面へら削り。	砂粒 黒褐色 普通	P 495 10% 床面
14	甕土師器	A 17.5 B 13.2 C 5.5	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を上位にもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面摩擦。内面へらナデ。	長石・砂粒 明灰褐色 普通	P 496 P L 66 85% 覆土下層
15	甕須恵器	A [36.8] B (10.6)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。頸部と口縁部との境に2本、口縁部下に1本の稜をもち、櫛描波状文が施される。	内・外面へらナデ。	長石・砂粒 緑灰色 普通	P 497 P L 66 5% 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考			
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		孔径	DP	%	備考
16	球状土錘	3.3	3.9	3.3	36.1	覆土	孔径 9.0mm	DP31	100%	P L 68
17	球状土錘	3.4	3.1	3.4	17.5	覆土	孔径 10.0mm	DP32	100%	P L 69

第68号住居跡（第181図）

位置 3区北西部，F6h₉区。

重複関係 本跡の北西コーナー付近の壁の一部は，第69号住居跡の竈に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.26m，短軸3.76mの長方形である。

主軸方向 N-4°-W。

壁 壁高は14~24cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅6~12cm，下幅3~8cm，深さ3~6cmで，断面形はU字状をしている。

床 ほぼ平坦で，壁際を除き硬く踏み固められている。

ピット 2か所（P₁・P₂）。P₁は，径27cm，深さ18cm，P₂は，径26cm，深さ28cmである。P₂は出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 2か所（炉A・B）。炉Aは中央から北西寄りにあり，長径54cm，短径48cmの楕円形で，床面を僅かに掘り窪めている。炉床は火熱を受け赤変硬化している。炉Bは中央から南西寄りにあり，長径74cm，短径44cmの楕円形で，床面を僅かに掘り窪めている。炉床は凸凹で赤変硬化している。

貯蔵穴 南西コーナーに付設されている。長径52cm，短径40cmの楕円形で，深さは18cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。覆土は5層からなり，第1層はローム小ブロックを中量含む褐色土，第2層はローム中ブロックを中量含む黄褐色土，第3層はローム小ブロックを微量含む褐色土，第4層はローム小・中ブロックを中量含む黄褐色土，第5層はローム小ブロックを中量含む黄褐色土である。

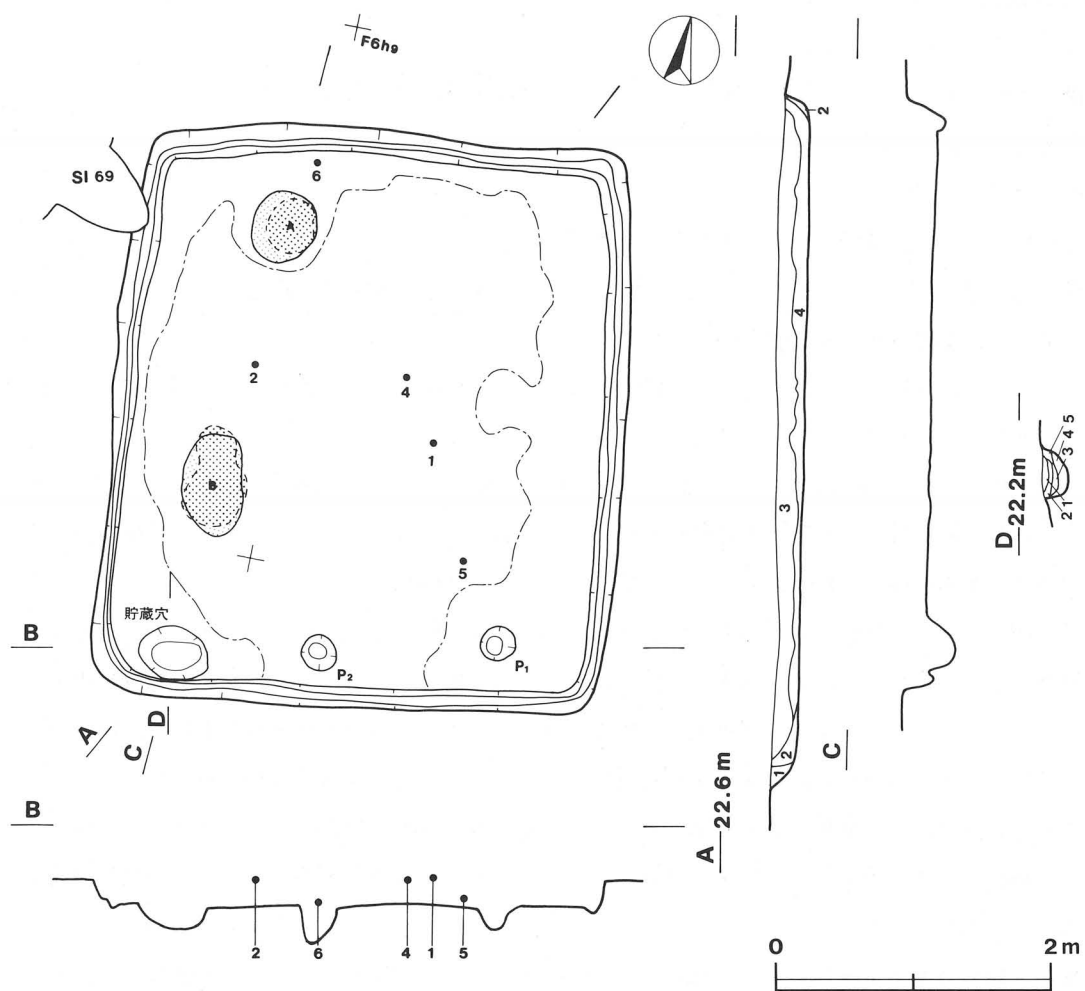
覆土 4層からなり，人為堆積である。第1層はローム粒子を微量含む褐色土，第2層はローム中ブロックを中量含む褐色土，第3層はローム粒子及びローム小ブロックを中量含む暗褐色土，第4層はローム中ブロックを中量含む褐色土である。

遺物 覆土上層及び覆土下層から，土師器片が少量出土している。第182図1~3は土師器坏で，東及び西寄りの覆土上層から，4は土師器鉢で，中央部覆土上層から，5・6は土師器甕で，5が南東コーナー，6が北壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

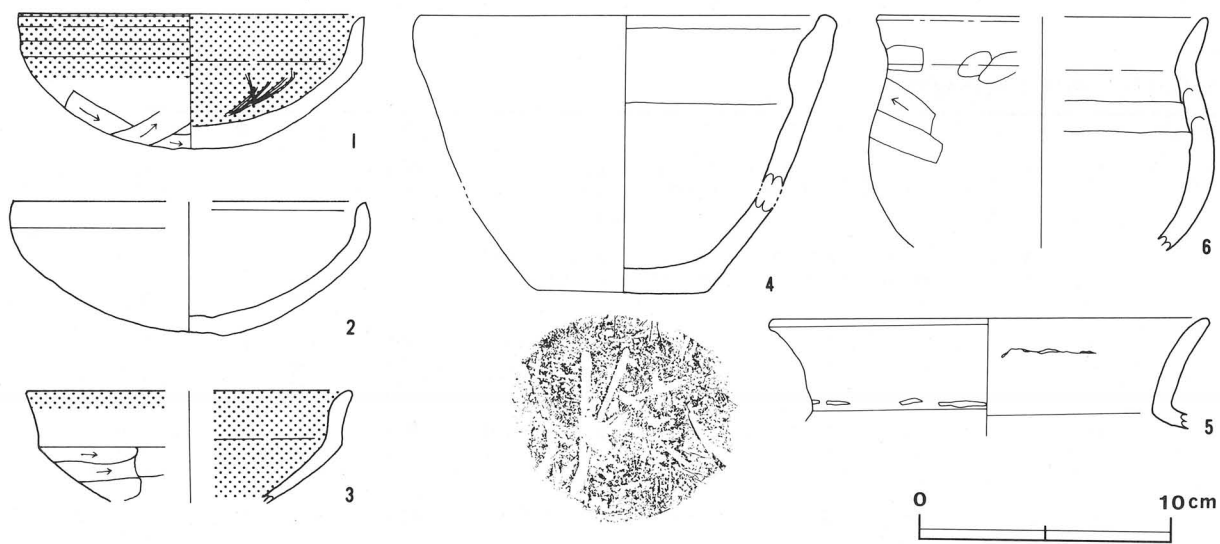
所見 本跡は，出土遺物から古墳時代中期後半の住居跡である。

第68号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第182図 1	坏 土師器	A 13.8 B 5.4	丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は直立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ後，磨き。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P498 PL65 100% 覆土上層
2	坏 土師器	A [14.0] B 5.4	底部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面摩耗。	砂粒 にぶい橙色 普通	P499 45% 覆土上層
3	坏 土師器	A [13.0] B (4.5)	体部から口縁部の破片。口縁部は僅かに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 良好	P500 20% 覆土上層
4	鉢 土師器	A 16.6 B [11.3] C 6.8	体部の一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は肥厚して外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒 明赤褐色 普通	P501 PL67 70% 覆土上層
5	甕 土師器	A 14.2 B (4.4)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P502 PL67 10% 覆土下層
6	甕 土師器	A [13.2] B (9.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部から口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面下位から体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒にぶい 橙色 普通	P503 PL66 25% 覆土下層



第181图 第68号住居跡実測图



第182图 第68号住居跡出土遺物実測图

第70号住居跡（第183図）

位置 3区南西部，G6d₉区。

規模と平面形 長軸7.44m，短軸7.06mの方形である。

主軸方向 N-34°-W。

壁 壁高は12～54cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周していたと考えられる。上幅8～18cm，下幅3～13cm，深さ2～5cmで，断面形は皿状をしている。

間仕切り溝 4条（a～d）。北東壁側に2条（a・b），南西壁側に2条（c・d）確認され，長さ1.08～1.84m，上幅16～22cm，下幅6～11cm，深さ4～6cmで，断面形は皿状をしている。

床 凸凹で，出入口付近及び炉の北東側に一部硬化面がみられる程度である。

ピット 7か所（P₁～P₇）。P₁～P₄は，径30～42cm，深さ40～54cmで支柱穴，P₅・P₇は，径44～46cm，深さ12～14cmで支柱穴に関連するピットと考えられる。P₆は，径66cm，深さ32cmで性格は不明である。

炉 2か所（炉A・B）。炉Aは中央から北西寄りにあり，長径50cm，短径42cmの楕円形で，床面を9cm程掘り窪めている。覆土は5層からなり，第1層は焼土粒子及び焼土小ブロックを中量含む橙色土，第2層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含む明褐色土，第3層はローム粒子及び焼土粒子と焼土小ブロックを少量含む明赤色土，第4層は焼土粒子を少量含むにぶい赤褐色土，第5層は焼土粒子を微量含む明褐色土である。炉床は北西から南東に向けて緩やかに傾斜し，火熱を受け赤変硬化している。炉Bはほぼ中央部にあり，長径42cm，短径38cmの楕円形で，床面を7cm程掘り窪めている。覆土は5層からなり，第1層は焼土粒子及び焼土小・中ブロックを中量含む明赤褐色土，第2層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含む赤褐色土，第3層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含む明褐色土，第4層は焼土粒子を少量含む明褐色土，第5層はローム粒子及び焼土粒子を少量含む褐色土である。炉床は凸凹で，火熱を受け赤変硬化している。

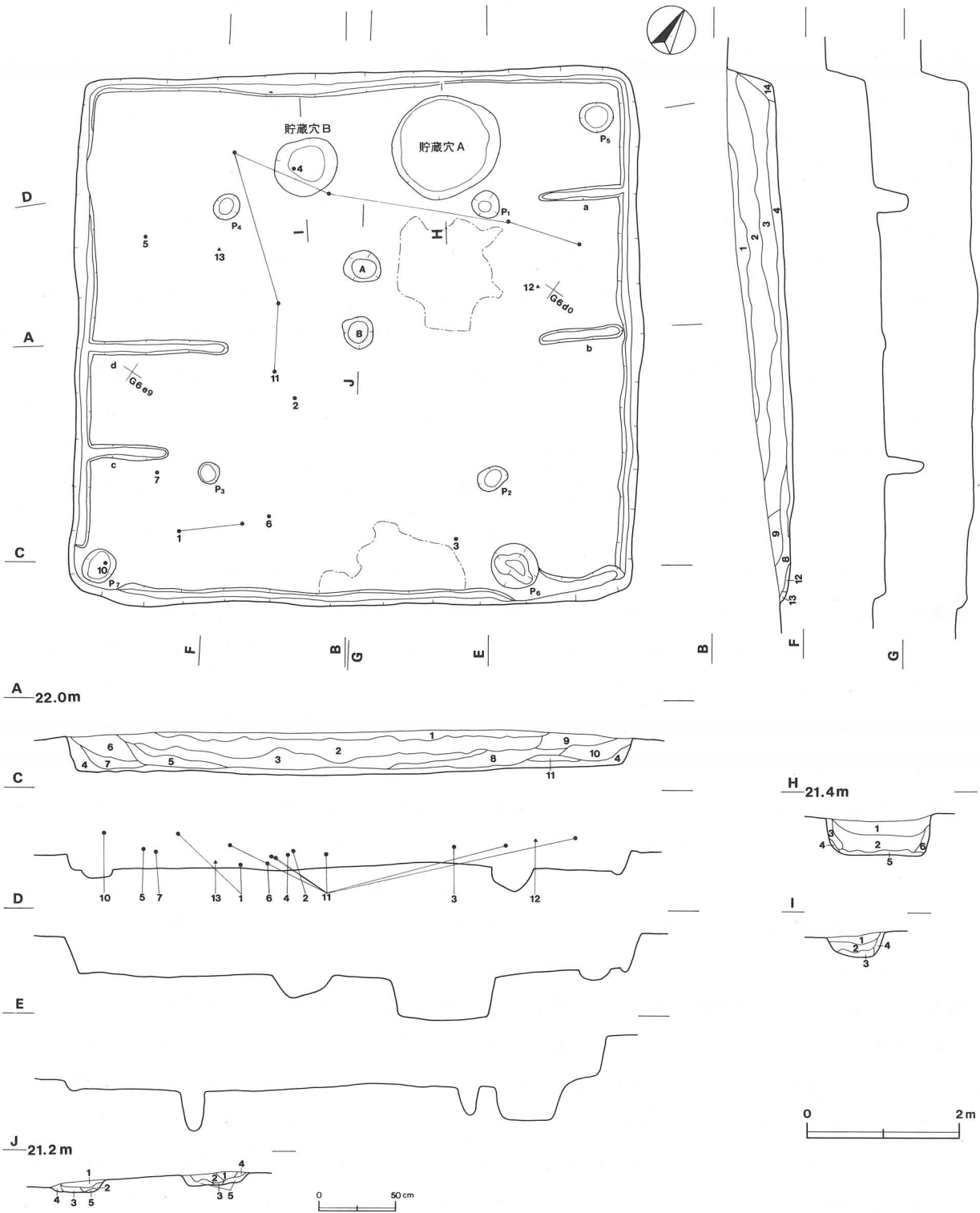
貯蔵穴 2か所（貯蔵穴A・B）。貯蔵穴Aは北西壁中央から北コーナー寄りに付設されている。径1.46mのほぼ円形で，深さは58cmである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。覆土は6層からなり，第1層はローム粒子を中量含む褐色土，第2層はローム粒子及びローム小ブロックを中量と炭化粒子を少量含むにぶい褐色土，第3層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む明褐色土，第4層はローム粒子を極めて多量に含む明褐色土，第5層はローム粒子を多量とローム小ブロックを中量含む明褐色土，第6層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む明褐色土である。貯蔵穴Bは貯蔵穴Aの南西約70cmにあり，長径86cm，短径72cmの楕円形で，深さは28cmである。底面は皿状で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は4層からなり，第1層はローム粒子を中量含む褐色土，第2層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土，第3層はローム粒子を多量とローム中ブロックを少量含む明褐色土，第4層はローム粒子及びローム小・中ブロックを少量含むにぶい褐色土である。

覆土 14層からなり，自然堆積である。第1層はローム粒子を少量含む極暗褐色土，第2層はローム粒子を微量含む黒褐色土，第3層はローム粒子を微量含む褐色土，第4層はローム大ブロックを多量と黒色土ブロックを少量含む褐色土，第5層はローム粒子を少量とローム中ブロックを中量含む極暗褐色土，第6層はローム粒子を中量含む暗褐色土，第7層はローム粒子及びローム中ブロックを中量含む褐色土，第8層はローム粒子及びローム大ブロックを中量含む褐色土，第9層はローム粒子を少量含む褐色土，第10層はローム粒子を微量含む褐色土，第11層はローム中ブロックを多量に含む明褐色土，第12層はローム中ブロックを中量含む黄褐色土，第13層はローム小ブロックを少量含む褐色土，第14層はローム中ブロックを中量含む褐色土である。

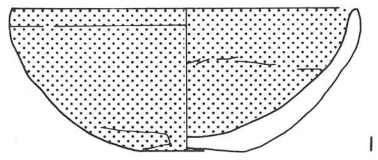
ある。

遺物 覆土中層から下層にかけて、土師器片が少量出土している。第184図1と6の土師器坏は南コーナー付近の覆土下層から、10の土師器甕は南コーナー覆土上層から、13の白玉は西寄りの覆土下層から出土している。

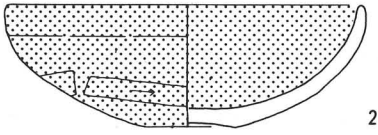
所見 出入口部の反対側に貯蔵穴を有する住居跡は僅かにみられるが、2か所確認されたのは本跡だけである。時期は、出土遺物から古墳時代中期後半である。



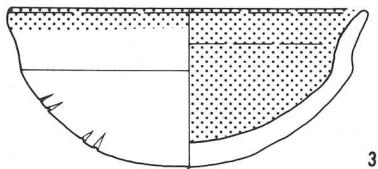
第183図 第70号住居跡実測図



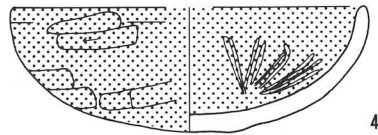
1



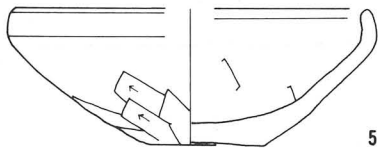
2



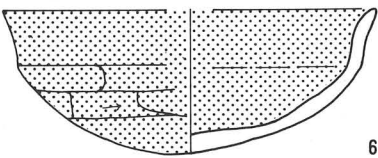
3



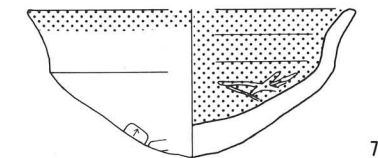
4



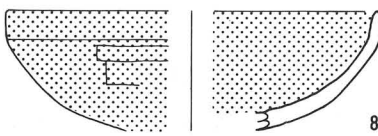
5



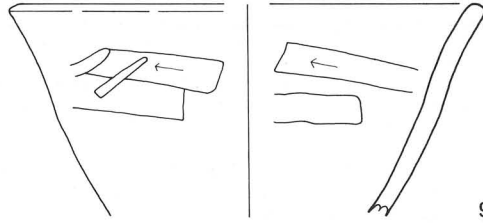
6



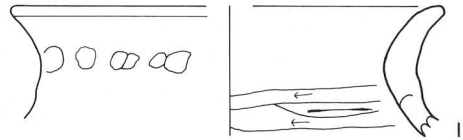
7



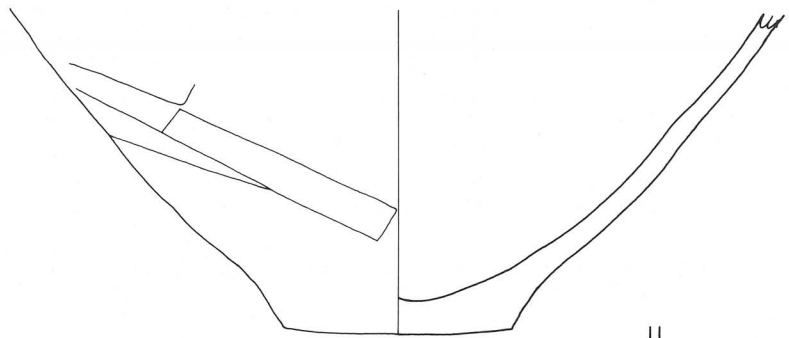
8



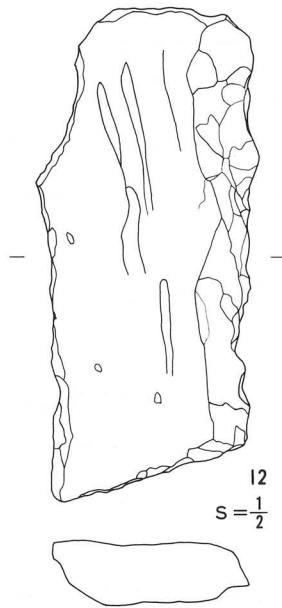
9



10



11



12
S = 1/2



13 S = 1/4



第184图 第70号住居跡出土遺物実測図

第70号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第184図 1	坏土師器	A 13.7 B 5.8 C 4.3	口縁部の一部欠損。平底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面剝離。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P507 PL66 80% 覆土下層
2	坏土師器	A 14.1 B 4.9 C 3.7	底部から口縁部の破片。平底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P508 PL66 95% 覆土上層
3	坏土師器	A 14.2 B 6.3	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面剝離。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P509 PL65 60% 砥石に転用 覆土上層
4	坏土師器	A [14.0] B 5.0	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 明赤褐色 普通	P510 PL66 50% 覆土上層
5	坏土師器	A [14.1] B 5.5	底部から口縁部の破片。平底で、体部は外傾して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P511 PL66 40% 覆土上層
6	坏土師器	A [14.8] B 5.7	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P512 PL66 30% 覆土下層
7	坏土師器	A [12.6] B 5.9	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 暗赤色 普通	P513 PL66 30% 覆土上層
8	坏土師器	A [14.8] B (4.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面剝離。内・外面赤彩。	石英・砂粒 赤褐色 普通	P514 PL66 30% 貯蔵穴覆土
9	鉢土師器	A [18.0] B (8.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へら削り。	長石・砂粒 橙色 普通	P517 5% 貯蔵穴覆土
10	甕土師器	A [17.0] B (5.2)	頸部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面に指頭痕。内面へら削り。	長石・砂粒 にぶい橙色 普通	P515 10% 覆土上層
11	甕須恵器	B (13.0) C 9.0	底部から口縁部の破片。平底で、体部は外傾して立ち上がる。	体部外面へら削り。内面ナデ。	砂粒 黒褐色 普通	P516 30% 覆土上層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
12	砥石	(13.1)	(5.9)	1.7	210.4	覆土上層	Q178 砂岩
13	白玉	0.5	0.5	0.5	0.2	覆土下層	孔径 2.0mm Q179 100% 滑石 PL71

第71号住居跡 (第185図)

位置 3区南西部, G6c₆区。

重複関係 本跡の南コーナー付近は第222号土坑及び第233号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.46m, 短軸3.16m の方形である。

主軸方向 N-24°-W。

壁 壁高は7~10cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部は硬く踏み固められている。貯蔵穴Bと第222号土坑との間に、上幅14~36cm, 下幅4~18cm, 深さ10cm程の溝状の掘り込みがみられる。

貯蔵穴 3か所 (貯蔵穴A~C)。貯蔵穴Aは北コーナーに付設されている。径約1.10mの円形で、深さは60cmである。底面は凸凹で、壁は外傾して立ち上がっている。覆土は8層からなり、第1層はローム小・中ブロックを中量と炭化粒子を少量含む褐色土、第2層はローム中ブロックを中量と焼土小ブロックを少量含む

暗褐色土、第3層はローム粒子及びローム中ブロックを中量含む暗褐色土、第4層はローム大ブロックを極めて多量に含む黄橙褐色土、第5層はローム粒子を多量とローム中ブロックを少量含む明褐色土、第6層はローム粒子及びローム大ブロックを中量含む明褐色土、第7層はローム粒子を中量とローム中ブロックを少量含む黒褐色土、第8層はローム大ブロックを極めて多量に含む褐色土である。貯蔵穴Bは東コーナーに付設されている。径約1.10mの円形で、深さは54cmである。底面は皿状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は8層からなり、第1層はローム小ブロックを少量含む黄褐色土、第2層はローム粒子を少量含む褐色土、第3層はローム小ブロックを中量含む明褐色土、第4層はローム小ブロックを中量と黒色土ブロックを少量含む褐色土、第5層はローム粒子を微量含むにぶい褐色土、第6層はローム小ブロックを中量とローム大ブロックを多量及び焼土粒子を少量含む褐色土である。貯蔵穴Cは西コーナーに付設されている。径約90cmの円形で、深さは60cmである。底面はほぼ平坦で、壁は急角度に外傾して立ち上がっている。覆土は7層からなり、第1層はローム粒子及び焼土粒子を中量含む暗褐色土、第2層はローム中ブロックと焼土粒子及び焼土中ブロックを少量、炭化粒子を中量含む暗褐色土、第3層は炭化粒子を中量含む暗褐色土、第4層はローム大ブロックを多量と焼土小ブロックを少量及び炭化粒子を中量含む明褐色土、第5層は焼土粒子及び焼土小ブロックを少量含む極暗褐色土、第6層はローム大ブロックを極めて多量に含む明褐色土、第7層はローム中ブロックを少量含む褐色土である。

覆土 14層からなり、人為堆積である。第1層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土、第2層はローム粒子を中量とローム小・中ブロックを少量含む褐色土、第3層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む明褐色土、第4層はローム粒子を多量に含む明褐色土、第5層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第6層はローム粒子を中量含む褐色土、第7層はローム粒子を中量とローム小・中ブロックを少量及び焼土粒子を微量含む褐色土、第8層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む暗褐色土、第9層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第10層はローム粒子を多量とローム小・中ブロックを少量含む明褐色土、第11層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む明褐色土、第12層はローム粒子を多量含む明褐色土、第13層はローム粒子及びローム小ブロックを少量と焼土粒子を中量含む暗褐色土、第14層はローム粒子を多量とローム小ブロックを中量含む明褐色土、第15層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む明褐色土である。

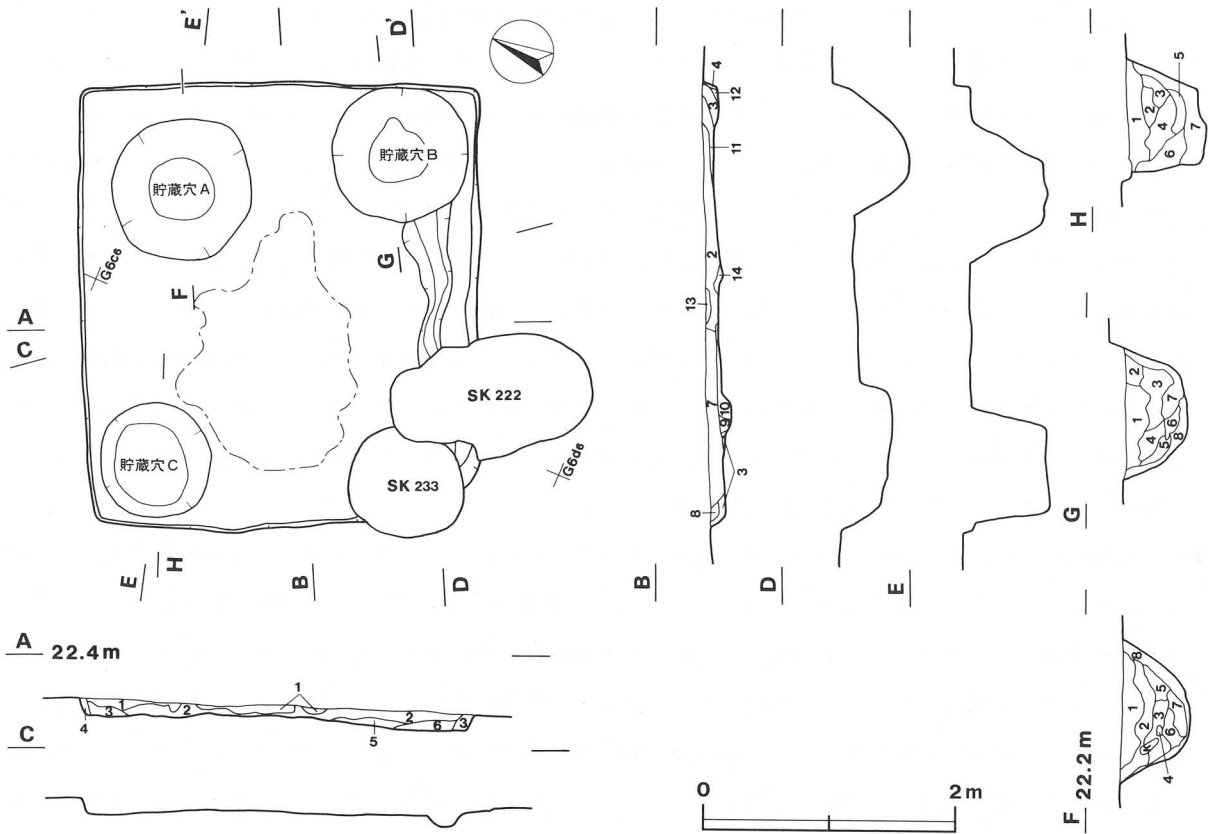
遺物 床面及び貯蔵穴内から、土師器坏片等が少量出土している。第186図1・2の土師器坏は、1が貯蔵穴Aの底面から正位の状態で、2が貯蔵穴Cのほぼ底面から出土している。3の土師器坏はP₄の覆土中から、4の鉄鏝は貯蔵穴Cの覆土下層から出土している。

所見 本跡は第37・64号住居跡同様、貯蔵穴を3か所有する建物跡で、時期は出土遺物から古墳時代中期後半である。

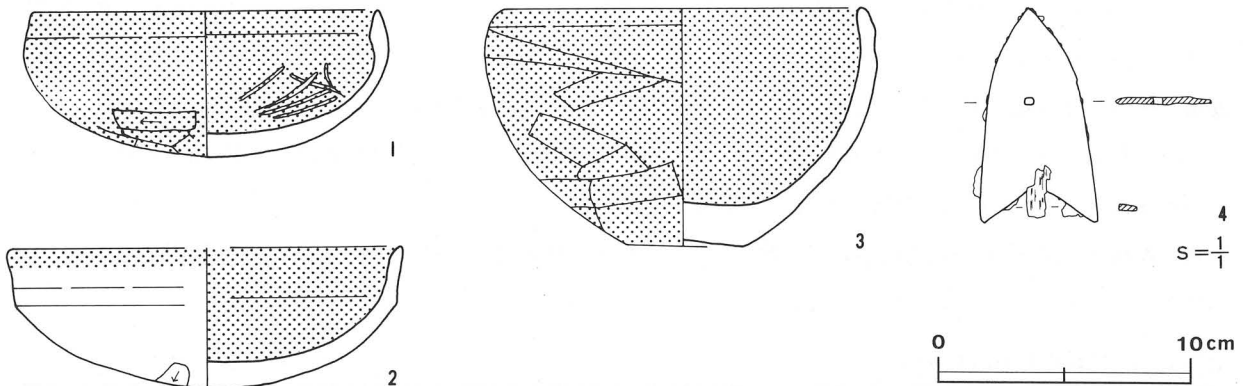
第71号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第186図 1	坏 土師器	A 13.8 B 5.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P518 P L66 100% 貯蔵穴A底面
2	坏 土師器	A [15.7] B 5.6	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P519 P L66 50% 貯蔵穴C底面
3	碗 土師器	A 14.2 B 9.6 C 4.5	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P520 P L67 100% P ₄ 覆土

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	鉄 鏃	5.7	3.1	0.2	7.2	貯蔵穴 M13 90%	P L 71



第185図 第71号住居跡実測図



第186図 第71号住居跡出土遺物実測図

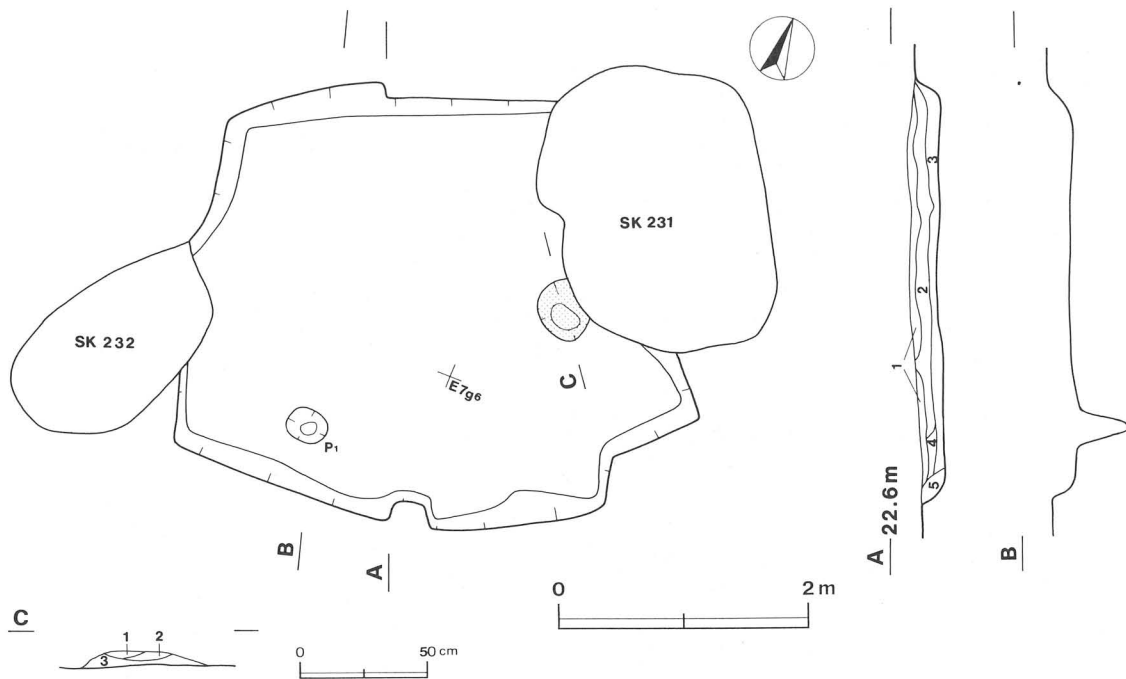
第72号住居跡 (第187図)

位置 3区北東部, E7g₅区。

重複関係 本跡の北東壁の大半は第231号土坑に, 南西壁のほぼ中央部は第232号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.06m, 短軸3.46mの不定形である。

主軸方向 (N-65°-E)。



第187図 第72号住居跡実測図

壁 壁高は14~18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 凸凹で、あまり踏み固められていない。

ピット 1か所 (P₁)。径24cm、深さ38cmで性格は不明である。

炉 中央から北東寄りにあり、長径50cm、短径42cmの楕円形で、炉床は掘り窪められておらず、床面が赤変硬化している程度である。

覆土 5層からなり、自然堆積である。第1層はローム粒子を微量含む暗褐色土、第2層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土、第3層はローム粒子を多量とローム小ブロックを少量含む明褐色土、第4層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第5層はローム粒子を多量に含む明褐色土である。

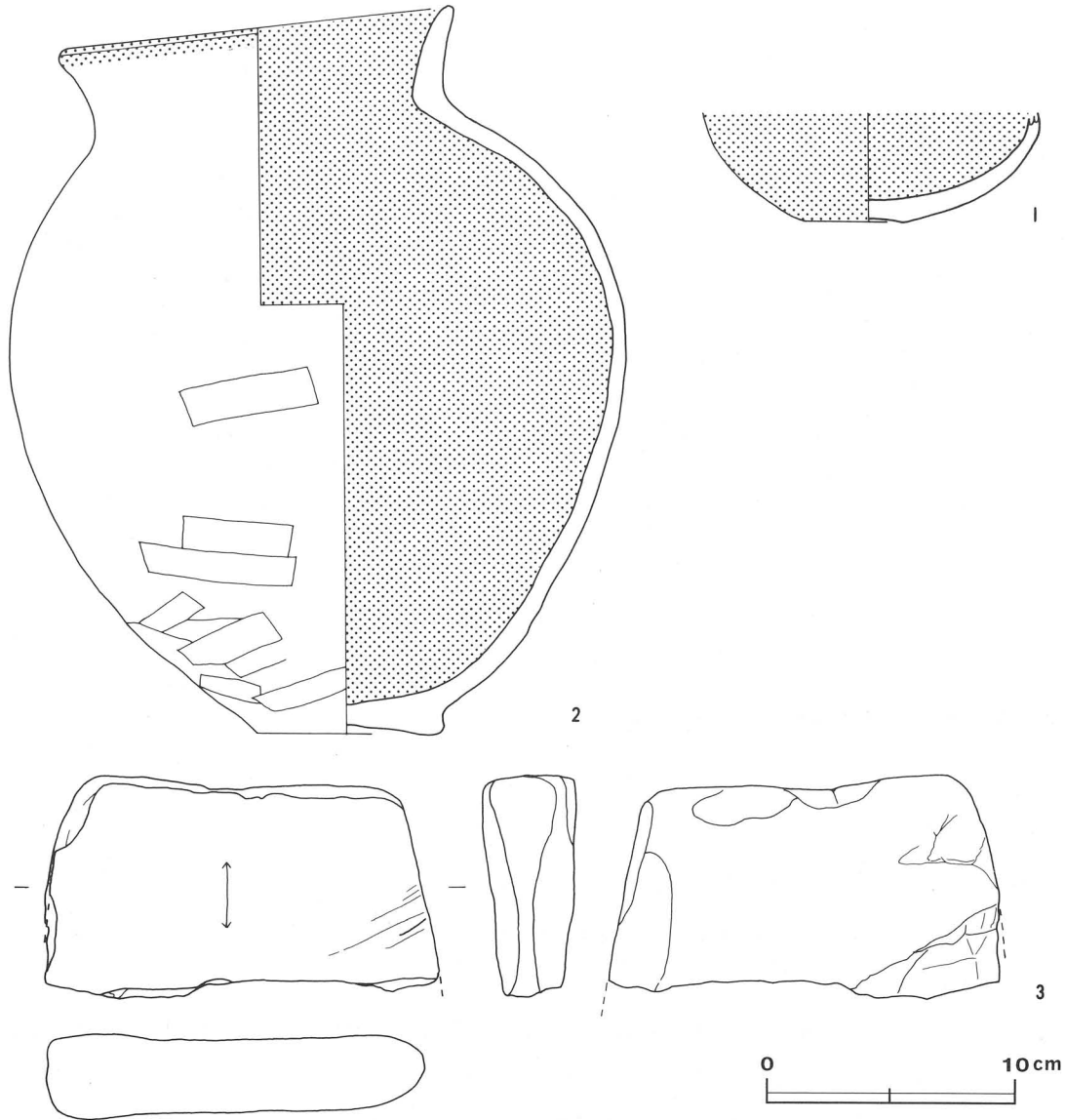
遺物 覆土中から土師器の坏・甕片が極少量出土している。第188図1の土師器坏と2の土師器甕は南東壁から東コーナー寄りの覆土中層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から古墳時代中期頃の住居跡と考えられる。

第72号住居跡出土遺物観察表図版番号

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第188図 1	坏 土師器	B (4.5) C 4.2	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎気味に立ち上がる。	内・外面摩耗。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 521 20% 覆土中層
2	甕 土師器	A [15.7] B 5.6	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 519 P L 67 50% 覆土中層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
3	砥石	(6.1)	10.6	2.6	210.1	覆土 Q180 砂岩	P L 70



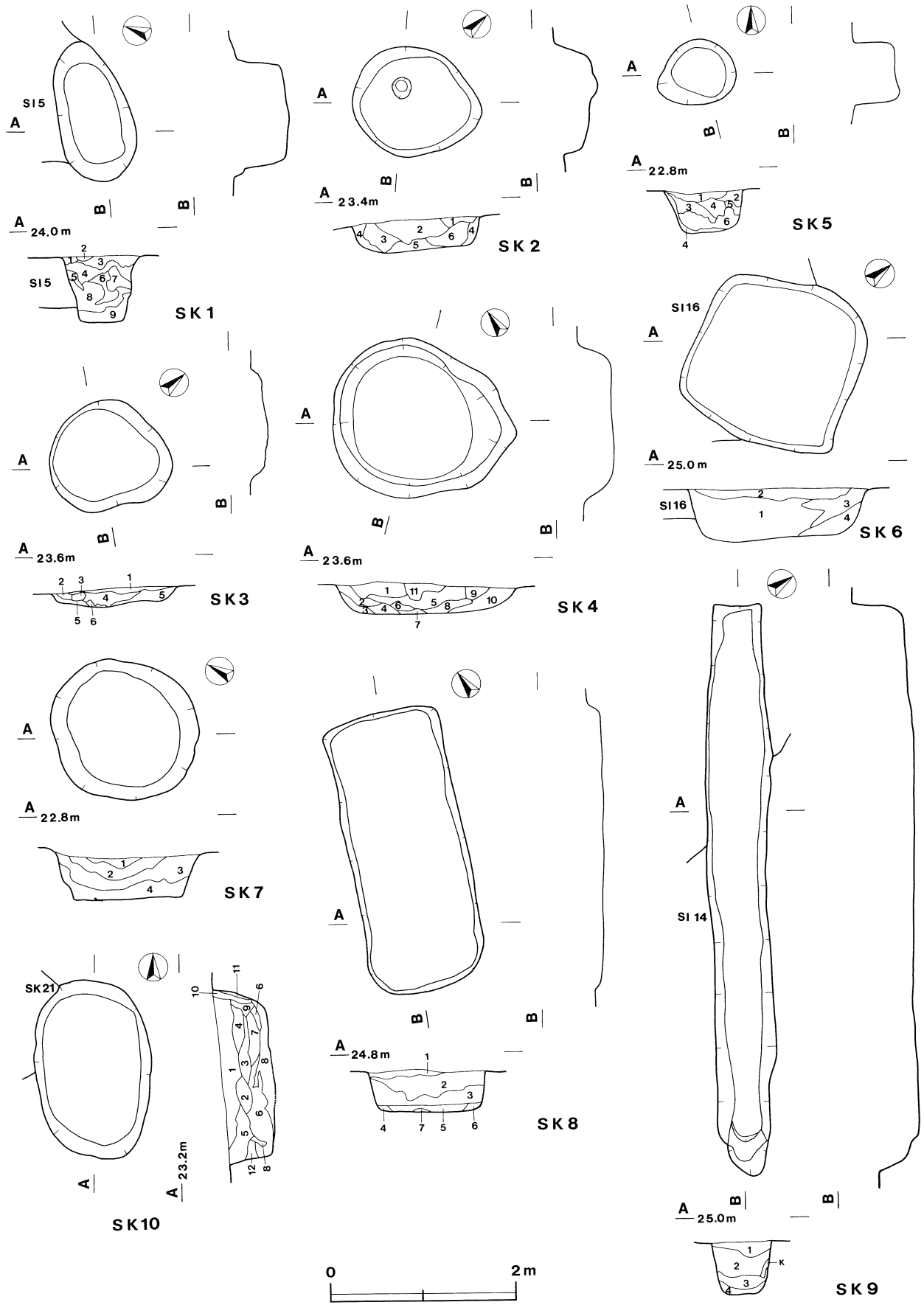
第188図 第72号住居跡出土遺物実測図

(2) 土 坑

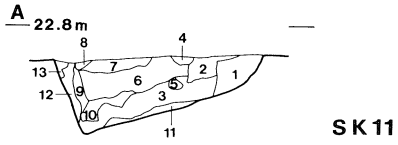
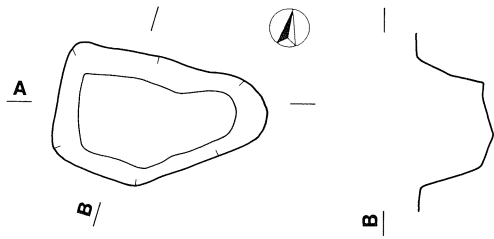
当遺跡で確認した土坑は、第1～249号までの230基である。その内、第138, 155, 162, 234～239, 241～248号については、調査及び整理の過程で、芋穴等の近・現代に属する掘り込みや木根痕と判断したため欠番とした。第80, 102, 155号については、縄文時代の陥し穴と考えられ、第3章第3節1の(2)に掲載した。

土坑の大半は、出土遺物に大きな差異が認められないが、古墳時代のほぼ同時期に構築されたものと考えられ、性格は不明である。

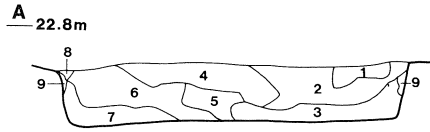
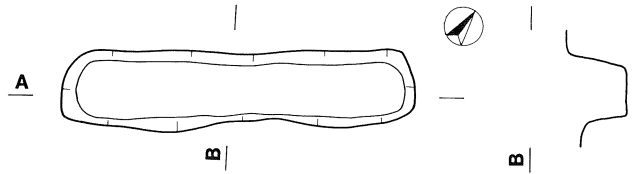
なお、出土遺物がなく時期や性格が不明のもの及び平安時代の住居跡を掘り込んでいる第156・157号土坑についても、一覧表に記載し報告する。



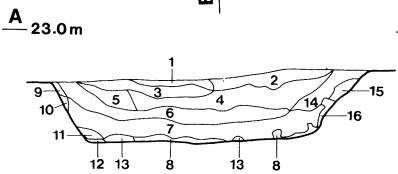
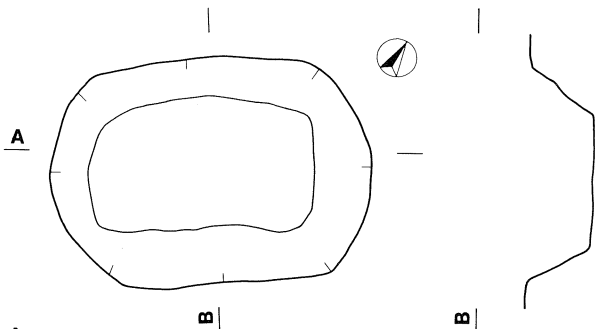
第189图 土坑实测图(1)



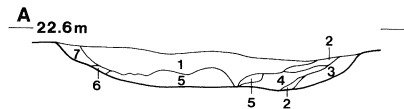
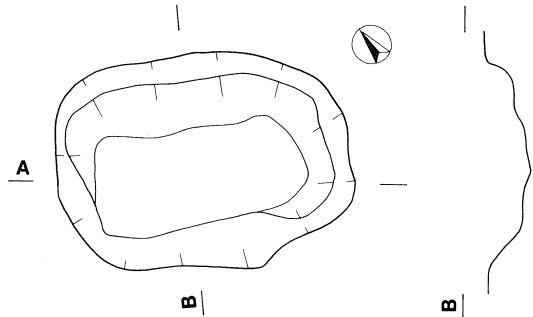
SK 11



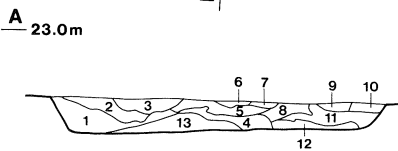
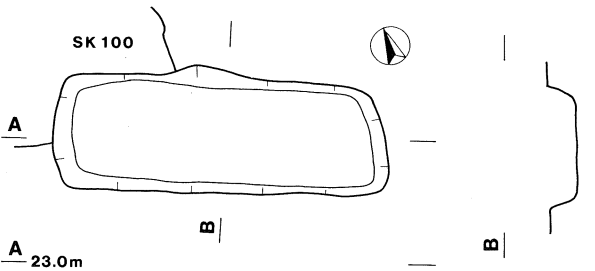
SK 12



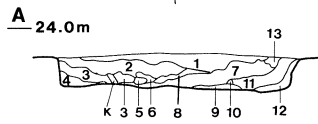
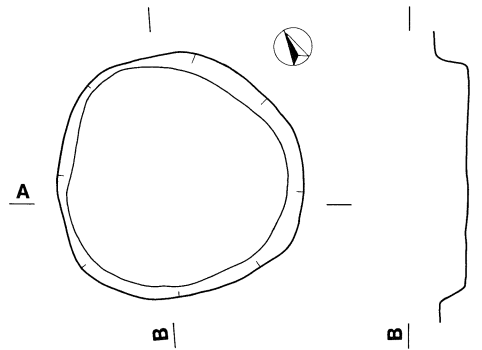
SK 13



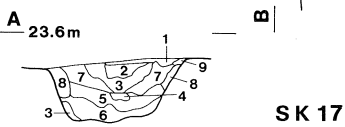
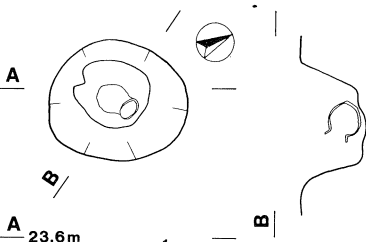
SK 14



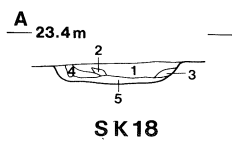
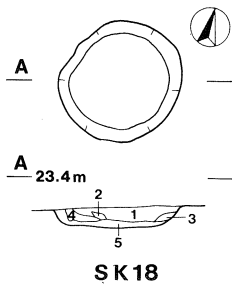
SK 15



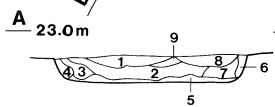
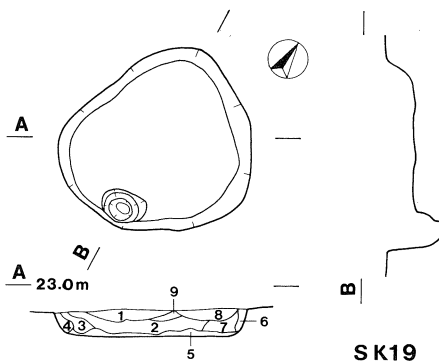
SK 16



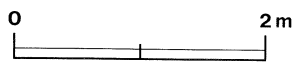
SK 17



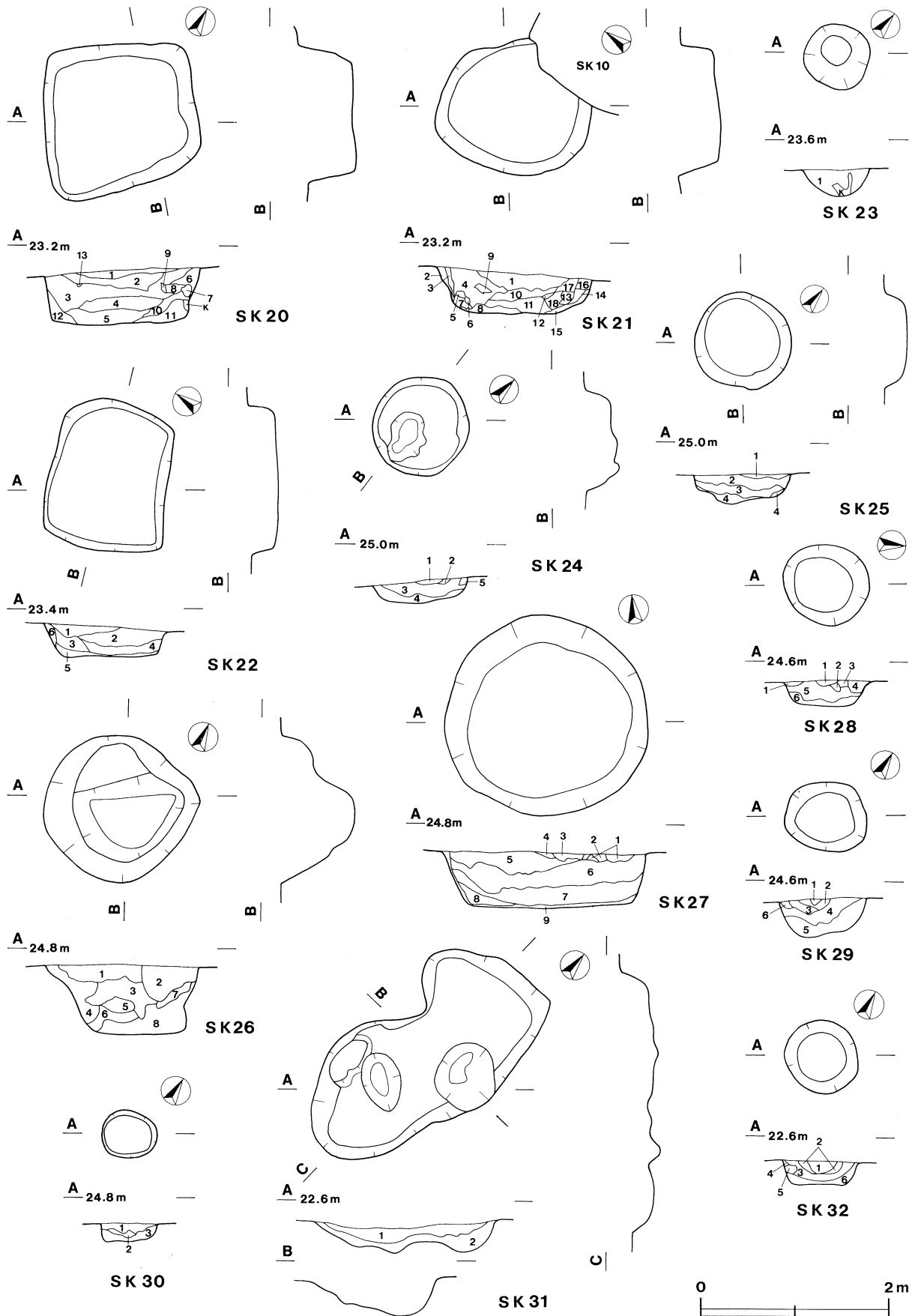
SK 18



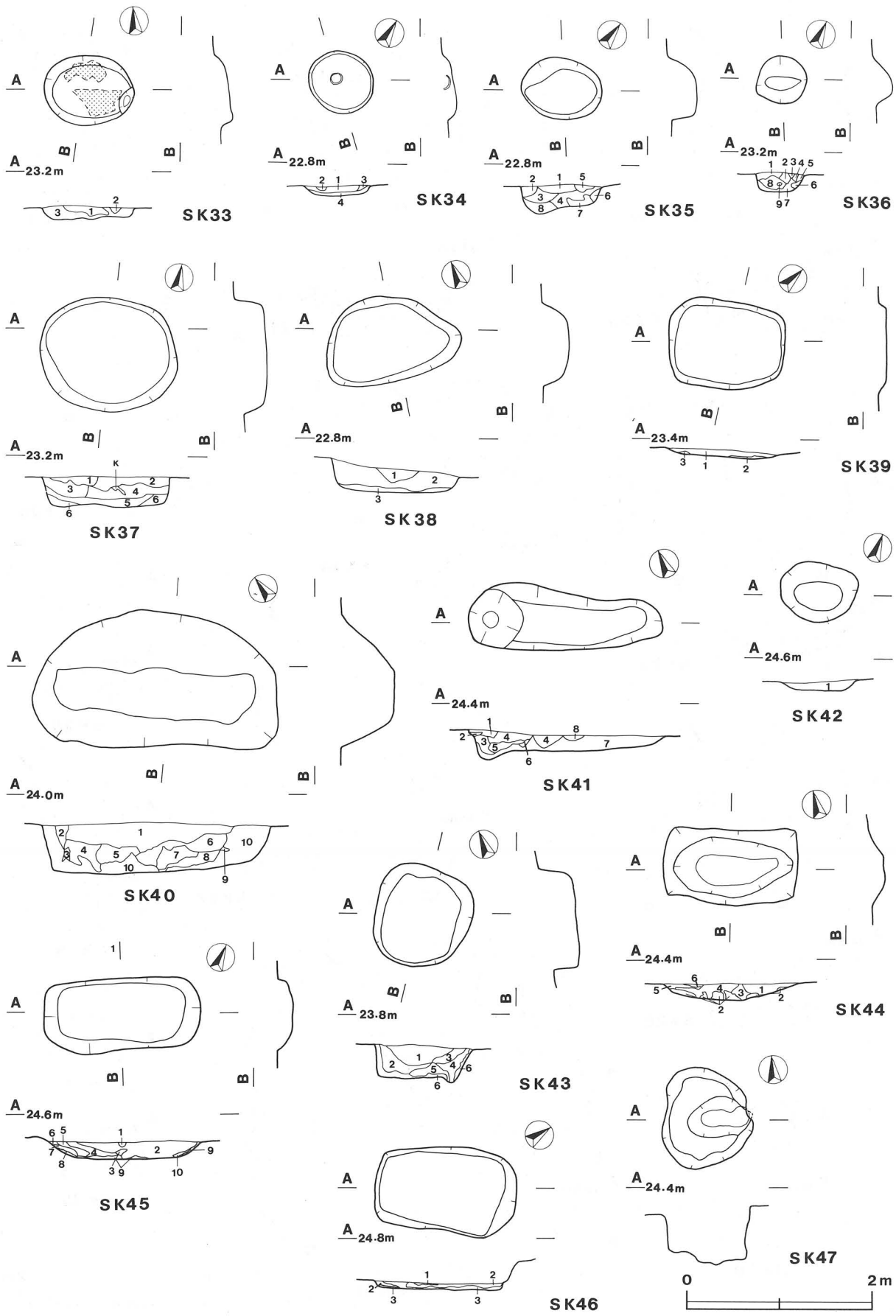
SK 19



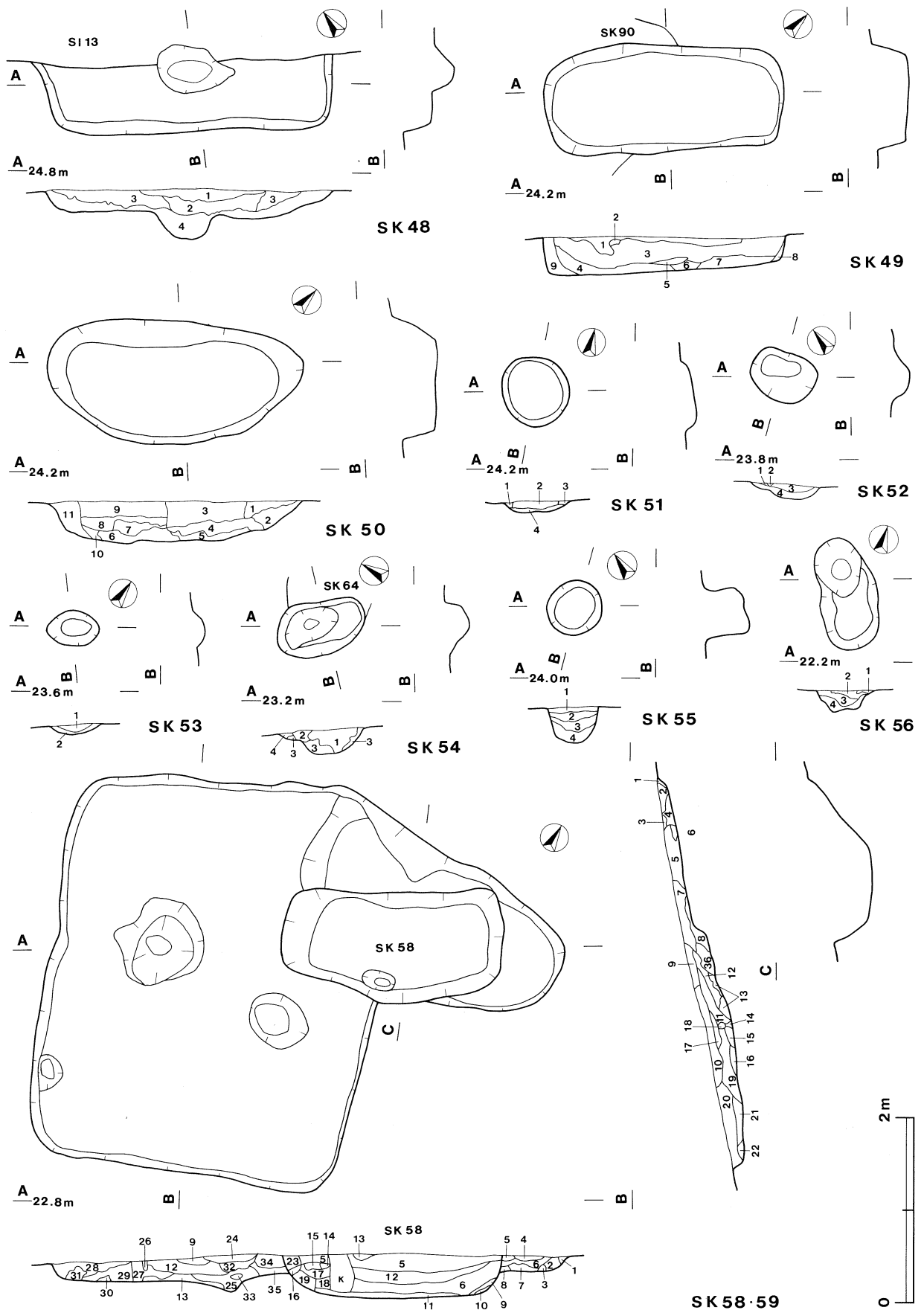
第190图 土坑实测图(2)



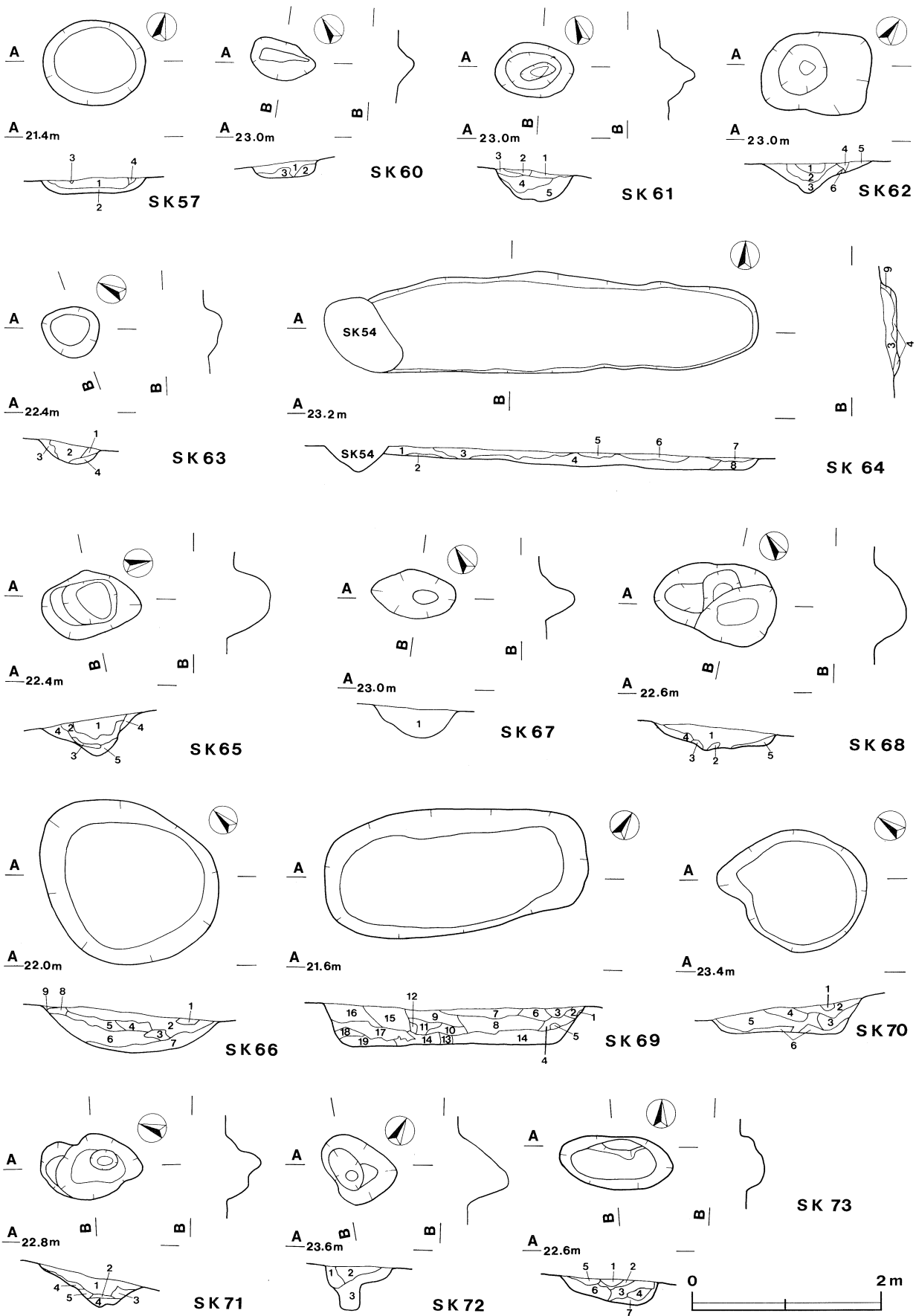
第191图 土坑实测图(3)



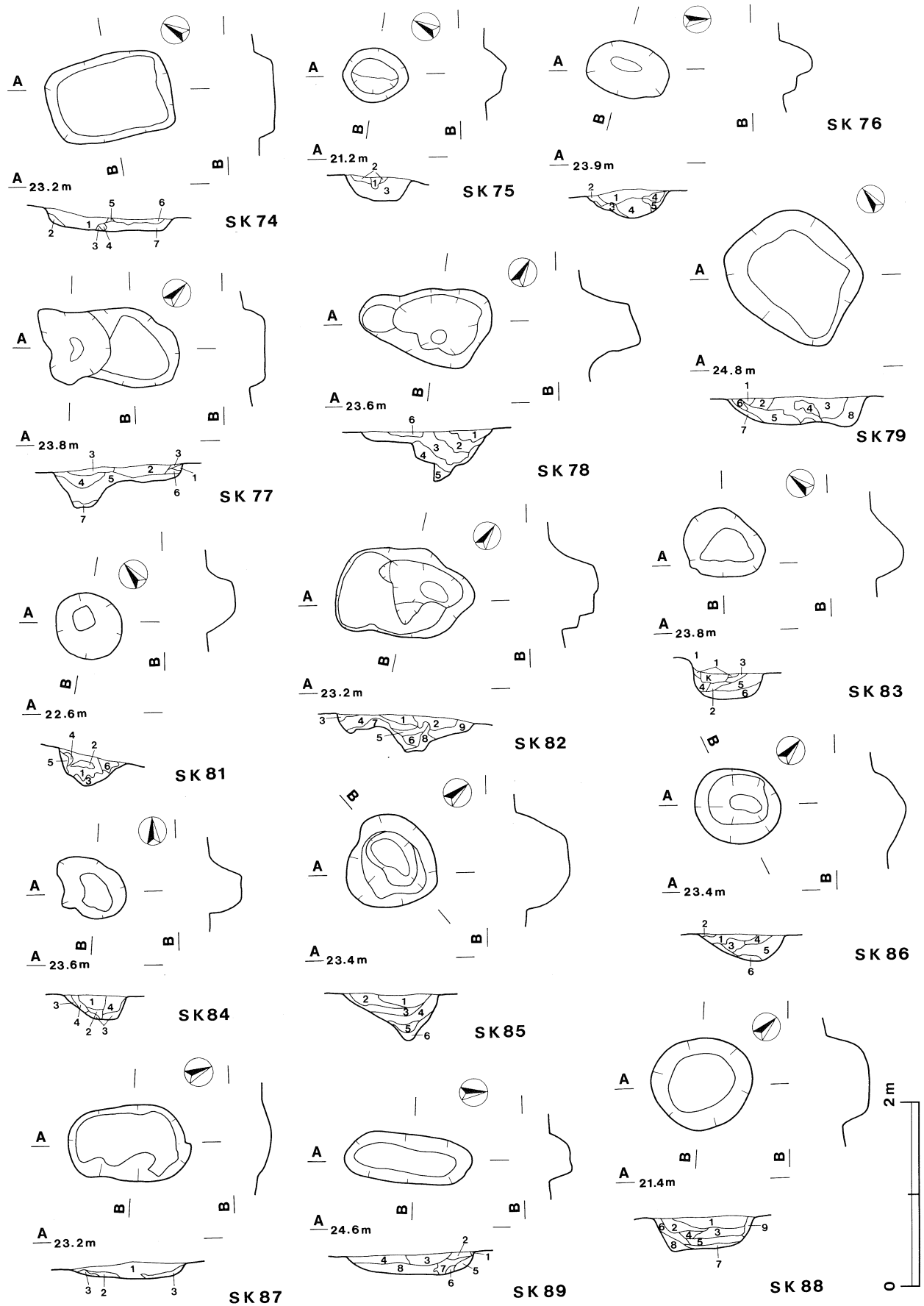
第192图 土坑实测图(4)



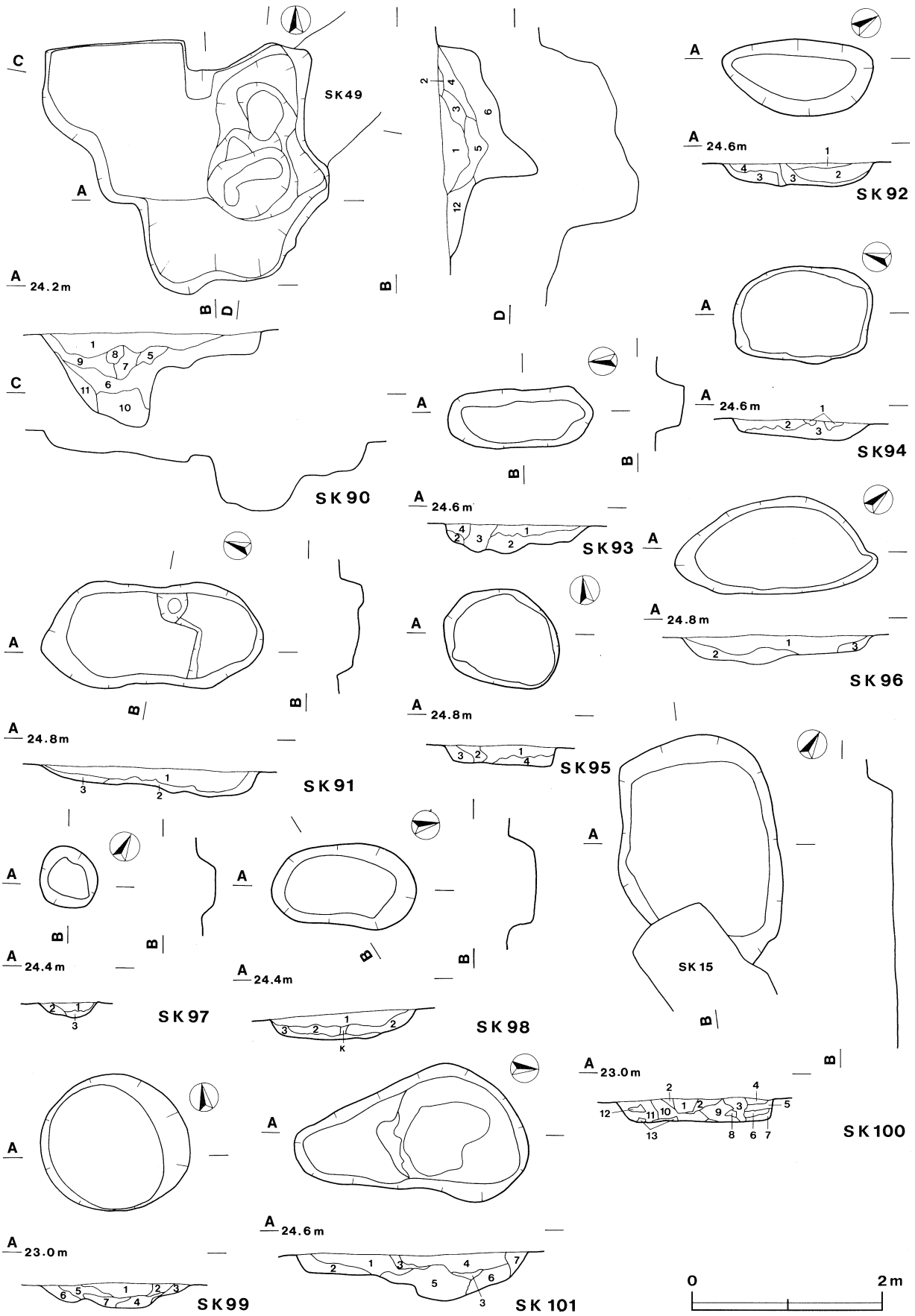
第193図 土坑実測図(5)



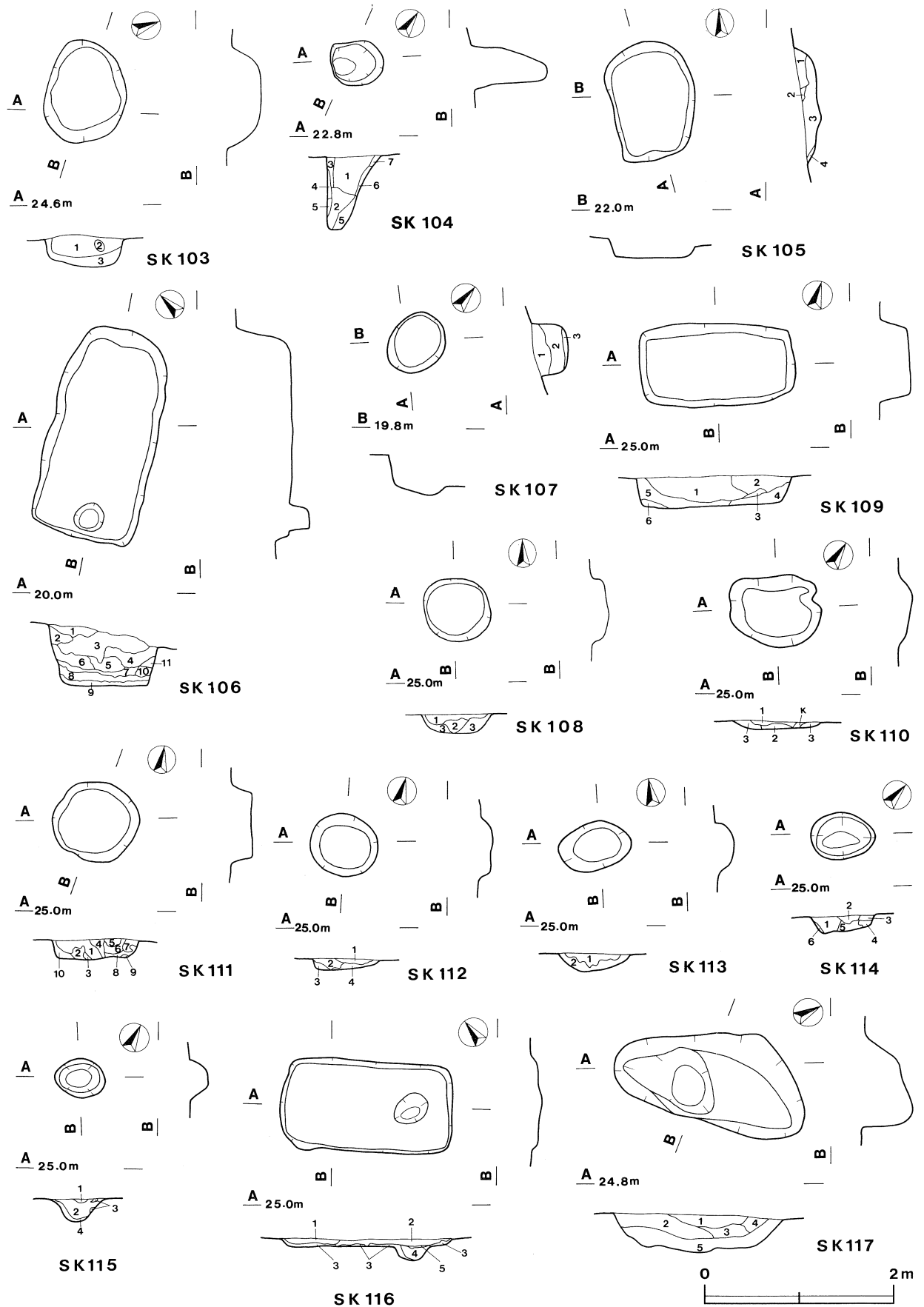
第194図 土坑実測図(6)



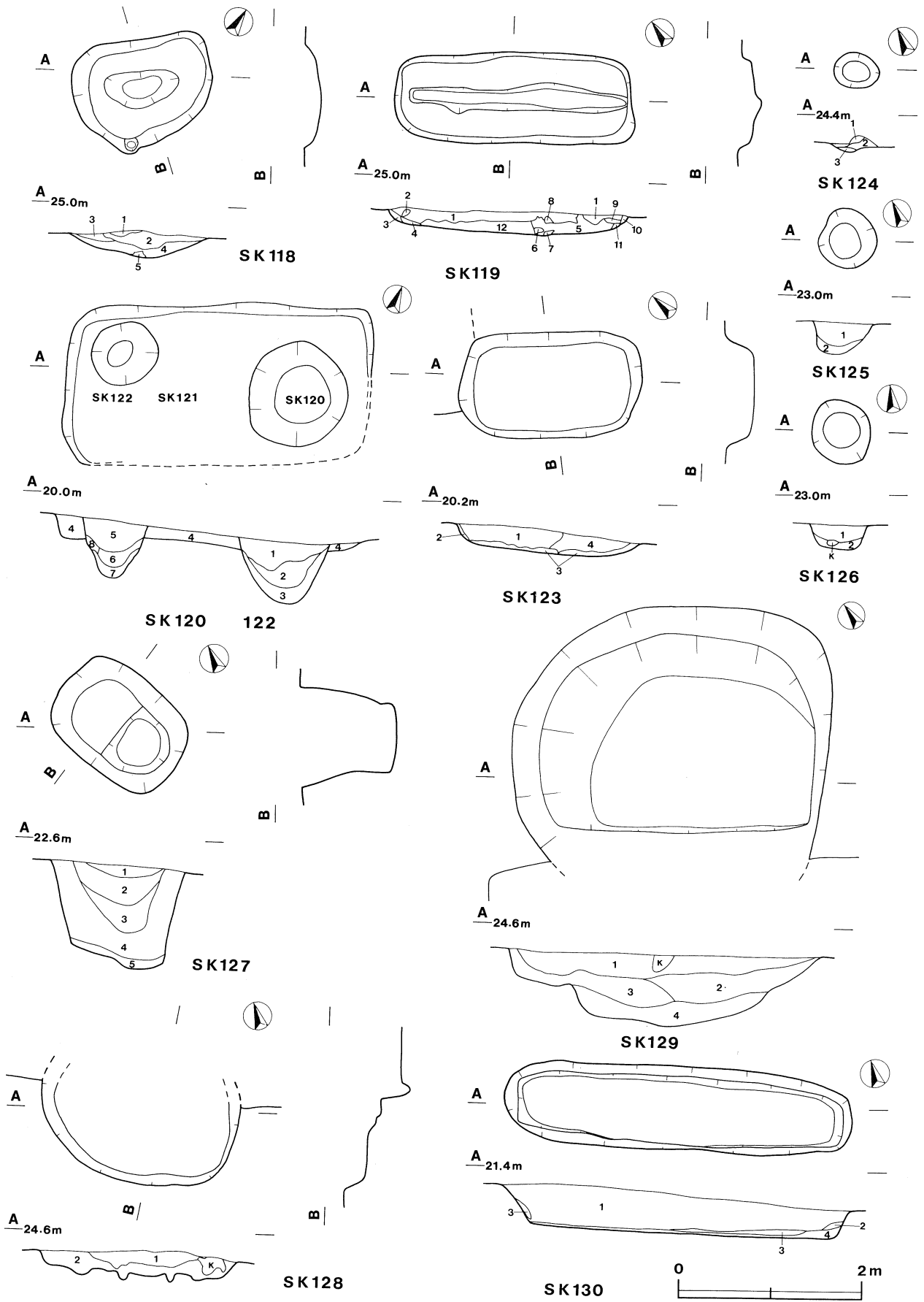
第195图 土坑实测图(7)



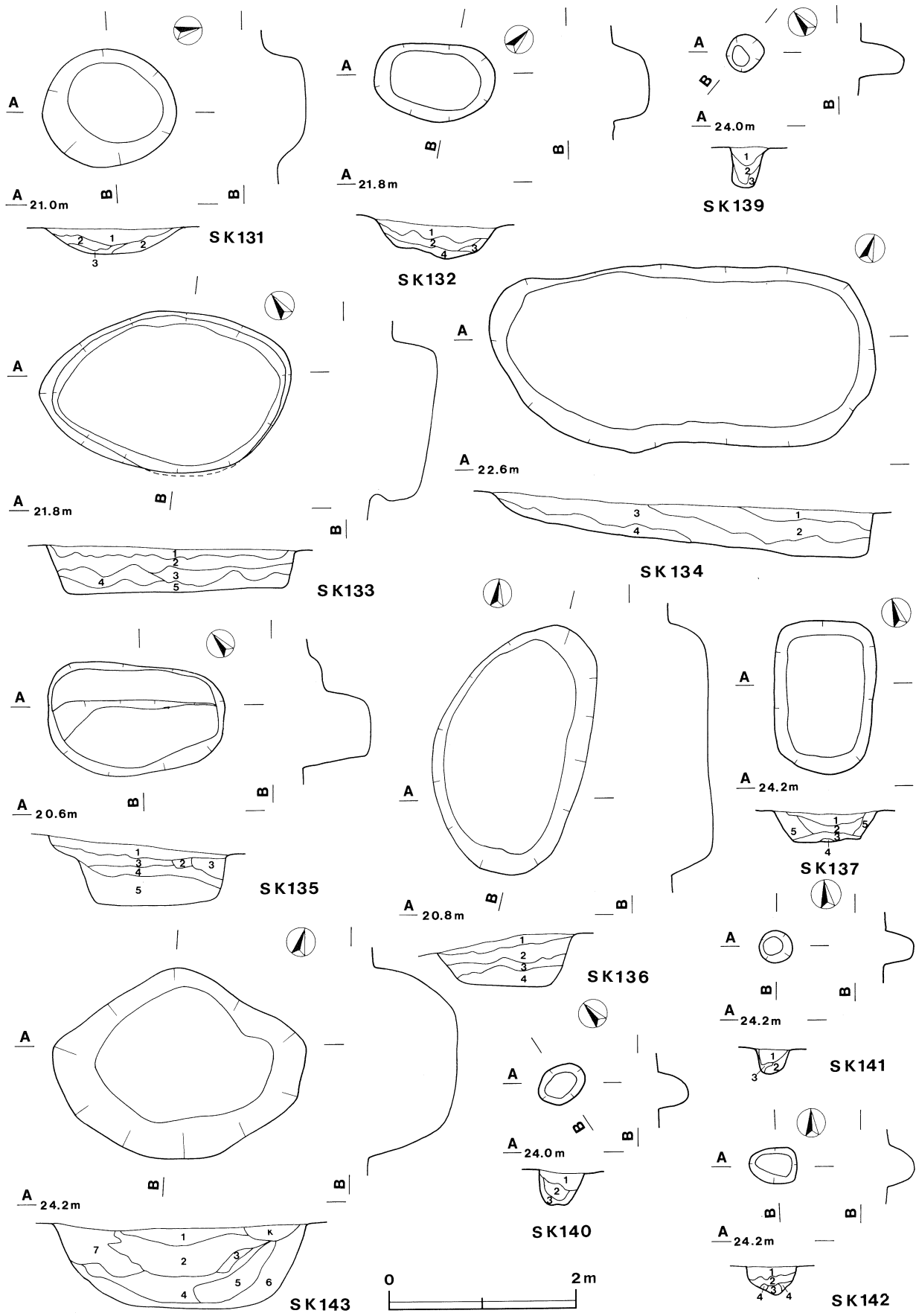
第196図 土坑実測図(8)



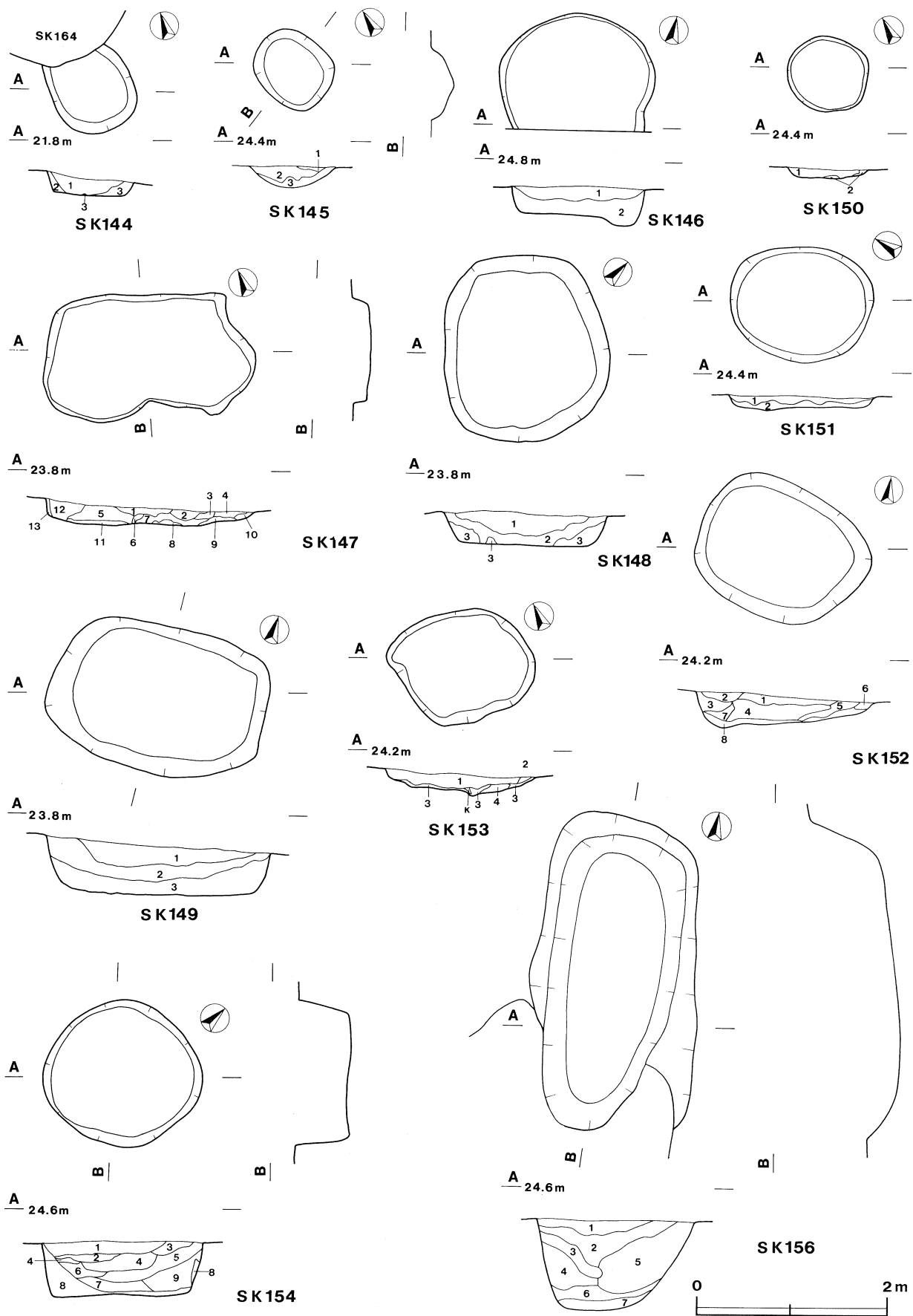
第197图 土坑实测图(9)



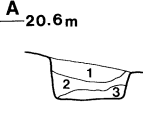
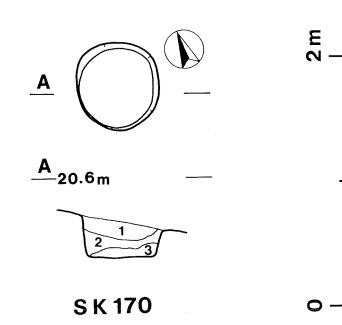
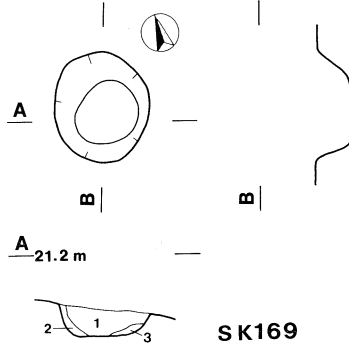
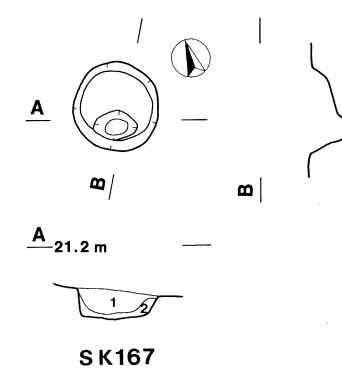
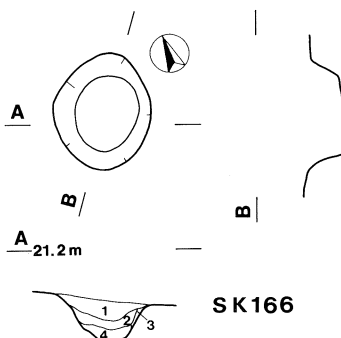
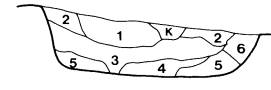
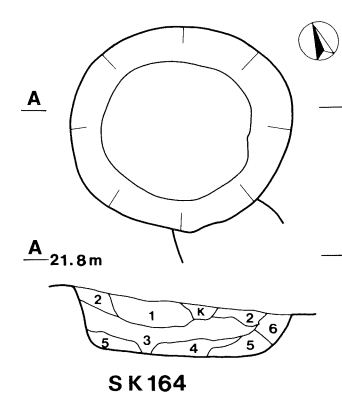
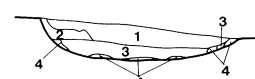
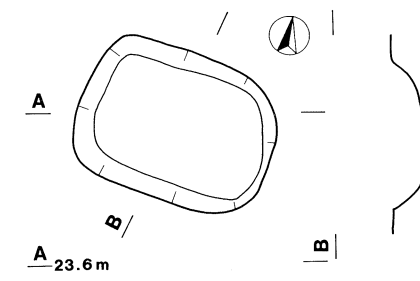
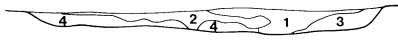
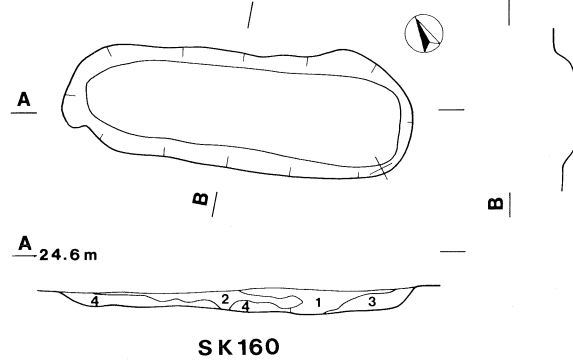
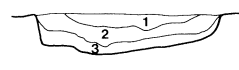
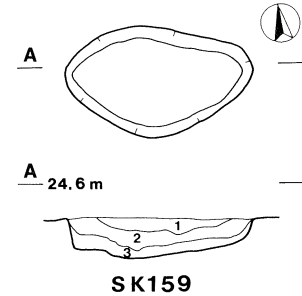
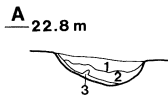
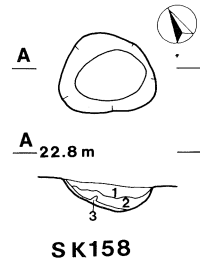
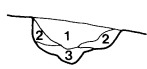
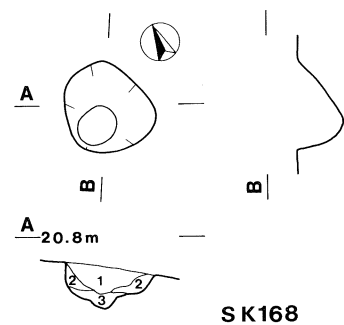
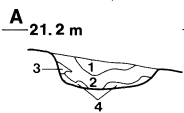
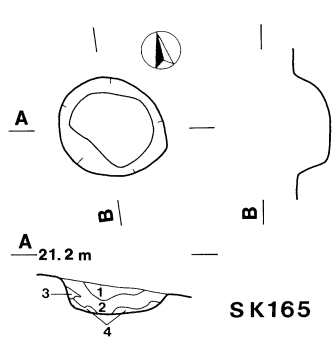
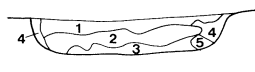
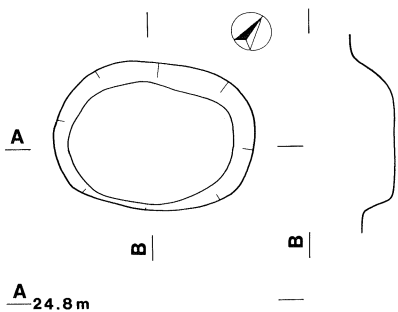
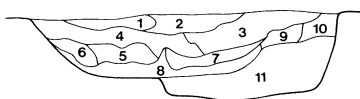
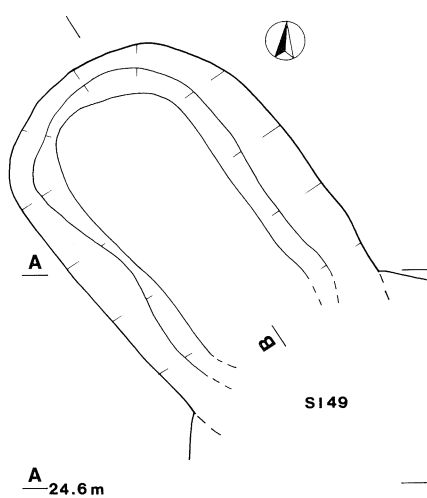
第198图 土坑实测图(10)



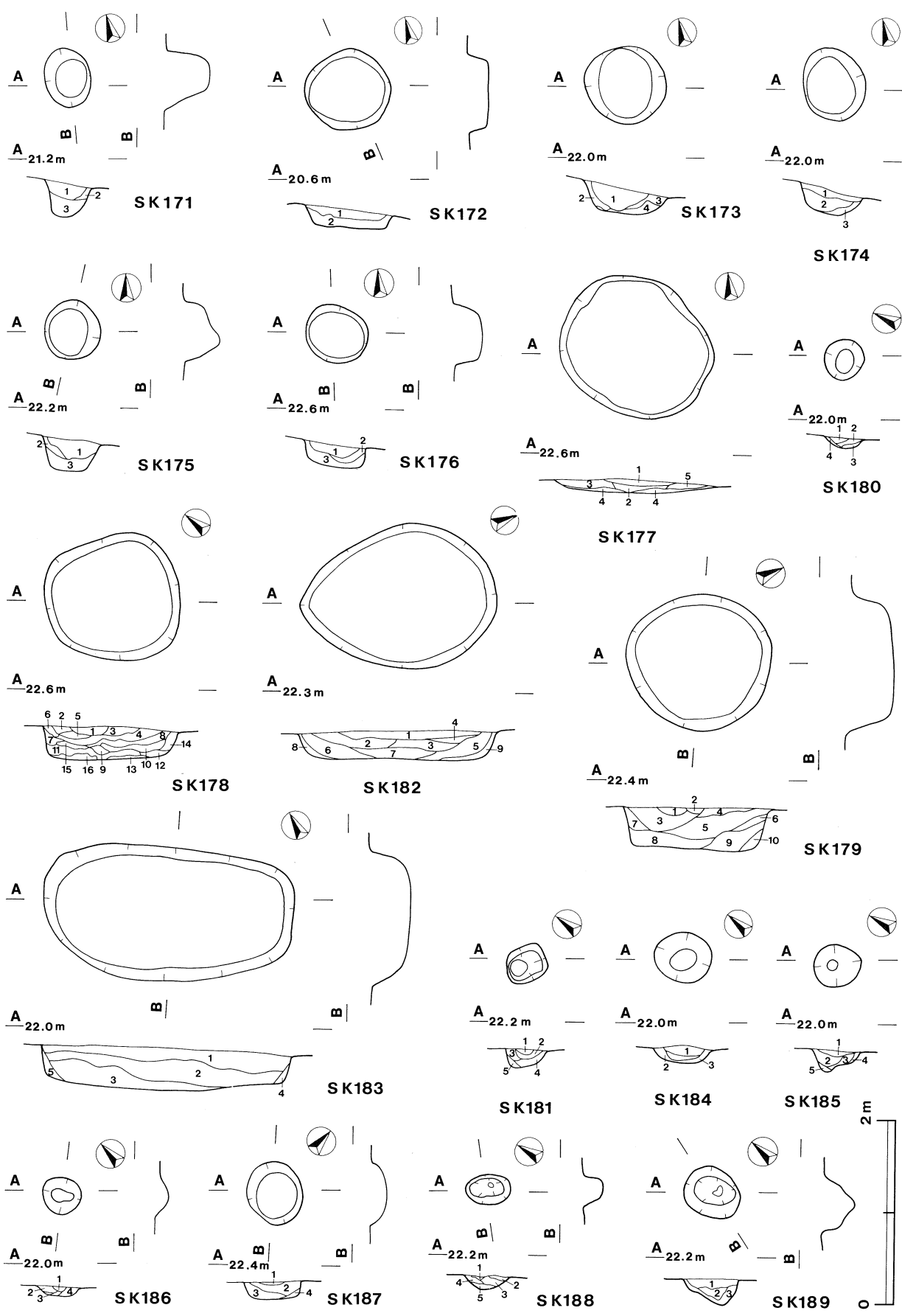
第199图 土坑实测图(11)



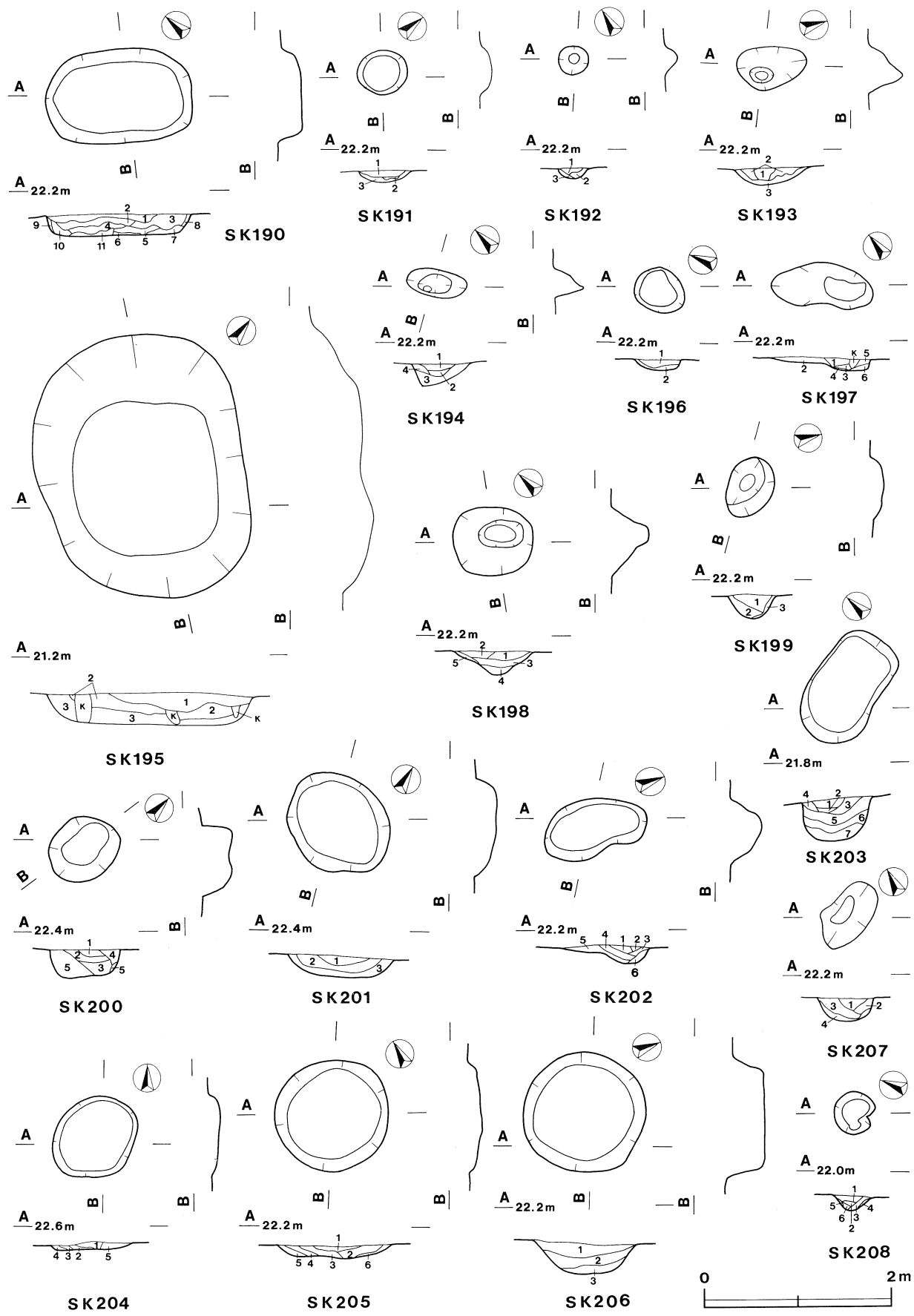
第200图 土坑实测图(12)



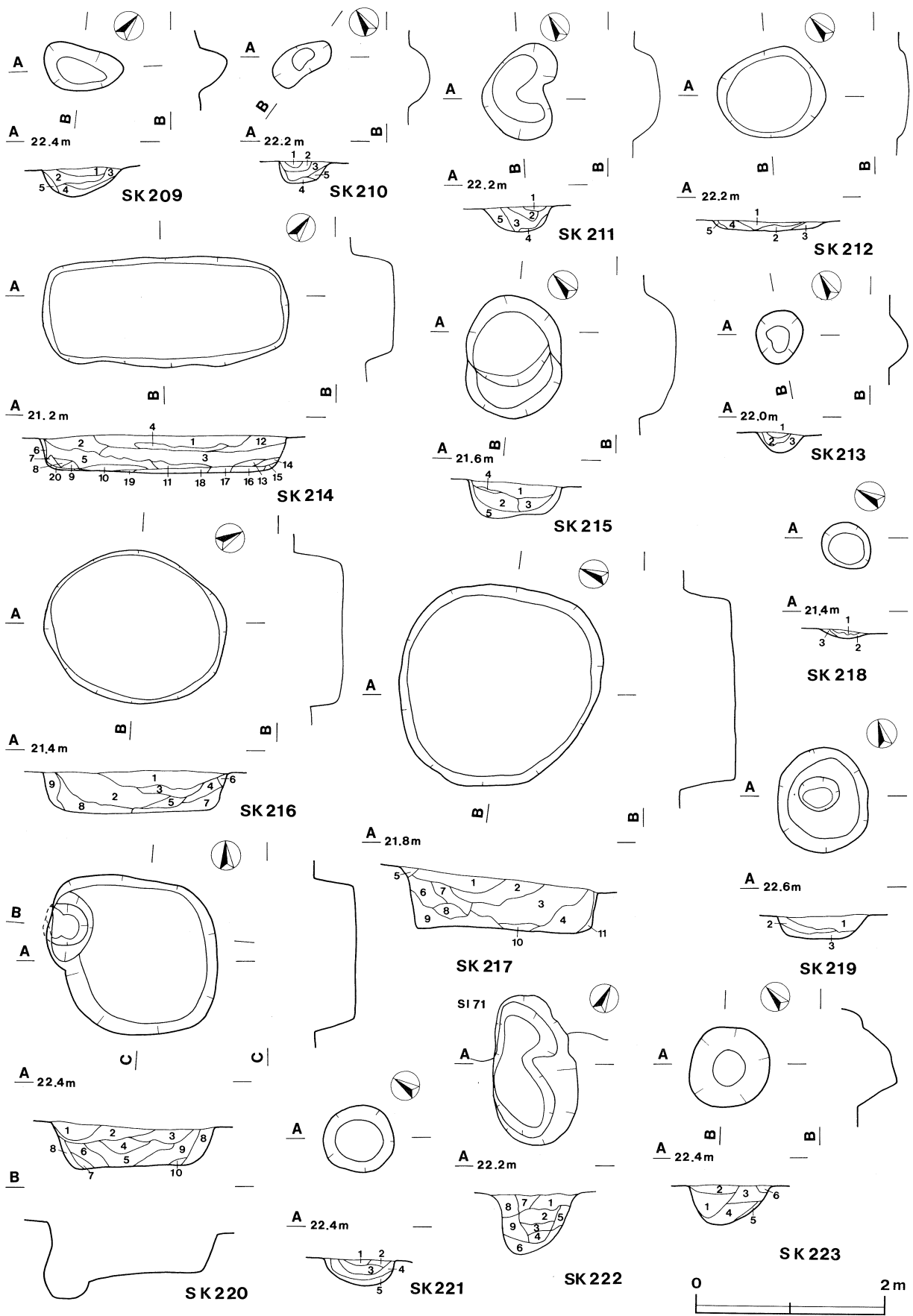
第201图 土坑实测图(13)



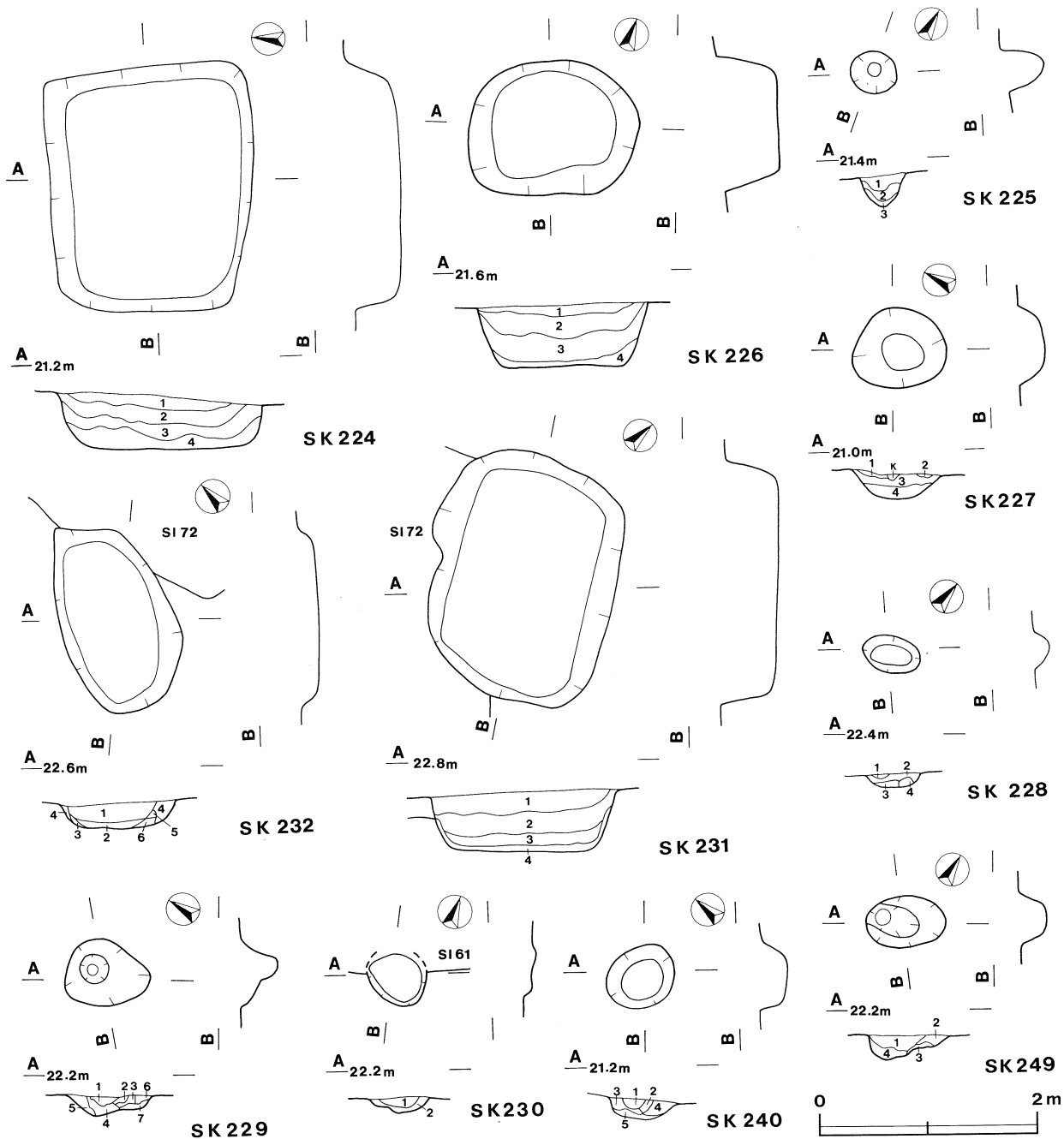
第202图 土坑实测图(14)



第203图 土坑实测图(15)



第204图 土坑实测图(16)



第205図 土坑実測図(17)

土坑土層解説

第1号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子・炭化物微量
- 7 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子中量
- 9 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第2号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

- 3 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 5 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第3号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化物少量, 炭化粒子中量
- 4 暗褐色 ローム粒子・炭化物中量, 炭化粒子多量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

第4号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子中量
- 5 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 9 褐色 ローム粒子微量
- 10 黄褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 11 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量

第5号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・黒色土ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量

第6号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量

第7号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第8号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子中量
- 6 暗褐色 焼土粒子少量
- 7 明褐色 ローム粒子微量

第9号土坑土層解説

- 1 黄褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
- 4 黄褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック中量

第10号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・炭化物少量
- 5 褐色 ローム粒子・炭化粒子・炭化物少量
- 6 暗褐色 ローム粒子・炭化物少量, 炭化粒子中量
- 7 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 炭化粒子・炭化粒子少量
- 8 黒色 炭化物多量
- 9 褐色 ローム粒子多量, 炭化物少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 11 赤褐色 焼土粒子多量
- 12 赤褐色 ローム粒子中量

第11号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子・暗褐色土少量
- 5 褐色 ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子多量
- 9 褐色 ローム粒子少量
- 10 暗褐色 ローム粒子少量
- 11 明褐色 ローム粒子微量
- 12 褐色 ローム粒子微量
- 13 褐色 ローム粒子少量

第12号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小・中ブロック微量
- 6 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 8 褐色 ローム粒子少量
- 9 褐色 ローム粒子微量

第13号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量, 砂粒少量
- 2 黄褐色 ローム粒子・炭化粒子微量, 砂粒多量
- 3 明褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子微量, 炭化粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック微量
- 8 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量, ローム小ブロック少量
- 9 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 10 黄褐色 ローム粒子少量
- 11 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 12 明褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 13 明褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 14 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化物微量
- 15 黄褐色 ローム粒子微量
- 16 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

第14号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・炭化物・砂粒微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック・炭化物少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化物少量
- 5 黒褐色 ローム粒子微量, 炭化物多量
- 6 ぶい赤褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物少量, 炭化粒子微量
- 7 黄褐色 ローム粒子多量

第15号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・炭化粒子・炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化物多量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小・中ブロック少量, 炭化粒子・炭化物少量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・炭化粒子・炭化物少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物多量
- 6 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 炭化物中量
- 7 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 9 褐色 ローム粒子・炭化物中量
- 10 褐色 ローム粒子・炭化物少量
- 11 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量, ローム小ブロック中量
- 12 褐色 ローム粒子・炭化粒子・炭化物少量
- 13 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子・炭化物中量

第16号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 6 黄褐色 ローム粒子微量

- 7 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 9 黄褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 10 黄褐色 ローム粒子微量
- 11 褐色 ローム粒子微量
- 12 黄褐色 ローム粒子少量
- 13 褐色 ローム粒子少量

第17号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック中量
- 7 褐色 ローム粒子少量
- 8 明褐色 ローム粒子多量
- 9 明褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量

第18号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 黄褐色 ローム粒子少量

第19号土坑土層解説

- 1 明赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック少量, 焼土粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 明褐色 ローム粒子多量
- 5 褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 8 黒褐色 ローム粒子少量
- 9 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

第20号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子中量
- 8 暗褐色 ローム粒子少量
- 9 暗褐色 ローム粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子少量
- 11 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 12 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 13 暗褐色 ローム粒子少量

第21号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子中量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 9 褐色 ローム粒子少量
- 10 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 11 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 12 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量, 焼土粒子中量
- 13 褐色 ローム粒子少量

- 14 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 15 褐色 ローム粒子少量
- 16 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 17 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量, 炭化粒子少量
- 18 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第22号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子少量
- 6 明褐色 ローム粒子多量

第23号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量

第24号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 黄褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量
- 5 明褐色 ローム粒子多量

第25号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 4 黄褐色 ローム粒子少量, ローム小・大ブロック微量

第26号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 5 明褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 7 黄褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 8 黄褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

第27号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 9 黄褐色 ローム粒子少量

第28号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子少量, ローム小・中ブロック微量

第29号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・

- 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子, ローム小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子微量

第30号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 黄褐色 ローム粒子多量

第31号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子微量, ローム小ブロック中量

第32号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子微量

第33号土坑土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土中ブロック少量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
- 3 明褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子多量

第34号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子微量
- 4 明褐色 ローム粒子微量

第35号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 黄褐色 ローム粒子微量
- 7 黄褐色 ローム粒子少量
- 8 黄褐色 ローム粒子多量

第36号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 黄褐色 ローム粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子微量
- 7 黄褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 8 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 黄褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

第37号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子・焼土小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 5 ぶい黄褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 6 ぶい黄褐色 ローム粒子多量

第38号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子微量
- 3 ぶい黄褐色 ローム粒子多量

第39号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・炭化物多量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子多量, 炭化物中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量・炭化粒子・炭化物少量

第40号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子少量
- 9 暗褐色 ローム粒子微量
- 10 褐色 ローム粒子少量

第41号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 黄褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子微量
- 7 黄褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 8 褐色 ローム粒子微量

第42号土坑土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第43号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

第44号土坑土層解説

- 1 褐色 炭化粒子少量, 炭化物中量
- 2 明褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子多量, 炭化物中量
- 5 黒褐色 炭化粒子・炭化物多量
- 6 明褐色 炭化粒子微量

第45号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子多量, 炭化物中量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 炭化粒子多量
- 4 黒褐色 炭化粒子・炭化物多量
- 5 暗褐色 炭化粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・炭化物少量
- 7 黒褐色 焼土小ブロック少量, 炭化粒子・炭化物中量
- 8 褐色 炭化物少量
- 9 明褐色 ローム粒子微量
- 10 オリーブ黒色 炭化粒子・炭化物少量

第46号土坑土層解説

- 1 褐色 炭化粒子・炭化物少量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量, 炭化物少量
- 3 明褐色 ローム粒子多量

第48号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量

第49号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量,炭化物多量
- 2 明褐色 ローム粒子微量,炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子・炭化物中量,ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子少量,炭化物多量
- 5 褐色 ローム粒子中量,ローム小・中ブロック・焼土粒子少量,炭化物多量
- 6 褐色 ローム粒子中量,炭化物少量
- 7 褐色 ローム粒子・炭化物少量
- 8 黄褐色 ローム粒子多量
- 9 明褐色 ローム粒子中量,ローム小ブロック少量

第50号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 黄褐色 ローム粒子少量,ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量,ローム中ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 5 黄褐色 ローム粒子微量
- 6 黄褐色 ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 9 褐色 ローム粒子少量,ローム小ブロック微量
- 10 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 11 黄褐色 ローム粒子多量

第51号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土小ブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子少量,ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 黄褐色 ローム粒子少量

第52号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量
- 4 明褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

第53号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子微量

第54号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子微量

第55号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 黄褐色 ローム粒子微量

第56号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量

第57号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・粘土小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量

第58・59号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子微量,砂粒多量

6 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量

- 7 褐色 ローム粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子少量
- 9 暗赤褐色 ローム粒子微量,焼土粒子中量
- 10 褐色 焼土粒子少量,炭化粒子微量
- 11 暗褐色 炭化粒子・炭化物少量
- 12 褐色 ローム粒子・炭化粒子・炭化物微量
- 13 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 14 褐色 ローム粒子微量
- 15 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 16 暗褐色 ローム粒子・炭化物微量,炭化粒子少量
- 17 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 18 褐色 ローム粒子少量
- 19 褐色 ローム粒子中量,ローム小ブロック微量
- 20 暗褐色 ローム粒子微量
- 21 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 22 褐色 ローム粒子微量
- 23 褐色 炭化粒子微量
- 24 暗褐色 ローム粒子微量
- 25 褐色 ローム粒子・炭化物微量
- 26 褐色 ローム粒子中量
- 27 暗褐色 炭化粒子微量
- 28 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 29 褐色 ローム粒子微量
- 30 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 31 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 32 褐色 ローム粒子少量,ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 33 暗褐色 ローム粒子微量
- 34 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 35 褐色 ローム粒子多量
- 36 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第60号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量,炭化粒子極微量

第61号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子微量

第62号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子極微量

第63号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第64号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量,ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量

第65号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第66号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 9 暗褐色 ローム粒子微量

第67号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量,ローム大ブロック少量

第68号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量
- 5 明褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量

第69号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量,ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 炭化物微量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量,炭化物多量
- 5 褐色 ローム粒子多量,ローム小ブロック中量
- 6 明褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 8 明褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量
- 10 暗褐色 ローム粒子・炭化物少量
- 11 暗褐色 ローム粒子微量
- 12 暗褐色 ローム粒子・炭化物中量
- 13 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 14 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量,炭化粒子・炭化物少量
- 15 暗褐色 ローム粒子少量
- 16 暗褐色 ローム粒子・炭化物微量,炭化粒子少量
- 17 黒褐色 ローム粒子少量,ローム小ブロック多量,炭化物中量
- 18 褐色 ローム粒子少量,炭化物中量
- 19 黒色 ローム粒子微量,炭化物多量

第70号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子微量

第71号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子極微量
- 5 褐色 ローム粒子微量

第72号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子微量

第73号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子微量
- 7 黄褐色 ローム粒子微量

第74号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 黄褐色 ローム粒子多量
- 3 褐色 ローム粒子・炭化粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子多量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 6 明褐色 ローム粒子微量, 炭化粒子多量
- 7 黒色 炭化物多量

第75号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量

第76号土坑土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子微量
- 5 黄褐色 ローム粒子少量

第77号土坑土層解説

- 1 黄褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子微量

第78号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子微量

第79号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化物多量
- 6 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 7 黄褐色 ローム粒子中量
- 8 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量

第80号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量
- 6 褐色 ローム粒子少量

第82号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量
- 6 褐色 ローム粒子少量
- 7 褐色 炭化粒子多量
- 8 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 9 褐色 ローム粒子少量

第83号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

- 6 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第84号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子微量

第85号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子多量

第86号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子中量

第87号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・炭化粒子・炭化物少量
- 2 褐色 炭化粒子・炭化物多量
- 3 褐色 ローム粒子・炭化粒子中量, 炭化物少量

第88号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量
- 8 褐色 ローム粒子少量
- 9 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

第89号土坑土層解説

- 1 黄褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子微量, ローム小ブロック少量
- 5 黄褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 8 黄褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

第90号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 黄褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
- 5 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 9 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物微量
- 11 黄褐色 ローム粒子微量

第91号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黄褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量, ローム中ブロック少量
- 3 黄褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

第92号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量

- 2 黄褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 黄褐色 ローム粒子微量, ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量

第93号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 黄褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

第94号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 3 黄褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土小ブロック微量

第95号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子微量
- 4 黄褐色 ローム粒子微量, ローム小ブロック少量

第96号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 3 黄褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量

第97号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第98号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第99号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

第100号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 7 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ローム粒子微量
- 9 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 10 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 11 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 12 黒褐色 ローム粒子微量
- 13 明褐色 ローム粒子少量

第101号土坑土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子微量
- 2 黄褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子微量, ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, ローム中～大ブロック少量

- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム小・大ブロック多量
- 6 褐色 ローム粒子・ローム小・大ブロック中量
- 7 褐色 ローム粒子少量

第103号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

第104号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 にぶい黄褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 6 褐色 ローム粒子微量, ローム小ブロック少量
- 7 黄褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第105号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量, 炭化物中量
- 4 暗褐色 ローム粒子・炭化物中量

第106号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化物微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 炭化物少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物中量
- 8 黒褐色 ローム粒子微量, 炭化物多量
- 9 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・炭化物微量
- 10 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 炭化物少量
- 11 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第107号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第108号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第109号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第110号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子微量

第111号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 8 暗褐色 ローム粒子微量
- 9 褐色 ローム粒子微量
- 10 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第112号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第113号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量

第114号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子中量

第115号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量

第116号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量, 炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 炭化物多量
- 3 明褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子微量, 炭化物少量

第117号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量

第118号土坑土層解説

- 1 赤褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子・焼土小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 5 黄褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量

第119号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子・焼土小ブロック微量, 焼土粒子・炭化物少量
- 5 黒褐色 ローム粒子微量, 炭化物多量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子中量
- 7 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 9 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 10 褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 11 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 12 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物多量

第120・121・122号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 粘土粒子少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

- 6 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 7 黒褐色 粘土小ブロック少量
- 8 暗褐色 粘土粒子中量

第123号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物少量, 炭化材微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量, 炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 炭化物・炭化材微量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量, 炭化物少量

第124号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量

第125号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第126号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 粘土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第127号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化物微量
- 4 にぶい褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 5 極暗褐色 ローム粒子少量

第128号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

第129号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小・中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第130号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化物少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子微中量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化物微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化物中量

第131号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第132号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第133号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小・中ブロック少量, 炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量

第134号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小・中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

第135号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・炭化物中量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・炭化物中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・炭化物少量
- 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第136号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子中量

第137号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, 炭化物中量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化物中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 炭化物微量

第139号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子中量

第140号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 明褐色 ローム粒子多量

第141号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量, 炭化粒子・炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 3 明褐色 ローム粒子多量

第142号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 4 明褐色 ローム粒子多量

第143号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 2 明褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 6 褐色 ローム粒子多量
- 7 褐色 ローム粒子多量

第144号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第145号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第146号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子中量
- 2 橙褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量

第147号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 3 明緩斜ローム大ブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量, 焼土粒子微量
- 6 明褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子微量
- 7 にぶい褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 明褐色 ローム粒子多量
- 9 明褐色 ローム粒子多量
- 10 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 11 橙褐色 ローム粒子多量
- 12 明褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック少量
- 13 橙褐色 ローム粒子多量

第148号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量

第149号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量

第150号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第151号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

第152号土坑土層解説

- 1 黒暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・炭化物中量
- 5 黒色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子多量, 炭化物中量
- 6 褐色 ローム粒子多量
- 7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, 炭化物中量
- 8 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・炭化物少量

第153号土坑土層解説

- 1 黒暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 炭化物中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・炭化物中量, 炭化粒子多量

第154号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 明褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量, ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 5 にぶい褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子中量
- 7 明褐色 ローム粒子中量, ローム小・中ブロック少量
- 8 橙褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量

- 9 にぶい褐色 ローム粒子中量, ローム小・中ブロック少量

第156号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 灰褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子・焼土小ブロック少量, 炭化材中量

第157号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化材微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化材微量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量
- 6 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量, 炭化材少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化物微量
- 8 灰褐色 ローム粒子・炭化材中量
- 9 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 10 褐色 ローム粒子中量
- 11 褐色 ローム大ブロック多量

第158号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量

第159号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量

第160号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・炭化物少量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・炭化物多量

第161号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子中量
- 2 褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子・炭化物中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・炭化物多量
- 4 明褐色 ローム粒子多量, 炭化物少量
- 5 褐色 ローム粒子・炭化粒子・炭化物少量

第163号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子多量, 炭化物少量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第164号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム大ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子多量

第165号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第166号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

第167号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第168号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第169号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第170号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量

第171号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 明褐色 ローム粒子多量,ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子微量

第172号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第173号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量

第174号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子極微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子微量

第175号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子多量

第176号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 明褐色 ローム粒子多量

第177号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量,焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム大ブロック中量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量,ローム中ブロック少量

第178号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量,焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量,ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量,ローム小ブロック少量,焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量,ローム小ブロック少量
- 5 明褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量,焼土粒子微量
- 6 明褐色 ローム粒子中量,焼土粒子微量
- 7 褐色 ローム小ブロック中量
- 8 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量,ローム小ブロック少量

- 9 褐色 ローム粒子少量,ローム中ブロック中量
- 10 褐色 ローム粒子中量,ローム小ブロック少量
- 11 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック・焼土粒子中量,ローム小ブロック少量
- 12 褐色 ローム小ブロック中量
- 13 褐色 ローム中ブロック少量,焼土小ブロック・炭化粒子中量
- 14 褐色 ローム中ブロック中量,焼土粒子微量
- 15 黄褐色 ローム粒子少量,ローム中ブロック多量
- 16 褐色 ローム中ブロック多量,焼土粒子微量

第179号土坑土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子中量,ローム小ブロック少量
- 2 明褐色 ローム粒子中量,ローム小ブロック少量,焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量,焼土粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量,ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量
- 8 明褐色 ローム粒子中量,ローム小・中ブロック少量
- 9 にぶい褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量
- 10 明褐色 ローム粒子多量,ローム小ブロック少量

第180号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 明褐色 ローム中ブロック中量
- 3 橙褐色 ローム大ブロック中量
- 4 明褐色 ローム大ブロック中量

第181号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量,焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量
- 3 黄褐色 ローム大ブロック中量
- 4 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量
- 5 褐色 ローム大ブロック多量

第182号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量,炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 にぶい褐色 ローム粒子中量,ローム小ブロック少量
- 5 にぶい褐色 ローム粒子多量,ローム小ブロック少量
- 6 明褐色 ローム粒子多量,ローム小ブロック少量
- 7 にぶい褐色 ローム粒子中量,ローム小・中ブロック少量
- 8 明褐色 ローム粒子多量,ローム中ブロック少量
- 9 明褐色 ローム粒子多量

第183号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 炭化粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子多量
- 4 黄褐色 炭化粒子微量
- 5 黄褐色 焼土粒子・炭化粒子少量

第184号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量,焼土粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量
- 3 黄褐色 ローム中ブロック多量

第185号土坑土層解説

- 1 黄褐色 ローム粒子・ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量,ローム中ブロック中量
- 3 明黄褐色 ローム中ブロック中量
- 4 黄褐色 焼土粒子微量
- 5 褐色 ローム中ブロック中量

第186号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック多量
- 2 黄褐色 ローム中ブロック中量
- 3 黄褐色 ローム中ブロック多量

- 4 黄褐色 ローム中ブロック中量

第187号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量,焼土粒子中量
- 2 明褐色 ローム粒子・焼土粒子中量,ローム中ブロック少量
- 3 黄褐色 ローム粒子微量,ローム大ブロック多量
- 4 褐色 ローム粒子多量,焼土粒子微量

第188号土坑土層解説

- 1 黄褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム小ブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子中量,ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量,焼土粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子少量,ローム中ブロック中量

第189号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量,ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック微量,ローム中ブロック中量
- 3 黄褐色 ローム粒子中量,ローム大ブロック多量

第190号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量,炭化物少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量,ローム小ブロック多量,炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量,ローム中ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量,焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 黄褐色 ローム中ブロック多量
- 7 褐色 ローム小・中ブロック中量,焼土粒子少量
- 8 褐色 ローム小ブロック中量
- 9 黄褐色 ローム中ブロック多量
- 10 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 11 褐色 ローム中ブロック多量

第191号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量,焼土粒子少量
- 2 黄褐色 ローム中ブロック多量,焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム中ブロック多量

第192号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量,ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム大ブロック中量
- 3 黄褐色 ローム中ブロック多量

第193号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック多量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック微量
- 3 明褐色 ローム中ブロック多量

第194号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム小ブロック中量
- 3 黄褐色 ローム大ブロック多量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量

第195号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック中量
- 2 褐色 ローム中ブロック中量
- 3 褐色 ローム中ブロック多量

第196号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量,焼土粒子少量
- 2 黄褐色 ローム大ブロック多量

第197号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック多量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック多量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック中量,焼土粒子少量

- 4 褐色 ローム小ブロック多量
- 5 黄褐色 ローム中ブロック中量, 焼土粒子微量
- 6 黄褐色 ローム中ブロック多量

第198号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 褐色 ローム中ブロック・焼土粒子少量
- 3 褐色 ローム中ブロック多量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム小・中ブロック少量, 焼土粒子微量

第199号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック中量
- 2 褐色 ローム大ブロック多量
- 3 褐色 ローム中ブロック中量

第200号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック・焼土粒子少量
- 3 明褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量
- 4 黄褐色 ローム粒子多量
- 5 褐色 ローム粒子多量

第201号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム大ブロック多量

第202号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック多量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック中量
- 5 褐色 ローム粒子多量
- 6 褐色 ローム中ブロック多量

第203号土坑土層解説

- 1 黄褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック中量
- 2 褐色 ローム小ブロック少量
- 3 黄褐色 ローム中ブロック中量
- 4 黄褐色 ローム中ブロック多量
- 5 褐色 ローム中ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子微量

第204号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 明褐色 ローム中ブロック中量
- 3 褐色 ローム中ブロック中量
- 4 明褐色 ローム中ブロック多量
- 5 にぶい褐色 ローム大ブロック中量

第205号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム大ブロック少量
- 3 褐色 ローム小・中ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム小ブロック少量
- 6 黄褐色 ローム大ブロック多量

第206号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小・中ブロック少量
- 3 褐色 ローム大ブロック多量

第207号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック多量
- 2 褐色 ローム中ブロック中量
- 3 暗褐色 ローム大ブロック中量
- 4 黄褐色 ローム中ブロック多量

第208号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量

- 2 褐色 ローム粒子・焼土粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子微量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量

- 4 褐色 ローム中ブロック多量
- 5 褐色 ローム中ブロック中量
- 6 褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子微量

第209号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量
- 4 黄褐色 ローム中ブロック多量
- 5 暗褐色 ローム粒子微量

第210号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム中ブロック多量
- 5 褐色 ローム粒子中量

第211号土坑土層解説

- 1 黄褐色 ローム中ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量
- 3 褐色 ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黄褐色 ローム中ブロック多量
- 5 黄褐色 ローム粒子多量

第212号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・炭化物多量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量
- 5 褐色 炭化粒子少量

第213号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム大ブロック少量
- 2 褐色 ローム中ブロック多量, 焼土粒子少量
- 3 黄褐色 ローム中ブロック多量

第214号土坑土層解説

- 1 褐色 炭化物中量
- 2 褐色 ローム中ブロック・炭化粒子・炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・炭化物微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・炭化物中量
- 5 褐色 炭化物中量
- 6 明褐色 焼土粒子微量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子・炭化物多量
- 8 褐色 炭化物少量
- 9 褐色 炭化粒子微量
- 10 暗褐色 炭化物中量
- 11 黒褐色 炭化物多量
- 12 暗褐色 炭化物微量
- 13 褐色 炭化物少量
- 14 褐色 焼土粒子多量, 炭化物中量
- 15 赤褐色 焼土粒子多量
- 16 黒色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, 炭化物多量
- 17 褐色 炭化物中量
- 18 黒色 炭化物多量
- 19 黒色 焼土粒子少量, 炭化物多量
- 20 明褐色 炭化物中量

第215号土坑土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 にぶい褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量

- 4 明褐色 ローム粒子多量
- 5 明褐色 ローム粒子多量, ローム小・中ブロック少量

第216号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ローム粒子・ローム中ブロック微量
- 2 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・焼土粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小・中ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 6 明褐色 ローム粒子多量
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 8 にぶい褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・炭化物少量
- 9 明褐色 ローム粒子多量

第217号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 明褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量, ローム小・大ブロック少量
- 4 明褐色 ローム粒子多量, ローム小・中ブロック少量
- 5 明褐色 ローム粒子多量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 7 にぶい褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 8 にぶい褐色 ローム粒子多量
- 9 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 10 明褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・焼土小ブロック少量
- 11 明褐色 ローム粒子多量

第218号土坑土層解説

- 1 明赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 2 明赤褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量

第219号土坑土層解説

- 1 明褐色 ローム大ブロック中量
- 2 褐色 ローム小・大ブロック少量
- 3 明褐色 ローム大ブロック多量

第220号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 炭化物中量
- 2 褐色 ローム粒子少量, ローム大ブロック中量
- 3 明褐色 ローム中ブロック中量
- 4 褐色 ローム粒子多量
- 5 黄褐色 黒色土ブロック微量
- 6 褐色 ローム小ブロック少量
- 7 褐色 焼土粒子・焼土小ブロック少量
- 8 褐色 ローム粒子多量
- 9 褐色 ローム小ブロック少量, 黒色土ブロック中量
- 10 褐色 焼土粒子少量, 焼土小ブロック多量

第221号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 明褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子微量
- 4 明褐色 ローム小ブロック多量
- 5 褐色 ローム粒子多量

第222号土坑土層解説

- 1 明褐色 ローム中ブロック中量
- 2 褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック中量
- 3 褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 4 褐色 ローム大ブロック多量
- 5 褐色 ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子多量
- 7 褐色 ローム中ブロック微量

- 8 褐色 ローム小ブロック微量
- 9 褐色 ローム小・中ブロック少量

第223号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土小ブロック少量, ローム中ブロック中量
- 2 褐色 ローム小・中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック多量
- 4 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック多量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量

第224号土坑土層解説

- 1 黄褐色 ローム粒子多量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 黄褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量

第225号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量

第226号土坑土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子・ローム大ブロック少量
- 2 明褐色 ローム粒子中量
- 3 明褐色 ローム粒子多量

- 4 橙褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量

第227号土坑土層解説

- 1 褐色 焼土粒子微量
- 2 明褐色 焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子微量
- 4 明褐色 ローム粒子多量

第228号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム大ブロック多量
- 4 褐色 ローム小・中ブロック中量

第229号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 黄褐色 ローム中ブロック中量
- 5 黄褐色 ローム中ブロック多量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック中量
- 7 褐色 ローム中ブロック多量

第230号土坑土層解説

- 1 黒暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量

第231号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 4 明褐色 ローム粒子多量

第232号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 にぶい褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 4 明褐色 ローム粒子多量
- 5 明褐色 ローム粒子中量
- 6 にぶい褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量

第240号土坑土層解説

- 1 褐色 焼土粒子少量
- 2 褐色 ローム大ブロック多量, 焼土粒子微量
- 3 黄褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム中ブロック中量
- 5 褐色 ローム大ブロック多量

第249号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック中量
- 3 黄褐色 ローム中ブロック多量
- 4 褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量

第7号土坑出土遺物観察表

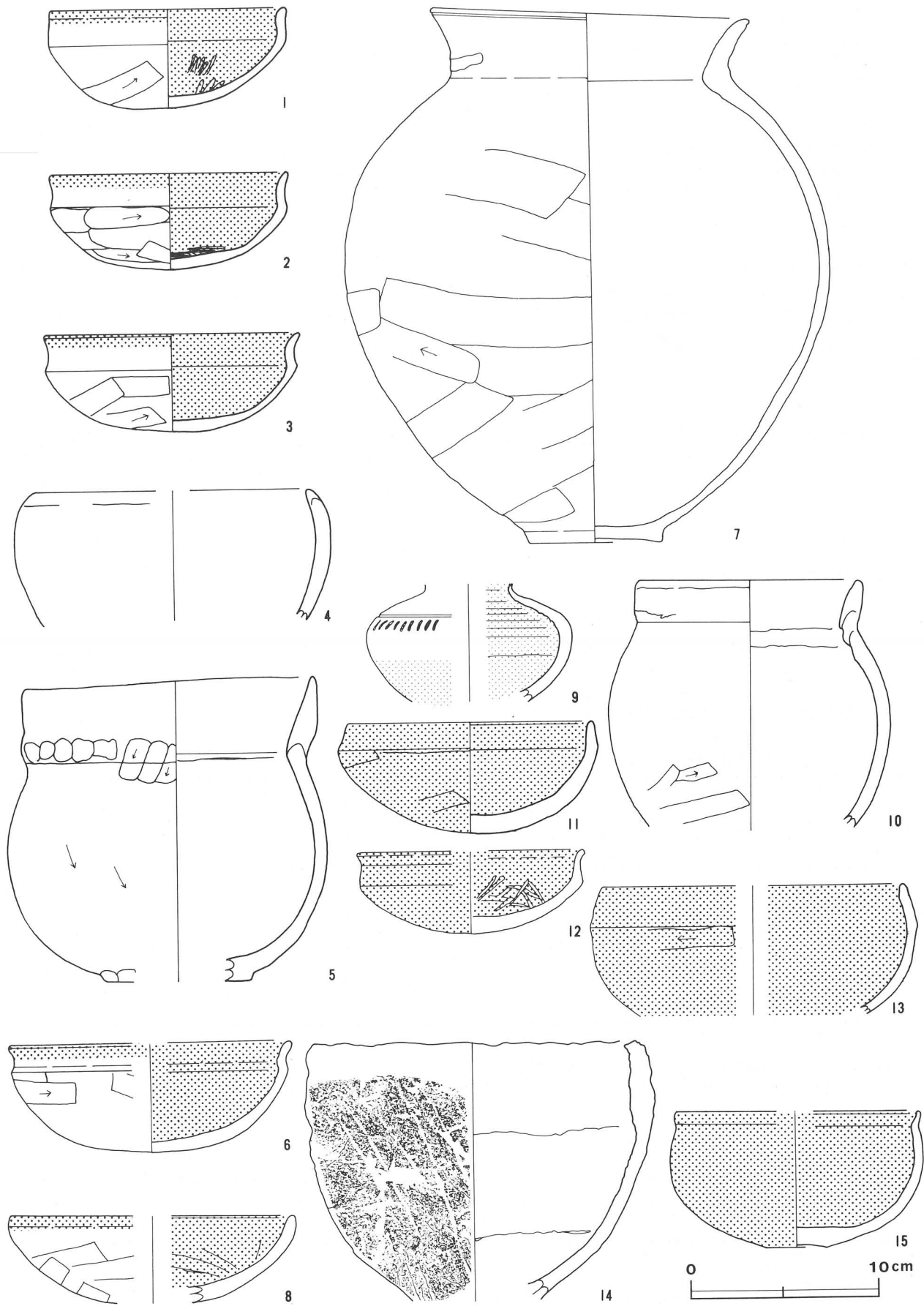
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第206・207図 1	坏土師器	A 12.6 B 5.5	底部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ後、磨き。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 523 90% 覆土下層
2	坏土師器	A 12.6 B 5.6	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。底部内面磨き。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 524 80% 覆土下層
3	坏土師器	A 13.6 B 5.4	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ口縁部はラ削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 525 70% 覆土下層
4	埴土師器	A [14.7] B (7.2)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部は内彎する。	内・外面摩擦。	長石・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P 526 20% 覆土下層
5	甕土師器	A 15.4 B [15.6] C [7.8]	底部及び体部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外傾する。	口縁部内面横ナデ。頸部外面下位へラ削り。体部外面ナデ。	長石・砂粒 黒褐色 普通	P 527 P L67 70% 覆土下層

第17号土坑出土遺物観察表

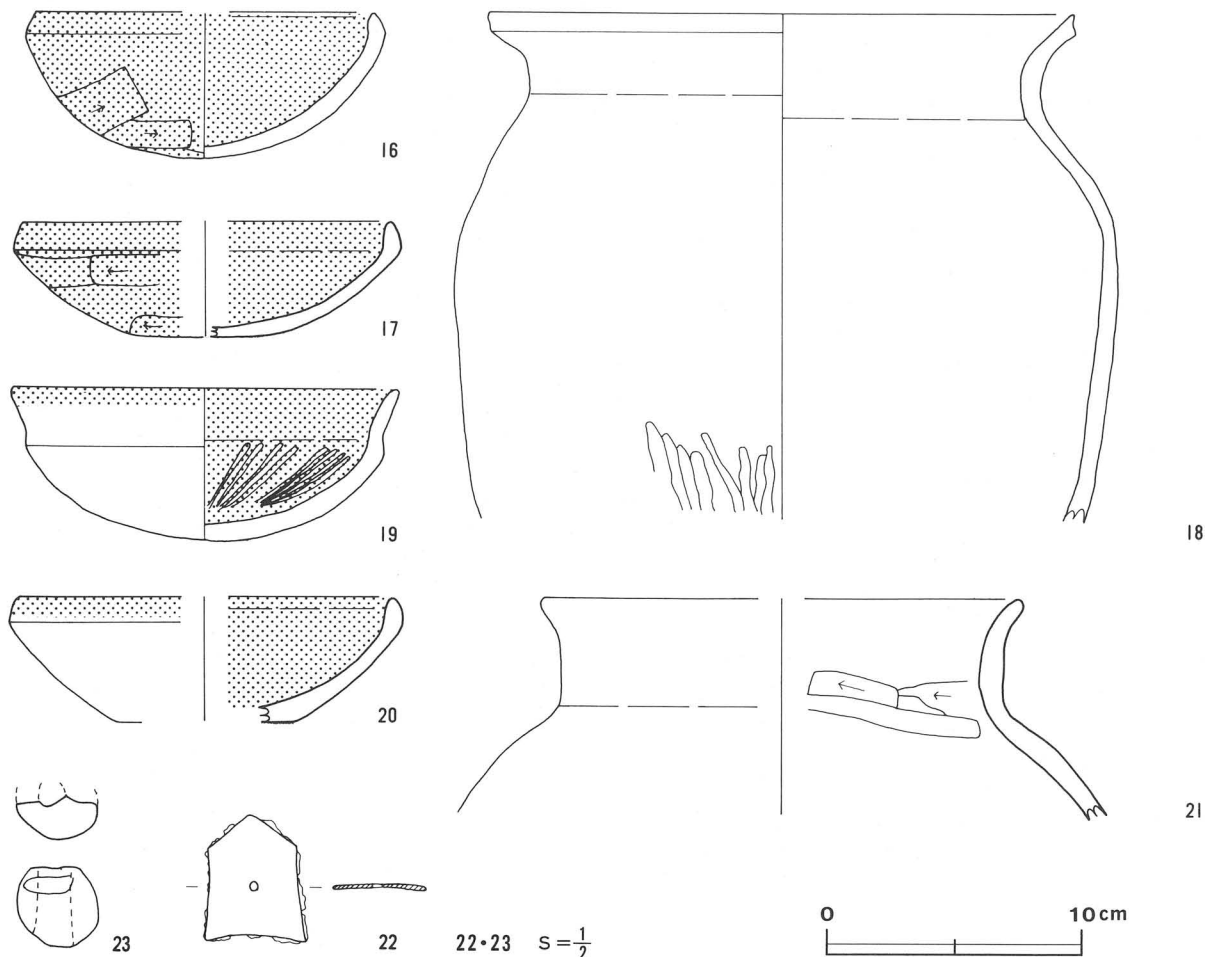
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	坏土師器	A [15.2] B 6.0	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 暗赤色 普通	P 528 60% 覆土上層
7	甕土師器	A 17.0 B 29.3 C 7.1	底部は平底で、突出する。体部は内彎して立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外傾する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。	長石・石英・砂粒 黒褐色 普通	P 529 P L67 100% 床面

第21号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
8	坏土師器	A [15.0] B (4.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P 530 30% 覆土



第206图 土坑出土遺物実測図(1)



第207図 土坑出土遺物実測図(2)

第31号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
9	聴須恵器	B (6.4)	体部の破片。体部は内彎して立ち上がり、上位に沈線が巡る。沈線下に櫛歯による刺突が施される。	内・外面横ナデ。	長石・砂粒 黒褐色 普通	P531 P L67 20%自然釉付着 覆土

第32号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
10	甕土師器	A 11.7 B (13.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部外傾する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体は部外面下位ヘラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P532 20% 覆土

第34号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
11	坏土師器	A 13.0 B 6.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P533 100% 覆土下層

第35号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
12	坏土師器	A [12.0] B 4.5	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒 暗赤褐色 普通	P534 40% 覆土下層

第112号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
13	埴土師器	A [16.0] B (7.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P535 15% 覆土

第124号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
14	鉢土師器	A 17.2 B (14.1)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	内・外面摩耗。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P536 80% 覆土下層

第146号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
15	埴土師器	A [12.8] B 7.4	体部及び口縁部の一部欠損。平底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 明赤褐色 良好	P537 65% 覆土下層

第149号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
16	坏土師器	A [13.7] B 5.9	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P538 40% 覆土
17	坏土師器	A [14.4] B (4.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 にぶい赤褐色 普通	P539 20% 覆土

第156号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
18	甕土師器	A 12.9 B (20.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、最大径を上位にもつ。口縁部は外反し、口唇部は外上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部中位から下位にかけてへら磨き。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 褐色 普通	P540 40% 覆土下層

第174号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
19	坏土師器	A 15.2 B 6.1	丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ナデ後、磨き。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 赤褐色 普通	P541 100% 覆土下層

第195号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
20	坏土師器	A [14.8] B (5.0) C [6.9]	底部から口縁部の破片。平底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒 にぶい赤色 普通	P542 30% 覆土

第217号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
21	甕土師器	A [18.4] B (8.8)	体部から口縁部の破片。頸部は直立し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面下位へら削り。	長石・砂粒 明褐色 普通	P543 10% 覆土

第125号土坑出土遺物観察表

図版番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
22	鉄 鏃	(3.4)	(2.6)	0.2	3.0	覆土下層	孔径 2.0mm M14 90% P L71

第156号土坑出土遺物観察表

図版番号	種 別	計 測 値				出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
23	球 状 土 錘	(2.2)	(2.1)	(2.2)	3.1	覆 土	孔径 11.0mm D P34 50% P L69

表2 土坑一覧表 第189図～205図

番号	位置	長径方向	平面形	長径×短径(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考
1	E7c ₀	N-55°-E	長楕円形	1.56 × 0.76	58	垂直	凸凹	人為	土師器片 (坏・甕)	
2	E7c ₀	N-50°-E	楕円形	1.40 × 1.20	42	外傾	凸凹	人為	土師器片 (坏・甕)	
3	E8d ₁	N-46°-E	不定形	1.30 × 1.18	18	外傾	凸凹	自然	土師器片 (甕)	
4	E8c ₁	N-47°-W	楕円形	2.02 × 1.70	33	外傾	凸凹	人為	土師器片 (坏・甕) 縄文式土器片	
5	E7d ₉	N-68°-E	楕円形	0.86 × 0.72	50	垂直	凸凹	人為	土師器片 (甕)	SI-4より新しい
6	D8d ₀	N-35°-W	方 形	1.80 × 1.78	26	外傾	皿状	人為	土師器片 (坏・甕)	SI-16より新しい
7	E7f ₉	N-15°-E	円 形	1.62 × 1.44	56	外傾	平坦	自然	土師器 (坏・壺・甕)	SI-3より新しい
8	D9h ₃	N-29°-E	長方形	3.10 × 1.26	14	外傾	平坦	自然	土師器片 (坏・甕)	SI-13より新しい
9	D8g ₉	N-57°-W	長方形	6.20 × 0.64	62	外傾	凸凹	自然	土師器片 (坏・甕)	SI-14より新しい
10	E8g ₆	N-12°-W	楕円形	1.96 × 1.26	56	垂直	平坦	人為	土師器片 (甕) 縄文式土器片	SK-21より新しい
11	E7f ₈	N-75°-E	不定形	1.70 × 1.10	60	外傾	凸凹	人為	土師器片 (甕) 縄文式土器片	
12	E7g ₉	N-50°-E	長楕円形	2.78 × 0.54	48	外傾	平坦	人為	土師器片 (坏)	
13	E6g ₀	N-53°-E	楕円形	2.56 × 1.86	52	外傾	平坦	自然	土師器片 (坏・甕)	
14	E7h ₀	N-55°-W	楕円形	2.30 × 1.70	32	緩斜	凸凹	自然	土師器片 (坏・甕)	
15	E7e ₈	N-64°-W	長方形	2.66 × 0.98	24	外傾	平坦	人為	土師器片 (坏・甕)	SK-100より新しい
16	E8c ₄	N-19°-W	円 形	2.08 × 1.98	30	外傾	平坦	人為	土師器片 (坏・甕)	
17	E8e ₅	N-14°-E	楕円形	1.12 × 0.96	54	外傾	凸凹	人為	土師器片 (坏・甕)	
18	E8e ₆	N-37°-E	円 形	1.00 × 0.90	12	緩斜	皿状	自然		
19	E8g ₂	N-5°-W	不定形	1.56 × 1.46	48	外傾	凸凹	自然	土師器片 (坏・甕)	ピット有り
20	E8g ₅	N-8°-E	台 形	2.06 × 1.84	60	外傾	凸凹	人為	土師器片 (坏・甕)	
21	E8g ₆	N-43°-W	楕円形	(1.70) × 1.40	46	外傾	凸凹	人為	土師器片 (坏・甕) 縄文式土器片	SK-10より古い
22	E8f ₇	N-65°-E	長方形	1.62 × 1.24	32	外傾	平坦	自然	土師器片 (甕)	
23	E8e ₇	N-43°-E	円 形	0.72 × 0.68	32	外傾	皿状	自然		
24	D8g ₇	N-23°-W	円 形	1.10 × 1.02	36	外傾	凸凹	自然	土師器片 (坏・甕)	
25	D8g ₇	N-45°-W	円 形	1.06 × 1.00	23	外傾	平坦	自然	土師器片 (甕)	
26	D8g ₇	N-65°-E	円 形	1.64 × 1.58	78	緩斜	皿状	人為		
27	D8h ₆	N-3°-E	円 形	2.14 × 2.14	56	外傾	平坦	自然	土師器片 (坏・壺・甕)	
28	D8i ₄	N-3°-E	楕円形	0.94 × 0.84	30	外傾	皿状	人為		
29	D8i ₅	N-67°-E	楕円形	0.88 × 0.76	41	外傾	凸凹	自然		
30	D8i ₇	N-55°-E	楕円形	0.60 × 0.52	18	外傾	凸凹	自然		
31	E8h ₆	N-22°-E	不定形	2.88 × 1.18	42	外傾	凸凹	自然	須恵器片 (甕)	
32	E8h ₇	N-42°-W	円 形	0.80 × 0.78	26	外傾	平坦	自然	土師器片 (甕)	
33	E8g ₇	N-83°-W	楕円形	1.00 × 0.78	14	外傾	凸凹	自然	土師器片 (甕)	焼土塊有り
34	E8h ₇	N-72°-E	円 形	0.72 × 0.68	12	緩斜	皿状	自然	土師器片 (坏・甕)	
35	E8g ₈	N-60°-E	楕円形	0.88 × 0.68	28	外傾	平坦	人為	土師器片 (坏・甕)	

番号	位置	長径方向	平面形	長径×短径(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
36	E8g ₇	N-48°-E	楕円形	0.58 × 0.52	22	緩斜	皿状	人為		
37	E8g ₇	N-86°-W	楕円形	1.50 × 1.26	31	外傾	平坦	人為	土師器片(坏・甕)	
38	E8g ₈	N-63°-W	不定形	1.42 × 0.90	33	外傾	皿状	自然	土師器片(甕)	
39	E8c ₂	N-33°-E	隅丸長方形	1.28 × 0.96	8	外傾	平坦	自然	土師器片(坏・甕)	
40	E8d ₇	N-50°-W	不定形	2.62 × 1.46	58	外傾	平坦	人為	土師器片(甕) 縄文式土器片	
41	E8b ₈	N-61°-W	長楕円形	2.10 × 0.60	40	外傾	皿状	人為	土師器片(甕)	
42	E8a ₈	N-68°-E	楕円形	0.84 × 0.66	12	緩斜	皿状	自然		
43	E8d ₉	N-35°-E	円形	1.10 × 1.02	40	垂直	平坦	人為	土師器片(坏・甕) 縄文式土器片	
44	E8a ₄	N-75°-W	長方形	1.48 × 0.82	13	緩斜	皿状	人為		
45	D9f ₅	N-62°-E	長方形	1.62 × 0.76	22	緩斜	皿状	人為	土師器片(甕)	SI-20より新しい
46	D9e ₅	N-33°-E	長方形	1.40 × 0.84	9	外傾	平坦	自然	土師器片(坏・甕) 縄文式土器片	SI-20より新しい
47	C9j ₄	N-2°-E	不定形	1.10 × 0.96	54	垂直	凸凹	人為		
48	D9i ₂	N-52°-W	(長方形)	3.06 × [0.76]	52	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕) 縄文式土器片	SI-13より新しい
49	E9c ₂	N-46°-E	長方形	2.56 × 1.14	40	外傾	平坦	人為	土師器片(坏・甕)	SK-90より新しい
50	E9c ₂	N-50°-E	不定形	2.74 × 1.34	46	外傾	平坦	人為		
51	E9d ₁	N-40°-W	楕円形	0.78 × 0.70	12	外傾	平坦	自然		
52	E9e ₀	N-52°-W	不定形	0.72 × 0.54	16	緩斜	皿状	自然		
53	E8f ₆	N-55°-E	楕円形	0.54 × 0.35	10	緩斜	皿状	自然		
54	E9f ₁	N-50°-W	楕円形	1.00 × 0.58	26	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	SK-64より新しい
55	E9d ₁	N-56°-E	円形	0.60 × 0.56	48	垂直	凸凹	自然		
56	E9h ₁	N-20°-W	不定形	0.22 × 0.62	46	緩斜	凸凹	自然	土師器片(坏・甕)	
57	E9i ₂	N-78°-E	楕円形	1.08 × 0.94	18	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕) 縄文式土器片	
58	E9g ₄	N-60°-E	不定形	2.32 × 1.20	54	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	SK-59より新しい
59	E9g ₃	N-21°-W	長方形	4.20 × 2.50	40	緩斜	凸凹	人為	土師器片(坏・壺・甕)	SK-58より古い
60	E9e ₅	N-35°-W	楕円形	0.70 × 0.42	17	緩斜	皿状	人為	土師器片(坏・甕)	
61	E9e ₆	N-69°-W	楕円形	0.84 × 0.58	34	緩斜	皿状	自然		
62	E9e ₆	N-62°-E	不定形	1.14 × 0.86	36	緩斜	皿状	自然	土師器片(甕)	
63	E9f ₆	N-17°-W	楕円形	0.62 × 0.56	20	緩斜	皿状	人為	土師器片(甕)	
64	E9f ₁	N-86°-E	長楕円形	4.50 × 1.10	30	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	SK-54より古い
65	E9e ₇	N-2°-E	楕円形	1.06 × 0.72	42	外傾	皿状	自然		
66	E9f ₇	N-0°	楕円形	2.06 × 1.64	42	外傾	平坦	人為	土師器片(坏・甕)	
67	E9f ₁	N-55°-W	楕円形	0.90 × 0.52	36	緩斜	皿状	自然		
68	E9d ₈	N-44°-W	不定形	1.30 × 0.84	34	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	
69	E9e ₉	N-58°-E	長楕円形	2.84 × 1.36	44	外傾	平坦	人為	土師器片(坏・甕)	
70	E9c ₉	N-29°-W	不定形	0.60 × 1.32	24	外傾	平坦	人為	土師器片(坏・甕) 縄文式土器片	
71	E9g ₂	N-20°-W	不定形	1.08 × 0.90	36	外傾	皿状	人為	土師器片(甕)	
72	E9a ₉	N-70°-W	不定形	0.80 × 0.58	48	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・壺・甕) 縄文式土器片	
73	E9g ₂	N-79°-W	長楕円形	1.22 × 0.56	22	外傾	皿状	人為	土師器片(坏・甕)	
74	E9b ₀	N-45°-W	長方形	1.36 × 0.94	18	外傾	平坦	人為		
75	E9f ₉	N-28°-W	楕円形	0.70 × 0.58	22	緩斜	皿状	人為	土師器片(坏・甕)	
76	E9a ₉	N-40°-E	楕円形	0.86 × 0.58	36	外傾	皿状	人為	土師器片(甕)	
77	E9a ₀	N-50°-E	不定形	1.50 × 0.80	48	外傾	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	
78	E9a ₀	N-58°-E	不定形	1.44 × 0.83	54	緩斜	皿状	自然	土師器片(甕) 縄文式土器片	
79	D9e ₆	N-22°-E	不定形	1.58 × 1.34	28	緩斜	皿状	人為		
81	E10b ₃	N-7°-W	円形	0.76 × 0.70	31	緩斜	皿状	人為		
82	D10j ₂	N-62°-E	不定形	1.50 × 0.96	60	外傾	皿状	人為		
83	D10g ₃	N-19°-W	不定形	0.90 × 0.72	32	緩斜	皿状	人為	土師器片(甕)	
84	D10h ₄	N-52°-W	不定形	0.84 × 0.56	34	外傾	平坦	人為		

番号	位置	長径方向	平面形	長径×短径(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
85	D10h ₄	N-16°-W	不定形	1.10 × 0.98	56	外傾	平坦	自然		
86	D10h ₄	N-49°-E	楕円形	0.94 × 0.82	28	緩斜	皿状	人為		
87	D10g ₅	N-20°-E	楕円形	1.32 × 0.82	12	緩斜	皿状	自然		
88	D10i ₆	N-27°-E	楕円形	1.08 × 0.98	38	外傾	平坦	人為	土師器片(甕) 縄文式土器片	
89	D9d ₀	N-8°-E	長楕円形	1.40 × 0.52	25	緩斜	皿状	人為		
90	E9c ₂	N-67°-W	不定形	3.24 × 2.90	108	外傾	皿状	人為	土師器片(甕)	SK-49より古い
91	D9e ₈	N-22°-W	長楕円形	2.38 × 1.10	24	外傾	皿状	自然	土師器片(甕) 縄文式土器片	
92	D9c ₆	N-36°-E	楕円形	1.60 × 0.82	26	緩斜	皿状	人為		
93	D9b ₆	N-1°-W	長楕円形	1.56 × 0.62	30	外傾	凸凹	人為		
94	D9e ₇	N-18°-W	楕円形	1.44 × 1.10	20	外傾	凸凹	自然	土師器片(甕)	
95	D9e ₇	N-42°-W	楕円形	1.26 × 1.06	21	外傾	平坦	人為		
96	D9g ₆	N-52°-E	不定形	2.14 × 1.02	24	外傾	凸凹	自然		
97	D9i ₉	N-49°-W	楕円形	0.70 × 0.60	18	外傾	平坦	自然	土師器片(甕) 縄文式土器片	
98	D9i ₉	N-10°-E	長楕円形	1.54 × 0.70	32	外傾	平坦	自然	土師器片(甕) 縄文式土器片	
99	E7e ₇	N-51°-W	円形	1.58 × 1.50	34	外傾	皿状	人為	土師器片(坏・甕)	
100	E7e ₈	N-27°-W	楕円形	2.50 × 1.66	24	緩斜	平坦	人為	土師器片(甕) 縄文式土器片	SK-15より古い
101	D9g ₇	N-0°	不定形	2.50 × 1.26	56	外傾	凸凹	人為	土師器片(甕)	
103	D9f ₉	N-55°-W	不定形	1.10 × 0.88	56	外傾	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	
104	E8h ₅	N-52°-W	楕円形	0.56 × 0.48	82	垂直	皿状	人為	土師器片(坏・甕)	
105	E8i ₃	N-9°-E	不定形	1.34 × 0.92	20	外傾	平坦	人為	土師器片(坏・甕)	
106	F8c ₇	N-60°-E	長方形	2.32 × 1.14	58	外傾	平坦	人為	土師器片(坏・甕)	ピット有り
107	F8c ₇	N-0°	楕円形	0.66 × 0.56	40	外傾	皿状	自然	土師器片(甕)	
108	D9b ₅	N-10°-W	楕円形	0.80 × 0.70	17	外傾	凸凹	自然	土師器片(甕)	
109	D8e ₉	N-75°-E	長方形	1.66 × 0.90	34	外傾	平坦	人為	土師器片(坏・甕)	
110	D8f ₇	N-45°-E	不定形	0.94 × 0.78	15	緩斜	皿状	自然		
111	D9d ₂	N-60°-W	円形	0.86 × 0.86	24	外傾	平坦	人為	土師器片(甕)	
112	D9d ₂	N-65°-W	楕円形	0.74 × 0.66	12	緩斜	皿状	人為	土師器片(碗)	
113	D9d ₂	N-87°-W	楕円形	0.78 × 0.54	20	外傾	皿状	自然		
114	D9d ₂	N-63°-E	楕円形	0.79 × 0.52	16	緩斜	皿状	人為		
115	D9d ₂	N-69°-E	楕円形	0.56 × 0.40	21	外傾	皿状	自然		
116	D9f ₂	N-50°-W	長方形	1.84 × 0.98	23	緩斜	凸凹	自然	土師器片(甕)	ピット有り
117	E8a ₀	N-45°-E	不定形	2.10 × 0.96	56	外傾	皿状	自然		
118	D9e ₃	N-24°-E	不定形	1.56 × 1.20	18	緩斜	皿状	人為		
119	D9b ₁	N-49°-W	長方形	2.54 × 1.00	22	外傾	皿状	人為	土師器片(坏・甕) 縄文式土器片	
120	E9j ₃	N-17°-W	円形	1.16 × 1.08	60	外傾	皿状	自然	土師器片(甕)	SK-121より新しい
121	E9j ₃	N-73°-E	長方形	2.32 × (1.80)	18	外傾	凸凹	自然	土師器片(坏・甕)	SK-120・122より古い
122	E9j ₂	N-68°-E	円形	0.74 × 0.68	44	外傾	皿状	自然		SK-121より新しい
123	F8b ₈	N-24°-W	楕円形	1.94 × 1.18	34	外傾	平坦	人為	土師器片(甕)	SI-30より新しい
124	D9h ₀	N-52°-W	楕円形	0.48 × 0.40	6	緩斜	皿状	自然	土師器片(鉢・甕)	
125	A11c ₇	N-0°	円形	0.68 × 0.64	37	外傾	凸凹	自然	土師器片(坏・甕) 鉄製品(不明)	
126	A11c ₇	N-23°-W	円形	0.74 × 0.68	27	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏)	
127	A11c ₇	N-32°-W	楕円形	1.54 × 1.10	112	外傾	皿状	人為		
128	B10j ₃	N-67°-W	(楕円形)	2.16 × (1.64)	21	緩斜	凸凹	自然	土師器片(坏・甕) 縄文式土器片	SI-40より新しい
129	B10h ₄	N-60°-E	(楕円形)	(3.80) × 3.50	84	緩斜	皿状	自然	土師器片(甕) 縄文式土器片	SI-40より新しい
130	A11g ₇	N-75°-W	長楕円形	3.80 × 0.92	44	外傾	平坦	自然		
131	B11a ₈	N-3°-E	楕円形	1.44 × 1.26	38	外傾	平坦	自然		
132	A11j ₆	N-52°-E	楕円形	1.30 × 0.84	40	外傾	皿状	自然		
133	A11j ₆	N-62°-W	不定形	2.68 × 1.78	54	垂直	平坦	自然		

番号	位置	長径方向	平面形	長径×短径(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
134	B11j ₁	N-72°-E	長楕円形	4.06 × 1.80	42	外傾	平坦	自然		
135	B11g _s	N-51°-W	不定形	1.88 × 1.20	70	外傾	皿状	自然		
136	B11h ₇	N-15°-E	不定形	2.78 × 1.62	42	外傾	平坦	自然	土師器片(甕) 縄文式土器片	
137	B10d ₉	N-20°-E	長方形	1.66 × 1.08	32	緩斜	平坦	自然		
139	B10h ₀	N-43°-E	円形	0.42 × 0.40	48	垂直	皿状	自然	土師器片(坏)	
140	B10h ₀	N-77°-W	楕円形	0.52 × 0.40	34	外傾	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	
141	B10h ₀	N-38°-W	円形	0.36 × 0.34	34	外傾	皿状	人為		
142	B10h ₀	N-77°-W	楕円形	0.52 × 0.40	40	緩斜	皿状	自然	土師器片(甕)	
143	B10e ₇	N-70°-E	不定形	4.70 × 2.06	94	外傾	皿状	人為	土師器片(甕) 縄文式土器片	
144	C11d ₃	N-8°-W	(楕円形)	(1.14) × 0.86	24	緩斜	皿状	自然		SK-164より古い
145	C10b ₇	N-14°-W	楕円形	0.88 × 0.76	26	緩斜	皿状	自然	土師器片(甕)	
146	C10a ₂	N-13°-W	不定形	(1.80) × 1.60	15	外傾	平坦	自然	土師器片(塊・甕) 縄文式土器片	
147	C10e ₀	N-68°-W	不定形	2.20 × 1.14	20	外傾	皿状	人為	土師器片(塊)	
148	C10g ₉	N-45°-W	不定形	2.04 × 1.72	32	外傾	平坦	自然	土師器片(坏・甕)	
149	C10g ₉	N-90°-E	楕円形	2.28 × 1.58	56	外傾	平坦	自然	土師器片(坏・甕)	
150	C10a ₉	N-21°-W	円形	0.88 × 0.82	10	外傾	平坦	自然		
151	C10d ₆	N-23°-W	楕円形	1.50 × 1.26	15	緩斜	平坦	自然	土師器片(坏・甕)	
152	C10i ₈	N-64°-W	楕円形	1.80 × 1.44	15	外傾	皿状	人為		焼土粒子・炭化物を含む
153	C10i ₇	N-52°-W	不定形	1.60 × 1.24	24	外傾	皿状	人為	土師器片(坏)	
154	C10f ₃	N-47°-E	円形	1.70 × 1.58	58	外傾	平坦	人為	土師器片(坏・甕)	
156	C10i ₄	N-0°	長楕円形	3.40 × 1.72	60	緩斜	皿状	人為	土師器片(坏・甕)	SI-49より新しい
157	C10i ₃	N-48°-W	楕円形	(3.60) × 2.02	50	外傾	皿状	人為	土師器片(坏・甕)	SI-49より新しい
158	D10f ₇	N-85°-W	不定形	0.76 × 0.66	26	外傾	平坦	自然	土師器片(甕)	
159	D10b ₁	N-85°-W	不定形	1.50 × 0.90	30	外傾	平坦	自然	縄文式土器片	
160	D9a ₉	N-53°-W	長楕円形	2.72 × 0.94	14	緩斜	皿状	人為	土師器片(甕)	
161	C9i ₆	N-55°-E	楕円形	1.58 × 1.20	32	外傾	平坦	自然		
163	C11a ₂	N-70°-W	楕円形	1.58 × 1.20	25	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕) 縄文式土器片	
164	C11d ₃	N-83°-E	円形	1.80 × 1.66	42	外傾	平坦	人為		SK-144より新しい
165	C11c ₅	N-43°-W	楕円形	0.90 × 0.76	28	外傾	皿状	自然		
166	C11c ₅	N-30°-E	楕円形	0.94 × 0.78	26	外傾	平坦	自然		
167	C11b ₅	N-0°	円形	0.72 × 0.70	30	緩斜	皿状	自然	土師器片(甕) 縄文式土器片	
168	C11b ₆	N-25°-W	不定形	0.74 × 0.66	36	緩斜	皿状	自然	土師器片(甕)	
169	C11b ₅	N-12°-E	楕円形	0.90 × 0.76	28	外傾	平坦	自然	土師器片(甕)	
170	C11b ₆	N-0°	円形	0.72 × 0.66	30	垂直	平坦	自然		
171	C11a ₅	N-2°-W	楕円形	0.66 × 0.50	48	外傾	平坦	自然		
172	C11a ₆	N-89°-W	円形	0.90 × 0.86	20	外傾	平坦	自然		
173	C11a ₄	N-70°-W	円形	0.88 × 0.84	34	外傾	平坦	自然	土師器片(坏・甕) 縄文式土器片	
174	B11j ₄	N-13°-W	楕円形	0.82 × 0.68	30	外傾	皿状	自然	土師器片(坏)	
175	B11j ₄	N-0°	楕円形	0.68 × 0.60	36	外傾	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	
176	B11i ₄	N-65°-W	楕円形	0.68 × 0.61	30	外傾	平坦	自然		
177	E7g _s	N-50°-W	楕円形	1.64 × 1.46	13	緩斜	凸凹	人為	土師器片(甕) 縄文式土器片	
178	F7i ₉	N-45°-W	楕円形	1.44 × 1.32	36	外傾	平坦	人為	土師器片(坏・甕)	
179	E7j ₀	N-0°	円形	1.54 × 1.48	50	外傾	平坦	人為		
180	F8b ₁	N-73°-E	円形	0.45 × 0.42	14	緩斜	皿状	自然		
181	F7b ₀	N-50°-W	長方形	0.43 × 0.38	22	緩斜	皿状	人為		
182	G6c ₇	N-15°-E	長楕円形	3.10 × 1.56	34	外傾	平坦	人為	土師器片(坏・甕)	
183	F7c ₉	N-52°-W	楕円形	2.70 × 1.50	48	外傾	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	
184	F7d ₈	N-35°-W	円形	0.60 × 0.58	15	緩斜	皿状	自然	土師器片(甕)	

番号	位置	長径方向	平面形	長径×短径(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
185	F7d ₇	N-37°-W	楕円形	0.54 × 0.46	24	緩斜	皿状	自然	土師器片(甕)	
186	F7d ₇	N-53°-E	円形	0.42 × 0.40	14	緩斜	皿状	自然		
187	F6j ₀	N-45°-W	楕円形	0.66 × 0.60	16	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	
188	F7b ₇	N-25°-W	楕円形	0.48 × 0.32	20	外傾	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	
189	F7b ₇	N-10°-W	楕円形	0.62 × 0.52	36	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・塊・甕)	
190	F7b ₅	N-42°-W	楕円形	1.56 × 1.02	26	外傾	平坦	人為	土師器片(坏・甕)	
191	F7b ₅	N-37°-E	円形	0.54 × 0.50	14	緩斜	凸凹	自然	土師器片(甕)	
192	F7a ₅	N-0°	円形	0.32 × 0.32	14	緩斜	皿状	自然		
193	F7a ₅	N-10°-E	不定形	0.74 × 0.46	38	外傾	凸凹	自然	土師器片(甕)	
194	E7i ₅	N-35°-W	長楕円形	0.64 × 0.30	34	緩斜	凸凹	自然		
195	G7c ₃	N-47°-W	楕円形	2.92 × 2.20	50	緩斜	凸凹	自然	土師器片(坏・甕) 縄文式土器片	
196	E7j ₇	N-20°-E	楕円形	0.56 × 0.46	13	外傾	平坦	自然	土師器片(甕)	
197	F7a ₅	N-42°-W	不定形	1.10 × 0.62	15	緩斜	皿状	自然		
198	E7j ₅	N-42°-W	不定形	0.85 × 0.74	40	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	
199	E7i ₅	N-57°-W	楕円形	0.70 × 0.46	12	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕) 鉄製品(不明)	
200	G6i ₉	N-27°-E	楕円形	0.78 × 0.68	32	外傾	凸凹	人為		
201	G6a ₅	N-70°-W	楕円形	1.22 × 1.00	24	緩斜	皿状	自然	縄文式土器片	
202	E7i ₅	N-0°	不定形	1.12 × 0.60	34	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	
203	F8a ₂	N-85°-E	楕円形	1.28 × 0.70	50	外傾	平坦	自然	土師器片(甕) 縄文式土器片	
204	E7f ₇	N-50°-E	楕円形	1.02 × 0.82	10	緩斜	平坦	自然	土師器片(坏・甕)	
205	E7i ₅	N-0°	円形	1.22 × 1.22	14	緩斜	凸凹	自然	土師器片(坏・甕)	
206	E7h ₅	N-0°	円形	1.32 × 1.32	42	外傾	凸凹	自然	土師器片(坏・甕)	
207	E7j ₅	N-65°-E	不定形	0.82 × 0.44	36	外傾	凸凹	自然	土師器片(坏・甕)	
208	F7d ₇	N-6°-E	不定形	0.46 × 0.38	16	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	
209	E7h ₅	N-48°-E	不定形	0.86 × 0.46	28	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	
210	E7j ₅	N-89°-W	不定形	0.78 × 0.32	21	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	
211	E7j ₅	N-43°-E	不定形	1.06 × 0.66	32	緩斜	凸凹	自然	土師器片(甕)	
212	E7j ₄	N-42°-W	楕円形	1.20 × 0.98	10	緩斜	皿状	自然	土師器片(甕)	
213	F7e ₅	N-38°-E	楕円形	0.58 × 0.48	18	緩斜	皿状	自然		
214	F7g ₇	N-46°-E	長方形	2.60 × 1.18	38	外傾	平坦	人為		焼土・炭化物有り
215	F7j ₄	N-43°-E	楕円形	1.34 × 0.96	36	外傾	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	
216	G7a ₄	N-37°-E	長楕円形	1.94 × 0.66	46	外傾	平坦	自然	土師器片(坏・甕)	
217	G7b ₂	N-62°-W	長楕円形	2.34 × 1.16	58	外傾	平坦	人為	土師器片(坏・甕) 縄文式土器片	
218	G6f ₅	N-0°	楕円形	0.57 × 0.48	22	外傾	平坦	自然		
219	G6a ₅	N-15°-E	楕円形	1.14 × 0.98	26	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕) 縄文式土器片	
220	G6d ₄	N-76°-W	不定形	1.84 × 1.68	82	外傾	平坦	人為	土師器片(坏・甕)	
221	G6e ₂	N-0°	円形	0.76 × 0.74	26	緩斜	皿状	自然	土師器片(甕)	
222	G6c ₅	N-30°-W	不定形	1.60 × 0.86	54	外傾	皿状	人為	土師器片(甕) 縄文式土器片	SI-71より新しい
223	F7e ₁	N-50°-E	円形	0.88 × 0.84	39	緩斜	平坦	人為	土師器片(坏・甕)	SI-66より新しい
224	G5i ₈	N-87°-E	台形	2.28 × 1.86	45	外傾	平坦	自然		
225	G5h ₉	N-55°-E	楕円形	0.44 × 0.40	35	外傾	皿状	自然		
226	G5h ₉	N-78°-E	楕円形	1.56 × 1.24	55	外傾	凸凹	自然		
227	G6h ₂	N-36°-W	楕円形	0.88 × 0.76	23	緩斜	皿状	自然	土師器片(甕)	
228	E7j ₅	N-53°-E	楕円形	0.54 × 0.36	14	緩斜	皿状	人為		
229	E7j ₅	N-30°-W	不定形	0.78 × 0.62	34	緩斜	皿状	人為	土師器片(甕)	
230	F7b ₉	N-40°-W	不定形	0.60 × 0.32	16	緩斜	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	
231	E7f ₅	N-32°-W	楕円形	2.30 × 1.64	56	外傾	凸凹	自然	土師器片(坏・甕)	SI-72より新しい
232	E7g ₅	N-32°-E	楕円形	1.78 × 1.04	50	外傾	平坦	自然	土師器片(坏・甕)	SI-72より新しい

番号	位置	長径方向	平面形	長径×短径(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
233	G6c ₅	N-3°-E	楕円形	0.96 × 0.84	36	外傾	皿状	人為		SI-71より新しい
240	G6f ₆	N-65°-W	楕円形	0.66 × 0.56	25	緩斜	皿状	人為	土師器片(坏・甕)	
249	F7b ₆	N-45°-E	楕円形	0.74 × 0.48	24	外傾	皿状	自然	土師器片(坏・甕)	

(3) 遺構外出土遺物

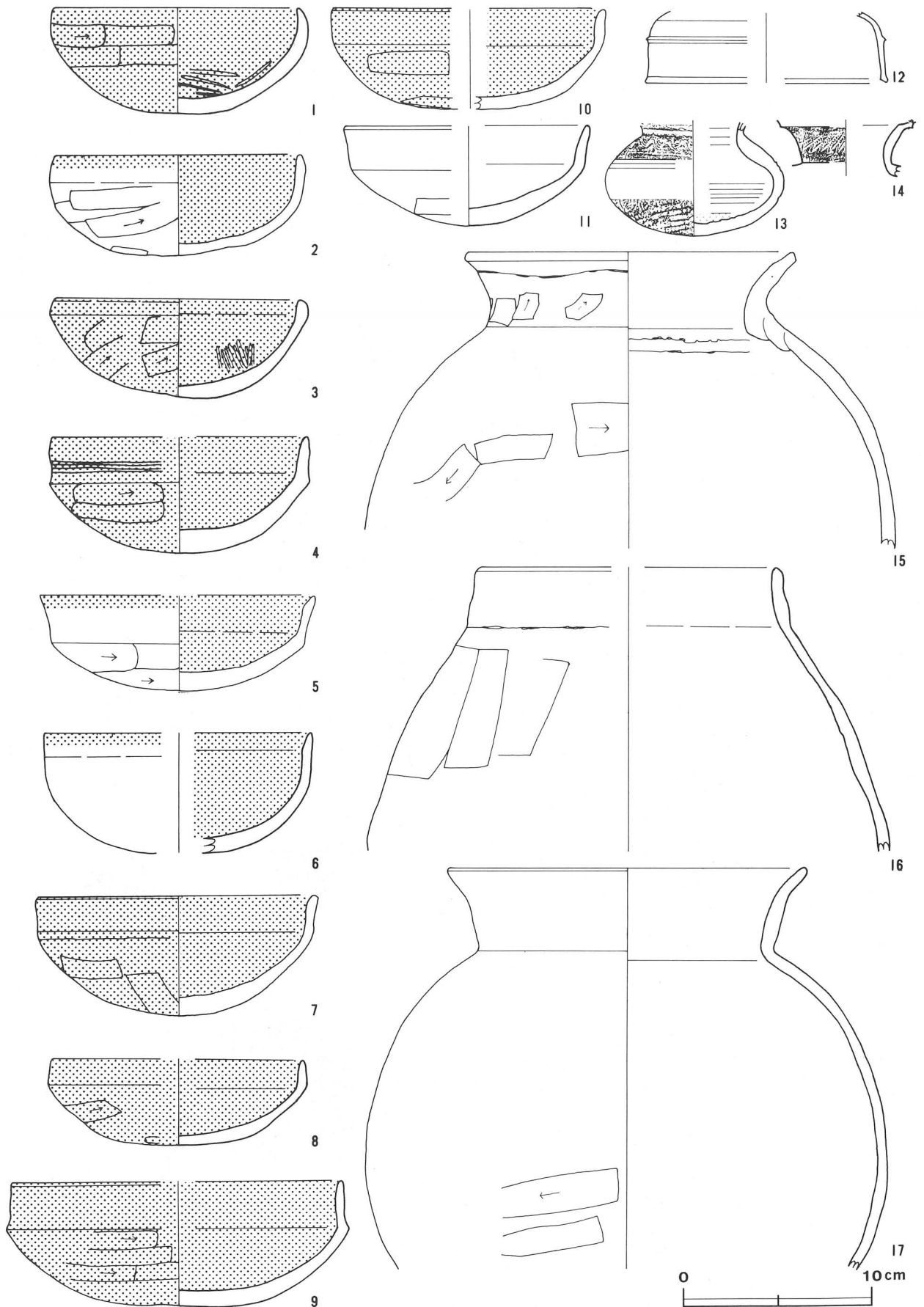
本項では、遺構外から出土した遺物のうち特徴のあるものを抽出して、実測図及び観察表で報告する。

遺構外出土遺物観察表

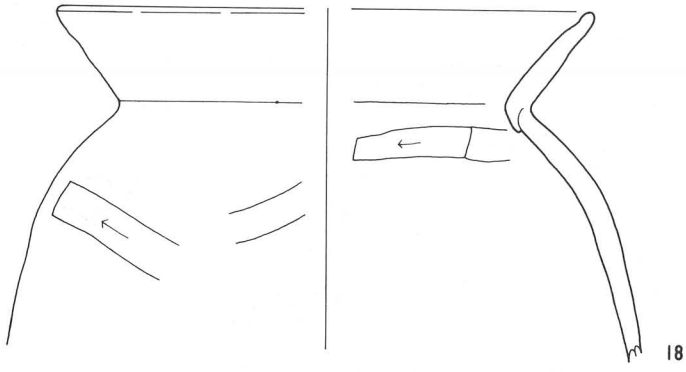
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第208~210図	坏 土師器	A 13.2 B 5.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒にぶい赤褐色普通	P 544 100% 表採
	坏 土師器	A 13.0 B 5.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒赤褐色普通	P 545 100% B11区
	坏 土師器	A 13.1 B 5.5	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、磨き。内・外面赤彩。	長石・砂粒赤褐色普通	P 546 95% C11区
	坏 土師器	A [13.8] B 6.4	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒明赤褐色普通	P 547 65% E8区
	坏 土師器	A [14.8] B 5.2	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒赤褐色普通	P 548 60% 表採
	坏 土師器	A [14.4] B (6.7)	底部から口縁部の一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。口縁部外面及び体部内面赤彩。	長石・砂粒明赤褐色普通	P 549 60% 表採
	坏 土師器	A 14.8 B 6.6	口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は僅かに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面剝離。内・外面赤彩。	長石・砂粒明赤褐色普通	P 550 60% B11区
	坏 土師器	A [13.4] B 4.7	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒赤褐色普通	P 551 50% C11区
	坏 土師器	A [18.0] B 6.8	体部及び口縁部の一部欠損。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・砂粒明赤褐色普通	P 552 50% 表採
	坏 土師器	A [14.6] B (5.5)	底部から口縁部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒赤褐色普通	P 553 40% 表採
	坏 土師器	A [13.0] B (5.4)	底部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英・砂粒にぶい橙色普通	P 554 40% 表採
	坏 須恵器	A [12.8] B (3.9)	天井部から口縁部の破片。天井部と口縁部の境に稜をもつ。口縁部は外傾し、端部に凹面をもつ。	天井部回転へら削り。口縁部内・外面横ナデ。	長石・砂粒灰色良好	P 555 20% 表採
	甕 須恵器	B (6.3)	底部から体部の破片。丸底で、体部は内彎して立ち上がる。体部中に2条の沈線を巡らせ、間に櫛描波状文が施される。	体部内・外面横ナデ。底部外面平行タタキ。	長石・砂粒黒褐色普通	P 568 P L67 40% 底部内面自然釉附着 表採
	甕 須恵器	B (3.2)	頸部の破片。頸部は外反し、口縁部との境に稜をもつ。外面に櫛描波状文が施される。	内・外面横ナデ。	長石・砂粒黄灰色普通	P 569 20% C11区
	甕 土師器	A 17.4 B (16.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部から口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面へら削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒明赤褐色普通	P 556 40% 表採

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特長	胎土・色調・焼成	備考
16	甕 土師器	A [15.8] B (15.5)	体部から口縁部の破片。体部から頸部は内傾し、口縁部はほぼ直立する。頸部は僅かに肥厚する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P 557 40% 表採
17	甕 土師器	A 19.0 B (21.8)	体部から口縁部の破片。体部は球形で、頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 橙色 普通	P 558 40% 表採
18	甕 土師器	A [20.8] B (14.1)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外傾する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部内・外面へラ削り後、ナデ。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P 559 30% 表採
19	甕 土師器	A [14.6] B (8.0)	体部から口縁部の破片。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ。	長石・砂粒 暗赤褐色 普通	P 560 P L 68 30% 表採
20	甕 土師器	B (21.5) C 9.4	底部から体部の破片。平底で、体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P 561 45% 表採
21	甕 土師器	B (14.0) C 9.6	底部から体部の破片。底部は平底で、突出する。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面へラ削り。内面へラナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P 562 30% 表採
22	甕 土師器	A 12.4 B (13.9)	底部欠損。体部は球形で、最大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P 563 75% 外面煤付着 表採
23	甕 土師器	A 27.6 B 33.0 C 7.2	体部の一部欠損。無底式。体部は内彎気味に立ち上がり、最大径を上位にもつ。頸部から口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面へラナデ。体部外面へラ削り。	長石・石英・砂粒 明赤褐色 普通	P 564 P L 67 90% C 11区
24	甕 土師器	A 27.0 B 30.7 C 8.6	体部の一部欠損。無底式。体部は内彎して立ち上がり、最大径を上位にもつ。頸部から口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面へラ削り。内面へラナデ。	長石・砂粒 橙色 普通	P 565 P L 68 75% F 7区
25	甕 土師器	A 18.8 B 15.0 C 5.0	体部の一部欠損。単孔式。体部から口縁部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面上位へラナデ。中位から下位にかけてへラ削り。内面へラナデ。	長石・砂粒 明褐色 普通	P 566 P L 68 80% C 11区
26	甕 土師器		把手の破片。先端部欠損。	外面へラ削り。	長石・砂粒 にぶい褐色 普通	P 567 5% 表採
27	甕 須恵器	B (4.7)	体部から頸部の破片。体部上位に櫛歯による刺突文、頸部に櫛描による波状文が施される。	体部内・外面横ナデ。	長石・砂粒 オリブ黄色 普通	P 589 P L 67 20% 自然釉付着 表採
28	甕 須恵器		頸部の破片。弱い稜を挟んで、櫛描波状文が施される。	内・外面横ナデ。	長石・砂粒 灰色 良好	T P 154 5% 表採
29	甕 須恵器		頸部の破片。頸部上位にシャープな稜をもち、櫛描波状文が施される。	内・外面横ナデ。	長石・砂粒 灰色 良好	T P 155 5% 表採
30	甕 須恵器		体部の破片。	外面平行叩き目。	長石・砂粒 灰白色 普通	T P 156 5% 表採

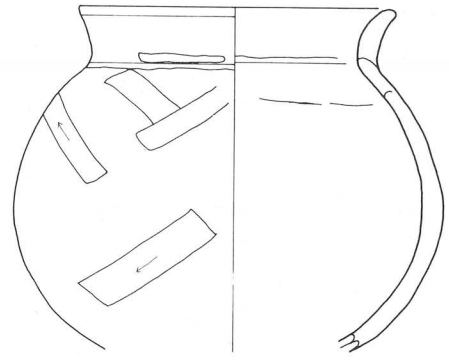
図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
31	球状土錘	3.2	3.4	3.2	29.3	表採	孔径 6.0mm D P 35 100% P L 69
32	球状土錘	2.8	(2.6)	2.8	8.1	表採	孔径 9.0mm D P 36 50% P L 69
33	球状土錘	3.2	3.7	3.2	34.1	確認面	孔径 7.0mm D P 40 100%
34	不明石製品	5.3	2.4	0.9	16.1	表採	孔径 7.0mm Q 207 100% P L 69



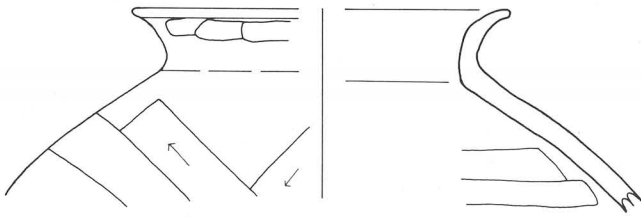
第208図 遺構外出土遺物実測図(1)



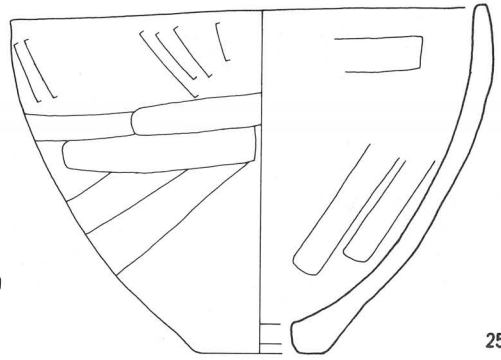
18



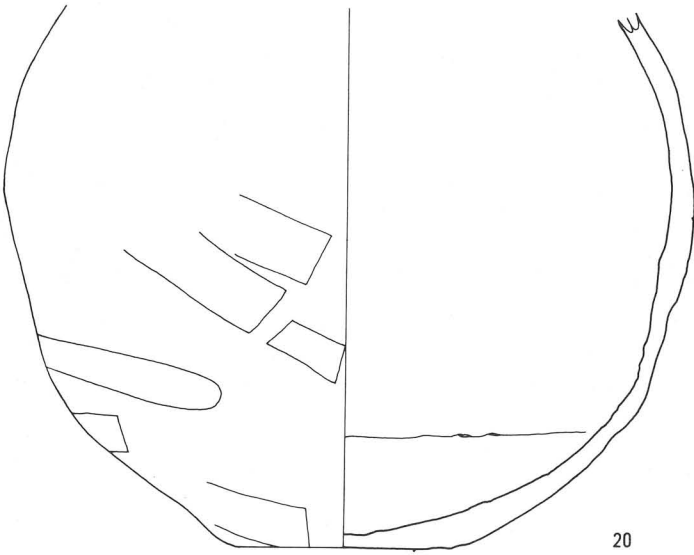
22



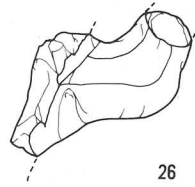
19



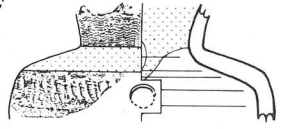
25



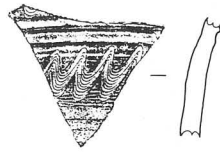
20



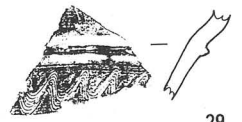
26



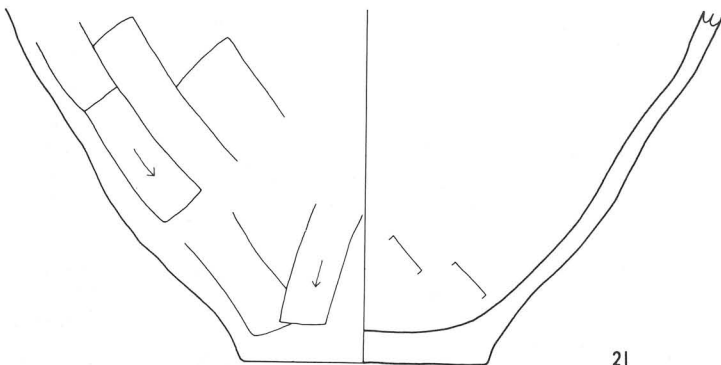
27



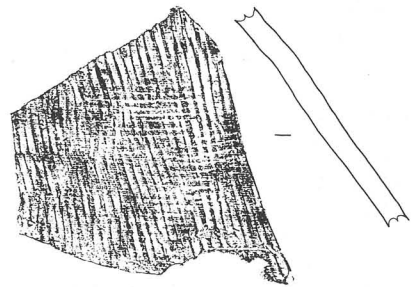
28



29



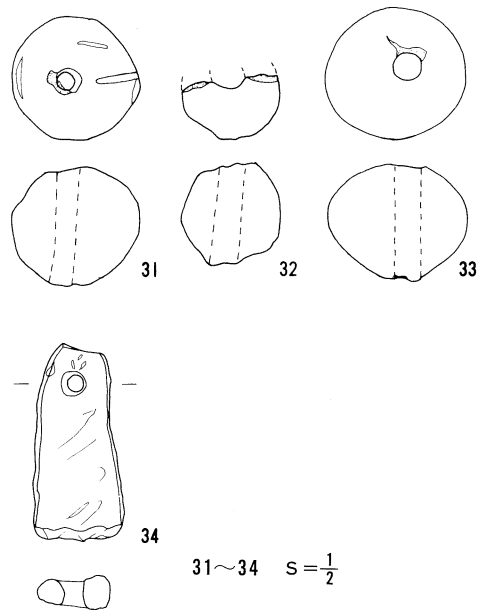
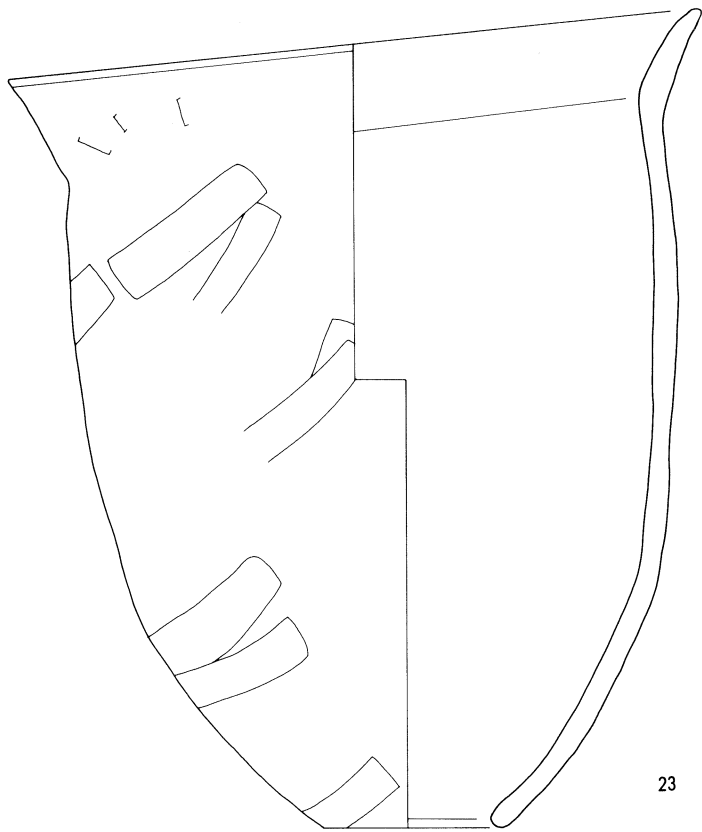
21



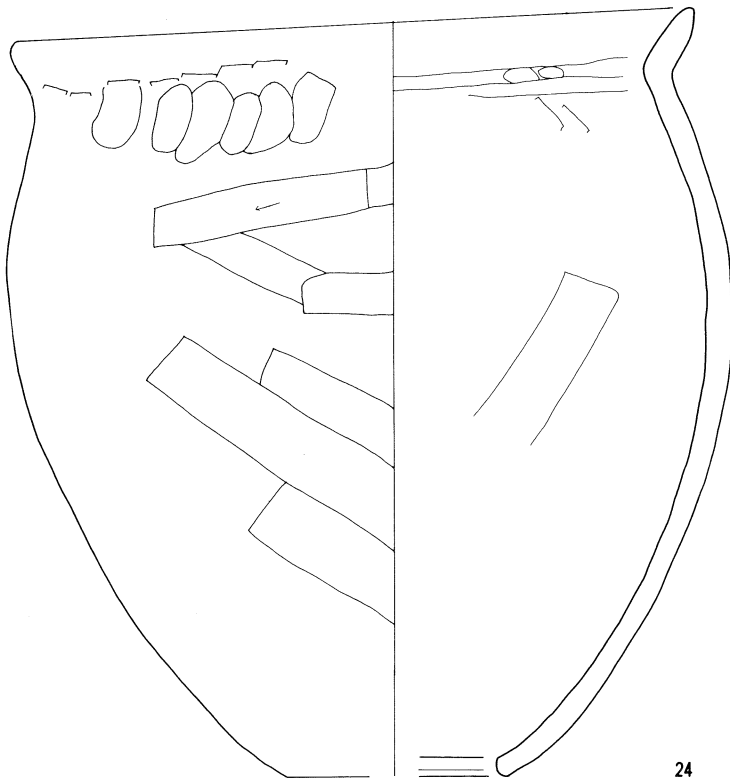
30



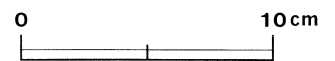
第209図 遺構外出土遺物実測図(2)



23



24



第210図 遺構外出土遺物実測図(3)

3 平安時代の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

平安時代の竪穴住居跡は3軒で、各調査区(1~3)から1軒ずつ確認されている。以下、その特徴や主な出土遺物について記載していくことにする。

第29号住居跡(第211図)

位置 2区北東部, D9d₉区。

規模と平面形 長軸2.62m, 短軸2.32mの方形である。

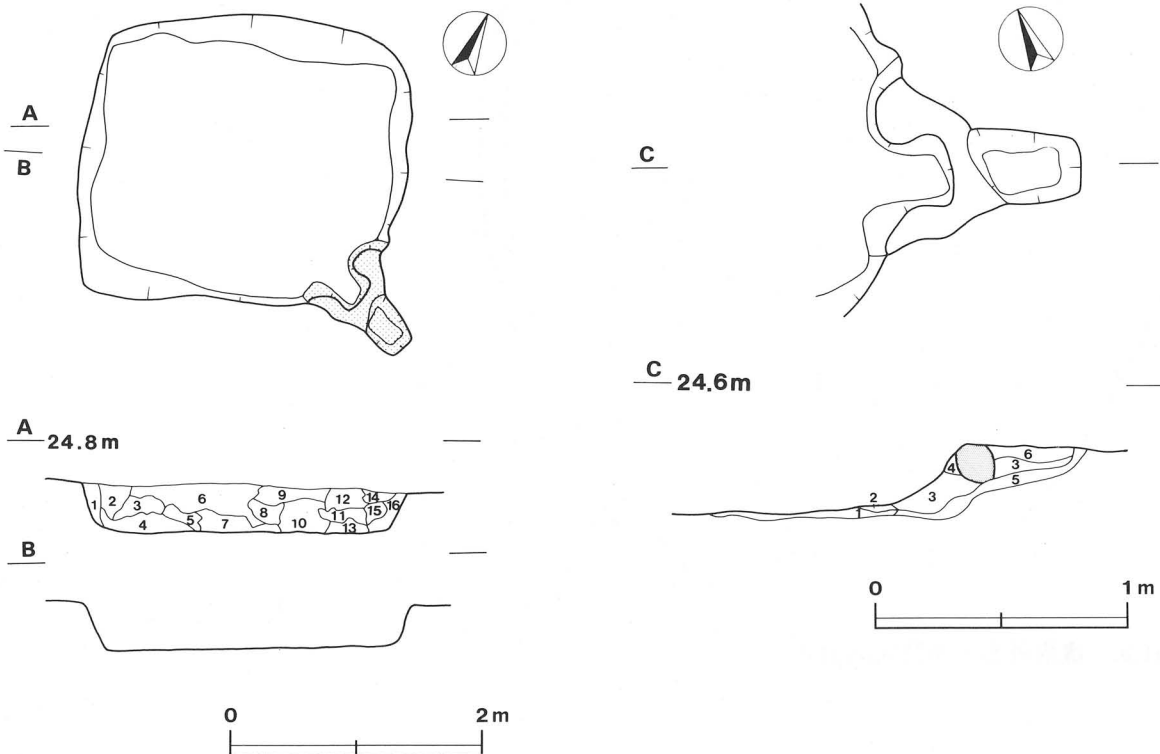
主軸方向 N-170°-E。

壁 壁高は34~38cmで、北西壁は垂直に、その他の壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、あまり踏み固められていない。

竈 南東コーナー部を壁外に50cm程掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。規模は長さ86cm, 幅70cmである。袖部の遺存状態は良く、内壁は熱を受け赤変している。天井部の残りは良好で、厚さは15cmである。火床部は4cm程窪み、皿状をしている。煙道部は火床から緩やかに立ち上がっている。煙出口は、長径42cm, 短径29cmの長方形で、僅かに赤変硬化している。覆土は6層からなり、第1層は焼土粒子及び炭化物を微量と焼土小・中ブロックを少量含む粘土ブロック混じりの黄褐色土、第2層は焼土小ブロックを少量と炭化物を微量含む褐色土、第3層は焼土粒子を多量と焼土小ブロックを少量含む明赤褐色土、第4層は焼土粒子を中量と炭化物を微量含む赤褐色土、第5層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む黄褐色土、第6層は焼土粒子及び焼土小ブロックを多量含む赤褐色土である。

覆土 16層からなり、人為堆積である。第1層はローム粒子を多量、焼土粒子及び炭化粒子を微量含む黄褐色



第211図 第29号住居跡実測図

土、第2層はローム粒子を少量と炭化物を微量含む褐色土、第3層はローム小ブロック及び炭化物を微量含む褐色土、第4層は焼土粒子及び炭化物を微量含む褐色土、第5層はローム粒子を少量と焼土粒子を微量含む褐色土、第6層は焼土小ブロック、炭化粒子及び炭化物を微量含む褐色土、第7層はローム粒子及びローム小ブロックを微量含む褐色土、第8層はローム小ブロックを少量と焼土粒子及び炭化粒子を微量含む褐色土、第9層はローム粒子及びローム小ブロックを少量、炭化粒子を微量含む褐色土、第10層はローム粒子を少量と炭化粒子を微量含む褐色土、第11層はローム粒子を少量と炭化粒子及び炭化物を微量含む褐色土、第12層はローム粒子を少量とローム小ブロック及び炭化粒子を微量含む褐色土、第13層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む褐色土、第14層はローム粒子及び炭化粒子を少量含む暗褐色土、第15層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む暗褐色土、第16層はローム粒子を少量、ローム小ブロックを微量含む褐色土である。

遺物 覆土中から土師器片が29点出土しているが、小片で実測できるものはなかった。

所見 実測できた遺物は1点もないが、出土した土師器片と遺構の形態から、本跡は平安時代（10世紀頃）の住居跡と考えられる。

第49号住居跡（第212図）

位置 1区南西部、C10i₃区。

重複関係 本跡の南西コーナー部は、第50号住居跡の東コーナー付近を掘り込み、竈の右袖部から北東コーナー付近は第156号土坑に、北西コーナー付近の壁は第157号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.02m、短軸3.82mの方形である。

主軸方向 N-0°。

壁 壁高は50～68cmで、外傾して立ち上がっている。

壁溝 竈の東側は第156号土坑に掘り込まれ確認されていないが、壁下を全周していたものと考えられる。上幅7～20cm、下幅4～16cm、深さ4～6cmで、断面形は皿状をしている。

床 ほぼ平坦で、全体的に硬く踏み固められている。

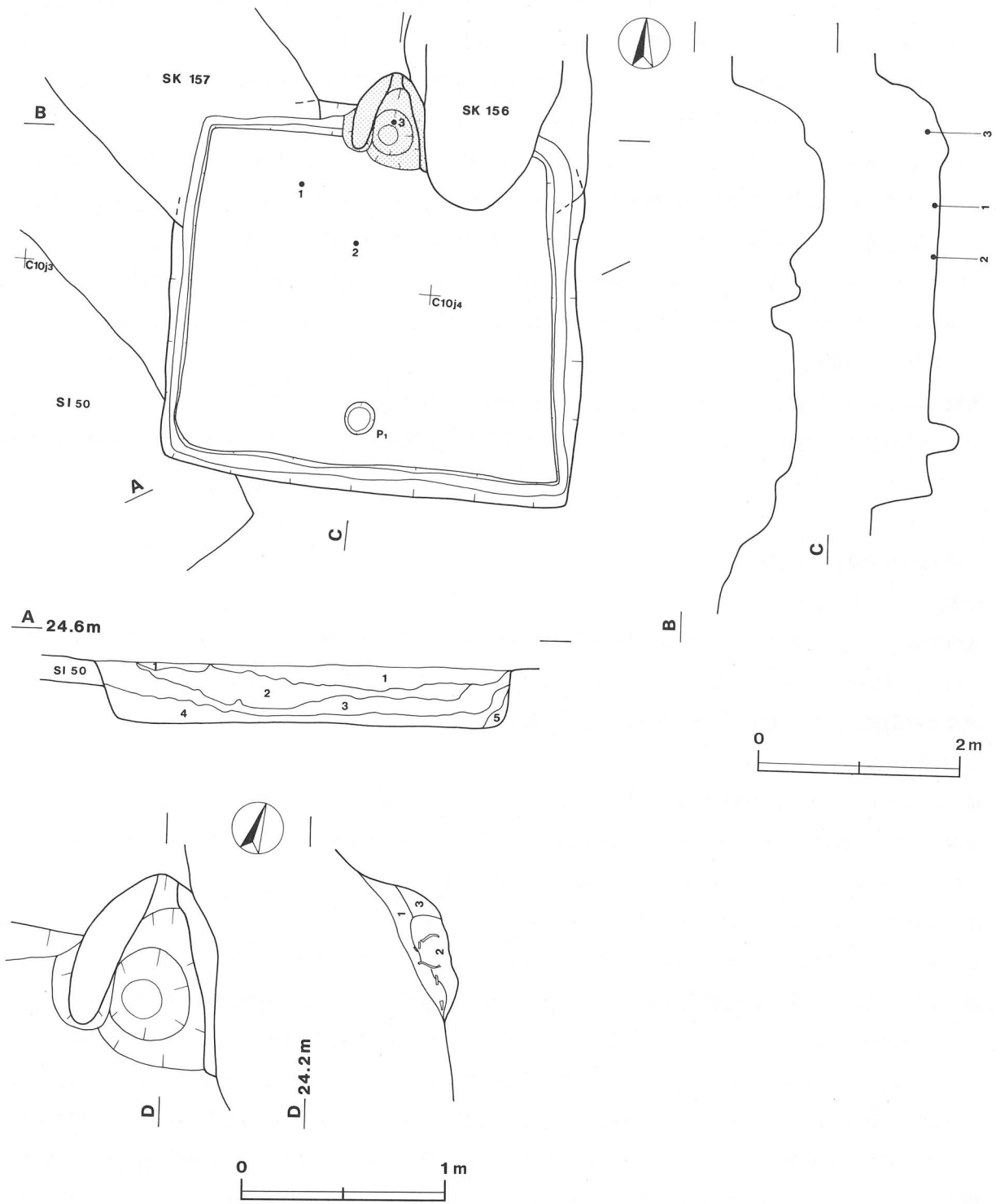
ピット 1か所（P₁）。径23cm、深さ22cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部を壁外に38cm程掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。規模は長さ96cm、幅約90cmである。天井部は崩落しているが、袖部は第156号土坑に掘り込まれている右袖部の一部を除き、遺存状態は良好で、内壁は熱を受け赤変している。火床部は8cm程窪み、皿状をしている。煙道部は火床部から急角度に外傾して立ち上がっている。覆土は3層からなり、第1層は焼土粒子を中量含む赤褐色土、第2層は焼土粒子を多量に含む赤褐色土、第3層は焼土粒子を多量と炭化粒子及び炭化物を少量含む暗赤褐色土である。

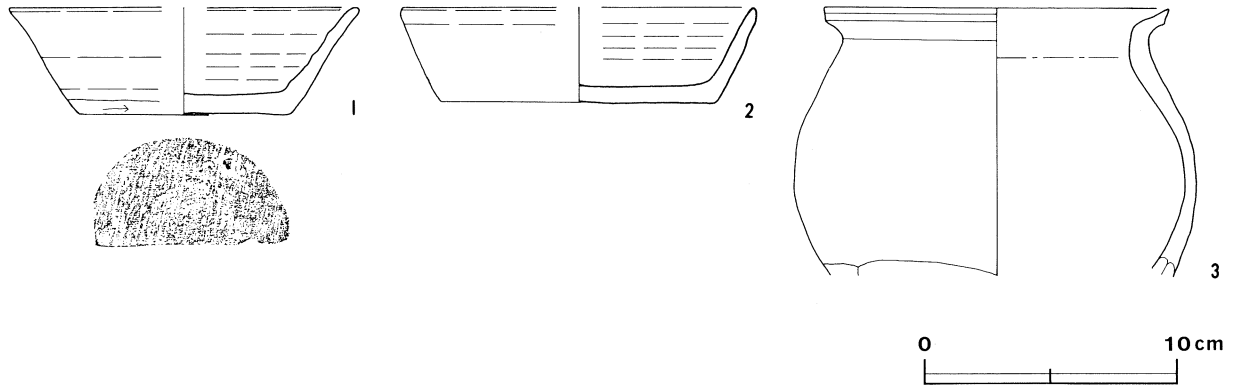
覆土 5層からなり、第2層以外は自然に堆積したものと思われる。第2層は人為的にロームを厚く投げ込んだものである。第1層は焼土粒子及び炭化粒子を少量含む暗褐色土、第2層はローム粒子を多量とローム小・中ブロックを少量含む明褐色土、第3層はローム粒子を少量含む褐色土、第4層はローム粒子を中量含む褐色土、第5層はローム粒子を多量に含む橙色土である。

遺物 竈内及び床面から、土師器甕及び須恵器坏片が少量出土している。第213図1と2の須恵器坏は北西寄りの床面から正位の状態で、3の土師器甕は竈天井部の崩落時に竈内に落ち込んだように正位の状態で出土している。

所見 本跡は、出土遺物平安時代前期（8世紀末頃）の住居跡である。



第212图 第49号住居跡実測図



第213図 第49号住居跡出土遺物実測図

第49号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第213図 1	坏 須恵器	A [13.9] B 4.4 C 8.4	底部から口縁部の破片。平底で、 体部から口縁部は外傾して立ち上 がる。	体部外面下位回転ヘラ削り。底部 外面一方向の手持ちヘラ削り。	長石・雲母・砂粒 灰白色 普通	P 388 P L 60 40% 覆土下層
2	坏 須恵器	A [14.2] B 11.0 C 10.8	底部から体部の破片。平底で、体 部から口縁部は外傾して立ち上 がる。	体部及び底部内・外面摩耗。	長石・雲母・砂粒 灰白色 普通	P 389 30% 床面
3	甕 土師器	A 13.6 B (10.8)	体部から口縁部の破片。体部は内 彎して立ち上がる。頸部から口縁 部は大きく外反する。口唇部は外 上方につまみ上げられる。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。 体部内・外面摩耗。	長石・石英・砂粒 赤褐色 普通	P 390 P L 60 50% 竈

第69号住居跡 (第214図)

位置 3区北西部, F6h₈区。

重複関係 本跡の竈は第68号住居跡の北西コーナー付近の壁を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.80m, 短軸3.30mの長方形である。

主軸方向 N-113°-E。

壁 壁高は40~48cmで, 北東・南西壁は垂直に, その他の壁は外傾して立ち上がっている。

壁溝 北東壁下の一部を除き周回している。上幅7~22cm, 下幅4~16cm, 深さ2~6cmで, 断面形は皿状を
している。

床 ほぼ平坦で, 各コーナー部を除き硬く踏み固められている。

ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁・P₂は, 径32cm, 深さ20~24cmで主柱穴, P₃は, 径36cm, 深さ32cmで出入口口
施設に伴うピットと考えられる。

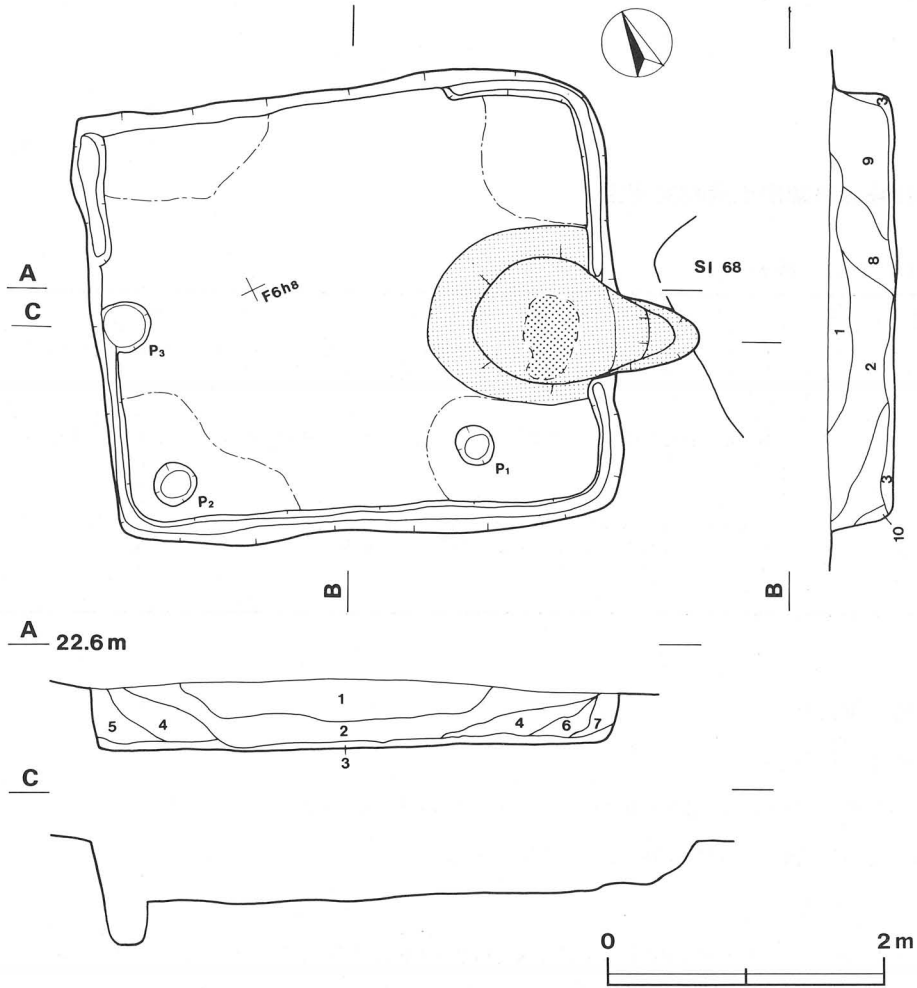
竈 南コーナー寄りの南東壁を壁外に63cm程掘り込み, 砂混じりの粘土で構築されている。規模は長さ90cm,
幅約60cmである。天井部は崩落し, 袖部は遺存していない。火床部は僅かに窪み, 火熱を受け赤変硬化して
いる。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がっている。

覆土 10層からなり, 人為堆積である。第1層はローム粒子を中量とローム小ブロックを少量含む暗褐色土,
第2層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土, 第3層はローム中ブロックを中量含む明褐色
土, 第4層はローム粒子を多量とローム小ブロックを中量含む暗褐色土, 第5層はローム小ブロックを少
量含む褐色土, 第6層はローム粒子及びローム小ブロックを少量含む褐色土, 第7層はローム小ブロックを少
量と焼土粒子を微量含む褐色土, 第8層はローム中ブロックを少量含む褐色土, 第9層はローム中ブロック

を中量含む褐色土、第10層はローム大ブロックを多量に含む黄褐色土である。

遺物 床面及び覆土下層、竈内から土師器片が175点出土している。第215図1の土師器坏は竈付近の床面から、2・3の土師器甕は竈内から出土している。

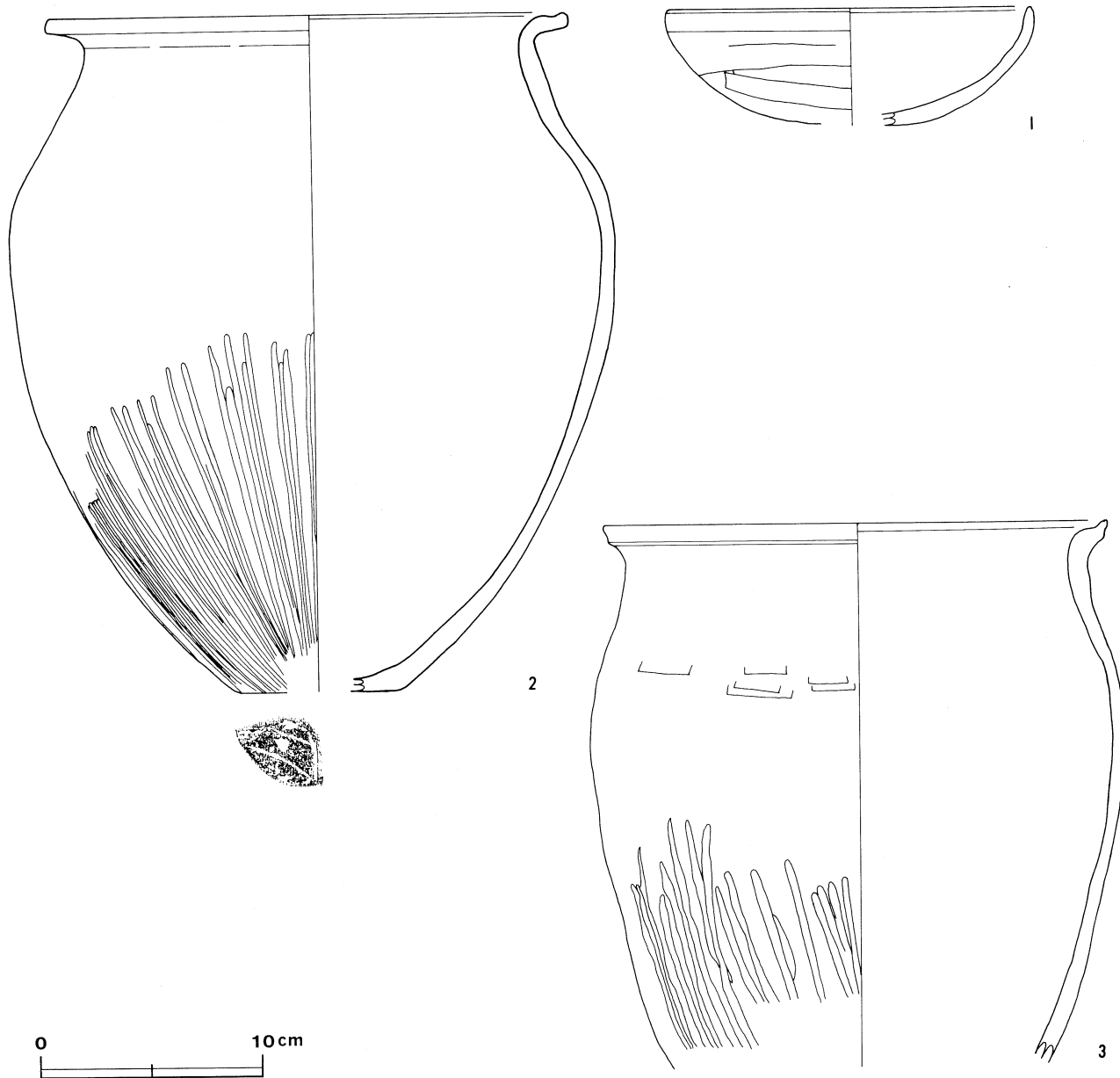
所見 本跡は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代前期（9世紀代）の住居跡である。



第214図 第69号住居跡実測図

第69号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第215図 1	坏 土師器	A 16.3 B (5.4)	底部欠損。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、磨き。内面ナデ。	長石・砂粒にぶい褐色良好	P504 PL65 75% 床面
2	甕 土師器	A 23.4 B 31.0 C [7.4]	底部及び体部の一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、最大径を上位にもつ。口縁部は屈曲する。口唇部は上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位から下位ヘラ磨き。	長石・雲母・砂粒 橙色 普通	P505 PL67 70% 底部木葉痕 竈
3	甕 土師器	A 20.6 B (24.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、最大径を上位にもつ。口縁部は外反する。口唇部は外上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ヘラナデ。中位から下位ヘラ磨き。内面ナデ。	長石・雲母・砂粒 橙色 普通	P506 50% 竈



第215図 第69号住居跡出土遺物実測図

表3 住居跡一覧表

住居跡 番号	位置	主(長)軸 方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設							覆土	出 土 遺 物	備 考
							壁溝	間仕切 溝	ピット	支柱穴	入口	炉・竈	貯蔵穴			
1	E8i ₃	N-44°-W	方形	7.70 × 7.46	14~32	平坦	全周	8	6	4	1	炉(1)	1	人為	土師器(坏・埴・甕) 土製品(銚・小玉) 石器(砥石) 石製品(双孔円板) 鉄製品(不明)	古墳時代中期後半
2	E8h ₂	N-40°-E	台形	2.28 × 2.06	46~50	平坦	-	-	-	-	-	-	-	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代中期
3	E7f ₉	(N-22°-W)	長方形	4.70 × 3.46	16~34	平坦	-	-	6	2	-	炉(1)	-	人為	土師器(坏・甕) 石器	古墳時代中期後半 第7号土坑より古い
4	E7e ₉	N-42°-W	方形	3.84 × 3.58	14~34	凸凹	-	-	7	4	2	炉(1)	-	人為	土師器(坏・埴・甕)	古墳時代中期後半 張り出し 部有り 第5号土坑より古い
5	E7e ₀	(N-40°-W)	長方形	2.00 × 1.74	50~60	平坦	-	-	-	-	-	-	-	人為	土師器(坏・壺・甕・甗)	古墳時代中期後半 第1号土坑より古い
6	E8e ₂	N-43°-W	不整形	2.94 × 2.40	6~16	平坦	-	-	-	-	-	-	-	人為	土師器(坏・甕・壺・甗)	古墳時代中期後半
7	E8f ₃	N-43°-W	長方形	5.30 × 4.56	18~50	平坦	半周	5	3	2	1	炉(1)	1	人為	土師器(坏・埴・甕) 石製品(双孔円板) 鉄製品(鏃) 須恵器(甗)	古墳時代中期後半 焼失
8	E8c ₂	N-46°-W	長方形	5.88 × 4.62	18~44	平坦	-	-	5	4	1	炉(1)	1	人為	土師器(坏・埴・壺・甕) 葦青石	古墳時代中期後半 焼失 第39号土坑より古い
9	E8c ₅	N-60°-W	方形	7.28 × 6.98	32~54	平坦	3/4	5	5	4	-	-	1	人為	土師器(坏・高坏・埴・甕・甗) 土製品(球状土 錘・管状土錘) 石製品(双孔円板) 葦青石	古墳時代中期後半 張り出し 部有り 焼失
10	E8e ₉	(N-44°-W)	長方形	3.96 × 3.28	11~14	凸凹	-	-	-	-	-	炉(1)	1	人為	土師器(坏・甕・甗)	古墳時代中期後半

住居跡 番号	位置	主(長)軸 方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設							覆土	出土遺物	備考
							壁溝	間仕切溝	ピット	支柱穴	入口	炉・竈	貯蔵穴			
11	E9d ₂	N-28°-W	方形	6.08 × 5.90	14~58	平坦	半周	7	6	4	1	炉(1)	1	人為	土師器(坏・壺・甕) 石製品(紡錘車)	古墳時代中期後半 焼失
12	E9b ₁	N-33°-W	方形	6.50 × 6.48	34~44	平坦	3/4	8	4	4	-	炉(1)	1	人為	土師器(坏・甕・甗) 土製品(勾玉・小玉)	古墳時代中期後半 焼失
13	D9h ₂	N-53°-W	方形	6.82 × 6.70	34~44	平坦	全周	-	5	4	1	炉(1)	1	人為	土師器(坏・甕) 須恵器(甗) 石製品(白玉) 鉄製品(不明)	古墳時代中期後半 焼失 第8号土坑より古い
14	D8f ₉	N-15°-W	方形	7.00 × 6.90	12~28	平坦	半周	-	5	4	1	炉(2)	1	人為	土師器(坏・甕) 土製品(球状土錘) 石器(砥石)	古墳時代中期後半 第9号土坑より古い
15	D8e ₀	(N-122°-E)	方形	2.40 × 2.34	14~18	平坦	-	-	-	-	-	炉(1)	-	自然	土師器(坏・甕)	古墳時代中期後半
16	D8d ₀	(N-122°-E)	方形	2.60 × 2.42	21~28	平坦	-	-	-	-	-	-	-	人為	土師器(坏・甕) 須恵器(蓋)	古墳時代中期後半 第6号土坑より古い
17	C9j ₄	N-37°-W	方形	7.80 × 7.66	38~52	平坦	全周	10	7	4	1	炉(1)	1	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代中期後半 第47号土坑より古い
18	C9c ₄	(N-140°-W)	方形	3.00 × 2.80	14~18	平坦	-	-	-	-	-	炉(1)	-	人為	土師器(坏・甕) 鉄製品(不明)	古墳時代中期後半
19	D9c ₅	(N-36°-E)	方形	3.20 × 3.14	12~22	平坦	-	-	-	-	-	炉(2)	-	人為	土師器(坏・鉢・甕)	古墳時代中期後半
20	D9e ₅	N-26°-W	方形	7.32 × 7.12	20~36	平坦	全周	2	6	4	-	炉(1)	1	人為	土師器(坏・甕) 石製品(白玉) 炭化種子	古墳時代中期後半 焼失
21	E9a ₅	N-40°-E	方形	7.02 × 6.74	20~62	平坦	半周	5	5	4	1	炉(1)	-	人為	土師器(坏・甕) 須恵器(甗) 石製品(白玉)	古墳時代中期後半
22	D9i ₇	N-42°-W	方形	5.68 × 5.32	30~58	平坦	半周	3	6	4	2	炉(2)	1	人為	土師器(坏・甕) 須恵器(蓋) 土製品(球状土錘) 石製品(白玉)	古墳時代中期後半 焼失
23	D9h ₉	N-54°-E	(長方形)	2.72 × (2.48)	0~9	平坦	-	-	-	-	-	炉(1)	-	自然	土師器(坏・甕)	古墳時代中期後半
24	D9j ₀	(N-34°-W)	方形	3.24 × 3.04	8~24	平坦	-	-	-	-	-	炉(1)	1	人為	土師器(坏・壺・甕)	古墳時代中期後半
25	E9d ₇	(N-0°)	長方形	3.30 × 2.46	4~34	平坦	-	-	1	-	-	-	-	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代中期後半
26	E9f ₄	(N-81°-E)	台形	(3.50) × 3.26	12~24	凸凹	-	-	2	-	-	-	-	人為	土師器(坏・壺・ミニチュア土器・甕)	古墳時代中期後半
27	E8i ₅	N-60°-E	長方形	3.74 × 3.20	16~30	平坦	-	-	2	-	-	炉(1)	-	人為	土師器(坏・壺・甕・甗) 炭化種子	古墳時代中期後半
28	D9d ₁	(N-57°-W)	長方形	3.00 × 2.66	52~58	平坦	-	-	-	-	-	-	-	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代中期後半
29	D9d ₉	N-170°-E	方形	2.62 × 2.32	34~38	平坦	-	-	-	-	-	竈	-	人為	土師器(甕)	平安時代前期
30	F8a ₅	(N-28°-W)	(長方形)	3.10 × (2.10)	14~24	平坦	-	-	-	-	-	炉(1)	-	自然	土師器(坏・甕)	古墳時代中期後半
31	A11e ₇	N-60°-W	長方形	3.80 × 3.24	14~24	平坦	全周	-	1	-	1	炉(1)	1	自然	土師器(坏・甕) 鉄製品	古墳時代中期後半
32	B11h ₁	N-71°-W	方形	3.00 × 2.84	20~46	平坦	-	-	-	-	-	炉(1)	-	人為	土師器(坏・壺・甕・甗) 須恵器(坏)	古墳時代中期後半 焼失
33	B10j ₉	N-52°-W	方形	7.52 × 7.44	32~52	平坦	全周	6	5	4	1	炉(2)	2	自然	土師器(坏・壺・甕) 須恵器(甗)	古墳時代中期後半
34	B10g ₇	N-52°-W	方形	7.28 × 7.28	32~52	平坦	全周	10	8	5	2	炉(2)	1	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代中期後半
35	C9c ₉	N-69°-W	方形	7.26 × 7.24	26~70	平坦	全周	3	5	4	1	炉(1)	1	人為	土師器(坏・高坏・甕) 須恵器(把手付土器) 石製品(白玉)	古墳時代中期後半 焼失
36	C10b ₇	N-39°-W	長方形	3.14 × 2.06	16~24	平坦	-	-	-	-	-	炉(1)	-	自然	土師器(坏・甕)	古墳時代中期後半
37	C10d ₇	(N-20°-E)	長方形	3.20 × 2.56	42~58	平坦	-	-	-	-	-	-	3	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代中期後半 第35号住居跡より古い
38	C10d ₆	(N-30°-E)	方形	3.60 × 3.26	4~22	凸凹	-	-	-	-	-	-	-	自然	土師器(坏・甕)	古墳時代中期後半
39	C10b ₆	N-26°-E	長方形	5.34 × 4.50	46~60	平坦	全周	-	4	3	1	炉(1)	1	自然	土師器(坏・甕) 石製品(白玉) 鉄製品(小札)	古墳時代中期後半
40	B10i ₄	N-71°-W	方形	7.36 × 7.10	36~60	平坦	全周	-	5	4	1	炉(2)	1	人為	土師器(坏・甕) 須恵器(甗)	古墳時代中期後半 第128・129号土坑より古い
41	C10a ₄	N-155°-E	不定形	2.52 × 2.34	8~22	凸凹	-	-	-	-	-	竈(1)	-	人為	土師器(坏・壺)	古墳時代中期後半 竈状遺構
42	C10a ₃	N-43°-E	長方形	3.98 × 3.30	26~30	平坦	-	-	-	-	-	炉(1)	-	自然	土師器(坏・甕・甗)	古墳時代中期後半 焼失
43	C10e ₉	N-27°-E	方形	6.50 × 6.24	42~64	平坦	全周	4	5	4	1	炉(1)	1	人為	土師器(坏・壺・甕) 土製品(土錘)	古墳時代中期後半 焼失
44	C10f ₉	N-64°-W	長方形	3.08 × 2.56	30~50	平坦	-	-	-	-	-	-	-	自然	土師器(坏・甕)	古墳時代中期後半 第58号住居跡より新しい 焼失
45	C10e ₆	(N-26°-E)	長方形	4.02 × 2.30	46~56	平坦	-	-	-	-	-	-	-	人為	土師器(坏・甕・甗)	古墳時代中期後半
46	C10g ₅	N-45°-W	長方形	6.90 × 5.80	38~56	平坦	全周	2	2	-	1	炉(3)	1	人為	土師器(坏・壺・甕) ミニチュア土器(坏・甗) 石製品(白玉・双孔円板) 須恵器	古墳時代中期後半 焼失
47	C10j ₇	N-40°-W	方形	7.06 × 7.00	38~56	平坦	全周	-	5	4	-	炉(1)	1	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代中期後半 焼失
48	D10b ₆	(N-33°-W)	方形	6.00 × 5.78	44~56	平坦	-	-	-	-	-	-	-	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代中期後半
49	C10i ₃	N-0°	方形	4.02 × 3.82	50~68	平坦	全周	-	1	-	1	竈(1)	-	自然	土師器(甕) 須恵器(坏)	平安時代前期 第50号住居跡より 新しく、第56・57号土坑より古い
50	C10j ₂	N-49°-W	長方形	6.70 × 5.94	26~34	平坦	3/4	6	4	3	1	炉(4)	-	人為	土師器(坏・甕) 石器(砥石)	古墳時代中期後半 第49号住居跡より古い
51	C10h ₁	(N-42°-W)	方形	6.80 × 6.70	46~56	平坦	全周	-	1	-	1	-	-	人為	土師器(坏・壺・甕)	古墳時代中期後半
52	C10b ₂	N-25°-W	台形	2.90 × 2.58	7~14	凸凹	-	-	-	-	-	炉(1)	-	人為	土師器(坏・甕・甗)	古墳時代中期後半
53	C10c ₁	N-17°-W	方形	2.04 × 2.00	4~8	凸凹	-	-	-	-	-	炉(1)	-	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代中期後半
54	C9d ₀	N-50°-W	方形	5.36 × 5.30	42~56	平坦	全周	-	5	4	1	炉(2)	1	人為	土師器(坏・高坏・甕)	古墳時代中期後半
55	C9f ₀	N-35°-E	長方形	3.50 × 2.76	8~14	平坦	-	-	-	-	-	炉(1)	-	自然	土師器(坏・鉢・甕)	古墳時代中期後半
56	C9g ₅	N-38°-W	方形	5.62 × 5.32	46~56	平坦	3/4	-	5	4	1	炉(1)	1	自然	土師器(坏・甕)	古墳時代中期後半
57	D10d ₂	N-53°-W	方形	3.42 × 3.10	6~12	凸凹	-	-	1	-	1	炉(1)	-	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代中期後半

住居跡 番号	位置	主(長)軸 方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設							覆土	出 土 遺 物	備 考
							壁溝	間仕切 溝	ピット	支柱穴	入口	炉・竈	貯蔵穴			
58	C10e7	(N-26°-E)	長方形	2.30 × 2.10	7~20	凸凹	-	-	-	-	-	-	-	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代中期
59	E7g7	N-179°-E	長方形	3.74 × 2.92	20~36	凸凹	-	-	1	-	1	炉(1)	-	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代中期後半
60	E7j0	(N-4°-W)	長方形	3.34 × 2.10	25~40	凸凹	-	-	-	-	-	-	-	人為	土師器(坏・甕・甗) 土製品(土玉)	古墳時代中期後半
61	F7a9	N-20°-W	長方形	4.64 × 2.86	14~30	平坦	半周	-	1	-	1	炉(2)	1	人為	土師器(坏・甕) 土製品(土玉)	古墳時代中期後半 第230号 土坑より古い 焼失
62	F7c4	N-18°-W	方形	5.20 × 4.84	34~48	平坦	全周	3	6	4	1	炉(1)	2	人為	土師器(坏・甕) 土製品(土玉) 鉄製品(鉄鏃)	古墳時代中期後半 焼失
63	F7h7	(N-38°-W)	(方形)	[4.20 × 4.20]	-	凸凹	-	4	4	-	-	-	-	-	土師器(坏・甕)	古墳時代中期
64	F7d2	(N-40°-W)	方形	2.94 × 2.88	14~20	平坦	-	-	-	-	-	-	3	人為	土師器(坏・甕) 石製品(双孔円板)	古墳時代中期後半
65	F7g3	N-23°-W	方形	5.12 × 5.06	36~58	平坦	全周	-	4	4	-	炉(2)	1	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代中期後半 焼失
66	F6f0	N-46°-W	長方形	6.34 × 4.04	17~24	平坦	全周	2	6	5	1	炉(1)	1	人為	土師器(坏・甕・鉢・甗) 石製模造品(勾玉)	古墳時代中期後半 第69号住居跡より古い
67	F7j1	N-25°-W	方形	5.50 × 5.40	38~64	平坦	全周	-	5	4	1	炉(1)	1	自然	土師器(坏・甕) 須恵器(甗・甕)	古墳時代中期後半
68	F6h9	N-4°-W	長方形	4.26 × 3.76	14~24	平坦	全周	-	2	-	1	炉(2)	1	人為	土師器(坏・鉢・甕)	古墳時代中期後半 第68号住居跡より古い
69	F6h8	N-113°-E	長方形	3.80 × 3.30	40~48	平坦	全周	-	3	2	1	竈(1)	-	人為	土師器(坏・甕)	平安時代前期 第68号住居跡より新しい
70	G6d9	N-34°-W	方形	7.44 × 7.06	12~54	凸凹	全周	4	7	6	-	炉(2)	2	自然	土師器(坏・甕・甗)	古墳時代中期後半
71	G6c6	N-24°-W	方形	3.46 × 3.16	7~10	平坦	-	-	-	-	-	-	3	人為	土師器(坏・甕) 鉄製品(鉄鏃)	古墳時代中期後半 第222・233号土坑より古い
72	E7g5	(N-65°-E)	不定形	4.06 × 3.46	14~18	凸凹	-	-	1	-	-	炉(1)	-	自然	土師器(坏・甕)	古墳時代中期 第231・232号土坑より新しい

第4節 まとめ

当遺跡で確認した遺構は、竪穴住居跡72軒、土坑230基、炉穴2基、陥し穴7基及び遺物包含層1か所である。

ここでは、時期別に各時代の主な遺構と遺物についての概要を述べ、まとめとする。

1 旧石器時代

旧石器時代の遺物としては、ナイフ形石器が2区の表土から、尖頭器が古墳時代の住居跡の覆土中から、彫器が遺物包含層からそれぞれ出土している。

2 縄文時代

縄文時代の遺構は、炉穴2基、陥し穴7基及び遺物包含層1か所である。炉穴はいずれも、1区に所在する遺物包含層付近に位置しており、時期は出土遺物等から縄文時代早期のものと考えられる。陥し穴は、7基のうち4基が炉穴同様、遺物包含層付近に位置しており、小支谷に集まる動物の捕殺・捕獲を目的としたものと思われる。時期は、縄文時代前期の遺物が出土しているもの、縄文時代前期に堆積したと考えられる遺物包含層第2層から掘り込んでいるものがあることから、縄文時代前期に構築されたものと考えられる。遺物包含層からは、縄文時代早期から中期初頭にかけての土器片や石器類が、層位的に出土している。第1・2層は縄文時代前期、特に浮島式、興津式土器群を中心とする時期で、両型式土器群の出土点数は第1・2層全体の約78.5%を占めている。第3層は縄文時代早期、いわゆる広義の茅山式土器群を中心とする時期で、出土点数は第3層全体の約63%を占め、早期貝殻沈線文系及び撚糸文系土器群の出土も多くなる。第4層以下は縄文時代早期の単独層で、撚糸文系土器群を中心とし、スタンプ形石器の出土量も増えてくる。撚糸文系土器群の出土点数は第4層以下全体の約90%を占めている。縄文式土器片は、遺物包含層以外からも多数出土している。時期は、遺物包含層とほぼ同様の縄文時代早期から中期初頭であるが、遺物包含層から多数出土した広義の茅山式土器

群が出土していない点と、遺物包含層からは極少量しか出土しなかった関山式、黒浜式土器群が多数出土している点が異なる。遺物包含層を囲む台地上に展開されていた縄文時代の集落は、縄文時代前期前葉の一時期、集落の中心を遺物包含層の南西方向に広がる台地平坦部に移し形成されていたものと考えられる。

3 古墳時代

東山遺跡の中心となる時期で、5世紀後半の竪穴住居跡69軒と多数の土坑及び多量の遺物を確認した。

(1) 竪穴住居跡

竪穴住居跡は大きく次の4つに分類することができる。

A 1辺が5～7m台の規模で、支柱穴、出入り口ピット、間仕切り溝、炉及び貯蔵穴等を有するもの。

(第1・3・4・7～9・11～14・17・20～22・31・33～35・39・40・43・46・47・50・51・54・56・61～63・65～68・70・72号住居跡)

B 1辺が2～3m台の規模で、炉以外に内部施設をもたないもの。

(第10・15・16・18・19・23・24・27・30・32・36・41・42・52・53・55・57・59号住居跡)

C 1辺が2～3m台の規模で、内部施設をもたないもの。

(第2・5・6・25・26・28・38・44・45・48・58・60号住居跡)

D 1辺が2～3m台の規模で、炉やピットをもたず複数の貯蔵穴のみをもつもの。

(第37・64・71号住居跡)

Aタイプは36軒で、全体の52.2%である。床面は硬く踏み固められ、出入り口ピット及び貯蔵穴は馬の背状の高まりによって囲み、規模が大きくなるほど、間仕切り溝を付設する傾向がみられ、居住を目的とする建物と考えられる。Bタイプは18軒で、全体の26.1%である。この中には炉のほかに貯蔵穴をもつ第10・24号住居跡、ピットをもつ第27・57・59号住居跡も含まれている。小規模で、掘り込みは比較的浅く、床面はあまり踏み固められていないものが多い。炉は使用頻度の高いものとそうでないものがあるが、出土遺物をみると、坏・埴類が少なく、甕類が多いことから、火の使用を主目的とする建物、たとえば竈屋の建物であったことも考えられる。第41号住居跡は、炉のかわりに山砂混じりの粘土で構築した竈状の施設を有しており、この時期の竈状の施設としては、龍ヶ崎市屋代A遺跡第39号住居跡について県内2例目である。Cタイプは12軒で、全体の26.1%である。この中には、ピットを有する第25・26号住居跡、1辺が5mを超える第48号住居跡も含まれている。床面はあまり踏み固められておらず、出土遺物も極少量であることから、倉庫的な役割を果たす建物であったことが考えられる。Dタイプは3軒で、全体の4.3%である。いずれも3つの貯蔵穴を有し、床面の占める面積は極僅かで、硬化面はみられないことから、長期保存が可能な食料を貯える貯蔵庫であったことも考えられる。今後、これら目的の異なる建物跡についてのグルーピングをもとに集落構成を検討していく必要がある。

(2) 遺物

東山遺跡の出土遺物について、特徴的な点をまとめると次のとおりである。

- ・坏・埴・壺類のほとんどが赤彩されている。高坏はほとんど出土しない。
- ・出土した土師器の中には、金属を擦ったような傷跡が残され、砥石に転用されたと考えられるものがある。
- ・出土した土器片は細片が多く、住居廃絶時に意図的に破碎されたと考えられる。
- ・出土した石製模造品は滑石製の双孔円板、白玉及び勾玉で、前述のAタイプの建物跡からのみ出土している。

る。剣形の模造品は出土していない。

- ・須恵器は坏身、坏蓋、把手付碗、甗が出土している。この内、愛知県東山窯産が3点、その他は大阪陶邑窯産のものである。時期は、愛知県東山218号窯前後、大阪陶邑窯 TK216から TK47段階と考えられる。これら須恵器のうち、第33号住居跡出土の甗は、遺構外及び第34・35・38・43・46号住居跡から出土した破片に、第35号住居跡出土の把手付碗は、第39・51号住居跡から出土した破片にそれぞれ接合し、出土状況が特異である。

4 平安時代

平安時代の遺構は、竪穴住居跡3軒（第29・49・69号住居跡）で、いずれも遺構の形態及び出土遺物に差異がみられ、時期も異なるものである。第29号住居跡は南東コーナー部に竈が付設され、ピットを有していない。遺物は土師器片のみで、時期を明確にとらえられるものは出土していない。第49号住居跡は北壁中央部に竈が付設され、出入口施設に伴うピットを1か所所有している。遺物は8世紀末頃と思われる須恵器の坏が出土している。第69号住居跡は南東壁に竈が付設され、支柱穴を2か所、出入口施設に伴うピットを1か所所有している。遺物は9世紀代と思われる常総型甗が出土している。以上のようなことから、これら3軒の住居跡は第49号住居跡、第69号住居跡、第29号住居跡の順に存在していたものと思われる。

付章 東山遺跡出土の炭化材同定について

パリノ・サーヴェイ株式会社

I. はじめに

常陸台地の最南部の稲敷台地は、桜川と小貝川の低地にはさまれた台地である。台地南部では小野川とその支流により開析が進んでいる。東山遺跡は、小野川中流部左岸の台地上に位置する。発掘調査により、古墳時代中期末から後期初頭および平安時代の竪穴住居跡が検出されている。今回の自然科学分析調査では、住居構築材の用材選択について検討するために、住居跡から検出された炭化材の同定を行う。その結果と周辺の遺跡におけるこれまでの分析例との比較を行う。

II. 試料

試料は、古墳時代後期初頭の2軒の住居跡（12号住居跡，47号住居跡）から検出された、住居構築材と考えられる炭化材3点（SI-12 NO. 1, SI-47 NO. 2, 4）である。

III. 方法

試料を乾燥させたのち、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の割断面を作製し、走査型電子顕微鏡（無蒸着・反射電子検出型）で観察・同定した。

IV. 結果

炭化材は、3点ともコナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種に同定された。クヌギ節の主な解剖学的特徴や現生種の一般的な性質を以下に記す。なお、和名・学名等は、主として「原色日本植物図鑑 木本編〈II〉」（北村・村田，1979）に従い、一般的性質などについては「木の辞典 第2巻」（平井，1979）も参考にした。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節の一種 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris* sp.)

ブナ科

環孔材で孔圏部は1～3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと同列放射組織とがある。年輪界は明瞭。

クヌギ節は、コナラ亜属（落葉ナラ類）の中で、果実（いわゆるドングリ）が2年目に熟するグループで、クヌギ (*Quercus acutissima* Carruthers) とアベマキ (*Q. variabilis* Blume) の2種がある。クヌギは本州（岩手・山形県以南）・四国・九州に、アベマキは本州（山形・静岡県以西）・四国・九州（北部）に分布するが、中国地方に多い。クヌギは樹高15mになる高木で、材は重硬である。古くから薪炭材として利用され、人里近くに萌芽林として造林されることも多く、薪炭材としては国産材中第一の重用材である。このほかに器具・杭材、櫓木などの用途が知られる。アベマキはクヌギによく似た高木で、樹皮のコルク層が発達して厚くなる。材質はクヌギに似るが、さらに重い。用途もクヌギと同様であるが、樹皮が厚いため薪材にはむかず、炭材としてもクヌギ・コナラより劣るとされる。

V. 考察

クヌギ節の木材は、古墳時代を中心として関東地方各地で住居構築材として利用されていたことが知られて

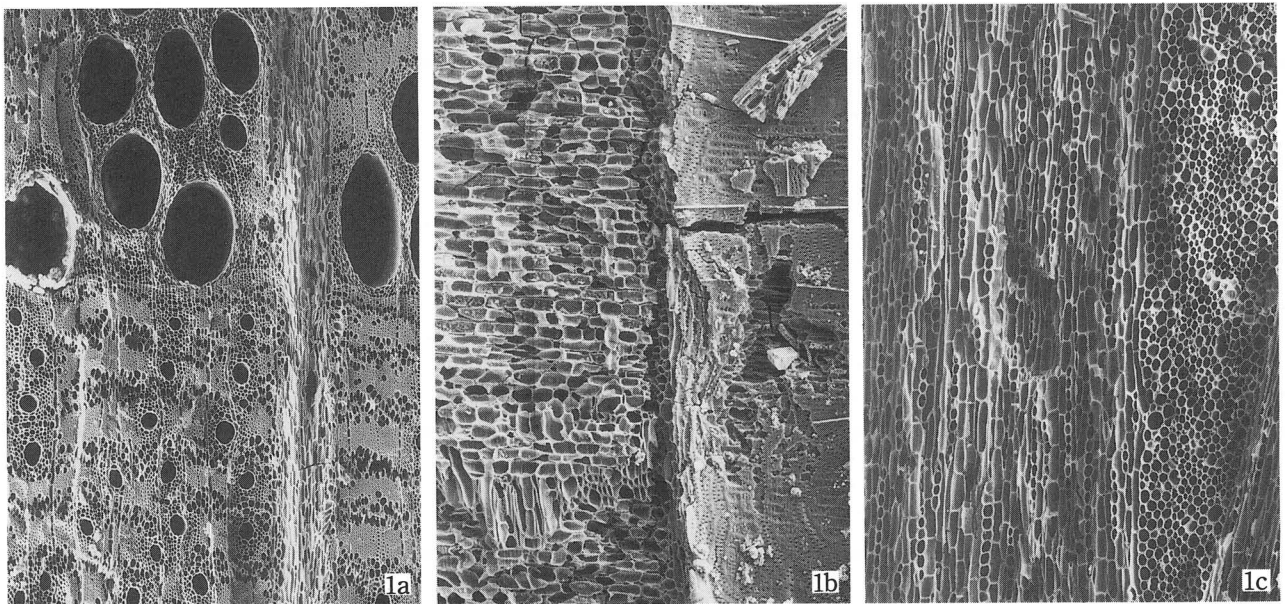
いる。本遺跡周辺でも、ヤツノ上遺跡や中久喜遺跡で古墳時代の住居構築材について樹種同定が実施されている（未公表）。その樹種は、いずれもクヌギ節やクヌギ節と同亜属のコナラ節であり、屋根材や壁材と考えられる試料にはタケ亜科が認められている。これらの結果から、本遺跡周辺では古墳時代を通してクヌギ節およびコナラ節が住居構築材として一般的であったことが推定される。また、これらの木材は、上入野遺跡の結果（未公表）から、最も強度が必要と考えられる柱材にも利用されていたことが推定される。また、ヤツノ上遺跡の結果から、屋根材や壁材にはタケ亜科を利用し、いわゆる「藁葺き」や「芽葺き」の住居であったことが推定される。

引用文献

平井信二（1979）木の辞典 第2巻. かなえ書.

北村四郎・村田 源（1979）原色日本植物図鑑 木本編〈II〉. 545p., 保育社.

東山遺跡・炭化材



1. コナラ属コナラ科クヌギ節の一種 (SI-47 No.2)

a : 木口, b : 柾目, c : 板目

200μm : a
200μm : b, c

